速報!! 存亡を賭けたPRIDEラスベガス大会!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2006
104
880yen

ついに上陸!! アッメ〜リカ!
10.21 PRIDEラスベガス
闘いの大博打の行方を追え!

"北斗の男"がアメリカ凱旋! あたたたたっ!!
ジョシュ・バーネット

全米に大炸裂!! "男泣き人生劇場"!
ヒョードル vsコールマン

11.23 ハッスル・マニア2006
待望のホンバン、フォ〜!!

ハッスルの"希望"を大激白!
髙田延彦
PRIDE統括本部長

"ブログの女王"が
ハッスルに帰ってきた!!
眞鍋かをり

10.9 HERO'S大爆発! でしょ!?
前田日明の"説教"劇場が
HERO'Sに火をつけた!

11.23 ハッスル・マニアで"プロレス核実験"強行実施!!

その希望、凶暴につき

ザ・エスペランサー

kamipro 104 速報!! PRIDEラスベガス!

2006年11月14日 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本/図書印刷株式会社

enterbrain

2006 No.104 CONTENTS

kamipro

存亡を賭けたアメリカ上陸!!

ラスベガスに PRIDE Magic 炸裂三昧!

「人生ってのはな、残酷なもんなんだ!!」よく言った、バローニ!!

.32 THE REAL DEAL"

リカッ!!

(髙田延彦調)

AS ARRIVED

ラスベガス上陸!!

10.21 PRIDE.32"TI

ハ〜ロ〜オ?

アッメ〜リ

PRIDE HAS A

存亡を賭けたラス

PRIDE
Keep on Challenge!
“挑戦”という名のルーレットが明日を拓く

「すいません。酔っぱらってます！」

記念すべき『PRIDE』のアメリカ進出第一戦を終えた一夜明け記者会見における高田統括本部長の第一声は、よりによってこれだった。

前夜、「ヘロウ！　アッメ～リカ！」の名ゼリフで、リング上から堂々たるジャパニーズテイスト・イングリッシュスピーチを行なった男とは思えない怪しいろれつ。明らかについさっきまで飲んでいてそのまま記者会見に出席していたわけだが、本部長がこれだけご機嫌に酔っぱらうほど、10・21PRIDEラスベガス大会は、予想以上の大成功に終わった。

ラスベガスで一番大きなキャパシティを誇るトーマス＆マックセンターを1万1727人の大観衆が埋め尽くし、日本以上に熱のある空間を作り出したことは、『PRIDE』が格闘技界の歴史にまた新

て、なるべく日本と同じものを用意した。レフェリー、ジャッジ、リングアナも日本から用意。リングはもちろん、演出機材についても、わざわざ船便で運んでくるこだわりようだった。そうして試合だけでなく、トータルパッケージのショーとして、「これぞPRIDE！」というものを見せることに全力を傾けた。

それは〝PRIDE名物〟ともいえる試合前およびオープニングの煽りVTRにも表われていた。煽りVTRは〝フジテレビ・ショック〟以降、その以前との違いをもっとも指摘されてきた部分であるが、この日は見事にかつてのクオリティが戻ってきていた。そしてなにより、ヒョードルvsコールマン戦を〝コールマン目線〟で提供したことに〝PRIDEらしさ〟を感じた。

これはなにもアメリカ開催だから、アメリカ人のコールマンを推したわけではない。事前のイベントなどから、アメリカ人ファンのお目当てはヒョードルであり、人気ナンバーワンもヒョードルであることはわかりきっていたのだ。ましてや勝者イコール正義の価値観が支配するアメリカである。ここでコールマンに札を置くことは、大きなリスクがあったはずだ。

しかし、『PRIDE』は、あえて〝噛ませ犬〟コールマンにスポットを当てた。なぜなら『PRIDE』というリングは最強の男を決める場であると同時に、みっともない姿をさらけ出してでも強者に挑戦していく男たちの生き様を見せる場でもあるからだ。

勝敗がもっとも残酷に映し出されるからこそ、勝敗を超えた部分での生き様が問われるリング。そんなパラドックスこそが、単なる最強決定コンテストではない、

たな1ページを加えたと言っていいだろう。

しかし、ここに至るまでの道のりは、決して平坦ではなかった。それどころか、荒野を少しずつ開拓しながら前へ進むがごとく、次から次へと立ちはだかる壁を一つずつ乗り越えて、ようやく開催までこぎ着けたのだ。開催が決定してからも、ライバルUFCからの水面下での妨害は大会直前まで続いたそうである。

しかも、アメリカ進出といえば聞こえはいいが、今年6月に起こった突然の〝フジテレビ・ショック〟もあり、ラスベガス大会は生き残りを賭けた、決して失敗のできない賭けとなっていた。地上波放送の放映権料やそれに付随する広告費等、大きな収入が途絶えた『PRIDE』に対して、海の向こうにあるもう一つのメジャーMMAイベントUFCはPPVであの『レッスルマニア』以上の数字を挙げるなど、経済的には絶好調。このままでは、必然的に選手流出は避けられない状況にあったのだ。大きな収入を得るためには、市場規模の大きいアメリカで勝負するしかない。しかし、そこで勝負するには多額の〝軍資金〟が必要であり、大きなリスクが生じる。まさに今回のラスベガス大会は、『PRIDE』にとって、世界一のギャンブルの街で行なった〝闘いの大博打〟だったのだ。

そんな大事なイベントを開催するにあたって、『PRIDE』がこだわったのは、日本と同じクオリティのものをアメリカでも提供するということだった。奇をてらうことなく、これまで9年間にわたって培ってきたもので勝負しようというのだ。

そのために、ルールなどどうしても現地の基準に従わなければいけないものを除い

『PRIDE』の特異性なのである。

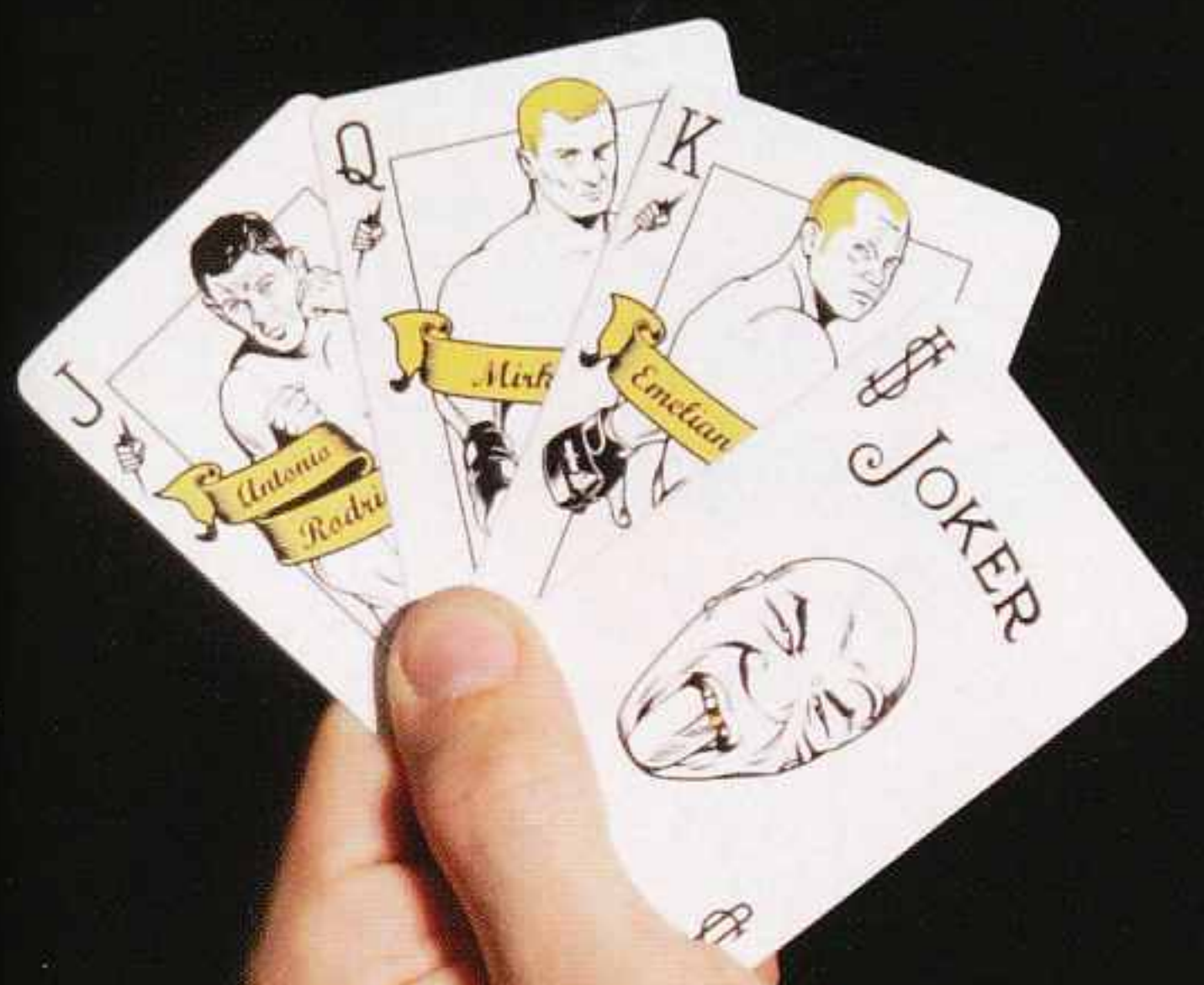
しかし、そんな〝浪花節〟がアメリカ人のファンに受け入れられるのか？　そこは大きな賭けだったはずだが、愚直なまでにタックルを繰り返し、顔面をボコボコに腫らしながら最強皇帝に立ち向かっていくコールマンの姿は、確実に多くのファンの胸を打った。そして試合後、敗れたコールマンのもとに二人の娘が駆け寄ると大きな拍手がリングを包んだ。ここでも『PRIDE』は賭けに勝ったのである。

イベント終了後、DSE榊原代表は「REBORNのときを思い出した」と語った。〝REBORN〟とは、先代の森下社長が亡くなったあと、2003年6月に新体制で初めて行なった大会のことだ。あのときも崩壊の危機がささやかれる中での大きな賭けであり、挑戦だったが、その賭けに勝ち、『PRIDE』は大ブレイクしていった。そして今回も地上波放映中止による崩壊の危機がささやかれる中、アメリカ進出という挑戦を行ない、リスクある賭けに勝ったのだ。

しかし、まだそれはあくまで第一弾が成功しただけにすぎないことも確かだ。巨大資本を持つUFCとアメリカ市場で真正面からケンカをするからには、これまで以上に危険と背中合わせであることに間違いない。それでも大晦日のさいたまーマカオ二元中継案、来年2月のラスベガス進出第二戦と、『PRIDE』のさらなるチャレンジは続く。『PRIDE』の〝挑戦〟という名のルーレットは止まることはないのだ。

97年のスタート以降、明日をも知れぬ挑戦を常に続けてきた『PRIDE』であるが、挑戦なくして『PRIDE』の明日もまたないのである。（堀江ガンツ）

10.21
PRIDE.32
"THE REAL DEAL"

格闘
ロイヤル
ストレート
フラッシュ!!

衝撃!! ラスベガスでミルコと緊急スパーを敢行!

ARNETT

PRIDE Magicがアメリカを変える!!

母国凱旋！あたたたたっ!!

激戦翌日独占ロングインタビュー

「アメリカの格闘技興行は『PRIDE』のクオリティがこれからは基準になるんだ」

母国凱旋試合を大逆転の勝利で飾ったジョシュを大会翌日に独占キャッチ!!
大成功に終わったラスベガス大会のことから、
なんとラスベガスで実現したミルコ・クロコップとのスパーリング話まで！
"YOUはSHOCK"なインタビューをあたたたたっ!!

聞き手／堀江ガンツ、稲垣収　北斗百裂本文構成／蜘蛛のジュウザ　撮影／山口比佐夫　試合写真／乾晋也
PRIDEトランプ イラスト／師岡とおる　designed by hisa（TwoThree）

JOSH BA

HBARNETT

の一の連戦の疲れがたまっていたんだ

――昨夜は見事な逆転勝利、おめでとうございます！

ジョシュ　……ああ、ありがとう……（眠気眼で）。

――ずいぶん眠そうですが、祝勝パーティは朝まで？

ジョシュ　うん……ベッドに入ったのが朝8時なんだよ。たった一時間しか寝てないんだよ！

――それはずいぶんな〝延長ラウンド〟でしたね（笑）。

ジョシュ　パーティのあと両親と一緒に食事をして、部屋に戻ろうとしたらタカダサン（髙田延彦）とコールマンたちにバッタリ会ってしまって……「ＰＲＩＤＥ初のアメリカ大会の成功を祝おう！」ってことで、飲みに誘われてしまったんだよね（苦笑）。

――よりによって、〝酔いどれモンスター軍〟に捕まってしまいましたか（笑）。

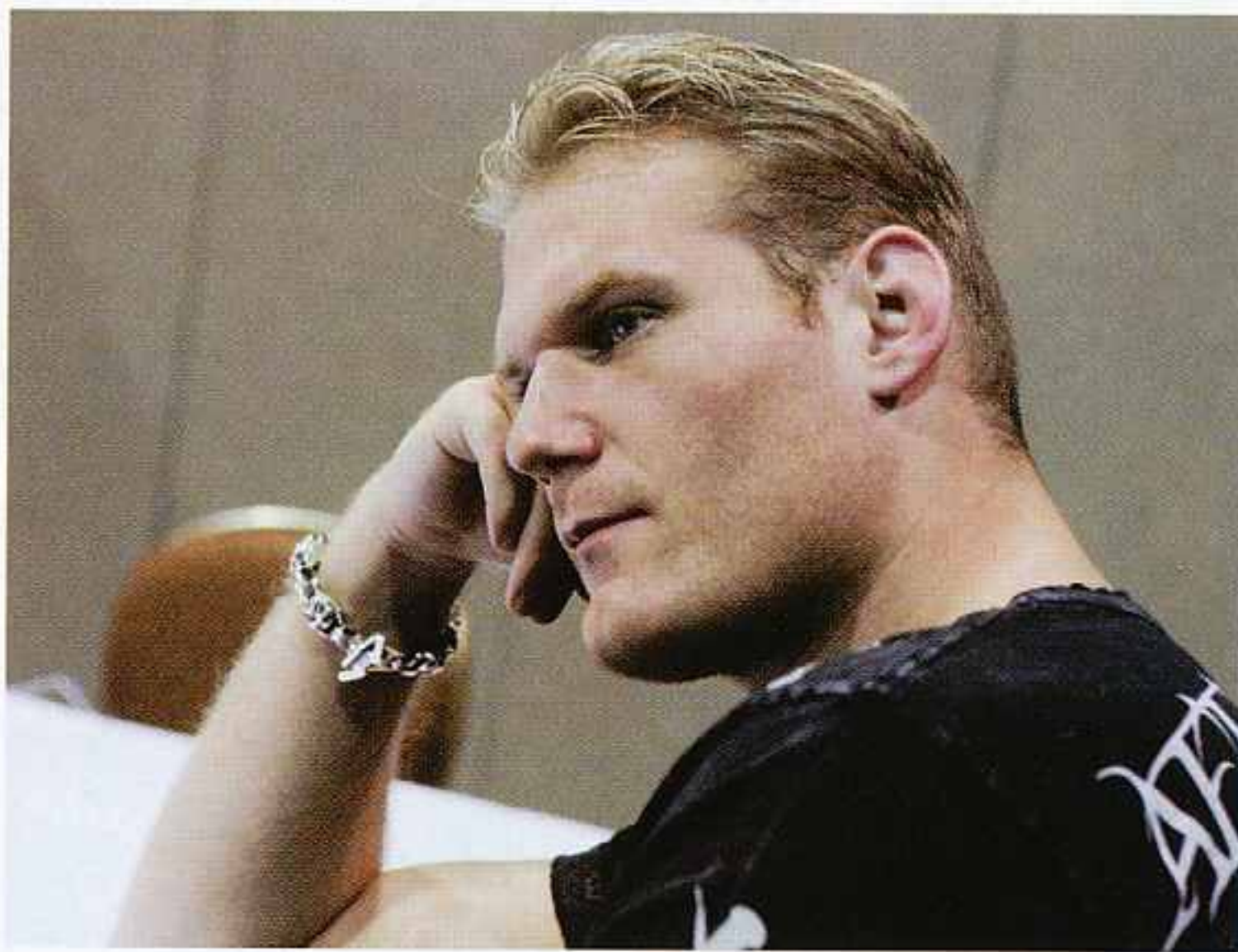
ジョシュ　……ビビってたじろいだよ!!　タカダサンの飲みっぷりには！　それにヒョードルも凄かった。

――ヒョードルとも一緒に飲んだんですか？

ジョシュ　彼とは試合直後の記者会見前に飲むハメになったんだよ。彼の勝利を祝福するために控室へ行ったら、カタコトの英語で「祝い酒を飲もう」って言うんだよ。会見もあるから「あとで飲みにいこう」って返したら、「ダメ！　いま飲む！」と言い張って聞かない（笑）。

――ガハハハ！　珍しく強引ですね。

ジョシュ　もう有無を言わせず、彼のチームメイトたちが何本ものウォッカの瓶、チーズや肉とかをズラリとテーブルに並べたんだ。で、ロシア式乾杯になったわけ。「ナ・ズダローヴィエ！」（「健康を祝して！」とロシアでは乾杯のときに言う）と叫んでウォッカを何杯も一気飲みさ。

――そんな二日酔いと寝不足のなか、いろいろとおうかがいいたします（笑）。まず試合のお話ですが、ナッツラにテイクダウンされたりサイドポジションを取られたりしながらも、最後に一瞬にして大逆転の一本勝ちという、ラスベガスにふさわしいマジックのような試合でしたね。

ジョシュ　いやあ、ちょっと苦戦しちゃったね。この試合に向けてもっと練習ができればよかったんだけど、無差別級ＧＰ決勝ラウンド前にハードトレーニングをこなしていたし、この一年で今回が7試合目になるから、かなり疲れがたまってたんだ。そんな状態で闘うには、ナッツラは手強い相手だった。彼は総合の経験は浅いとはいえ、オリンピック柔道金メダリストだからね。

――ナッツラの高いポテンシャルがあらためてわかりましたよ。

ジョシュ　ナッツラの抑え込みの力は凄く強かったし、彼は「ただ抑え込んでればいいや」という感じだったんで、そこがやりにくかった。もしナッツラがただ抑え込んでるだけじゃなく、本気でパウンドでＫＯしようとか、サブミッションを極めようとしてきたら、その瞬間にこっちが逆襲して試合を終わらすことができるはずだとボクにはわかっていたからね。

――ナッツラがグラウンドであまり攻撃的じゃなかったことで、なかなか逆襲の機会をつくれなかったと？

ジョシュ　そうだね。パウンドにしろ、サブミッションにしろ、彼が何かを本気で仕掛けるには、ボクとの身体のあいだにスペースを作らなきゃいけない。その瞬間がボクの逆襲のチャンスなんだ。1ラウンド最後に足関を仕掛けたときもそうだった。2ラウンド最後のフィニッシュも同じだ。

――そういった逆転のチャンスを待ち続けていたんですね。

ジョシュ　うん。だけど時間制限もあるから、彼に上になられたまま、じっと時間を過ごしているわけにはいかなかった。極められたり、ＫＯされる危険はなかったけど、あのままじゃ判定で負けることになるし。

――入場のときはいつになく厳しい表情でしたけど、ひさしぶりのアメリカの試合ということで、プレッシャーも感じていたんですか？

ジョシュ　たしかにプレッシャーはあったよ。さっさとナッツラをＫＯして、早く試合を終わらせたいと思っていたし（笑）。

――プレッシャーというのは、やはりアメリカ人ファイターのエースとしての責任を感じていたから？

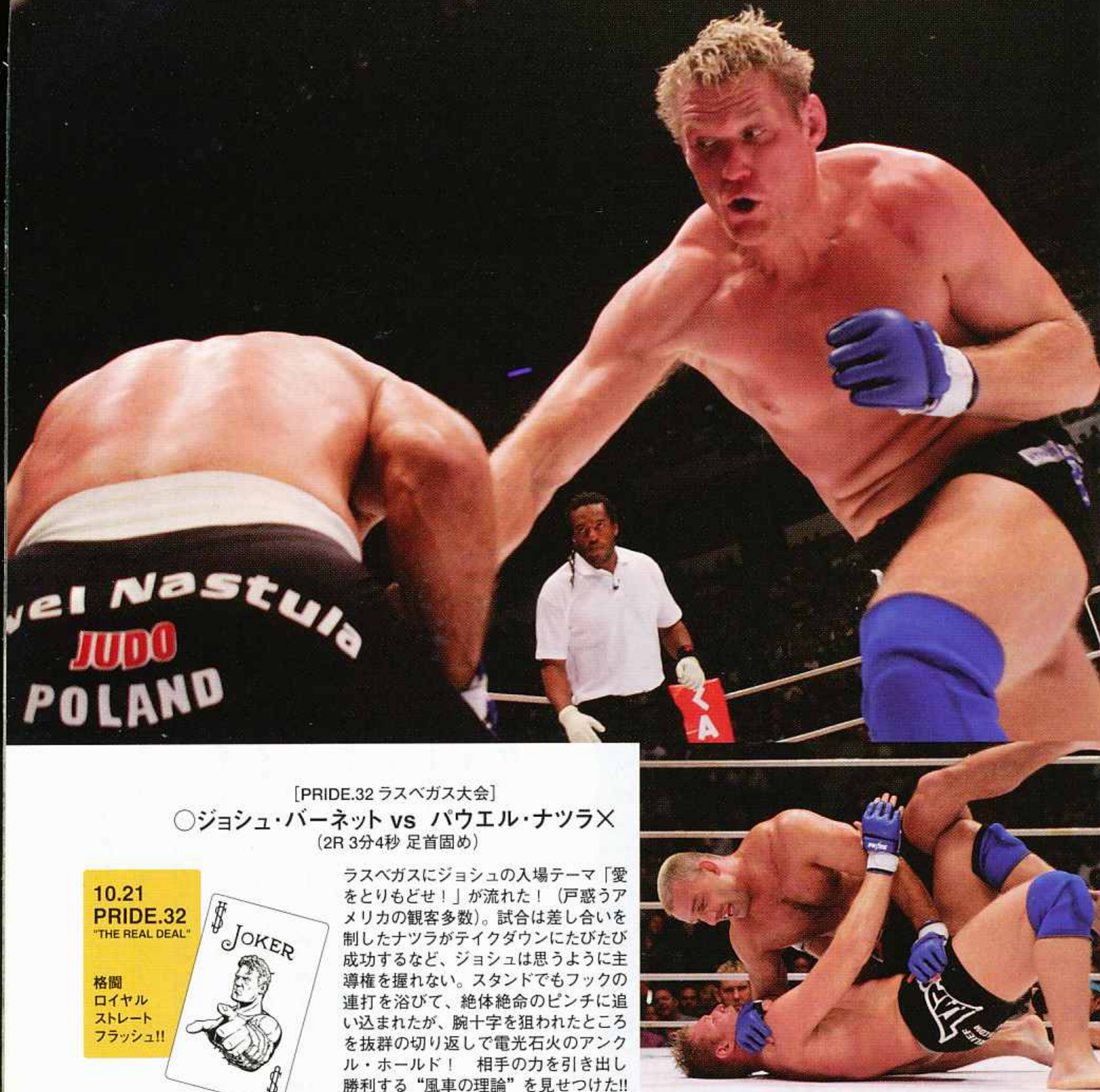
ジョシュ　いや、アメリカ人ファイターのエースとしての責任や重荷を感じていたわけじゃない。だって『ＰＲＩＤＥ』のリングはインターナショナルな場所でしょ。日本人もブラジル人もアメリカ人もロシア人もいるし、各国のエースになるなんてことはたいして重要なことじゃない。世界のエース、世界のナンバーワンでなければ、アメリカのナンバーワンだってブラジルのナンバーワンだって意味がないとボクは思っているんだ。それに、ボクはアメリカのために闘うだけじゃなくて、「自分は日本のファイターだ！」っていう気持ちで闘っている。日本のファンのみんなはわかってくれてると思うけど……。

――『ｋａｍｉｐｒｏ』読者は全員、理解してますよ！

ジョシュ　ああ、そう（笑）。だって、ボクはいつもリングではシューズの下に、日の丸入りソックスを履いてるんだよ!!

――あ、そうなんですか（笑）。

ジョシュ　今回はシューズを履けないルールだったから、リングに入るまでそのソックスを履いてたんだけど（笑）。

――しかし、こだわりますね（笑）。ダン・ヘンダーソンやコールマンなどほかのアメリカ人ファイターは「ひさしぶりにアメリカで試合ができて嬉しい」と素直にコメントしてましたが、ジョシュ選手の場合、以前ＵＦＣにベルトを剥奪されて（※試合後のドーピング検査の結果、アスレチック・コミッションにＵＦＣヘビー級ベルトを剥奪された）、半ばアメリカから締め出されるかたちで日本で闘うようになったという経緯もあって、またアメリカで闘うのは複雑な思いがあるんじゃない

ですか？

ジョシュ　たしかにそんな思いはある。この国でまた闘うことには、いろいろ頭痛のタネがあるよ。ルール面でも、ボクは今回、ＵＷＦスタイルのレガースとニーパッドを着けたかったんだけど、許されなかった（くやしそうに）。

――ＵＷＦスタイルのレガースとニーパッド！（笑）。それはどういう理由があったんですか？

ジョシュ　どうもこうも何も、カッコイイからに決まってるじゃん!!（キッパリ）。

――ガハハハハ！　それだけの理由ですか（笑）。

ジョシュ　フフフ。あと脚を保護する意味もあったよ。大晦日の『ＰＲＩＤＥ男祭り』で試合をする可能性もあるから、ケガを避けたいと思っていたんだよね。コミッションの規定で、レガースもニーパッドもシューズもダメだし、１Ｒも５分間だし、いろんな面で面倒だよな～。

――そういえば、ジョシュ選手は試合前に尿検査を何度もさせられたみたいで。

ジョシュ　うん。三度も検査をしなくちゃならなかった。複雑な検査で、結果が出るまでに相当時間がかかるから、もうちょっとで試合に間に合わないところだったんだよ。

――だから「ジョシュ欠場」の噂が駆けめぐっていたんですね。

ジョシュ　まったくアメリカではいつも検査、検査、検査！　本当にうんざりするけど、まあどうだっていいさ。検査されて困るようなことはないし、ボクが要求したいのはＵＷＦのレガースとニーパッドの着用だけだから！

――ガハハハハ！　日本のファンはそんなジョシュ選手のことをよく理解していますけど、アメリカのファンとジョシュ選手のあいだには、ちょっと壁みたいなものを感じたりしませんか？

ジョシュ　ちょっとだけ。でも、それはべつに彼らが悪いわけじゃなくて、文化が違うってことと、ボクがしばらくアメリカで試合をしていなかったってことが原因だろう。でもアメリカの格闘技ファンにも『北斗の拳』のファンがいて、「ジョシュ、北斗神拳を使って！」なんて応援してくれたのは、嬉しい驚きだったな～。それに日本のファンも、こんなに遠くまで大会を観に来てくれたし。そのうちの何人かは、ボクの試合を観るためだけにラスベガスまで来てくれた。心の底から嬉しいよ！

――それで今回のラスベガス大会はボクたちが予想した以上に大盛況だったんですが、ジョシュ選手の目から見ていかがでした？

ジョシュ　ボクももちろん成功したと思うけど、これから継続することで、どんどん凄いことになると思うよ。それは日本の『ＰＲＩＤＥ』のクオリティを見れば明らかだよね。ＰＰＶの契約数はまだ聞いてないけど、いい数字が出てるといいな。まあ、一回目としては大成功の部類に入るんじゃないかな。

――次回の２月大会に向けて改善してほしいポイントはありますか？

ジョシュ　レガースとニーパッド着用はともかく（笑）、ルールを通常のＰＲＩＤＥルールと同じにしてほしいね。

――それはアメリカのファンも同じ気持ちでしょうね。会場では、ルールを変更したネバダ州コミッションの人たちに大ブーイングが起きてましたから。

ジョシュ　あの反応を見ればわかるとおり、アメリカのファンも通常のルールで行なわれる『ＰＲＩＤＥ』が観たいんだよ。

――そういう意味では、ヒョードルやショーグンら、アメリカのファンにはなじみが薄いはずの選手の人気が異常に高かったですよね。

ジョシュ　ホント、ホント!!（日本語で）。アメリカのファンがグローバルな理解力を持っていることは嬉しかったよ。ヒョードルやショーグンのようにほとんど英語を話せない選手、しかもテレビやビデオでしか観たことのない選手の素晴らしさを理解してるんだから。

――今回会場に来たアメリカのＰＲＩＤＥファンは総合格闘技というものを理解してますよね。激しい攻防の展開がないとすぐにブーイングを飛ばすＵＦＣのファンとはずいぶん違うファン層で。

ジョシュ　そうだね。本当にブーイングは少なかった。会場が水をうったように静かになって、全員が試合展開に見入っている瞬間すらあったからね。日本のファンのレベルまでには達してないとしても、凄く質の高いお客さんたちばかりだった

［PRIDE.32 ラスベガス大会］
○ジョシュ・バーネット vs パウエル・ナツラ×
（2R 3分4秒 足首固め）

10.21
PRIDE.32
"THE REAL DEAL"
格闘
ロイヤル
ストレート
フラッシュ!!

ラスベガスにジョシュの入場テーマ「愛をとりもどせ！」が流れた！（戸惑うアメリカの観客多数）。試合は差し合いを制したナツラがテイクダウンにたびたび成功するなど、ジョシュは思うように主導権を握れない。スタンドでもフックの連打を浴びて、絶体絶命のピンチに追い込まれたが、腕十字を狙われたところを抜群の切り返しで電光石火のアンクル・ホールド！　相手の力を引き出し勝利する"風車の理論"を見せつけた!!

JOSHB

ちょっと苦戦しちゃったよね。この一年の

と思う。
——今回の『PRIDE』の成功を、UFCは脅威に感じると思います？
ジョシュ　感じないとしたら、バカだね。
——バカですか（笑）。
ジョシュ　バカ！（日本語で）。UFCはこれまで大きな入場ゲートやステージを作ったり、派手なオープニング・セレモニーをやらなかったけど、昨日の『PRIDE』を観たファンたちは、間違いなく友だちにどんなに大会が凄かったか話をするでしょ。非常に多くの人たちが『PRIDE』という大会の存在や、そこで闘う選手たちのことを知るはずだ。これまでUFCが最高だと思っていたアメリカのファンたちは、今後は『PRIDE』が基準となる。UFCも現状に満足しているわけにはいかないだろうね。
——『PRIDE』のアメリカ進出が最高の刺激になったと？。
ジョシュ　そうだね。つまり、『PRIDE』がアメリカ格闘技界のシーンが変えていくことになると思うよ。
——そして『PRIDE』は息つく間もなく、大晦日『PRIDE男祭り』を開催するわけですが、ここにジョシュ選手は出場するんですか？
ジョシュ　……タブン（日本語で）。
——まだ、明言はできないんですか？
ジョシュ　今年は試合がずっと続いて、さすがに疲れがたまりすぎてるからね。まだわからないよ。
——まあ、GP決勝大会では一日でノゲイラとミルコという選手を相手に、とてつもない試合をやってのけたんですからね。それで昨日また試合をしたというんだから驚きです（笑）。
ジョシュ　ボクも驚いてるんだよ（笑）。
——ガハハハ。その大晦日で、ノゲイラがジョシュ選手にリベンジンマッチを要求してるんですよ。「俺はジョシュに負けていない!!」と主張して。
ジョシュ　ノゲイラはそう言うしかないだろうね。彼はなんとしてでも失なったステータスを取り戻したいと思ってるはずだ。彼はあの試合で負けただけでなく、人気までボクに奪われたから（ニヤリ）。
——なるほど（笑）。
ジョシュ　ボクはかまわないよ。ボクはノゲイラをサブミッションで極めることも、KOすることもできる。再戦するのは彼にとってよくないと思う。彼はこれまで試合で極められたこともKOされたこともなかったけど、ボクとリマッチすれば、その屈辱を味わうことになるからね。
——そこまで自信がありますか！
ジョシュ　うん。彼のサブミッションから逃れることはたやすかったし、彼は一度もボクをしっかりとキャッチできなかった。一度だけ十字を取ったけど、ボクはなんの問題もなく、あっさりと逃げることができたでしょ。逆にボクは彼にフロント・チョークやネックロック、クロス・フェースロックやアキレス腱固め、最後はヒザ十字！　何度も何度もボクがキャッチしたんだよ!!
——カール・ゴッチやビル・ロビンソンから伝わるキャッチ・レスリングのテクニックで。
ジョシュ　そのとおり！　ボクはロビンソンからも教わったし、フナキ（船木誠勝）やスズキ（鈴木みのる）らと練習していたマット・ヒュームからも教わった。そしていまのボクのコーチのエリック・パーソンは、サヤマ（佐山聡）から教わっていた。つまりゴッチの流れを汲むUWF系の選手の血脈なんだ。だからボクはカール・ゴッチの曾孫弟子と言っていいだろう。
——それにしても『PRIDE・1』で髙田本部長がヒクソン・グレイシーに負けてから10年近く経って、キャッチやUWFの技術が再評価されるとは思いませんでしたね。
ジョシュ　ん？　それはずいぶん聞き捨てならないねえ。ヒクソンと闘ったときのタカダサンと、92～94年ごろのUインター全盛期のタカダサンは別人だよ！
——え？　ザ・エスペランサーと高田総統と高田本部長は別人ですけど……。
ジョシュ（無視して）Uインターの頃のタカダサンは凄く強かったけど、ヒクソン戦のときはケガもたくさんしていて、引退していてもおかしくない状態だった。全盛期のタカダサンがヒクソンとやってたら、勝っていたはずだよ!!　間違いなく。
——いまになってUWFが復権したわけじゃない、と。ジョシュ選手は常々、「自分はプロレスラーとして闘う！」と公言してますし、日本には元プロレスファンだった格闘技ファンも多くてその真意を理解してくれると思うんです。ただ、昨日のアメリカ大会では、元WWEのショーン・オヘアがブーイングされたり、格闘技ファンとプロレスファンが重ならず、ジョシュ選手の言うことも理解されないような気がするんですけど。そういうアメリ

TAJIRIとジョシュがラスベガスで緊急合体！『PRIDE』ラスベガス大会を観戦したTAJIRIが、なんとジョシュをハッスル軍に引き入れたのだ。UWF信者のジョシュだけに髙田総統の姿を見て、髙田延彦PRIDE本部長の変わり果てた姿（総統とは別人だが）に闘志をかき立てられた可能性もなきにしもあらずだ。とにかく、この合体はエスペランサーの再降臨で追い込まれていたハッスル軍にとって、この上ない援軍となるのか？　今後の展開に注目！

JOSH BARNETT

今回のPRIDEの成功をUFCが驚異に感じないとすれば、バカだ!!

今年もヤルゥ!!『PRIDE男祭り2006』！東京・マッカ～オの同時開催案、急浮上!

ラスベガス大会の翌日、シーザースパレスで記者会見が行なわれ、今年の大晦日も例年どおり、さいたまスーパーアリーナにて『PRIDE男祭り2006』が開催されることが発表された!!　鳥肌が全部立つことに、今回は中国・マカオでの同時開催案が浮上！　このプランは、過去の犯罪歴のために日本へ入国できないマイク・タイソンの『男祭り』参戦を視野に入れた緊急措置。結局、大会や同会見にタイソンは姿を現わさなかったが、榊原DSE代表は「地上波放送を含めて大きな枠組みの中で起爆剤になってもらえればと思っています」と、地上波獲得のためにもタイソン担ぎ出しになみなみならぬ決意。このあとマネージャーとの交渉に入った模様だが……。タイソン参戦が厳しい場合は「無理して2大会をやることはないかなと思っています」とのこと。はたして、今年も『男祭り』はどうなる!?　そして、“マット界の堺マチャアキ”こと髙田本部長・恒例の出しものは!?　ビビってたじろぐ続報を待て！

カで「プロレスラーとして闘う!」とアピールすることは、イメージダウンになる恐れもあると思わないですか?

ジョシュ ……そうはいってもさあ、ボクは"プロレスラー"なんだから、そう宣言しなくちゃ始まらないじゃん!!

――ガハハハ! それもそうですね(笑)。

ジョシュ それにアメリカの格闘技ファンも、もともとはプロレスファンだったんだ。プロレスを見て育ち、強さ、ヒーローのイメージの原型として、プロレスラーというものを心の底に持ってるんだよ。だからボクは、真のプロレスラーというものがどれほどの強さを持つことができるのかを、もう一度彼らに見せたかったんだよ。プロレスというのはWWEみたいなものだけじゃなく、本当は素晴らしい闘いの技術を持っているということをね。そしてプロレスファンは、ハルク・ホーガンや"マッチョマン"ランディ・サベージたちが、本当に強かったと信じたがってる。だからボクがプロレスラーとして活躍することは、彼らにも嬉しいはずだよ。「プロレスラーは本当は強いんだ」ということを再確認できるんだから。

――以前ビル・ロビンソンにインタビューしたとき、彼は昔のプロレスラーが持っていたキャッチ・レスリングの伝統について話してくれて、「アメリカのショーマンシップ的プロレスがダメにしたが、桜庭選手がキャッチ・レスリングの技術を総合格闘技の舞台で復活させて見せたのだ」と語っていました。ジョシュさんもそのプロレスの源流であるキャッチ・レスリングを見せているわけですね。

ジョシュ そうなんだ。ただ、キャッチの技術を持つプロレスラーは、多くが引退してしまった。フナキもそうだし、ケン・シャムロックも最近引退したし、フランク・シャムロックはまだ試合をしているけど……。最初、ボクたちプロレスラーは柔術のスタイルに戸惑った。それは柔術の技術、つまり「ポジションを取り、ホールドして、パスガードして……」というゆっくり攻めていくスタイルは、ボクらプロレスラーにとっては「膠着」にほかならなかったからだ。お客さんの前で闘うプロレスラーにとって、膠着は決してしてはならないこと。だから、そのスタイルに凄く戸惑ったんだ。

――ジョシュさんは柔術家と違って、いきなり極めにいったり、KOを狙いますよね。

ジョシュ そうだね。柔術は言ってみれば「ジェントル・アート」(やさしい技術)であり、キャッチは「バイオレント・アート」だからね。で、ボクたちプロレスラーは、柔術家になんら劣ることがない……いや、断然、上であることをちゃんと証明してきている。たとえば、サクラバやタムラ(田村潔司)はグレイシーを倒しているでしょ。

――いまはジョシュ選手が実力で証明しているということですね。で、ちょっと驚くことを耳にしたんですが……今回のラスベガス大会前に、あのミルコと一緒にトレーニングしたとか。

ジョシュ うん。じつはそうなんだ。

――どんな練習をしたんですか?

ジョシュ ミルコはボクに打撃のコツをいくつか教えてくれた。そして、お互いにトレーニング方法を教え合ったんだ。そして今回の試合に向け、ミルコがスパーリング・パートナーになってくれたんだよ。

――ミルコがスパーリング・パートナー!!

ジョシュ ミルコは「クロアチアで一緒に練習しよう!」とも誘ってくれたんだよ。クロアチアは世界有数の美しいビーチで知られているから、一度は訪れてみたいねえ。

――ボクもクロアチアに行ったことがあるんですが、アドリアの紺碧の海は本当に美しいんですよ。

ジョシュ そうなの? よけいに行きたくなったあ(笑)。いまは忙しすぎるから無理だけど、いずれは行きたいね。

――ジョシュ選手はヒョードルやミルコと仲良くなってますけど、この二人こそ倒さねばならない相手でもあるんじゃないですか?

ジョシュ もちろん。彼らとの対戦は避けて通ることはできないよ。彼らは友だちだけど、一番になるためには倒さなくちゃならない。いつか歳を取ったら一緒に音楽を聴いたり、食事をしたり、酒を酌み交わしたり……そうやって心を許す時間が訪れるだろうけど、まだボクらは若いし、世界のトップが誰なのかを決める闘いをすることができるんだから、闘うことは避けられないのさ。うん。

――仲良くしていても、いざ試合となったら、本気で殴り合い、倒し合える、と。

ジョシュ もちろん。その倒し合いを楽しむことすらできるんだ。それはボクらが根っからのファイターだからさ。普通の人からすれば、へんな考え方に思えるかもしれないけど、全力で殴り合い、極め合う闘いを通じて、ボクらの仲はより深い絆で結ばれるんだよ。

――まさしくケンシロウで言うところの"強敵"(とも)になるんですね。"強敵"たちの闘い、楽しみにしてます!!

【06年10月22日(アメリカ現地時間)／ラスベガスにて北斗速報拳な緊急収録】

10.21 PRIDE.32 "THE REAL DEAL" 格闘ロイヤルストレートフラッシュ!!

JOSH BARNETT■1977年11月10日、アメリカ・ワシントン州出身。第7代UFCヘビー級チャンピオン、現・第10代キング・オブ・パンクラス無差別級王者。PRIDE無差別級GP準優勝者。日本のサブカルチャーをこよなく愛する"世界最強のオタク"。マイ・ヒーローは『北斗の拳』のケンシロウだから、入場曲はアニメ『北斗の拳』の主題歌「愛をとりもどせ!!」。なお、今回のインタビュー撮影で使用した特製PRIDEトランプ(非売品)を読者の皆様にプレゼント！ どーしてもほしいかたは、まずは「トッラ〜ンプッ!!」と絶叫しながら町中を駆け回ったうえで、158ページの読者プレゼントコーナーをめくるべし！ 191センチ、111キロ。

OR vs MARK COLEMAN

ジの生き様だ!!

［PRIDE.32 ラスベガス大会］
○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マーク・コールマン×
（2R 1分15秒 腕十字固め）

41歳筋肉オヤジが愛する幼娘たちの目の前で無敵の皇帝ヒョードルに挑む――そんな、なんともグッとくる煽りVTRを受けてスタートしたメインイベント。VTR内の熱いまなざしそのままに、コールマンは何度も何度もタックルを切られながらも、必死にヒョードルの足に食らつく。しかしヒョードルは片足をつかまれた状態からコールマンの顔面を容赦なく粉砕。1ラウンド終盤ではコールマンの左目下の傷にドクターチェックが入り、2ラウンド開始時には鼻筋、右目もカットしコールマンの顔面はもはや傷だらけに。それでもタックルをやめないコールマン。そしてようやくテイクダウンに成功！……と思った瞬間、ヒョードルはすばやく腕をつかみ十字の体勢に。これにはコールマンも我慢しきれず無念のタップアウト。しかし観衆は闘うコールマンの勇姿に大感激！　まさに“オヤジの生き様”を目の当たりにした感動の一戦となった。

筋肉三兄弟の“男泣き夕焼け番長”劇場大爆発!!
照れもなく人生を切り売りできるのが本当のプロである

PRIDEラスベガス大会はまさに筋肉三兄弟による筋肉三兄弟のための大会だったといっても過言ではない！　それを最も象徴する試合が、まさにヒョードルvsコールマンである。世界最強ヒョードルとの大事な一戦を、バローニ、ランデルマンという最高の仲間とともに、愛娘たちの目の前で闘ったコールマンの傷だらけの生き様は、まさしく“男泣き夕焼け番長”劇場という名の壮大なドラマそのものであった。

文／橋本宗洋　構成／松下ミワ　写真／乾晋也
designed by hisa（TwoThree）

10.21
PRIDE.32
"THE REAL DEAL"

格闘
ロイヤル
ストレート
フラッシュ!!

EMELIANENKO FEDOR

これがオヤジの

「ロシアでは、12月31日は一年で最も大きな休日で、みんなパーティをするんです。まあ、残念ながら私は試合なんですけど……。いや、冗談です（微笑）」（大会翌日の『男祭り』発表記者会見にて）。

まさかまさか。ラスベガスでヒョードルのジョークを聞くことになるとは思わなかった。そういえば試合直後の会見では、こんなことも言っていた。

「次の試合で誰と闘いたいか？　それはもう決めていて、しかも今夜、実現するんです。相手はジョシュ・バーネット。これからウォッカの飲み比べをする予定なんです（微笑）」

いつも寡黙で、試合について何を聞いても「全力で闘うだけです」しか語らない普段のイメージからすると、ラスベガスでのヒョードルのゴキゲンぶりはちょっと信じられないくらいのものだった。トレードマークの〝（微笑）〟はターボがかかった状態（限りなく〝微〟がいらない感じ）。ファン参加形式の記者会見では、客席に向かって手を振ってみたり……。

ヒョードルの（たぶん生来の）陽気さを引き出したのが、アメリカの格闘技ファンの熱狂ぶりなのは間違いない。出場選手中、ダントツの一番人気。公開計量では本人が壇上に現われる前から〝ヒョードル！　ヒョードル！〟の大合唱が起こり、実際に登場すれば蜂の巣をつついたような大騒ぎである。「これほど歓迎されるとは予想してなかったです」という言葉は、ロシアの片田舎から24時間のフライトを経てやってきた男の、まさしく本音だろう。対戦相手のマーク・コールマンはアメリカ人ファイターなのだが、ファンたちは母国を代表するベテラン選手よりも、『PRIDE』無敗のヘビー級チャンピオンにありったけの興味とリスペクトを捧げたのだ。

EMELIANENKO FEDOR vs MARK COLEMAN

泣きながら駆け寄る愛娘を抱きしめた瞬間、“試合”は“ドラマ”へと昇華した

もちろん、ヒョードルもただ歓迎ムードに浸ってばかりいたわけではない。チャンピオンとして、『PRIDE』のアメリカ進出、その第一歩を刻む大会のメインを張ることの重要性と責任をキッチリと認識していた。

「ロシア人として恥ずかしくない試合をしたい」

ラスベガスに到着すると、まずはそう語ったヒョードル。試合では、サンボ衣に身を包んで花道を進んだ。国技であり、自身の格闘ベースであるサンボ衣は、いわばヒョードルにとって〝正装〟だろう。そういういでたちで入場することが、アメリカ進出にあたっての〝ロシア人として〟のアイデンティティの表現であり、圧倒的な声援に対する彼らしい形の返礼だった。

試合が始まると、ヒョードルは揺るぎない強さを発揮してみせた。コールマンが何度となく繰り出す渾身のタックルを切り、重いパンチをヒットさせて優位に試合を展開。右拳に入ったプレートを外す手術からの復帰戦でもある今回だが、〝氷の拳〟の凍えるような冷酷さは以前となんら変わることはなかった。相手をガブった状態から鉄槌を振り下ろし、右フックでグラつかせるヒョードル。「ケガをする前は試合の連続でしたが、手術しなければならなくなったことでいい休養が取れました。いまは、以前よりもむしろ状態がいい」という試合翌日のコメントに偽りはないのだろう。それに「長いあいだ試合をしていなかったので、今回は長く試合をしたかった」という言葉にも。

2ラウンド、ヒョードルは「そろそろいいだろう」とばかりに試合を終わらせる。フィニッシュは下からの腕十字。前回とまったく同じである。万全の体勢でパウンドを放ちにいったはずのコールマンは、しかし気がつけば腕をしっかりとロックされ、ヒジをあらぬ方向に捻じ曲げられて、あとはタップするしかなかった。腕十字など数え切れないほど見てきたアメリカのマニアたちも、この一瞬の切れ味には戦慄を覚え、そして溜飲を下げたはずだ。

強いチャンピオンが、その強さをアメリカのファンにまざまざと見せつけた試合。ヒョードルの一本勝ちという結果は、順当といえばあまりにも順当である。だが、コールマンが〝皇帝、ラスベガスに降臨！〟の単なる相手役、引き立て役だったのかといえば、決してそうではない。もちろん、試合前から〝ミスマッチじゃないか〟という意見はあったし、筆者自身、コールマンにはたいした期待を抱いてなかったのだけど……。

今大会に対するアメリカ人ファイターたちの意気込みには凄まじいものがあった。日本という国で磨かれ、成長し、活躍してきた自分の闘いを、ついに母国で披露できるのだ。その〝晴れ舞台〟度は相当なものだったろう。中でも気合いが入りまくっていたのがコールマン、ケビン・ランデルマン、フィル・バローニの筋肉三兄弟。ほとんどムダにさえ思えるテンションの高さで知られるこの男たちだが、今回ばかりはその熱さ、濃さが〝PRIDE初上陸！〟〝日本で名を上げた選手たちがついに凱旋！〟のムードにマッチしていたような気がする。

ランデルマンはホテルの中から縄跳びをしながら公開練習のリングに登場。弟分の気合いを肌で感じたコールマンも、思わずシャツを脱ぎ捨てスパーリングに参加

してしまう。次の日にちゃんと自分の公開練習もあるのに、だ。迎えた翌日、コールマンは大会に両親と二人の愛娘を招待していることを記者陣に明かした。「いまの私の人生は、子どもたちのためにある。それに両親はずっと私をサポートしてくれた。こうしてまたアメリカに戻ってきて、子どもたちと両親の前で試合ができるなんて。言葉にならないよ……」。そう言って、コールマンは人目もはばからず涙を見せた。記者会見では「私が（ヒョードル戦で）死ねばいいと思ってるヤツもいるんだろうな。でも私は絶対に恐れることはない」とその決意を語っている。

そして10月21日、トーマス＆マックセンターのリング上。ヒョードルの〝順当勝ち〟も、コールマンを中心にして見れば恐ろしくドラマチックだった。最大の武器であるタックルをどれだけ仕掛けてもカットされ、しかしそれでもタックルを執拗に放っていくコールマン。世界の頂点に君臨する拳を浴び、1ラウンドから顔面、とりわけ左目の下は無惨なほどに腫れ上がる。顔面を打ち抜かれて崩れ落ちそうになる場面もあった。だがすんでのところで踏みとどまり、なおも王者の足に食らいつくようにタックル……。これほど涙ぐましく、それに伝わりやすい〝奮闘〟もないだろう。この試合でコールマンが武器としたのは技術やパワーではなく、感情そのものだった。

最後は十字で一本負け。結果だけを見れば〝予想通り〟である。ただ、本当のクライマックスは試合のあとに訪れた。コールマンは勝者よりも先にマイクを握り、涙を流しながらリングサイドの娘たちにこう呼びかけた。

「Ｄａｄｄｙ ｉｓ ＯＫ――パパは大丈夫だよ」

泣きながら駆け寄ってきた愛娘二人を抱きしめる、命がけの闘いを終えた父。『ＰＲＩＤＥ』アメリカ初進出大会のメインイベントは、この瞬間に〝試合〟から〝ドラマ〟へと昇華したのである。

大会終了直後の記者会見にもドラマはあった。きっかけは、ある女性記者がヒョードルに投げかけたこんな質問だった。

「試合後、コールマンの娘たちが泣きながらリングに上がったとき、居心地の悪さを感じませんでしたか？」

あんな残酷なものを子どもに見せるなんて。ましてリングに上げるなんて。そういうお決まりの〝正論〟である。「確かに、父親が殴られるのを見て小さい娘さんたちはショックを受けたでしょう……」と複雑な表情で語るヒョードル。そこに割って入ったのが、筋肉兄弟の〝三男〟バローニだった。

「ちょっと待ってくれ。質問の意味がまったくわからないな。いいかい、マークは日本を主戦場にしていて、娘たちは自分の父親が何をしているか、よく理解していなかった。そして今日、初めて父親の試合を観たんだよ。自分の父親が拍手と歓声を受けてリングに上がる姿を観るのは素晴らしいことじゃないか。残酷だって？ 人生ってのはそもそも残酷なもんなんだよ。負けはしたけど、世界最強の男を相手に闘って、あれだけ凄いパンチを浴びても生きてリングから降りる姿を見たら、彼女たちは自分の父親を誇りに思えるはずだ。オレはマークがしたことを尊敬するね」

まるでサミュエル・L・ジャクソンかアル・パチーノばりの熱い大演説が終わると、場内から一斉に大拍手。愚かな（とあえて言ってしまおう）質問が、図らずも我々が共有していた気持ちを浮き彫りにしたわけだ。

コールマンは家族への愛を、個人的な感情をあえてリングに持ち込んだ。その姿に胸を打たれたバローニは、自分へのものではない質問にも口を挟まずにはいられなかった。〝次男〟ランデルマンは、セミファイナルで思い切り足関節を極められたにもかかわらず足を引きずりながらコールマンのセコンドについた。熱い。時と場合によっては辟易するくらいに熱い。でも、彼らがその熱さを照れずにムキ出しにしたからこそ、『ＰＲＩＤＥ』アメリカ初進出は大爆発し、エモーショナルなエンディングを迎えたのだ。

試合の結果はあくまでも予想どおりのものだったが、コールマンがその生き様をリングに叩きつけたことで〝ドラマ〟が〝結果〟を超えた。どうせヒョードルが圧勝するんだろ。そんな〝結果の予想〟が当たったことなど、もはやどうでもよかった。

コールマンが試合後にやったことは、いってみれば人生を〝切り売り〟するような行為だ。娘と抱き合うならバックステージにしろよ、恥ずかしい。そう思う人間もいただろう。だが、かけがえのない自分の人生を〝切り売り〟するなど、生半可な覚悟でできることじゃない。

〝ヒョードルの対戦相手がコールマンでいいのか？〟〝第一回アメリカ大会のメインがこの試合でいいのか？〟

そういう疑念は確かにあった。しかしすべてを観終えたいまでは、こう断言できる。

〝よかったんだよ！〟

10.21
PRIDE.32
"THE REAL DEAL"
格闘ロイヤルストレートフラッシュ!!

顔面傷だらけのダディの姿に涙が止まらない愛娘たち。そんな二人をコールマンがリング上で両手に抱き寄せ、「パパは大丈夫だよ！」と優しく繰り返し諭すシーンは、まさに涙なくしては見られない名場面であった。

ゴールドラッシュ大連発!?

10・21『PRIDE.32 "THE REAL DEAL"』ラスベガス大会試合レポート

「グレート・ウォリアア〜!出てこいやァ〜!」

(髙田統括本部長調)

文/橋本宗洋　構成/真下義之　撮影/乾晋也

designed by matsu (TwoThree)

10.21
PRIDE.32
"THE REAL DEAL"

格闘
ロイヤル
ストレート
フラッシュ!!

記者会見での「踏みつけなしでも問題ない」という言葉どおり、というかそれ以上の勝ち方だったショーグン（柔術黒帯取得済み）。それにしても、この極まり方は凄すぎるだろ!

ショーグンは出場選手の中でヒョードルに次ぐ人気。アメリカの格闘セレブたちが好きなのは"アメリカ人ファイター"ではなく、あくまでも"PRIDEファイター"なのだ。

セミでも"男泣き夕焼け番長"劇場!耐え忍ぶケビンの意地に拍手喝采!!

○マウリシオ・ショーグン vs ケビン・ランデルマン×
(1R 2分35秒 ヒザ十字固め)

肺の手術で生死の境をさまよい、これが一年ぶりの試合となるランデルマンは公開練習や計量から気合い入りまくり。会見での第一声は「ウアァァァァーッ!(叫)」。リング上でもゴングと同時に突っ込み、テイクダウンに成功。が、直後にショーグンに足を取られヒール、アンクルの波状攻撃で一本負けを喫してしまう。しかし、限界を超えてるはずの極まり方ながら必死の形相で痛みに耐え、観客の視線をクギづけにした"勝敗を別次元に追いやる意地の張りっぷり"はお見事!　リングを降りる彼の背中には、大きな拍手と喝采が降り注いだ。

騒いでるだけじゃねえんです!米のファンも"わかってる"!?

○ダン・ヘンダーソン vs ビクトー・ベウフォート×
(3R 判定 3-0)

今大会、唯一の判定決着。ダンヘンがパウンド中心で攻め、展開のない場面も見られたこの試合に限っては4点ポジションのヒザがほしい感じだった。だが観客はブーイングを飛ばすことなく、フィニッシュに近づいた側にすかさずコールを送るという"援護射撃"も。ただ騒いでるだけじゃないんである。

大ブーイングはお約束!?兄さん思いの三男、一本勝利!

○フィル・バローニ vs 西島洋介×
(1R 3分20秒 TKO)

一方的な展開で一本勝ちしたバローニだがKOを逃したためか、ベガスがかつて失恋した傷心の街だからか「気持ちいい仕事じゃなかった」とテンション低め。入場時には盛大なブーイングが浴びせられたが"NYバッドアス"がキャッチフレーズだけに、これはお約束らしい。カート・アングルへの"YOU SUCK!"みたいなもの。

究極ベビーな"光る豚"、スーパーサイズな勝ちっぷり!!

○バタービーン vs ショーン・オヘア×
（1R 0分29秒 TKO）

バタービーンは相手がマーク・ハントからショーン・オヘアに変更、試合形式もボクシング、キックなどが噂されながら最終的には総合に。だが慌しい状況にも動じる気配はなく、オヘアのタックルをガシッと受け止めると、その体勢のままパンチを連打するバタービーン。オヘアはズルズルと崩れ落ち、ついにはノックアウトに。パンチ力と体重をフルに活かした勝ちっぷりには会場も大爆発！　誰にも嫌われようがない究極のベビーフェイス・キャラにして休憩前にイイ仕事ができる"光る豚"の存在は『PRIDE』にとって頼もしい限りだろう。

「メイクヒストリー！」な第一試合 光速決着でラスベガス好発進！

○ロビー・ローラー vs ジョーイ・ヴィラセニョール×
（1R 0分22秒 TKO）

記念すべきファーストマッチは秒殺KO。かつてUFCの常連でもあったロウラーが開始早々に左ハイを決め、「次はしゃがんでよけようとするだろうと予測して」、狙いどおりの飛びヒザ→パウンド。インパクト絶大、理想の第一試合ともいえるこの一戦で、『PRIDE』アメリカ進出の火ぶたは切られたのだった。

ドンペン君、上陸セズ……もカズ、前向きに再起動！

○中村和裕 vs トラビイス・ガルブレイス×
（2R 1分16秒 TKO）

あの中尾KISS戦から一カ月あまり……中村が対戦したのは、KOTCを主戦場とする新鋭ガルブレイス。汚名返上をはたしたい中村は、膠着する前に立ち上がりスタンド戦を挑む姿勢が強い印象を残した。フィニッシュもヒザ蹴りからパンチ連打という鮮やかなもの。ちなみに今回、入場時にドンペン君は登場せず。

味つけ&隠し味、必要ナシ！ アメリカが支持した"そのまんまPRIDE"ワールド!!

なにしろ全8試合中7試合がKO、一本決着である。しかもコールマンやランデルマンなど敗者にもドラマを感じさせたのだから、『PRIDE』アメリカ初興行は黄金ザクザク、ゴールドラッシュのごとき状態だった。

試合を観ていて感じたのは、選手たちのテンションの高さ、あるいは心意気のようなものだ。中村カズはテイクダウンに成功しても自ら打撃戦を望み（圧倒的にパンチで打ち勝っていたというわけでもないのに）、ジョーイ・ヴィラセニョールは「いままでの人生で一番大事な試合で負けちまった」と嘆いた。

選手たちの心境を最もよく表わしているのは、一夜明け会見でのジョシュの言葉だろう。「選手、スタッフが一丸となって大会を成功させたんだ。普段は競い合ってるボクたち選手だけど、今回は仲間意識があった」。

そう、これはMMAという個人競技の大会でありながら、その一方で『PRIDE』アメリカ進出を成功させるための"団体戦"でもあったのだ。選手たちは対戦相手と同時に、アメリカの格闘技市場そのものと闘っていた。その任務を負ったからには、意気に感じるのも当然の話。

超満員札止め、1万1727人の観衆も『PRIDE』がどんな大会なのかを本当によく理解していた。一番人気はヒョードルで、その次に声援が大きかったのはショーグンとジョシュ。選手がどこの国の人間であるかなど、まるで関係なかった。大会前は"アメリカの観客にウケるためにはアメリカ人選手の活躍が欠かせない"といわれたが、実際にファンが支持したのは強くて魅力的な"PRIDEファイター"だったのだ。オープニング・セレモニーやヒョードル入場時の異様なまでの熱狂。それはアメリカの格闘技マニアが抱えていた"ライブで『PRIDE』を観たい！"という渇望感が一気に爆発した瞬間だったはずだ。

アメリカのファンは、つまらない試合には容赦なくブーイングを飛ばすというイメージもあった。だが、トーマス&マックセンターを埋め尽くした観客は、ダンヘンとビクトーの（地味と言い切ってしまっていい）グラウンドの攻防を静かに見守っていた。打撃や投げだけでなく、パスガードやスイープにも拍手が起きる。アメリカで、そういうファンばかりが1万1727人。これって奇跡的に凄いことなんじゃないか。

凄まじいブーイングが起こったのは、開会前のルール紹介。ネバダ州アスレチック・コミッション認定ルールによる「グラウンド状態の相手に対する顔面へのキック攻撃禁止」がアナウンスされると、怒号のカタマリがアリーナを揺さぶったのである。"オレたちが観たいのは、日本でやってるそのまんまの『PRIDE』なのに！"ということだろう。繰り返すが、ここはアメリカである。アメリカなのに、そういう人間ばかりで会場が超満員なのである。

ただ、試合を観ていてルール変更の影響をほとんど感じなかったのもたしかだ。選手のアグレッシブな姿勢や多様かつ劇的なフィニッシュは、まさに『PRIDE』そのもの。クオリティはまったく落ちていなかった。ルールが変わろうとも、PRIDEファイターはPRIDEファイター。ファンは、そんな選手たちの"PRIDEファイターっぷり"に大声援を送ったのだ。

技、入場、煽り映像、アナウンス。とにかく絶妙なポイントで敏感に反応、拳を突き上げまくった観客たち。ラスベガス大会成功のカギを握っていたのは彼らだった。

アッ“鳥肌”メーリカ!

goose bumps!!

kamipro has arrived!!

『PRIDE.32』ラスベガス大会取材紀行

10.21 PRIDE.32 “THE REAL DEAL”
格闘ロイヤルストレートフラッシュ!!

大成功に終わった『PRIDE』ラスベガス大会だが、ここでは、その裏側で起こっていた、さまざまな出来事を各種大会のパンフレットなどを作製する『kamipro』企画制作部の坂井ノブ（元スモーノブ。最近、自転車ダイエットに成功）が徹底レポート！あなたの知らないラスベガス大会の裏側を大公開!!

取材／坂井ノブ　構成／チョロ
designed by matsu（TwoThree）

◆10月19日 13時00分（日本時間）
［kamipro編集部］

ギリギリまで引っ張ってしまった仕事を片づけて、慌ただしく会社を出る。慌てすぎてパスポートを忘れそうになった。

◆10月19日 18時45分
［成田空港］

成田空港から出発。ジミー鈴木氏のホームページ（現在は閉鎖されている）の写真（ゴキゲンな笑顔でファーストクラスで美人スチュワーデスを両脇にはべらせているジミーさんの写真）でおなじみのシンガポール航空でロスへ。旅慣れたジミーさんが絶賛するだけあって、本当に素晴らしい。

◆10月19日 14時30分（米国時間）
［ロサンゼルス国際空港］

LAに到着するが空港の混雑により機内で足止めを食らい、乗り継ぐはずの国内便を逃してしまう。この後、約3時間の待ち。待っているあいだに、フランスの『Fight Sports』誌のベルトラン・アモーゾさんと遭遇した。『PRIDE武士道 其の参』で羅王にKO勝利している、おそらく世界最強の編集者だ。彼らの雑誌もラスベガスで『PRIDE』を取材をするためにやってきていたのだった。

◆10月19日 20時00分
［ラスベガス・マッカラン国際空港］

飛行機でとなりに座ったビッグ・ボスマンのような風貌のサラリーマンがいきなりヒジをつんつん突いてくる。何かと思ったら「窓の外を見ろ」とジェスチャー。小さな窓から闇に浮かび上がるラスベガスの夜景に心を奪われる。

空港内のあちこちにスロットマシンが設置されており、冗談みたいに長いリムジンが何台も横付けされている。凄まじいネオンとこちらの遠近感が一瞬で狂う巨大なホテル群に頭がクラクラしてくる。

スフィンクスの背後で漆黒の闇に向かって光を放つ巨大ピラミッドやパリの象徴であるエッフェル塔、モスクを模したものや、インペリアル・パレス（皇居）、かつては水の都と呼ばれたベネチアといった思いつく限りの異国情緒を再現しつつも、あちこちにピンクチラシをまく人たちが立っている。日本で言えば歌舞伎町と浦安と平和島の要素を一つの街にブチ込んでしまったような凄まじい街並みだ。「ありとあらゆる手段で来た人を楽しませてやろう！」というプロ根性の発露に、観光客もハジケまくることで応える異常なハイテンションが生まれているのか。

◆10月19日 21時00分
［シーザースパレス&サーカスサーカス］

シーザースパレス到着。この日、エメリヤーエンコ・ヒョードルとマーク・コールマンの公開練習を取材する予定だったが、飛行機の遅れによってすでに終了。砂漠性気候なので昼夜の寒暖差と乾いた空気で夜はかなり冷え込む。原稿を書き、取材体勢の調整。すべての仕事を終えた頃にはすっかりテンションが上がってしまい、シーザースから宿泊するサーカスサーカスまでストリップ（ラスベガスのメインとなる大通り）を徒歩で帰った。ホテルの入口からロビーまでは迷路のように入り組んでおり、そのほとんどがカジノ。敷地内に入ってから15分以上歩いても部屋に着かない。ここで金を使わせるという意図なのだろう。

◆10月20日 10時00分
［シーザースパレス・メディアセンター］

地元の新聞『ラスベガス・レビュー・ジャーナル』に目を通すDSE広報チーム。日本のメディアではまず使わないような不思議な角度の写真、タイトルマッチではないのに「Russian keeps title belt」の見出しがついていることに首を傾げる。ただ、MLBワールドシリーズとカレッジフットボールという人気スポーツに続いての2面でのカラー扱い。注目の高さはうかがえる。

地元の新聞で報じられる『PRIDE』関連ニュースを確認する“俺だけ見てりゃあいいんだ”笹原元GMと藤澤広報。

◆10月20日 11時00分
［ストラスフィア・タワー］

サーカスサーカスから徒歩10分程度のところにあるストラスフィア・タワーで、ヴァンダレイ・シウバがファンと一緒に絶叫マシンに乗るというファンツアーの企画があったので取材に行く。朝っぱらにもかかわらず大行列しているタワーを登りきると、なんとヴァンダレイが来られなくなるという事態が発生したことが判明。う〜ん、ラスベガスでは何が起こるかわからない。せっかくなんで絶叫マシンだけでも見ておこうと地上350メートルのタワー頂上に出ると、なぜか『PRIDE』オフィシャルカメラマンの山口比佐夫さんが絶叫マシンの先頭に乗っている！　記念に撮影。この後、山口さんは「たいして怖くなかったよ」とコメント。ここにも男の中の男がいた。

絶叫マシンにも余裕の表情の『PRIDE』オフィシャルカメラマンの山口氏。いつも、お世話になってます！

◆10月20日 12時00分
［“世界最大のおみやげ屋”ボナンザ］

最近『レコード・バイヤーズ・ダイヤリー』という、レコードを求めて世界中を旅するバイヤーの本をリリースしてラスベガスにも取材に行ったミズモトアキラさんが、僕がラスベガスに行くということで「行っておいたほうがいい」と教えてくれた“世界最大のおみやげ屋”という触れ込みのBONANZAへ。タワーのすぐ近くだったので寄ってみた。偏差値30ぐらいの商品が巨大な店内にビッシリと並んだ強烈な店だった。

次号の読者プレゼント用にイカしたデザインのTシャツや絵葉書などを購入。ライターの橋本さんは、キリストやシェークスピアのフィギュアなどを購入していた。ホテルに帰ると無料アトラクションのサーカスショーがやっていた。ソドム&ゴモラのような屈強すぎる肉体の男二人組による驚異のパフォーマンス、しかもBGMはバンドの生演奏。やることが徹底している。

これが“世界最大のおみやげ屋”といわれる『BONANZA』。ここでゲットした商品は次号の読プレで大放出だ〜ッ！

◆10月20日 16時00分
［シーザースパレス・ローマンプラザ］

ここで出場全選手参加の公開計量と公開記者会見が行なわれた。大勢のマスコミとファンを目の前にいよいよイベントのお祭りムードが盛り上がってくる。興奮したファンは開場と同時になだれ込んでいっていいポジションを確保。まず公開計量では選手が体重計に乗ってパスするたびに声

援が起こる。さらに対戦相手とフェース・トゥ・フェースで顔を合わせるたびに大歓声を上げた。
　そして公開記者会見では榊原信行DSE代表とエド・フィッシュマンPRIDE USAプレジデントが挨拶を行なったのだが、ここで榊原代表は第一声で「アッメ～リカ！　PRIDE HAS ARRIVED!!」と絶叫してファンの喝采を浴び、「GOOSE BUMPS（鳥肌）が立つようなイベントにしたい」と宣言。これに対してアメリカのファンが「OH！」と一斉に驚きの声を上げた瞬間がじつに印象深い。

「アッメ～リカ! PRIDE HAS ARRIVE!!」と絶叫し、観客のハートをつかんだ榊原代表、そしてフィッシュマン!

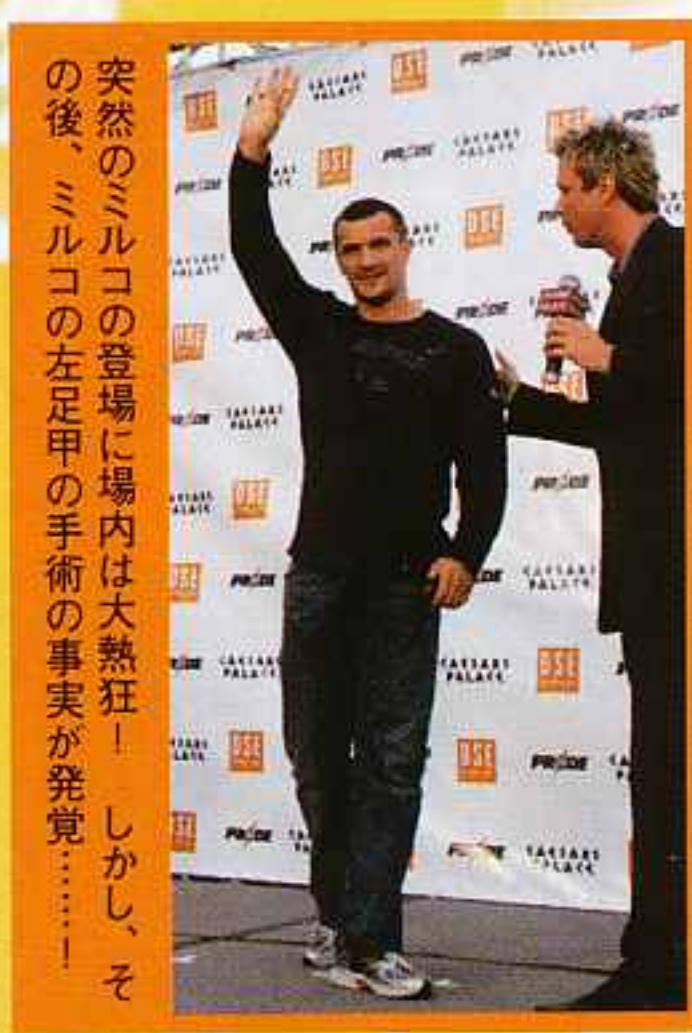
大きな声援が上がったのは中村和裕が英語で挨拶をしたとき、マウリシオ・ショーグンが登場したとき、そして一層大きな声援が起きたのはヒョードルが登場したときだ。ヒョードルの登場時には「FEDOR！　FEDOR！」とチャント（合唱）まで発生する盛り上がりだった。全選手記念撮影時にはヴァンダレイ・シウバも登場！　さらにはミルコ・クロコップまでもが登場！　このサプライズに驚いたアメリカのファンは熱狂的な大歓声で二人を迎え入れた。

公開計量にてメインで対戦するヒョードルとコールマンが上半身裸になると観客はそりゃあ大騒ぎさ！

　イベント後に『Fight Sports』のベトラン・アモーゾさんが自分たちの雑誌をファンに無料配布していると「俺にも！」「俺にも！」とファンが凄まじい勢いで集まってくる。とにかく大好きな『PRIDE』の情報に飢えているようで、肉に群がるピラニアのよう。アメリカで盛り上がっているMMAの人気を支えているのが彼らなのだろう。

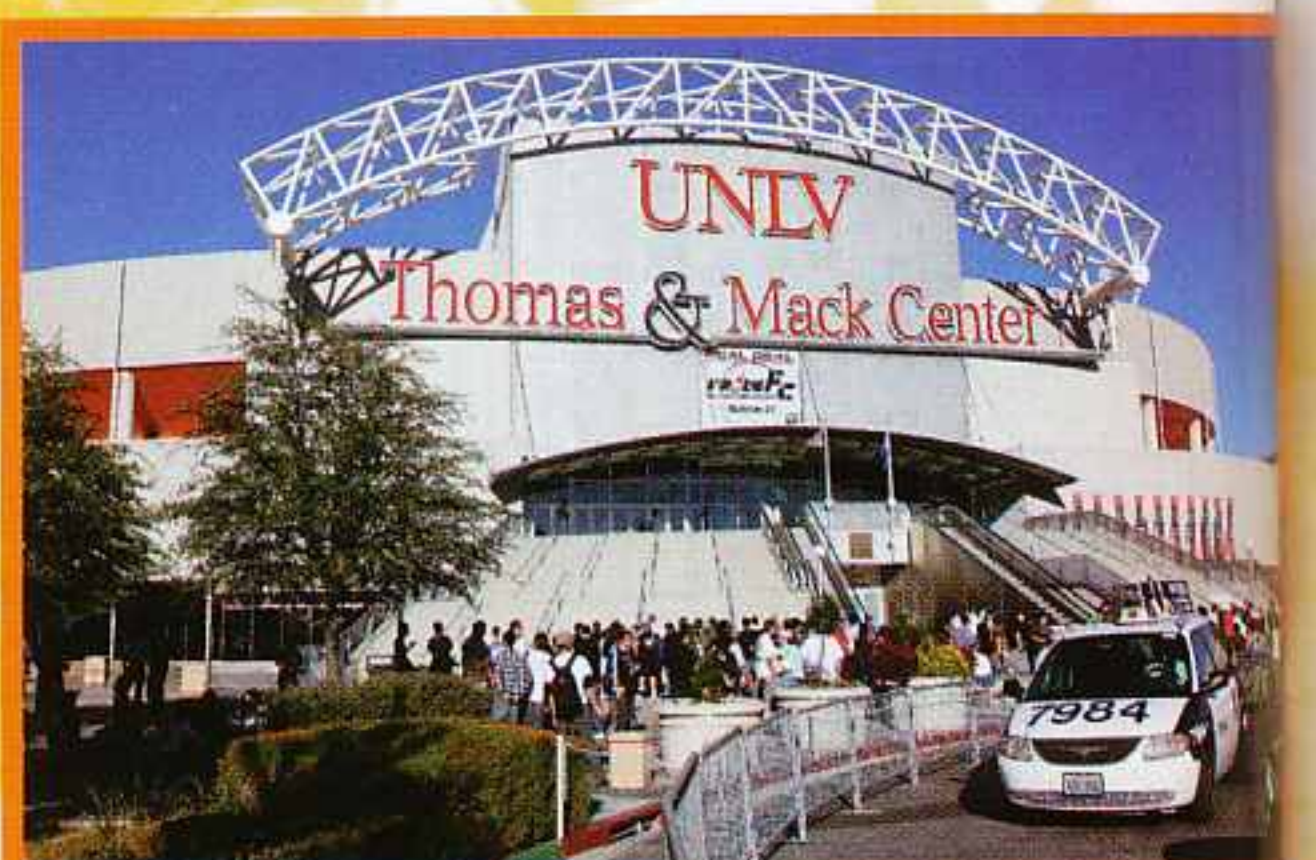
無料配布の『FightSports』を手に入れるべく元『武士道』ファイターに手を差し伸べる『PRIDE』マニアの皆様方!

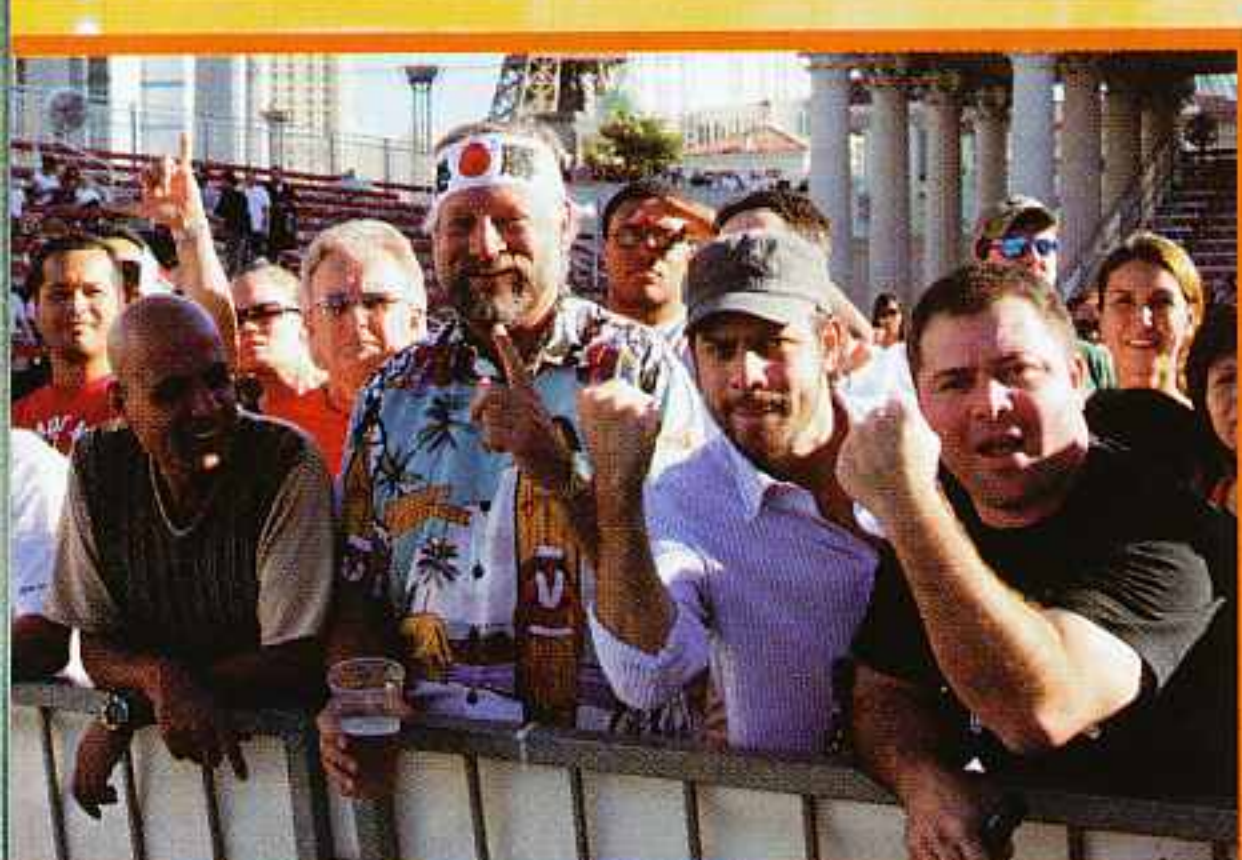
◆10月20日 18時45分［シーザースパレス・メディアセンター］
　髙田延彦PRIDE統括本部長、桜井"マッハ"速人、長南亮、佐伯繁PRIDE広報が参加した大予想大会が行なわれた。ちなみに司会は本誌"非常勤"編集長・山口日昇。佐伯さんのキャラが爆発したり、『格闘技通信』の三次"チョッキ"編集長も飛び入り参加して本誌"非常勤"編集長とバチバチしたやりとりが発生したり、非常に中身の濃いトークが繰り広げられているところに、なんといきなりミルコ・クロコップが登場！　ツアーに参加したファンも大喜び。

大予想大会の司会は本誌"非常勤"編集長＆ハッスル大統領の山口日昇です!

突然のミルコの登場に場内は大熱狂！　しかし、その後、ミルコの左足甲の手術の事実が発覚……！

　この後、ミルコは報道陣に記者会見を行なってスイス・バーゼルでハント戦の前から痛めていた古傷の左足の甲を手術したことを明かした。関係者によると6～8週間は蹴ることができないため、大晦日にトップファイターと闘えるかどうかは微妙な状況だというが……果たしてどうなる!?

◆10月21日 14時00分［シーザースパレス・カジノ］
　ファンツアーで行なうスポーツ・ベッティング体験というイベントに同行。『PRIDE』が初めて賭けの対象になるということで参加者の皆さんは思い思いの選手にベッティング。カレッジフットボールや競馬などに混じって『PRIDE』の選手名が巨大な電光掲示板に表示される光景はじつに壮観だ。カジノ内は撮影禁止なので写真はないが、詳細はギャンブル大将のコーナー（P21）を参照！

◆10月21日 16時00分［トーマス＆マックセンター］
　現地テレビのクルーが会場前でファンの撮影を行なっている。もう待ちきれない様子でテンションは上がりっぱなし！　絶叫してるヤツ、シウバの真似（手を組んでグルグル回す）をしてるヤツ、オープンフィンガーグローブをはめてるヤツなど、さまざまだ。会場内にもアメリカ版格闘セレブが大勢いたが、カジノ客やキレイなおねえさんなど客層はバラエティに富んでいた。

こちらが会場となったトーマス＆マックセンターの外観。見てみぃ、開場前から長蛇の列！　そういうことです!!

　ちなみに僕もカメラをぶら下げて会場内を歩いていたら「日本のプレスか？」と話しかけられた。「好きなファイターは？」と尋ねると「ビクトー・ベウフォートだよ！」。彼は『PRIDE』の初期から活躍してるだろ？」と過去のビクトーの試合を熱く語ってくれたのだった。とにかく熱い！
　プレスルームには豪華なケータリングサービスがあり、こんなところにも『PRIDE』アメリカ大会に込められた気合いが感じられた。プレスルーム内に選手のコメントブースも併設されており（日本の会場だと別々の場合が多い）、スタッフが通訳してくれるので非常に仕事がしやすい環境だった。アメリカでは試合後に会場で選手を集めて記者会見をするのが慣例ということで、会場内のCOXパビリオンという小ホールで記者会見も行なわれた。英語、日本語、ロシア語、ポルトガル語が飛び交い、あらためて『PRIDE』は国際的なイベントなんだなぁと再認識。

大会前から大騒ぎのアメリカの『PRIDE』マニアたち!
ちなみに会場人気1位はダントツでヒョードルでした!

こちらが広すぎるプレスセンター。軽くアクトシティ浜松以上の大きさだって!

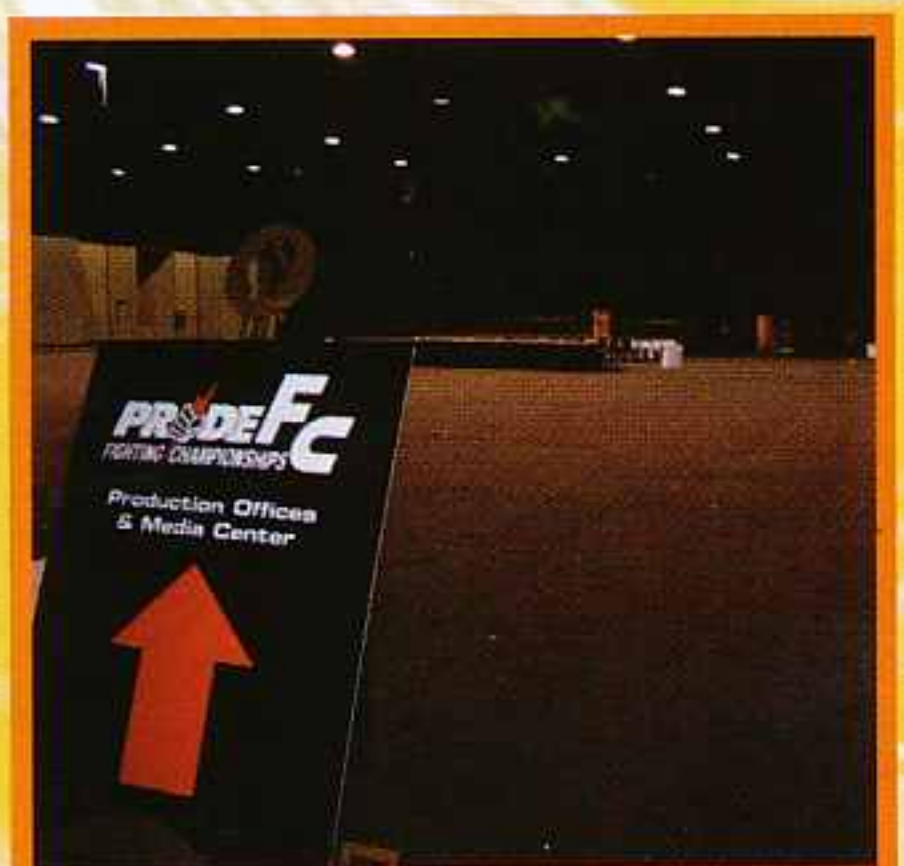
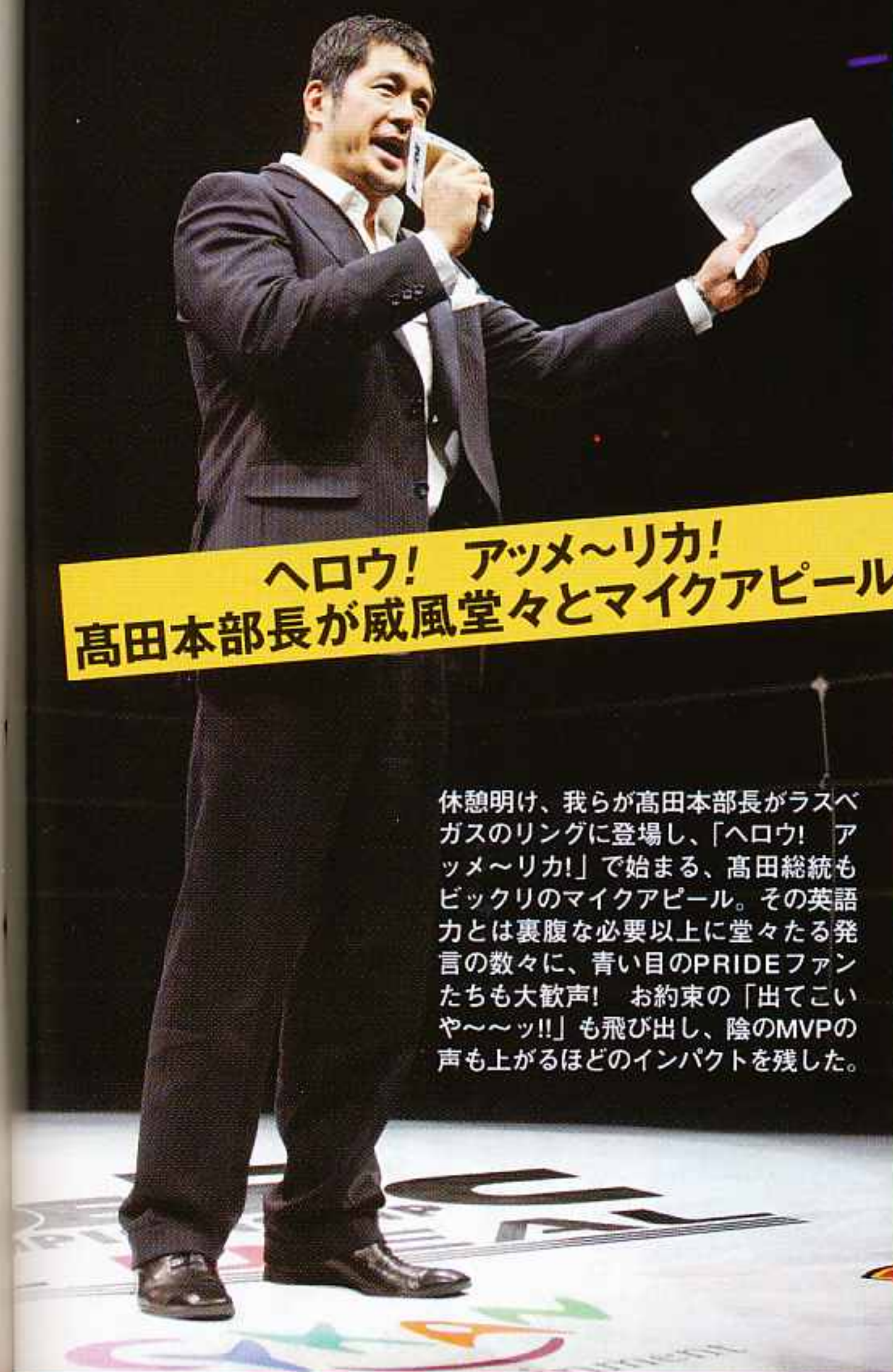
◆10月21日 24時00分［シーザースパレス］
　ホテル内にあるショッピングセンターの寿司屋で行なわれたフェアウェルパーティで日本からのツアーに参加したファンと選手が交流を行なった。試合直後にもかかわらず遅くまで残って記念撮影やサインなど、ファンサービスに気さくに応じる選手たちのプロ根性はじつに素晴らしい。

◆10月22日 10時30分［シーザースパレス・メディアセンター］
　激闘のあと、パーティにも参加していたジョシュ・バーネットが眠い目をこすってやってきた。「ネムイ」を連発しながらもインタビューではノリノリ。その後の『PRIDE男祭り』記者会見でも酒が残る髙田本部長と不思議なテンションで意気投合するなど、相変わらずのはっちゃけぶり。吉田秀彦に「デンジャラスY」とニックネームを命名、「いや、デンジャラスKっていう人がいるんだよ……」と説明しだしたのはさすがとしか言いようがない。

◆10月22日 19時00分［ラスベガス某所］
　このプレスツアーを締めくくる最後のイベントが「マスコミ懇親会」。予定表には「19時～記憶がなくなるまで」というGOOSE BUMPS（鳥肌）な時間指定がされているのだが……この原稿は懇親会の前に書いている。だって記憶がなくなったら書けなくなってしまうから！　そこでどんな惨劇が繰り広げられたかは各自調査！

10.21 PRIDE.32 "THE REAL DEAL"

格闘ロイヤルストレートフラッシュ!!

JOKER

ヘロウ! アッメ～リカ! 高田本部長が威風堂々とマイクアピール!

休憩明け、我らが高田本部長がラスベガスのリングに登場し、「ヘロウ! アッメ～リカ!」で始まる、高田総統もビックリのマイクアピール。その英語力とは裏腹な必要以上に堂々たる発言の数々に、青い目のPRIDEファンたちも大歓声! お約束の「出てこいや～～ッ!!」も飛び出し、陰のMVPの声も上がるほどのインパクトを残した。

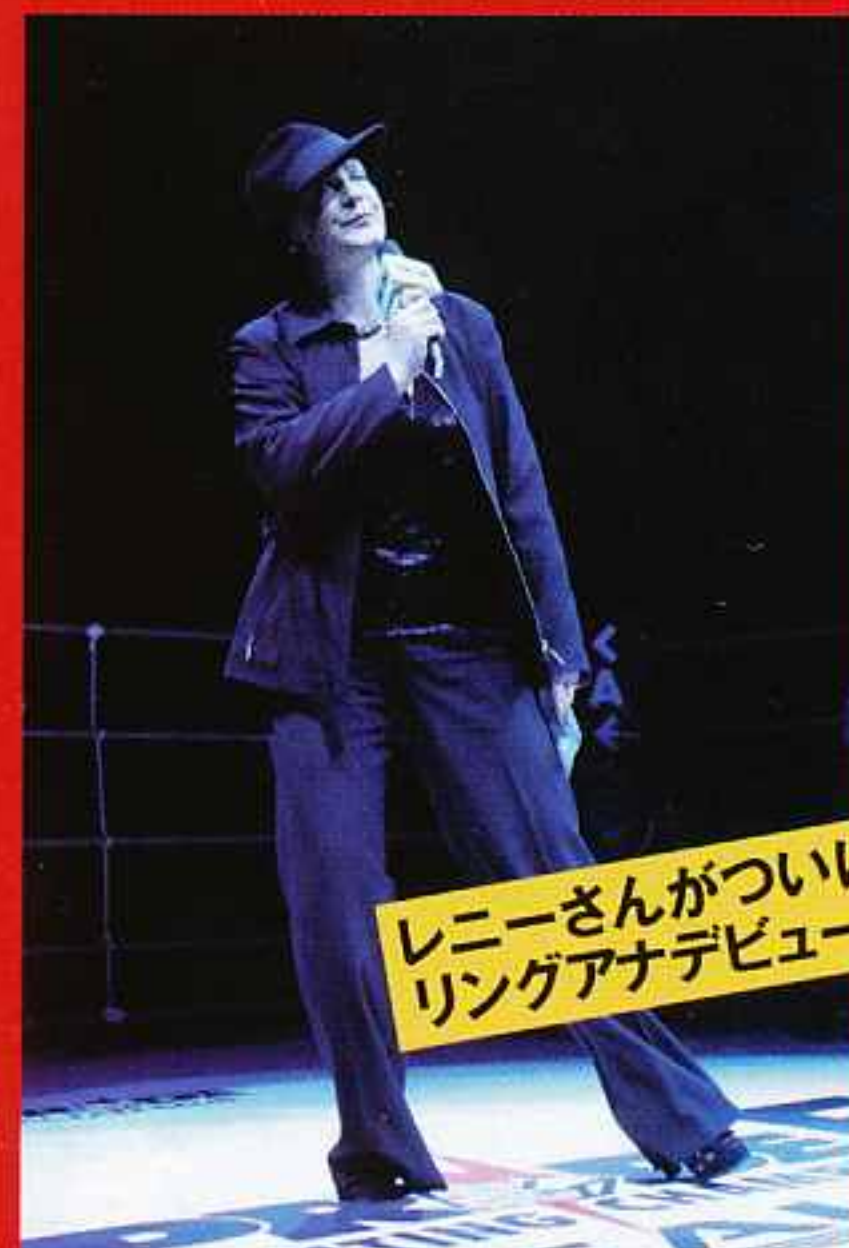
演出舞台装置のこだわりぶりにアッメ～リカンも大満足!

すべての面で日本での『PRIDE』に劣らぬクオリティにすることがテーマだった今回のアメリカ初進出。演出舞台装置にも、もちろんこだわり抜き、なんと日本からコンテナ二台使って船便でアメリカまで運んできたものなのだ!

大会記念グッズが驚異のバカ売れ!

会場内のグッズ売り場はどこも長蛇の列。大会記念Tシャツはイベント開始前に売り切れが続出し、日本仕様の豪華なパンフレットも飛ぶように売れていた。これだけをとっても、いかに熱いファンが多数詰めかけていたかがわかる。

ベガス1の大会場が超満員の大盛況!

ラスベガス初進出にして現地最大規模を誇るトーマス＆マックセンターで開催ということで、心配された観客動員だが、フタを開けてみればご覧のように1万1000人以上の大観衆が詰めかけた。観客のノリもよく、文句なしの大成功だった。

レニーさんがついにリングアナデビュー!

全篇英語のリングアナウンスは、おなじみケイ・グラントさんとレニーさん。レニーさんは、いつものリングサイドアナウンスだけでなく、ついにリング上でのコールも披露。あのスーパー巻き舌がいつも異常にツイストしていた。

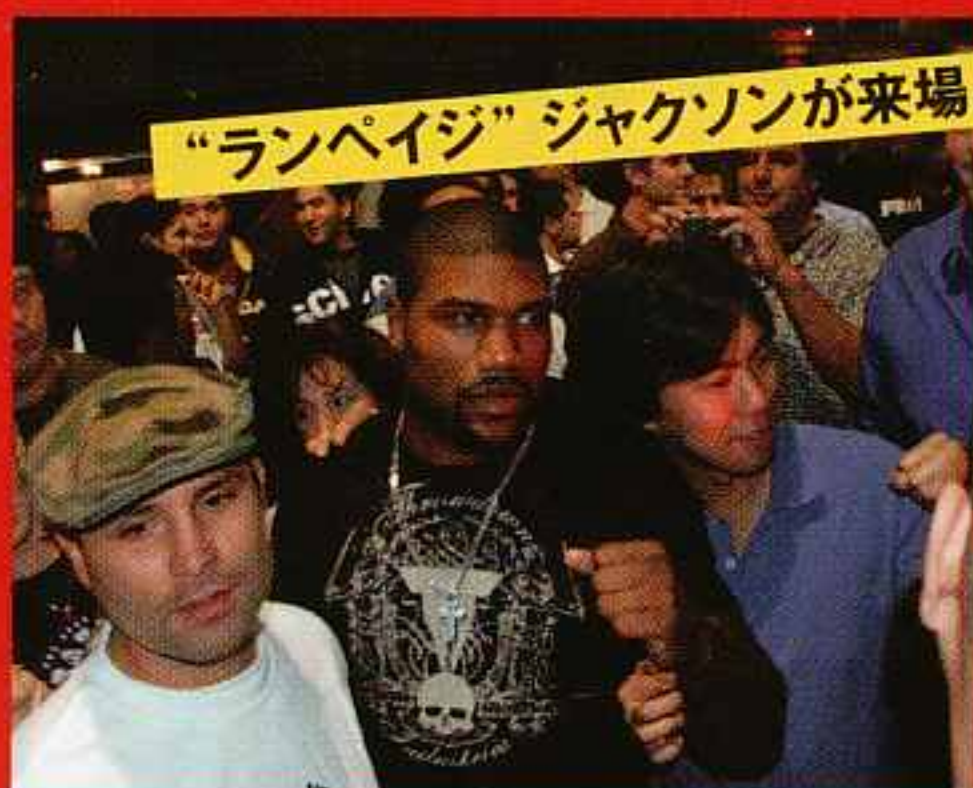
名言連発!! ヘロウ⤴からアイ・ラブ・アメリカ!まで PRIDEラスベガス大会

場外乱闘TOPICS

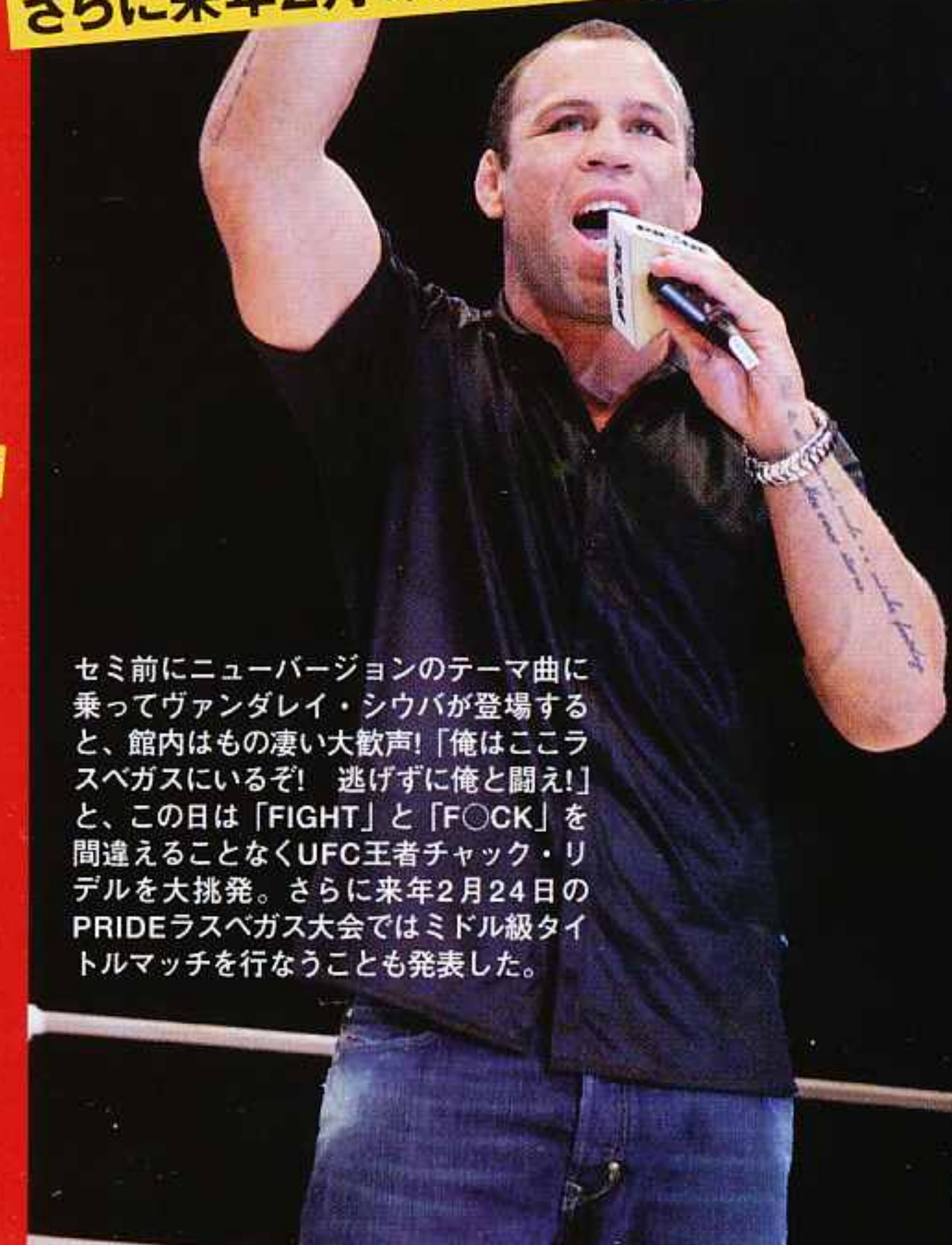
『PRIDE』が総力を挙げて開催した10.21ラスベガス大会だけに、出場選手以外のゲスト、大会スタッフに至るまで気合い入りまくり。ここでは、そんな試合以外の"熱"が伝わるトピックスをお届けしよう!

文／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by matsu (TwoThree)

吉田、藤田、マッハ、出てこいや～!

髙田本部長の「出てこいや―ッ!」の呼び込みで登場し、挨拶に立った、藤田、吉田、マッハの3人。マイクを持った吉田は、本部長の「ヘロウ! アッメ～リカ!」のインパクトに対抗して(?)、「アイ・ラブ・アメリカ!」と衝撃発言!!

"ランペイジ" ジャクソンが来場!

あの"ランペイジ"ジャクソンがプライベートで来場。大会後コメントを求めると、「『PRIDE』はやっぱり演出、試合内容すべての面で世界最高だな」と絶賛していたが、『PRIDE』復帰の可能性を聞くと「俺なんかいらねぇんだろ」と一言。

シウバがUFC王者リデルを大挑発! さらに来年2月のタイトルマッチも発表!!

セミ前にニューバージョンのテーマ曲に乗ってヴァンダレイ・シウバが登場すると、館内はもの凄い大歓声!「俺はここラスベガスにいるぞ! 逃げずに俺と闘え!」と、この日は「FIGHT」と「F◯CK」を間違えることなくUFC王者チャック・リデルを大挑発。さらに来年2月24日のPRIDEラスベガス大会ではミドル級タイトルマッチを行なうことも発表した。

"癒し系格闘技ファン" 獏さんも来場

おなじみ"癒し系格闘技ファン"作家の夢枕獏さんも、当然のように来場。「こういうのは現地で観ないとダメだよね～」という朗らか獏さん節は、砂漠の街ラスベガスにおけるオアシスのような心地良さだ。次号ではその獏さん節をインタビューで独占します!!

"あの" 煽りVTRがついに帰ってきた!

『PRIDE』になくてはならない心揺さぶられる煽りVTRがラスベガスで復活!! その選曲やヒョードルvsコールマンのコンセプト、そしてオープニングに桜庭vsホイスの映像を入れたところに制作者のこだわりが感じられた。

PRIDE

“本誌・編集次長”
松林貴のギャンブル大将!! in Las Vegas!

ラスベガスといえばカジノ!! というわけで、ラスベガスの主要カジノで、賭けの対象なった『PRIDE.32』ラスベガス大会。本誌編集次長の松林貴がチャレンジィ!?

小さい版型の『紙のプロレス』編集次長時代は、企画のためにドッグフードを食ったりしていた松林。隣は重量級ライター、橋本宗洋。バタービーンではない。念のため。

『PRIDE.32』ラスベガス大会　オッズ表
★……松林貴がベットしたもの

選手	オッズ
エメリヤーエンコ・ヒョードル	1.07倍
マーク・コールマン ★100ドル	10倍
マウリシオ・ショーグン	1.33倍
ケビン・ランデルマン ★150ドル	3.2倍
フィル・バローニ ★100ドル	1.25倍
西島洋介	4.3倍

[その他の試合のオッズ]

選手	オッズ
ジョシュ・バーネット	1.15倍
パウエル・ナツラ	5.5倍
ダン・ヘンダーソン	1.62倍
ビクトー・ベウフォート	2.3倍
中村和裕	1.12倍
トラヴィス・ガルブレイス	6.0倍
ロビー・ローラー	1.95倍
ジョーイ・ヴィラセニョール	1.8倍

丁か？ 半か？ 松林貴の賭け収支表

★ギャンブル大将の必勝ポイント
➡“筋肉三兄弟”流し

マーク・コールマン（10倍）に“100ドル”をベット!
➡100ドルの損失……

＋

ケビン・ランデルマン（3.2倍）に“150ドル”をベット!
➡150ドルの損失……

＋

フィル・バローニ（1.25倍）に“100ドル”をベット!
➡100ドル×1.25＝125ドル
➡25ドルの利益！

＜収支結果＞
損失「-250ドル」+利益「+25ドル」
➡225ドルの赤字!!

驚いたことに松林がベットしたのは、なんと筋肉三兄弟のみ。別覧のオッズ（ショーン・オヘアvsバタービーン戦は賭けの対象にならず）を見れば一目瞭然だが、勝算が薄かったケビンやコールマンは高倍率をマーク。単なる倍率目当てならダンベエ（＝金はあるが、博才ゼロの旦那の意）だが、「自分の賭けの中にストーリー性を持たせたかった」という理由だから〝ロマン派ギャンブラー〟の成せる業である。ちなみに賭けの最中、偶然にも本誌〝非常勤〟編集長の山口日昇から「筋肉三兄弟を賭けておいてくれない？」と電話あり。これは〝kamiproゲノム〟の成せる業……なのか。

結果は当たり前のように惨敗だったが、筋肉三兄弟の〝男泣き夕焼け番長〟劇場の炸裂に「いやあ〜、コールマンなんかに100ドルも賭けた自分をほめてあげたいよ」とご満悦の松林。

それでも負け分を取り戻そうとしたのか、ブラックジャックで100倍にしようと、バローニ戦の払戻金を受け取りにキャッシャーへ向かったところ、なんとスポーツ・ベッティングの換金受付時間外だって！「翌朝7時以降に来い」と言われたが、ホテルを早朝6時に発たないといけないため換金できず!! なんてこったい……。

バーロニの投票券を握りしめながら「人生ってのは、残酷なもんなんだ」——バローニの談話を思い出しつつ帰国したのであった。

“闘いのルーレット”は回り続ける！

ド速報の次は徹底検証！ 次号もPRIDEラスベガス大特集だ!!

ラスベガス➡『男祭り』は連鎖する！
あのPRIDEトップファイターたちを現地で直撃!!

必読！ UFC巨大帝国に再潜入!!
ダナ・ホワイト代表、UFCファイターが続々登場！

タイソンが出る、出ない、出る、出ない……（花びらをちぎりながら）

kamipro No.105
11月22日(水)に出ます!!
※あくまで発売予定。そのうえ地域によっては発売日が多少遅れるんです。

不安と逆境の王者の声を聞け!!

勝てるか!? 11.5『武士道』リベンジ戦直前!!

五味隆典

Takanori Gomi

「アウレリオは俺の光を消すものを持っている」

「いまのままでは勝てないなって」
11.5『PRIDE武士道』で実現する五味隆典vsマーカス・アウレリオのPRIDEライト級チャンピオンシップ。ご存じのとおり、王者・五味は6月の『武士道』でアウレリオの肩固めの前に屈した。五味にとって初の防衛戦となる同時に念願の復讐戦となるわけだが、今回の決戦直前インタビューでは、冒頭の発言が象徴するように“不安と逆境”を感じさせる、およそ五味隆典らしくない発言が続いた。王者の余裕の現われか？　念願のジム設立をはたして環境も激変、これが新しい五味隆典の自然体なのか？　それとも——!?

聞き手／ジャン斉藤　構成／松下ミワ
撮影／エアロスミス撮影で渡米中の菊池茂夫　試合写真／乾晋也
designed by matsu（TwoThree）

—五味さん！ まだ10月なのにちょっと気の早い質問になりますけど、五味さんにとってこの06年というのは、ここ数年とは比べて何か違った一年になったんじゃないですか？

五味 今年ですか？ んー、そうですねえ。やっぱり、いままで『武士道』で必死に這い上がってきた一年とはちょっと違いますよね。

—それは具体的にいうと、どう違うんですか？

五味 一昨年と去年は、とにかくひたすら成功することを考えていた二年間だったわけですけど。今年はそれとはまた違ってですね、地固めではないですけどジムに着手して慣れ親しんだ環境から飛び出して、っていうことをやり始めましたからね。やっている内容は何も変わらないんですけど、人生において大きな変化があった一年だなって思いますね。

—念願のジムを作ったりして、環境変化が大きなポイントになっていると。五味さんはジム生から、なんて呼ばれてるんですか？

五味 〝会長〟です。

—会長！ どうですか、その呼ばれ心地は。

五味 会長と呼ばれるのはちょっと早いような気がするんですけどねえ。でも、いまから知り合った子たちは「五味さん」とは呼ばないですね。どうしても距離がありすぎるというところがあるので、〝会長〟になってしまいますね。やっぱり会長だなあ。

—まあ、そうでしょうね。ジム経営のほうは順調ですか？

五味 いや、経営のことはまったく考えてないですよ！（キッパリ）。

—え？ まったく考えてないんですか！

五味 あそこは、ほぼ自分のプライベート練習場だと思ってるんですよね。

—でも、五味さんのジムの会員になりたいという人もいるでしょうし、見学者なんかも多いんじゃないですか？

五味 そうですね。でも、普通のジム経営みたいなやり方はしたくないんですよ。ただ、強くなりたいヤツが集まって、ただただ練習するという感じでね。

—普通だったら、有名選手を看板にしてジム生を増やしていくもんですよね。

五味 通常はそうですよね。でも、ボクとしてはジムに来る人には当たり前のように強くなることを望んでほしいし、当たり前のようにプロを目指すという気持ちでいてほしいんですね。それがボクのジムに入る第一条件です。

—気軽に入会できるジムじゃない、と。

五味 もう絶対に強くなる！ って人じゃないとダメかな。あとはまあ格闘技のベースのある人ですよね。この前、初心者の人が訪ねてきたんですけど、その人の熱意に押されて入会させてしまったんですね。でも、やっぱり長くて一ヵ月ってとこなんですよねえ……。

—初心者でも五味さんと同じ練習メニューをこなさないといけないんですか？

五味 そこまではやらせないですけどね。まあ、強くなる子は何しても強くなりますから。練習だって本人次第ですよ。

—五味さんは自分の練習を兼ねながら、ジム生の指導しているんですか？

五味 （即答で）やってないですよ。やるわけないじゃないですか。

—そ、そうなんですか（笑）。

五味 だって一番いい見本が目の前にいるわけですから。

—ああ、それはもう会長を見て覚えろ！

調印式でアウレリオと向かい合ったとき「ああ、これはまだ勝てないな」って

ということですよね。

五味 ほぼプライベート練習場ですから。

—でも、五味さん自身の練習状況は、以前とでは違うわけですよね。

五味 いやー、落ちてますね。いままでの慣れ親しんだ練習場所と比べると、それは落ちますよね。でもまあ始まったばっかりですから、焦ってもしょうがないですしね。仲良くやっていた仲間たちともちょっと距離を置いて、一人になってみたというところはあります。一人で上京して周りに頼る人がいなくなって、それでジムに来るアマチュアの子たちと同じ心理状況なんですよ。でも、自分はそういった巡り合わせといいますか、バイオリズムじゃないですけど、何年経ってもそういう経験をするんだろうなって思うこともありますね。

—ファイターとして、孤独に身を委ねている感じですね。

五味 まあ、一人寂しく原点を見つめてですね、格闘家のシンプルな生活というか、もともとはこうだったなっていうのを思い出しながらやってますね。だから、ジムに入会してくる方もまずそこですよね。テレビで観ている華やかな世界とは引き換えに凄く地味な作業があって、下積みがあって……。

—で、そこにはいろんな不安や誘惑があって。

五味 そう。そこですよね。格闘技を続ける、続けられないという悩みが出てくるのは。

—五味さんは格闘技を続けることに対して不安になったことはあるんですか？

五味 もちろん。大きな大会で負けたり、周囲の人をガッカリさせてしまったのを見て落ち込むこともありましたよ。でも格闘技をやめようと思ったことは一回もないですね。一回もない。もうやめたいというのは……ないですねえ。

—じゃあ、アウレリオ戦の敗北に関しても、落ち込むことはあったとしても、安易にやめるという発想は……。

五味 （さえぎって）まったくないですね！ リングに上がる、上がらないは別としても、〝練習する〟っていうのは、これはもうごはん食べるのと一緒ですから。

—ごはんを食べるのと一緒！

五味 そうしないと、身体のバランスもおかしくなりますし、これだけ激しいことをやっていると急にはやめられませんからね。ほかに打ち込むものが見つからない限り。

—五味さんが生きていくうえで必要な作業なんですね。『武士道・其の十二』の復帰戦はいかがでしたか？

五味 凄く緊張しましたね。やっぱりどんな相手でもメインである以上、同じ失敗はできませんしね。ですから、ずっとボクを見ている人の中には「いつもの迫力がなかった」と言う人もいますし、それくらい自分の中では慎重だったんですよ。

—それは意識しての慎重ですか？ それとも無意識？

五味 そのへんはよくわかりませんけど、失敗はできないという心境ですよね。

—ちなみに、デビット・バロン戦のセコンドは新しいジム生でしたよね？ かなり思い切った人選だなと思ったんですけど。

五味 自分自身もリフレッシュするつもりで変えてみたんですけど。一生懸命やってくれましたよ。いきなりの大舞台のバックステージで緊張はしたと思うんですけど。

—そりゃそうでしょうね（笑）。初めて

[PRIDE 武士道 -其の拾-]
○マーカス・アウレリオ vs 五味隆典×
(1R 4分34秒 肩固め)
同大会は興行としては可もなく不可もなしといった平凡なクオリティのままメインを迎えたが、最後の最後でまさかの五味陥落！ 圧倒的なドラマ性が噴き出し、おおいに語りがいのある大会となったのだ。語れてこそスーパースター！ さて、再戦はどうなる!?

のセコンド体験が『武士道』のメインイベントなんですから。

五味 でも、最近一番身近にいたのがジム生ですから、それも運命ですよね。ボクもこういうことをやっていいのか悪いのか、プロとしてどうなんだ？ っていうのはちょっとわからないですけど。まあ、それもリフレッシュの一つですから。

――で、その試合前の会見で五味さんは「俺と闘いたいヤツは試合後、リングに上がってこい！」と言われてましたよね。結局、誰もリングに上がってこなかったわけですが。

五味 まあ、そんなに元気がないならべつにいいや！ って感じでしたね。それに、あのときのお客さんもそれを求めるような雰囲気じゃなかったですし。客観的にお客さんが「どう考えてもメインの五味より強いじゃないか？」っていう選手がいたわけでもないですし。

――五味さんから見ても、そういう選手はいなかったと？

五味 そうですねえ。まあ、初参戦の（ギルバート・）メレンデスですか。彼は強かったですよね。日本人選手とはちょっと異質な感じでしたけど、メレンデスはまだ一戦目ですからね。

――では、チャレンジャーはアウレリオしかいないだろうと思ったわけですか？

五味 あー、そうですね。やっぱり負けた直後は再戦したいという思いもありましたし。石田（光洋）選手でもいいと思いましたけども。でも、石田選手はまだ『武士道』4戦目ですからね。やっぱり挑戦者って重みがあるのが一番じゃないですか。それを考えるとアウレリオというのは、ボクとほぼ同時期から参戦しているし、実際、ボクに土をつけましたし。

――五味さんからすると、アウレリオはタイトルに挑戦する重みがある、と。

五味 ただ、凄く不思議な気持ちなんですよねえ。タイトルマッチなんですけど、こっちが挑戦者のような気持ちなんですね。リベンジマッチと二つ重なってますし。それに、正直なことを言うとですね……。

――正直なことというと？

五味 まあ、『ｋａｍｉｐｒｏ』であまりシュールなことを言ってもしょうがないんですけど……。

――いやいや、言ってくださいよ（笑）。

五味 このあいだの調印式でアウレリオと向かい合ったとき、「ああ、これはまだ勝てないな」って思いましたね。

――……それはどういうことですか？

五味 やっぱり久しぶりの挑戦者ということもありますし、ボク自身、負けた相手と再戦するのは初めてですし。でも、本当はですね、彼が強い弱いじゃなくて、ボクは彼が苦手ですね。

――アウレリオが苦手！ それは柔術家だということではなくて、アウレリオ自体が苦手ということですか？

五味 相性が悪いですよね。ボクに対し

て、かなり光を消すものを持ってますよ。それに、ボクに対して凄く自信を持ってます。そんな顔つきでしたね。「おまえは俺には弱いんだよ！」っていう感じの余裕を持ってますね、彼は。だから、どうしてもボクがチャレンジャーになりますね……。

——いままで、そういう感覚に陥ったことってあります？

五味　ないです。どんだけ強い選手でも、殴り合ってやろうぜ！　って思います。だからイヤなタイプなんですよ。しかも、アウレリオ選手もほかの選手に負けることはあるけど、「おまえは得意だ！」っていう顔つきだったんすよね。

——でも、もちろん当日までにその気配を逆転させるつもりなんですよね。

五味　それはそうですね。いまって、昔ほど追い込むような練習をしてなくて、一つ一つのメニューを確実に消化してる感じなんですよ。だから、そういう自分の試合をしてみたいというのもあるんです。まあ、しっかり確実に練習をこなせば負ける相手ではないですからね。そう思ってます。

——ところで、五味さんのいまの目標って何になるんですか？　以前だと『PRIDE』のチャンピオンになる、あるいは『PRIDE』のエースになるっていう目標をもってここまでやってこられたと思うんですけど。

五味　いまの目標ですか。ま、これはですね、ほかの選手の前では口に出さないようにしてるんですけど、やっぱりボク自身、もう『武士道』二年目のGPに出たときの高揚感はないんですね。もう、いろんなことがありましたから。……（思いふけって）だからいまは、格闘家本来の姿に戻ってやっている感じはありますね。我慢のしどころのところがあるじゃないですか。

——なるほど。

五味　ですから……なんの話でしたっけ？

——目標の話ですよ！　いま、五味さんは何に向かって走っているのかっていう。

五味　ああ、そっか（笑）。目標は、ボクはいい30歳を迎えたいというのが目標ですね！

——いい30歳！（笑）。

五味　ボク、そういうふうにしか見てませんね。勝った負けたは、全然考えてません。

[PRIDE 武士道 -其の十二-]
○五味隆典 vs デビッド・バロン×
（1R 7分10秒 裸絞め）
修斗欧州ミドル級王者を迎え、再起戦を図った五味。危なげない試合運びで終始バロンを圧倒。次回大会の挑戦者はアウレリオか、石田光洋に絞られたが、五味は大会翌日の会見でリベンジ戦を希望した。

——具体的に30代の理想像って誰かいますか？

五味　ま、ダメージがまったくないってことはちょっと無理ですけど、まだ格闘技を続けられる状況で、納得いく試合をやっていくと。そういうふうになるといいですね。……そういえば、ボク、今日から杉並区民になったんですよね。

——また突然話が変わりましたね（笑）。どうですか？　杉並区民になった感想としては。

五味　まったく動かなくなりますねえ。飲みに行くときは吉祥寺がいいんですよね。吉祥寺と久我山も急行で一駅で、自転車でも動けますから。だから、かなりね、一つの島にいるかのような感じです。

——渋谷や新宿に出なくても、吉祥寺でたいていは事足りますよね。

五味　そうですね。……（眉間にしわを寄せて）で、なんの話でしたっけ？

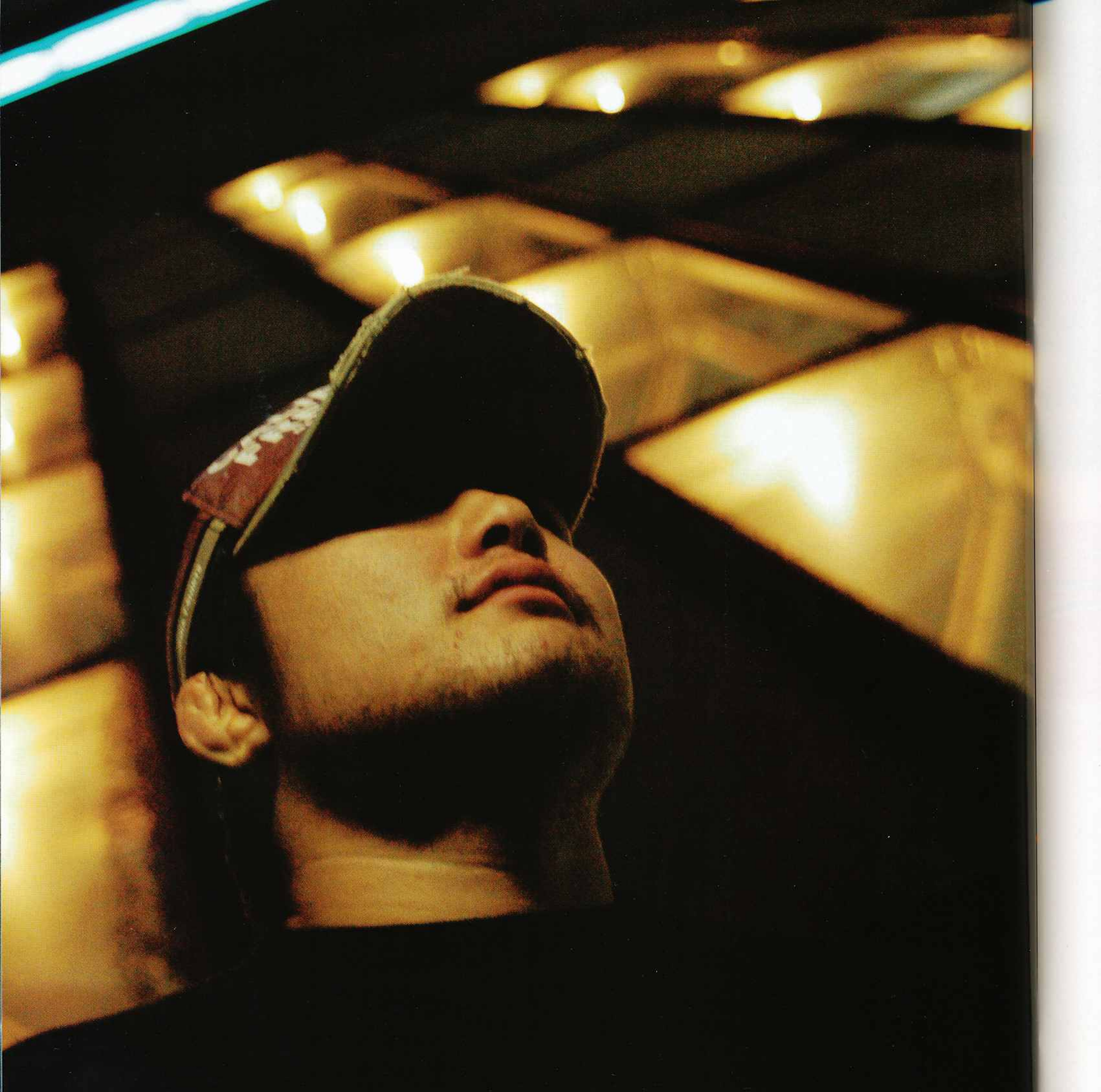
——え〜っと、杉並区民話ですけど、ボクが聞きたいのは目標の話です（笑）。

五味　あ〜。なんでそんな話になっちゃったんだろう（笑）。だから、いい30代というのは、まず現役であることですよね。

——選手生活を長く続けたいと。

五味　そうですねえ……。あとはですね、目標というか、試合が終わったら南の島に行きたいですね（笑）。

——死闘の末にはささやかな夢が待っていると（笑）。アウレリオ戦、期待してます！

[06年10月10日／後楽園飯店にて収録]

チャンピオンはボクだけど、精神的にはチャレンジャーですよね

ごみ・たかのり■1978年9月22日、神奈川県出身。第5代修斗世界ウェルター級チャンピオン、初代PRIDEライト級チャンピオン、PRIDEライト級GP2005チャンピオン。PRIDE戦績12戦11勝1敗。173cm、72.8kg。

“五味の天敵”が堂々の完勝宣言!

マーカス・アウレリオ

Marcus Aurelio

「五味の闘い方はすべてわかっている もう僕は王者になったようなものさ」

PRIDEライト級王者、五味隆典の初防衛戦の相手はやはりこの男に決定した。4.2『PRIDE武士道 其の拾』で五味に肩固めで一本勝ちという、殊勲の星を挙げたアウレリオ。この大番狂わせは、単なる金星にとどまらず、寝技という五味の弱点を露呈することによって、“絶対王者”は“絶対”ではないことを示し、PRIDEライト級戦線を再び戦国時代に戻す役目もはたす大きな一勝だった。はたして五味はこの“天敵”を破り、再び政権を強固なものとできるのか? はたまた、もろくも崩れさってしまうのか?

聞き手&撮影/堀江ガンツ　試合写真/乾晋也
designed by hisa(TwoThree)

——さきほど、PRIDEライト級タイトルマッチのファン公開調印式を終えたばかりですが、ああいったファンの前での会見や、街中での写真撮影というのはどんな気持ちでしたか?

アウレリオ　今日のイベントは凄くよかったと思うよ。ファンと直接触れ合えたこともよかったし、ボクと五味のために集まってくれたことも嬉しかった。五味はちょっとナーバスになってたみたいだけど、ボクは気が楽だったよ(笑)。

——その気持ちが楽というのは、今回の対戦についてもリラックスしているということですか?

アウレリオ　そうだね。自分がいま何をすべきか、自分の目標がなんであるかを明確にして、それに向かっての準備が順調にできているから、そういったこともあって落ち着いているんだ。

——今回の対戦オファーはいつ頃あったんですか?

アウレリオ　たしか3週間ぐらい前だったと思う。試合までだいたい約二カ月あったから、フィジカル面、技術面ともに完璧に仕上げる時間があるので、11月5日は間違いなくベストな姿をお見せすることができるよ。

——では、もうすでに五味戦へのトレーニングプログラムは、かなりいい段階まできているということですか?

アウレリオ　そうだね。この試合について大事なことは、まずフィジカル面で完璧に身体を作ることなので、この3週間しっかりと体力を作ることに専念してきたんだ。あとは技術的なトレーニングをしながら絞り込むだけ。すでに7割ぐらい仕上がっているから、そういったこともあって落ち着いているんだ。

——では、4月に行なった前回の五味戦以上の仕上がりでリングに上がるのは間違いない、と。

アウレリオ　それは間違いない。しかも、五味に対する研究はずっと続けているから、彼の闘い方についてはほとんど知り尽くしていると言ってもいい。今回のトレーニングも対五味用のプログラムを組んでいるので、対策は万全だよ。

——アメリカン・トップチーム(ATT)総出で五味対策をやっている感じですか?

アウレリオ　もちろんそのとおりだね。全員からサポートしてもらっているよ。他のチームメイトも違う大会で大きな試合を控えているので、いまはチーム全体が凄く活気に満ちているんだ。

——『HERO'S』に参戦しているJ・Z・カルバンとは同じチームですけど、一緒にスパーリングすることもあるんですか?

アウレリオ　彼とはほとんど毎日のようにスパーリングしているよ。目指す

J・Zとは毎日のようにスパーリングして お互い刺激し合って強くなっているんだ

じようにチャンピオンに近い位置にいるので、お互い刺激し合いながら、強くなっている感じだね。

――ちなみにJ・Zとは練習ではどちらが一本取る回数が多いんでしょうか？

アウレリオ　う〜ん、その日にもよるけどね（笑）。グラウンドではやっぱりボクのほうが経験が上だからね。でも、J・Zは打撃もフィジカルも強いし、最近凄い勢いで成長をしている才能ある選手なので、間違いなく彼は『HERO'S』のチャンピオンになると思うよ（このインタビューの二日後、J・Zは宇野薫を破り『HERO'S』ミドル級王者に）。

――最近のATT所属選手の活躍は目を見張るものがありますけど、この充実ぶりはどこからきていると思いますか？

アウレリオ　僕たちが5年前からやってきたことの成果が、ようやくいま出てきたんだと思う。

――他のチームとの違いというのは、どこにあると思いますか？

アウレリオ　具体的に話すことはできないけれど、ATTは選手がプロ意識を高く持ち、一流のコーチがしっかりと仕事をしてくれる。そういった強くなるための当たり前のことができているから強い選手が生まれるのだろうし、それをやっていないチームはいい結果を残せないのだと思う。

――ATTには一般ジム会員みたいな人はいるんですか。それとも全員プロの集団なんですか？

アウレリオ　もちろんアマチュアもたくさんいるし、プロもたくさんいる。ATTではA、B、Cという3つのクラスに分かれていて、Aはプロ、Bは中級、Cはデビュー前というかたちで、全部で40〜50人の選手がいるんだ。

――五味選手は最近、自分のジムを開いて、自分の弟子と練習する機会が多いんですけど、大勢で練習するATT所属選手からすると、五味選手のような練習環境をどう思いますか？

アウレリオ　実際に五味がどういったトレーニングをしているのかわからないのでなんとも言えないが、選手というのはみんな何が自分にとってベストなトレーニングなのか模索しているものなんだ。だから、それが五味にとって、ベストな練習ならそれでいいし、ジムをオープンしたのなら、成功してほしいね。

――五味選手は前回アウレリオ選手に一本負けしたことで、グラウンドで下になったときの対処が"唯一の"弱点だと言われていますが、アウレリオ選手から見るとほかにも弱点はあると思いますか？

アウレリオ　たしかにグラウンドで下になった体勢が五味の弱点ではあるけど、それだけでなく彼の弱点はグラウンドそのものだと思う。

――グラウンド全般が弱点ですか⁉

アウレリオ　そう。上だろうが下だろうが、寝技でいる限り、彼は安心できないはずだ。もちろん五味は最高のストライカーであり、パンチの強さは世界トップクラスだとは思うけど、そういった面でつけいる隙はある選手だと思う。

――まぁ、五味選手も前回寝技でやられているので、今回はテイクダウンを凄く警戒してきて、なるべく寝技にならないようにすると思います。それに対してどういった対策を練っていますか？

アウレリオ　対策というか、自分としてはどんな局面になったとしても対応できるように準備しているんだ。もちろん今度の試合は打撃が中心になることも予測しているので、そのためにもATTのムエタイコーチに厳しいトレーニングを受けているので問題ない。そのコーチも五味の試合ビデオを全部観て、彼の打撃をすでに研究済みなので、打撃戦になっても自信があるよ。

――ATTはもともと柔術のイメージが強いチームですけど、デニス・カーンやJ・Z・カルバンなど、打撃の強い選手が増えています。やっぱりいまはチーム全体として打撃に力をいれているのでしょうか？

アウレリオ　そのために新しい打撃コーチを入れたわけだしね。それプラス、ヒカルド・リボーリオの柔術トレーニング、そしてフィジカルにも力をいれている。それぞれの分野で一流のコーチングを受けられることもATTの強さだと思う。

――では、半年前の五味戦とはまったく違ったアウレリオ選手が見られるかもしれませんね。

アウレリオ　スタイルがガラリと変わることはないけど、すべての面でランクアップしたものをお見せする自信はあるよ。

――五味選手は4月の敗因を「大晦日に勝ったあと、遊びすぎた。舐めすぎた」と言っているんですが、そういった発言についてどう思いますか？

アウレリオ　たしかに前回は本来の五味ではなかったのかもしれないけれど、それは言い訳にすぎない。ボクだって6月の石田戦は急なオファーで練習不足で負けてしまったけど、それはそんな状態でオファーを受けて、当日までに万全に仕上げられなかった自分の責任なんだ。だから前回は前回として、11月5日はぜひ本来の力を出してもらいたいと思う。今回は五味も自分も準備する時間がたっぷりあるからね。今度こそ本当にどちらが強いかがわかるはずだ。

――五味選手の復帰戦となった8月の試合はご覧になりましたか？

アウレリオ　もちろん観たよ。あの試合も五味がストライカーとして強いところを見せたと思うし、それと同時にグラウンドについては相変わらず下手クソだなと感じたね。

――下手クソですか（笑）。

アウレリオ　だからグラウンドにおいては五味は以前と変わってない。でも、ボクは以前より強くなっている。それがわかっているからこそ、100パーセント勝つ自信がある。もうボクはチャンピオンになったようなものさ。

【06年10月7日／都内・DSE事務所にて収録】

4.2『武士道其の拾』では、"絶対王者"五味に肩固めで一本勝ちする大番狂わせを見せたアウレリオだったが、6.4『武士道 其の十一』では逆に石田光洋にまさかの判定負け。アウレリオにとっても次のタイトルマッチは真価を問われる闘いとなる。

Marucus Aurelio■1973年8月18日、ブラジル・セアラ州出身。9歳から柔術を始め95年にはホイラー・グレイシーを破る殊勲の星を挙げる。04年『ZST・GP』では今成正和、レミギウスらを破り優勝。今年4月には五味隆典に『PRIDE』で初の黒星をつけた。178センチ、72キロ。

PRIDEウェルター級GP優勝候補

デニス・カーン

Denis Kang

「世の中には多くの困難と苦しみがある。私はかならず立ち上がる！」

破竹の勢いで『PRIDEウェルター級GP』制覇の機運が高まっているデニス・カーン。しかし——決戦直前にデニスのもとに“悲劇”が訪れてしまった。極貧の生活から脱して、栄光をつかみかけたデニスに何が起こったのか？　知られざるデニス・カーン物語を読め!! そして乗れ！

文／大川“隊長”義之　撮影／乾晋也　designed by hisa（TwoThree）

極貧からの栄光、そして訪れた婚約者の死——。この悲劇にどう打ち克つか？

デニス・カーンが日本のリングに初めて上がったのは、2000年のことだった。まだ格闘技界でまったく無名の新人時代にパンクラスに来日したデニスは、初戦でいきなりエース格の鈴木みのると対戦。この日本デビュー戦でデニスは見事に勝利を収めて注目を浴びたが、翌年、渋谷修身、山宮恵一郎という若手との闘いには連敗。

それ以降、日本のマットから姿を消した。当然、デニスは日本の格闘技ファンからも完全に忘れ去られた存在となった。

しかし、05年に再び来日して『PRIDE武士道』シリーズに参戦したデニス・カーンは、驚くほどに穴のない強力なファイターとなって帰ってきた。パンクラスで最後に試合をした01年から、日本再上陸する05年までの4年間に、彼はどのような格闘人生を歩んできたのだろうか——。

ターニングポイントは韓国への転戦

パンクラスから呼ばれなくなったあとも、デニスはプロファイターとして闘い続けていたが、勝ったり負けたりの試合を重ねており、真剣に「引退」を考えたこともあったという。

しかし、徐々に試合経験を積んでいくうちに、総合での実力も高まり、03年には5連勝と1引き分けの成績を収め、ADCCニュースでも80キロ以下級の選手としてベスト10に選ばれるまでになった。だが、それでも食べていけない極貧の生活は変わることはなかった。

当時のデニスは、エアコンなしの廃車寸前の中古車に乗り、柔術を教えるだけでは生計は成り立たず、さまざまなアルバイトをして暮らしていた。多くの格闘家がやるようなナイトクラブのバウンサーはまだましなほうで、いまからは想像もつかないが、観光ガイドや電算要員としても働かざるを得なかったという。

「チャンチュン体育館（注釈1）に来るたびに多くの思い出がよみがえる。ここで試合をしたときが、私の人生のターニングポイントだった」

韓国人の父、フランス人の母のあいだに生まれたデニスは、幼い頃から『混血児』として胸の痛む経験も多く、14歳のときに父が一人で韓国に帰国し、デニスは捨てられたようなかたちになっていた（注釈2）。しかし、04年の初め、そんな父の母国である韓国に主戦場を移すことが、デニスの格闘技人生において決定的な転機となる。

コリアン・ドリームの実現

03年に韓国で初の総合格闘技団体である『SPIRIT　MC』（以下SMC）が旗揚げしたことは、デニスにとっても一つのチャンスだった。韓国内にはSMCを引っ張っていける選手はいなかったため、看板となるスター選手を欲していた。そして海外で活動する「韓国系」ファイターをリサーチしたところ、デニス・カーンが引っかかったのである。

デニス・カーンは、SMC側が願った以上の活躍を見せ、04年にはインターリーグ（注釈3）のヘビー級王者になり、05年には初代無差別級王者となった。同時にSMCの所属選手として専属マネージメント契約を結び、スターマーケティング戦略に乗って、韓国で頻繁にコマーシャル放送されるスポーツ商品のモデルにもなった。これによって一般メディアへの露出も増大し、ようやく経済的不安のなくなったデニス・カーンは、SMCの大会を通して父とも再会し、精神的な安定も手に入れた。

デニスとSMCのマネージメント関係は良好であり、『PRIDE』進出の足がかりをつかんだのも、SMCの功績である。つまり、デニスは父の母国に主戦場を移すことによって「コリアン・ドリーム」を実現さ

GP終了後、デニスは婚約者との挙式とハネムーンの準備をしていた……

せたのである。

デニスは04～06年の3年間に、韓国で計8試合をこなしているが、意外にも厳しい試合はほとんどない。強豪といえる相手としては、パンクラスで野地竜太に勝利しているコブス・ハイサマン、GRABAKAの山宮恵一郎に勝利しているキム・ジェヨン、CMA誠ジムの濱田順平などだが、デニスはそれぞれ圧倒的な強さで勝利している。8試合の平均試合時間も約1分39秒と、デニスが韓国で得たものは「強豪との対戦による経験」ではなく、むしろ「圧倒的な強さ」で試合に勝つことによって、ゆるぎない自信を得たことだろう。

パンクラス時代のデニスを知る記者が05年に韓国へ取材にやってきたときも、あまりのデニスの変貌ぶりに「パンクラス時代はオドオドビクビクしていたのに、いまでは傲慢なほどに自信がついている」と驚いたほどだ。ファイターとしてゆるぎない自信は、大きな「能力」の一つであることは言うまでもないだろう。

またデニスは技術面での向上を図るため、05年の暮れに世界一環境の整ったアカデミーであるアメリカン・トップチーム（以下ATT）に移籍している。デニスのグラウンドの進歩はもちろん、打撃の練習もATTのトレーナーであるハワード・デイビスJr.（注釈3）の指導によって飛躍的に成長している。ちなみに、この移籍はATTの所属選手であり、デニスのフィアンセでもあるシェルビー・ウォーカーさんとの遠距離恋愛を解消する一石二鳥の移籍でもあった。

01年以降、目立った怪我もなく、安定して技術を蓄積できたデニスは、この時期に『PRIDE』で飛躍する準備を着実に備えていったのである。

順風満帆なデニスに新たな苦難が……

地味だったデニス・カーンの印象も、『PRIDEウェルター級GP』で強烈なKO勝利を重ねてきたことによって大きく変わった。GPも残すところ優勝まで二試合となったが、いまやデニスはパウロ・フィリォと並ぶ堂々の優勝候補である。ダン・ヘンダーソンやムリーロ・ブスタマンチよりもコンプリートな選手としての呼び声も高く、精神的にも安定したデニスに死角はないかに見えた。

Denis Kang

しかし、好事魔多し——。

前述のデニスのフィアンセ、シェリー・ウォーカーさんが、なんと9月24日に鎮痛剤の過剰服用によって亡くなったのである。

故シェルビーさんは、プロボクシング（7勝6敗1分6KO）やMMA（3勝3敗）にも取り組んだ美人プロファイターで、デニスとは03年にマサチューセッツ州で開かれた『USMMA』大会にともに出場したときに知り合った。デニスが移籍したのは偶然ではなく、スパーリングパートナー不足に悩むデニスを見て、ATTを紹介したのが彼女だったのだ。シェルビーさん自身もATTでは打撃指導も務め、デニスとはトレーニングを通して苦楽をともにしてきた間柄であり、単なる「婚約者」以上の存在であった。

『PRIDEウエルター級GP』一回戦は、あのムリーロ・ニンジャを瞬殺！　二回戦はブスタマンチを下したアマール・スロエフをレフトハンド・チョークで一本勝ち！デニスがスロエフの首を締めると、顔の傷口から血が噴き出すというショッキングな結末だった。

二人は、ウェルター級GPが終わったあとに挙式とハネムーンの準備をしていたというから、デニスの悲しみの深さは計り知れない。

実際、シェルビーさんが死去したあと、デニスの親しい知人は「デニスは精神的に大きな衝撃を受けており、途方に暮れている」と語り、しばらくは誰からの電話も受け取らずふさぎ込んでいたようだ。

その後、韓国の消息筋によると、柔術の師であり、デニスの父親代わりでもあるマーカス・ソアレスがカナダから駆けつけてデニスに付き添い、徐々に冷静さを取り戻し始めているという。デニスは「彼女の死で、大きなショックを受けた。いまはもとの自分を取り戻そうとしているところだが、非常に苦しく、困難な時期であることは否定できない。世の中には多くの困難と苦しみがあるが、私はかならずまた立ち上がってまたトレーニングを再開するだろう」という、自分に言い聞かせるようなメッセージを韓国のファンに発している。

ファイターとしてピークを迎えようとした矢先に、デニスに与えられた大きな悲劇——。かくも劇的な舞台を用意した神は、意地悪なものである。果たしてこの艱難をデニスは越えることができるのだろうか？

悲劇が訪れる前のGP二回戦でアマール・スロエフを下した翌日、デニスはインタビューでこう言った。

「闘いにおいて、私が一番集中している瞬間というのは、レフェリーが『レディ？』と促して、そして相手だけを見据えて向かっていくときです。そのときは、凄く静かに〝禅〟の気持ちが自分のなかに広がっています。私は禅のすべてを知っているわけではないですけども、いくつかの禅の原則には従っているからだと思いますね。それによって迎えるあの瞬間は、自分と相手がいるだけという感じです。この地球上で——」

ウェルター級GPで、我々は人間デニス・カーンが、どのようにこの困難と向き合って、打ち克ったかを見ることになるだろう。

［注釈1］ソウル市内にある室内競技場。収容観客数は1万人。多くの格闘技団体が大会を開く聖地となっている。

［注釈2］父がカナダを離れた理由は公式に明かされていないが、一説によるとデニスの父は韓国で事業を始めたため、カナダと韓国を行ったりきたりしていたが、韓国で事業に失敗。借金を多く抱えたため、出国禁止の措置にあったことが原因とされている。

［注釈3］パンクラスのネオブラッド・トーナメント的な新人の登竜門的大会。韓国では「デニスの参戦は、それ自体が反則」と言われるほど、圧倒的な実力で優勝。この大会以外にも、デニスは『SPIRIT MC』の無差別級GPに出場。一日で3試合を消化して優勝するなど、トーナメント慣れしている点も、『PRIDEウエルター級GP』では有利に作用するだろう。

［注釈4］カーウソン・グレイシー系の柔術家で6段。ソアレスは1997年にバンクーバーに自身のアカデミーを開き、デニスはそのオリジナルメンバー。ATTに移籍後も、デニスとの関係は良好であり、重要な試合には彼がセコンドにつく。現在もデニスがカナダに戻るときは、彼のアカデミーでトレーニングを続けている。

Denis Kang■1977年9月17日、韓国出身。パンクラス、韓国、ロシアM-1などのリングで活躍。05年4月、『PRIDE』に初参戦。PRIDE戦績は5戦全勝。11・5ウエルター級GP決勝ラウンド一回戦では郷野寛聡と対戦する。180センチ、82・8キロ。

米進出を狙うPRIDEに
新たなライバル出現!?

敵はUFCだけじゃない!!

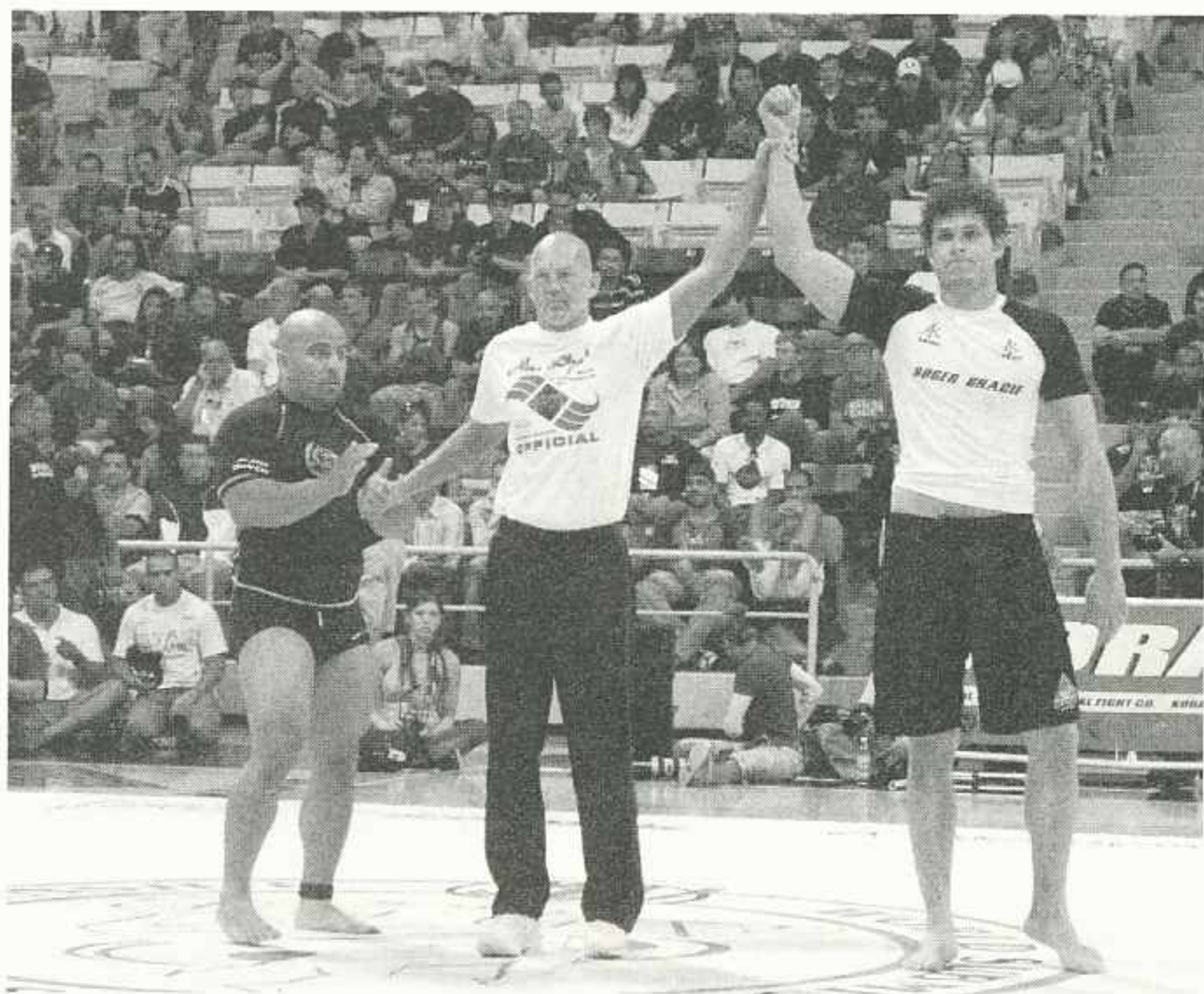
～アメリカ格闘技界の新勢力・MFCとは何か?～

MFC代表ミゲル・イトゥラテ氏

アメリカ進出において、これまでUFCばかりに対抗意識を抱いていたように見えていた『PRIDE』だが、アメリカの格闘団体層はまだまだ厚かった！　ホジャー総合初参戦で話題を呼び、さらにはヒョードル獲得疑惑まで浮上させた注目の格闘技イベントMFCは、いま莫大な資金を持つスポンサーを手に入れ、格闘技界の勢力図を塗り替えるかのような勢いを秘めている。そんな可能性にあふれるMFC代表ミゲル氏に格闘技界における目論みをうかがった（……のだが）。

聞き手／須羽ミツ夫　構成／松下ミワ　designed by nogu (Two three)

ホジャー・グレイシーに続き
今度はヒョードル獲得か!?

MFCとは、アメリカの格闘技イベントで04年10月に第一回大会を行なっている新興の団体。そのリングには、『PRIDE武士道』などで活躍するあのヨアキム・ハンセンやイーブス・エドワーズ、日本からはZSTのエース小谷直之も参戦している。アメリカの格闘技イベントといえば日本ではUFCばかりが話題になっていたが、MFCはアメリカで最も成功したといわれるオンライン・カジノ会社bodogとスポンサー契約を結んだことで、その周りは急に慌ただしくなる。MFCの起動力の肝になっているbodogは、代表のカルビン・エアー氏が6年前に始めたオンライン・カジノによって10億ドルもの富を築いた大金持ちの会社で、現在はその資金をもとにレコード業界などほかのビジネスにも手を広げ成功。MFCが注目されるきっかけとなったのは、やはりホジャー・グレイシーのMMAデビューという話題だが、それもこのbodogの資金力によるところが大きいといわれている。またbodogはケーブルテレビをも買収しており、今年の9月からMFCと協力して『bodog FIGHT』という名のリアリティショーの放送を開始。リアリティショーといえばUFCが人気を爆発させるきっかけとなった『TUF』を第一に想像するが、『bodog FIGHT』は参加者それぞれの私生活をも追うドキュメンタリータッチの映像で放送されており、12月に開催予定のリアリティショーの決勝大会では、MFCのコネクションを使って、16人の中から選ばれた4人とレッドデビル勢との対抗戦が行なわれる予定になっている。さらに、その番組には、なんと！　ヒョードルがゲスト出演するというから格闘技界は騒然!!　一部では、bodogの巨万の富をもってMFCがヒョードルの獲得を狙っているのか、という疑惑も浮上しているが、真相はいったい……。

“寝技世界一決定戦”の戦場であるアブダビコンバットで05年に99キロ級、無差別級の二階級制覇を成し遂げたホジャー・グレイシー。そのポテンシャルの高さから、MMA参戦への期待がおおいに高まっていたのだが、なんと12月の大会でMFCがついにホジャーの総合デビューを実現！　相手は熱血男、ドン・フライだー!!

——最近、いろいろと話題騒然のMFCについて、日本のファンもその実状を知りたがっています。まずミゲルさんは、MFCの立ち上げから関わっているんでしょうか。

ミゲル　たしかにMFCには、立ち上げから関わっているね。それまでにも僕は8年間ほど、『フックンシュート』（※アメリカ・インディアナ州を拠点とする格闘技イベント。かつては修斗と提携し活動していたが、02年12月13日フロリダ大会から修斗と袂を分かつ。横井宏考が南東部ライトヘビー級初代王者に輝いたこともある）などでマッチメイカーを務めていたんだ。昔からいろ

bodogはアメリカのあらゆる格闘技団体からMFCを選んでくれたんだ

んなローカル団体に関わっているんだけど、どこもなかなかスポンサーがつかなくて、団体がなくなったりと不安定だった。その中で、MFCが一番、信頼に足る団体だったんだ。そこのスポンサーから立ち上げのときに要請があって、マッチメイカーに就任したんだよ。

——立ち上げからUFCをかなり意識していたんでしょうか。

ミゲル　これまで関わっていた団体でも、UFCに選手を持っていかれる……というと、言い方が悪いかな。ファイターたちが卒業して（笑）、UFCに活躍の場を求めることが多々あったんだ。だからUFCに対しては、実際あまりいい感情は持っていないんだけど、UFCに対抗するにはやっぱり潤沢な資金が必要だからね。いずれはMFCも、誰もがUFCのライバルと認めるような位置づけになるまで育てていきたいとは思ってる。だけど、現状ではまだ難しいというのが正直なところだね。これから、状況は変わってくると思うけど。

——UFCと比べると、現在のMFCはどれほどの規模なんでしょう。

ミゲル　いままでは比べることができるようなものではなかったけど、bodogというオンライン・カジノの会社がスポンサーについて、『bodog FIGHT』『MFC』という名前でウェブ展開も含めてやり始めたところなんだ。bodogという会社はそのためのメディアを持ってるわけだからね。これは言わば、MFCにbodogという強力なステロイド剤を注入したようなものでね（笑）。そういう流れで、MFCもUFCに対抗できるようになってくると思うよ。

——それは、スタンダードなMMAの大会だったMFCが、ウェブコンテンツ向け、テレビ収録用中心のやり方に変わってくるという意味でもあるんでしょうか。

ミゲル　必ずしもそういうことじゃないんだ。MFCはこれまでと同じように、大会を開催していく。12月にも大きな大会が予定されているしね。チケット収入やPPV収入で利益を上げるという部分は、団体の基本として変わらないんだ。そしてbodogはデジタルメディアに精通した会社だから、MFCの知名度を高めるために『bodog FIGHT』という番組を作ったりウェブサイトを作ったりという側面で協力していく。たしかにbodogは大きな会社だし、資産はもの凄い額を持ってる。だけど、bodogがファイト部門だけにその大部分を使うというわけじゃないからね。まあでも、これから数年間にわたってMFCがbodogと一緒にやっていくとしたら、僕の理想では18ヵ月以内ぐらいに、みんながもっとMFCや『bodog FIGHT』を意識しないといけないようになるだろうね。bodogは設立10年ぐらいの若い会社なんだけど、何を決めるにも非常にアグレッシブで、スピーディーなんだよ。

——ミゲルさん自身もbodog同様、アグレッシブそうな印象を受けますが？

ミゲル　いやいや、僕はそんなにアグレッ

シブじゃないよ（笑）。マッチメイカーというのは裏方の仕事だからね。忍耐が必要だし、名声を得るようなこともない。名声を得るべきなのは選手のほうだろう？　僕はそれでいいと思っている。どこかの大会の誰かさんみたいに、やたらとオクタゴンで自分の姿を見せるようなことは絶対にしないよ（笑）。

——そもそも、MFCとbodogが提携した経緯は？

ミゲル　まあ僕はマッチメイカーで社長じゃないから、知ってる範囲でしか答えられないけど、bodogのカルビン・エアー会長という人はいろいろと手広くやってる人物で、音楽や映像などいろんなメディアを持ってる。それであるとき、UFCのイベント中にオンライン・カジノのCMを流したら、効果があったらしくて手応えを感じたらしいんだよね。それで、アメリカのさまざまな格闘技イベントの中からいろいろ検討した末に、信頼できるパートナーということでMFCを選んでくれたみたいだ。

——MFCのどういうところが評価されたのでしょう。

ミゲル　凄くいい質問だ。一年ぐらい前から、bodogは格闘技の団体と手を組むためにいろいろ調べてたらしい。その中にはもちろんUFCも含まれてたんだけど、最終的に彼らはMFCを選んだ。だけど、実際の理由はよくわからないんだよな（笑）。

——そうですか（笑）。

ミゲル　まあ自慢するわけじゃないんだけど、MFCはほかのローカル大会と比べたら、大会規模も出場選手もハイエンドでクオリティという部分では申し分ない。加えて、僕のマッチメイカーとしての手腕も評価してもらえたんじゃないかと思ってるんだけどね。

——それはけっこう、自慢ですよね（笑）。

ミゲル　ただ、bodogとしては、大きな団体と組むのではなくて、中間規模のところを考えていたのかもしれない。そのほうが何かと事業がやりやすいからね。これから数年間のうちにMFCを足がかりとして、完全に自分たちのMMAイベントを構築しようという目論見があるのかもしれないけどね。

bodogが全米で放送している格闘リアリティーショー『bodog Fight』では、なんと“ミスター・60億分の1”エメリヤーエンコ・ヒョードルがゲスト出演！　さらにMFCはレッドデビル勢とも友好関係にあるというから、一部ではヒョードル移籍疑惑も噂されたのだが……。ミゲル氏は本インタビューでキッパリ否定。

——そう聞くと「乗っ取り」のような印象を受けかねないですが、ミゲルさんとしては、そうなってもいいんでしょうか？

ミゲル　まあ、僕はどんなかたちになってもマッチメイカーとしての仕事をするだけだから。これまでいくつかの大会を渡り歩いてきたけど、この仕事ではよくあることだしね。MFCが丸ごとbodogに買い取られて、その中で仕事をすることになったとしても、それはまったくかまわない。ただ、みんなbodogという名前が耳慣れないし若い会社だからそういうふうに言うんだろうけど、たとえば自分が関わっている団体が『ソニーファイト』になることになったら、ノーというヤツはなかなかいないだろ？（笑）。

スター選手に高い金を払うより
選手を育てていくほうが先決だね

——そりゃそうですね。さて、日本のファンのあいだでは、MFCでホジャー・グレイシーが総合デビューすることが話題になっています。ホジャー選手といえば、総合転向が待ち望まれていた柔術界のホープですからね。そのホジャーがデビューの場にMFCを選んだ理由はなんだったのでしょう？

ミゲル　僕はヘンゾ・グレイシーとは長い友だちでね、ヘンゾは僕のことをブラザーって呼ぶんだ（笑）。だから……ってのは冗談としても、まあ、僕はADCC（アブダビ・コンバット・チャンピオンシップ＝アラブ首長国連邦のタハヌーン王子が主催する、グラップリングの世界大会）にも9年間、関わっている。その中で当然、グレイシーとの付き合いもあるからね。もちろん、彼らと付き合うのは一筋縄ではいかないということも、それなりの金を用意しなきゃいけないこともわかってるさ。これまではその資金がなかったから選手の招聘なんてとても考えられなかったんだけど、bodogがついてくれることになって、彼らが望むであろう金額を提示することが可能になった。それで、自分からグレイシーにアプローチしたんだ。

——もう一つ、MFCはレッドデビルともつながりが深いですよね。エメリヤーエンコ・ヒョードル選手も番組やイベントに登場しているので、「ヒョードルが近い将来、MFCのリングに上がるのでは？」という憶測も流れています。

ミゲル　ヒョードルは『PRIDE』の契約選手で、間違いなく現在、世界のトップファイターだよね。自分たちはレッドデビルの選手たちを大会やリアリティショーに出しているし、そのマネージメントを通じてヒョードルには、「bodog FIGHT」というリアリティショーのコーチというかたちで登場してもらってる。彼も番組を通じて、アメリカで名前を売りたいという希望があるから、その部分で協力し合ってるよ。

——将来的には、ヒョードルをMFCのリングに上げたい？

ミゲル　上げたいのはたしかだけど、彼が闘うとなると相手を見つけるのは難しいよ。皆殺しにされちゃう（笑）。まあ基本的には、自分は世界中から強い選手を見つけてくるのがbodogから課された僕の仕事

敵はUFCだけじゃない!!

なんだけど、彼は間違いなくいまがピークだから、彼が上がれるタイミングを待っているあいだもトップ選手でい続けられるかどうかはわからない。ｂｏｄｏｇがいまと同様についていてくれるのかもわからないんだけど……（笑）。すでにスターになっている選手をどこかから高い金を払って連れてくるよりも、次のスターを見つけてきて育てていくことのほうが先決だろうね。いま現在のスターを引っ張ってくれば手っ取り早く話題にできるのかもしれないけど、次のスターを育てることはそれ以上に大事なことだと思うね。

――もう次のスターの候補がいろいろいるんでしょうか？

ミゲル　うーん……少なくとも一人はいるよ（笑）。ホジャーも候補の一人だけど、まだ総合デビューだしね。素晴らしい選手だけど、やってみて経験を積んでみないとわからないだろう。

――日本では、『ＰＲＩＤＥ』がｂｏｄｏｇにスポンサーになってくれるよう頼んできて、断わられてしまったという噂が流れていますが……。

ミゲル　本当の話だ。これもボスじゃないからなんとも言えないけど、まあｂｏｄｏｇのところにはいろんな団体が来て、その中には『ＰＲＩＤＥ』もいたのは事実だ。それで話し合いをしたんだけど、条件が折り合わなかったということさ。

――『ＰＲＩＤＥ』と提携しなかった団体が、新興団体のＭＡＲＳと手を結ぶということに、正直言って日本のファンは驚くと思うんですが。

ミゲル　時系列に沿って見るとＭＦＣがｂｏｄｏｇと提携したのは、ＭＦＣとＭＡＲＳが提携したあとだからね。ｂｏｄｏｇが『ＰＲＩＤＥ』とＭＡＲＳを比べたという話ではなくて、両団体が手を結んだあとに、たまたまｂｏｄｏｇの話が来たというだけなんだ。

――日本の総合マーケットについてはどんな認識を持ってますか？

ミゲル　驚かされるのは、『ＰＲＩＤＥ』やＫ－１といった格闘技イベントが地上波で無料放送されて、国民に広く認識されていること。アメリカでＵＦＣが人気といっても、地域差もあったりするし、全体的な知名度でいったらここまでではないからね。その点では日本という国は、格闘技ビジネスに関しては大きなマーケットだと思うよ。

――実際にＭＡＲＳの大会を3回、生で見たと思いますが、印象は？

ミゲル　ｂｏｄｏｇ、ＭＦＣという名前を日本のファンに認知させるために、ＭＡＲＳはいろいろやってくれた。それは凄くありがたかったね。我々スタッフが日本に来たときにも、いろいろ準備してくれて、手厚くもてなしてくれた。だから凄く感謝しているよ。いろいろと整備していかないといけない点もあるだろうけど、まだ立ち上がったばかりでこれからのイベントだからね。まだ一年経ってないということを考えれば、まったく問題ないと思うよ。

エリック・ニコルズ（ｂｏｄｏｇのメディア担当）　我々はデジタルエンターテイメントがメインの会社で、ＭＦＣとの提携に当たっても大きなビジネスにするべく、何年も先を見据えてのビジョンをもとにいろいろなことを展開しています。先ほどミゲルが言ったとおり、ｂｏｄｏｇがＭＦＣと提携したのはＭＦＣとＭＡＲＳの提携のあとです。場合によってはｂｏｄｏｇが提携の話をするときに、「ＭＡＲＳはこの話から外してくれ」ということもあり得ますよね。でも、それはｂｏｄｏｇのやり方ではないんです。実際に接してみて、ＭＡＲＳが信頼に足る、いい会社だとわかりましたしね。だから我々としては、日本のマーケットも含めていろんな展開ができるよう、三者でいい話ができればと思っています。

――10・4新宿大会は『ＭＡＲＳ　ｂｏｄｏｇ　ＦＩＧＨＴ』と称された最初の大会で、「ＭＡＲＳチャレンジ」というトーナメントがあったり外国人同士のカードがＭＦＣ主導でマッチメイクされていたわけですが、手応えのほどはどうでしたか？

ミゲル　逆に聞くけど、見てどう思った？

――エキサイティングな試合が多くて、非常にいい大会だったと思います。

ミゲル　ありがとう（笑）。まず第一に、ｂｏｄｏｇという名前がさらに認知されたということに関して満足している。そして……そう、普通10試合あるＭＭＡの大会だと、本当にいい試合は一つか二つだと思うんだ。だけど、あの大会では自分が見た限り、少なくとも3つはあった。それに、「ＭＦＣチャレンジ」として行なった70キロのトーナメントも、どれもいい試合だった。そちらの日本人選手、韓国人選手の人選はＭＡＲＳサイドに任せたんだけど、どの選手も精一杯闘ってくれた。トーナメントの優勝者（準決勝、決勝は12月予定のＭＡＲＳ次回大会で開催予定）は来年2月のＭＦＣ本戦に出られるようになっているんだけど、誰が勝ち上がってもいい試合をしてくれると思う。その点でも、大会全体にかなり満足しているよ。

――これからはＭＡＲＳと、どのように展開していきたいと考えていますか？

ミゲル　まあ当面はトーナメントの決勝もあるし、来年2月にはまたＭＦＣのチャンピオンを参戦させたいと思ってる。そうしていく過程で、今後のことを考えていければいいね。

――『ｂｏｄｏｇ　ＦＩＧＨＴ』では女子選手にも力を入れているんですか？　現在

7・21『MARS ATTACK 01』のリング上でMARSとの提携にサインをしたミゲル氏。この“MFCのブレーン”と天野さんはいったいどんなことをしようと目論んでいるのか!?

MARSには感謝している。MFCの名をファンに広く認知させてくれたからね

敵はUFCだけじゃない!!

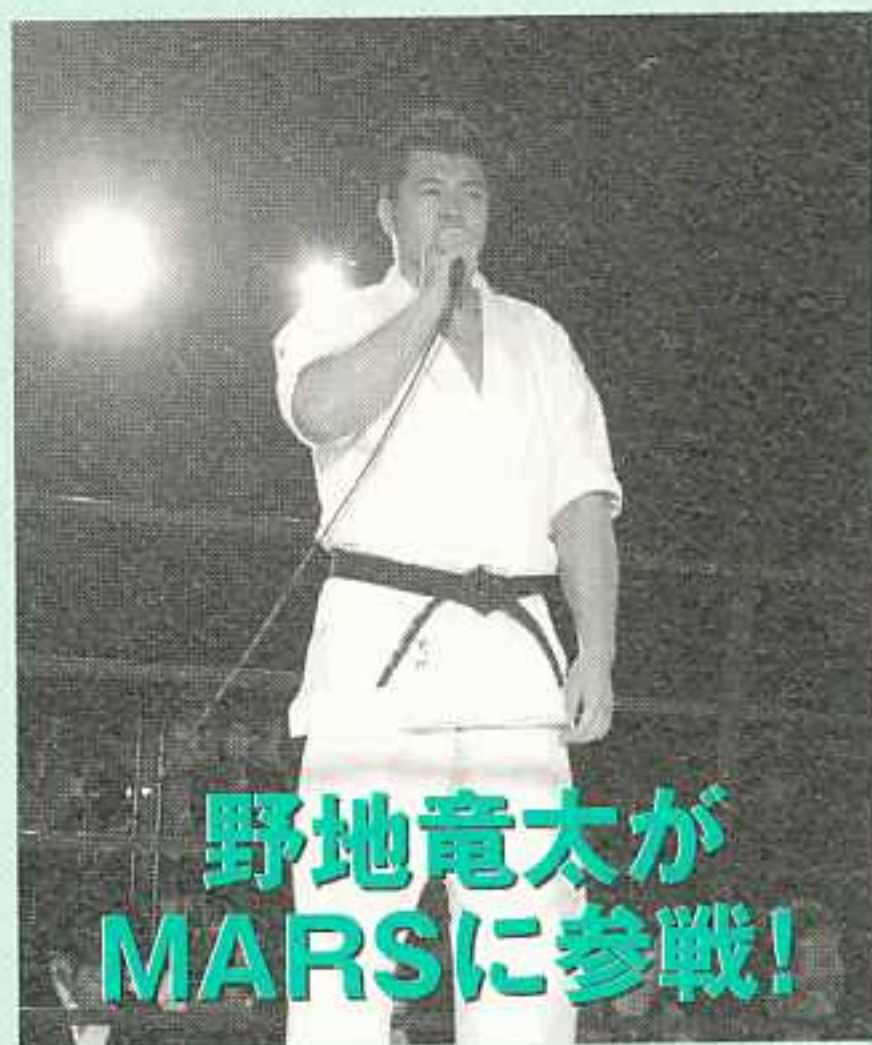
の第1シリーズでもアマンダ・ブキャナーvsタラ・ラローサの試合が行なわれていますよね。
ミゲル　そうなんだ。戦略的に女子の試合も重要視している。まず、UFCとの差別化という理由が一つ。UFCは絶対に女子の試合はやらないだろ？（笑）。それに、リアリティショー『bodog FIGHT』第一弾のラインナップを検討していたとき、女子の試合が入ることにいい顔をしない人間がいたのも確かなんだけど、やってみたら彼女たちはもの凄くいい試合をしてくれたんだ。それこそ、全部のラインナップの中で一番の試合をね。だから日本人選手も含めて、女子の試合には今後も力を入れていくつもりだよ。
――『bodog FIGHT』という番組自体は、リアリティショー形式という点でやっぱりUFCの『TUF』を意識したものなんですよね？　ヘタすると、パクリと言われかねないと思うのですが。
ミゲル　意識してないと言ったらウソになるだろうけど、bodogのウェブサイトから放送済みの番組をダウンロードできるから、それを見てもらえれば、ただの二番煎じじゃない、ってことはわかってもらえると思うよ。だいたい、そのへんのアンチャンたちが学生のパーティみたいに寄り集まって練習するのを見て、おもしろいか？（笑）。『bodog FIGHT』はその点からして、コンセプトがまったく違うんだよ。すでに基本のできているプロのファイターを、そのプロフィールからバックボーンを含めてしっかりと取材しているからね。だから、視聴者はそのファイターのことをよく理解して見ることができる。いま見られるシリーズではコスタリカで試合をしているんだけど、そうやって集まった選手たちがエキゾチックなシチュエーションで試合をして、本戦出場目指して勝ち上がっていく様を見せるのが基本コンセプトなんだ。学生のパーティを見せたいわけではなくてね（笑）。だから、「エキゾチックなシチュエーション」の一環として、今回は東京を舞台にしたというわけだよ。新宿大会に出場した選手たちについても、シークレットマッチのぶんも含めて、バックボーンをいろいろと取材している。選手の家まで行ってね。
――それが放送されるのも楽しみですね。さてMFCとしては、最終的にはどういうビジョンを持っていますか？
ミゲル　ほかのスポーツだと、みんなが認識してる年間スケジュールみたいなものがあるよね。アメフトなら、スーパーボウルは1月末か2月頭。メジャーリーグなら、ワールドシリーズは10月。WWEでも、レッスルマニアは4月とか。そんなふうに、「MFCのビッグイベントは○月」って国民の誰もが認知するようなイベントになるといいなと思ってる。
――その頃には、ミゲルさんは大金持ちになってるわけですか。
ミゲル　いやぁ、僕は会社員だからどうかなあ（笑）。

【06年10月5日／都内某ホテルにて収録】

衝撃！ ネットカジノ規制に米ブッシュ大統領がGOサイン!!

MFCミゲル氏の景気のいい話に「MARSはよかったねえ～（猿さん調）」と幸せな気持ちに浸っていたところ、まさかのニュースが乱入！　なんと、アメリカで「ネットカジノ」を規制する法案が、10月13日ブッシュ大統領の署名をもって成立してしまったのだ。大丈夫か、bodog！　ただ、アメリカ国外に拠点をもつ企業を取り締まるのは難しく、bodog代表のカルビン氏も事前に危険を察知していたのか、会社自体はコスタリカに登記しているらしいが……。MFC、そしてMARSの夢は早くも崩れ去るのか!?

10・4『MARS bogod FIGHT 01』 新宿FACE大会フラッシュバック!!

MFCのスポンサーであるbodogからの強い要望で急きょ開催されることになった『MARS bodog FIGHT 01』新宿FACE大会。本大会では、あのホジャー・グレイシーが総合デビューするMFCへの出場権を賭けて、日本・韓国のファイター8人が闘う「MFCチャレンジ70キロトーナメント」の一回戦が行なわれた。また、その他にもbodogが全米で放送している格闘リアリティショーの出演者らも参戦し、どちらかというとMFC色満載の大会となってしまったのだが……、その中でも本大会で一番輝いたのは、MARS4戦目であるソン・オンシク改めトルネード・ソン。トルネード・ソンといえば、『HERO'S』にも参戦経験があり、MARSでは〝東洋の神秘〟矢野卓見までも退け、いまだ負けなし状態。今回もあのヨアキム・ハンセンやユノラフ・エイネモが所属するチーム・スカンジナビアの強豪マテウス・ラーデスマキが相手だったのだが、ソンはマテウスが仕掛ける三角、腕十字をうまくすり抜け、逆転のチョーク！　こんな選手がMARSにいるのはなんとももったい……いやいや、素晴しいことだ!!　なお、「MFCチャレンジ70キロトーナメント」の準決勝・決勝は12月開催予定なので、この優勝者がMFCで大爆発する前に、しっかり見ておこう！

野地竜太がMARSに参戦！

「10月の両国では大物を投入します！」と自信満々だった天野氏がMARSのリングに引き込んだのは、なんとアノ野地竜太だった!!　久々に上がったリング場で野地は感慨深げにマイクした。

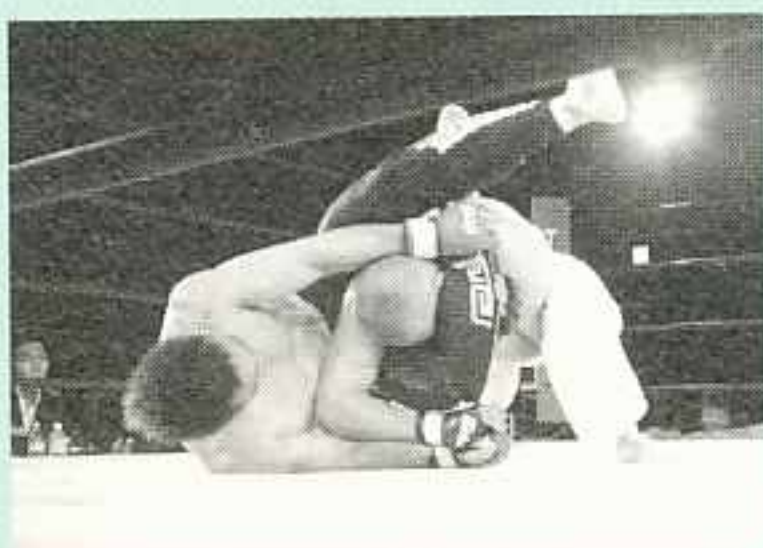
トルネード・ソン完勝!!

○トルネード・ソン vs マテウス・ラーデスマキ×
[1R 3分38秒 チョークスリーパー]
すでにMARS常連ファイターであるトルネード・ソンが本大会も完勝！　ヨアキム・ハンセンと同じジムに所属する強豪マテウス・ラーデスマキを完璧なチョークで仕留めた。

MFCチャレンジ-70キロトーナメント一回戦

10月8日上井ステーションへの参戦が決定していた毛利昭彦が延長ラウンドでキム・ヨンスにギリギリの判定勝ち。果敢に打撃で向かってくるヨンスをなんとか凌いでみせた。

○毛利昭彦 vs キム・ヨンス×
[延長 判定1-0]

両者ともMARS初参戦の試合だったが、初戦は坪井に軍配。坪井は奥山からテイクダウンを奪うと、下から三角、さらに腕十字を狙い、そのまま時間をかけてしぶとく極め、一本勝ちを収めた。

○坪井淳浩 vs 奥山健太×
[2R 2分21秒 腕ひしぎ十字固め]

藤井軍鶏侍あらため藤井克久をセコンドに据えて登場した割田だったが、グラウンドになるとみるみるうちにドヒョンにポジションを奪われ、腕十字。二回戦にコマを進めたのはドヒョンとなった。

○キム・ドヒョン vs 割田佳充×
[1R 2分43秒 腕ひしぎ十字固め]

田村潔司の弟子であるU-FILE CAMPの西内は、前半バックを取られ試合をコントロールされるも、2ラウンド後半で挽回。一瞬のスキに大塚の首に腕を回し一本！　大逆転勝利を収めた。

○西内太志朗 vs 大塚隆史×
[2R 3分05秒 チョークスリーパー]

10・4『MARS bodog FIGHT 01』成功でますます絶好調!!

ボク、歌いたいんですよねえ。

この調子で……、ええ!? 今度はCDデビュー?

MARSエグゼクティブプロデューサー

天野勇気ののほほん癒し系インタビュー

～読んだあなたは、きっと幸せな気分になれる～

殺伐としたこのマット界に唯一"癒し"があるとするならば、それはMARS天野さんのインタビュー以外にほかはない!! 2月の旗揚げ戦からみるみる"ゲノム"が削ぎ落とされ好調ぶりを発揮しているMARSだが、それもこれも、天野さんの癒しパワーが働いているからなのだ! そんな天野さんの次なる目論みとは? 幸せな気分に浸りたい人は必読ダーッ!!

構成／松下ミワ designed by nogu (Two three)

――天野さん! いきなりですけど、MARSのテーマ曲はいったいどうなったんですか!?

天野 ……はあ。テーマ曲ですか?

――そうですよ。8月の両国大会後、「いま、MARSのテーマ曲を作ってもらってるところなんですよ」というお話をしてたじゃないですか。もしかしたら今回の『MARS bodog FIGHT 01』で披露されるのかと思って、私はもの凄～～く楽しみにしてたんですけど。

天野 ああ(冷静に)。

――「ああ」って、もしかしてたら忘れてたんですか?

天野 いやいや、もうちょっと待ってください。完成までもうちょっとかかりそうですね。制作段階ではあるんですけど、なかなか上がってこなくてですね。それに、どんな曲が上がってくるのかボク自身想像がつかないですし……。

――想像がつかないんですか!

天野 はい。得てして、もしかしたらダメということもあるかもしれないですしね。

――そういえば、そのテーマ曲は"歌入り"なんですよね。

天野 歌、入れたいんですよ(力強い表情で)。ボク個人は入れたいんですけど、ただ周りは大反対なんですよね。困ってるんですけど。

――歌を入れるとしたら、やっぱり天野さんがマイクを握るんですか?

天野 もちろんです(即答で)。ボク、歌おうかなと思ってます。でもね、やっぱり歌が入っちゃうとマズイですかねえ～(腕を組みながら)。

――どうなんでしょうねえ(腕を組みながら)。

天野 どう思います?

――天野さん自身はやはり歌いたいんですよね?

天野 (即答で) ええ。ボク、歌いたいですね。

――じゃあ、歌いましょう!

天野 歌いたいなあ(遠い目で)……。

――ところで天野さんって、普段はどういう歌を聴くんですか?

天野 ボクですか? ボクはねえ……あんまり音楽聞かないんですよ(キッパリ)。

――えっ!? 歌いたいというわりには、人の歌は聴かない(笑)。

天野 歌うのは好きなんですけどね。

――じゃあ、カラオケで得意な歌とかは?

天野 カラオケですか? 曲名はわからないですけど、どっちかって言えば、やっぱりバラード調のほうが好きですね。

――じゃあ、MARSのテーマもバラード調になりそうですか?

天野 あ～～、エンディングとかにはいいかもしれないですよねえ。

――エンディングテーマも期待してます(笑)。それで今回、行なわれた『MARS bodog FIGHT 01』の感想を聞かせていただきたいんですけど。

カラオケですか? 曲名はわからないですけど どっちかって言えばバラード調のが好きですね

天野 まあ、今回はMFC側からのお話で本当に急に大会が決まったわけだったんですけど、その中で、非常に国際色豊かでいい大会になったのがよかったなというところですね。

――両国大会は「50点!」という評価をされてましたが、今回の点数は?

天野 まあ、55点ですかね(淡々と)。

――5点アップ!

天野 やっぱりそれなりに手応えがありましたから。

――だから5点もアップしたと。

天野 ええ、まあ。でも、ウチだけの力であればあんな大会は開けなかったのが現実だと思うんですけど、うまくコラボしたことによってあそこまでもっていけたというのは凄く満足していますね。

――日本の団体とアメリカの団体が協力して開催するっていう、ああいうような形式の大会ってなかなか異例なわけじゃないですか。実際に開催する上でも非常に大変なこともあったと思うんですけども。

天野 ええ、まあ。

――どの面で一番苦労されましたか?

天野 (眉間にしわを寄せて)それはやっぱり、時差の問題でしたね。

――時差の問題が一番!

天野 ええ、大変でしたよ。真剣に考えましたし。

――天野さんは「時差とは何か?」を考えたわけですね(笑)。

天野 はい、本当に。情報交換をするうえで、時差のせいでなかなか事がスムーズに進まないというのが非常にあったんですけど、それも作業をやっていきながら今回だけでも徐々

に改善された部分もあるんで、もうちょっときっちり詰めた中でやっていければもっといい大会になると思いますよね。

――いい選手も集まってますからね。たとえば、MARSの常連ファイターであるトルネード・ソン選手なんかは非常におもしろい選手の一人じゃないですか？

天野　そうですね。昨日も本当にいい試合をしてくれたんじゃないかなと思います。

――ちなみに、彼は今回から〝ソン・オンシク〟から改名しての登場になりましたよね。

天野　それに関してはもう本人の意向ですから。ソン選手については本当の実績というのはこれからだと思うんですけど、やっぱりあれだけの選手ですからね。どんどん売り出していきたいなと思ってるスター候補の一人ではあるんですよね。ただ、そうするとちょっと〝ソン・オンシク〟っていうんじゃインパクトに欠けるんじゃないですかね。

――では、より印象づけるための改名だったと。

天野　そうなんですけどねえ……。

――え？　違うんですか（笑）。

天野　いや、〝トルネード〟というのが本人のイメージに合うか合わないかという点では、ボク的には〝はてな〟なんですけどねえ。

――天野さんからすると、どうもイマイチだと？

天野　ええ、まあ。しかし、昨日の試合であの内容だったんで、まあ、アリなのかなあと思ってはいますけど（仕方なさそうに）。

“トルネード”というのが本人のイメージに合うかという点ではボク的には“はてな”なんですけどねえ

――かなり納得いってない表情ですね（笑）。ところで、10月の両国大会の話ですが、今回はまた金原弘光選手だったり、桜木裕司選手だったり、いつものMARSに比べると、これはかなり仕掛けてきたなというような雰囲気を感じるんですけれども。

天野　これは8月の両国大会でも言わせていただいたんですけど、あの大会はMARSを旗揚げして初めて多少の手応えをつかめた大会だったんですね。それを受けての10月大会ということですから、83キロトーナメントを継続するという意味でも、まあ10月大会っていうのは周りの関係者の方もそうでしょうし、凄く期待してもらってる部分もやっぱり感じるんですよ。

――天野さんは周囲の期待を大きく感じてるわけですね。

天野　なので、僕の中では金原選手なり、桜木選手なりにオファーをかけさせていただきました。そうすると、全体を見たときに、やっぱり新しいファンにも受け入れてもらえると思いますし、昔からのファンも見ていただけると思うんですよ。そういう部分でこのラインナップを揃えてみたんです。

――参戦発表会見で金原選手自身が言われてたんですけど、今回はDEEP佐伯代表からお話があったということなんですよね。

天野　ええ、そうです。

MARS天野氏は、将来の可能性に満ち満ちているというMFCと、数カ月前、先を見計らったかのようにちゃっかり提携。MFCの膨大な資金をもとに、今後も大会場興行健在ダー!! 本誌締切には間に合わなかったが、10.28MARS両国大会もきっと成功しているはず！

――以前、MARSと佐伯さんというのはちょっとしたトラブルなんかもあって、一時は「MARSを潰す！」というような過激な発言が佐伯さんの口から飛び出したということもありましたが、現在の関係というのは？

天野　選手のこととかに関しては協力いただいてますね。日本人のブッキングにしてもなんにしても、ボクらはなかなか経験もないですし、業界に入って日が浅いということで正直難しい面がある中で、佐伯代表に協力いただいたというか。まあ以前いざこざはあったんですけど、ちょっと正面向いて話をして、生意気ですけどボクらも逆に協力できることがあれば、そういうかたちにもっていけたらなと思ってます。

――ということは、佐伯さんとは友好的な感じですか？

天野　友好的だと思います。……佐伯さんはまだ探ってる部分があるかもしれないですけど（苦笑）。

――佐伯さんって『PRIDE』ともつながりを持っていらっしゃるじゃないですか。将来的なことを言うと『PRIDE』の選手がMARSに上がったりする可能性もあるわけですよね。

天野　いや、どうなんですかねえ（脱力気味に）。

――そういう構想はありませんか。

天野　まあ昔から言ってるように、MARSのリングにはいろんな選手を上げていきたいとは思っていることなんで、もちろん『PRIDE』さんの選手なんかも上がってもらえるチャンスがあるならば、やっぱそれはお願いしたいなと思いますし。

――しかしそう考えると、bodogの話といい両国のマッチメイクの話といい、何かしらMARSにはいい風が吹いているように感じるんですけども。

天野　どうなんですかねえ（再び脱力ぎみに）。

――あんまり、いい風、吹いてないんですか？（笑）

天野　いやー、流れは来てるのかなとは思いますけどね。試合自体は凄くおもしろい大会が続いているので、そうすると疲れが飛ぶじゃないですか。だから終わった瞬間にホッとしましたねえ。

――もう、時差の問題もぶっ飛んじゃいますよね。

天野　だからまあ、次もこんな大会になるように、10月、12月、2月ですか。そこまではMFCとのプランも立ってるので、一応そういう予定にはしています。

――いや〜、そう考えると、やはりMARSの未来は非常に明るいじゃないですか！

天野　どうなんですかねえ……。

――とにかく期待しています！（笑）。

【06年10月5日／都内某ホテルにて収録】

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA COOL 宅急便 Vol.7

聞き手／デューク東郷　助手／上杉ボンジュール

PROFILE
Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「もともと語学に興味がありまして、いろんな国の言葉に興味があります。具体的には言えません」。

PRIDEアメリカ進出の裏側

PRIDEラスベガス大会に二つのショーをぶつけてきたUFC。この号が出る頃には決着がついているだろうが、はたして両陣営はどう相まみえたのか？

――今回は縮小版だから、駆け足で！

スコット　アンタが無駄口を叩かなきゃいいだけだよ！

――さっそくだけど、『PRIDE』を迎え撃つUFCの状況はどんな感じ？

スコット　ケン・シャムロックvsティト・オーティズの最終決戦が行なわれたUFNは、スパイクTVで3・1パーセント（『TUF』の平均的な視聴率の約2倍）という凄い視聴率を引き出したよ。

――そんなに注目を集めたのは、ケンシャムの引退が懸けられていたから？

スコット　とはいっても、コアなファンはべつに興味持ってなかった。しかも、今回の試合内容は3ヵ月前の試合と同じ展開。インサイドガードからのパウンドでレフェリーストップ。ダメだ、こりゃ！

――観るべきものはなかったわけだ。

スコット　それに引退といっても、それはあくまでUFCサイドの打ち出しであって、シャムロックはただ「UFCから引退します！」と言っただけ。

――新日本プロレスでやった馳浩のファイナル・ノーザンライトみたいなもんだ。

スコット　そのたとえはよくわからないけど、ケンシャムはIFLへ転戦すると囁かれているんだ。

――ところで、PRIDEラスベガス大会ド直前のUFC64で弘中邦佳や岡見勇信といった日本人選手の試合が組まれた背景には、日本のファンの関心を『PRIDE』からUFCに移そうという狙いがあるという見方があるんだけど。

スコット　それはないね。大会が増えて慢性的にタレント不足のUFCは、日本から選手をブッキングする機会が増えているんだ。もし日本人ファンを意識するのなら、『PRIDE』のトップファイターを引き抜いたほうが手っ取り早い。

――ラスベガス大会前だけど、『PRIDE』とUFCの関係はどうなの？

スコット　じつは舞台裏ではちょっとしたハプニングがあったんだ。あるラジオ番組に『PRIDE』の全米PPVを製作しているジェリー・ミレン氏が出演したんだけど、放送中にダナ（・ホワイトUFC代表）が電話をかけてきた！

――そんなところで直接対決！

スコット　そこで両者は、立ち消えになったヴァンダレイ・シウバvsチャック・リデルの一戦について議論した。というか、喧嘩だね（笑）。

――それでダナが「よし！　押さえろ!!」って吠えて、東京ドーム決戦確定したってわけだ!!

スコット　それは新日本プロレスvsUWFインター全面戦争のときの話だろ！　こっちはミレンが「オクタゴンでアナウンスした試合をどうしてやらないんだ？」って問いつめたら、ホワイトは「ヤツらは日本でテレビ放映を失なったんだ。で、こっちで大会をやるから選手を貸してくれって。ふざけんな！」って感じさ。

――噛み合ってないね、話が。

スコット　ちょっとダナはどうしようもなかったなあ。そういえば、ダナはティト・オーティズとボクシングマッチをするという話もあるんだ。

――はあ？　なんで？

スコット　UFNの放送でもティトが言っていたんだけど、ボクシングの非公式戦をやってPPVで流すそうだ。しかもだよ！　どうやら、ボクシングの経験があるダナは、ティトに勝つ気でいるんだ。

――それはぜひ観たい!!　けど、メディアパワーで膨れあがると、どうしてもそっちの路線に流れてしまうのは日本もアメリカも変わりないんだなあ。

スコット　とにかくダナは話題には事欠かない男だよ。PPV件数でもWWEの『レッスルマニア』を破ったし、これで試合をやったら本当にビンス（・マクマホン）を超えるよ。

――榊原代表や谷川社長にも、この勘違いぶりはぜひ見習ってほしいね（笑）。

スコット　試合は10月中に行なわれるとも言われているから、どうなったかはまた来月号で。ではサヨナラ!!

【10月11日／国際電話にて収録】

UFC試合結果

Ultimate Fight Night 7
因縁の抗争終結! シャムロック引退!?

10/10(現地時間)
『UFN7 Ortiz vs. Shamrock 3 最終章』
米国フロリダ州セミノル／ハードロック・ホテル

○ティト・オーティズ
[1R2:23 TKO]
ケン・シャムロック×
※パウンド

これまでの遺恨に決着をつけるべく、向かい合った両者。試合はまたしても一方的なティトペースで終わったが、シャムロックが「(二人の抗争劇は)全部ビジネスだったのさ。オレとオマエは大金を稼いだんだ」と試合後ティトに話しかけると、二人はシャイクハンドし、お互いをたたえ合った。シャムロックはUFCでの引退を表明。ティトは次戦で、リデルの持つライトヘビー級王座を狙う。

○ネイサン・マーコート [2R 1:15 裸絞め] クラフトン・ウォレス×
○ティアゴ・アルベス [3R 判定] ジョン・アレッシオ×

Ultimate Fighting Championship 64
フランクリン、王座陥落!!

10/14(現地時間)
『UFC64: UNSTOPPABLE』
米国ネバダ州ラスベガス/マンダレイベイ

【UFCミドル級タイトル戦】
○アンデウソン・シウバ(挑戦者)
[1R3:50 TKO]
リッチ・フランクリン(王者)×
※パウンド

【UFCライト級王者決定戦】
○ショーン・シャーク
[5R 判定]
ケニー・フロリアン×

ミドル級タイトル戦では、UFC本戦初登場のアンデウソンが、ケガから復帰したばかりのUFC無敗の王者・フランクリンの顔面にヒザを叩き込んで1RTKO勝ち。また、5年ぶりに復活したライト級タイトルの王者決定戦では、ウェルター級から転向したシャークが『TUF』シーズン1の卒業生フロリアンを打ち破ってベルトを巻いた。

○岡見勇信 [3R1:40 TKO] カリブ・スターネ×
○ジョン・フィッチ [3R 判定] 弘中邦佳×

USAニュース宅急便！

土俵際のWFAがヒーリング獲得に成功!!

今年7月、『PRIDE』を離脱したクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンをメインイベンターに起用し、ロス近郊で復活大会を行なったWFA。集客に苦戦し、いきなり存続の危機に立たされていたが、12月9日に4ヵ月ぶりの大会をかつてのホームタウンであるラスベガスで開くことになった。会場は、現在、プラネット・ハリウッドに改装中のアラジン・ホテル。約5000人収容可能で、大会の模様はPPVでも放映される。今回の目玉は、日本でもお馴染みのヒース・ヒーリング。また、UFC出場の噂が立ったランペイジも継続参戦となる見込みだ。

クレイジーホースが誘拐容疑で逮捕？

『PRIDE』で五味隆典、川尻達也といった強豪から、金子賢まで闘ったチャールズ・〝クレイジーホース〟・ベネットが誘拐容疑で逮捕？　フロリダ州マリオン郡保安官事務所が公表する受刑者情報によると、ベネットと同じ生年月日で、名前や身体的特徴が同じ人物が、誘拐・監禁・暴行容疑で逮捕され拘留中とのこと。なお、保釈金の金額は65万ドルという高額に設定されている。

ショック！ TUF一期生のボナーにステロイド反応!!

8月26日のUFC62に出場し、『TUF』同期生のフォレスト・グリフィン相手に激闘を演じたステファン・ボナーが試合後に行なわれたドラッグテストによりステロイド反応が出たことが判明した。ネバダ州アスレチック・コミッションによると、ボナーは公聴会に出席することを義務づけられ、その審議により、3～12ヵ月の出場停止処分もしくはUFC62で得たギャランティである1万6000ドル以上の罰金（最高額は25万ドル）を科せられることになる。ボナーは、そのややぽっちゃりした体格からステロイドとは無縁のファイターと思われていただけに、関係者・ファンのあいだにショックを与えている。

マーク・ケアーが今度こそ復帰!?

04年2月に行なわれた『PRIDE・27』で山本宜久の〝魔性のDDT〟に敗れて以来、試合から遠ざかっていた元〝霊長類ヒト科最強〟のマーク・ケアーが再度、復帰戦に挑む。ケアーは今年の5月にACFデンバー大会でウェス・シムズとの試合が組まれていたが、計量を終えた後、痛めていた拳を気にして、試合直前になってキャンセルしていた。11月2日のIFLポートランド大会で『TUF』二期生のマイク・ホワイトヘッドと闘う。

10.9『HERO'S』総括&『Dynamite!!』への大提言!!

言うちゃ悪いけど今月の直言!!

『Dynamite!!』に向けて中国、モンゴル、南米の山奥から"第二のホンマン"を発掘せよ!!

プロレス・マスコミの"生きる伝説"

I編集長の喫茶店トークラウンド

『週刊ファイト』は休刊となっても、ますます元気なI編集長の喫茶店トーク。今月のテーマはもちろん、10.21PRIDEラスベガス大会と言いたいところですが、締め切りの都合で、インタビュー収録は大会前。というわけで、今回は10.9『HERO'S』の総括と、一足早い『Dynamite!!』への妄想大提言をお送りします!

聞き手/堀江ガンツ　designed by bun-chan (Two Three)

I編集長とは?

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳を越えたいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ。

——さて、井上さん。今回のテーマはですね、もちろん10・21ラスベガス！　……と、いきたいところですが、締め切りの都合で10・9『HERO'S』の総括をしていただきたいと思います。

井上　まぁ、キミんとこの締め切りなら仕方がないけどね、ベガスを抜きにして、プロ格闘技は語れませんよ、アンタ！

——ええ。ですから、次号でたっぷりとうかがわせていただきますので……『HERO'S』横浜アリーナ大会はいかがでしたか？

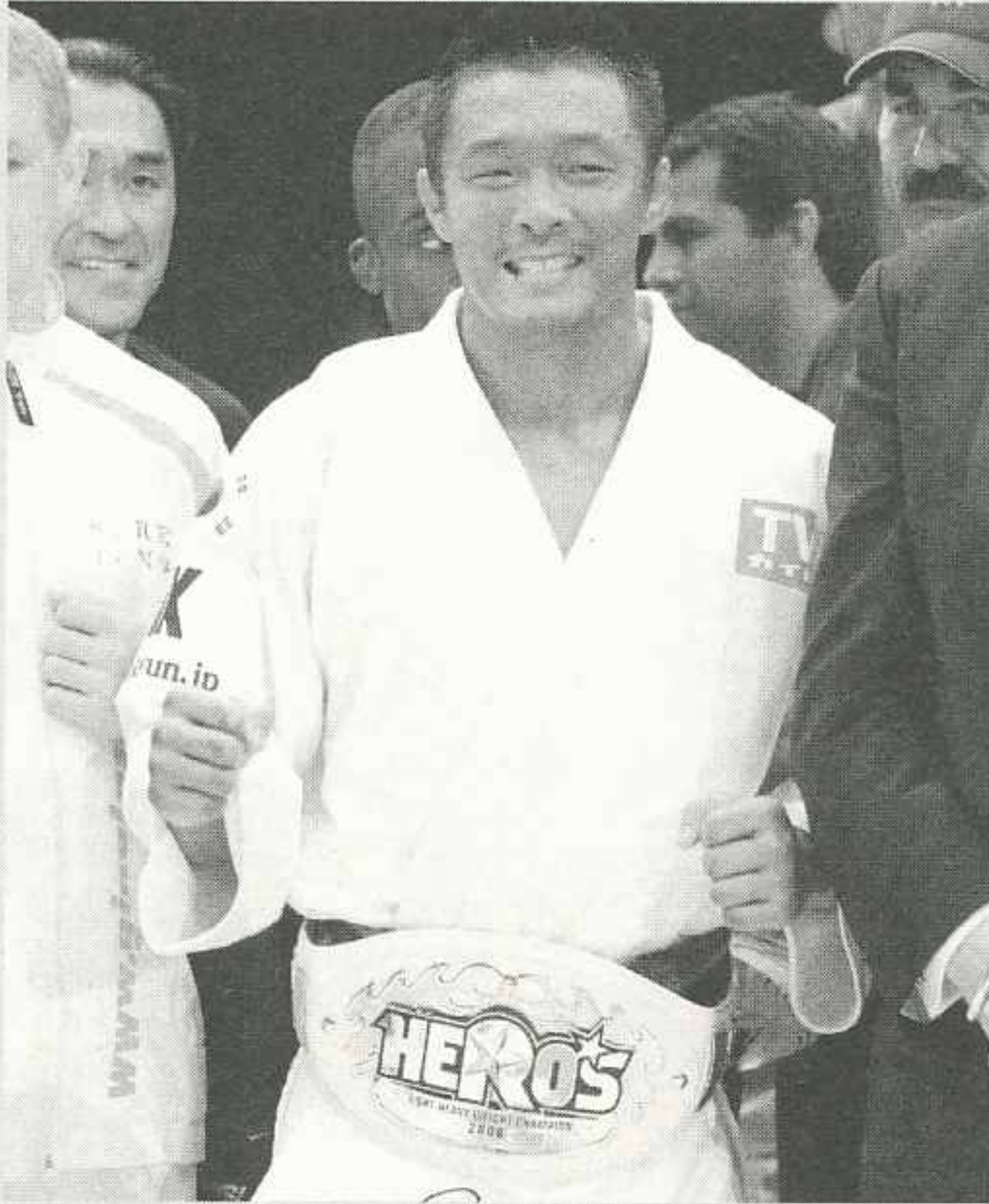
井上　まぁ、結局、なんていうかな……暮れの『Dynamite!!』をにらんでの『PRIDE』に対抗するという意識がアリアリと見えたことはたしかだな。だけど、やっぱり総括的にいうと『PRIDE』に比べると弱い。

——弱いですか。

井上　これはしょうがないんだよな。山本KIDはおらんし、桜庭があぁいったことになってしまったんで、ヒーローがいないわけだよ！

——大会名は『HERO'S』なんですけどね（笑）。

井上（無視して）だからK―1としたら、もうわかっとるとは思うけど、早急に新しいスターを作らなダメですよ。『PRIDE』のほうは、やれヒョードルだ、ミルコだ、シウバだと何人もおるけど、K―1のほうはチェ・ホンマンが出なかったら、もう誰もおらんからねぇ。

——チェ・ホンマンが唯一無二のヒーローですか（笑）。

井上　それでも桜庭がしっかりしとったら、まだなんとか踏みとどまれるんだけれども、ああいう状態になってしまうと、もう踏みとどまれませんよ。たしかにそれらしいカードというのはあったんだけど、『PRIDE』の無差別級GPを観たばかりだからね。K―1のことは悪く言いたくないんだけど、ないカードをやり繰りしてるのがわかるだけにね、同情しますよ。

——同情しちゃいますか（笑）。

井上　戦力がないんだもんな。こりゃ、もうどうしようもないですよ！　桜庭があぁいう状態になってしまっても、魔裟斗も所もおる、と言うかもしれんけどね。やっぱり中軽量級の選手は、インパクトが弱い。

——K―1全体を背負うイメージになるのは、なかなか難しいですよね。

井上　やっぱりヘビー級か、せいぜいシウバのミドル級ぐらいないとね、看板にならん！　だから魔裟斗が「俺が一人で頑張ってやる！」と言ったところでね、「所詮おまえさんは、中・軽量級だろう?」という印象をファンは持ってるし、これはマスコミも一緒。だから谷川のダンナに期待したいのは、強引にでもヘビー級の新しいスターを作ることですよ。シュルトにしてもK―1チャンピオンにはなったけれども、スターになる気配がまったくないんだよな！

——そうですね（笑）。『HERO'S』のライトヘビー級王者になった秋山成勲はどうですか？

井上　秋山も「俺がエースになるんだ」という気持ちはあるんだろうけど、やっぱりヘビー級じゃないのよ！　だから谷川のダンナは、スーパーヘビー級の未知の強豪を見つけてきて、スターにすることが急務ですよ。そんなもん日本人じゃなくてもいいんだから。ロシアだとか中国、モンゴル、南米あたりから大男を片っ端から連れてきて、強引にでもスターにすると。第二、第三のチェ・ホンマンを作らんとダメですよ！

——なんかビックリ人間大集合みたいになってきますけどね（笑）。

井上（無視して）ブラジルにもモンターニャ・シウバみたいな大男もおったし、中国の山奥には、ヒェー！　っと驚くような男がおるはずですよ。

——井上さんはホント大男が好きですよね（笑）。このスター不足というのは、桜庭が復活しても、やっぱり解消されませんか？

井上　復活してくれればええけどね、桜庭の復活は難しいだろうな。これまでガムシャラにやってきた男だからね。俺はドクターじゃないけども、桜庭がここで倒れたということは、ちょっと再起というのは望めないような気がするけどな。

——う〜ん、難しそうですか……。

井上　だから桜庭はこれからは選手としてではなく、よき広告塔、よき宣伝塔、K―1の代弁者というかたちで、どんどん精力的にしゃべったらいいんですよ。

——K―1統括本部長就任ですか？（笑）。

井上　桜庭のそういった役割というのは大きいですよ。とにかく桜庭が何かしゃべると記事になるからね。なんだかんだと記者会見を開いて、どんどん話題を提供していったらいいんですよ。

——でも、それって前田スーパーバイザー（以下SV）の役割じゃ……。

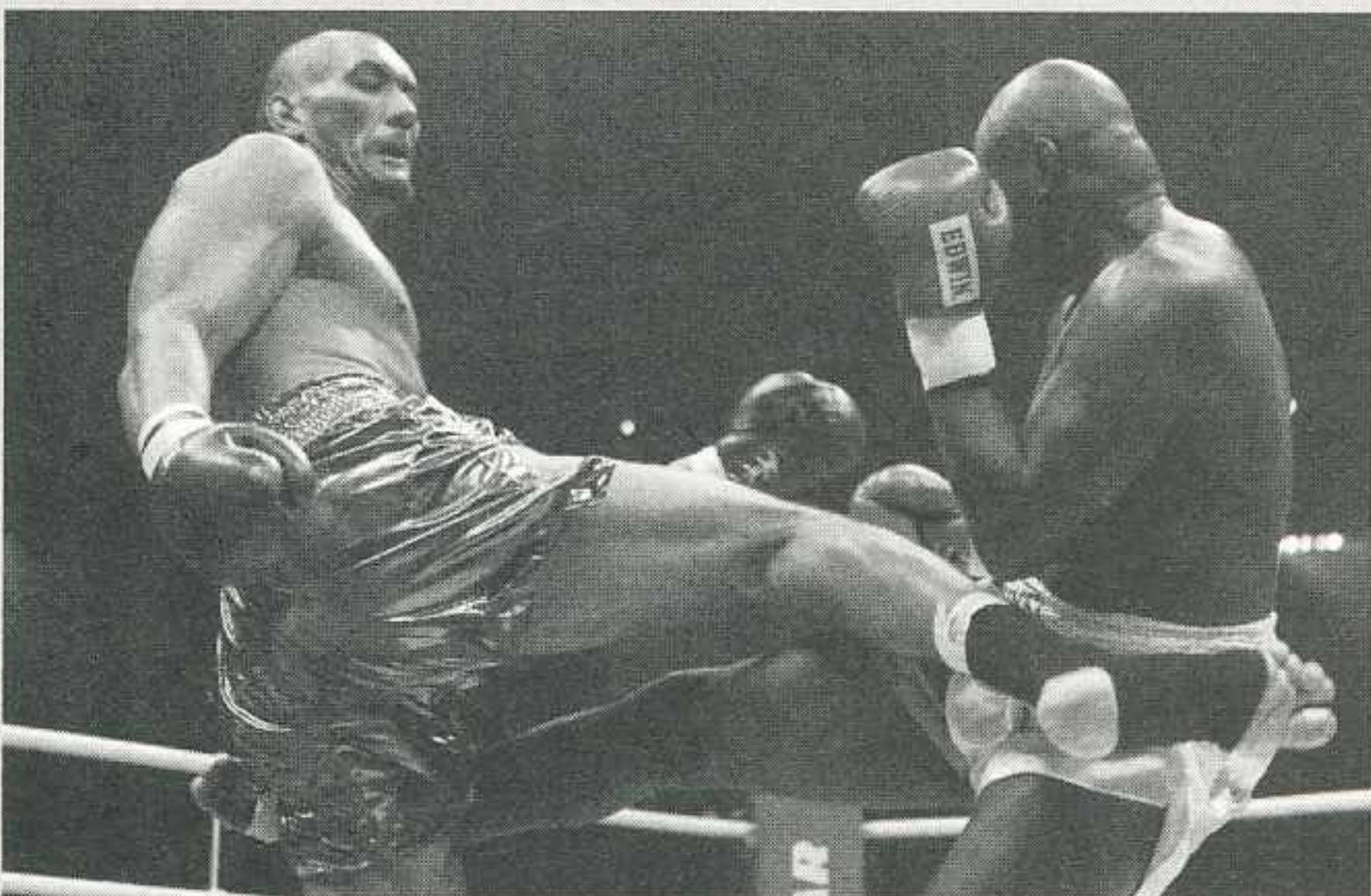
井上　前田と桜庭は別ですからね。前田は総本部長だし、桜庭は現場の責任者だから。

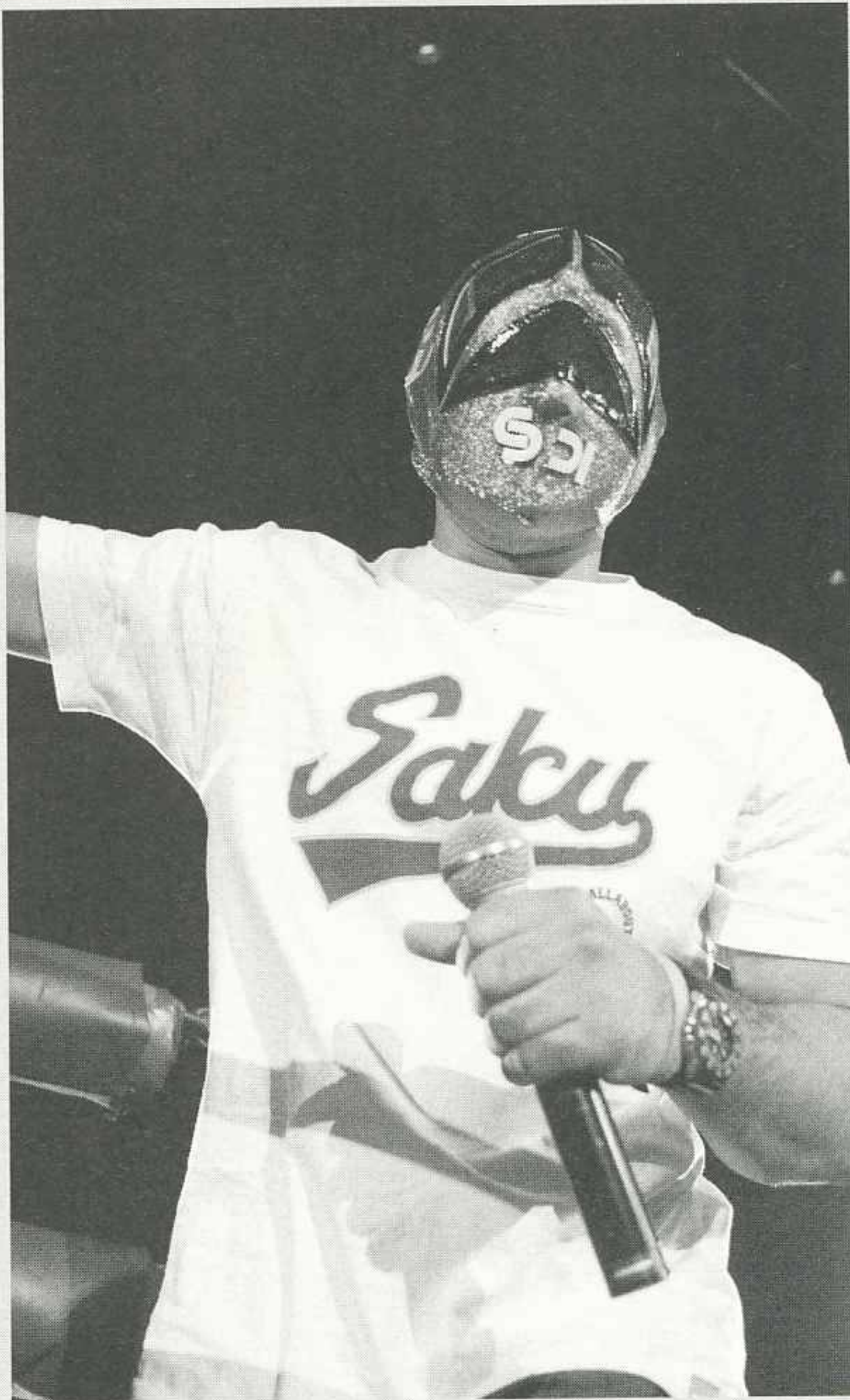
——そんな役割分担がいつの間にかできてましたか（笑）。前田SVといえば、『HERO'S』大会前の金子賢への発言は、結果的にいい宣伝になりましたね？

井上　その件について、一言言わせてもらうと、前田の言い分というのは、ちょっとおかしい！

——おかしいですか？

井上　だいたいやね、金子賢に対しても売名行為がどうのこうのと言うけれども、金子は二年も前からじっくり練習積んで、この世界でやろうということで、真面目に取り組んできたわ

"リトアニアの高田"スミルノヴァスと"優勝候補"マヌーフに連続一本勝ちで、見事『HERO'S』ライトヘビー級王者となった秋山成勲。サク、KIDのいない『HERO'S』の主役に躍り出た感はあるが、『Dynamite!!』のメインとなるとまだ厳しいか。

I編集長がなぜか高く評価する"アマゾンの大巨人"モンターニャ・シウバ。残念ながら来日しなくなってしまったが、まだまだブラジルにはこんな怪物がジャングルの中に眠っているのか!?

桜庭は選手としてよりも、よき広告塔、K-1の代弁者として活躍すべきですよ！

けですよ。

――俳優休んで、ブラジルのシュートボクセまで行ってましたよね。

井上　昨日今日練習を始めた「タレントの金子賢です」というわけじゃないんだから！　顔見せのために片手間でやってるわけでもないしね。それが前田にはわかりそうなもんだけどな。

――井上さんの評価は思いのほか高いんですね。

井上　みんな、そこらへんの評価を全然してない。金子は二年間真面目に練習した上で、「所さんの胸を借りたい」と言うとるんだから、それを「所とやるのは10年早い！」とか批判するのは間違いですよ！

――文句を言うとしたら、そういうキャリアのない人と所を当てた主催者側にですよね。

井上　所にしたってまだチャンピオンでも大スターでもないんだから。その所に対して「胸を借りたい」と謙虚に言っとるんだから、そこは汲んであげないと。

――まぁ、前田SVの反発とは裏腹に、金子賢は大晦日の『Dynamite!!』にも出そうですけどね（笑）。

井上　ただ、金子ももう3回目だろう。一回目、二回目は「どうなるんだろう？」と観るけれどもやね、3回目はそんなに観ませんよ。やっぱり視聴率を取るためには、もっと違うものを提供しないといけませんよ。

――なるほど。たとえば、大晦日はどんなカードを組めばいいんでしょうかね？

井上　やっぱりK-1にとってもイチかバチかの大勝負だからね。ホントは秋山vs桜庭なんかをやりたいんだろうけど、それじゃ当たり前でおもしろくない。本気でやるなら秋山をホンマンにぶつけるとかね。

――秋山vsホンマン！（笑）。

井上　ミスマッチと言われても、そういった誰も考えないマッチメイクをしないとダメですよ。ヘビー級はヘビー級、ライトヘビーはライトヘビーなんて言ってたら話にならん。やっぱり意表を突くなら、秋山vsチェ・ホンマンの金網ノールール・デスマッチぐらいの発想はほしい。

――『Dynamite!!』はそれぐらいハレンチにやれ、と（笑）。

井上　あとはさっきも言うたけど、未知の大男を連れてきて、あっと驚かせる、と。しかも、その大男をいきなり『Dynamite!!』に出すんじゃなくて、2、3試合ババーンと出て、デモンストレーションをさせるんですよ。

――前哨戦をやらせるわけですね。

井上　そう。べつにK-1のリングじゃなくてもいいんだから。大男がパンクラスの前座で暴れてもいいし、新日本プロレスに乗り込んで、若手を次々となぎ倒してもいい。そういうことをやって、「あの男はなんだ!?」ということをみんなに思わせておいて、『Dynamite!!』にぶつけようと。

――まさにかつての新日本プロレス的な手法ですね。蔵前（国技館）での猪木戦の前に、藤波、木村健悟とかを倒させておいて、価値を高めるという（笑）。

井上　そういった手を打たんとね、「う～ん、誰もスターがいないなぁ」ということになってしまうのよ。だから、大晦日までもう時間があるようでないけど、まだ間に合う。そこらへんは谷川先生も当然考えておるだろうから、なんとかそういう意表を突くようなマッチメイクを組んでほしいな。『PRIDE』の「男祭り」はオーソドックスなカードでくるんだから、『Dynamite!!』は「エーーーッ!?」と驚くようなものがないとね。

――『Dynamite!!』はとにかく驚かせろ、と（笑）。

井上　『PRIDE』に勝負論で対抗したってしょうがないんだから。どうしたって観客論でいかなきゃいけない。やっぱり『PRIDE』だけが栄えて、K-1のほうは廃れるというわけにはいかんからね、世の中。やはり龍虎相争うという構図がないといかんし。まだK-1にはそのぐらいの底力が残っているからね。それに期待したいわな！

――ましてや、いまテレビがあるのはK-1だ

前田SVの言い分はちょっとおかしい！金子賢は非常に真面目な青年ですよ

『Dynamite!!』は意表を突くカードを組め！
たとえば魔裟斗vs三沢光晴とかな

I編集長が提唱する"ファンの意表を突く"『Dynamite!!』のマッチメークは、なんと魔裟斗vs三沢光晴！　まさに"夢のカリスマ対決"だが、K-1系プロレスイベント「W-1」出場経験がある三沢だけに、もしかしたら実現する可能性もあるか？

けですからね。ただ、『Dynamite!!』も回を重ねるごとに、やっぱり手駒が尽きてきた感はどうしてもありますよね。

井上　だからこそ『Dynamite!!』はさっきも言ったように、驚くようなマッチメイクを持ってきて、ルールも改正して、ノールール・デスマッチだとか、そういう試合もガンガン組んで、ついでにプロレスラーも出場させる、と。こういったことは『PRIDE』じゃ許されないんだから。

――『PRIDE』じゃ、せいぜい入場シーンでドンペン君が登場するぐらいですよね（笑）。

井上　『Dynamite!!』はどこまで我々を楽しませてくれるのか、それがファンの期待であって、魔裟斗が「『Dynamite!!』は俺が仕切る！」とかいうようなことを言ってますけどね、魔裟斗が仕切るというのであれば、魔裟斗をチェ・ホンマンにぶつけるとかね。そういった意表を突くカードを組まないとダメですよ。

――魔裟斗vsチェ・ホンマンが組まれたら、これは意表を突かれますよね（笑）。

井上　ドーンというゲリラ戦法が『Dynamite!!』には必要なんじゃないかな。『PRIDE』に対抗して、勝負論でいこうなんて考えんことだわ。もちろん試合はあくまで真剣勝負。ただその中に金網デスマッチとか、場外乱闘ありとか、そういった意表を突くやり方というのを『Dynamite!!』で演出させてほしいな！

――そもそも国立競技場でやった最初の『Dynamite!』は、猪木さんがパラシュートで降ってきたり、なぜかターザン山本！がエリオ・グレイシーを表彰したり、意表突きまくりでしたからね（笑）。

井上　だから、『Dynamite!!』が成功するには、プロレスを最大限に利用するということも一つある。大晦日はプロレスのシリーズも終わってるんだから、みんな暇なんですよ。

――インディー・オールスター以外はみんな暇でしょうね。

井上　だから、名の通ったレスラーでも、少々ギャラを弾んだら出てきますよ。そういったプロレスラーの大物を当日まで名前伏せておいて、ドカーン！と発表する、と。そういったテクニックが必要でしょうな。

――たとえば、プロレスラーはどんな人が出たらおもしろいですか？

井上　三沢（光晴）と魔裟斗をぶつけるとかね。

――ダハハハ！　三沢vs魔裟斗！　これは意表突きまくりですね（笑）。

井上　あとは初代タイガーマスクを担ぎだして、桜庭タイガーマスクとやらせるとかね。

――ちょっと、それはホントにいいアイデアですね。谷川さんなら、マジで交渉に入りかねないというか（笑）。

井上　いずれにしても、プロレスのオールスターを出すというのも一つの手ですよ。そしてレスラー集団のボスとして、アントニオ猪木も必要だ、と。

――猪木さんが久々に『Dynamite!!』に登場するのもいいですね。

井上　アントニオ猪木を出さないのと出すのとでは、えらい違いですよ。猪木だって、二つ返事で飛んできますよ。とにかく猪木あたりを最大限に利用し、プロレス集団をガーンと組み入

元祖・大晦日格闘技イベント提唱者ながら、あの"日テレ・猪木祭り"失敗もあり、すっかり大晦日から姿を消してしまったアントン。『Dynamite!!』を猪木vsアリ30周年記念イベントとして行なう可能性も……ないか。

れて、『Dynamite!!』を派手に、派手に、派手にもっていくということやね。
――派手にハレンチにいくわけですね。ところで、かつてK―1で〝ハレンチの象徴〟だったボブ・サップが、そのK―1とまた揉めてるみたいなんですけど。この騒動はどう見ていますか？
井上　これはもうしょうがないんだよな。K―1にしても、もうそんなにボブ・サップの使い道というものはないはずなんだけど、そのサップになぜそこまでこだわるかと言えば、これはもう自由契約にして『PRIDE』に走られたら困るからですよ。
――サップがいなくなることより、『PRIDE』に上がられることが困る、と。
井上　そう。無論、サップが『PRIDE』のリングで大活躍はできませんけど、『PRIDE』はサップを広告塔として最大限に利用するからね。それでラスベガスだ、ロサンゼルスだと、サップに大暴れされたら、K―1としたらたまったもんじゃない。10・21ラスベガスにも、サップは絶対出てくるしね。
――I予言では、ベガスにサップ登場ですか（笑）。
井上　試合したりはせんけれど、客席には絶対におるはずだ。そうすると、そこにはタイソンもおるわけだからね。サップとタイソンが一触即発ということにもなりかねない。
――どっかで見たシーンですけどね（笑）。
井上　そうこうしているうちに、タイソンに耳をかじられたホリフィールドも現われて、三すくみでにらみ合いとなる。そういった演出が必ずありますよ。
――それはじつに〝井上小説〟らしい豪華な展開ですね（笑）。
井上　生真面目な日本じゃないんだから。ラスベガスなんだから。それぐらいのことをやらんと、青い目のファンは承知しませんよ。10・21は日本のファンも来るだろうけど、青い目のファン、地元のファンをワーッと言わせるためには、やっぱりタイソンだ、ホリフィールドだ、このへんを持ってこんことには話題にならんからね。ただ、榊原先生がそこまで考えてくれているかどうか……。あの先生は非常にクソ真面目なところがあるからね。やはり思い切ってやらんとな。勝負論一辺倒じゃベガスでは通用しませんよ。
――ベガスでは観客論で話題を提供していくことが大事だ、と。
井上　そうですよ。だからK―1がサップを訴えるというのは、そういった面でサップを最大限に利用されたんじゃたまらんと。いくら裁判しても、これだけ揉めたあとサップが「すいませんでした」ってK―1に戻ってくるわけがないんだから。それがわかっていて裁判までするというのは、なんとかしてサップを『PRIDE』に上がれなくしようということですよ。
――サップを浪人にさせようと。
井上　そうそう。『PRIDE』にしてみたら、サップは試合をせんでも、ラスベガスに現われてワーワーやってくれるだけでいいんだから。サップはK―1ラスベガス大会で顔を売ってるんだから、これは効果がありますよ。まぁ、いずれにしてもK―1、『PRIDE』双方に、我々の計り知れない思惑があるかもしれないし。それが10・21ラスベガスや、『Dynamite!!』でどういうふうに出てくるか。ここらへんが楽しみだわな。
――では年末というか、今後のマット界の行方は、10・21ラスベガスに懸かっているという部分が多いわけですね？
井上　そりゃそうですよ！　10・21がどういう意外性をもって出てくるか。それが年末から来年にかけてどんな発展を見せるか。そこまで考えんといかん。だから10・21ラスベガス単体で考えちゃダメなんだよな！　その先、先、先を読んで、こういうふうに発展していくだろう、こんな事象が出てくるだろうと予測して、それを問題点にして、みんなで論じ合わんとね。
――なるほど。10・21ラスベガスがどんな成功をもたらすかによって、アメリカ格闘技界にも大きな影響を及ぼすでしょうからね。
井上　アメリカも大きく変わりますよ。おそらく来年あたりは、UFC vs『PRIDE』を大きな柱として興行を打っていくだろうな。そうやってアメリカでどんどん盛り上げていくことが必要ですよ。もう日本でちまちまやっとる場合じゃない。アメリカでちょっと当たったらデカいからねぇ！
――PPVの数字とか凄いみたいですね。
井上　UFCのPPVの売り上げは日本円にして60億だっていうからね。考えられんような数字ですよ。だからね、結局アメリカと日本では金のケタが違うんだから。思い切ってアメリカで勝負しないと。最初は少々損をしてでも、アメリカでやり続けていれば、そのうちドカーンときて、簡単に元が取れますよ。そういう意味で、やっぱりアメリカン・ドリームというものはあるんだよな。ちっぽけなジャパニーズ・ドリームとは違いますよ。
――ちっぽけなジャパニーズ・ドリーム（笑）。
井上　だから、榊原先生もここが勝負どころだと思ってますよ。だからこそ、思い切って意表を突くようなことをやってほしいですな。まあ、期待しましょう！
――では、またラスベガス大会が終わってから、ゆっくりとお話を聞かせてください！
井上　あいあい。

［06年10月14日／電話取材にて収録］

K―1が裁判してまでサップにこだわるのは『PRIDE』に上げたくないからですよ！

K-1との契約解除を宣言したサップだが、K-1は逆にサップを提訴すると発表するなど、泥沼化してきたこの騒動。今後、サップとタイソン、因縁の再開などはあったりするのだろうか？

10・8『UWAI STATION』発車せず！

無人駅でたたずむ〝駅長〟の今後を直撃!!

上井文彦“駅長”が語る

「後楽園」発→「プロレス復興」行き

夢列車構想!!

前代未聞の大会二日前に会見を開き、10.8後楽園ホール大会の延期を発表した上井さん。村上和成らビッグマウス・ラウドと袂を分かち、『UWAI STATION』として新たな第一歩を踏み出すはずだったが、上井さんにいったい何が……!?　延期会見前日までは10. 8 後楽園大会で、これまでの“プロデューサー”という肩書から“駅長”として出発進行を誓っていた上井さんは、これまた例を見ない大会予定日に自ら会場の前でチケットの振り替え対応を行なうという。これはある意味、見逃せない。当日の会場入りから密着し、無人の後楽園ホールでたたずむ上井駅長を直撃!!

乗客1（聞き手）／松澤チョロ
乗客2（協力）／井山崇宏（THE PEHLWANS）
designed by bun-chan（Two Three）

前代未聞！大会二日前に後楽園大会延期を発表！

10.8『UWAI STATION』後楽園大会二日前、都内にて緊急会見を行なった上井さんは同大会を12月に延期すると発表。その理由として「カードはできていたんですが、冷静にそのカードを見たときに皆さまにお見せできる作品ではないと思った」と語り、深々と頭を下げ謝罪。急な発表だったため大会当日、会場にて自ら払い戻し対応を行なうと宣言した。

――上井さん、払い戻し対応、お疲れさまでした！　まずは率直な感想を聞かせてください。

上井駅長　いや〜、払い戻しというより、12月大会への差し替えがほとんどだったじゃないですか？

――そうでしたね。正直、もっと払い戻しがあるのかなと思ってたんですけど。

上井駅長　だってね、次の大会は、いまから二カ月ぐらい先なのに、みんな「待ってます」って言ってくれたからね。責任が大きいですよね。

――皆さん口々に「頑張ってください」と声をかけられてましたからね。

上井駅長　もう、お聞きになったとおりですよね。激励していただける方が多かったから責任を痛感しますよね。だから、やっぱり延期したことの意味合いっていうのを重く考えて、12月3日は全力でやらないといけないと思います。でも、ホントにこんだけ差し替えしてくれるのはね、ないことですよ。あり得ないです……（感激で言葉に詰まる）。

――それだけ期待も大きいってことなんでしょうね。

上井駅長　ですよね。期待も感じてますし、責任も感じますから。やっぱ中途半端なことをしちゃいけないですよね。

――12月大会は、今日やるつもりだったカードとは違うカードを考えてるんですか？

上井駅長　いや、まったく白紙に戻しますね。今日出るはずだった村浜（武洋）選手は12月3日は出られませんから。そのへんのところで毛利（昭彦）君のカードも変わってきますし、まるっきり違うフレッシュでワクワク感のある試合を組まなきゃいけないと思ってるんで。

――ちなみに、過去に払い戻しって何回ぐらい経験があるんですか？

上井駅長　払い戻しっていうのは新日本時代と、UWFの最初のユニバーサル・プロレス時代と今回で3回目なんですけど、こんな温かい払い戻しは初めてですよ。こんな経験は、あんまりしたらいけないんでしょうけど、期待感を感じてますし、皆さんの厚情の上に甘えるわけにはいかないんで、今日の現実を心の中に強く秘めて12月3日のカードを決めないといけないと思いますんで。もう実際、昨日から動き始めてますけど。

――今回は早めにカードを発表できそうですか？

上井駅長　早く出さないと申し訳ないでしょう。僕には「延期」、「カード発表が遅い」、「言ってもできない」、そういうのがつきまとってるから、やっぱり早くそういうイメージを払拭してやらないといけないと思いますよ。カードを組む努力なんて誰でもするんだから（吐き捨てるように）。

――まあ、そうですよね。

上井駅長　その努力が実を実らせないといけないから、その実が実らなかったということはプロデューサー失格なんですよ。

――……。という思いから、プロデューサーならぬ〝駅長〟を名乗ることにしたわけですか？

上井駅長　まあ、そればっかりじゃないんだけどね（苦笑）。

――でも、今日から〝上井文彦駅長〟でいいんですよね？

上井駅長　ホントは今日、宣言する予定だったんですけどね（笑）。リング上で「これからは駅長と呼んでくれ！」って言おうと思ったんだけど、言えなかった（笑）。

――ぜひ、それはやってほしかったですね（笑）。

上井駅長　だから、名刺も変わりますよ。『UWAI STATION』のマークも入るし、今日から変えようかと思ったんですけど、バタバタして間に合いませんでした。格好から先にやっても仕方ないですからね。まずは身が伴なってないですから。まずは身からでしょ。

――でも、できれば駅長の格好で挨拶とかしてほしいですけどね。

上井駅長　いやいや（苦笑）。

――チケットの差し替えに来た女性ファンからは「ぶっちゃけ、次も柴田は出るんですか？」って質問が飛んでましたけど（笑）。

上井駅長　言ってましたねぇ（苦笑）。結局、大部分のファンからしたら、そこに尽きるわけでしょ。だから、高山（善廣）選手や鈴木（みのる）さんとかは、ホント出ていただけるだけでありがたいんだけど、僕の大会に来てくれるっていうのは、ビッグマウス・ラウドを応援した延長だと思うから、やっぱり柴田選手にファンの気持ちがいってるっていうのはわかりますよね。だからといって、僕と柴田選手が一蓮托生かといったらそうでもない。

――柴田選手はフリーという道を選んだわけですからね。

上井駅長　そう。彼はフリーだし、僕も一人でやっていくんで。ずっと未来永劫出てくれるかっていったら、それはないですから。そんな中で、いま選手の位置づけをどういうふうにしていくかっていうのは、また考えなきゃいけないし。ただ、次の興行に柴田勝頼がいないっていうことは考えられない、僕の中では！（キッパリ）。

――女性ファンの勢いに押されて参戦を約束しちゃってましたけど、柴田選手の出場は確定と思っていいんでしょうか？

駅長自ら払い戻し対応！

10・8 上井文彦の一番長い日を完全密着

10月8日の日曜日、突然の延期発表のため、その事実を知らずに会場を訪れる人や、払い戻しおよび12月大会への振り替え対応を行なうため上井さんは当初、大会開始予定時間となっていた正午から約2時間前の午前10時ちょい前に男性アシスタント1名とともに後楽園ホールへ姿を見せた。会場入口にテーブルを並べ、払い戻し作業の態勢を整えた上井さんは心なしか緊張の面持ち。いよいよ、上井文彦の一番長い日の始まりです。12.3後楽園に向け出発進行〜〜ッ!

後楽園ホール1Fの当日券売り場には右のような貼り紙が。延期を知らずウキウキ気分で後楽園に足を踏み入れるも、貼り紙を見て固まる男性客も。

上井さんがスタンバイした数分後からボチボチとファンが来場。怒鳴られることも覚悟していたという上井さんだったが、みんな思いのほか好意的。

上井駅長　出せなきゃねえ。出せなきゃ、もう終わりますよ！（苦笑）。

——上井ステーションは発車せず、と（笑）。

上井駅長　そうなっちゃ困りますからね（笑）。こんなこと言っちゃいけないけど、まだ柴田選手の気持ちも聞いてないけど、やっぱ柴田選手が「出たいですね。そのカードだったら」って言えるカードを組みたいです。

——今日やるはずだった後楽園大会で柴田選手の相手として考えていた選手に、あらためて交渉するつもりなんですか？

上井駅長　いや〜、もうね、あのときの時局と今度は違うと思うんですよ。たしかに、僕が考えて動いていたカードが実現したら、プロレス界の流れが変わるようなカードだったんですけどね。

——う〜ん、それはどんなカードだったのか気になりますね。

上井駅長　まあ、それは、またの機会に取っておこうかと。やるんだったら思いっきりやり合えるように、意義づけじゃないけど、最初の一言から始まりたい。その一言から始まって、このカードができました、みたいな。やっぱり、プロレスはそういうふうにしなきゃいけないと思ってますから。ウチはビッグマウス・ラウドのときからそうですけど、あまりにもそれがなかったからね。

——たしかに、毎大会のようにカード発表は直前になることが多かったですからね。

上井駅長　僕のカード発表は遅いからね（苦笑）。だから、12月3日は、昨日、ある程度は設定して、こういうカードでいこうっていうのは僕の頭の中ではできてるんで。関係各所にも電話入れましたんで。6〜7試合、第一試合目からおもしろいですよぉ！

——延期会見の時点では鈴木みのる選手とは今回の件について、直接話ができていないと言ってましたけども。

上井駅長　昨日話しました。高山さんにはモノ凄く力強い言葉を言ってもらったんで嬉しかったですね。高山さんが、そうやって言ってくれたことに返せるようなカードを作ってあげないといけないですね。へんな話、新日本のときからそうですけど、なぜか僕は天龍さん、鈴木さん、高山さん、最近はちょっと話はしてないですけど北斗（晶）さんとか、外の人のほうが相談相手になってくれますからね。中でも高山さん、鈴木さんっていうのはプロレスの感性が僕の考えてるものに近いって言ったらおかしいですけど……まあ、彼らのほうが上をいってますし、それを追っかけていきたいっていうのはありますよね。それで柴田勝頼っていうプロレスラーは、そういった考え方を斜めに突っ切って考えてるから

「後楽園」発→「プロレス復興」行き

夢列車構想!!

僕が付き合ったレスラーの中で、猪木さん、武藤敬司、柴田勝頼は別格！

ね。柴田勝頼の感性っちゅうのは大事にしないといけない。やっぱ、柴田っていうプロレスラーは類い稀な感性を持ったレスラーですよ。

——いろんなレスラーを見てきた上井駅長的にも柴田選手は特別だと？

上井駅長　そうですよ。アントニオ猪木、武藤敬司、柴田勝頼っていうのは、やっぱ別格でしょ。

——ほぉ〜。かなり評価は高いわけですね。

上井駅長　僕が知ってる限りじゃ、天龍さんとか、そういう大御所を抜いた中では、僕が付き合ったプロレスラーの中では間違いなく5本の指に入るでしょ。彼のプロレスに対する感性っていうのはね。

——先ほど、ファンの方と話をされてましたけど、柴田選手がフリーになったというのは、上井さんの関係する大会では柴田さんが、いま師匠と慕っている船木（誠勝）さんとの師弟対決が実現できないっていう部分もあると言ってましたよね。

上井駅長　前田（日明）さんとの関係もありますし、ビッグマウス・ラウドじゃ絶対に無理じゃないですか？

——そうでしょうね。

上井駅長　だから、僕はフリーになったほうがいいって言った理由の中にそれはありますよ。だって、一ファンとしても観たいじゃないですか、船木vs柴田戦っていうのは。

——そのカードはゼヒ実現してもらいたいですね。

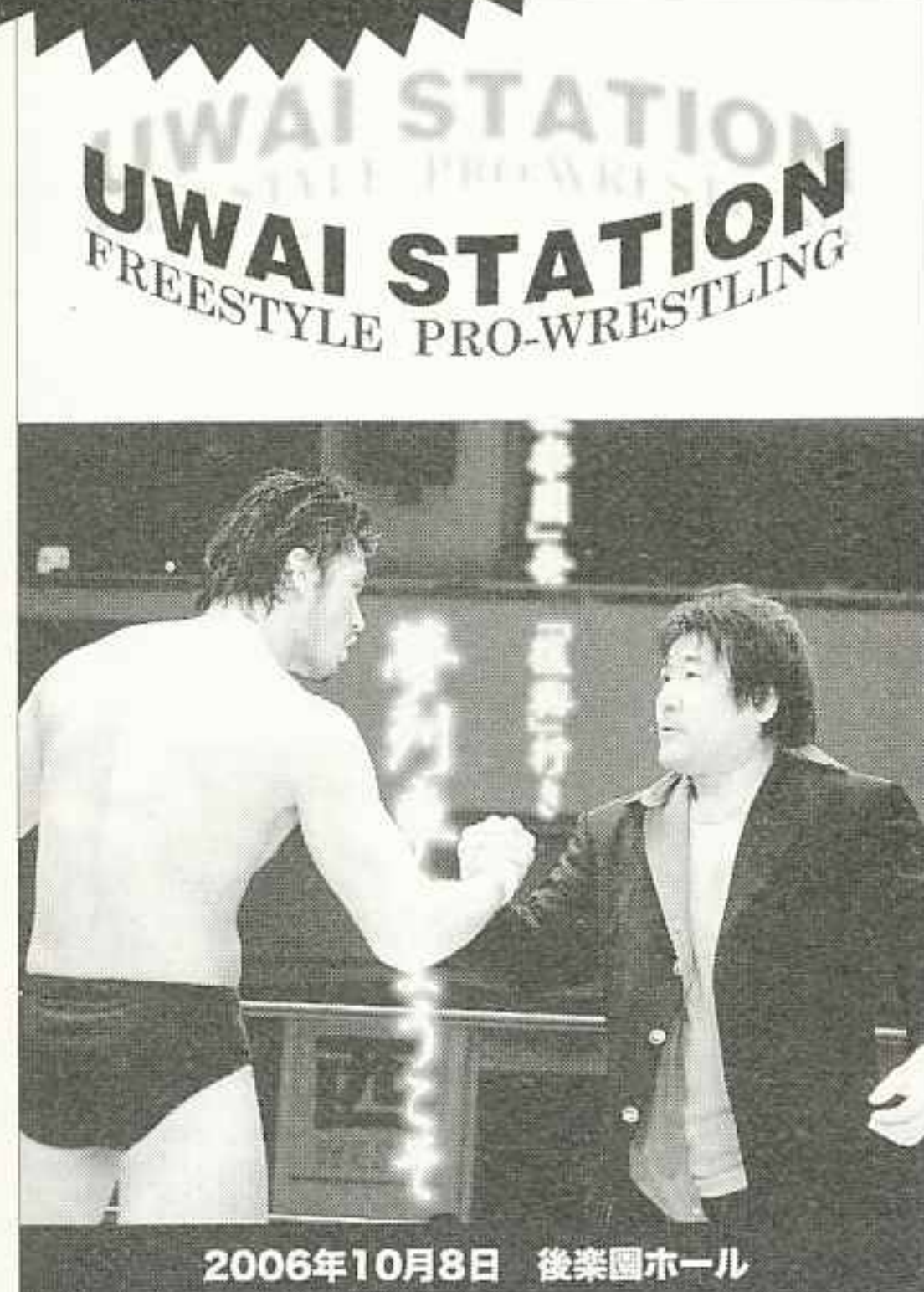
上井駅長　でしょ。それならフリーになったほうがいい。ウチで独占するつもりなんか何もないですからね。今回、大きなスポンサーがついたんだけど、それだってプロレス界に引っ張ってくることが大事だと思ってるから。自分で独占するつもりなんて何もない。大きいスポンサーがプロレス界についてくれたほうが業界にとって、いいに決まってるんだから。そうでしょ？

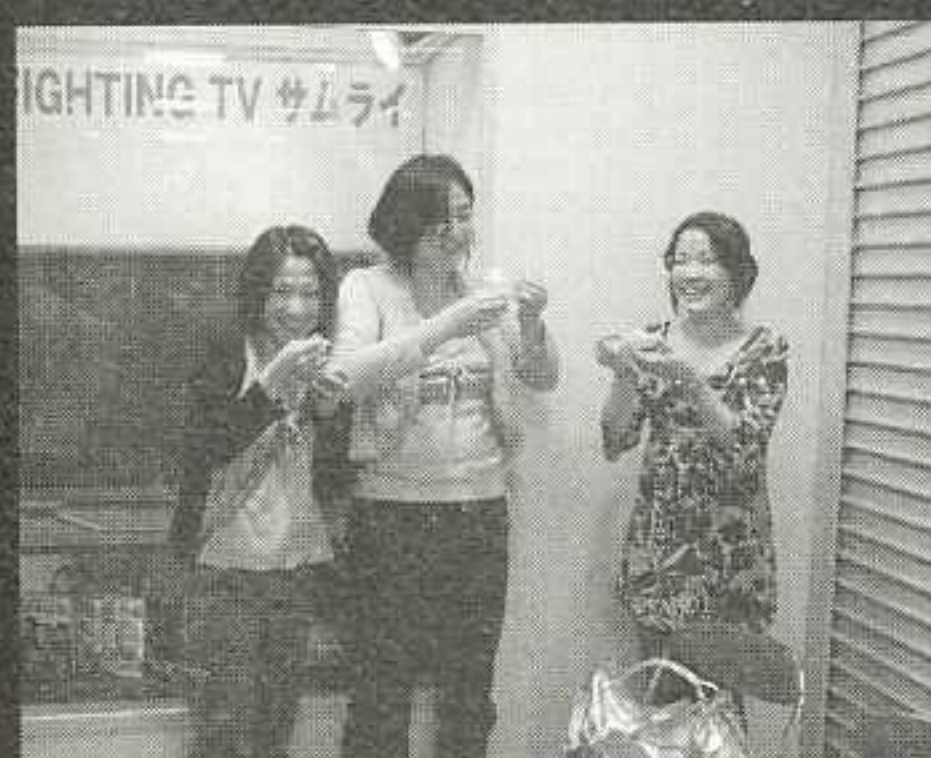
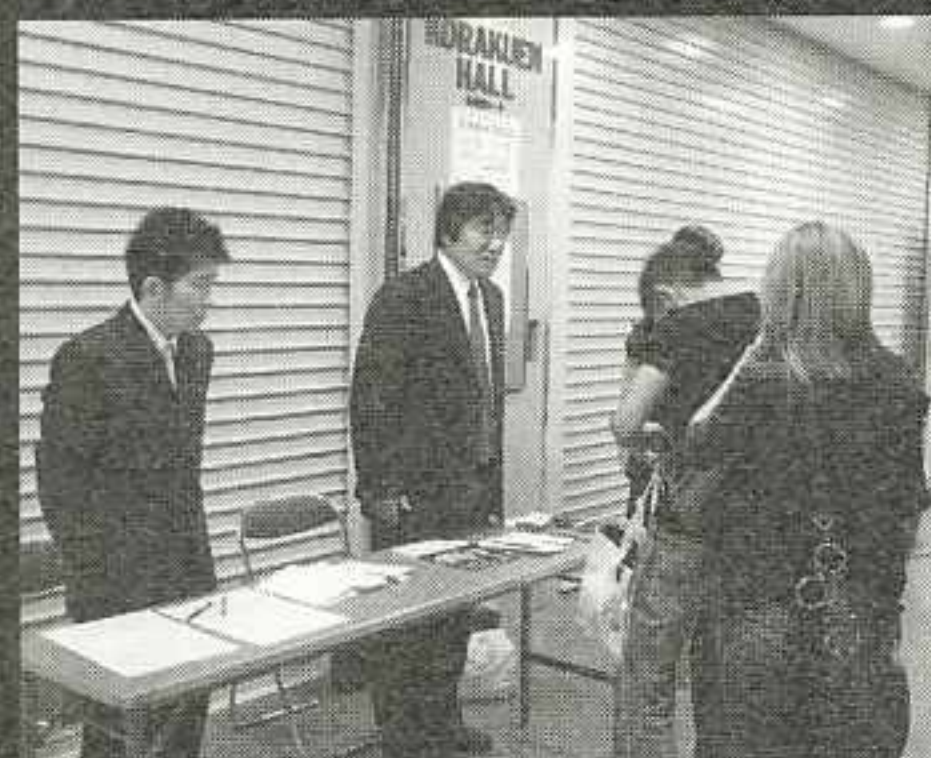
——そりゃあ、そうですよね。そのスポンサーに関しては会見をやるまでは、まだ具体的には言えないみたいですが、延期しなかったら、リング上でそのことについて発表するつもりだったんですか？

上井駅長　いや、しません。リングのド真ん中に描かれてたロゴを見てもらうだけで良かったんです。

——後日、あらためて会見で発表するわけですね？

上井駅長　会見はやります。そのた

上井駅長から
ビッグプレゼント！
幻の10・8後楽園大会パンフを
10名様にプレゼント!!

2006年10月8日　後楽園ホール

こちらが大会当日お客さんに無料で配布する予定だった幻のパンフレットだ。TARUらにボロボロにされた上井さんと柴田がガッチリ握手している写真が表紙のこのパンフを上井駅長のご好意で10名様にプレゼント。宛先は158ページ参照！

とにかく目についたのが「次は柴田は出るんですか？」と上井さんを問いつめる柴田ファンの女性。その熱さに負けた上井さんはデザートをプレゼント。

休日のデートコースなのか、訪れたファンの中にはカップルの姿もちらほら。12月3日はキミも彼女を誘って『UWAI STATION』に出発進行〜〜ッ！

大会開始予定時間の12時前になると、ひっきりなしにお客さんが姿を見せる。上井さんは一人一人に丁寧に事情を説明し、配るはずのパンフをプレゼント。

11時過ぎ、上井さんの地元の山口から延期とも知らず差し入れを持ったギャルが登場。この彼女、プロモーターの娘さんとのことで上井さんも恐縮しきり。

次の大会ではリングのド真ん中に描かれたロゴに注目してください！

めに12月3日は、襟を正してやらないとダメでしょうね。何しろ、大スポンサーですから。（ドン）荒川さんが連れてきてくれた大スポンサーなんですけど。

——さすが、荒川さんですね（笑）。

上井駅長　そこは世界柔道のスポンサーでもありますから。ここの会長も名物にしますから（笑）。

——すでに、そんなところまで考えてるわけですね（笑）。スポンサーさんサイドは今回の延期については、どういう反応だったんですか？

上井駅長　全部了解してもらってます。「今回は事情が事情だから、そのほうがいいね、上井さん」みたいなかたちで言ってもらってるんで。

——それは良かったです。ちなみに今日は後楽園ホールの中で撮影させてもらうのは可能なんですかね？

上井駅長　もちろんですよ。使用料は払ってるんで会場は使い放題です。ただ、照明はつけられないんですけどね。また、別料金が発生しちゃうんで（苦笑）。

——できることなら、一日限定の『上井ランド』でも開園してもらいたかったですけどね（笑）。

上井駅長　いや〜、そんなの誰も観たくないでしょ（笑）。

——いやいや、観たかったですよ。

上井駅長が手にしているのは10.8後楽園で初披露するはずだったリングマットのデザイン。よく見ればわかるがマットのド真ん中には上井駅長が言うところの「大きなスポンサー」のロゴがしっかりと入っている。12.3後楽園はリングマットにも注目だ！

上井駅長　使用料はもう前金で全額払ってますけど、それについては全然後悔も何もないです。できたカードをお客さんに見せたときのお客さんの反応を考えたら、僕は使用料を捨てるほうを選びました。僕はそれでいいと思ってる。やっぱり、僕がプロデュースしてやるという意味の重さを考えなきゃいけないと思いましたし、カードもわからないでチケットを買ってくれてる人たちのことを考えるとね。

——たしかに、今日来たお客さんはカードもわからずにチケットを買ってくれた人ばっかりですからね。

上井駅長　そうなんですよ。でもね、やれば黒字だったんですよ。スポンサーもついてましたし。でも、黒字にするためだけの興行やってもどうなんだって。もう、そんなんじゃないですよ。もっと大事なものがある。

——駅長的に譲れないプライドがあったわけですね。パンフレットを見ると12月3日の後楽園大会のほかに、12月30日も後楽園ホールを押さえてるみたいですが。

上井駅長　やりますよ。もう押さえてますから。

——大晦日前日ということで、こちらの大会は上井祭り的なものを考えてたりするんですか？

上井駅長　いや、普通にやりますよ。上井ステーションってかたちで。来年の2月ぐらいには福岡あたりでっていう話もあるんですよ。福岡の地元のレスラーの人たちと東京からリングを持って行って上井ステーションをやろうと思って。

——上井ステーションが地方に進出すると？

上井駅長　向こうは上井ステーションってかたちでやれれば、普通の興行じゃなくなるじゃないですか。ちゃんと僕はスポンサーもついてるし、チケットも売れるじゃないですか。だから、向こうの人たちは少しは東京の雰囲気で仕事ができると思うし。

——まあ、そうでしょうね。

上井駅長　だから、地方のレスラーの人たちと僕がコラボしてやってみようかなと。だから、僕は〝駅〟でしょ（笑）。

——〝駅長〟ですからね（笑）。

上井駅長　だから、〝博多発〟とかいうかたちで。あと、今回、泉州力さんが向こうから電話してきてくれて『ノーギャラでも出たいです』って言ってくれて。だから、僕は泉州力さんには義理を感じてるので、男気を感じてるので、だから、泉州さんが大阪でやる興行を上井ステーションとしてやってもいいと僕は思ってるんです。そういう駅の発進の仕方を考えてます。〝博多発〟とか、どこどこ行きってかたちで1月は巡業に行ってもいいかなって思ってますよ。

——今回、上井ステーション的には急停車してしまいましたけど、12月3日からは元気な上井駅長が見られると思っていいわけですよね。

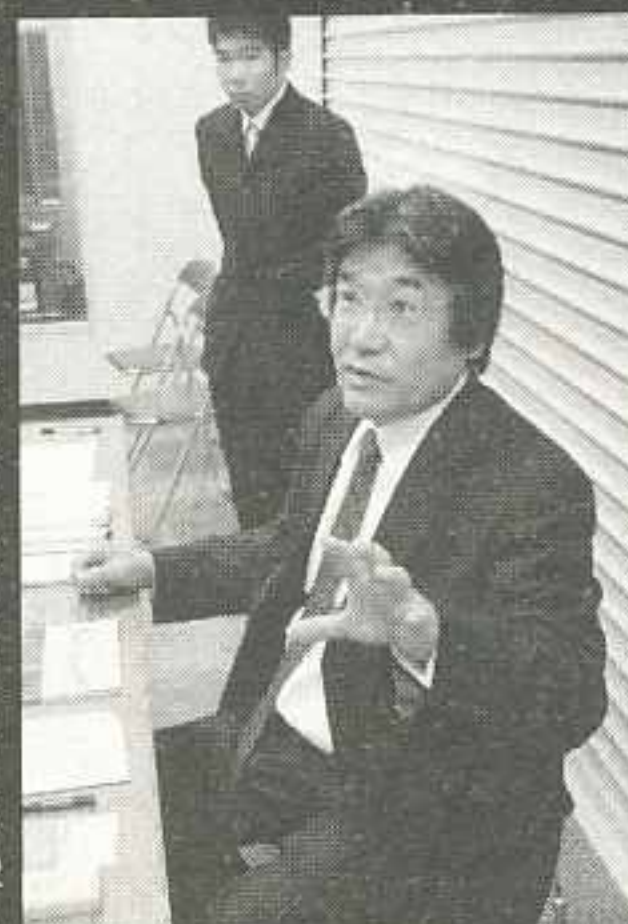
上井駅長　いまでも元気ですけどねぇ（笑）。というか、今日元気出ましたよ。お客さんから元気をもらったから。ホント、気合い入れて頑張りまっせ！

——頑張るついでというか（笑）、上井駅長がリングで闘う可能性はないんでしょうかか？　最近は新日本のサイモン社長もリングに上がっちゃいましたけど。

上井駅長　いやいや、サイモン社長が何をやろうとしてるかは知らないですけど、僕がリングで闘うことはないですよ。まあ、駅長として挨拶はしますけどね（笑）。

——わかりました。上井駅長の今後に期待してます！

【10月8日／『UWAI STATION』発進予定だった後楽園ホールにて収録】

払い戻しは約2割で、ほとんどのお客さんが12月大会への差し替えを希望。午後2時45分、感謝しきりの上井さんの長い一日（半日？）が終わった。

差し替えおよび払い戻し希望者への対応を終えると、上井さんはエレベーターの前まで見送り、扉が閉じるまで頭を深々と下げ今回の延期を詫びていました。

読めったら、読め!! こんのヤロォ～!!

『ハッスル1』開催、ド直前!!
no.69 '03.12 900 yen
出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也／『泣き虫』著者登場! 金子達仁／大晦日直前インタビュー! 田村潔司／アイアム リアルプロレスラー 美濃輪育久

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 '04.02 880 yen
『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／待望の『紙プロ』初登場! 川田利明／理想のプロレスを追い求める! AKIRA／ 幻の猪木vsアミン戦の真実!!

髙田総統がビターンと降臨!
no.79 '04.09 840 yen
キャプテンに休息なし! 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』／ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!!
no.85 '05.03 860 yen
PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、髙田延彦／パンクラス2大王者が揃い踏み! 髙阪剛×近藤有己／HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

RADICALでハッスルの歴史を復習したまえ!

11.23『ハッスル・マニア2006』直前

勉強不足の下々の諸君!!

注 新装刊となった「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jpでお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797
平日 13:00～19:00 販売元 (株)ダブルクロス

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERはすべて50% OFF

特集 神秘とは何か?
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!／K－1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟(当時)インタビュー

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松雄規・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある! 「藤原組の逆襲」

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよォォ!!

格闘ノストラダムス!
no.16 780yen '99.03
[表紙：エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／相撲多重アリバイ 石川孝司

"新"プロレスとは何か?
no.32 840 yen '00.10
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村

純プロレスを徹底検証!
no.35 840 yen '01.02
[表紙：サクマシン (イラスト)] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／"ノアの怪物"杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840 yen '01.02
[表紙：橋本真也 (イラスト)] ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言／W★ING 史上最凶の歴史を紐解く

純プロレス戦国絵巻!
no.37 840 yen '01.04
[表紙：小川直也 (イラスト)] 安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!／アブダビコンバット01ー大探検記!／シュート活字×ファンタジー活字

小川直也は是か非か?
no.38 840 yen '01.05
[表紙：髙田延彦 (イラスト)] 忘れ物の正体は――。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル／プロレススーパースター列伝 阿修羅原

前田日明は是か非か?
no.39 840 yen '01.06
[表紙：前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40 880 yen '01.07
[表紙：アントニオ猪木] 蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41 880 yen '01.08
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!／W☆INGの真実・茨城清志

アントンパワー大爆発!!
no.42 880 yen '01.09
[表紙：アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実"辻よしなり／高山善廣×宮戸優光×金原弘光

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880 yen '01.10
[表紙：桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880 yen '01.11
[表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴／ハンス・ナイマン&ディック・フライ

一寸先はハプニング!!
no.45 880 yen '01.12
[表紙：アントニオ猪木 (ホームレス姿)] 悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談／プロレススーパースター列伝 グレート小鹿

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880 yen '02.02
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880 yen '02.03
[表紙：桜庭和志] 奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880 yen '02.04
[表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田／アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?／破壊王が火のヤリ特訓!

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880 yen '02.05
[表紙：桜庭和志]「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880 yen '02.06
[表紙：橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880 yen '02.07
[表紙：橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880 yen '02.08
[表紙：桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ! マット・ガファリ／川村社長ガチンコ語録!

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880 yen '02.08
[表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット

驚ガクの6周年記念号
no.57 840 yen '02.11
[表紙：高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58 880 yen '03.01
[表紙：武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880 yen '03.02
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス／爆発!! WJマグマ語録／中村和裕

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60 880 yen '03.03
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気／あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880 yen '03.04
[表紙：橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン／エンセン井上×金原弘光

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880 yen '03.06
[表紙：橋本真也&小川直也 (イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!／憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900 yen '03.07
[表紙：桜庭和志] "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880 yen '03.10
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880 yen '03.11
[表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦／曙とは何者か!?／一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72 840 yen '04.03
[表紙：ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／K－1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880 yen '04.04
[表紙：小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド／キックの名伯楽登場!

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880 yen '04.05
[表紙：小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880 yen '04.06
[表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統／インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880 yen '04.07
[表紙：桜庭和志] 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880 yen '04.08
[表紙：小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ／サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840 yen '04.09
[表紙：小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／K-1のトップが小川を語る 谷川貞治

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880 yen '04.10
[表紙：桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／スーパーひとし君登場! 草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82 890 yen '04.12
[表紙：桜庭和志] "道場破り"の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880 yen '05.02
[表紙：セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司／前田日明復活大特集!!

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860 yen '05.04
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 860 yen '05.05
[表紙：吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販申し込み方法

▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamiproHand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com
※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。
※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気部のページ

エレクトリック Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand（以下『Hand』）』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！ 一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『Hand』をこのページではちょっとだけ紹介させていただきます！

「週刊ファイト」休刊となったいま “ファイト三銃士”のコラムがまとめて読めるのは『kamipro Hand』だけ!!

携帯サイト『kamipro Hand』では、曜日ごとにコラムを配信中。もはやおなじみとなった月曜・木曜・金曜のコラムをここでは一部紹介。“ファイト三銃士”、別名“歴代・プロレス専門誌名物編集長”のコラムが毎週読める贅沢な媒体は『kamipro Hand』だけです!!

日曜コラム 井上義啓・i編集長の喫茶店トーク（10月1日更新分より抜粋）

9月30日の『K-1 WORLD GP 2006 IN OSAKA』開幕戦。“発展途上国”であることは分かっていたが、チェ・ホンマン（ジェロム・レ・バンナと対戦 延長戦で0-3の判定負け）の闘いぶりを見ていて、何とかならないものか、とまたしても考え込んでしまった。巨体で怪力、しかも運動神経も立派に合格なのだから、その武器をもっと生かすべきだ。あれだけ打たれ強くディフェンスにたけている男はいない。だから、自信をもって立ち向かうべきである。さすがのバンナも攻めあぐねて、倒すきっかけさえ掴めなかった。

「本人（ホンマン）には分かっているのかねえ。自分の打たれ強さとつけ入るスキを相手に与えていないってことが……」と私。

「持っているとは思えませんねえ。そうであれば、もう少しガンガン行ってますよ」とプロ格者。

「そうなんだ。少々、体勢が崩れてパンチ、蹴りをもらうことがあっても、あの男はよほどのことがない以上、倒れない。それなのに、あの慎重な闘いぶりだ。解せんねえ。プロとは、いかに見せ場を作って、お客をドッと湧かせるかが全て。勝たねばならないが、その前に、“ゼニの取れる試合ありき”だ。負けたって恥にはならない。それなのに、あの慎重さぶり。ホンマンの近くにいる連中――コーチなんかだが、それを指摘しないのだろうか」

「そうですよ。私なら、ズバッと言いますよ。（マイク・）タイソンぐらいの大物になると、うかつなことは言えませんけど……」

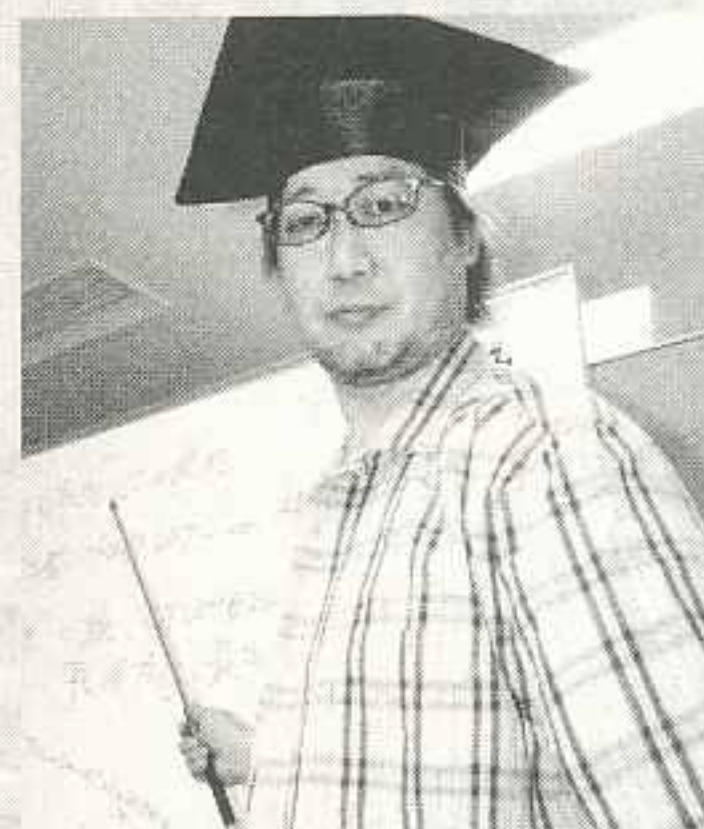
とにかく、ホンマンの試合は面白くない。それが証拠に、ベッドに戻って見ていたのだが、ついウトウトとしてしまった。さすがに職業意識。プロ野球や大相撲のように寝入ってしまうことはなかったが、私をベッドに戻すようなことではどうにもならない。

そこで、谷川貞治K-1代表にお願いだが、もう少し、ビシビシ言ってやって下さい。あなたは優しすぎるんです……。

木曜コラム ターザン山本！のラブレター・フロム・葛飾（10月5日更新分より抜粋）

アルバトール・ダリ様

みんなさあ、プロレスや格闘技の試合を観に行ってる場合じゃないよ。もうプロレスなんてビッグマッチができなくなったんだしさあ。東京ドームで興行できないんでしょう。それって最悪なんだよね。それならさあ、上野の森美術館でやってちる「ダリ回顧展」を観た方が100倍楽しいよ。面白いよ。それも彼女や恋人と行ったら最高だね。で、お前は誰と行ったかって？ もちろん野郎とさあ。彼女なんかこの年齢（60歳）になっているわけないでしょう。誰もオレなんか相手にしないさ。そんなこと言われなくてもわかっている。家でＡＶビデオを見ながらマ●かいているのがやっとだよ。そんなもんだよ、トシを取るということは。でもダリはいいよなあ、ホント。客でいっぱいだよ。日曜・祝日は30分ぐらいの時間待ちになるのだ。若い女性ファンも多いしさあ。ついダリのグッズなんか買ってしまってさあ。とにかく絵がいいよ。わかりやすいよ。それに刺激的で魅力的。ぜひ、ぜひ、ダリ展は観に行くべし。終わったら上野で一杯やる。それでどう？

※北朝鮮から『HERO'S』まで、ターザン山本！ さんの書きっぱなしなラブレターは、毎週木曜日に複数公開中!!

金曜コラム 金沢克彦の「やがて鐘は鳴る」（10月5日更新分より抜粋）

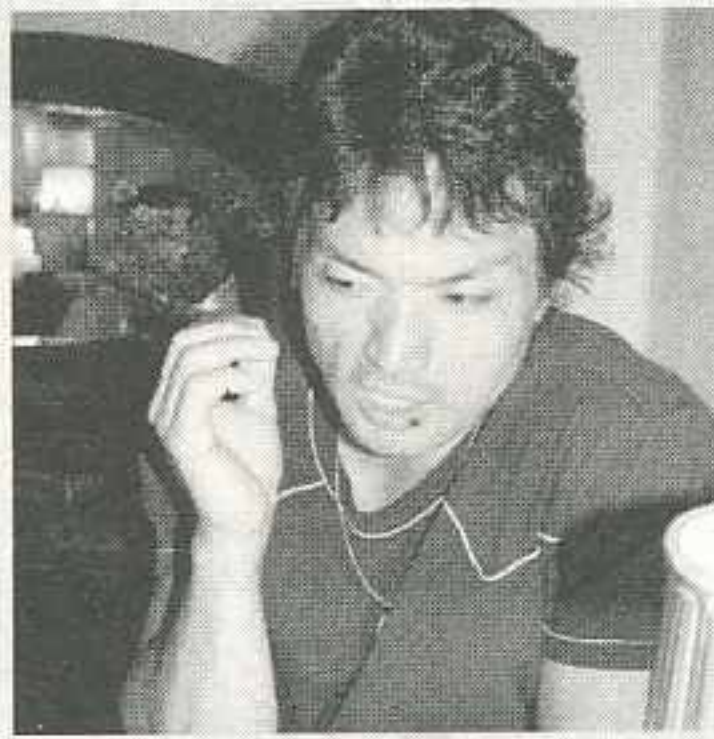
……さて、当の石澤は4日に滞在先のニューヨークから帰国した模様。当日夜、電話を入れてみると、相変わらずのカシン節を連発。

「ニューヨーク？ いや、知らない。ずっといましたよ、日本に」とすっとぼける。「いやいや、ネタは上がってるよ。タイガー服部さん（ニューヨーク在住）から聞いたもん」と突っ込むと、「いろんなところにスパイがいるようだな。“ところ”といえば、所クンと金子賢の試合がえらく盛り上がってるようでよかったじゃないですか？ 桜庭欠場の穴を埋めたんじゃない？ さすがは前田日明だな！」と、そこは私と同意見。試合そのものに関しては「まあ、急に話が来るのも慣れちゃったからね。試合は試合でいいんだけど、セコンドがいないんだよ。藤田はどっかに行っちゃった（海外？）みたいだし、高橋クン（義生）にもまだ連絡とってないし、ボンバー（斉藤レフェリー）は働き者だから全日本が貸してくれないだろうし、永田裕志はナガタロックのオリジナル新作Tシャツの販売とエニシングの宣伝で忙しいし、こうなったらアナタでもいいんだけどね」と言う。

当日、私が新日本の両国大会でテレビ解説の仕事が入っていることを告げると、「そうか、そりゃそっちの方が大事だよ。オレのセコンドはギャラ出ないからね。まあ、両国がんばってください。陰ながら応援してます。そうだ、明日でも永田の店に行って噂のYOSAで解毒してこよう。永田クンのように透き通った心で試合に臨まないと。うん、それがいい！」と1人で納得すると電話を切ってしまった。う～む、約20分ほど会話したのだが、結局、内容はこんなもの。読んで分かる通り、言葉の端々から石澤の闘志が伝わってくる（って、まるで伝わってこないか!?）。

続きは携帯サイト『kamipro Hand』へアクセス！

読書（？）の秋、『Hand』ではロングインタビューを掲載！

今月号掲載の（株）ファースト・オン・ステージ代表中村祥之インタビュー、AKIRAインタビューのロングバージョンを近日、Handで公開予定！ ページの都合で載せきれなかったあんな話やこんな話も『Hand』ではがっちり掲載！ 10月更新のスペシャル・ボイスも大好評のスタン・ハンセンには、なんと「30の質問」を敢行！ リビング・レジェンドの意外な素顔が分かっちゃう!?

⬅写真は中川画伯による「PRIDE無差別級GP」優勝記念、ミルコ・クロコップイラストカレンダー！ 時事ネタも取り入れた中川画伯の新作イラストの他に『kami-pro』誌面未公開ショットも多数配信！

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

「kamipro」で一発検索!!

キャリア				
DoCoMo	iMenu	メニュー/検索	スポーツ	格闘技/大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
Soft bank	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技
WILLCOM	趣味&スポーツ	スポーツ	総合	
	エンターティメント	TV・メディア・本	本	

kamipro Hand

［QRコード］

本誌でも大活躍中の巨漢ライター、橋本宗洋氏の「格闘まいう～通信」は毎週水曜更新！

おまえは何を企んでるんだ⁉

GPWA構想、女子プロレスへの参入……

ファースト・オン・ステージ代表

中村祥之

気になる！　気になる!!　いま、この人が最も気になる!!!　ZERO1・MAXのみならずGPWAにも尽力、さらにはプロレスリングSUNを旗揚げし、女子プロレス界にも参入を果たしたファースト・オン・ステージ代表、中村祥之。業界の悪しき風習に背を向け、新しいことに挑戦し続ける男が、激白した！

聞き手／ささきぃ　構成＆撮影／辻ちゃん　designed by bun-chan (Two Three)

――今日は、いまの中村さんが何を企んでいるのかを聞きにきました！（笑）。

中村　アハハハ！　ああ、GPWAの話するんならちょっと待って。ちゃんとネクタイするから（笑）。

――そういうところから大事にと（笑）。さっそくですけど、中村さんがやられてきたことって、従来のプロレスの枠を壊して世間に訴えていくことを中心にやってこられたと思うんですよ。

中村　うんうん。

――でも、最近の中村さんがおやりになっているのは、他団体との関係だったりプロレス界全体を大事にするGPWAであったり、さらには突然女子プロレスを旗揚げされてみたりですとか、これまでやられてることとは真逆に見えたんですよね。それはどうしてなんだろう？　と。

中村　あのね、今年5月で40歳になったんですよ。

――おめでとうございます（笑）。

中村　40歳になって、プロレスに携わって約20年なんです。俺は50歳すぎてプロレスにしがみついてちゃいけないと思ったの。僕らが20代、30代の一番働けるときには、その50代の権力者に刀振り回されて、やりたいことをやれなかった。たぶん、いろんないいアイデアがあったと思うんだけど、先輩とかいろんな人に話聞くと、40代の後半から50代以降の人は刀振り回すわけですよ。自分たちの論法を否定されたら、若い人の意見は出てこないんだよね、絶対に。そこで、自分が40～50歳になったら同じような存在になるんじゃないかな

と危険を感じた。

——たくさんいる先輩たちのように（笑）。

中村　そうそう。例えば歳取って、自分のやることがなくなって、やれ業界のためだとかってよく言うじゃない？　だけどはっきり言うけどさ、「何が業界のためだ！」っていう意見が俺の中で強かったの。それは自分たちの仕事がなくなるから、そうやって言ってるだけであってさ。成功したことは「ほら、俺が言ったとおりだ」。失敗したことに関しては「ほら見ろ、俺が言ったとおりじゃないか」。そういう人間になりたくないと思ったわけよ。だから50歳になったら、プロレス界を支援する立場になりたいなと。団体個々もそうだけど、プロレス界全体をフォローできる企業スポンサーをつけるためのファースト・オン・ステージであったりとか。単純だったんだよ。人のふり見て我がふり直せで（笑）。

——偉大な先輩たちの後ろ姿を見て（笑）。いまファースト・ステージという事務所自体も、ずいぶん変わりましたよね。

中村　ここを借りて約2年になりつつあるんだけど。最初はいざ作ったもののどうすりゃいいんだって。

——神棚置いても落ちてきたり（笑）。

中村　そうそう（笑）。思い起こせば悲しいところから始まったじゃない？　金もなく人もなく、あるのは机5つと神棚（笑）。

——机も増えましたよね。

中村　そうね。3倍ぐらい。あともうちょっと増やすんだけど。だから金がなければ何もできないというところから見ないで、なくてもできるんだということだよね。

——最初はなくてもだんだんプラスにしていけばいいと。

中村　そうそう。

——備品が増えていくにあたって、営業の人とかも……。

中村　沖田を含めちゃえばいま6人。

——団体はいくつありますか？（笑）。

中村　ZERO1−MAXでしょ。SUNでしょ。二つしかないじゃん。

——いや、噂によるとキングスロードとBMLが傘下に……。

中村　ああ（笑）。BMLはべつにウチの団体じゃないから。何かやるときにはファースト・オン・ステージとしてサポートしてあげられるノウハウとか。たとえば後楽園やるんだったら、ファースト・オン・ステージの名前でやってあげれば発券作業とかも簡単だし。そういうのはやってあげられるんじゃないかなと。

——キングスロードは、5月に団体存続を賭けて対抗戦をやって、本当に団体がなくなったんですよね。

中村　俺が「もう辞めたほうがいいんじゃないかな」と感じたのは、NOAHがキングスロードに出たよね。でもガラガラだった。ということは、いまのプロレス界って顕著にそれが出てて、その団体のステーションパワーがなければ、いくらそこに有名人が集まっても、客が入らないんだよね。

——「○○参戦！」で客が集まるわけではないと。

中村　そんな時代じゃないと僕はもう思ってるんですよ。あれ以上やったって毎月赤字がかさむだけで、最後には誰かが被害者になるのが見えてたから。ただ、団体でも得手、不得手があって、あの団体の得手は高橋さんという営業部長。僕は高橋さんとスタッフをなんとかしなきゃと思った。だからファースト・オン・ステージの中で高橋さんをオッキーの上の営業部長のホストに入っていただいて、そのぶん若い子も請け負ったし。

——あの～、正直、ここまでの考えをおうかがいする前は「突然GPWAや女子をやりだしたり、いろんな団体と組んだりして、中村さんはちょっと病んでるんじゃないか」と思っていたんですよ（笑）。

6～8月は病んじゃって、ホントにつらい時期だった……

中村　あぁ（笑）。でも、もしかしたらね、いまの考え方にならなかったら、やめてるとは言わないけど、たぶん病んでたね。いまは病んでないんだけど。3ヵ月ぐらいアメリカに消えてたような気がするね。一つ理由があって、DSEには悪いけど、『ハッスル』の地上波が消えたじゃない？　あれで張ってる糸が切れた。

——年末からそういうことを考えて、張ってた糸が6月で切れたと。

中村　そう。切れた。『ハッスル』がいまでも一生懸命やってるのはわかるよ。だけど、地上波がなくなったということでここ数年賭けてきたものがプツンと切れた。それから自分のブログでも草間とやり合ったり、病んでるんだよね。なんかわからないんだけど、村上さんのところに行ってみたり。

——急に（笑）。なんか読めない行動に。

中村　走りだしたんだよね、自分でも。その中でもGPWAのものも進めていかなければいけなかったし。病んでる中での出来事だったから、振り返ってもあんまり憶えていないね。

——6～8月とつらい夏だったんですねぇ。

中村　つらかった～、ホントに。ホントつらい夏だったよ。そのときのショックったらなかったね。もうお先真っ暗。ただ運良く『火祭り』があったからね。あれで半ば自分は投げ

GPWAとは?

プロレス界史上初となる統括組織。正式名称はグローバル・プロフェッショナル・レスリング連盟。9月12日、ディファ有明で設立会見が行なわれ、会長にNOAH代表の三沢光晴、事務局長に中村祥之が就任した。事業概要として加盟団体の興行日程調整、統一ルールの策定、共同道場の設立、レスリングの広報活動などを掲示。現在、国内の加盟団体はNOAH、ZERO1・MAX（代表・大谷晋二郎）、BML（代表・村上和成）、健介オフィス（代表・佐々木久子）、DDT（代表・高木三四郎）、K-DOJO（代表・TAKAみちのく）、IWA JAPAN（代表・浅野起州）、El dorado（代表・川畑憲昭）。海外の加盟団体はEWA、ROH、WLW、WORLD-1、加盟選手は高山善廣、鈴木みのる、越中詩郎、安田忠夫、冨宅飛駈、NOSAWA、MAZADA、菊タローとなっている。

マット界の出来事で追う中村代表、心境の変化

●GPWA構想に燃える（05年末）
ZERO1・MAX05年最終興行の12.23後楽園大会。メインでは大谷が大森に勝利。セミでは耕平が川田に善戦するも敗れる。新日本から稔、後藤洋央紀、山本尚史が来場し、一触即発の場面も。40歳を前に中村代表はマット界統一機構設立を頭に描いていた。

▼▼▼

●不惑の年、新しい挑戦へ（06年5月）
高橋奈苗、Hikaru、プロデューサーF氏と会談した中村代表は、女子プロレスに興味を持ち始める。40歳になり、「このまま歳を取って小●みたいにはなりたくない！」という思いが強くなる。

▼▼▼

●精神的に病んでしまう&ため息男になる（06年6月）
6.17『ハッスル・エイド2006』の地上波放送が中止に。緊張の糸が切れてしまった中村代表は草間氏とブログでやり合ったり、本人でも読めない方向へ走り出してしまう。出るのはため息ばかり……。

▼▼▼

●元気になる&再び野望に燃える（06年7月～現在）
7.14新宿FACEでの『高橋奈苗デビュー10周年記念興行』をファースト・オン・ステージが全面バックアップ。ついに中村代表は女子プロレス参入へ動きだす。さらに7.20後楽園の『火祭り』開幕戦。大谷 vs 村上を観た中村代表は「やっぱりプロレスはおもしろい！」とふっきれる。再びGPWAにモチベーションを燃やし始めた。

女子プロレス関係者必見！
～中村代表によるロングテールの法則～

ビューティペア
クラッシュギャルズ
北斗晶

現在の女子プロレスラー

中村代表がホワイトボードを使い、ささきぃにレクチャー！女子プロレスにたとえると（上図グラフ参照）、盛り上がっている部分がかつてのビューティーペアやクラッシュギャルズ、北斗晶など大人気を誇った選手。平らな部分がその他大勢となる。現在は盛り上がっている部分がカットされ、平らな長い尻尾（ロングテール）しか残っていない厳しい状況だ。この現象は女子プロレスだけでなく、他の業界でも言えること。要するに、世間に届かせることが必要なのだ！

だして、選手任せにできた（笑）。で、『火祭り』の初戦を上からじっくり観てて、「あっ、プロレスっておもしれえな」って思った（笑）。

——お客さんみたいに（笑）。

中村　あそこらへんから病み上がりが治癒してきた。「いや～プロレスってやっぱおもしろいな」って（笑）。

——あの日は非常にいい大会でしたよね。

中村　そうだね。単純に荒んでた自分の気持ちをあれで少し（笑）。やっぱりプロレスに感謝しなきゃなと。あそこらへんからGPWAを「よし！やんなきゃ！」と。

——「俺はプロレスを守るんだ！」と（笑）。

中村　そうそう（笑）。へんな50歳になっちゃいけないって。

——昨日、新たな試みとしてSUNが旗揚げされたわけですけど、女子プロレス界という魑魅魍魎の世界で旗揚げするということになって覗いてみた最初の印象はいかがでしたか（笑）？

中村　「何やってんだ、こいつら？」って。

——アハハハハ！　中村さんはずっと男子のプロレスをやってこられて、初めて女子の世界を覗いてみた。カルチャーショックみたいなものは大きかったですか？

中村　あった、あった。女子プロレスのいまの根源って〝スポンサープロレス〟なんだよ。いわゆるタニマチプロレス。応援してくれる人のためにやるんだよ。

——ファンもかなりタニマチに近い関係というか。

中村　そうそう。「誰々が応援してくれるんで」「切符を10枚買ってくれるんで」。たとえば〝ロングテールの法則〟ってあってさ。こういうことなんだけどさ。俺も教わったんだけど（ホワイトボードに図を書き始める）。女子プロレスって所属が20人いたら、一人30枚売れっていうお客さんがいたら600人。それしか入らないんだよ。

——ここ（長い部分）にはたぶん、以前は北斗さん、クラッシュギャルズ、ビューティーペアだったりとかがいたけど、ここがなくなって、平らなところだけが残った状態と。

中村　そうそう。尻尾だけが残った。団体の人数が20人抱えてれば、30枚売ったら600人になる。それ以上でもなく、それ以下でもなく。プレイガイドで爆発的に売れるかといったら、売れないんだよ。売店で各団体持ち回りで、選手から直接買うんだよね。いや、それも必要だけど、プレイガイドで何枚売れて、何人当日来るかっていうのが団体としての規模じゃない？

——そうでしょうね。たとえばコンサートでいえば、シングルで一曲売れた曲を聴きに行くという人ですよね。

中村　そうそう。

——でも、いま女子プロだとアルバム全部持ってる人しか来ないと（笑）。

中村　そうそう！　そういうこと。俺は今後も支援者プロレスってやる気もない。それやらなくちゃいけなくなったら、もうたたむ。SUNだから3ヵ月で終わってもいい（笑）。

——アハハハハ！

中村　（振り返って）あ、聞いてるヤツがいた（笑）。

Ｈｉｋａｒｕ　〝SUNは3ヵ月〟って言ってまーす！

——中村さんは選手たちと一緒に勉強してるという話をおうかがいしたことがあるんですけど。

中村　うん。（Ｈｉｋａｒｕに）させてるよね。

Ｈｉｋａｒｕ　はい。私、小学校のときも勉強してなかったから、ホント生まれて初めてぐらいの勢いでモノを書いたりとか。

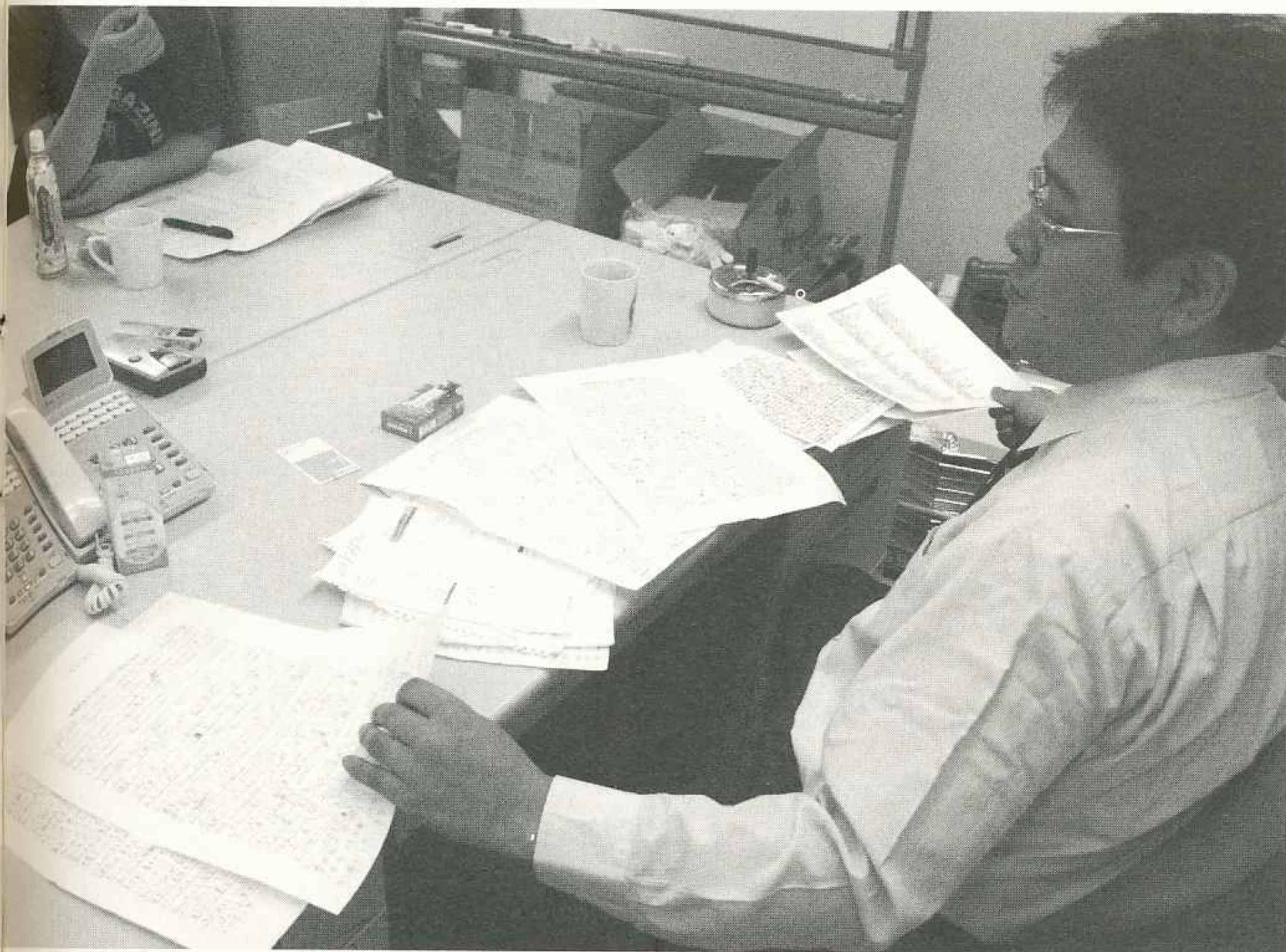
——「何々について考えろ」って言われて、それを考えたりしてるんですか？

Ｈｉｋａｒｕ　そう。作文とか書かされるんですよ。

最初、女子プロレスを観たとき、「何やってんだ、こいつら？」って思った

中村　レポートとかこういうふうに書かせて、全員に。勉強会はまたあとなんだけど（資料を出す）。

——うわぁ～（笑）。これは人間としての再教育みたいなことですよね？

中村　そうそう。まったく勘違いしている彼女たちの脳ミソを……彼女たちの頭の中では、どこか自分たち

SUN所属の4選手が「今後の女子プロレスはどうあるべきか」についてレポート。身体を動かすことだけがプロレスラーの仕事ではない。考えて、考えて、知恵を振り絞ることも必要なのだ。

サングラスかけて客入るなら、俺はマワシでリングに上がるよ！

が有名人だっていうのがあるんだよね。かわいそうだけど、奈苗とHikaruには、徹底的に意識改革をしなければ、女子プロレスの復活はもう永久にない。

―少なくともあの二人がここで成し遂げることができなかったら、できないよと。

中村 あの二人ができなかったら、もうできないな。だから奈苗とHikaruには悪いけど、彼女たちのプライドなんてズタズタにしてると思うし。まあ、それでもやってるんだから。嫌なら逃げていくだろうし。逃げていったら、復活もないし。いまやらなかったら、こいつらはもう終わりのところまできてる。男で言えば、悪いけどインディー以下だよ。「こんな世界に俺、首突っ込んじまったのか」と思って。いざ、直接自分が入ってみたら……ひどいなんてもんじゃないよ。

―「ひどいなんてもんじゃないよ」（笑）。

中村 いや、ホントだよ。まずは自分たちの人気で自分たちが食えるようになる教育をいましてる。俺たちもそうじゃない？ 自分たちで興行やって、自分たちで食べていく。彼女たちも自分たちの力でやってけば、スポンサーにヘコヘコしないでいられる。それは選手がすることじゃなくて、フロントがすることだから。でも、ここに来たってことは、彼女たちもあまり好かれてないんだろうね。

―ほかの団体からということですか？

中村 そうそう。だってなかなか来ないでしょ。男の団体なんだから。群れないという、その気持ちがいいなと思った。「あっ、こいつら嫌われ者だな」って思った（笑）。

―嫌われ者（笑）。でも、SUNの選手教育みたいなものにしても、50歳になって突然女子を相手にし始めたら誤解されそうですしね（笑）。

中村 そうそう。だからホントにさきぃな、50歳になっていまの業界の小●みたいになりたくないんだよ。

―ホントに嫌なんですね（笑）。

中村 嫌なんだって、ホントに。だから俺がなんで三沢（光晴）社長にいろんな意味でお願いしたかっていったら、三沢さんこそそう思ってる先駆者じゃないかなと思った。

―若い人に出てきてほしいと。

中村 そうそう。だって、自分はメインどころで試合しないし。陰に隠れて。言葉は悪いけど、ジャイアント馬場さんが晩年、第3試合とか出てたじゃない？ あれを言葉では言わずに実践してるのが、じつは三沢さんじゃないかなと思う。小橋（建太）さんはいま休んでるけど、秋山（準）さんとか、その下の丸藤（正道）クンとか、KENTA選手とかに任せてるじゃない？ メインどころを。あれ見たら、いま一番入ってると言われてるNOAHがスイッチをしてるのに、俺たちみたいなちっちゃいところが、ホントは先にしなきゃいけなかったと思った。NOAHさんというのは、追わないよね、失敗を。見切りが早い。その点、新日本は引っ張るんだ（笑）。

―NOAHさんはフリー選手の使い方が凄くうまくもありますし、残酷でもありますよね。

中村 だけど、あれがプロレス界だよ。

―いまの新日本はフリー選手に優しいですからね（笑）。

中村 あのさ、いまの新日本を見ていて一つだけ言いたいのは、社長がサングラスかけて客が入るんなら、俺はマワシでリングに上がるよ。

―アハハハハ！

中村 俺がカツラ被ってもいいし、ハゲでもいいし。俺はふんどしでリングに上がる。でも、そうじゃねえだろって。俺はもう全然、それでお客さんが喜んでもらえるんだったら、なんでもやりますよ。

―その代わり、ちゃんと来いよと（笑）。

中村 そうそう（笑）。それで会社が裕福になるんだったら、僕はもうなんでもやります。でも、そんなんじゃねえと思うんだよな、プロレスの良さって。その類にいったら『ハッスル』には及ばないよ。そんなんじゃ髙田総統には永久に勝てないよ。

―髙田総統はサングラスレベルのお方じゃないですからね（笑）。GPWAの話なんですけど、三沢さんがトップになっているということで、団体がやってたのでは客観性というか、「第三者が組織するものにしなきゃいけないんじゃないか」と草間さんが言ってたんですけど（笑）。

中村 だから言うのは簡単だろって。言葉は悪いけど。「言うのは簡単だけど、あなた方、何かやったんですか？」って。

―まあ、そうですよね。

中村 しかもこれができたことによって、誰かの生活を脅かしてるものでもなんでもないじゃない。でも、僕たちの中での三沢さんの立ち位置、考え方というのは「やっぱりすげえな」ってみんなが共感したから、三沢さんにあえてお願いしたんであって。「みんなが必要だから、みんなでやりましょう」ってやったら、「あんなのはダメだ」って（笑）。へんな野心とかはGPWAの中にはないんだよね。みんなべつにお金に困ってる人がいるわけでもなく、自分たちの生活は自分たちで賄いながら、その中でやっていこうというような、支出が極めて少ない連盟だから。そこでのお金の争いというのはないんだよね。

―お金が絡む話ではないと。

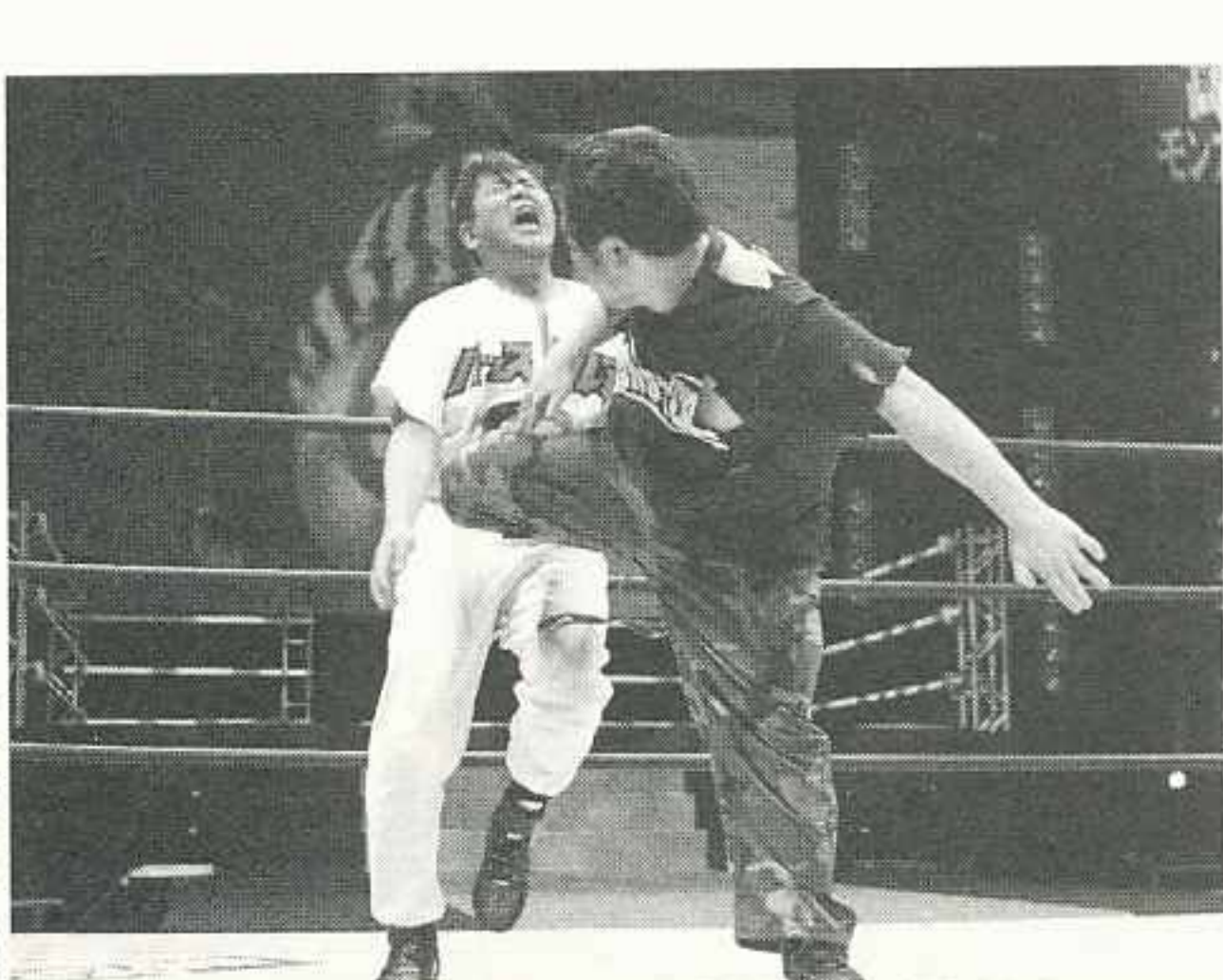
中村 そう。お金が絡まないと争いが起きないんだよね。人間の文化というのは（笑）。だからいいなと思って。

―中村さんの先輩にあたる、上井さんがいま上井ステーションをやろうとしてるんですけど（※インタビュー後に延期が決定）いま上井さんに対して、中村さんが思うところというのは？

中村 う～ん。まぁ、業界の先輩だからもしなんか協力依頼があれば話はしますけど、僕からいまの立場の上井さんに協力を求めることはない。

―中村さんのほうから求めることはないでしょうね、たぶん。

こんなにリッチになりました!? ファースト・オン・ステージ事務所のあゆみ（備品含む）

	設立当初（04年11月）	現在（06年10月）
所属団体	ZERO1・MAX	ZERO1・MAX、プロレスリングSUN（キングスロード）
所属選手	10人	20人
営業	3人	6人
ロッカー	1本	5本
机	5台	16台
電話	6個（使用できるのは2個）	14個（回線は8本）

「ハッスル」では中村カントクとして、試合にも出場。因縁の相手・島田二等兵とは昨年の3月、両国大会でシングルマッチを行なっている。デスクワークだけでなく、まさに身体を張るアンタは偉い！

みんなが「プロレス大好きだー！」って言えるように俺はGPWAをやっているんだ

中村　僕はないね。まったくないですよ。ただこれ以上、プロレス業界に携わって苦労したんだっていうような人を露出するのを、俺はどうかなと思う。「俺はつらくてもやってるんだ」とか、そんなので人が何千人来るほど、この業界は甘くないんだ。やっぱり内容じゃない？

——もちろんですね。

中村　でしょ？　だから切腹覚悟とかマジでやめてくれっての。「どんなに悪いんだ、この業界は？」って話じゃない？「興行で人が腹切んのかよ！」って。誰が上井さんの切腹見たいのよ？

——見たいと言えば見たいですけど、それはプロレスの大会じゃなくて、単なる切腹への興味ですね（笑）。

中村　だったら後楽園ホールじゃなくて、どっか道端でやればいいじゃない（笑）。業界でこれ以上、プロレスに関わって大損したとか言ってもらいたくないし。またプロレス界ってさ、負のニュースは伝わるのがはえーんだよな（笑）。もっと明るい話題をさ、上井切腹とかよりも〝上井炎上〟とかさ。

——まだこっちのほうが明るい話ですね（笑）。

中村　そうそう。せめて、突き抜けてたほうがよくない？（笑）。俺としては、この業界に携わった人が切腹なんてしないで、最低でもゆっくりごはんが食べられて、生活できるようになっててほしいのよ。その母体がGPWA。

——ZERO1・MAXについては、いま中村さん自身がリングを客観的に見ているというか、そういう感じが伝わってきますけど、そのあたりはいかがですか？

中村　逃げ口実じゃないけど、俺は基本的にプロモーターだからね。一歩引いて、ファンの反応を見てみて、必要なものと不要なものを俺は分別させてもらう。こないだから始めた『ZERO―SUN　NEXUS』についても、女子プロレスを観たいというお客さんもスポンサーもいるので、女の子を連れてきてくれないかってなったときに、「じゃあ、試しにやってみましょうか」と。

——ああ、そういうものだったんですね。

中村　そう。自分たちでやってるようなんだけど、じつはプロモーター側の意見を汲み入れて、プロモートしてる。

——地方で言うとこのあいだ、自分の帰省がてらに久しぶりに島根の興行を観たんですよ。

中村　ブッ！（コーヒーを吹き出す）。パンクラスの伊藤（崇文）さんが出たやつ？

——そうです、そうです。今回、島根大会と広島大会を拝見した限り、非常におもしろかったですね。

中村　俺は地方の試合って凄く大好きなんだけど、選手も後楽園になると気負っちゃうんだよね。周りを意識しすぎちゃったね。いまでもそうだけど。目の肥えてるファンの人たち向けに考えてるじゃない？　それをどう満足させたらいいかってさ。でも、地方のお客さんってフラットに物事を見るから。〝いま〟ある人とやってることがおもしろければいいんだから。逆に地方のほうが選手の動きがよかったりするし。

——いや、よかったですよ。

中村　そうでしょ？　だからあれをどうやって東京で表現すればいいのかなっていう。いま外国人呼んだって、お客さん入らないよ。ブロック・レスナーなんてそうじゃない？

——入りませんでしたね。

中村　あれが来て入らないんだったら、誰連れてくればいいんだって？　それだったら、ウチこそいま安く、低価格の優良ガイジンをそのパッケージの中に詰め込んでやっていったほうがいいよ。俺は行き当たりばったり男だけど、たぶん人よりはプロレスのことは多く考えてると思うよ。３６５日のうち３６０日は考えて、起きてるあいだの90パーセントはプロレスのこと考えてる。こんだけ四六時中プロレスのことを考えては壁に当たり、はね返され（笑）。この事務所だって有象無象で何人、人が出入りしてるんだっていう。

——ホントにそうですね。電話をかけたときのうるささが、明らかに以前と違いますからね。

中村　そうそう。一喜一憂団体だから（笑）。あとなんとか10年でかたちを作ってあげて残して、俺はここじゃなくてべつのところで小●にならないチームに行ってのんびりと。みんなを受け入れてあげられる人間になりたいよね。わかる？

——「おまえはダメだ、あれはダメだ」じゃなくて。

中村　そうそう。受け入れてあげられる団体の組織を作らなきゃなって。もっとみんなが大きい声で「プロレス大好きだー！」って言えるようにしたいよね。プロレスファンも含めて。

——そうですね。今日はたっぷりお話を聞かせていただいて、ありがとうございました！

中村　もういいの？　俺は一日中だってプロレスのことしゃべれるよ！（笑）。

——え～、今日はこのあたりで失礼させてください（笑）。ファースト・オン・ステージとGPWAのさらなる発展に期待してます！

【06年10月2日／ファースト・オン・ステージ事務所にて収録】

閑散としていた事務所もいまでは人が溢れ、雰囲気はこんなに明るいぞ！　高橋奈苗、前村早紀、夏樹☆たいように加え、オッキーと小林広報も満面の笑みだ！

プロレス界の異端児“マッスル Muscle”が前代未聞の初挑戦！

東京・北沢タウンホール

いま明かされる“四角いジャングル”の真実

梶原一騎世代のスーパーヒーローが久々に来日！

“マーシャルアーツ”を全世界に広めた男

ベニー・ユキーデ

Benny “The Jet” Urquidez

自らプロデュースする格闘イベント9.23『武頼漢』新木場大会のため
久々に来日を果たした格闘技界のリビング・レジェンド、ベニー・ユキーデ。
“マーシャルアーツ”を世界に広め、日本でも『四角いジャングル』など
一連の梶原一騎モノに数多く登場し、格闘技ファンのあいだでは、まさに伝説の男なのだ。
現在はムービースターとしても活躍するユキーデに当時の秘話を中心にたっぷりと語ってもらった！

聞き手／中村カタブツ君　構成／松澤チョロ　通訳／羽田善彦　designed by shiraki (TwoThree)

――今日はお会いできて本当に嬉しいです！　なにしろ、ベニー・〝ザ・ジェット〟・ユキーデといえば、劇画『四角いジャングル』の主人公で、当時の格闘技界の大スターですから！　故・橋本真也さんや小林邦昭さんもベニーさんの赤いパンタロン姿に憧れて、パンタロンを着用していたほどだったんですよ。

ベニー　それは嬉しいね（笑）。赤は私の魂とピッタリ一致する闘いの色なんだ。だから、リングに上がるときもいつも赤を着ることにしているんだよ。

――その赤いパンタロンでリングに登場して、ジャンピング・スピンキックで次々とKOの山を築いた姿は、昭和50年代の格闘技ファンのハートを鷲づかみにしました！

ベニー　私の格闘技人生は日本でスタートしたと言ってもいいものだからね。こうやって日本のリングに戻ってくると「いままでも私のハートはスクエア・ジャングルの中にある」と痛感するよ（笑）。

――心はいまでも四角いジャングルなんですね（笑）。劇画原作者の梶原一騎先生もベニーさんには惚れ込んでましたからね。

ベニー　ミスター・イッキは私にいろんな話を聞いてきたね。とくにデカイ人間と闘うときの気持ちを知りたがったよ。じつは彼は身体が大きくてマッチョの選手が大好きだったんだけど、私はそれとは正反対だろ？　でも、私は「デカイ選手と闘うことは怖くない」と言ったんだ。なぜなら、私は闘いで死ぬことを怖れなかったからね。

――となると、梶原先生は「じゃあ、デカイ対戦相手を用意する」とか言ったんじゃないんですか？

ベニー　そうなんだ（笑）。最初、ミスター・イッキが言ってきたのはキョクシンの選手だったと思う。その次はプロレスラーと闘ってみないかと言われたんだ。でも、私は「先にキックの試合をさせてくれ。そのあとなら誰とでも闘う」と言ったんだよ。

イノキも私のジムでトレーニングをしてたんだ。当時はシークレットさ（笑）

――それで1977年8月、日本デビュー戦でキックボクシング全日本ライト級2位の鈴木勝幸選手と闘ったわけですか。ところで、あの大会は新日本プロレスの「格闘技世界一決定戦」のリングで、メインはアントニオ猪木vsザ・モンスターマン戦が組まれていたんですよね（当時のパンフを見せて）。

ベニー　そうだ、これだよ（笑）。このときは私の姉のリリーも試合をしたんだよ。

――ここで、ベニーさんはKO勝ちしましたが、同じマーシャルアーツの選手であるモンスターマンは負けましたよね。俺がリベンジしてやるとか思いませんでした？

ベニー　もちろんだよ。復讐という意味ではなくて、マーシャルアーツは最強なんだってことを見せてあげたいとは思ったね。その気持ちは相手がプロレスラーだろうと、ボクサーであろうと誰であっても変わらないね。

いまは亡き破壊王・橋本真也もベニー・ユキーデの大ファンで、1992年1月4日、東京ドームでのビル・カズマイヤー戦ではユキーデを意識した真っ赤なパンタロンを着用。しかし、周囲からは大ヒンシュクをかったらしく、その後、破壊王は黒のパンタロンに変更した。

――その後、ベニーさんの直弟子のドン・中矢・ニールセンが前田日明と闘いましたね。ニールセンには何かアドバイスはしましたか？

ベニー　レスリングのテクニックをすべて教えたよ。

――じつはベニーさんはレスリングもやってたんですよね？

ベニー　ハイスクールのときにレスリングチームに入っていたし、私は柔道、空手、合気道、テコンドーなど9種類の格闘技の黒帯を持っているんだ。

――しかも、お母さんは元女子プロレスラーですし（笑）。

ベニー　そうなんだ（笑）。子どもの頃から絞め技、投げ技、押さえ込みなんかを習っていたんだ。ハイスクールのときも私がアマレスのスパーリングしていると、ときどきコーチが笑うんだよ。というのも、自然にバックドロップやチョークが出てしまうからさ（笑）。母は地元ではわりと有名なレスラーだったんで、「いまのはお母さんの技だろ」ってコーチは言ってたよ。

――女子プロのエッセンスもマーシャルアーツの中には生きていたんですね（笑）。そういうこともあってか、ベニーさんのジムだったジェットセンターにはレスリング部門（コーチはプロフェッサー・タナカなど）もあったわけですね。

ベニー　そうなんだ。そこではイノキもトレーニングしていったんだよ。

――え!?　猪木さんも！　それは初耳です！

ベニー　当時はシークレットさ（笑）。イノキには立ち技の基本を教えたんだ。構えからローキック、そしてフットワークを教えたね。あとは技のコンビネーション。彼は打撃とグラウンドの技がバラバラだったんで、そのつなぎを教えていたんだよ。

プロレス界の異端児"マッスル Muscle"が前代未聞の初挑戦!

東京・北沢タウンホール

ベニー・ユキーデ主催興行

9.23『武頼漢』新木場大会

すでにアメリカでは何大会か開催されているベニー・ユキーデプロデュース興行『武頼漢−BURAIKAN!』が9月23日、東京・新木場1stRINGにて日本初上陸。第1試合開始前には全選手入場式が行なわれ、大会プロデューサーのユキーデはラウンドガール二人にエスコートされ入場、開会宣言を行なった。

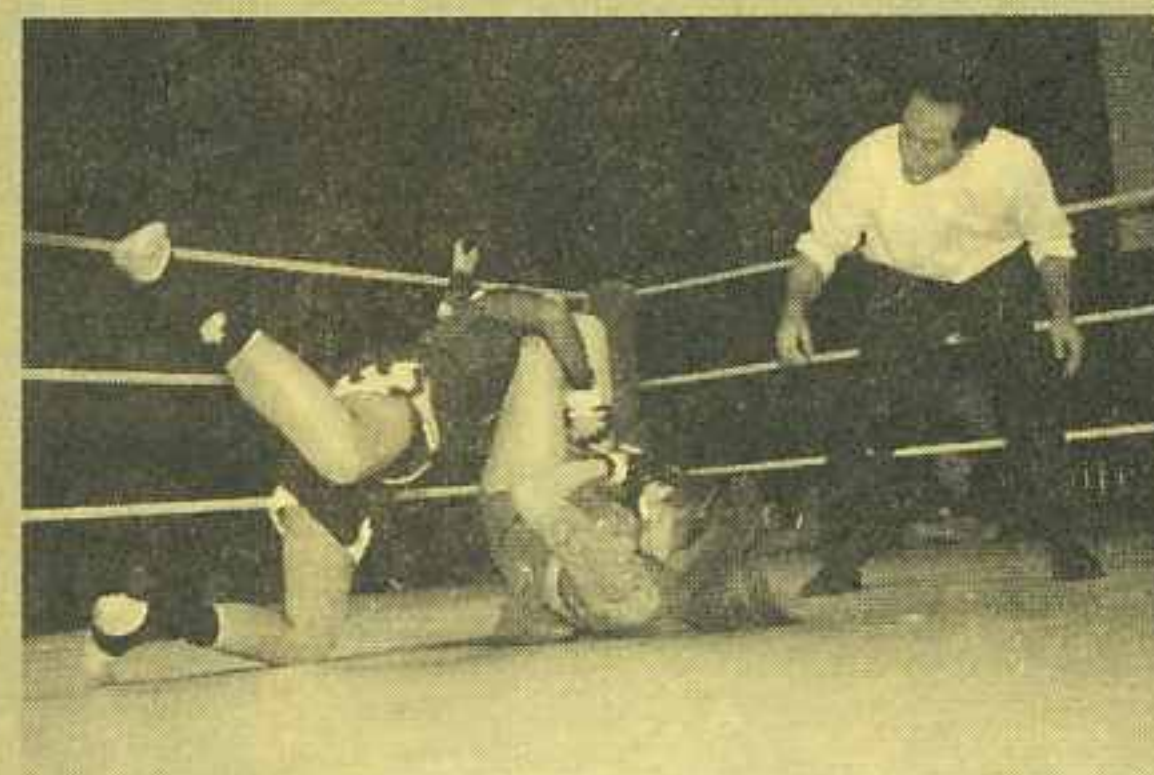
女子キック8冠王の早千予のトレーナーにして白龍ジム会長・羽田真宏(42歳)が約10年ぶりに実戦のリングに。ボクシング&キックで実績を持つ寺田新相手に羽田会長はユキーデも顔負けのトリッキーかつ鋭い打撃で相手を翻弄し、大差の判定勝利を収めた。

大会前、ユキーデに日本空手道練武館の内藤館長より七段が贈られた。この日のリングサイドには真樹日佐夫先生や新極真会の緑健児代表、客席にはエンセン井上や女子プロレスラーの市井舞らバラエティに富んだメンバーが集結!

この日のメインはユキーデの愛弟子、マジット"THE MAGIC MAN"。マジットはMAキックウェルター級7位の市川光大相手に師匠譲りのジャンピング・スピンキックなどを繰り出し圧勝!

メインの大役をはたしたマジックは試合後は師匠とともに笑顔で記念撮影。ボクシングのゴールデングローブを獲得し、テコンドーでもメダル獲得経験があるというマジット。また観たい!

メイン終了後はユキーデを中心に出場選手がリング上に勢揃い。ちなみにマッスル戦士ペドロ高石もプロ格ルールで出場、カポエイラ殺法全開で見事勝利を収めました。

キック8冠王の早千予とユキーデの弟子でモデル活動も行なうKATTの一戦は、1Rから早千予が強烈な打撃で追い詰めるもKATTも必死にパンチを放ち健闘。親善試合につき勝敗ナシ!

総合ルールで行なわれた篠原光とターザン後藤一派のジェラシーMAXの一戦は得意攻撃が「火炎殺法」というジェラシーが飛びヒザで奇襲をかけるも篠原は冷静に対処し、腕十字で久々の勝利!

——まさに総合格闘技の練習ですよ、それ!

ベニー マーシャルアーツとは空手、テコンドー、柔道、レスリングなど、各武道の一番いいところをとってきて集約したものだからね。それにイノキには私もいろんな技を教わったよ。日本に行ったときはニュージャパンの道場に行って、レスリングを教えてもらっていたんだ。夜中の12時に道場に行って一緒にトレーニングしたものさ。でも、それはシークレット(笑)。

——秘密特訓だったんですね(笑)。ちなみにどんな技を教えてもらったんですか?

ベニー あらゆる種類の投げ技と絞め技だったよ。タックルも教えてもらったね。もともと私のレスリングはジン・ラーベルから教えてもらっていたんだ。彼はプロレスの世界では"マスター・オブ・デザスター"と呼ばれた選手で全米柔道王だったんだよ。

——モハメド・アリvsアントニオ猪木のレフェリーもしてましたよね(ジン・ラーベル=7歳の時にエド・ストラングラー・ルイスからプロレスの裏技を習ったという伝説のフッカーにして、いまでも西海岸の柔術の世界では"驚異的な強さ"で知られる、ワールド・グラップリング・フェデレーション会長。また、兄のマイクはかつて西海岸地区の有力プロモーターで新日本や新間

1970年代後半に梶原一騎原作で映画にマンガに大ヒットした『四角いジャングル』シリーズ。この映画の中で事実上の主人公となっていたのがベニー・ユキーデだ。ほかにもアントニオ猪木やモハメド・アリ、ウィリー・ウィリアムス、藤原敏男らが実名で登場。まだ観てないという人は探してでも観ろ!

寿時代の初期ＵＷＦに多くのレスラーを派遣した）。

——じつはプロレスの世界とも縁が深かったんですね。

ベニー　それが私の先生なんだ（笑）。

ベニー　マーシャルアーツはすべての格闘技の要素を含んだものであり、私の人生そのものなんだ。だから、一流の格闘家とは自然に親しくなるのも当然だろう？

——ですね。では、そういった技や、猪木さんから伝授された技も含めてニールセンに教えたわけですね。

ベニー　もちろんだよ。

——じつは前田vsニールセン戦は新日本プロレスによる前田潰しの試合だったとも言われていて、前田さんいわく「俺は相手の資料としてブロマイド一枚しか渡されてないんや。でもな、相手はレスリングの技を知っていたんや」って怒っていたんですけど、もしかして猪木さん自身がニールセンに技を教えていたなんてことはありました？

ベニー　時期はわからないけど、教えていたはずだよ。ジェットセンターには3つのリングがあって、36カ国から選手が来てたんで、秘密特訓はけっこうやっていたんだ。

——やっぱり、やってたんですね、猪木さんは（笑）。でも、これで前田vsニールセンの謎がちょっと解けました。ところで、ジェットセンターといえば、木村健悟さんも特訓に行ってたんですよね。

ベニー　オー！　ケンゴ（笑）。彼は何度も来てたよ。一所懸命練習する選手で、グッドパンチャーだった。でも、その話はシークレット。

——いやいや、それはシークレットじゃありません、公表してます（笑）。

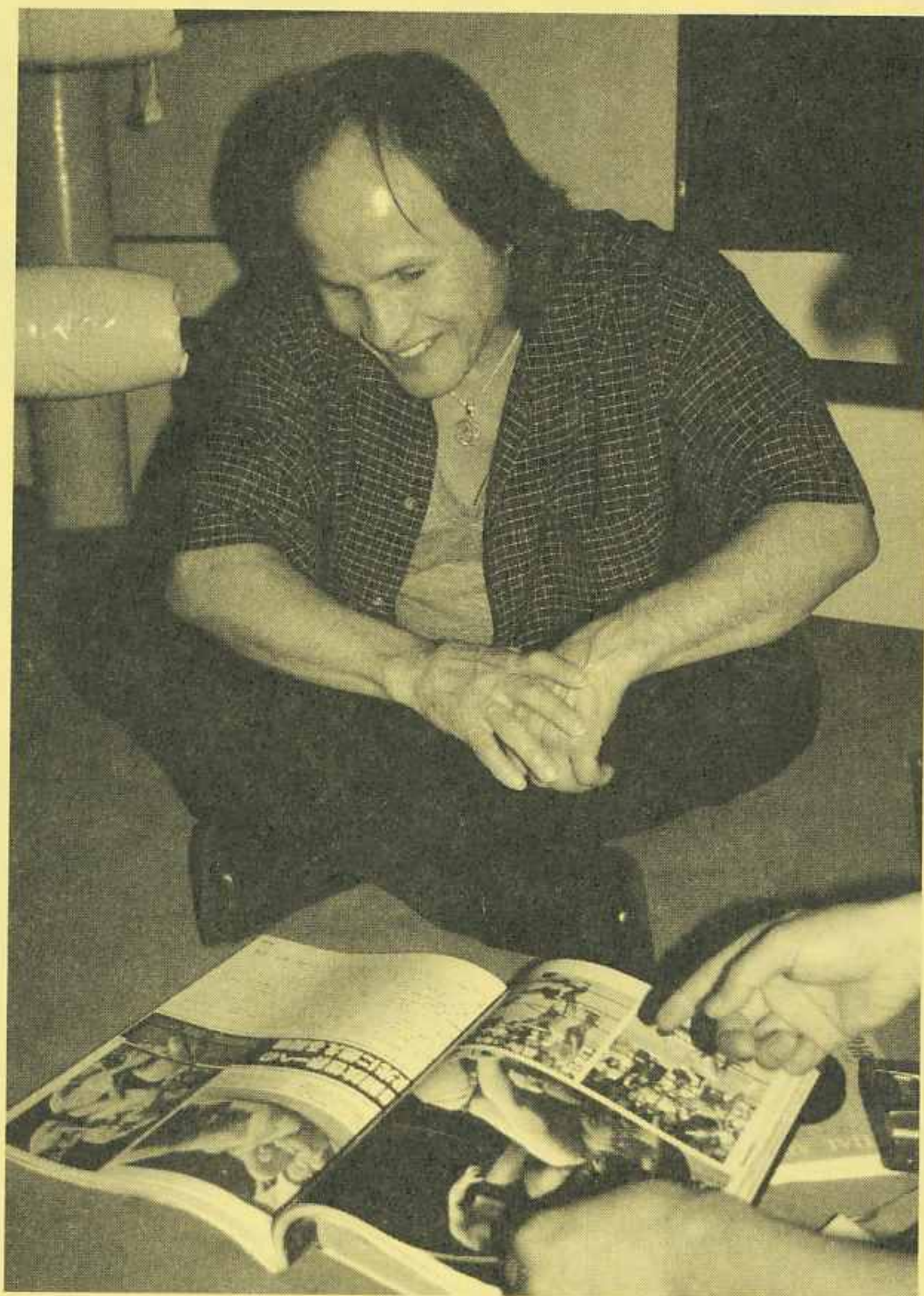
ベニー　そうだったのか（笑）。

——ともかく新日本プロレスの人たちとの交流も深かったんですね。

ベニー　もちろんさ、イノキとは親友だよ（笑）。いまでもたまに会ったりする仲だよ、ロスやニューヨークでね。それにしても久しぶりの日本は懐かしいね。

——今回、約20年ぶりの来日ということですが、久しぶりの日本で変わったところってありますか？

ベニー　新しい世代の日本人は身体が大きくなって背も高いね（笑）。肉体的には非常に強くなってると思う。だけど、彼らには精神的なものが欠けているようだね。これは一昨日サトル・サヤマとも話したんだけど、昔の日本人が持っていたサムライ・スピリットがなくってきてるような気がするんだ。

ケンゴはグッドパンチャーだった。その話もシークレットだったかな？

取材中、資料として用意した古い雑誌を懐かしそうに覗き込むユキーデ。今回の来日では、たくさんの取材を受けたというユキーデだが、ロングインタビューは『kamipro』だけ！

——あ、それはボクもちょっと聞きました。佐山さんは「ベニーは武士道のことを本当によく理解してる」って驚いてたみたいですね。

ベニー　私にはネイティブ・アメリカンの血が4分の1流れているんだ。ウォリアーの血筋なんだよ。そして日本に来て多くのサムライ・ファイターたちと闘って、私の前世はサムライだったと思うようになったんだ。ミスター・サヤマとは精神的に強くなる方法として催眠の重要性についても深く話し合ったよ（笑）。

——催眠まで！

ベニー　当然だろう。リング上ではいかに冷静でいるかが大切なんだ。つまり、ファイターはチェスプレイヤーじゃなければならないんだ。相手の2手、3手先を読んで闘うことが重要なんだよ。でも、最近はそういった選手が減ってきたよ（しみじみと）。

——永遠のライバルである藤原敏男先生やベニーさんは素晴らしいチェスプレイヤーでした。

ベニー　そのとおりさ。昨日はミスター・マキ（真樹日佐夫先生）ともお会いして、武士道スピリットを持つヒーローが必要だという話をしたね。そんなヒーローだけが次の世代に武士道精神を伝えていく伝承者になるんだよ。いま私には多くの知識と経験、そしてリングで闘い抜いてきた知恵がある。それを次の世代に受け渡していくことが天から授かった使命だと思っているよ。

——ということはこれからもちょくちょく日本に来ていただけるってことですか？

ベニー　そのつもりだよ。だけど、いま私は映画の世界のほうで忙しくて先週までニューヨークでロケをしていたし、明日もまたその撮影が待っているんだ。でも、心の故郷はこの日本なんだ。

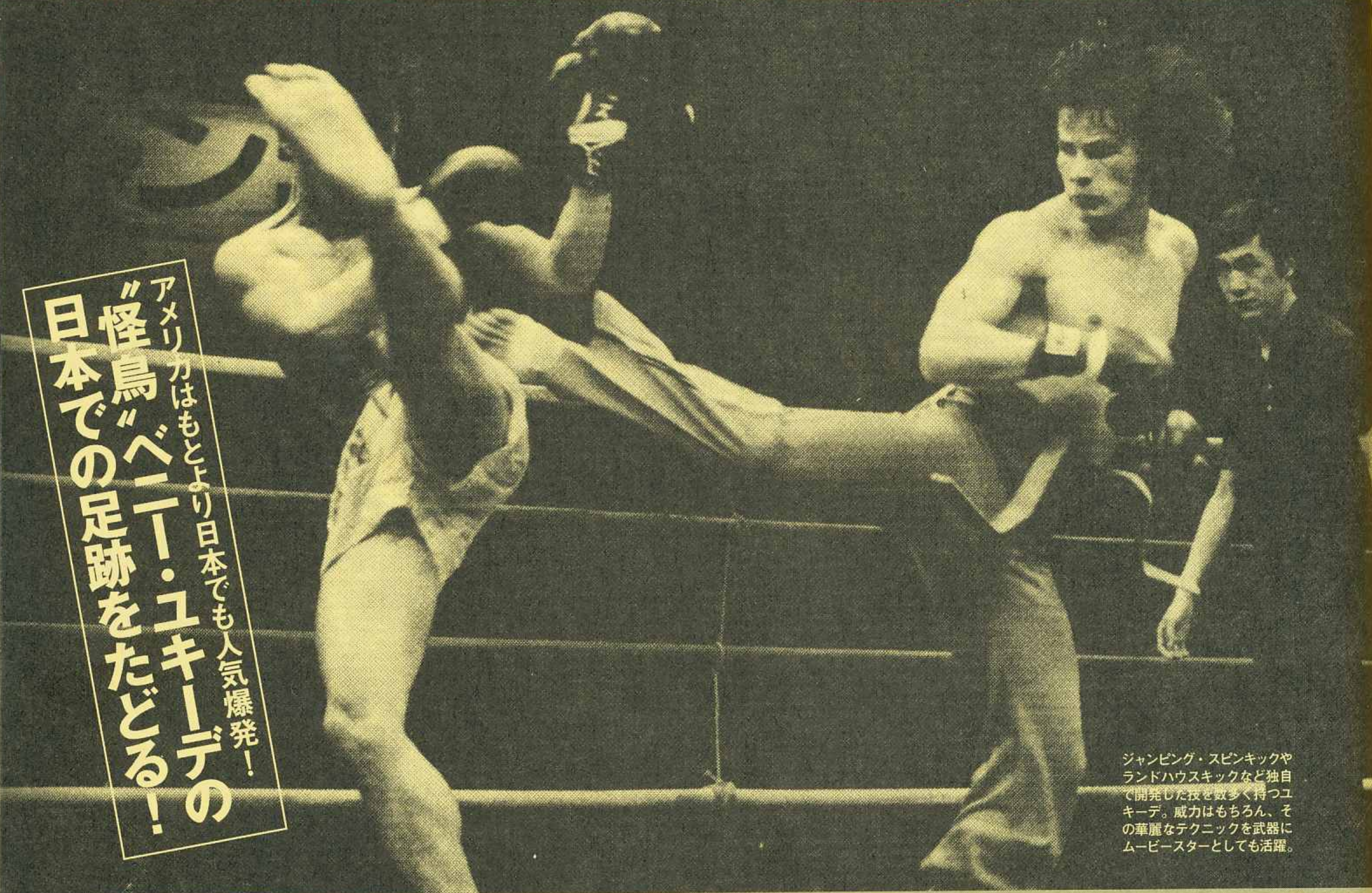
——逆にボクらはベニーさんからマーシャルアーツという文化を教えてもらいました。そもそもマーシャルアーツという言葉自体ロクに知らなくて、『四角いジャングル』の中ではマーシャルアーツ＝軍隊の格闘技だと解説されていたんですよ。

ベニー　軍隊？　まあ、ミスター・イッキは素晴らしい作家だからね（笑）。ただ、その解釈もある意味一理あると思う。というのもマーシャルアーツは兵法なんだ。だから、ストリートで使うときは状況に応じて一番いい技を選択するし、ルールが決められたときにはそれに従うけれどもね。

——ストリートでは容赦しないと。自叙伝『格闘技に生きる』（発行／スポーツライフ社）を読むと町中のケンカでは連戦連勝で、負けた相手からかなり恨まれて車でひかれそうになったらしいですね。

ベニー　15～16の頃は毎日ファイトしてすべて倒していたんだ。途中からは私の相手になる人間がいなくなって、たまにチャレンジしてきても、「今度はどんな華麗な技で

プロレス界の異端児"マッスル Muscle"が前代未聞の初挑戦！

アメリカはもとより日本でも人気爆発！
"怪鳥"ベニー・ユキーデの日本での足跡をたどる！

ジャンピング・スピンキックやランドハウスキックなど独自で開発した技を数多く持つユキーデ。威力はもちろん、その華麗なテクニックを武器にムービースターとしても活躍。

ベニー・ユキーデのマーシャルアーツ
実戦フルコンタクトカラテ
闘いのテクニックとトレーニング
ベニー・ユキーデ著

自叙伝発売から一カ月後に出版された技術書『実践フルコンタクトカラテ』。当時、ユキーデのスピンキックに憧れたファンのあいだでバカ売れしたという。（発行／スポーツライフ社）

MARTIAL ARTS
ベニー・ユキーデ著
新星マーシャルアーツ 勝利への羽ばたき
格闘技に生きる
BENNY THE JET URQUIDEZ

1982年に出版されたユキーデの自叙伝『格闘技に生きる』。表紙の写真はちょいボケ気味なのが残念だが内容は抜群。見つけたら即買いだ！（発行／スポーツライフ社）

マーシャルアーツ No.11
夢の対決

前田日明が表紙の『マーシャルアーツNO・11』。巻頭カラーは前田vsニールセン特集。この号ではユキーデが経営するジェットセンターを徹底取材。（発行／スポーツライフ社）

MAGAZINE For Full Contact Karate Fans
マーシャルアーツ
フルコンタクトカラテ
ベニー・ユキーデ

世紀の一戦、藤原敏男vsユキーデ戦を煽りまくった『マーシャルアーツ』（結局中止に）。藤原派の木久蔵とユキーデ派のゆーとぴあの対談も実現。（発行／スポーツライフ社）

●無敵のジェット・ファイター
ベニー・ユキーデ
BENNY URQUIDEZ

米国で脚光を浴びる新興プロスポーツのマーシャルアーツの第一人者。今や"マーシャルアーツの旗手"と称される。1973年ロングビーチの国際空手チャンピオン・トーナメントで優勝、74年ロサンゼルスのプロ空手〔フルコンタクト〕にも優勝、76年セントルイスのマーシャルアーツ〔フリーフォーム〕世界チャンピオン決定戦でアーニー・ハートを破って世界ライト級チャンピオンを獲得、現在そのタイトルを保持する。

1953年ロサンゼルス生まれ。有名なユキーデ空手一家〔男4人、女1人が有段者〕の末っ子。幼少期から空手を習いキリン児のほまれが高かった。高校時代はほかにレスリング、陸上競技をやり、格闘技者としての素質にみがきをかけた。"ザ・ジェット"〔ジェット機〕とニックネームされるスピードと破壊力は抜群で、空手、拳法、跆拳道〔韓国空手〕功夫〔中国拳法〕ボクシングを集大成した総合格闘技の使い手として35戦無敗〔30KO〕を誇る。

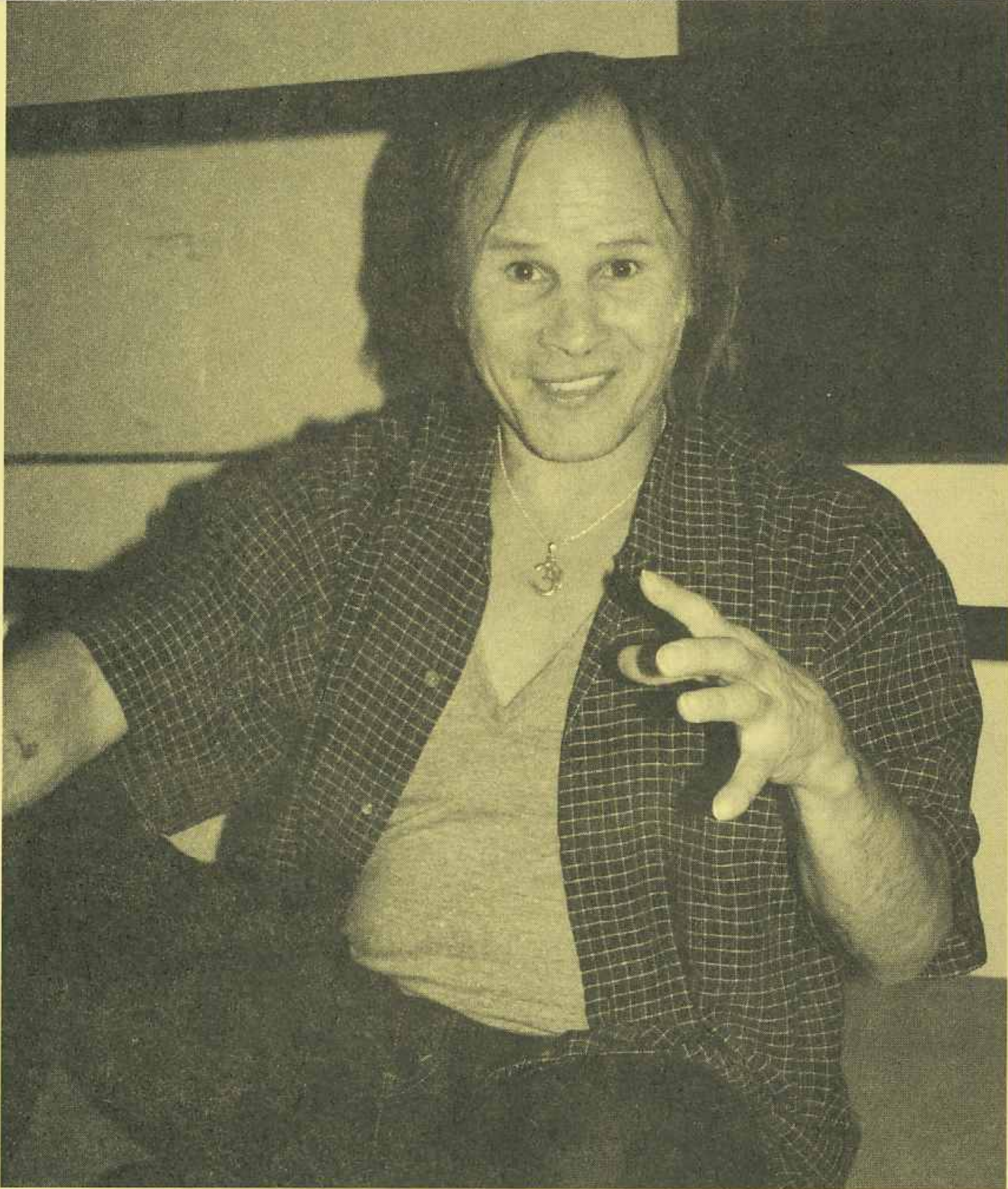
（167センチ・66キロ）

●男まさりのラテン魔女
リリー・ユキーデ
LILY URQUIDEZ

全米に名声をはせるマーシャルアーツ〔プロ空手〕世界ライト級チャンピオンのベニー・ユキーデの実姉。男四人、女一人がすべて空手のブラックベルト〔黒帯〕。母のルーペ・ユキーデは1930年から40年にかけて女子プロレスラーとして活躍したことがあり、ユキーデ一家は格闘技者の家系。「男まさり」の言葉がぴったりなのは、母の血を受け継ぐものか。

1951年ロサンゼルス生まれのメキシコ系アメリカ人。幼少の頃から空手を習い、長じては兄、弟を初め男の闘技者と手合わせして腕を上げた。それだけに年期の入った実力は、なみの男の闘技者ではとても太刀打ちは出来ない。現在はインストラクター〔指導者〕を兼ねているが、女子プロボクサーとの対戦を含め46戦無敗。相手を求め空手、キックボクシングの行なわれる日本に初遠征。ジャンプキック〔飛び蹴り〕の必殺技を持ち、男顔負けのダイナミックなファイトをする。

（162センチ・60キロ）

上は70年代後半、ユキーデが新日本プロレスに登場した際のパンフレットから。隣はユキーデの実姉リリー。『燃える闘魂 格闘技世界一決定戦・編』より（発行／エンターブレイン）

ホリオンが私を12回も極めたって？私は一回も極められてないよ（笑）

倒そうか」なんてことばかり考えていたよ（笑）。そんなことばかりしていたからだろうね、負けた相手の一人があとになって、車で私をひき殺そうとしてきたんだ。

——ちなみに避けれたんですか？

ベニー　もちろん。車だけじゃなくて、ナイフで尻を刺されたこともあるし、ピストルでカカトを撃たれたこともある。だから、自然に素晴らしいスタントマンになっていまの俳優業に活きているよ（笑）。つまり、マーシャルアーツはそういう世界のエッセンスが詰まっているんだよ。

——殺し技の集大成だったんですね。でも、ベニーさんのファイトはじつは家計を助けるためのものでもあったんですよね。

ベニー　私の一家は貧しかったからね。当時のストリートファイトは必ず金を賭けてやるものだったんだ。とくに私の住んでたところではね。１００ドル出し合って勝ったほうがその金を貰える賭け試合は私にとっても、家族にとっても重要だったんだよ。19歳でプロ格闘家になってからはそんな必要もなくなったんだ。

——ただ、マーシャルアーツのスターになったあと、ホリオン・グレイシーとは闘ったことがあると聞いたんですが。

ベニー　そのとおりだ。ホリオンがロサンゼルスに来たときに一緒に仕事をしようと言ってきたんだ。それで、当然道場でトレーニングして組手もやったんだが、ホリオンは私が柔道や合気道の黒帯だとは知らなかったようで、すぐに寝技を仕掛けてきたんだ。でも、私はそれをさばいて、起きあがって拳を顔面で寸止めしたんだよ。そこで勝負は決まったね。

——ところがですね、ホリオンは日本のマスコミに「ベニーと闘ったときに彼を12回極めた」と言ってますけど、どうなんですか？

ベニー　ふふふ。一回も極められてないよ（笑）。彼はそうやってビジネスを進めていくんだよ。

——結局ベニーさんのビッグネームを利用する人が多かったというわけですね。

ベニー　そのとおり。彼らは有名な人間を利用しようとするところがある。私にチャレンジしたと言えば、それだけで名前が売れるし、私はそれをわかっていてチャレンジを受けたのに、こんなことを言い出す。もっとも、それで売れていったのだから、彼は頭が良かったんだろう。グッドビジネスマンさ（笑）。

——わかりました。最後に、いま撮ってる映画の話を聞かせてください。

ベニー　その映画はデーモンに取り憑かれたホテルの話で、心霊現象を信じないリポーターがそのホテルに行ってデーモンに取り憑かれる話なんだ。私の役はそのデーモンのボスだ（笑）。

——ホラーですか（笑）。

ベニー　もの凄く怖い映画になると思うね。

——なんか『スパルタンX』のときの敵役といい、強烈な悪役が多いですよね。

ベニー　そのとおり！　私はグッドな悪役だね（笑）。

——昔は日本格闘技界のアイドルで、いまは悪役三昧だと（笑）。あともう一つ、ヴァン・ヘイレンの『Ｊｕｍｐ』はベニーさんのために作られた曲だって聞いたんですけど、そうなんですか？

ベニー　そうなんだ。ヴァン・ヘイレンの元ボーカルのデビッド・リー・ロスは私の弟子なんだ。それで彼らが私をイメージしてできたのが『Ｊｕｍｐ』というわけさ（笑）。

——まさに日本でもアメリカでもスターなんですね（笑）。

ベニー　これからはマジットをはじめ私の弟子たちが日本でスターになっていくと思うよ。私がプロデュースしている格闘技大会『武頼漢』の興行もあるし、サトル・サヤマとのコラボレーションなんかもあるといいしね。いろいろ計画しているので楽しみにしていてほしい（笑）。

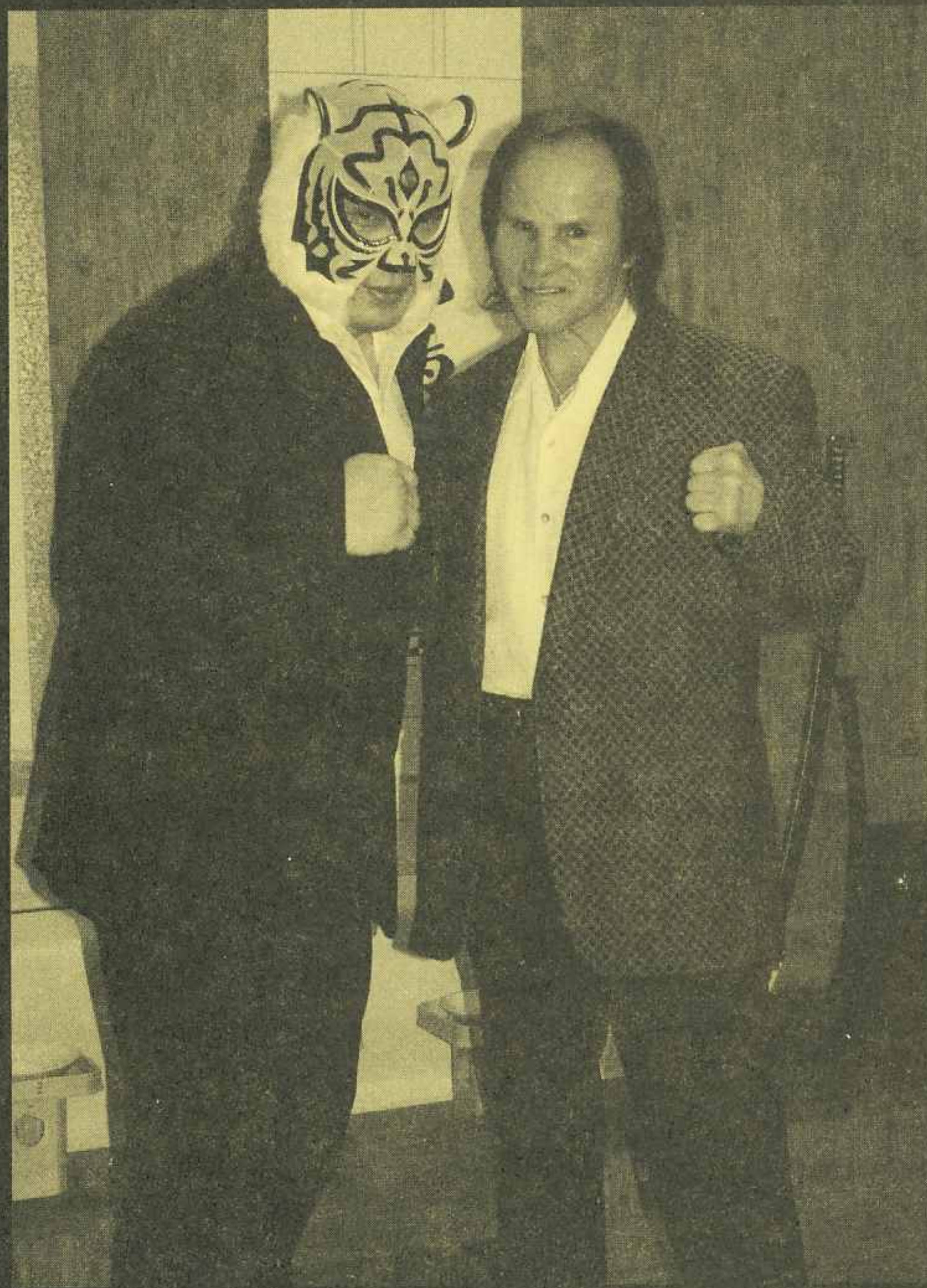
——非常に期待しております！

【９月24日／都内・浅草ファイト倶楽部にて収録】

BENNY URQUIDEZ■1952年6月20日、アメリカ・ロサンゼルス出身。幼少時から父親にボクシング、母親にレスリングを学ぶ。他にも柔道、空手といった、さまざまな格闘技を修得し、1974年プロデビュー。それ以来、マーシャルアーチストとしてアメリカはもとより日本でも爆発的な人気と実績を誇る。また、現役時代からムービースターとしても活躍。『スパルタンX』でのジャッキー・チェンとの対決シーンはあまりにも有名。現在はジムで後進の指導にあたるとともに映画のアクション指導でも活躍中。

ベニー・ユキーデプロデュース興行『武頼漢』の実行委員会代表を務めるのが前列中央の桝山真規氏。その右は『武頼漢』プロデューサーでユキーデのジムに所属するMASAこと長瀬正和氏。次回、『武頼漢』の日本大会は来年1月を予定しているとのこと。

プロレス界の異端児"マッスル Muscle"が前代未聞の初挑戦！

東京・北沢タウンホール

初代タイガーマスク

佐山サトルが語る ベニー・ユキーデ

久々に来日したユキーデが大会前日会見を行なったのは佐山サトルの道場『興義館』。1977年11月、武道館で開催された「格闘技大戦争」で同じリングに上がっている両者（佐山はマーク・コステロと対戦）。数十年ぶりにユキーデと再会した感想を佐山総監に聞いてみました。押忍!!（敬礼）

構成／中村カタブツ君

ベニー・ユキーデさんと最初に会ったのは新日本プロレスの道場だったんですね。ベニーさんは日本で試合があるときは新日本の道場で練習してましたから。当時、若手だった私はちょっと話をしたりということはしてましたけど、深い話をしたことはなかったんですよ。挨拶程度ですよね。

それで久しぶりに会ったのが、この前の記者会見（9月22日に行なわれた『武頼漢』の会見）のときでしたけど、私が「いま催眠もやってるんだよ」っていう話をしたら、急に目の色が変わって、「え！　おまえやるのか!?」って話になったわけです（笑）。で、「催眠もやるし、武士道精神にも取り組んでるんだよ」って話をしたら、「いつからだ？」と。「20年前からですよ」って言ったら「えーッ！」ってまた驚いて（笑）。聞けば、ベニーさんもいま精神的なことに集中して、弟子を指導してると言うんですよ。いまの選手に必要なのは、技はもちろんとして、頭であったり、ハートであったりということを言っていて、最終的にはやっぱり武士道だよと。すっかり意気投合しましたよね。

ユキーデさんが言う"武士道精神"は本物だと思いましたね

（ベニーさんも催眠をされるんですか？）

いや、それはしてないですけど、アメリカで受けたことはあるんじゃないですか？　もともと彼にはネイティブ・アメリカンの血も流れてるし、聞けば自伝の中でも"霊的な力"を重要視してると書いてるようなので、精神の持つパワーというのはわかってるんですね。彼が言う武士道精神は本物だと思いましたね。よく外国人選手が口にするサムライ・スピリッツは、日本人向けのリップサービスであったり、憧れだったりしますけど、そういうものとはまったく違いますよ。

ともかくお互いにビックリしましたよね。昔から知ってるとはいいながら、まさかタイガーマスクとベニー・ユキーデが武士道精神の話で盛り上がるなんて思ってもいなかったですからね（笑）。だから、会見前なのにすっかり話し込んじゃって、スタッフには「早く会見を始めてください」って言われてしまいましたけど（笑）。

（佐山さんがベニーさんに催眠をかけるという図も見てみたい気がしますが）

それは無理ですよォ。だって、英語で催眠やったことないですから。雰囲気とか、タイミングとかがあるから、英語ではできませ～ん（笑）。

でも、今後、そういう方面でも一緒に研究できたらいいと思いますね。また、格闘技のほうでも、いいお弟子さんがいますから、選手の交流などができたらおもしろいかなって思いますね。

【10月10日／都内・『興義館』催眠室にて収録】

ユキーデの弟子たちも凄いが佐山総監の弟子だって負けてはいない。桜木裕司は10・28MARS両国へ参戦、瓜田幸造は10・25パンクラス後楽園へ出場（発売時には終わってますが）。プロレスラー養成学校『虎の穴』コーチの折原昌夫は12・12リアルジャパン後楽園でタイトル防衛戦を敢行。左端の仮面の男は『虎の穴』の練習生で～す!

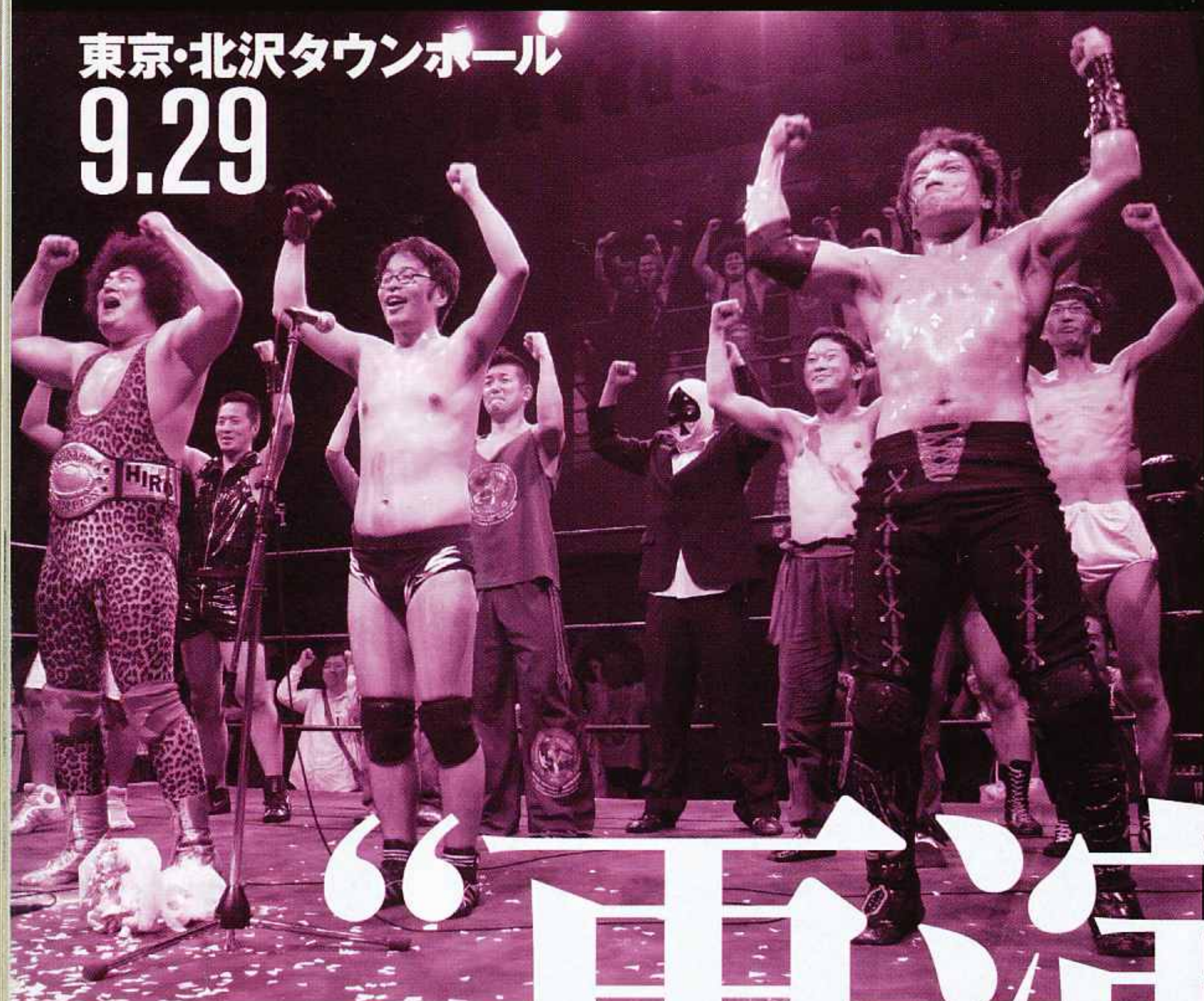
中村　僕はな
すよ。ただこれ
に携わって苦労
うな人を露出す
なと思う。「俺
んだ」とか、そ
来るほど、この
やっぱり内容ど
——もちろんで
中村　でしょ？
かマジでやめて
に悪いんだ、こ
じゃない？「興
よ！」って。誰
たいのよ？
——見たいと言
それはプロレス
なる切腹への興
中村　だったら
くて、どっか道
ない（笑）。業界
スに関わって大
らいたくないし
てさ、負のニュ
えーんだよな（
題をさ、上井切
炎上"とかさ。
——まだこっち
すね（笑）。
中村　そうそう
てたほうがよく
ては、この業界
なんてしないで
ごはんが食べら
うになっててほ

みんなが
俺はＧＰ

プロレス界の異端児“マッスル Muscle”が前代未聞の初挑戦！

プロレスの“再演”はアリか!?

二日連続同じ結果!?

東京・北沢タウンホール
9.29

東京・新木場1st RING
9.30

プロレス界の異端児というか問題児（？）『マッスル』が日本マット界初の試みとなる“再演”（正式には追加公演）を9.29北沢、9.30新木場で開催。マッスル坂井は「追加公演といってもプロレスは完全なリアルファイトの世界なので、同じような結果になったら、それは奇跡」と言っていたが……。はたしてプロレスの再演はアリなのか？『マッスル』初観戦の音楽系ライター佐藤譲氏が二日間を徹底レポート!!

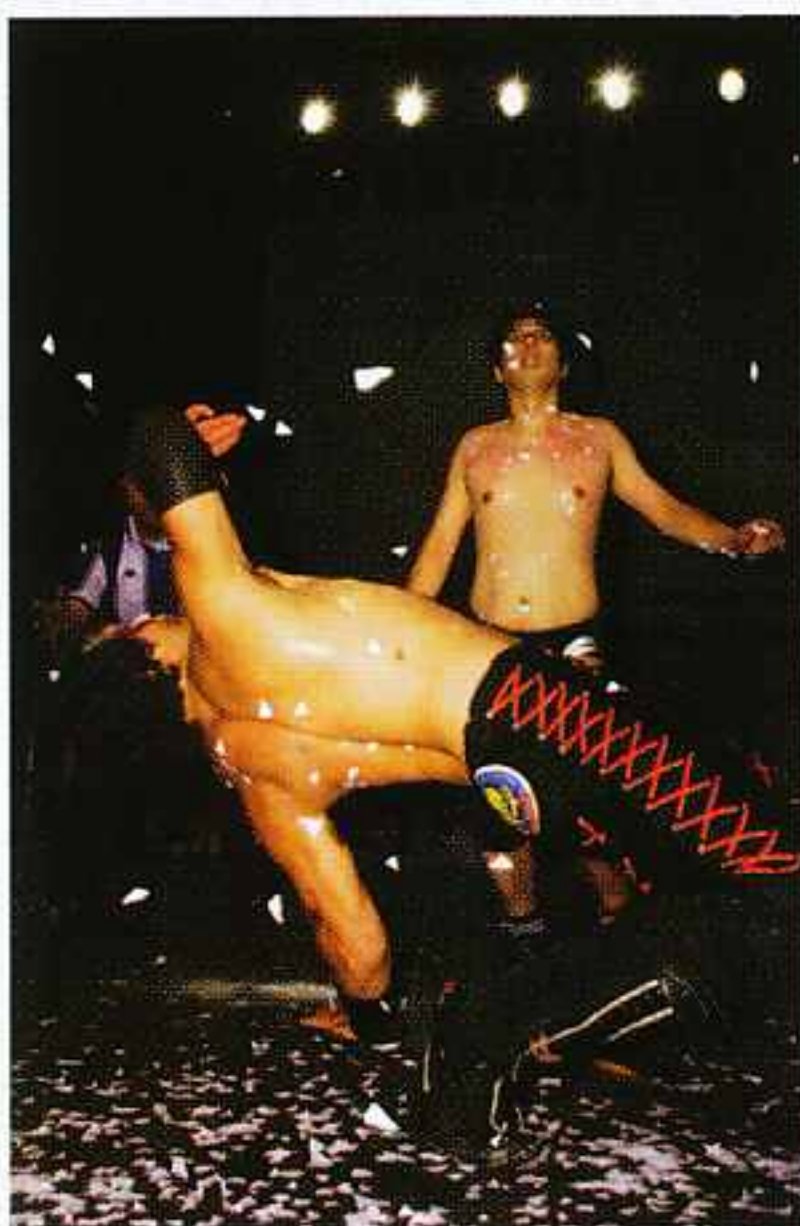
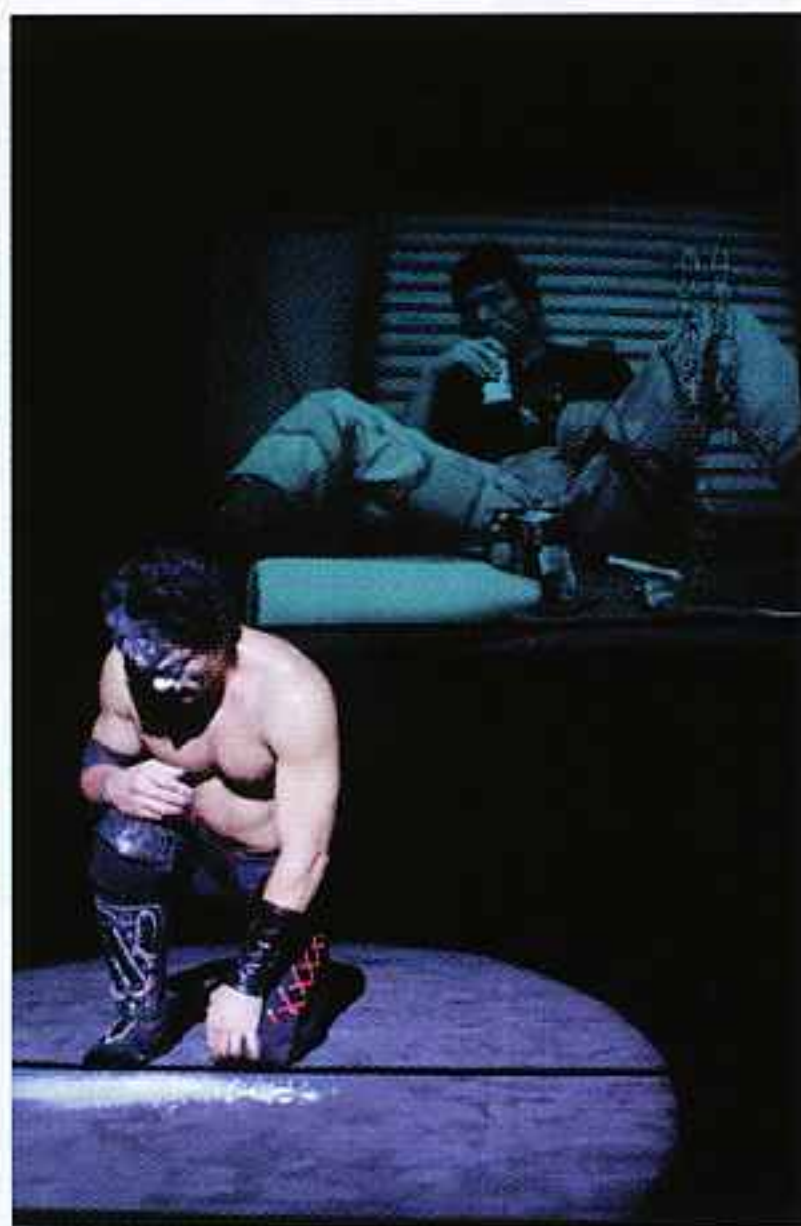
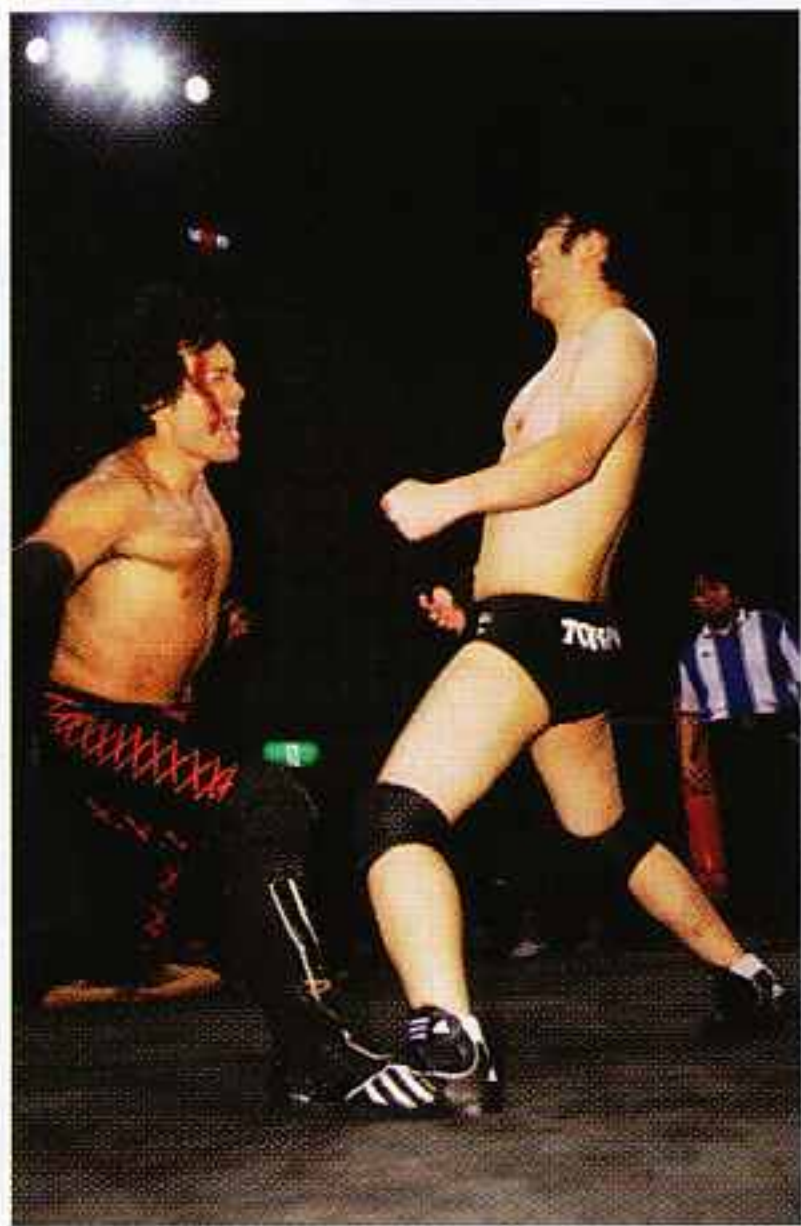
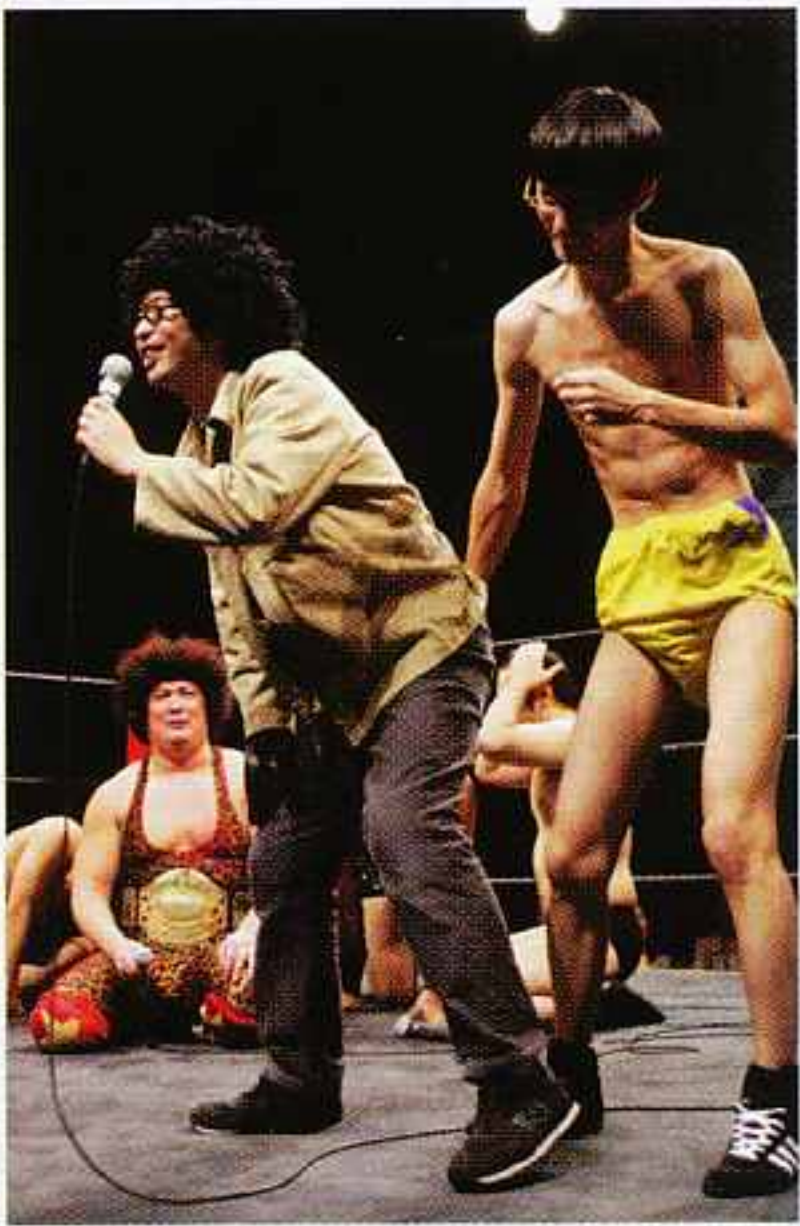
本文／佐藤譲　構成／松澤チョロ　撮影／平工幸雄　design by さおとめの事務所

Mr.マジック
本名 下島裕二

結婚式前々日、鶴見亜門がAKIRA相手にプロデビュー!! しかも勝っちゃったよ!!

初日から大ハプニング、ボッ発!!

マッスル Muscle

デビュー戦でAKIRAから奇跡の勝利を挙げた鶴見亜門は感極まり放心状態。AKIRAは「プロレスラーは勝っても負けても、お客さんに勇気を与えることが仕事なんだ。立って、この大会を締めてくれ」とマイクを手渡すと、結婚式前々日の亜門の音頭で観客とともにマッスルポーズ!

映像には数年前、試合で視力を失ない自暴自棄になり酒浸りの生活を送るAKIRAの姿が。そんなAKIRAを舞台に誘ったのがほかならぬ亜門だったことが発覚(事実)。最後は亜門が裏拳でAKIRAから奇跡の3カウントを奪取!

防戦一方の亜門は「こんなところで負けられないんだよ。俺、あさって結婚すんだから!」と絶叫。ここからマッスル名物のスローモーションでの攻防に。一転して亜門がAKIRAを攻め込むと、今度はAKIRAの回想シーンがスタート!

まさかのAKIRAの登場に動揺する亜門は「チーム2000、いやJJジャックスのAKIRAじゃん! 無理!!」と逃げだそうとするも観客からの大"亜門"コールを受け、破れかぶれに立ち向かっていく。しかしAKIRAは情け容赦ないチョップ!!

ドキュメンタリー映画の撮影のため、強くなる座薬アナロイドを挿入し自ら試合をすることになった鶴見亜門(なぜそんなことになったかはkamipro Hand等で各自調査)。対戦相手として登場したのは、なんとAKIRAだった!!

シュートを超えたものがプロレス。その言葉を不意に思い出したのは、『マッスル11』公演の初日で、「勝っても負けてもお客さんに勇気を与えること」

この日のメインに登場したAKIRAが観客にこの言葉を投げかけたからだ。「超えた」部分とは何か。それを確認することはもうかなわない。けれど、この日「プロレスの向こう側」と呼ばれた団体の興行からは、「シュートを超えたプロレスの魅力」、その一つの解釈が強烈なメッセージとなり観客を揺さぶっていたように思うのだ。

この日の興行はおおまかに分けて3部構成。白眉は斬新な手法で観客をあっと言わせた-IMGP抗争のストーリーだった。スキットでは、レッスルエキスポにおける『マッスル』の提供試合をマスコミに「なかったこと」にされたとショックを受けた鶴見が『マッスル』に足りない部分を「プロレス」と断定。ベルトの抗争やPV(映像)など、エンタメ性に富んだWWEの手法を用いてプロレス「っぽさ」を追求すると宣言し、それらを、いまこの場ですべて再現するという。

うろたえる坂井たちに、いや、そのじつ観客に向け、亜門は「お客さんに前フリ興行を見せるのは失礼」と業界に対する痛烈なアンチテーゼを提示する。そのまま亜門は全員にPVの絵コンテを配布。失敗の許されないライブでのPV製作をスタートさせる。

ライブで作られていくPVの完成度と斬新なアイデアに観客は舌を巻く。金網マッチはカメラの前に魚の焼き網を挟み再現。技のリプレイは繰り返した技を3台のカメラが別の角度から撮って解消。倒れた相手をせわしなく起こす坂井が笑いを誘う。ラストは出場選手のテロップ映像に入ろうとした坂井が転倒。ADとして会場にいた男色ディーノが坂井に押された勢いでフレーム・インし、試合に出場してしまうという秀逸なオチに場内は

9.29『マッスル11～14&マッスルマニア2006』

東京・北沢タウンホール　297人（超満員札止め）

会場入りが遅れた本多が控室を開けると、そこにはさまざまな料理やら飲み物が用意され、それにパクつく坂井らの姿が。そこへ登場した亜門と藤岡〝メガネ〟から追加公演の会場までの航空券を渡された坂井らの頭の中は「？」だらけ。

休憩明け、メインの『マッスルマニア』が終了するも、まだたっぷりと時間が余っているとのことで、元GAEAの広田さくらが舞台の宣伝（共演は鶴見亜門こと今林久弥）のためリングイン。広田は久々のリングでロープワークを披露！

まだまだ時間が余っていると頭を悩ませた亜門が「どインディー好きでバカな選手が道場破りに来てくれたらなぁ」とボヤくと「頼も？」と〝ゴールデンスター〟飯伏幸太が登場。飯伏は7人のマッスル戦士を得意のハイキックで次々と撃破！

前回のマッスル半田など、日本有数のどインディーレスラーが観られるのもマッスルの魅力。今回は飯伏幸太の「道場破りランブル」に登場した白ブリーフ一丁のFU★CK！の〝のじりくん〟が怪しい目つき&動きで観客の視線を独り占めに。

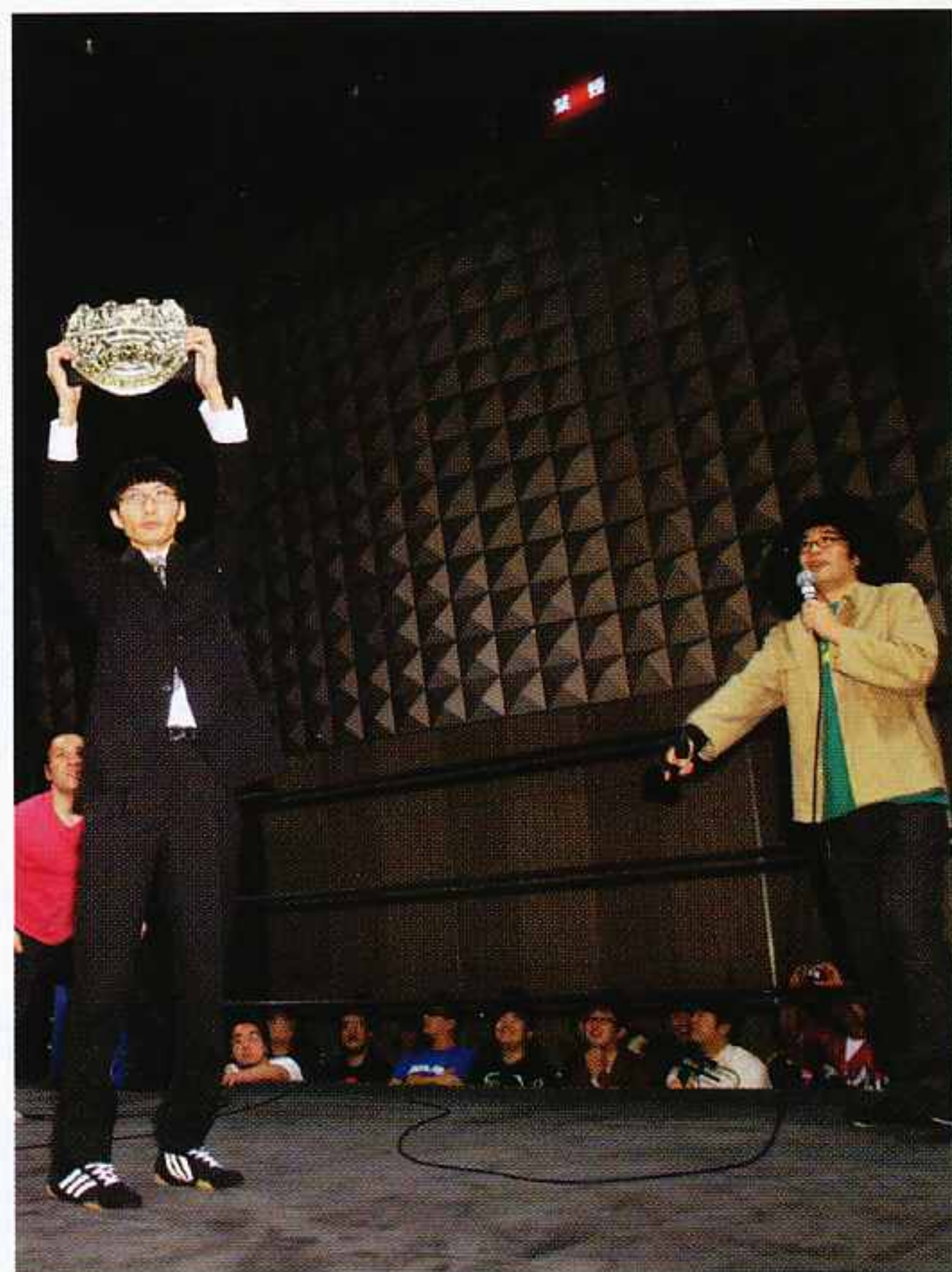
『レッスルマニア』の盛り上がりを再現させるため観客にボードっぽいものを頭上に掲げるよう指示を出した亜門。ノリのいい観客は缶ビール、マッスルDVDやグッズを掲げアピール。中には〝エアギター〟ならぬ〝エアボード〟を掲げる強者も!?

『レッスルマニア20』でのHHHvsHBKvsベノワ戦をモチーフに、それぞれ坂井、本多、諸橋が、そのときのプロモ映像を再現。本多がスイートチンを諸橋に3連発（うしろから坂井がアシスト）し、技のリプレイが完成！

プロモ映像の最後は『マッスルマニア』で激突する坂井、本多、諸橋が並んで、それっぽくポーズを決めるシーン。しかし、坂井が花道で転倒。押し出されるかたちで、お手伝いのディーノがカメラに収まってしまった。

『マッスル13』はIMGP王座挑戦者決定戦として坂井と趙雲子龍が金網デスマッチで激突。互いに赤の塗料を顔面に塗りたくり、カメラの前に焼き網を設置し収録。本番の映像では金網マッチっぽく映ってたから、お見事！

インターナショナル・マッスル・グランプリ

新設のIMGP王座は“素人”のディーノが奪取！

マッスルが専門誌等で扱われないのは「プロレスっぽくなかったから」と分析した亜門はWWEを観て研究を重ね、WWEにあってマッスルにないものはチャンピオンベルトと気づく。すぐさま亜門はマッスルの世界ヘビー級ベルト、インターナショナル・マッスル・グランプリ（通称IMGP）を新設。このベルトを賭けた『マッスルマニア』までの抗争を、なんと5分に凝縮!?

②
パートナー
M・大塚さん
勃たないの

①
2006年山形国際ドキュメンタリー映画祭
出展予定作品
スーパーストロング・ミー

③
（有）DDTプロレスリング
<作・演出>
マッスル坂井
鶴見亜門

① エンタメ路線に見切りをつけた亜門は「これからはドキュメンタリーの時代」と、あっさり方向転換。アメリカで『華氏911』や『スーパーサイズ・ミー』といったドキュメンタリー映画が流行っていることに目をつけた亜門はアメリカのレスラーの間で流行っているという飲めば強くなるアナロイドという座薬を題材にした映画の予告編を公開。② 実験台となったディーノはたしかに強くはなったが画面に映し出された「パートナーのM・大塚さん」によると「勃たないの」というから深刻。医者も「これ以上服用したら死ぬぞ」と強烈な一言。③ 感動のフィナーレのあとエンドロールでは「キネマの天使」が流れ、映像には台本（？）を読みながらの稽古風景が映し出される。マッスルの次回大会は2007年1月3日、後楽園ホールでの『マッスルハウス3（仮）』。さらに坂井の口からは日本武道館進出宣言も飛び出した。

大喝采だった。試合は男色ディーノが最後まで素人扱いされながらも見事な勝利を飾り、これがメインへの伏線になっていく。

飯伏幸太の7連戦は、箸休め的な側面もある試合。素人臭満載ながらもかえって痛みがリアルに伝わるのじりくん、藤岡メガネの不気味な気迫に会場が沸き上がる。

メインでは「エンタメを追求してプロレスがおろそかになった」「ドキュメンタリーがいい」と亜門がしれっと方向転換。『スーパーサイズ・ミー』をパロった、強くなる座薬アナロイドを使ったディーノ（素人扱い）の顛末を描く『スーパーストロング・ミー』の予告編を上映。レフェリーチェックで座薬挿入が発覚した飯伏、ディーノの勝利がアナロイドのおかげであることが発覚する。

しかし、飯伏もディーノもそこそこ知名度があり、素人とは言えないと坂井が主張。そこで亜門がアナロイドの実験台となり、改めて有名プロレスラーとの対戦が決定する。そこで登場したのがAKIRAだった。

まさかのビッグ・サプライズに会場中が盛り上がる中、試合が開始。AKIRAのキツいチョップに場内から悲鳴が上がる。そしてボロボロの亜門がAKIRAのフォールを2・9でキックアウトする瞬間、

「俺、あさって結婚すんだからぁ！」

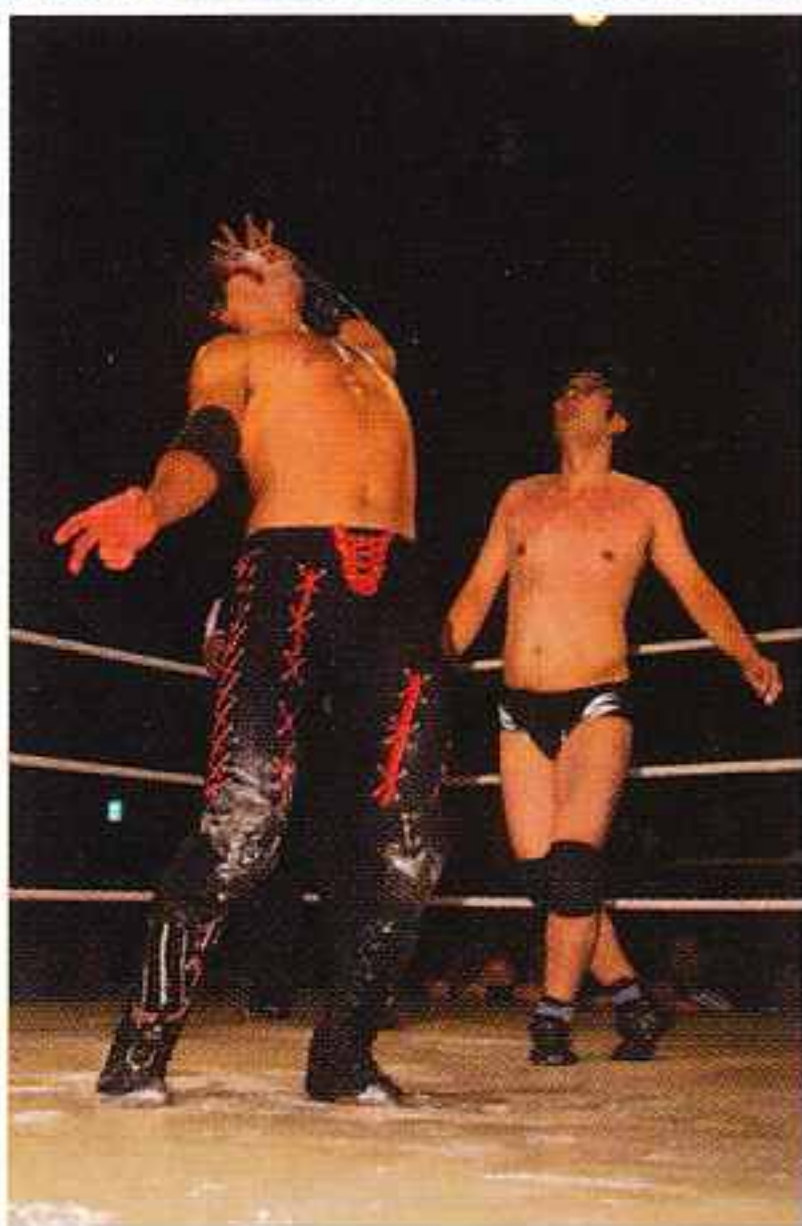
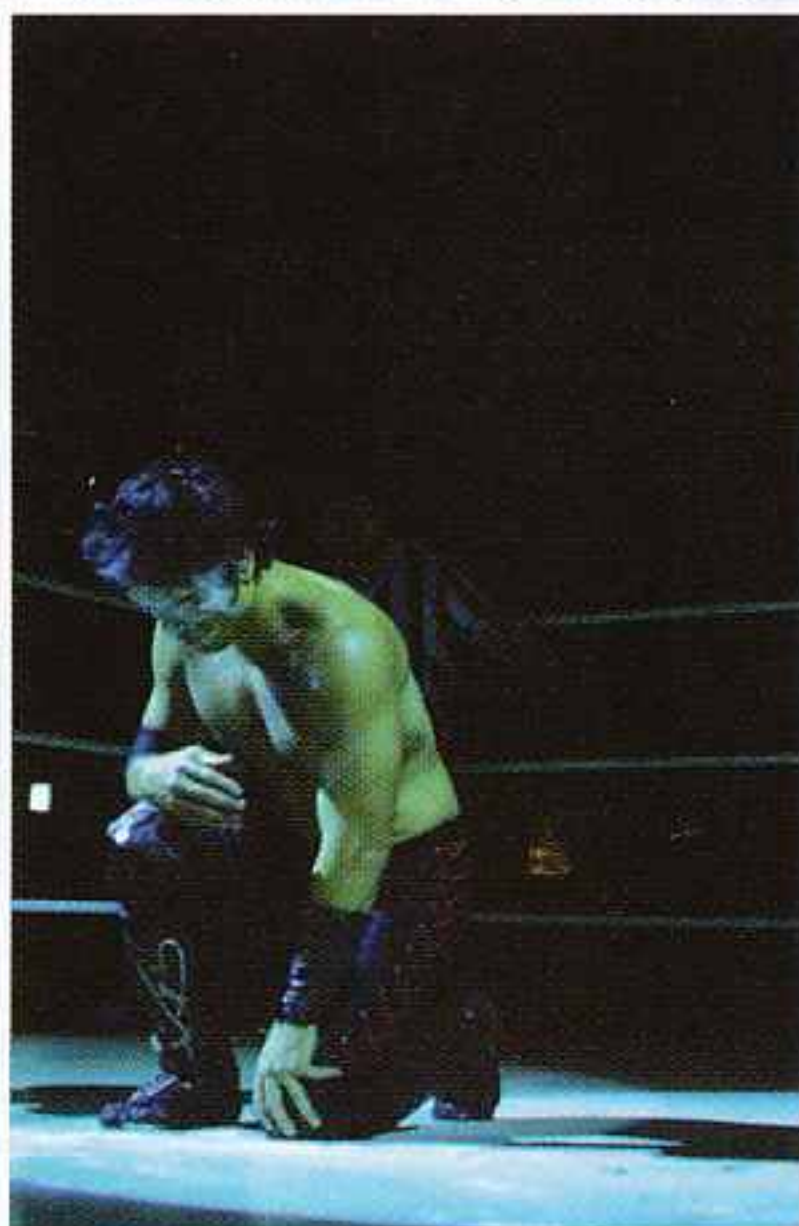
という絶叫とともに亜門の試合に懸ける思いが映像で挿入され、『マッスル』の名物であるスローモーションの攻防へと突入。さらに亜門のパウダー目つぶし後のセコンド介入を華麗にかわすAKIRAにも「実は失明していた」という泣きの映像が入る。笑いとドラマ性は感極まり、最後は執念の裏拳で亜門がAKIRAから奇跡の3カウント。その瞬間、会場は歓喜の大爆発を見せた。そして泣きじゃくる亜門へAKIRAが投げかけたのが冒頭の発言である。喜怒哀楽とメッセージ性に富んだこの日の公演は、特大の感動をもたらし最高のフィナーレを迎えたのだった。

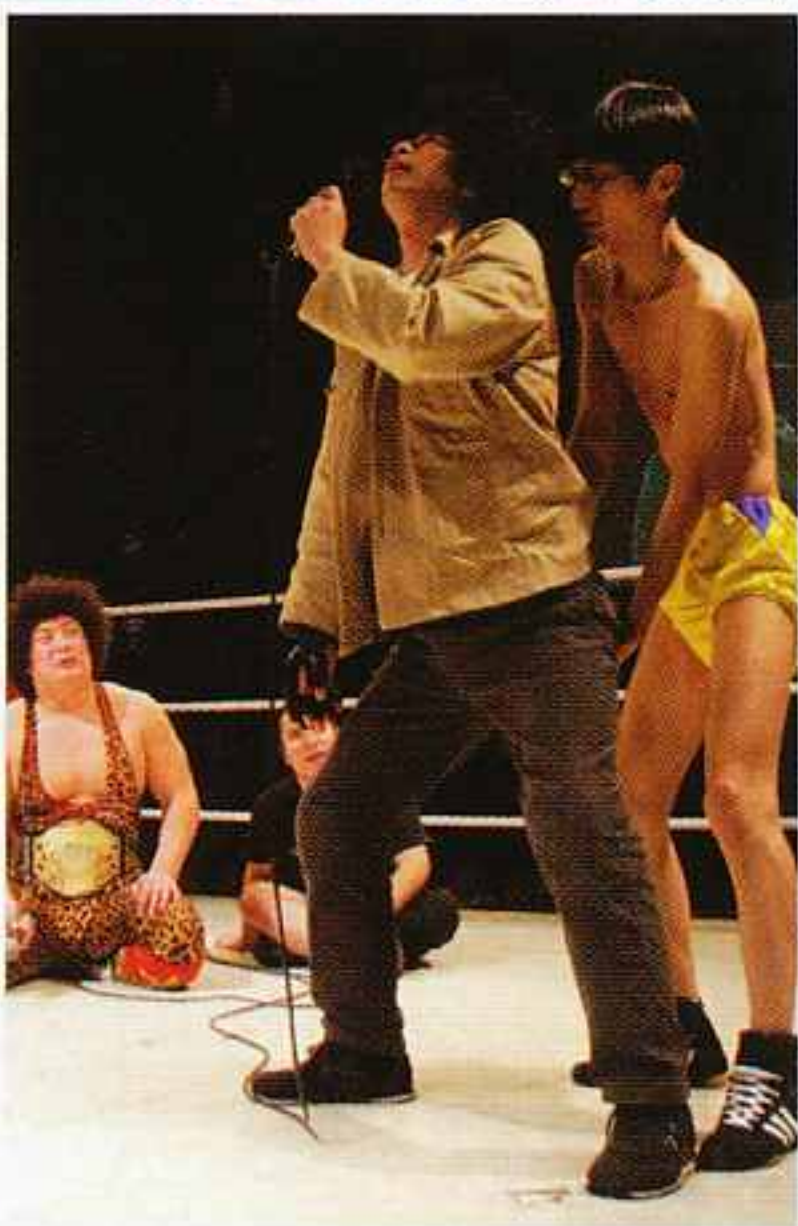
結婚式前日、鶴見亜門がAKIRA相手に再びデビュー!? またしても勝っちゃったよ!!

再演も……やっぱり同じかよッ!!

（※決して印刷ミスではありません。あしからず）

マッスル Muscle

この日もデビュー戦を行なった亜門は、またしてもAKIRAから勝利を挙げ、感極まり放心状態。AKIRAは「プロレスラーは勝っても負けても、お客さんに勇気を与えることが仕事なんだ。（以下、66ページ参照）」とマイクを手渡し、結婚式前日の亜門の音頭でマッスルポーズ！

映像には昨日と同じ、数年前、試合で視力を失ない自暴自棄になり酒浸りの生活を送るAKIRAの姿が。そんなAKIRAを演劇の世界に誘ったのが亜門だったことが発覚（事実）。この日も亜門は裏拳でAKIRAから3カウントを奪取！

やっぱり防戦一方の亜門は「こんなところで負けられないんだよ。俺、明日結婚すんだから！」と絶叫。ここからマッスル名物のスローモーションでの攻防に。一転して亜門が攻め込むと昨日同様、AKIRAの回想シーンの始まりです!

昨日同様、AKIRAの登場におののく亜門は「チーム2000、いやJJジャックスのAKIRAじゃん！」と逃げだそうとするも観客は連日の大“亜門”コールで後押し。必死に立ち向かう亜門だったが情け容赦ないチョップを受けるハメに。

やっぱりこの日もドキュメンタリー映画の撮影のため、強くなる座薬アナロイドを挿入し自ら試合をすることになった鶴見亜門。対戦相手として登場したのは、またしても新日本出身にして演劇界でも活躍するAKIRAであった!!

プロレス史上初となる同内容の追加公演。結論から言うと、進行やテーマはすべて同じ。しかし、人がリアルタイムで作るだけにまったく同じものにはならない。アントニーオ本多は言葉に詰まるなどミスが目立ち、選手紹介の映像では映る予定のないカメラがフレーム・イン。映像班の編集作業ももたつくなど、この日はアラも多く見られた。

一方、改善された部分もある。冗長な広田さくらの宣伝は短縮。飯伏の試合は7試合から8試合に変更。決め技はキックから、より苦しみが伝わるアンクルホールドになった。

大枠では同じ内容の公演だが、レスラーたちの動きや気持ちの変化など両公演とも楽しめた。これは音楽ライブや演劇を何度も観る感覚に近い。しっかりしたストーリーは複数回の観戦に耐える強度があったし、観客を楽しませようという思いは入れ込み過ぎなくらい過剰。これが観客に伝わらないはずがない。

「創りの芝居もアリながら、そこにはライブの緊張感がアリ、偽りのない選手、出演者の生きた心にも触れられる。それをプロレスの試合に見事なまでに溶け込ませている～（中略）～ソコにいたお客さんと我々の心に残った感動は理屈ではなかった、ソレがすべてだ」

右の発言はAKIRAのブログからの引用だが、彼の発言がそのまま『マッスル』が放つメッセージになっているのではないか。つまり、

「そもそもライブって何を指すの？」

であり、

「プロレスはどこに放たれるべきなのか？」

という問いかけである。

AKIRAの発言からわかるように、『マッスル』では現場で作られるもののすべてがライブ。そして興行のテーマ性や選手から放たれる感情のベクトルはすべて観客へ向けられる。そのため選手は能力ごとに適所に配される。上達著しい本多にはわりと自由にプロレスをさせるが、技術のない藤岡メガネには打撃を受けさせ痛みと気迫を引き出す。そして

9.30『マッスル11～14＆マッスルマニア2006』

東京・新木場1st RING　400人（超満員札止め）

2日連続で遅刻した本多が、この日の会場の新木場1stRINGの控室扉を開けると、またしてもさまざまな料理やら飲み物が用意され、それにパクつく坂井、ペドロらの姿が。再演とはいえ、しっかりと料理を用意するあたり手が込んでいる。

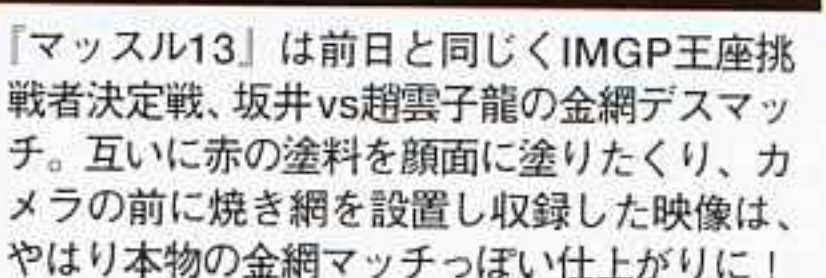
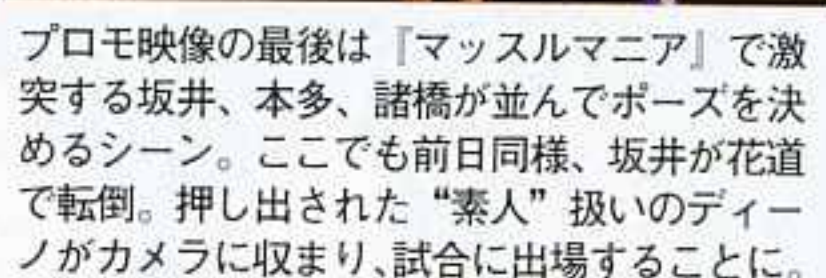
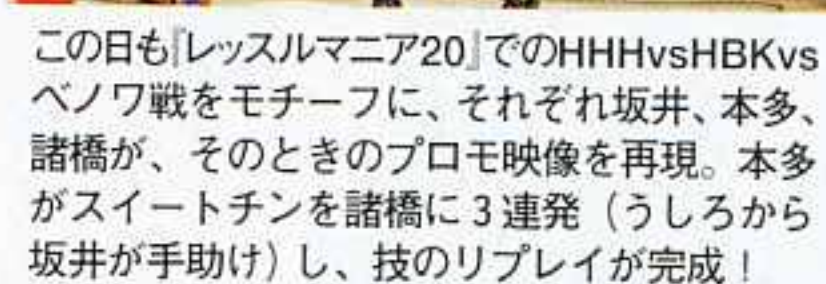
休憩明け、時間がまだまだ余っているとのことで昨日に引き続き元GAEAの広田さくらが舞台の宣伝のためリングイン（しっかり同じ衣装）。プロの意地か、広田は前日とは違いコーナー最上段での倒立を披露（残念ながら失敗）。

まだまだ時間が余っていると頭を悩ませた亜門が「どインディー好きでバカな選手が道場破りに来てくれたらなぁ」とボヤくと、この日も飯伏が登場。前夜の7人に佐野直を加えた8選手相手にこの日の飯伏はアンクルロックで連戦連勝！

再演となったこの日のエンディングでは翌日に結婚式を控えた鶴見亜門の劇団仲間にして、熱烈な某女子プロ団体ファンの五味さんが『マッスルハウス2』に続き登場。一部で話題を呼んだ●●●●ポーズを披露！（諸事情により伏せ字）。

この日も『レッスルマニア』の盛り上がりを再現させるためボードっぽいものを掲げるよう指示を出した亜門。手持ちの雑誌やドリンクを掲げる観客たちに混じり、前日も観戦した観客からは「AKIRA最高」といったネタバレ注意なボードも。

この日も『レッスルマニア20』でのHHHvsHBKvsベノワ戦をモチーフに、それぞれ坂井、本多、諸橋が、そのときのプロモ映像を再現。本多がスイートチンを諸橋に3連発（うしろから坂井が手助け）し、技のリプレイが完成！

プロモ映像の最後は『マッスルマニア』で激突する坂井、本多、諸橋が並んでポーズを決めるシーン。ここでも前日同様、坂井が花道で転倒。押し出された"素人"扱いのディーノがカメラに収まり、試合に出場することに。

『マッスル13』は前日と同じくIMGP王座挑戦者決定戦、坂井vs超雲子龍の金網デスマッチ。互いに赤の塗料を顔面に塗りたくり、カメラの前に焼き網を設置し収録した映像は、やはり本物の金網マッチっぽい仕上がりに！

新設のIMGP（インターナショナル・マッスル・グランプリ）王座はやっぱりディーノが獲得！

マッスルが専門誌等で扱われないのは「プロレスっぽくなかったから」と分析した亜門はWWEを観て研究を重ね、WWEにあってマッスルにないものは……（67ページと一緒です）。すぐさま亜門はマッスルの世界ヘビー級ベルト、インターナショナル・マッスル・グランプリ（通称IMGP）を新設。このベルトを賭けた『マッスルマニア』までの抗争を、この日も5分に凝縮！

① この日もエンタメ路線に見切りをつけた亜門。「これからはドキュメンタリーの時代」と、あっさり方向転換、アメリカで『華氏911』や『スーパーサイズ・ミー』等のドキュメンタリー映画が流行っていることに目をつけた亜門はアメリカのレスラーの間で流行っているという飲めば強くなるアナロイドという座薬を題材にした映画の予告編を公開。② 実験台はまたしてもディーノ。たしかに強くはなったが画面に登場した「パートナーのM・大塚さん」は「勃たないの」と首をかしげる。医者は「死ぬぞ」と忠告。③ 感動のフィナーレのあとエンドロールでは「キネマの天使」が流れ、映像では台本（？）を読みながらの稽古風景が映し出される。マッスルの次回大会は2007年1月3日、後楽園ホールでの『マッスルハウス3（仮）』。坂井は前日同様、日本武道館への進出をブチ上げてみせた。やれんのか～ッ!?

「俺ならもっと奇麗にスローモーションができる」と坂井に言ったＡＫＩＲＡは、プロの世界を生き抜いた背筋、表情、指先に至るすべてを駆使し、華麗な曲線を描いてリングに崩れ落ち、観客の大喝采を浴びたのである。

無駄な血や汗はいらない。

前フリ興行を見せるのは失礼。

難しい序盤のレスリングはいらない。

客に伝わらないプロレスを亜門は揶揄し、『マッスル』を際立たせる。そして筆者も思うのだ。

ノレないストーリーを押しつけてないか？

惰性で試合をやってないか？

格落ちを気にして負けてもケロっと立ち上がるヤツは何様なんだ？

お客に伝わらないもの。それは映画や演劇なら「自己満足の駄作」の烙印を押される。ライターが手クセで質の低い原稿を書けばすぐに仕事はなくなってしまう。うん、なぜだろう。胸が痛い。

プロレスはエンタメでなく偶然のスポーツだ。ならば、なおのこと必死さは見せるべきだ。これがサッカーならサポーターは選手のバスを取り囲み抗議をするだろう。お客は最も厳しい批評者。前見開きのＡＫＩＲＡの発言は、『マッスル』がその点にシビアに向き合っていることを示している。「伝えたいことなきプロレスは去れ」。『マッスル』の興行からはそんな声がひしひしと聞こえてくるのだ。

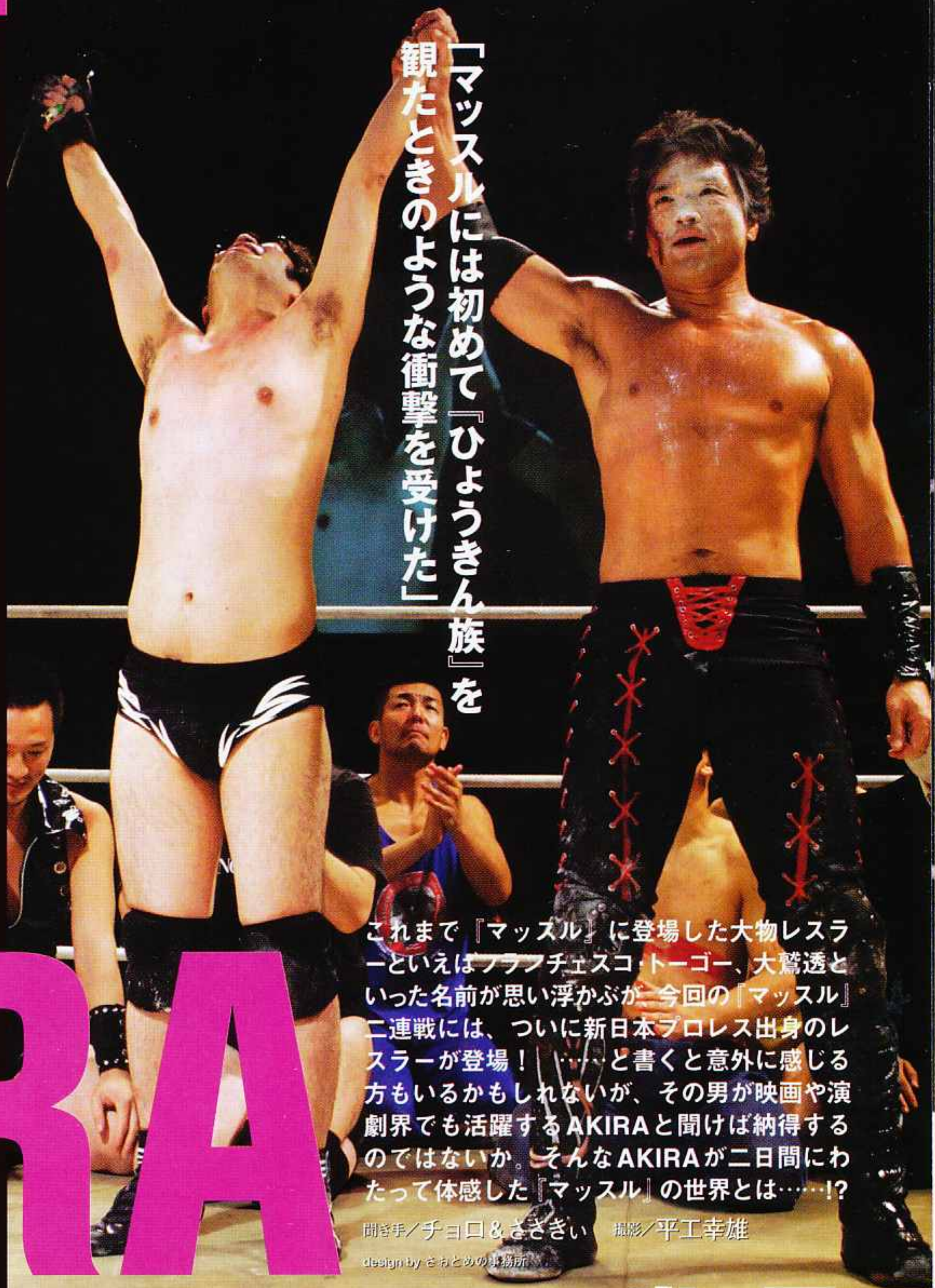
デッド・ケネディーズの名曲に〝Nazi Punks Fuck Off〟という曲がある。この曲は形骸化し思考停止に陥ったナチやパンクスを痛烈に批判する曲で、僕は『マッスル』を観ながら思わずこの曲を口ずさんでいた。

パンクはカルト宗教じゃねえ。

パンクは自分で考えることだ。

髪の毛を立てたからって、おまえはパンクじゃねえ。

さて、あなたはどうだろう？　様式化したプロレスやファンを横目に、『マッスル』は自由を邁進する。

「マッスルには初めて『ひょうきん族』を観たときのような衝撃を受けた」

これまで『マッスル』に登場した大物レスラーといえばフランチェスコ・トーゴー、大鷲透といった名前が思い浮かぶが、今回の『マッスル』二連戦には、ついに新日本プロレス出身のレスラーが登場！……と書くと意外に感じる方もいるかもしれないが、その男が映画や演劇界でも活躍するAKIRAと聞けば納得するのではないか。そんなAKIRAが二日間にわたって体感した『マッスル』の世界とは……!?

聞き手／チョロ＆ささきぃ　撮影／平工幸雄

design by さおとめの事務所

新日本出身にして、演劇界でも活躍中 AKIRA が体感したマッスルの世界

──先日の『マッスル』二連戦は、大会的に大成功に終わったわけですが、実際に参戦してみていかがでした?

AKIRA　『マッスル』については、いろいろと語りたいことがあるけど、一言で言うと「おもしろいよね」で終わっちゃうんだよね（笑）。

──AKIRAさんは自身のブログで『マッスル』のことを〝おもしろすぎる大人の遊び場〟と書かれていましたよね。

AKIRA　そうそう。だから、（プロレスを）よくわかっている人間が楽しめる場っていうのかな。その上で、わかっていても裏をかかれちゃったり、ストーリー的におもしろかったりとか、『マッスル』はそこをうまく突いてくるんだよね。逆に、そのへんがプロレスでは、ないがしろにされているのかもしれないな。

──マッスル坂井さんが言っていたのは、ほかのエンターテインメントと比べるとプロレス業界は見せ方から何から遅れてるんじゃないか、と。

AKIRA　それは感じるね。何かっていうと過去のモノをリメイクしがちっていう、その発想が遅れてるよね。昔の人や昔あった軍団をリメイクして持ってくる。そこに頼っちゃっているのがね。もうちょっと新しいことっていう発想がないんだよね。だから、プロレスの老舗団体にせよ、作っている人たちにそういう発想があるかっていったら、ないと思うんだよね。「プロレスだけ見てりゃいい」と思っちゃってるところがあるから。

──「プロレスだけ見てりゃいいんだ！エーッ!!」と（笑）。よく直線的に言われがちなのが、「『マッスル』はプロレスなのか否か」というところでもあるんですけども、AKIRAさん的に言えば「あれもプロレス」と言うことですね。

AKIRA　そう言いたくない人はいるんだろうけど、プロレスでいいと思うんだよね。そこに必死にこだわるのもつまんない話だと思っちゃうんだよね。そういうところで線を引いて、イエス・ノーで切り捨てちゃうのがね。だって実際、客席にいたらおもしろいんだもん。

──そうですよね。

AKIRA　感動的って言ったらなんだけど、感動しちゃうんだよね。だから、「また来よう」とかって気持ちになっちゃうんだろうし。なんだかわかんないジャンルとして存在していていいと思う。

──よく言われることですが、笑いを起こすのは比較的簡単だけども、泣かせるというのは難しい、と。そういう意味では、このあいだの『マッスル』は感動して涙してる人も多かったですね。……と言うかボクもそうなんですけど（笑）。

AKIRA　アッハッハッハッ！　要するに、プロレスとしてカミングアウトしてからは、何かっていうと、お笑い的な要素で楽しませようってなってきてて、その上でしっかりプロレスをっていうところがあるんだけども……なんかちょっと浅く感じるんだよね。それを考えると、マッスル坂井は、ちょっとその上を明らかにいっているなと。だから今回の大会も一緒で、僕が四の五の言って、それにブレーキかけちゃうのはイヤだから、彼の発想でどんどん任せたし、男色ディーノの言うことに対しても、彼の意見を尊重してやりたいなと思ってたし。

──演者として与えられたモノを演じるということですかね。

AKIRA　それはもちろんそうだし。こっちも何かあったら、「こういうのはどうか」とか「こういう見せ方はどうか」とか亜門氏と話したりはしたけどね。

──男色ディーノって、こないだは表舞台に出ちゃいましたけど、『マッスル』では裏方として、坂井さんと一緒に作り上げていく立場にいるんですよね。

AKIRA　彼は演出助手という感じかな。彼がいなければ絶対に進行しないですよね。頭の中での構図というのは、たぶんマッスル坂井の中ででき上がっていると思うんですけど、そこから、それを理解して次のスタッフに言い渡すのはディーノさんの仕事なんですよ。それが非常に噛み合っているというか。で、またスタッフも相当無理を言われるんで。

──坂井さんも「今回はかなり無理を聞いてもらった」って言ってました（笑）。

AKIRA　でも、ちゃんと本番に間に合わせるし、この製作チームは凄いなって感心させられましたね。たしかに『ハッスル』なんかも製作チームとしては、資本もあるし、いいスタッフだと思ったけども、その資本がないぶん、それをうまく見せるということに関しては、凄い長けているなと。また何よりも、彼らはプロレス自体を大好きだからね。〝プロレス・ラブ〟を感じるんだよ（笑）。

──『マッスル』にプロレス・ラブを感じましたか（笑）。総合演出は亜門さんということになってますけど、エンドロールでの「作・演出」には坂井さんの名前も入ってますし、坂井さんの言いたいことを亜門さんの口を通して言っているということは本人も言ってますが、坂井さんの言葉選びというのは、非常に長けているなということはありますよね。

AKIRA　独特の世界があるよね。あ

マッスルはある意味、プロレスよりもシュートだなと思ったね

れも結局、エチュードで作っていたりするから、現場にいてビックリしたね。「ああ、そういう作り方しているのか」と。亜門氏も（言葉選びに）長けていて、稽古場に入ってきて、すぐにアイデアが出てきて、そこから新たに物語を作っていくこともできちゃうわけだよ。やっぱり、あの3人は凄いよね。マッスル坂井、ディーノさん、それと亜門氏。

——マッスル三銃士ですかね（笑）。

AKIRA そうだね（笑）。演劇でいうと、プロレスというものはいわゆる、エチュードを含んだ芝居という捉え方をしているということだね。『マッスル』的には。だから要するに、たとえば僕と亜門氏の試合はあらかじめ……そうだね……できてはいたけれども……。

——言い方は難しいでしょうけど、なんとなくわかります（笑）。

AKIRA 試合も一回目の公演と二回目の追加公演と微妙に違うというか。そこはノリでできちゃった部分があったりしてね。そのへんに関しては、試合を通したエチュードなわけで、作りから外れた部分でプロレスなわけで、また作られたスローになったところについても、やってる側としてね、やっていて感情が湧き出てしまう。そこは作りじゃなくて、エチュードでもなくて、ドキュメントというかその感情に対してシュートなわけ。

——『マッスル』にプロレスを超えたシュートがあったわけですか？

AKIRA そんな感じだよね。感情のぶつかり合いみたいなことに関してはプロレスよりもシュートだなと。そこはプロレスを超えてしまってるんだよね。だから、やってて自分もビックリしたしおもしろかった。お客じゃなくて、僕の感情がそこで弾けちゃったのが凄いおもしろかったね。

——そういう感覚って、ほかのプロレスの試合ではなかなか味わえない？

AKIRA そうだね。だから逆に言うと、そこが最近のプロレスで欠けちゃっているところかもしれないよね。たしかに技的には次元の高いモノをドンドンやっているんだけど、気持ちが動いてから技を仕掛けることができれば、みたいな。そういうことが裏づけされれば、本当にパンチ一発でも絶叫させることができるはずなんだけどね。逆にプロレスのあり方としてウルトラC、ウルトラDの技を積み重ねりゃいいのかなって、なってしまっているのがプロレスに物足りなさを感じるところかもしれないね。

——先ほど〝エチュード〟という言葉が出てきましたけど、それはいわゆるアドリブって意味の演劇用語なんですか？

AKIRA それぞれの設定を決めて、その人がこういうシチュエーションになったら、どういうふうに動くか。どういう気持ちでこういう言葉を発してしまうかというのを、そのキャラクターをキープしといて、勝手にキャッチボールして発展させていく。そういう作り方ですね。そこが『マッスル』的な要素として大事なところなんですね。だから、ドッキリをやった前回の後楽園大会も、どこまで本当かわからなくて。

——いまだに、どこまでがホントなのかわからないですからね（笑）。

AKIRA あのへんがじつにシュールな遊び方だなと。

——坂井さんという人は、自分自身もそうですし、ほかの選手や『マッスル』自体がどうなるかを楽しんで見ているようなところもありますからね。

AKIRA それもエチュードなんだね。だから、『マッスル』を観て、俺が高校のときに初めて『オレたちひょうきん族』を観たときの興奮を思い出しましたね。

——『マッスル』＝『ひょうきん族』説ですか（笑）。

AKIRA なんか同じような斬新さは感じたよね。お笑いが何か違う次元に入ったというか、ドリフターズから一歩進んで、それこそエチュード的なモノも取り入れたり、ディレクターとか裏方の人が表に出たりとか、よりシュールなギャグを好むようになったりとか。そういう感覚は近いなって思ったね。

——そういう意味では、『マッスル』は「プロレスの向こう側」みたいな言い方もされてますからね。

AKIRA 坂井氏はリング上で日本武道館でやりますって言ってたけど、あともうワン・クッションあれば武道館いけるような気もするんだよな〜。「武道館じゃ無理だろ」って、みんな思うかもしれないけど、それなりのアイデアを持ってるはずだから。というか、武道館でなきゃいけない何かがあるんだと思うよ。

——山本寛斎スーパーショーみたいに水浸しにするのかもしれないですけど（笑）。

AKIRA アッハッハッ！　でも、ありえるよね。彼らは『マッスル』を社会的なムーブメントにしたいんだろうし、その可能性はあると思う。坂井氏を知っている人なら「ヤツなら、なんかやるだろうな」って思うだろうしね。マッスル坂井はきっと凄い才能があって、ほかの分野でも簡単に通用すると思うんだけど、あえてこの分野にこだわって、この世界をおもしろがってるのが凄いよね。そこらのプロレスラーよりも、プロレスラー的な生き方してるよね。

——それは感じますね。バリバリの平成世代のレスラーながら梶原一騎イズムも感じさせるというか（笑）。

AKIRA そこも大事なんじゃないのかな。だからプロレスファンが応援できるというか。「コイツ、レスラーだよ」って。まあ、いろんな意味で、これからも『マッスル』には期待してますよ。

——早速、このあいだのリング上から1・3『マッスル・ハウス3』のオファーがかかってましたけど（笑）。

AKIRA その日は舞台が入っちゃってるから無理なんだよね。

——野田秀樹さんの『ロープ』ですね。

AKIRA そうそう。『ロープ』もプロレスの話なんだけどね。だから、次の大会はいちファンとしてDVDかなんかで楽しませてもらうよ（笑）。

【10月11日／都内・代々木『カフェバビル』にて収録】

今回の『マッスル』二連戦のメインは舞台では共演経験のあるAKIRAと鶴見亜門がプロレスのリングで初対決（当たり前）。AKIRAの評価も高いマッスル（裏方）三銃士のマッスル坂井、男色ディーノ、鶴見亜門の3人は年明け一発目の1・3後楽園大会では、どんなエチュードを見せてくれるのか？　とりあえず、売り切れる前にチケットを押さえておいたほうが無難かと思われます。

あきら■1966年3月13日生まれ。84年3月、高校卒業と同時に新日本プロレスへ入門。98年、左目負傷のため長期欠場、04年4月よりフリーに。現在は映画や舞台での活動を行ないながら、全日本プロレスを主戦場としている。得意技はムササビプレス。映画では今井雅之監督作品の『THE WINDS OF GOD』に出演、2006年12月5日より、宮沢りえ、藤原竜也らとともにNODA MAP『ロープ』に出演。プロレスをテーマにした同作品については『kamipro』次号で特集予定！
AKIRAブログ＝http://www.akira313.com/

秋山が勝った！
前田が怒った！
金子賢が挨拶をした!!

HERO'S 2006

ミドル＆ライトヘビー級世界最強王者　決定トーナメント決勝戦

大爆発!! でしょ？

よくやった金子賢!!

『HERO'S 2006ミドル&ライトヘビー級
世界最強王者決定トーナメント決勝戦』

"前田らしさ"大復活!!座談会

「オレが現役なら半殺し!」「ボコボコにしてしまえ!」「あいさつがない!」など金子賢『HERO'S』参戦に噛みつきまくり、久々に前田節が冴え渡った10・9『HERO'S』。秋山優勝、桜庭欠場問題にプロレス年金とは何か? までを総まくり!

構成/ジャン斉藤、真下義之　撮影/乾晋也

designed by Tani-yan（Two Three）

HERO'S

ジャン斉藤（以下、ジャン）　今回の座談会のテーマは先ほど終わったばかりの『HERO'S』ですが、今日はライターにして格闘技情報番組『SRS（フジテレビ系）』放送作家で知られる押切伸一さんが初参加になります。

押切伸一（以下、押切）　なぜか初めてのような気がしませんが、よろしくお願いします。

原タコヤキ君（以下、タコ）　こちらこそ、よろしくお願いしま~す!　というわけで、本当におもしろかったねえ。

ジャン　ホントに痺れましたよ。『原タコヤキ君の妹を探せ!』をテーマにした合コン話!

堀江ガンツ（以下、ガンツ）　ガハハハ!　どんなテーマの合コンだよ、それ!

タコ　いやいや、それが最高やったんや、あの合コンは……って、おい!　そんな話は全然してないやろっ!

ジャン　はあ。してませんでしたか（無表情で）。

タコ　いや、合コンとかじゃなくて、俺が遊ばんと仕事ばっかりしてるから、後輩が気を利かせて、「原さんの妹分を集めます!」っていうことやっただけやがな。

橋本宗洋（以下、橋本）　しかし、『妹を探せ!』なんて、西城秀樹じゃないんですから（笑）。

ジャン　ああ、ヒデキとタコヤキって一応は韻を踏んでますね。

タコ　……いい加減、へんに誤解されるから西城秀樹つながりで話をもとに戻すと、『HERO'S』の選手って、ヒデキみたいにお客さんから名前でコールされてたよね。宇野くんの対しての「カ・オ・ル!!」コールにはビックリしましたよ（笑）。

押切　あれは新しいよね（笑）。

タコ　所（英男）くんも「ヒ・デ・オ!」やったし。だからもしサク（桜庭和志）が出ていたら「カ・ズ・シ!」コールだったんでしょうかね。

橋本　じゃあ、いずれサクが「カズ」と呼ばれる日がくるかもしれないと（笑）。

ジャン　……カズねえ（ボソッと）。

橋本　意味ありげにつぶやくな!（笑）。しかし、今日の『HERO'S』はテンポが良くて、おもしろくて、凄くまとまっていた。サラッとおいしく食べられた感じでね。コクとか油っけっていう部分での満腹感は少ないけど、それも徐々には出てきてると思うし。

ガンツ　その満腹感のなさというのは、ちょっと実力差があるマッチメイクがゆえに、攻防らしい攻防がなかったということでもある気がするけどね。だからといって、ドン・フライとキム・ミンスの違う意味で実力伯仲の試合見せられても困るけど（笑）。

タコ　まあでも全日本プロレスの"パッケージプロレス"じゃないけど、"パッケージ格闘技"として完成されてましたよ、今日は。もしかしたら、これが『PRIDE』やったら、モノ足りんとこばっかり言うかもしれんけど、『HERO'S』の世界観からすれば、かなりの高得

点じゃないの？

橋本　『PRIDE』でいえば、GPセカンドラウンド的な印象はありましたね。なんか、噛みだまりがなくスッキリ飲み込めて、消化もいい感じで。

押切　そういった中でも、秋山成勲の重みは増したよね。もしメルヴィン・マヌーフに負けていたら、だいぶ興行の印象が違うと思うよ。

ガンツ　秋山が優勝したのは『HERO'S』にとって大きいですよ。なんといっても、秋山ってあれだけ我々〝格闘セレブ〟が毛嫌う要素をたくさん持っている人なのに、今回は素直に賞賛できる内容でしたからね（笑）。

ジャン　角ちゃん（角田信朗）ばりの見栄の張り方やコンガリとした日焼け具合、そして鈴木みのるイズム溢れる、テーマ曲終了と同時のリングインパフォーマンスは、本当に素晴らしいんですけどねえ。

橋本　そこが毛嫌いされる要素だろ！（笑）。

ガンツ　だから要は秋山って、桜庭和志＋角田信朗なんだよね（笑）。マヌーフ戦なんて、初期のサクvsシウバみたいなスリルがあって、しかも勝っちゃったわけだから。

押切　うん。ひさしぶりに桜庭和志的な鮮やかなムーブを見た。

ガンツ　だから試合はあの頃の桜庭で、それ以外は全盛期の角ちゃん。奇跡の融合ですよ、これ（笑）。

押切　そして、みのもんたさんが応援団長という（笑）。

ガンツ　ズバッと乗れない要素がとことん詰まってるよね（笑）。でも、今回の試合自体はじつに鮮やかでしたよ。スミルノヴァス戦のハイキックしかり、マヌーフ戦の腕十字しかり。

橋本　それはやっぱりさ、秋山は今回初めてホントの意味でプロとして勝負論のある世界に踏み込んで結果を出したわけだからね。

ガンツ　だから大会前と終了後の秋山の評価はガラリと変わったと思う。前回の金泰泳戦は不透明な決着だったこともあって、所くんや宇野くんと比べて明らかにオープニング時の声援が少なかったですから。

タコ　『HERO'S』がイケメンの世界やとかなんやとか言われる中で、秋山はまた『HERO'S』的でもなかったわけでしょ。……秋山がイケメンじゃないって言ってるわけやないよ（笑）。

ガンツ　いや、秋山は『HERO'S』的ではあったけど、あまりにも『HERO'S』的すぎるということだったんだと思いますけど。

橋本　俺も前から、秋山こそが〝ミスターHERO'S〟というイメージが凄くあって。秋山ってあらゆる意味で『HERO'S』の世界観を体現しているというか。ほかの選手は個人やバックボーンのカラーがあったけど、唯一秋山だけ『HERO'S』色だけでできているというか。

ジャン　『HERO'S』の世界観によって、その存在が仕立て上げられた雰囲気はありましたよね。

押切　でも、今回は格闘家としての存在を実力でとうとう証明したよね。実際、柔道家出身の総合格闘家の中では一番オールラウンドにこなしている。実際はもっとできる選手がいるのかもしれないけど、スッキリ勝つことで印象は断然強い。

ジャン　ただ、これによって、秋山が大晦日決戦を呼びかけたサクとの試合がガゼン楽しみになったかというと……。

タコ　いやあ……サクファンからすると微妙やねえ。サクには勝ってほしいけど、残念ながらいまのサクの体調だと勝てる気がせえへん。今日の秋山はホンマに強かった！

橋本　そこで一番考えなきゃいけないのは、「いまの桜庭を大晦日に出していいの？」ってことだと思うんですよ。

タコ　サクが練習中に倒れて緊急入院したのは、スミルノヴァス戦のダメージというより、これまでのダメージの蓄積が原因らしいけど……もう心配やなあ。

ガンツ　話はずれるかもしれないですけど、レフェリーストップに関して言えば、今回はどの試合も早かったよね。あのサクvsスミルノヴァス戦でちっとも止めなかった岡林レフェリーが、アントニオ・シウバのパンチ一発で止めてたからビックリしたよ（笑）。

押切　でも今日のレフェリングって、桜庭問題があったから締め直したっていうわけではなくて、『HERO'S』本来のレフェリングだよね。

橋本　これが『HERO'S』の基準ですね。ちょっと早めのストップだけど、今日はすべて妥当だったと思いますね。

タコ　『PRIDE』ではよく〝死闘〟っていう言葉が使われるけど、『HERO'S』にはその死闘な感じがないわけじゃないですか。それはまずレフェリーストップが早いという基準が試合を良くも悪くも死闘に見せない効果にもなっているし。だからこそ、こないだのサクの試合はホントに異質やったよね。

ジャン　で、桜庭の緊急入院は、脳の腫れじゃなくて椎骨脳底（ついこつのうてい）動脈血流不全という説明がありましたけど、これは具体的にどういう症状なんですかね？

押切　たとえばお年寄りが首をひねったりするときって、血管が狭くなってるせいで喉を刺激する。そうすると血流が悪いので脳に血が行かなくなってめまいを起こす。で、すべてのめまいっていうのは症状がキツくなると嘔吐になるわけなんだ。それだけだったらもの凄く心配っていうわけではないんだけど、試合中にめまいを起こしたあとに打撃を食らうかもしれないという恐怖を考えると、ちょっと様子を見たほうがいいんじゃないか？　というのが、ボクが医者に聞いた見解ではあるんだけど。

橋本　そのドクターの判断にしても、日常生活を送るうえでのOKと、総合格闘技をやるうえでのOKでは基準が違うはずですからね。

押切　その面で言えば、サクは試合後に救急病院に運ばれたけど、そこのドクターが総合格闘技について見解が深いとは思えないなあ。

ガンツ　それに総合格闘技って、まだサンプル例が少ない現実はあるじゃないですか。

押切　ないね。ボクシングでは死亡事故があるけど、それは総合格闘技と比べて試合数が圧倒的に多いからでもあって。総合がいまのボクシングと同じ試合数をこなしたら

座談会出席者Profile

橋本宗洋
日本最重量級フリーライター。『格闘技通信』でアルバイト後、『SRS-DX』編集部で、編集長の谷川貞治からサダハルンバイズム洗礼を受け、同誌休刊後はフリーとして活躍。K-1、『PRIDE』からキックボクシングまで分け隔てなくカバー。最近はメカマミーと対戦した無気力ファイター真琴の「底が丸見えの底なし沼」ぶりにゾッコン！

押切伸一
ライター。放送作家。コラムニスト。格闘技情報番組『SRS』（フジテレビ系）の構成作家。大学在学中からライター事務所に所属して精力的に活動。やがて趣味の格闘技観戦が活発化し、93年『Hot Dog Press』（講談社）の格闘技特集構成を手がけたことが遠因で『SRS』放送作家に。さまざまなメディアの現場を知る情報網は広く、そして深い。

原タコヤキ君
まだまだ自転車に夢中な“タコ兄さん”こと（最近は頻繁に合コンに参加！と噂の）元『紙のプロレス』編集者。現在、東京で音楽関係の仕事に従事するがOBとして、座談会出席者として、松澤チョロ後見人としてたびたび登場！　業界から一歩離れたいち格闘ファンの等身大なスタンスを保ちつつ、今日もスムーズな大阪弁が冴え渡る。

堀江ガンツ
『kamipro』編集部、熱狂的かつ変態的なUWF信者～リングスファンを経て業界入り。現在は『PRIDE』を中心にミルコ番、ノゲイラ番、所くん番など、多方面で絶賛活躍中。血中UWF度が濃縮＆凝縮され、『PRIDE』を通過した果ての俺イズムから来る、ブレのない格闘論には定評がある。アルコールが入ると、いろいろな意味で手がつけられない。

ジャン斉藤
『kamipro』編集部、冷酷な本誌進行役。“雀鬼”こと桜井章一の内弟子という、異色経歴を経てダブルクロス入り。アントンの永久電機情報整理をライフワークとし、現在はいよいよ11月に開催が決定した『INOKI GENOME』に合わせて韓国へ渡航する気マンマン。ついにドタバタ破綻興行系マニアの極北点に到達か？

……ちょっとわからないよ、これ。
橋本 あと総合格闘技を何年もやりきって引退した人ってまだ少ないから、これからどんどん検証していく余地があるはずなんですよ。
押切 それに団体によってルールも違うわけだからね。『PRIDE』は踏みつけがOKで、『HERO'S』は禁止だったり。
ガンツ 『PRIDE』は顔面パウンドありだけど、リングスKOKと、去年の大晦日の○○○の試合では禁止だとか。
橋本 後者は意味合いが全然違うし、ある人の勝手な妄想だよ！
ガンツ まあ、そのKOKルールが安全かっていったら、決してそうとは言い切れないからね。グランドで膠着したらスタンドアップして、そのまま延々と殴り合いが続くわけだから。
橋本 つまり、ボクシングのひたすら顔ばっかり殴り続ける危険さに似てるわけね。
タコ ただねえ、こうやってマスコミレベルで安全性を突き詰めていくと、当然、〝格闘ロマン〟からは遠ざかるわけじゃないですか。
押切 でも、桜庭を始めとする有名選手に何かしら大きなダメージが残ったときに、競技の存続とか、ジャンル自体が消えてしまう可能性だって当然あるわけで。それに関して、『HERO'S』に限らず、各団体の関係者はもっと危機感を持つべきだと思うよ。
タコ そう考えると、桜庭の危うさは、そのまま総合格闘技の危うさであるということを体現してしまうわけやな～。
押切 そうそう。
タコ これ、よく『HERO'S』の問題にされてしまうけど、総合格闘技自体が抱えている問題やからね。
ジャン その桜庭問題を触れることがタブーになっている危うさもありますよね。
タコ それはタブーなのか、医療的な問題でマスコミもそれ以上触れられないのかというところはあるのかもしれんけどね。
ジャン いや、最近発売された某・格闘技専門誌なんて、サクの症状が一行たりとも書かれていないんですよ！　この得体の知れなさって……。
タコ だから医学的見地はともかく、マスコミの仕事として、総合格闘技を観る側への啓蒙みたいなのは必要っていうことでしょうね。
橋本 絶対に必要ですよ！　たとえば、選手ってKO負けしても、担架を拒否する美学があったりするんだけど、安全問題に詳しい人に言わせると、脳が揺れてのKOを食らった選手は有無を言わさず担架で運ぶべきらしいんですよ。できうる限り安静にさせたほうがいいから。
タコ たしかに担架を拒否する美学みたいな風潮は当たり前のようにあるよね。
橋本 だからそのへんの美学をもうちょっと修正したほうがいいと思うんですよ、少なくとも主催者側とマスコミは。美学は必要なんだけど、担架拒否は美学にしなくていい。まあそんなこと言ったら、医学的見地からすれば「総合格闘技なんてそもそもやるもんじゃない」ってことになるんでしょうけど。
ガンツ 中山健児ドクターは以前、「医者としての立場で言えば、ゴングが鳴った瞬間にドクターストップにしたい」言ってましたよ（笑）。
橋本 昔ね、ある格闘家が、大学の卒論の研究テーマを「減量」にしたんだって。効果的で健康的な減量ってことだと思うんだけど、そこで担当の教授が言ったセリフが「いや、キミねえ、格闘技の減量なんて研究するようなもんじゃなくて、そもそもやっちゃダメなんだよ」っていう（笑）。
タコ うわ～！　減量という行為すらそんなヤバイんや。
橋本 一般の基準で考えたらそうなんですよ。だから、ボクも減量の危うさを考えましたよねえ……（お腹をマジマジと見つめながら）。
一同 ……（無言）。
橋本 ……とにかく！　医学的に言えば、減量ありのフルコンタクトスポーツ自体が危ないんですよ。
タコ ちなみにね、いまの総合って、KOされたら次の試合までどれだけ出たらアカンとかあるの？
橋本 サスペンド期間は『PRIDE』も『HERO'S』も設けてないんですかね？
押切 K-1は一応ある。二ヵ月だったかな。
橋本 まず、ドクターの権限のみで試合をストップできるシステムが完全には確立されてないですよね。たとえば『PRIDE武士道』でやったTK（高阪剛）vsヒョードルのとき、最後にTKの出血をチェックしていたのはドクターじゃなかった。つまりプロモーター以上の権限を持った人がいないんですよ。
タコ じゃあ、そこはきちんとしたシステムがあるべきなんやね。
橋本 修斗の場合は、ルール管轄はコミッション、運営は協会、興行はプロモーターの三権分立として機能していると思う。でも、それによって著しく興行のダイナミズム

ライトヘビー級トーナメント決勝戦
○秋山成勲 vs メルヴィン・マヌーフ×
（1R 1分58秒 腕十字固め）

「柔道最高～!」なライトヘビー級決勝は “柔道着を着た” 秋山が “優勝候補” マヌーフの打撃をかいくぐって、あざやかな腕十字でタップ奪取！　感涙の秋山の傍らには秋山オカンまでリングイン。対戦が流れた桜庭にも「大晦日お願いします」と対戦要求。

桜庭和志『HERO'S』欠場会見再録

9月25日、『HERO'S』にて秋山成勲と対戦予定だった桜庭和志が練習中に嘔吐し、体調不良で緊急入院。精密検査の結果、椎骨脳底動脈血流不全のためドクターストップ。9月27日、桜庭本人と谷川貞治FEG代表が行った緊急会見の模様を再録。

司会 まず最初に谷川貞治FEG代表取締役よりご説明をいただきます。
谷川 はい。えー、急な会見ですがお集りいただきましてありがとうございます。10月9日の『HERO'S』ライトヘビー級トーナメントの出場予定選手だった桜庭選手の件につきまして発表させていただきます。
えーっと月曜日ですか、桜庭選手がスパーリングしている最中に激しい嘔吐、めまいをしたため、一緒に練習していた豊永稔さん、あとはマネージャーの方が大事をとって病院に行きました。その経緯を聞きまして判断したことを発表させていただきたいと思います。正確なことを言いますと25日ですね、激しいスパーリングをやって嘔吐、眩暈がして病院に行ったということで緊急入院し、今朝、一度退院をしました。
練習中に打撃を受けて倒れたとかいう状況ではなくて、激しい動きによって嘔吐をしたそうです。桜庭選手自身、この一週間くらいたしかに激しい運動をしたら気持ちが悪かったそうです。MRIの検査に関しては前回も異常がなかったんですが、病名がですね、椎骨脳底動脈血流不全、椎骨脳底動脈血流不全ということです。診断書によりますと「8月5日の受傷後、一ヵ月間の練習を禁止し、再度、頭部MRI検査にて明らかな脳の器質的な病変は認められなかったため練習を開始したところ、激しい運動負荷でめまい、繰り返す嘔吐・嘔気が生じるため、上記病態による症状の疑いがあり、当分のあいだ、激しい運動負荷は控えたほうが良い」という結果を26日にいただきました。
お医者さん、桜庭選手に話を聞いたところ、直接的な原因は脳ではなくて首ですね。首の古傷によるダメージの蓄積じゃないかと言ってます。
血流不全というのが、桜庭選手、骨が損傷してささくれ立ってるんですね。で、それが神経を圧迫すると手がしびれたりするらしいんですけど、それで脳に血液が流れにくくなってめまいがしたり吐いちゃったりすることがあると、いうことが直接的な

が損なわれることもあるわけで。

ガンツ そこのバランスを取るのは難しいよね。

橋本 難しい！ これはハッキリ言って、格闘技の持っている"業"ですよ。

タコ 総合格闘技が興行である以上の宿命なんかなあ。

ジャン そもそも格闘技って、ずっと死と隣り合わせだったじゃないですか、いまに始まったことじゃなくて。人間の一生にも常に死がつきまとっていますけど、子どもが大人になる通過儀式って、その死という現実を肌で感じたときなんですね。つまり、格闘技も大人になる時期がきたのかなっていう。

タコ それをサクが身をもって提示してくれるなんて、もうそれは深い話だよねえ。

ガンツ 格闘技の喜び、怒り、哀しみ、楽しみ。格闘技のあらゆる感情をサクはずっとリングで表現してきたわけですからね。

橋本 体重問題や四点ポジションのヒザ蹴り問題にしても、サクが焦点を当てたんですよ。

タコ いやあ、"ミスターPRIDE"じゃなくて、"ミスター格闘技"やねんなあ、サクは。

橋本 あらゆる意味でトップランナーですねえ……。

タコ そんな開拓者でもあるサクだからこそ、悲しい事件は起こったらアカンのよね。

押切 桜庭に限った話じゃないけど、選手を守るのはもうマスコミの役目だと思うんだよなあ。

橋本 格闘技専門誌を続けるんだったら、提言するしかないと思う。

押切 だから桜庭のダメージに触れないっていうのは、一つもファンのことを考えてないっていうことだよね。桜庭って凄く功労があったから、心配している人がいっぱいいるわけで。それに対しても応えてないっていうことだと思うんだよな、俺は。

橋本 ま、俺が一番言いたいのは、なんでこんな話を『kamipro』でしてるんだってことなんだけど（笑）。

ガンツ ガハハハハ！ いやあ、おっしゃるとおりですねえ（笑）。

タコ なんか真っ当な良識派みたいなことをねえ（笑）。

ジャン 本当はアントンばりに「死ぬまでやれやっ!!」ってヨダレを垂れ流しなら叫びたいわけですよ、こっちは。

ガンツ I編集長ばりに「リングで死ねれば本望でしょうが！」って吠えたいよね（笑）。で、対極のマスコミから「競技優先すべきだ！」と声が上がって押さえにくるのが普通でしょ。

押切 そうした議論が巻き起こるのが一番、健全な世界だよね。

橋本 でも、いまは桜庭のインタビューをしときながら、ダメージやスミルノヴァス戦に一切触れない気色悪さが格闘技専門誌にあるわけでしょ。

ガンツ でも、谷川さんからすると、レフェリング問題でマスコミは騒ぎすぎというわけじゃない。前号の谷川さんインタビューで「なんでマスコミはサクちゃんの大逆転の凄さを書いてくれないのかなあ〜」って言ってたけど、さすがにそんなのんきな状況じゃないでしょう（笑）。

ジャン 基本的に興行というものは事実や真実がどうであれ、観る者を良くも悪くも誤解させなきゃならないんですけども、あの試合はどう転んでも「感動」という誤解は招かないですよ。

橋本 招かないねえ。

タコ ただ、谷川さんをフォローするわけじゃないけど、こういった問題は当然、主催者に矛先を向けるべきやけども、主催する側が選手に対して冷酷であったりとか、金のことだけ考えてるかっていったら、そんなことは絶対にない！ 事故が起きて、一番困るのは主催者やから。谷川さんなんか一番事故なんか起きてほしくない人なんですよ。それは榊原さんにしてもそうだし。ただ、そういうふうに言わざるを得なかったりするのは、現在の総合格闘技がテレビ頼みであるからでしょ。

橋本 そこは格闘技の土壌が脆弱としか言いようがないですね。谷川さんだって、もしかしたら「いまの桜庭は試合に出せない」って悩んでるかもしれないですもん。

タコ そりゃ絶対に苦悩はあると思うよ。

ガンツ 選手単体だけで見れば、桜庭和志のドラマとしておもしろいはおもしろいと思うんですよ。これからどうなるのかという。橋本さんはどうなってほしい？

橋本 ありきたりな言い方だけど、しっかり身体を治して、できるのであれば試合をやって、さらにできるのであればもう一花咲かせて、そして幸せな引退を迎えてほしい。何年後か何戦後かわからないけど。ただ、いまこの流れで『Dynami

「どうも、桜庭です！」と桜庭和志が（サクマシンマスクを逆さにしたような）マスクで入場し欠場挨拶。大事をとってもらいたいとこだが「年末に向けて、一生懸命練習していきます」と練習再開も示唆。

原因ではないかとお医者さんは言っております。血流不全の検査は造影剤を入れて血管を拡張してしないといけないんですけど、それは吐き気がするような状態のときはやらないほうがよくて、正常の状態で検査するものらしいです。

そういう意味ではこれは両方とも非常にケガとしては大変なことなんですけど、私が聞いたときは脳じゃなく、あくまでも首じゃないかというような、これはちょっとある意味安心したというかですね、このあいだのダメージというよりも長年の蓄積のほうが大きいだろうという説明を受けました。今後に関してはとにかく二週間、長くても一ヵ月くらい安静にしていれば、激しいスパーリングをしても嘔吐、めまい、そういうものはなくなるだろうと。

で、医者の希望としては「Dynamite!!」まではしっかりトレーニングをしてですね、しっかり職業病を治してから出場してもらったほうがいいということで、10月9日に関してドクターストップがかかりました。で、桜庭選手からは非常にありがたい話で、なんとかやれると思うんですけどという話をいただいたんですけど、TBSさんも含めてですね、いやもう本当にゆっくり休んでもらいたいと。また次につながるケガとかそういうことを考えるんだったらば、ここはファンの方にも申し訳ないんですが、桜庭選手はぜひ欠場させてもらいたいということでですね、一刻も早く治して、大晦日のほうに頭を切り替えていただきたいなと思っております。

桜庭vs秋山というのは10・9の大きな目玉でありましたし、トーナメントで桜庭選手が抜けること自体がイベント的にもダメージが大きいので、延期等も考えましたが、急に一ヵ月後二ヵ月後に延ばすことは現実問題不可能で、私どもとしては、まあ桜庭選手の欠場をカバーできるというのは本当にいないと僕は思ってるんですけども、できる限りのことはしていきたいなと思っております。

あとは前田日明さんは昨日夜電話がやっとつながりまして、事情を説明したところ、まあ本当、ありがとうと。なんというか、桜庭選手の親かというぐらい、休ませてくれてありがとうと。興行的にはつらいと思うけど、桜庭選手が一日でも長く格闘技のファイターとしていられるんだったら、ここは休ませてあげてよと。そういう感じで前田さんも言葉を投げかけておりました。ですので非常に残念ですが、10月9日はあえて我々のほうから桜庭選手に欠場してもらい、万全の態勢になって大晦日に備えていただきたいなというふうに思っております。

司会 それでは桜庭選手より、今回の状況と「HERO'S」欠場についてのコメントをお願いしたいと思います。

桜庭 どうも桜庭です。あのー、せっかく試合決まったんですけど、ファンの皆さんやTBSさん関係者のみなさん、そして秋山選手に本当に申し訳ないと思います。

本当は自分としては試合をやりたいんで

te!!』出場、秋山戦実現へっていう流れにはまったく乗れない。

タコ サクの試合はもちろん観たいけど、「そうあっさり乗るわけにはいかん！」っていう感じやね？

橋本 そこは桜庭和志という偉大なファイターだからこそ強く思いますよ。サクに対して配慮がなされることで、これからのモデルケースも作られていくわけだし。

ジャン 図らずも身を持ってマット界の道を切り開く。やっぱりサクは〝ミスター総合格闘技〟なんですね。

◇

ジャン 今回の『HERO'S』のもう一つの大きなポイントで言えば、前田日明スーパーバイザー（以下SV）の金子賢問題がありますね。

タコ いや〜、今回の前田SVにはホンマに惹きつけられたでしょ〜。

押切 試合自体はなんてことなかっただけに。やっぱり前田SVは怒ってこそ、良くも悪くも魅力が浮き出るのかなあ。

ガンツ 前田SVの怒りにつられたのか、所くんまでもが煽り映像の中で「プロの厳しさを教えてやる!!」なんて、言わされてましたからね。

橋本 言わされてたのかよ！（笑）。

ガンツ え？ あれ、違うの!? 所くんがあんなこと言うわけないよ！

タコ まあまあ（笑）。なんだかんだで「これはしっかり観よう」って思うたもんなあ。

ジャン いや、ホントですよ。金子賢自体はそれほど注目してなかったですけど、ようやく動き出した前田SVがとにかく目が離せなくて。

ガンツ いや〜、前田日明SVが初めてテレビ的に役に立った感じだよね。でも、冷静に考えてみると、金子賢自身は真面目に練習してるだけなんだから、彼に怒るのはまったくの筋違いだとも思うけど（笑）。

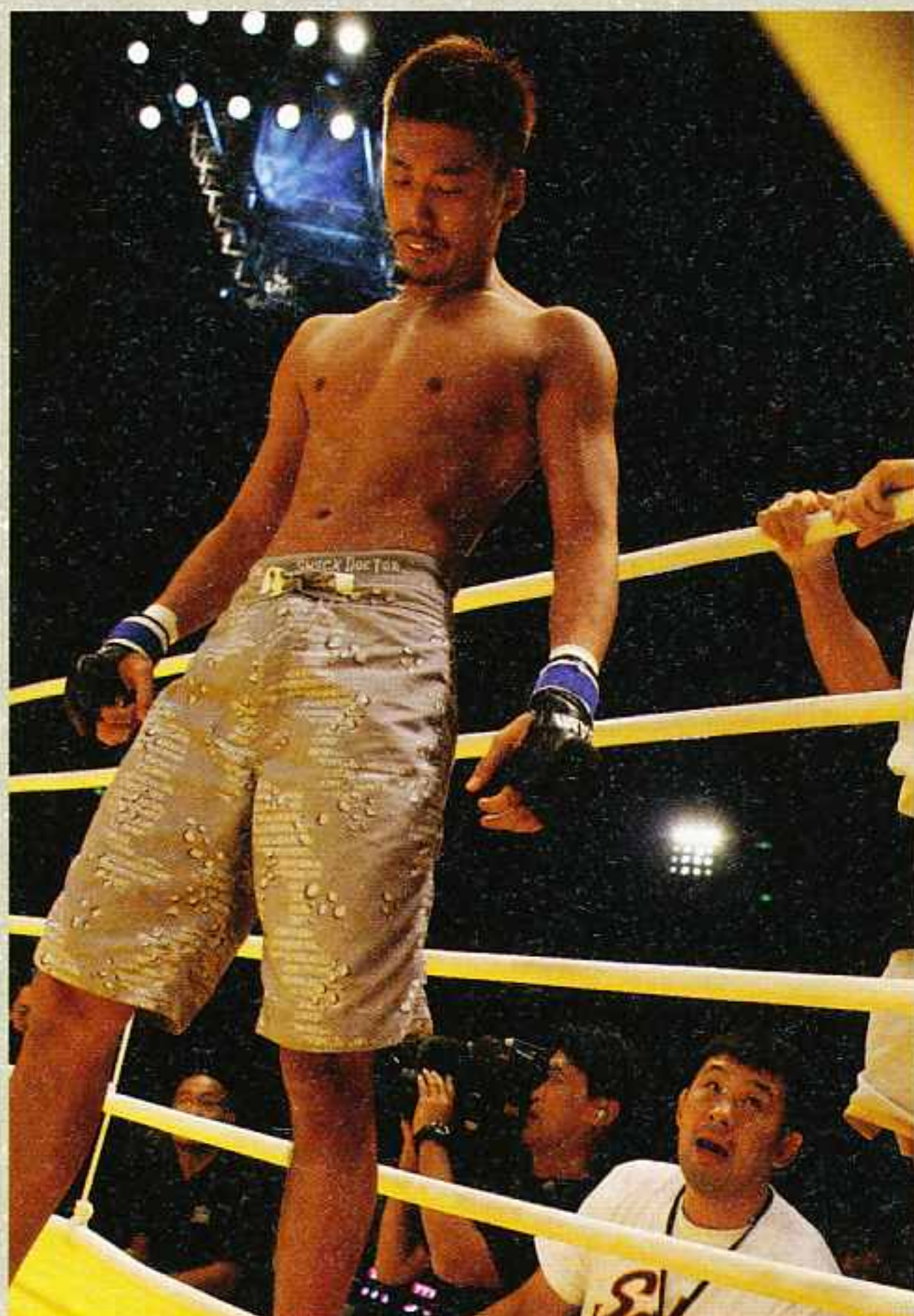
タコ ホンマやで！ 文句はマッチメイクした主催者に言うべき話やんな。あげくには「俺に挨拶がない」「小林旭はどうのこうの」とか、まったく関係ない話に転がっていくし（笑）。もうとことん前田日明の世界やなあ。

ガンツ まさに〝アキラのズンドコ節〟が大爆発したというか（笑）。

橋本 金子賢はズルしたわけじゃなくて目の前にあるチャンスをつかんだだけなんだよね。シンプルに言うと、オファーがあったから出ただけ。

押切 当たり前の判断なんだよね。

ガンツ 実績のない金子賢の出場がおかしいというなら、トーナメント一回戦で秒殺負けしている所くんが、なぜかファン投票で二回戦に出場できることだって相当おかしいと思うけどね（笑）。もちろん、所くん本人にまったく罪はないんだけど。

橋本 それに前田SVは桜庭vsミルノヴァス戦で「死んだらどうする!?」って怒ってたわけだけど、所くんには金子賢を「半殺しにしてこい!!」って命令してるんだよ？

「俳優やめてから来い！」など前田SVの憤激を買った金子賢のセコンドについた桜庭は「ほかの選手も試合しながら、仕事してたりするでしょ。彼はそれがたまたま俳優だっただけ」と肯定的に発言。

ガンツ 「抹殺指令」だからね（笑）。

橋本 だいたいスーパーバイザーっていう立場だったら、所くんに指令を下しちゃいかんだろうって（笑）。

ジャン スーパーバイザーというより、もはや〝前田日明業〟ですよね（笑）

橋本 たしかに前田SVは真っ当な意見を口にしてるんだよ。「アマチュアから叩き上げてしかるべき」というのは正論だし、しかも前田SVはリングス時代にアマチュア大会や若手選手中心のバトルジェネシスとかやってきたんだから、言う資格はある人ですよ。だけど、あまりにも現実に即してないというか。それを言いだしたら、現状の格闘技イベントのあらがボコボコ出てきちゃう。

ジャン なんか前田SVって、興行論と競技論が危ういバランスで成り立っているとこはありますよね。

橋本 興行論と競技論と、そして自分の感情がもの凄く危うい成り立ち方をしている（笑）。

ジャン そっか。感情が入ってるから、試合後に金子賢が挨拶に来ただけで握手しちゃうんだ。ボクはあのシーンを観て、「いい試合をしたわけじゃないし、何が前田日明の基準なんだ？」っておもいきりズッコケたんですけど、それで納得しました。

ガンツ 俺なんかロシアでちゃんと挨拶しにいったのにド突かれたのにさぁ（笑）。

橋本 しかも二発も（笑）。

ガンツ 真面目な話、前田SVがなぜ金子賢出場に怒ったかといえば、『HERO'S』が軽いリングに思われる危うさを感じたんだと思うよ。これはファンもある意味同じでさ、金子賢が『男祭り』に出たときは温かい反応だったんだよね。これはなぜかと言えば、それこそ半殺しにされるかもしれないリングに向かう男に対してブーイングは浴びせられないでしょう。でも、今回の

すけど先生のほうからストップがかかってしまったので、もうどうしようもないので、年末にいい試合ができるように、勝てるように頑張りますのでよろしくお願いします。すみません、ありがとうございます。

司会 それでは、ご質問がありましたらお願いします。

——（桜庭に対して）自覚症状はいつ頃からあったのか？

桜庭 首は高校のレスリングやってるときから、痛めたりとかの繰り返しで、症状が出たのは最近ですね。痛いなってのはずっとあったんですけど、めまいとか吐き気とかは最近こう激しいきつい練習とかすると出てきたりとかそういうのはありました。

——もう少し具体的にいうと？

桜庭 だいたい一週間から10日くらい前とかですね。練習をこうだんだん試合に向けてきつくしていく段階の頃ですね。めまい暈とかあったり。ちょっときついインターバルトレーニングとかすると、ちょっと吐き気が出たりとか吐いたりとかはありました。

——記憶はあるか。

桜庭 記憶はあります。普通にスパーリングやって、自分で動こうと思ってガンガンガンガン動いてたんですけど、途中……、途中ですね。もう（スパーリングが）終わりそうな頃ですね。

——吐き気やめまいは最初に首を痛めたときを含めて経験はあったのか？

桜庭 吐いたことはないですね。今回は初めてだったんで。めまいとかはときどきあったりはしましたけど。

——MRI検査を受けたのは？

谷川 二回か三回受けたんですよね、MRI検査は……（桜庭を見ながら）。

——受けた時期というのは？

谷川 8月の5日の……。

桜庭 （試合の）直後に一回と、あとは9月の5、6、7日とかそのへんにもう一回受けてます。

谷川 カード発表する記者会見のちょっと前だったと思います。それを受けて、桜庭選手がやる気満々だったんでGOをしたんで、そんなタイミングでしたね。二回目はさらにMRIがよかったという感じでした。

——試合後、二回目のMRI検査までは練習はしてなかったのか？

桜庭 一ヵ月は何も練習しないでくださいっていう。息の上がるような練習は一切やってなかったです。

——これから通院はするのか？

桜庭 リハビリっていうか、安静にしてなさいということで、少し安静にして、それから検査をするという感じで。（通院は）なんかあればですけれども、とくに何もなければ安静にしてろということです。練習も止められてるのでこれから病院に行くというのはないです。

司会 ご質問がなければ以上で終了させていただきます。

【谷川氏カコミ取材】

——谷川さんが連絡を受けたのは？

『HERO'S』は相手がグラップラーの所君ということもあって、"素人"に「ええ格好」されるかもしれないという反発がファンの中にもあった。

タコ　そこに対して前田も「NO」を突きつけたんやろうな。

ガンツ　だから、おそらく前田日明は『HERO'S』が軽いリングだと思われてしまう危うさを皮膚感覚で感じたんでしょう。そこまでは本気だったと思うんですよ。でも一回目の怒りのコメントがあまりにもウケたんで、そのあとはサービストークの小林旭までいっちゃったんじゃないかって（笑）。

タコ　ボクが気になったのはテレビ的に前田SVが金子賢に怒ったことを会場映像はもちろん、TBSの番組でも煽りで使ったわけじゃないですか。TBSがここで前田SVをおおっぴらに扱いだしたのは、なんなんでしょうね。

押切　TBSはいままでは前田日明の姿や発言をほぼすべてカットしてきたわけだからね。

ジャン　だって、所くんがリングサイドの前田SVに勝利報告するシーンですらカット気味だったんですよ（笑）。

橋本　まあ、アングルとしてTBSやFEGが転がそうと判断したから転がったんであって、転がすまいと判断した須藤元気のフィッシング戦法問題は棚上げされたわけでしょ。

ガンツ　そこはアングルにできないと判断したんでしょう。あと考えられるのは、前田SVが出演した『オーラの泉』を観たTBSが前田日明のタレント性を評価したんじゃないかな（笑）。

ジャン　「前田さんの前世は中国の皇子ですね」（不気味な笑顔の江原啓之調）。

ガンツ　「ああ、やっぱりそうでしたか」（前田日明調）。……って、自分自身で思ってたのかよ！　っていう（笑）。

ジャン　あの"真剣の茶番"具合は、たまらないなあ……。

タコ　いいプロレスラーやなあ、ほんまに（笑）。

押切　とくにインテリだと思われている誤解が素晴らしいよね。

ガンツ　今日もオープニングでいきなり「春秋戦国時代の……」って挨拶してましたけど、"春秋戦国時代"というキーワードじゃ、興行の高揚感は高まらないよ（笑）。

ジャン　猪木さん並みのマイウェイですよ！　前田日明に思い入れが深いファンやマスコミには本当に申し訳ないですけど、自分はもう前田日明を猪木さん的な見方しかできないですね。

橋本　つまり、ゲノム的なおもしろがり方ってこと？

ジャン　そうですね。復活後の前田SVが本腰を入れて何かをやってくれる雰囲気は個人的には感じ取れなかったし、それなのに過去の栄光を引っ張り出して、現在や未来と結びつけて物事を見るのは、かつての感動体験だけが支配する盲目的世界になりそうなので。だったら、いまの猪木さんのように"余計なことを言っちゃう偉い人"として、へんな期待をせずにその飛び抜けた個性や人間力を楽しんだほうがいいんじゃないですか。

ガンツ　俺は猪木さんというより、野球の金やん（金田正一）に見えるんだよね。「松坂大輔も凄いけど、俺んときは165キロ出てた！」って感じで（笑）。

ジャン　いや、金やんでも全然、問題ないです。金やんのスケール感と有無を言わせない説得力は、間違っても長嶋一茂には見えないですしね。

橋本　でもさ、「そんなふうに前田を見るな！」って怒る前田信者は確実にいるわけじゃない。そういう人たちにちょっと言いたいのは、いまの前田SVは金子賢を女子便所で説教するのかってこと。しないと思うでしょ、アナタたちも？　っていう。

押切　いや〜、わかんないよ（笑）。

ガンツ　そうだ、そうだ。挨拶したのにド突かれた記者だって実際いるんだから！

橋本　しつこいよ！　でも、猪木さんや金やんフィルターのほうが、前田が復活したての頃の「もう一度強いプロレスを取り戻してくれるんじゃないか？」っていうへんなはしゃぎ方よりはよっぽど健康的だと思う。

ガンツ　スーパーUWF幻想ね（笑）。その路線でいってたら、上井ステーションばりに、誰も停車しない"前田ステーション"になってた可能性もあるわけだからね。

橋本　それによって「『HERO'S』なんてしゃらくせえ！」と思っていた"格闘セレブ"たちも、「お、なんか『HERO'S』、今回おもしろいんじゃない」って思ったかもしれない。前田SVが口を開けば、全部宣伝になったわけだよね。今回に限って言えば。

押切　でも、いまのファンは前田日明をどういう視点で見てるんだろうね？　本当によくわかってないと思うよ。

タコ　そうそう。ボクらはすでに前田日明を知っているから楽しめているけど、そこを整理しないと。いまの『HERO'S』観てるファンに、前田日明のやってきた素晴らしい業績を説明せんといかんのやないか？

橋本　ローライズ版の前田日明とは何か？

タコ　いまの総合格闘技の礎を作

谷川　だから「病院に行ってきます」って。僕が最初に聞いたときは、本当に倒れたとかそういう話を聞いたんじゃなくて、要はちょっと吐き気がするから一応病院に行ってこようと思うっていう話だったんですよ。

――入院は検査入院だったのか？

谷川　検査入院ですね。まあ本人食事も普通にできるんで、ただ血管を調べましょうということで。ただ、本人がやる気は満々だったんですね。まあ、サクちゃんらしいというか、本当にプロ意識が凄い強いから、スミルノヴァスともあんな試合しなくていいのにあんな試合になっちゃうし。

――代わりの選手は？

谷川　トーナメントで活躍した選手、それこそスミルノヴァス、あるいは日本人選手から選ぶしかないですよね。昨日の段階で心配して電話してくれる関係者の方もいて、何か役に立つことがあったら試合させてくださいっていうことがあったんで。

――代わりはトーナメント出場メンバーの中から？

谷川　いやいや、わからないですよ。来ても、このあいだの……クラウスレイ！　いくら3日前にオファーしたからといって、お客さんにとってもよくないから。でも、クラウスレイもいい選手なんですよ。でもあれが潰されちゃいますからね。

――最近は、KIDも元気も、桜庭も……。

谷川　そういう意味では苦しい状況なんですけど、だからこそ我々スタッフも選手のほうも、とくに宇野くん、秋山くん、まあ、大山くん。3人が底力を見せてもらいたいなって。

――今回の出場するにあたってMRIの検査を二回やって万全を期したと思うが、「Dynamite!!」に出すか出さないかの判断基準は？

谷川　もう、医者の判断ですよね。医者の判断です。とくに、桜庭選手みたいに長くやってればやってる選手ほどきちんと判断してやっていきたいなと思ってます。あの、医者の判断を第一に。その次にやっぱり、桜庭選手とかピーター・アーツとか、長いことやってる選手って蓄積がありますから。

――古傷がスミルノヴァス戦で悪化したということはないのか？

谷川　それか、練習中か。練習を含めてですよね。どこでというのは断定できないと思うんですよ。

――あれだけ打たれたら首のほうに響くのではないか。

谷川　う〜ん。だから、そういうのがあったのかもしれないですよね。そこはもうなんとも言えないです。そこの判断はつかないですから。桜庭選手がどこまで激しいスパーリングしてたのかわからないですし。

――前田さんが以前から言われているが、MRIなどで異常が見つかった時点で引退勧告しないといけないと。そこで異常がないのは当たり前の話で、それ以上のチェックをしないといけないのでは？

谷川　そうですね。それは本当にきちっとやっていきたいですね。

ったのは、UWFであり、前田日明やということを知らせんと、スーパーバイザーいうても、「なんでこの人、偉そうなの?」って言われそうやんか。

ガンツ でも、それを説明するのは難しいですよ。まず、UWFというものをプロレスから総合格闘技に移行する〝中間地点〟だったってことを言わなきゃ、その業績がホントの意味でわからないんだから。

タコ そりゃ難しいわ!

ガンツ そうなったら、永田さんみたいに「ヒョードル戦とニールセン戦を一緒にするな!」っていうことにもなりかねない(笑)。

押切 前田日明はあくまでもイメージだからね。イメージビジネス。

タコ でも、前田SVは髙田本部長と比べると、明らかに猪木さん寄りというか、真顔で「真剣勝負でね……」って言うてくれるでしょ。髙田本部長みたいに自己批判しないと次のステージに立てないわけではなくて、棺桶に入るまで「俺ら、ガチンコでね……」って言い続けてくれる意地の張り方はある。

ガンツ なぜ本部長が前田日明のように振る舞えないかといえば、前田日明が触らなかった現実を見ちゃったからなんですよね。

押切 ヒクソン戦で自我が崩壊して、そこからまた作りあげたわけだから。いまではエンターテインメントもやっている。

ガンツ だから、選手の表彰の仕方一つとっても、前田と髙田では違うんですよ。髙田本部長は本当に「鳥肌立った!」っていう感じで、ひれ伏す感じで選手を表彰するけど、前田SVは選手の耳元に「よくやったやんけ!」という具合にささやきかけてて、あくまで自分が上なんだよね(笑)。あくまで『HERO'S』に出てる選手は自分の後輩だという。

橋本 そこが永田さん的には、プロレスではあなたの後輩だけど、総合格闘技では後輩ではありませんよってことなんだろうね(笑)。

ジャン ただ、前田SVも髙田本部長もどっちも正しいんですよ。髙田延彦が前田日明的でもいけないし、前田日明が髙田延彦的でも魅力が半減してしまう。

タコ 両立はできないわなあ〜。

橋本 まあ、前田の功績をもの凄くわかりやすく語弊がないように言うと、プロレス・ルネッサンス運動を推し進めて、格闘プロレスからバーリ・トゥードへの橋渡しをしたってことかな。

タコ 俺が望むのはその程度からでいいんですよ。単純に言うと〝偉い人〟と思われてほしい。そう考えたとき、前田日明っていう人はジャンルとジャンルの接点というかさ、当然ガチンコとプロレスの接点であったし、〝格闘セレブ〟が『HERO'S』との接点を持てたのが前田日明ということでしょ。やっぱり、いつもそうやねんなあ。門番ですよ。「あなたたちはここを通じて観てください」っていうね。

上杉ボンジュール(以下ボンジュール) お疲れさまで〜す! ボンジュ〜〜ル。

タコ お、なんや、なんや。

ボンジュール いや、たったいま収録したばかりの前田日明の大会終了後コメントをお持ちしました。

ジャン では、さっそく読み上げてください。

ボンジュール (前田のモノマネをしながら)「所が勝つのはあたりまえでね、あれは某テレビ局のプロデューサーから出してくれというのがあったらしいので、そういう意味では金子くんもかわいそうというかね」。

ジャン 普通にしゃべれよ、ボンジュール。べつにおまえのモノマネは聞きたくないなから。

ガンツ 聞きづらいだけでまったく似てないモノマネっていうのは、ホント腹立つね(笑)。

ボンジュール あ、あ、すいません。え〜、「そういう意味では金子くんも乗せられて試合に出たのでかわいそうな気がしました」と。

ガンツ ……「金子くんもかわいそう」? それを言っちゃったらダメだよ、アキラ兄さん!

ボンジュール 「今日は試合前に金子くんが挨拶に来たんで、怪我がないように頑張りやと言いました」と(再び前田のモノマネをしながら)。

ジャン だから、モノマネをいらないから。

ボンジュール あ、はい! 「自分の実力で勝ち上がったら、誰にも後ろ指さされずにできるので頑張ってよ」と。

ジャン あとおもしろいところは?

ボンジュール あとはですねえ、石澤(常光)の話で「石澤とニュートンはレフェリングが難しかったね。ダウン取ってもいいし、どっちでもいい」ということで。

橋本 そもそも『HERO'S』にダウンルールはないんだけどね(笑)。

ガンツ スーパーバイザーはルールディレクションには関わってませんので、仕方なく……はないよな(笑)。

ジャン まあ、前田SVのそのときそのときの感情から溢れるパワーを楽しんだほうがいいんですよね。

ボンジュール で、帰り際に「○○も○○○○に○○○○○○○○して気分悪いわ!」と言ってました。

橋本 ガハハハハ! とっても載せられないよ!

ジャン ……猪木さんも似たようなことを言ってたなあ。

ボンジュール そのあとに谷川さんが入って来て、「いや〜、今日は金子選手が良かったと思いますねえ。本人の頑張り次第ですけど、年末も考えたいと思ってます。んあ〜」と。

ジャン ダハハハハハ! このギャップときたら、どうだ(笑)。

タコ まあ、前田のコメントは案の定だけども、ガンツの「それを言っちゃダメ!」がわからへんねんけど、何をそんなに怒ってんの? 前田日明に。

ガンツ だって、金子問題については、前田SVのムキになってる〝生の感情〟が美しいというか、その〝子ども発言〟がおもしろいっていう話でみんな盛り上がったわけじ

10·9 HERO'S ライトヘビー級トーナメント
準決勝、そのほかの試合

スーパーファイト
○アントニオ・シウバ vs カイシノフ・ゲオルギー×
(1R 1分08秒 KO)

〝ザ・ハイパーゴリラ〟という直球すぎなフレーズと「俺はゴリラのように強いぜ」という煽りVの無自覚なコメントが胸に突き刺さるシウバと初参戦のゲオルギのスーパーヘビー戦は、打撃戦を制したシウバが左フックでKO葬で2連勝!

スーパーファイト
○所英男 vs 金子賢×
(1R 1分50秒 腕十字固め)

「い〜けいけいけ逆境ファイター!」と今日も所(ジョージ)さん作曲テーマで所くん入場! 前田発言を意識してか、両者とも緊張の面持も所くんがテイクダウンから腕十字で一本! 前田SVからは「当たりまえや!」とドツかれ三昧。

ライトヘビー級トーナメント準決勝
○秋山成勲 vs ケスタティス・スミルノヴァス×
(1R 3分01秒 KO)

またも『トレーニング・モンタージュ』で入場の〝リトアニアの髙田〟。秋山は荘厳な『タイム・トゥ・セイ・グッバイ』で入場、正座→礼→手をつなぐ、秋山ワールド展開。試合は「脱いでも凄い」と柔道着を脱いだ秋山が右ハイ一発!

ゃない。でも、いまの言葉で金子賢への発言が、こんなくだらない本音をもとにした、〝大人の発言〟だったことがわかっちゃってガッカリですね。

タコ でも、SVっていう立場でも、充分いままでの前田日明のイメージとは違うんだからさ。

ガンツ でも、今回は「前田はやっぱり前田だった」って、みんな喜んだわけでしょ？ その種明かしを自分でしちゃダメですよ。カリスマは永遠の嘘をついてくれないと。

タコ なるほどね。墓場まで持っていけと。

橋本 しかし、言うにこと欠いて、またKさんを持ち出してきたところなんかはいいなあ。その因縁こそローライズにはわからないでしょ。

押切 べつにKさんの肩を持つわけじゃないけど、事実はまったく違うからね。そもそも金子賢がなんでかわいそうなのか、俺にはよくわからない。金子賢からすればKさんに対して感謝の念しかありませんよ。谷川さんだって、ビジネスとしてオファーを出したわけだし。そんなに迷惑がられてもねえ。

ジャン でも、この魔性のアクセル全開ぶりは、本当に猪木さんの域に入ってきたなあ。でも、引退後もこういう立場にいられるだけで、前田SVは恵まれてますよね。一種の〝プロレス年金〟みたいなもんじゃないですか。

橋本 年金もらってんだなあ、もう。

ジャン いま〝プロレス年金〟をもらえる人は、ごく限られてますよ。それなりの功績がないと資格がない。いまなら猪木さんと前田SV。髙田本部長の場合はちょっとケースが違うかな。

ガンツ 本部長はセカンドキャリアで、バリバリやってるよ。団塊の世代がただ定年を迎えるんじゃなくて、新しいビジネスだったり、生き方に行く感じ。

ジャン 実質二人か。10年前までは〝プロレス年金〟をもらえる人がいっぱいいたんですけどね。ドラゴンしかり、ビッグサカしかり、ターザン山本！しかり。でも、いまは定年後にアルバイトで食いつないでるようなもんですから、みんな。

タコ 年金破綻みたいなもんやもんなあ。社会保険庁が使い込んでしまったために。

橋本 だから、さっきのガンツの怒りはさ、前田SVがあんな締め方をしちゃったからだろうけど、やっぱり前田SVが組織論的な立ち位置に立って、ああいう締め方をしなきゃなんないっていうのもあって。それは要するに「前田が年金をもらって暮らしてるなんて」っていう寂しさだと思うんだよ。でも、まあ年金をもらう資格がある人だし、悠々自適なセカンドライフを見守るっていうのも、それはそれでいいんじゃないのっていう気はするけどね。前田に現役バリバリでいろんなことをかき回してほしいっていうのもねえ……。それはまた違う人、新しい人がやればいいことであって。

ガンツ でも、やっぱりああいう〝前田的発言〟は、リングス時代みたいに一国一城の主のときにこそ、美しいと思うんだよな。〝年金〟を拒否して、武士は食わねど高楊枝でいてほしいっていう青い気持ちがまだあるなぁ。

ジャン まあ、〝プロレス年金〟は桜庭にこそもらってほしいですね。いま年金授与資格の筆頭選手は桜庭ですから。

ガンツ っていうか、プロレス年金はいいけど、みんなちゃんと国民年金もしくは厚生年金払ってる？

押切 俺は当たり前のように払ってるよ（笑）。

タコ 俺もやで。『kamipro』の連中と一緒にするな！

ジャン 失礼ですねえ。ボクはまったく払ってないですけど、ヨメさんのぶんは払ってますよ！

橋本 自分の払ってから胸を張れよ！

ガンツ 『kamipro』の将来は、ターザン山本！同クラスということか（笑）。

【10月9日／新横浜某カラオケ店にて収録】

思わずホットドッグがほおばりたくなる、じつに60'Sアメリカンなムービーシアターな『HERO'S』セット。KID、元気を欠き、ローライズ率的にも観客動員的にも心配されたが、1万631人を動員。

スーパーファイト
○ドン・フライ vs キム・ミンス×
（2R 2分47秒 KO）

10人くらいの観客の熱狂的“フライ”コールが巻き起こる中、喧嘩番長はキム・ミンスと睨み合い、気持ちは真っ向勝負！　だが試合は膠着気味……。最後は右フックがミンスに入ってなんとかKO勝利。

ライトヘビー級トーナメントリザーブファイト
○カーロス・ニュートン vs 石澤常光×
（1R 0分22秒 TKO）

一部観客からの熱狂的“カシン”コールが巻き起こる中、ニュートンは電光石火のアッパー3連打で、石澤をマットに沈める秒殺劇！　納得してない石澤は「止めるのが早い」と猛抗議もその横でニュートンはノンキに“かめはめ波”ポーズ。

ライトヘビー級トーナメント準決勝
○メルヴィン・マヌーフ vs 大山峻護×
（1R 1分04秒 KO）

優勝候補筆頭“黒い弾丸戦士”マヌーフに対するは、ホドリコを下し絶好調、目くらましのようなフットワークも軽快な大山だったが、マヌーフは怒濤のラッシュで猛連打！　最後は豪快な右フックで決勝進出。

J.Z.CALVAN

HERO'Sに圧倒的現実到来!!
いったい誰がコイツに勝てるんだ!?

ATTのメンバーは単なるジムメイトじゃない
家族や兄弟みたいなもんなんだ

10月9日『HERO'S』のリングでは、新ミドル級王者が誕生するとともに、圧倒的現実が到来した。その現実を連れてきた男こそ、このJ.Z.カルバンだ。アウレリオやデニス・カーンら強豪が集うアメリカン・トップチームで日々技を磨いてきたカルバンは、何を思い『HERO'S』のベルトに挑んだのか。彼の闘いの軌跡を追う。

聞き手／橋本宗洋　構成／松下ミワ　撮影／菊池茂夫

designed by Tani-yan（Two Three）

敵の得意技で攻めるというのは勝つために最も効果的なんだ

『HERO'S』のファンで、トーナメント開幕時にこの結果を予想した人は少なかっただろう。今年の『ミドル級世界最強王者決定トーナメント』、その頂点に立ったのは宇野薫でも所英男でもなく、J・Z・カルバンだった。日本ではほとんど無名に近い選手である。誤解を恐れずにいえば、これ以上『HERO'S』らしからぬ結果もないだろう（それゆえに、大会に深みが出たというのも事実で、それは歓迎すべきことなのだが）。

ただ、このカルバンという男、"格闘セレブ"にとっては注目の存在だった。初来日は2004年7月の修斗後楽園大会。欠場となった同門のエルミス・フランカの代打として出場したカルバン（当時は本名のジェシアス・カバウカンチで登場）は、ヨアキム・ハンセンに敗れはしたものの、ジャッジの一人がドローと採点するほどの接戦を演じている。さらに修斗ウェルター級のアメリカ大陸王座も獲得。"化ける"要素は充分にあったわけだ。PRIDEファイターも多数参戦した昨年12月の『ケージ・レイジ』（イギリスの金網大会）では、小見川道大を1ラウンドKOで下してもいる。

そして今年、『HERO'S』に初登場を果たすと最短距離で王座へ。しかも試合内容が抜群だった。一回戦では門馬秀貴をパウンドで倒し、二回戦は高谷裕之に飛びヒザ蹴りでKO勝利。準決勝では、中量級屈指のグラウンド・テクニックの持ち主であるハニ・ヤヒーラからフロントチョークでタップを奪ってみせた。決勝でも、宇野薫からタックルでテイクダウンを奪い、主導権を握っている。とくにパンチのカウンターで決めた一発、その鋭さとタイミングには唸るしかなかった。対戦相手にとっては、自分がやりたいことを先にやられて負けたわけで、これ以上屈辱的な負けもないだろう。

4歳で「あまりにもイタズラっ子だったから、エネルギーを発散させるために」柔道を始め、少年部の州王者にもなったというカルバン。13歳からはルタ・リーブリも学ぶ。ルタ・リーブリとはブラジル産の格闘技で、レスリングをベースに絞め・関節技をミックスしたもの。マルコ・ファスやペドロ・ヒーゾを輩出し、現在の代表選手には前修斗ライト級王者アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ（通称ペケーニョ）がいる。ルタはブラジル国内では柔術の宿敵にあたる存在で、かつてはカーウソン・グレイシー軍団（のちに分派してブラジリアン・トップチームとなる）と全面対抗戦を行なったほど、その"抗争"は熾烈を極めた。

○J.Z.カルバン vs ハニ・ヤヒーラ×
[1R 39秒 フロントチョーク]

ミドル級一回戦では、カルバンが寝業師ヤヒーラのお株を奪うような見事なチョークで、なんと、ヤヒーラを秒殺!!　ヤヒーラにとっては最も屈辱的な敗戦となったが、反対に、カルバンは決勝の宇野戦に向け一気に勢いをつけた。

○J.Z.カルバン vs 宇野薫×
[2R 判定2-0]

ついに迎えた決勝戦。会場の熱狂的な声援を受けてリングに上がった宇野に対し、カルバンは容赦なく強烈なパウンドを連打！　宇野はカルバンの攻撃を退けなんとかスタンドに戻そうと立つが、カルバンは再びタックルで宇野を倒し、またまたパウンドの嵐。なんとか判定まで漕ぎ着けた宇野だったが、軍配はやはりカルバンに。新王者はリングを見守る観衆に、自らの拳で強さを証明してみせた。

名門アカデミーで柔術を学び、ムンジアル（柔術世界大会）での活躍をひっさげてMMAへ……という、いわゆる的なブラジリアン・グラップラーの経歴とは一味違うキャリアを積んできたカルバンに、まずはそのバックボーンと、トーナメントを勝ち抜いた技術と戦術を聞いてみた。

――『HERO'S』ミドル級トーナメント優勝、おめでとうございます！

カルバン　ありがとう！　こういう大きなチャンスをものにできて、本当に嬉しいよ。去年の今頃は、自分が『HERO'S』に出るなんて想像もしてなかったからね。

――カルバン選手は『kamipro』初登場ということもあって基本中の基本からお聞きしたいんですけど、修斗時代はジェシアス・カバウカンチって名前で出場してましたよね。

カルバン　そうだね。それが本名だから。

――『HERO'S』出場にあたって改名というか、リングネームにしたのはどうしてなんですか？

カルバン　それが、ボクにもわからないんだよね（笑）。"J・Z"は、ジェシアス（より正しく発音するとジエイジーアス）からきたアメリカでのニックネームなんだけどね。それか、カバウカンチを呼びやすくした"カーヴ"とかね。たぶん、カバウカンチじゃわかりにくいから、FEGがカルバンってつけたんじゃないかと思うんだけど。

――じゃあ、どうして"カルバン"になったのかも……？

カルバン　わからないんだ（笑）。

――そうでしたか。では、そのカルバン選手に（笑）、決勝大会のことをおうかがいしたいと思います。準決勝ではヤヒーラ選手にフロントチョークで一本勝ち、決勝では宇野選手からタックルでテイクダウンしましたよね。あれは作戦だったんですか？　相手にとっては本当に悔しい負け方だと思うんですけど。

カルバン　それだけ、ボクにとっては素晴らしい勝ち方なんだけどね。敵の得意技で攻めるというのは勝つために最も効果的なんだと思うよ。"攻撃は最大の防御"っていうか、相手にペースを握らせないためには、自分が先に仕掛けるのが一番だからね。

――なるほど。

【J.Z.カルバン戦績】

06年10月9日『HERO'S』
○ vs 宇野薫［2R 判定2-0］
06年10月9日『HERO'S』
○ vs ハニ・ヤヒーラ
［1R 39秒 チョークスリーパー］
06年8月5日『HERO'S』
○ vs 高谷裕之［1R 30秒 KO］
06年5月3日『HERO'S』
○ vs 門馬秀貴［1R 2分08秒 TKO］
05年12月3日『CR 14』
○ vs 小見川道大［1R 49秒］
05年7月9日『SF 11』
△ vs ライアン・シュルツ［ドロー］
05年4月2日『HOOKnSHOOT』
○ vs ヘンリー・マタモロス［3R 判定］
04年12月18日『CWFC 9』
○ vs センギス・ダナ
［3R 4分55秒 ギロチンチョーク］
04年11月20日『IC 8』
○ vs バート・パラツェウィスキ
［1R 1分03秒］
04年9月4日 修斗（スイス）
○ vs セバスチャン・コスルチルゲン
［1R 1分03秒 チキンウィングアームロック］
04年7月16日 修斗（後楽園）
× vs ヨアキム・ハンセン［3R 判定］
04年3月27日『HOOKnSHOOT』
○ vs ブラッド・モーラー
［1R 1分32秒 アキレス腱固め］
04年2月27日『AFC 7』
○ vs ジャスティン・ウィニエフスキー
［1R 1分53秒 ギロチンチョーク］

カルバン　それに準決勝、決勝だけじゃなくて、他の試合でもそれをやったから勝てたんだと思う。一回戦で闘ったモンマは上の階級から落としてきた選手だからパワーには自信があったと思うんだけど、そういう相手にパウンドでラッシュをかけて勝った。準決勝の相手のタカヤは、打撃が得意な選手だよね。だからKOを狙ってたと思うんだけど、逆にボクが飛びヒザ蹴りでKOしただろ。

――トーナメント全般にわたって、カルバン選手の狙いが見事に的中したと。

カルバン　そうだね。でもそれができたのは、試合前に充分な練習を積んできたからだと思うよ。打撃の選手に打撃で勝って、グラップラーに組み技で勝つというのはそう簡単なことじゃないからね。練習で穴のない技術を身につけていたから、ボクは優勝できたんだ。

――ヤヒーラ選手からタップを奪ったフロントチョークは、あなたと同じルタ・リーブリを代表するペケーニョ選手の得意技ですよね。以前、フロントチョークは極まりにくい技だって思われてたんですけど、ルタには何か秘訣みたいなものがあるんですかね？

カルバン　ルタは柔術と違ってギ（道衣）を着ない格闘技だから、関節を狙おうにも汗で滑りやすいだろ？　だからもともと、首を取る技が発達してるんだよ。ましてボクはペケーニョと一緒に練習してた時期もあるからね。スパーリングで磨き合って、より上達したってところはあるかもね。

アウレリオやデニス・カーンとは毎日トレーニングしているよ

カルバンは2003年にアメリカに渡り、アメリカン・トップチーム（ATT）に入門。このことが、彼に飛躍のきっかけとより高いスキル、さらなる格闘技への情熱を与えることになった。ATTはここ数年、凄まじいスピードで勢力を拡大する新たな名門チーム。実業家のダン・ランバート氏がオーナーで、プロ契約選手には住居と食費が保証されるというから、ファイターにとっては願ってもない環境だろう。

ヘッドコーチを務めるのは共同オーナーでもあるヒカルド・リボーリオ。柔術、バーリ・トゥードともにトップクラスで活躍し、BTTを創設した中心人物でもある（アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラをBTTにスカウトしたのもリボーリオだった）。ボクシングを指導するのは、モントリオール・オリンピックで金メダルを獲得したハワード・デイビスJr.氏。ムエタイコーチは90年代のキック界を席巻したモハメッド・オワリ（もし当時K―1 MAXがあったら、確実にトップファイターになっていたはずだ）。その他にも各ジャンルのオーソリティともいうべき人物がインストラクターに名を連ねる。カルバンがことあるごとにチームへの感謝の念を語るのも、当然のことか。

――カルバン選手がATTに入ったきっかけを教えてもらえますか？

カルバン　ブラジル時代の仲間がATTで練習していて、ボクも誘われたんだよ。「強くなりたいんだったら、絶対にここに来たほうがいい」って。実際、入ってみたらその言葉の意味がよくわかったね。練習環境、選手へのサポート、どれをとってもATTは世界最高のジムじゃないかと思うよ。

――他のジムと比べて、ATTがとくに優れているのってどんなところなんでしょう。

カルバン　一番いいのは、選手もコーチも一致団結して、お互いにサポートし合うってところだろうね。だから、ボクたちは完璧な準備をして、試合でベストを尽くすことができるんだよ。協力体制がしっかりしてるから、練習するにしても、相手を研究するにしても凄くスムーズにできるんだよね。ATTのメンバーは、単なるジムメイトじゃない。家族や兄弟みたいなもんなんだ。

――実際、ATTは様々な大会でもの凄い勢いで結果を出してますよね。11月5日の『PRIDE武士道』に出場するマーカス・アウレリオ選手、デニス・カーン選手もATT所属ですし。

カルバン　うん。彼らとも毎日トレーニングしてるよ。ボクたちは、みんな一緒になって、ここまでレベルアップしてきたんだ。

――選手って、ライバルがいることで成長する部分がありますよね。そういう意味では、ATTでは最も身近なところにいいライバルがいるというか。

カルバン　それはあるよね。何しろATTには、ボクと同じ階級の選手だけでもたくさんのトップファイターがいるわけだから。さっきも言ったマーカス・アウレリオにディン・トーマス、マイク・ブラウン、アーロン・ライリー。他の階級にもジェフ・モンソンがいてデニス・カーンがいてダスティン・デニスがいて……。そういう選手たちに負けないように練習してるんだよ、ボ

『HERO'S』ミドル級トーナメント レビュー

◯宮田和幸 vs イアン・シャファー✕
[1R 49秒 TKO]

リザーブマッチの一戦は、過去に判定負けを喫している宮田がシャファーにリベンジ達成！ 1ラウンド、宮田はテイクダウンを奪うとその勢いでパンチ連打。これでシャファーが出血したためドクター・チェックが入り、診断の結果そのままストップに。

◯宇野薫 vs アイヴァン・メンジバー✕
[2R 判定3-0]

4強のうち日本人一人となった宇野はファンの期待を一身に背負って、強豪メンジバーと対戦。拳を突き出して向かってくるメンジバーに対し、宇野も効果的なロー、ミドルで手堅く攻撃。最後は宇野が3-0で辛くも判定勝ちをつかみ取った。

クは。

——それは強くもなりますよねぇ（笑）。いってみれば、試合に出る以前にジム内でもの凄い闘いをしなきゃいけないんですもんね。

カルバン そう、みんなが「他の選手に負けてられるか。もっと強くなってやる！」って、協力しながらも競い合ってるんだよ。だから自然にみんながレベルアップして、試合でも結果を出せるようになるんだ。

——ATTが素晴らしいのは、設備やコーチ陣だけじゃないわけですね。

カルバン で、その選手たちが、いまノリにノッてるんだよね。お互い切磋琢磨して、みんなの実力が充実してきた。だからボクが『HERO'S』のチャンピオンになったのは、ATTにとって頂点じゃないんだよ。まだまだ始まりにすぎないと思う。『武士道』ではデニスがウエルター級の、マーカスがライト級のチャンピオンになるはずだし、ジエフ・モンソンは11月のUFCでヘビー級タイトルに挑戦することになってる。ボクをきっかけに、これからATTの選手がどんどんベルトを獲得していくんだよ。

——もしかすると、『HERO'S』、『PRIDE』、UFCのメジャー大会全階級制覇も夢じゃない、と。

カルバン うん。それは不可能じゃないと思うよ。近い将来、そうなることは充分にあるね。

大会後には山本KID徳郁との対戦や魔裟斗戦を目指してのK-1 MAX出場も示唆したカルバン。だがそれはビッグマウスでもリップサービスでもなく、選手としての目標をシンプルに口にしているだけなのだろう。その真摯な人柄は、一時間足らずのインタビュー中にも充分すぎるほど伝わってきた。10本以上の取材をこなした後でも嫌な顔一つ見せず、取材者一人一人の名前を確認し、笑顔で握手をかわす。頻繁に口をつくのは、ATTと、そして家族への愛情——。"家族愛"が大好物のTBSスタッフが、なぜカルバンのそれを大フィーチャーしなかったのか理解に苦しむというものだ（いや、きっと次回からはそうなるんだろうけども）。

——23歳という若さで『HERO'S』というメジャーイベントのベルトを獲得したカルバン選手ですが、新しいモチベーションは何にありそうですか？

カルバン タイトルを獲ったからといって、ボク自身にはなんの変化もないよ。偉ぶるなんてことは絶対にない。ボクは格闘技が好きだから練習して、試合をしてきたんだし、それはチャンピオンになっても同じだよ。ATTや家族がボクにパワーを与えてくれるというのも、これまでと同じ。これからブラジルに帰って、家族に今後のためのパワーをもらってくるよ。

J.Z.CALVAN■1983年7月6日、ブラジル出身。バックボーンは柔道とルタ・リーブリ。現在、アメリカン・トップチームに所属しておりマーカス・アウレリオやデニス・カーンらとともに凌ぎを削る。今回のミドル級トーナメントから『HERO'S』に参戦。決勝で宇野薫を敗り見事チャンピオンに君臨。173cm、70kg。

——試合後の会見でも、賞金の使い道を聞かれて「ブラジルに里帰りしたい」って言ってましたし、腕のタトゥーどおりの家族愛ですね。

カルバン ボクにとって、家族ほど大事なものはないよ。このベルトにしたって、モノ自体には意味を感じないんだ。ボクがチャンピオンになったことを家族が喜んでくれるからこそ、このベルトにも意味が出てくるんだよね。夢を実現するっていうのは、そういうことなんだと思うよ。周りが喜んでくれて初めて価値のあるものだし、そもそも夢は一人で追いかけたってつかめるものじゃないからね。そして「みんなのために頑張ろう」と思うことで、自分にも運が巡ってくるんだと思う。

ボクはただの自動車メカニックの息子 でも親にはいい教育してもらったなあ

——含蓄のある言葉ですねぇ。なんか須藤元気選手みたいな感じがしますね。もしかして手帳に好きな言葉を書き込んでたりしませんか（笑）。

カルバン え、どういうこと？

——いや、それはどうでもいいんですけど（笑）。カルバン選手がしゃべる内容はファイターというより、学校の先生か牧師さんみたいな雰囲気がありますね。

カルバン いや、ボクはただの自動車メカニックの息子だけど（笑）。でも、親からいい教育をしてもらったなってことは感じるよ。たとえば、朝起きて天気がよかったら「今日は晴れだ。なんて素晴らしいんだ！」ってボクは思うんだ。逆に雨でもガッカリするんじゃなくて「雨の日には雨の日の楽しさがあるさ」って思う。どんな状況でも感謝の心を忘れず、楽しみを見つけるっていうのが大事なんだよ。

——ますます須藤元気っぽいな（笑）。そういう考え方だと、普通の選手とは格闘技の価値観も違ってそうですね。試合に勝つこととかタイトルを獲ること、リッチになることが最大の目標じゃないような感じがするんですよ。求める"強さ"の意味が違うというか。そのあたり、カルバン選手はいかがですか？

カルバン お金を持っているかどうかなんて、まったく重要じゃないね。いくら金持ちでも、悪いことをしてしまったらその人間は弱いヤツ。"強さ"って、どれだけ自分をコントロールできるか、どれだけ他人に感謝し、感謝されるかに表われるんじゃないかと思うよ。たとえばゴミをあさるような生活をしていても、信念を持って生きていれば、その人は強い人間だって言えると思う。

——そういえば、ある日本のプロレスラーは、お祖父さんから「乞食になってもいい。ただし世界一の乞食になれ！」と言われて育ったそうですよ。

カルバン それはいい言葉だねぇ。強さってのは、まさにそういうことだよ。

——でも、いまはトンデモない事業にハマッて大変なことになってるんですけど（笑）。

カルバン いや、でもその人が信念を持ってるんなら、それでいいと思うよ。誰のことかは知らないけど（笑）。

【06年10月10日／都内ホテルにて収録】

語録で振り返る 金子賢騒動

アキラのズンドコ節、大爆発!!

礼儀とは何か？編

●10月3日　都内ホテルで　10月9日『HERO'S』ライトヘビー級のカード発表記者会見後、報道陣に囲まれ、9月25日に決定した所vs金子について

前田日明が発言

「**あのね、話にならない話なんだけどね！**　二年無収入なら貯金はいくらあんのって。誰に面倒みてもらってんのって。真面目に格闘技やりたいなら芸能人引退してアマチュアから実績積んで出てこいって。**でしょ!?**」

「所詮は『金子賢って格闘技も強いのね』って、そう言われたいだけ。所（英男）なんか、アイツはプロになりたくて毎日毎日フリーターで、ビルの清掃やって、試合でダメージ負って働けなくて、それでも何年も努力してやってきたわけでしょ。大山（峻護）だって、網膜剥離して、じん帯切って、誰にも相手にされなくなって、それでも実績積んで治療費の借金負いながらやってきた。なんでそういう人間と、芸能人がやんなきゃいけないの？　**反対っていうか、論外だよ、論外！**」

「所へのアドバイス？　**二度と俳優に戻れないように顔、ボコボコにしてやれって。俺が現役だったら俺がやって、半殺しにしてやりますよ。**一番惨めな思いするのは選手じゃないですか。なんで相手に所を指名したか？　金子賢と所、10キロ差があるわけですよ。**所が一番弱そうだからでしょ。**うまく判定まで持っていけば〝金子善戦〟でしょ。計算、見え見えじゃないですか。真面目に格闘技やりたいんならやればいいんですよ。なのに、アマから出てくるんじゃなくて、**プロデューサーやディレクターの力を借りて出てくる、**そういう選手のどこにひたむきさ、真面目さがあるの？　そうでしょう？　あるっていう人がいるんだったら、**俺に説明してくださいって。**そういうことですよ！」

●10月5日　都内・シルバーウルフジムでの公開練習

金子賢の発言

▼前田の辛らつなコメントを受けて

「**まったく、ごもっともという感じです。**……ただ、こういうことは去年の『PRIDE』参戦時から言われてきてますし、リングに立つために練習してる人には大変申し訳ない、という気持ちは持ってる。そういうことを言われても仕方ないと思う部分もある」

▼前田が所に「顔をボコボコにしろ」と発言したことについて

「あ、それは去年、（チャールズ・）〝クレイジーホース〟（・ベネット）にも言われたんで（笑）。そういう評価を覆したい、という気持ちはもちろんありますけど、そう簡単には覆らないでしょうね」

桜庭和志の発言

▼前田が金子へ苦言を呈したことについて

「**あ～～っ……（苦笑）。**ただ金子さんも凄い一生懸命、練習してるんで、（あの発言は）ちょっとかわいそうかなって。ほかの選手も試合をしながら、ほかに仕事をしてたりするじゃないですか？　彼はそれがたまたまテレビに出る仕事だったということ。僕はいいと思いますけどね。それに彼はいま、一番練習をしてる選手だと思いますし」

●10月5日　都内・六本木K―1ジムでの公開練習

所英男の発言

▼前田から「顔をボコボコにしろ」と言われて

「怖いですよね。**僕が金子さんの立場だったら逃げ出したい。多少、同情しています**（笑）」

「金子さんも覚悟を持ってリングに上がってくると思いますけど、負けたくない気持ちは僕のほうが強い。もし負けたら、試合のオファーは一切来なくなるだろうし、それでおしまい。僕にとって絶対に負けられない試合なんです」

●10月7日　都内ホテルでの記者会見

金子賢の発言

▼挨拶するつもりは？

「いや〜、**面識もない**ですし、**怒られそう**なんで、どう対処したらいいかわからないですし、ずっと格闘技をやられていた方なんで、失礼に当たると思うし、すぐに帰ります。この舞台に上がるために頑張ってる人もいますし、自分は芸能関係をやっているんで出させてもらっているところもありますし……そういう点ではあまりいい声を聞かないんで、そのへんは……」

所英男の発言

▼金子賢の最近の映像は見た？

「『格闘王』で見ました。やっぱり凄い頑張ってますよね。まあ、頑張るのは当たり前だと思いますけど、去年とは全然違いますね。格闘家の顔になったと思います」

●10月8日　都内・TBSでの記者会見

前田日明の発言

「怒られると思って、ビビっているかも知らんけど、**挨拶がなかった。**人間として基本的なことができてない。こういうことを言うと〝古い人間〟とか思われるかもしれないけど、**世界だったら通用しない。（記者の肩をつかみながら）『HOW ARE YOU？』言われて無視するか？**自分たちは金子君がリングに上がったとき、それを周りで（運営側として）サポートする人間。彼が自分の命を（我々に）託すわけです。だから人間として、挨拶があってもいいはず。金子君の未熟さはそこにある。バッと来て、清々しい挨拶をされたら、**『これまで言いすぎたかな』**と思うけど、『格闘家だから、どう』とか『芸能人だから、どうのこうの』とかいうレベルではない」

「昔、UWFの頃、六本木でドンチャン騒ぎをしていたときに、俳優の**小林旭**さんが来店された。そこで**『結婚式の二次会でお騒がせして、申し訳ございません』**と謝ったら、『いいよ、いいよ。祝い事やから、ドンドン騒ぎなさい』とおっしゃって、先に帰られた。そのあと、自分たちが会計しようとしたら、店の人から「小林さんが『ご祝儀代わりに』と精算されました」と聞いた。いまどきのどうしようもない芸能人とは違いますよ。そういう偉大な俳優がいたのに、**金子君が先輩の顔を潰すのはどうかと思う。**格闘家、芸能人っていう以前の問題。ホントに親の顔が見てみたい」

●10月9日　『HERO'S』横浜大会終了後

前田日明の発言

「所が勝つのは当たり前の話で、**あれは、某テレビ局の人間から『（金子賢を）出してくれ』というのがあったらしい**んで、そういう意味では金子君も乗せられてたので、**かわいそうな気がしましたね。**（金子賢は）今日、会場に着いてから挨拶に来たんで、『ケガのないように頑張ってや』と言いました。終わってからも挨拶に来ましたね。『この経験を役者に活かしたいのであれば、レベルの合うところで頑張って上がってこい、あきらめずにな』と短く言いましたね。そしたら誰にも後ろ指をさされずにできるので」

金子賢の発言

「前田さんから**いろいろ指導**していただき、もっともな意見を言われました。『頑張れよ』というような言葉もいただきました」

▼今後は？

「『HERO'S』は上がりたいと思って上がれるわけではないので……。上がれたらラッキーですけど、機会がなければしょうがないです」

▼今後の課題は？

「すべてです。今日は何もできなかったので。アマチュア大会への参戦もないとは言えませんね。もっと経験を積んで頑張りたい」

所英男の発言

「前田（日明SV）さんに『キッチリ勝ちました』と言ったら、**『当たり前やんけ！』**と言われました。（金子の）顔は殴ろうと思えば殴れたけど、手が目の前に出ていたので、そっちにいってしまいました。殴ったほうがよかったのかな（笑）。金子選手は凄いスピードで成長しているので、可能性はあるかなと」

谷川代表の発言

「**今日は金子選手がよかったと思いますね〜。**ま、本人の頑張り次第で、年末（『Dynamite!!』）など考えたいと思っております」

●10月10日　都内ホテルでの一夜明け会見

谷川代表の発言

「前田さんのおかげで、**いいドラマ**ができました」

前田日明の発言

「そんなこと言って、本当は全部計算しているんでしょう？　**〝谷川劇場〟の一役を買っちゃったよ。**リングを見ていて、ふと気づいたら『これは……乗せられているんじゃないか？』って思ったもん。もうすぐ50歳になるのに、**子どもじみたことをしてしまった**なと思いましたね。そう考えたら、**金子君がかわいそうになったよ**」

▼今後の金子について

「『真剣にやってます』と言うのなら、たとえばZSTのオープニングファイトあたりから始めてもいい。今回の試合は金子君にとってもいい経験になったんじゃないか。所は負けたら引退だったし、後味が悪かった。あれが視聴率を取ってしまうのは**ジレンマも感じる。某テレビ局の某プロデューサーが悪いんや！**」

5.13 K-1アムステルダム事件　7.10緊急記者会見に続き、サップ問題またまた再熱!!

K-1 VS ボブ・サップ いったいこの関係はどうなってるの？

K-1との契約解除？　他団体に参戦決定!?　その真相とは……。

構成／松下ミワ　designed by Tani-yan（Two Three）

谷川さん、ついにサップを「訴えます!!」

サップに対して訴訟は起こすもののFEGからの試合のオファーは続行

……訴えてやる!!（上島竜平調）。

K-1 vs サップ、法廷闘争に突入!?

5・13K-1アムステルダム大会で、試合開始ド直前にもかかわらず、ボブ・サップがバンテージを巻いたまま失踪してしまったことから勃発したボブ・サップ問題。その後、突然サップからの声明文が各マスコミに送られてきたり、外国人記者クラブで異例の記者会見が行なわれサップ自らが弁明したりと、K-1とサップのあいだには一触即発の不穏な空気が流れていた。

それから約3ヵ月後の10月中旬、ここにきて両者の争いが再熱！　もう、いったいどうなっているんだ、この関係は!?

というわけで、ここ最近のサップ問題を振り返ってみると、事は10月10日、サップの弁護士マイケル・コネット氏から一枚のFAXが送られてきたことから始まった。そのFAXはというと「人気格闘家のボブ・サップ氏が興行会社『K-1』と解約し、新しい申し入れは本日から受理」という、いきなりショッキングな題目。記されている内容は大きく二つである。

●今年8月16日、ボブ・サップ氏（野獣）は契約違反があるとして**格闘技イベントの興行会社「K-1」とのニつの契約を解約**しました。

●10月1日をもってサップ氏は**K-1を含めてすべての格闘技イベントの興行会社などから申し出を受け付けます。**

FAXによると、K-1側とのファイティング契約を解除したいくつかの理由の一つとして**「K-1側が報酬の支払いを怠った」**と記しており**「マネジメント契約についてもK-1側が契約上の責務を果たさなかった」**と主張している。

この突然の声明文を受けて、翌日11日にK-1側が（株）FEG顧問弁護士の五十嵐敦氏同席のもと緊急記者会見を開催。この会見でFEG谷川代表は、マイケル・コネット氏のFAXにある「報酬の支払いを怠った」「K-1側が契約上の責務を果たさなかった」などの主張を**「まったくの事実無根です。なんら思い当たる節はありません」**とキッパリ斬り捨て、さらには「あのオランダ大会後もサップ選手には誠意を持ってオファーを続けていましたし、サップ選手との独占契約は存続しています。なので、その**契約の確認のための裁判、それからサップ選手が違反している契約に関しての損害賠償請求ということで、今週中にでもボブ・サップ選手を訴える決意をしました**」と、ついに法的手段をとることを発表！

また、サップと親しいK-1関係者がサップ本人から電話で聞いたという話では、サップが**11月末の日本のプロレス団体のイベントに出場**し、さらに**12月31日にはそのプロレス団体が主催する格闘技イベントに出場**すると言っているからビックリ！　K-1サイドはその団体に警告書を送付していることを明らかにしている。

格闘技とプロレスの興行を主催するプロモーションといえば、もうおわかりですね。そう！　『週刊ゴング』を発行する日本スポーツ出版社の関連会社にして、今夏に『レッスルエキスポ』を開催したミック・エンターテインメント!!　さあ大晦日『インディ・サミット』にサップが出席だ！　……ではなく、11月末のプロレスイベントといえば『ハッスル・マニア2006』、同団体が主催する格闘技イベントといえば、『PRIDE』しかないじゃないか!!

後日、DSEについては一部新聞で、「『**K-1と）契約している選手との交渉はありえない**』と完全否定。そのうえで、円満な契約解除という条件つきでハッスル参戦の可能性を示唆した」と報道されている。

しかし、谷川氏は「サップ選手との独占契約に基づき、サップ選手が断りなく他団体からのオファーを受けることはできません」と改めて主張し、さらに**サップをリングに上げた主催団体に対しても責任が発生する**ことから、もしサップが電話の内容を実行したならば、**その主催団体についても訴訟を起こす**と何度も主張しているのだ。

ついでに言うと、なぜかこの会見で発覚したのだが、K-1側は8月5日『HERO'S』への参戦を予定していたギルバート・メレンデスが、大会直前になって出場をキャンセルし、8月26日『PRIDE武士道』に出場したことについても遺憾の意を示しており、この件についてはすでにメレンデス個人に対して契約違反で訴えているという。

最後に谷川氏は「サップ選手にはジャパニーズ・ドリームをつかませようと思ってあらゆる努力をしてきたつもりだったんですけど、こういう状態になってしまったことは寂しいし、悔しい気持ちでいっぱいです」と残念がり、**サップに対して訴訟は起こすものの、相変わらず試合のオファーは行なっていく**とコメント。これを見る限り、まだまだ両者は不思議な関係が続きそうだが……。

会見後、サップ側からはいまだ無言の状態。こうなってくると、次に上がるリングもまったくわからなくなってきたが、はたして、サップはK-1にカムバックし、延期になっているW-1GP決勝戦に出場……ではなくて、K-1もしくは『HERO'S』のリングに再登場するのか？　はたまた『ハッスル・マニア2006』に〝黒いタマアゴ〟として舞い降りるのか。大逆転でインディ・サミット出席？　え？　どれも可能性は低い!?　いいから注目しよう!!

7月10日、サップ自らが出席した記者会見。サップはこの場で失踪の真相を告白し、すでにK-1側との契約解除を匂わせる発言を繰り返していた

この男の考えるプロレスとは何か？
"尖ったナイフ"を感じ取れ!!

本誌初登場！ 目指せ、木戸修なロングインタビュー

中邑真輔

［新日本プロレス］

中邑真輔が考える"プロレス"とは何か？ 大抜擢の新人時代、総合格闘技への出陣、IWGP戴冠、アメリカ遠征など、新日本プロレスでその将来を嘱望されている男が歩んだわずか4年間の濃密なプロレス人生を軸にして、プロレスという概念を思考してもらった。

聞き手／安田潤司 撮影／吉場正和 designed by matsu（TwoThree）

──今日はいろいろと聞きたいと思ってます。最近は総合格闘技の人気が高まる中で、プロレスというジャンル自体に対して遠ざかっている人が多いんですが、そういう中で、プロレスと格闘技の両立を図ろうとしている中邑さんは、どういったプロレス観を持っているのか？　根本的なことを聞きたいので、現在の新日本プロレスのリング上の話題はもしかしたら出てこないインタビューになるかもしれません。

中邑　そうなったら、本当に何も出てこないっすよ（笑）。

──いやいや（笑）。まずは入団当初の頃からお聞きしますが、中邑さんが新弟子になったのは何歳ですか？

中邑　ボクは22歳ですね。大学を卒業したその日に入ったので。いまは26歳になりました。

──わずか4年のキャリアなんですね。中邑さんって新日本の同期の方々と比べると新弟子時代というか、下積みの期間の印象が薄く感じるんですけど。

中邑　いや、そんなことないですよ。デビュー戦が早かったんで、その期間は短かったですけど、みんなと同じようにテストを受けて新日本に入って、ちゃんこ番や付き人を全部やったうえで、何かを認められてデビュー戦が早くなっただけの話で。決して〝鳴り物入り〟じゃないです。鳴り物入りはジャイアント・バボ（長尾浩志）です（笑）。

──じゃあ、長尾さんのほうが特別扱いだったんですか。

中邑　道場に入った瞬間から特別扱いとかはなくなりますけど、〝タッパ入門〟という部分では特別扱いですよね。

──中邑さんもデカいですよね。

中邑　ボクは188センチですね。

ボクは決して〝鳴り物入り〟じゃないですよ
〝鳴り物入り〟はジャイアント・バボです（笑）

──中邑さんは何かを認められてデビューが早くなったとおっしゃってましたけど、上層部から何を認められたと思います？

中邑　たぶん、アマレスや格闘技の基礎だろうし。あとほかの選手と比べると、巡業についてくのが早かったんですよ、ボクは。最初はずっと道場に軟禁されてましたけど。

──中邑さんの頃も新弟子への縛りはキツかったんですか？

中邑　キツいですねえ。で、練習は木戸さんから教わって。ボクは木戸さんの新弟子1号ですからね（笑）。

──木戸さんって、いつも道場で日焼けしているイメージしかないんですけど（笑）。

中邑　いや、練習はいつも厳しかったですよ、昭和式で。スクワットや腕立て伏せにしても、いろんな種類がありますから。そういった練習を毎日、毎日、やってました。あと入門してすぐは私用での外出は禁止、夜11時以降までは自分の部屋には帰れない。最初は仕事を覚えなきゃいけないんで、日替わりのちゃんこ番じゃなくて、毎日ちゃんこ番なんですよ。

──理不尽な命令とか受けたりしました？

中邑　ボクは受けたことないですね。

──ほかの人はけっこう受けてたんですか？

中邑　そうですね。同期でいうと山本尚史とか。でもあれは自爆ですよねえ。みんなの避雷針になってました（笑）。

──そのへん中邑さんは要領がよかったと？

中邑　まあ、そうなんでしょうね（笑）。ライガーさんには一回ブッ飛ばされたことありますけど。背中を向けながら小林邦明さんとしゃべってしまって、その瞬間、ライガーさんにちゃぶ台返しを食らいまして。

──先輩に背を向けて会話するとは何事だ！　と。

中邑　それで「おまえ、帰れ！」って怒鳴られて。そのあとで小林さんに謝りにいくと、「ライガー、怖えなあ！」って（笑）。いつも道場に小林さんがいるんで、ちょっと親しくなって勘違いしてた部分があったんで。

——そんな新弟子時代は、中邑さんにとってどういう時代だったんですか？

中邑　新日本プロレスで本気で食っていく気があるかどうか、見られるんじゃないですか？

——忍耐力を試す期間ですね。

中邑　ですね。だからその期間中に逃げる子が多いですよ。そこを越えたら逃げないんですけど。最初の一ヵ月がヤバいですよ、みんな。

——いまでも夜逃げする新弟子は多いんですか？

中邑　いまでもありますね。最近の新弟子は大丈夫っちゃあ大丈夫ですけどね。よく、新弟子が夜逃げする瞬間に出くわしたこともあります。ちょっとほろ酔いで玄関を開けた瞬間に、荷物、新弟子、靴のセットみたいな（笑）。

——いざ夜逃げのシチュエーション（笑）。

中邑　あのときは2〜3時間、説得したんですけど、しょうもないことで辞めていくんだ、みんな……。

——中邑さんには夜逃げしたい瞬間はあったんですか？

中邑　ボクはなかったですね。いろいろプロレス雑誌を読んでいて、どういう場所かわかってましたから。「理不尽があって当たり前」だって。まだ『紙のプロレス』がちっちゃいときも読んでましたよ。

——あ、ホントですか。ちなみにいまの『kamipro』にはどんな印象がありますか？

中邑　ヒデエもんっすよねえ。

——ああ、そうでしょうね。

中邑　こういうことを書く雑誌なのかと。……あの〜、藤波社長の一日とか。

——『紙の新聞』ですね（笑）。実際の藤波さんはどうだったんですか？

中邑　どうって言われても……う〜ん。

——ま、話を戻しましょうか（笑）。中邑さんって、感性や匂いに関しては敏感そうで、ほかのプロレスラーに比べるとロジカルに物事を見てる雰囲気はありますよね。

中邑　そうですかね。自分の中で一旦バラバラにして、そして組み立てて考えないと、ダメなところはありますけど。

——物事を深く考える時間は多いんですか？

中邑　「これはすげえ重要だ！」と思ったときは、メモを取ったりしますけど。

約半年間にわたるアメリカ武者修行を経て、10月9日両国国技館に凱旋した中邑真輔。武者修行中はリングから離れ、肉体改造に着手。中西“神様”学が小さく見える身体を作りあげたが、試合内容はインタビュー中でも「試合後、ヘコんだ」とコボしているように消化不良気味に。

中邑真輔

——最近メモしたことってなんですか？

中邑　最近はずっと海外にいたんで、ウエートトレーニングの仕方や、出稽古に行った際の格闘家やボクサーの技とか。

——いままでメモしたことで、一番印象に残っていることはいうと？

中邑　邪道、外道さんの言葉はよくメモしますけど。プロレスに対する姿勢とかそういうことですね。プロとして見習うべきところとか。

——それはたとえば具体的にどういうことですか？

中邑　……こないだメモったのって、なんだったけなあ。

——メモの意味がないじゃないですか（笑）。

中邑　だから、メモするんですよ（笑）。やっぱり、そこは言えない部分もあるから。まあ、簡単なところでいうと、細かい受け身に対する考え方とか、試合全体のこととか。

——試合を観てるときは、そういう目線なんですか？

中邑　試合を観てるときはマジ、ファンの目線ですよね（笑）。控室でギャーギャー言ってます。フフフ。

——ロジカルな感じではない？

中邑　そうですねえ。

——じゃあ、メモるときは観たときじゃなくて、あらためて感じたときなんですね？

中邑　結局、感情移入できるかどうかっていうことですね。

——必然的にメモるような試合は、自分が引き込まれたっていうことですよね。

中邑　でも、あんまり全部が全部をロジカルにやるわけではないんで、プロレスの試合を観ながらメモるっていうことはさすがにあんまりないですね。試合を観て全体的な印象や、細かい技の攻防は覚えるようにはしますけど。ただ、あの技の攻防が凄かったからつって、自分の試合にも使ってみようかなって思ったところで、そこは違うんですよね。プロレスって感情が入ってなかったら、全部パーになっちゃいますから。

——ちょっと話は飛びますけど、中邑さんはこの半年間、アメリカでどう過ごされていたんですか？

中邑　練習ですね、練習。7時に起きてメシ食って、プロテイン飲んで。プロテインの量も半端じゃないんですよ。それを飲んで車を運転してボクシングジムまで行って、ボクシングして。そのあとは新日の道場で日によってプロレスやったりキックボクシングやったり柔術やったり。それで家に帰ってメシ食って、プロテイン飲んでメシ食って、ウエートトレーニングに出かける。

——ほぼ食う練習（笑）。それでそんなに身体が大きくなった、と。

中邑　そうですね。20キロ増えましたから。

——両国で凱旋試合をされて、身体の変化は具体的に何か感じたことはありますか？

中邑　パワーが上がったのは自分でも実感したんですけど、何ヵ月も試合から離れていた部分があったんで、試合の中で思い出すことが多かったですね。

——そこはちゃんと間に合ってたんですか？

中邑　ギリですね（笑）。でも、全体的には遅れてましたね。だから、試合のあとはすげえヘコみましたね……。

——それは自分のイメージしている動きと違っていたから？

中邑　まあ、試合をコントロールしきれないというか。やっぱり4人の人間同士が闘っているので。

——アメリカではプロレス以外にも総合格

中邑真輔

闘技の練習をされてたそうですが、どういった選手と練習してたんですか？

中邑　ロサンゼルスに行くたびにお世話になってるR1ジムの選手ですね。あとは昔からの知り合いと、いろんな道場に。ジムがいたるところにあるんで、小さいところから大きいところまで、暇つぶしみたいな感覚で。

――精力的に出稽古をして。

中邑　柔道のジムとかにも行きました。あと、いまの新日本道場がハリウッドに移転しちゃったんですけど、その近くに忍者のジムがあったんですよ。

――それって忍術道場ですか？（笑）。

中邑　はい。看板に「ジャパニーズジュウジュツ&ニンジュツ」って書いてあって。「うわ～、行きてえ！」と思いましたけど、結局行けなくて。それを知り合いのバウンサーに言ったら、「なんだよ、ナカムラ。俺が教えてやるよ。俺はニンジュツ二段だぜ！」って（笑）。

――そんな身近に忍者がいましたか（笑）。

中邑　「忍者なんて日本にはいないよ」って言ったら、「え～ッ!?」って驚いてましたけど（笑）。

――以前はジョシュ・バーネットともよく練習されたそうですけど。

中邑　やってましたねえ、シアトルに行ったときに。今回はジョシュには会わなかったなあ。エリック・パーソンのところでやってるって言ってましたけど、ボクは行く機会がなかったんで。

――最近のジョシュは試合前に身体をけっこう絞ってきますけど、菜食主義で玄米大好きの中邑さんが、食事面をいろいろ教えたそうですね。

中邑　ああ、やってましたよ。でも、昔はジョシュによくバカにされましたけどね。「ナカムラ、またブラ～ム・ライスか!?」って（笑）。まあ、個人的にはヒドいヤツなんですけどね、ジョシュは。カメラの前だと容赦なくボコボコにしようとしますから。

――カメラの前だと容赦ない？

中邑　たとえば一緒に練習してるときにテレビの取材が来ると、"俺アピール"をするんですよ。

――ジョシュらしいですねえ。

03年大晦日『Dynamite!!』イグナショフ戦に出陣するも、悪夢のTKO負け（後日、無効試合に裁定変更）。その4日後の新日本東京ドームで高山善廣からIWGP王座を奪取。なんともはやな過酷な立場をデビュー2年目の中邑は背負っていた。

中邑　そういうときって、引いちゃうんですよ、ボク。あんときはたしか3ラウンドのスパーをやってて、相手にするのが面倒だからテイクダウンしたままずっと立たせなかったんですよ。レフェリーいないし、ブレイクもないんで。そうしたら、3ラウンド目に殺されました（笑）。

――取材が入ってるから、ジョシュも必死だったんでしょう（笑）。

中邑　なによりジョシュの彼女が「アナタがナンバーワンよ！　それを見せてやりなさい!!」という指令も飛んだし（笑）。

――ダハハハハ！　でも、あのジョシュをずっと押さえ込んでいたなんて、凄いですね。

中邑　いやいや、やっぱり、試合と練習は明らかに違うんで。練習は勝ち負け気にせずに、自分の可能性を目指しながらやるじゃないですか。で、試合のときはまたバラバラにして、相手に合わせた闘い方を組み合わせていきますから。でも、体重がアップしたっていうのは武器になると思います。

――この身体で動ければ、大きな武器になりますよね。

中邑　はい、動ければ。UFCにしてもミドルやライトヘビーは凄くレベルが高いんですけど、ヘビー級はどうしても2ラウンドを過ぎると動きが止まっちゃうんですよね。

――とくにアメリカの人間はそういう筋肉のつけ方をしてますからね。

中邑　だからかもしんないですけど、ホイスvsマット・ヒューズがあったUFCを観に行ったときに、UFCのブッカーに会ったら「出ないか？」って誘われましたからね。こないだ日本に帰ってくる寸前にも、「次の次か、次に出ないか」って言われたんですよ。

――中邑さん個人としてはUFCに出る気はあるんですか？

中邑　そこはやっぱり新日本のマネージメント次第じゃないですか。おもしろいなあとは思いますけど。

――もともと中邑さんのプロレスラーの概念の中には、総合格闘技は含まれてるんですかね？

中邑　入ってますね。だから総合の練習もしているし。それはルチャも同じで、ファンの頃になんでも観てたから"全部プロレスだ"って思ってるんでしょうね。『紙のプロレス』も読めば『格闘技通信』も読むし、『ゴング』から出てるルチャのマスク名鑑とかも読んでたり、女子プロも観るし。キューティ鈴木の写真集を買おうか迷ったり、「さすがにジャガー横田はやめとこう」と思ったら姉ちゃんが買ってサインもらってたり（笑）。

04年K-1『ROMANEX』でイグナショフと再戦。ギロチンチョークで復讐に成功したが、イグナショフの身体のツボを突き、試合を有利に進めていたことが発覚！　I編集長ががぶりつく"殺し"なエピソードだ！

——あ、それは貴重ですよ（笑）。

中邑　だから「全部やってしまおう」とボクは思ってるんですよ。

——『ハッスル』とかエンターテインメント路線のプロレスはどうですか？

中邑　『ハッスル』はまともに観たことないんですよね。よく知らないっていうのもあるけど、ボクは「感情移入ができないな」と思っちゃうんですよね。なんか感情移入ができなくて。

——じゃあ、なんでもできるプロレスラーの範疇に『ハッスル』は入ってないってことですか？

中邑　ボクはプロレスってカッコいいもんだと思って育ってきたんで、あそこまでいくとカッコワリイと思っちゃって。個人的には受けつけないですねえ。

——そんな中邑さんにとってプロレスっていうのは、やっぱり〝表現〟なんですか？

中邑　自己表現もありますねえ。闘いを通じて自己表現する舞台ですよね。対戦相手を含めた自己表現かもしれないし。

——じゃあ、競技者ではなくアーティストなんですよね。

中邑　そう思います。まあでも、総合格闘家でもそうだと思いますけどね。感情が伝わるような闘い方をする人はとくに。点数稼ぐような試合している人には、たとえ強くてもそうは思わないですけど。

——先ほど、プロレスラーはカッコよくないといけないと言われてたじゃないですか。中邑さんが表現したいカッコよさってなんですか？

中邑　難しいですねえ、その質問。だって、ボクが中学時代に一番ハマッたレスラーって、木戸さんと藤原さんですよ（笑）。

——スレた中学生ですねえ（笑）。タイガーマスクはどうでした？

中邑　ダメですね。タイガーマスクはカッコよすぎて。

——ああ、中邑さんのイメージがようやくわかりました。あんまりカッコよかったり、やりすぎた感じのものは受けつけないんですね。

中邑　なんか、職人的なのが好きだったんですよね。まあ、マニアックなんでしょうけど。

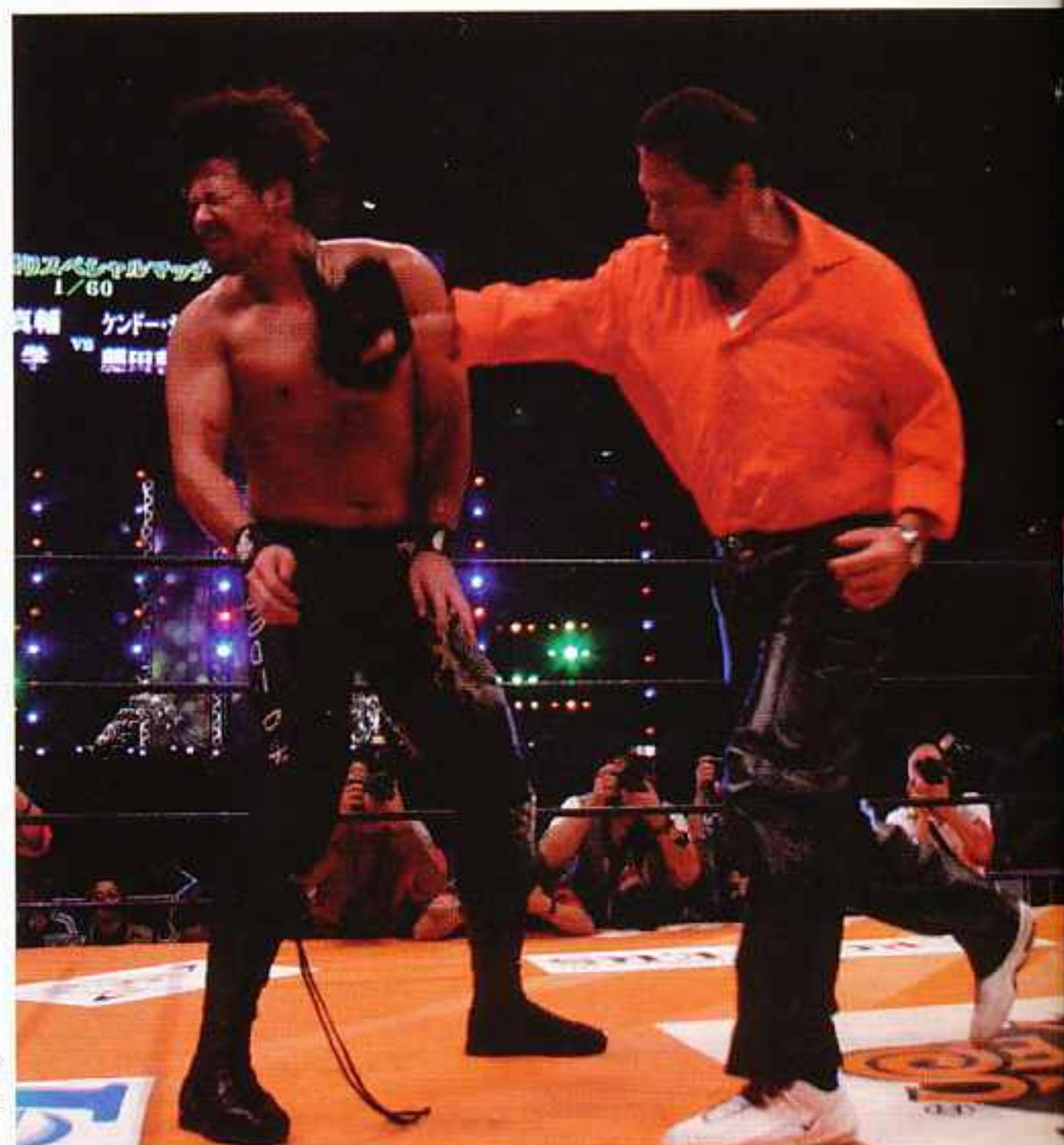
——でも、それはいまのファンやマスコミが中邑さんに求めてるイメージとは……。

中邑　違いますよね。ボクがなりたいレスラーと、ファンに求められてるレスラーが必ずしも一致してない。

——ファンが求めている中邑真輔を客観的に観たらどう思いますか？

中邑　自分が観たら？　……ちょっと恥ずかしいなって思いますけど（笑）。

——まあ、木戸修的じゃないですよね（笑）。

中邑　ボクはやっぱりね、一つの希望としては職人気質なレスラーになりたいと思うんですけどね。シンプルなレスラーになりたかったですよ。大技ドーン、大技ドーン、ガオ～！　っていうものよりも、もうちょっとストイックでシンプルに見せられるレスラー。とくにアメリカのプロレスなんかはシンプルですよね。いまでもパンチと蹴りだけで見せられるようなプロレスラーが多い。そういうプロレスを観ると、ボクは引き込まれるんですよね。

最近の若手には珍しく〝キラー猪木〟の洗礼を浴びている中邑。04年新日本大阪ドーム大会終了後のリングで「遠慮するなと言っただろ!!（ヨダレ）」とモロ鉄拳制裁！　中邑の対戦相手だった藤田和之が慌てて止めに入るほどのシュートな事件。なんの脈絡もなく着地点が見えないアントンの魔性ぶりは、狂ってる!!

ボクにとってのプロレスラーの理想像？すべてに〝強い〟ってことですかね。ルチャでも総合でも

——でも、周りは中邑さんにそれ以上の期待をしてるわけじゃないですか。その期待を含めた理想像はというと？

中邑　ま、すべてに〝強い〟ってことですかね。あらゆる意味で、総合的なことも含めて。……あ～、よくわからない質問だ（笑）。

——ごくシンプルな質問ですよ（笑）。

中邑　ボクが何になりたいのか？　ってことですよね。

——ある程度、目標があって進んでるわけですよね？　目標っていうよりイメージかもしれないですけど。

中邑　そうですね、イメージですね。言葉にするとかそういうのは、ちょっと難しいですね。

——そこに近づいていってる実感はあるんですか？

中邑　ちょっと、いまのペースじゃ遅すぎるなあ、と。

——まだ4年しか経ってないですけど、普通のレスラーの4年に比べたら、かなりいろいろ経験してますよね。

中邑　そうですけど……でも、なんかそう思ってしまうんですよ。

——もしかしたら、それはストレスでもあるんですか？

中邑　それはちょっとありますね。だから、自分に甘いところがあるっていうことでしょうね、きっと。誰かに甘えちゃうところもあるから、そうなんだろうってところもあります。

——プロレス界全体のこともお聞きしたいんですが、いまは低迷期じゃないですか。

中邑　レスラーたちは一生懸命がんばってるんですけどね。現場サイドはがんばってますよ。それをうまくバックアップするというか、うまく乗せてくれる人たちが必要なんじゃないかとは思いますけど。

——具体的にどういう人たちですか？

中邑　プロレスを外に伝える側の人かなあ……。それはマスコミも含めた、レスラーが所属する会社であったりとか。だからレスラーのエゴと会社のエゴを調整するというか、とりあえず全体を見渡せる人は必要かもしれないです。

——中邑さんの全体を見る人が必要だっていう話でいうと、いま新日本プロレスでやっている『レッスルランド』や、『ハッスル』はレスラーたちのエゴを調整して、うまく転がしてところはあると思うんですよ。

中邑　そこは実験的なものがあるでしょうね。

——『ハッスル』が表現したいことはともかくとして、内部システム的なことはそうあるべきだと思ってるんですか？

中邑　どうだろうなあ。あんまりね、ガチッとやっちゃってもね。

——ガチッと固めちゃうと歪みが出てこない側面もありますよね。プロレスってその歪みが出た瞬間がおもしろいところでもありますが。

中邑　そこは難しいとこですよね。すべて

じゃ環境によるんじゃないですか、やっぱり。どういうスタイルにも順応できて個性があるのが一番いいですね。……なんでもやりたいですもん！　個人的には。

——では、総合格闘技をやろうとしたのも、個人的欲求からですか？

中邑　欲求とか、最初は何も考えてなかったですけどね。だってデビューして海外に出て、それですぐ帰国要請がきて「試合はなんですか？」って聞いたら、「猪木ボンバイエ」って言われて（笑）。

——ああ、あのダニエル・グレイシー戦は、いつの間にか決まってたんですか（笑）。

中邑　（アントンのモノマネをしながら）「ンムフフフ！　おめえには出てもうからな」って（笑）。

——さっきUFCからオファーが来てるって言われてましたが、いまでも「行け！」って言われたら闘える状態なんですか？

中邑　いまからですか？

——はい。

中邑　準備は必要だと思いますよ。一〜二ヵ月はほしいですよね。そんな甘いもんだとは思ってないですけど、〝そっち〟の試合からはちょっと遠ざかってますし。まあ、結果いかんは知りませんけども、上がったことないリングには上がりたいですよねえ。……いやあ、でも、プロレスのほうが難しくって！　はぁ〜（ため息）。

——どういうところが難しいですか？

中邑　〝表現〟ですかねえ。

——表現ですか。自分の試合をビデオで観て反省したりするんですか？　たとえば、「このマイクはダメだったな」とか。

中邑　「サイッテーだな、こいつ！」とか思うこともあるし、「よし、うまくいった。やったじゃないか！」っていうところもあるし。

中邑真輔

自分の役割はなんだって考えたときに、ボクしかできないことをしたいなと思ったんですね

——闘っているときのお客のノリや熱さとかさ、声援とか諸々はわりと意識できるほうなんですか？

中邑　わりと意識できるようになりましたね。

——アーティストだったら、それさえもコントロールしていきたいですよね？

中邑　……答えにくい話ばっかだなあ。だから俺が〝まだまだ〟って話でいいじゃないすか！（笑）。

——いやいや、べつにへんな考えはないんですけど（笑）。イグナショフ戦とか、総合の試合のときも観客の視線は感じていたんですか？

中邑　あのときは、お客のことなんか一つも気にしてなかったです。ただ、イグナショフとの二戦目は結果すらも気にしてなかったかもしれない。「とりあえず、こんだけやってきたんだ。やってきたことやったら勝つわい！」と思ってて。

——中邑さんのセコンドの方に聞いたんですけど、イグナショフ戦は相手の身体のツボを押さえながら闘っていたというのは本当ですか？

中邑　ああ、ヒジでやりましたね。

——……にわかには信じがたい話なんですけど、それは具体的にどういうことなんですか？

中邑　たとえば、相手にガードを取られたら、自分のヒジで相手の脚をジワジワと押し開けていくもんですけど、ヒジで相手の○○○○の○○○をポンと打つと、簡単に開くんですよ。

——ああ、なるほど、なるほど。

中邑　自分でも「お〜っ!!」って驚いたんですけど（笑）。

——自分でやっといて（笑）。しかし、それはじつは身体の仕組みをよく理解した技術ですね。

中邑　アメリカ人と練習しているとパワーが追いつかないときもあるし、たとえばロシア人なんかは「おまえ、その握力は反則だろ！」というぐらいパワーがあるんですよ。そういうときに、いままで習ったやつを一通り試して、何が効くかとかやったりしますけど。で、ガイジンに「おまえ、何やってんの？」って聞かれるときあります。言っても信じないから、知らんぷりしてますけど（笑）。

——その〝ツボ〟の技術はいろいろあるんですか？

中邑　ありますよ。あと、ほかにも、60歳をすぎた人に、指一本だけで後退させる技をやられたこともあるし。

——指一本で中邑さんを！

中邑　それがどういう仕組みになっているかを知っていれば、相手とクラッチを組んだときに、組んだ状態のところに意識を集中すればそれで押せるんですよ。だからそういった基本を押さえとけば、いろいろ改良して使えるんですよね。

——読者にわかりやすく言うと、発想としては古武術に近いんですかね。

中邑　でしょうね。でも、これはプロレスには活かせない技術ではありますからね。

——そういった話を聞くと、プロレスでチャンピオンになりながら、総合格闘技にも打って出る姿が見たくなりますねえ。

中邑　やる気はあるんですけど、現実的には新日本のスケジュール次第ですよね。育ててもらった団体をないがしろにはできないし。でも、「総合をやる」って言ってる以上、やらないと大嘘つきになりますから。

——そこは団体などとの協調性の部分になるんでしょうけど、中邑さんは協調性があるほうなんですか？

中邑　ボクはあると思っても、みんなはないと思ってるんじゃないですかね。

——協調性があるかないかは別にして、中邑さんって集団から一歩引いているイメージはありますよね。

中邑　協調性を出そうと思うと、うまくいかないんですよね。みんなに合わせて自分を殺すとなると結果的にいつもうまくいかないんです。誰でも怒られたりとか、ヤンヤン言われるのはイヤですけど、他人から見られるプロレスラーである以上は、リン

グ上で人に気を使ってるところなんて見られた日にゃあ終わりですからね。
――でも、合わせるところはあるわけですよね。
中邑　だってそうじゃないとやってけないじゃないですか（笑）。
――それは悪い意味で言うと、中途半端だったりするんですか？
中邑　そうですね。中途半端。
――徹底的に合わせようとは思っていないんですか？
中邑　だったら総合なんか、もう無理ですよね。
――じゃあ、そこはある意味、表現者としてがんばんなきゃいけないところでもあるんですね。
中邑　そうですね。そこがジレンマ的な部分もあるし、みんながみんなそうであってしまっても成り立たなくなると思うんです。まあでも、新日というか、プロレスっていうジャンルをいい意味でどうにかしようというところではみんな一緒ですからね。だからその中でボクができる役割はなんだって考えたときに、ボクにしかできないことをしたいなと思ったんですよね。
――その一つが総合格闘技だったんですね。
中邑　だからそれがプロレス以外の枠に出てくことになったとしてもいいし、プロレスの中でボクにしかできない表現があるならばそれをやっていくべきだと思います。
――たとえば小川（直也）さんが『PRIDE』に出たりしてましたけど、それもプロレスを守ることになるわけですか？
中邑　でも案外伝わってこないんですよね。小川さんからは。
――それはどうしてですか？
中邑　そこはボクの感覚ですかねえ……。単なるボクの主観だからかもしれないですけど、感覚として。ほかの人から見たら、「そうじゃないよ」と言うかもしれないですけど。逆にジョシュがプロレスできていないって言われちゃいますけど、ジョシュのほうがまだ"プロレス"になっている部分はありますよね。ひたむきさっていう部分で。そういう部分では、ボクはジョシュのほうが心を乗っけてるなとは思いますけどね。
――中邑さんもジャンルを問わず、心を乗っけたり、ファンを引き込むプロレスをやっていきたいわけですよね。ルチャだろうが、ストロングスタイルだろうが、格闘技だろうか。
中邑　そうですね。
――かなり濃かったこれまでの4年間を超える時間を作っていきたいんですね。
中邑　いやあ、もっともっと濃くしていかないと。どうやら、ボクは早死にしそうなんでね（笑）。

【06年10月11日／東京・三軒茶屋にて収録】

Shinsuke NAKAMURA
なかむら・しんすけ■1980年2月24日、京都市出身。青山学院大学レスリング部出身。同部では主将を務めた。02年、新日本プロレスでプロデビュー。総合格闘技のリングでも活躍。MMA戦績は5戦3勝1敗1無効試合。188cm、120kg。

ながた・ゆうじ■1968年千葉県出身。アマレス全日本学生王者として92年に新日本プロレス入門。03年にはIWGPヘビー級王座の連続防衛記録を打ち立てる。『ナガタロック』事業も好調な

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物

ケンカ生涯無敗

プロレス結社魔界倶楽部総裁
星野勘太郎

新日本プロレスの“ケンカ王”がついにkamipro初登場！　比較的新しめのファンは魔界倶楽部の星野総裁しか知らない人も多いだろうが、星野勘太郎といえば、「ケンカをやらせたら右に出る者はいない」と言われるほどの猛者。80年代後半には40歳を過ぎても前田日明、ライガーらと控室で大ゲンカをやらかし、引退したいまも「ケンカは生涯現役」を公言。そんな根っからのケンカ屋、星野勘太郎の「ステゴロ一代記」をたっぷりお届けします！

聞き手&撮影／堀江ガンツ　designed by shiraki (TwoThree)

神戸で俺のことを知らんヤツはいなかった
昔は一日3回ケンカやっとったからね！

―今日は星野総裁のプロレスラー人生をビッシビシとうかがっていきたいと思います！

星野　はいはい。

―星野さんはプロレスラーになろうと思ったきっかけが「ケンカでお金がもらえるから」だったらしいと聞いたんですけど、この話はホントなんですか？（笑）。

星野　まぁ、間違ってはいないけど、俺は「お金がもらえる」っていうことはそんなに重要じゃなかった。まず「ケンカができる」ってことだな。

―お金よりケンカがしたくてプロレス入りですか！（笑）。そんなにケンカ好きだったんですか？

星野　ケンカは一日3回やっとったから。

―一日3回！　じゃあ、食事みたいなもんですね。朝ケンカ、昼ケンカ、夜ケンカみたいな（笑）。

星野　まぁ、朝昼晩というわけじゃなくて、ケンカは夕方からやるわけだな。

―夕方からがケンカタイムでしたか（笑）。それはいつ頃の話ですか？

星野　学生時分。小学校6年ぐらいからかな。

―なぜ、そんなに頻繁にケンカになったんですか？

星野　ケンカするとスカッとするからね。

―スカッとするためにケンカ（笑）。スポーツ感覚でやってたわけですか？

星野　そう、スポーツ感覚だよ。

―何か、相手に対して腹が立ったとかそういうのはないんですか？

星野　なんもない（アッサリ）。

―じゃあ、ちょっと強そうなのがいたら……

星野　すぐ因縁つけて裏に連れてくわけ。おもしろいですよ、ケンカは。

―その“おもしろさ”ってどんな感じなんですか？

星野　勝ったら気持ちいいじゃない。負けたことないけどね。

―ケンカ全勝ですか？

星野　ああ。全部勝ってる。

―そうなると、学生の頃は子分なんかもいたりしたんですか？

星野　そんなもん、みんな子分や。

―みんな子分！（笑）。じゃあ、神戸あたりではかなり有名だったわけですか？

星野　まぁ、学生時分、俺のことを知らんヤツはおらんかったよな。お山の大将やったから。先輩後輩問わずみんなね。

―「あいつにだけは気をつけろ」というか。

星野　気をつけろじゃなく、誰も逆らわんかった。

―凄いなぁ（笑）。でも、そういう生活をしていると、裏社会からのお誘いとかは来なかったんですか？

星野　そういう感覚はなかった。俺はケンカがしたいだけだから。悪いことしたいわけじゃないから。

―純粋に野球やサッカーに打ち込むのと同じように、純粋にケンカに打ち込んでいた、と（笑）。

星野　そうそう（笑）。

―ケンカに勝つ極意とはなんですか？

星野　そんなもん、先手必勝や。

―先手必勝（笑）。向こうから歩いてきた悪そうなヤツに突然殴り掛かったりとかするわけですか？

星野　そんなことせえへん。黙ってド突くわけにいかんから、ちゃんと話してね。

―その「話をする」っていうのは、要は「因縁をつける」ってことですか？

星野　そういうこっちゃ。それで裏に連れ込んで、パンチ叩き込んだら、しまいや。

―仕事が早いですね（笑）。そのときはもうボクシングをされてたんですか？

星野　小学校のときはやってない。高校入ってからやな。

―星野さんが経験した一番凄いケンカってなんですか？

星野　野球部の連中、10人とやったときやな。1対10で。

―野球部一チーム全員とやりましたか！（笑）。

星野　まぁ、1対10といっても、こっちは闘い方をわかってるからね。“親玉”みたいなヤツを倒せば、それで終わりなのよ。

―まずは、一番強そうなヤツを倒す、と。

星野　そう。そうすりゃ、向こうは俺がどれぐらい強いかわかって、もうかかってこれなくなるから。

―全員倒さなくても一人倒せば済む、と。

星野　そういうこと。あの頃の神戸あたりはケンカは絶えなかったよ。だからケンカも学校別対抗戦とかよくやっとったからな（笑）。

―ケンカ甲子園みたいな感じですか（笑）。

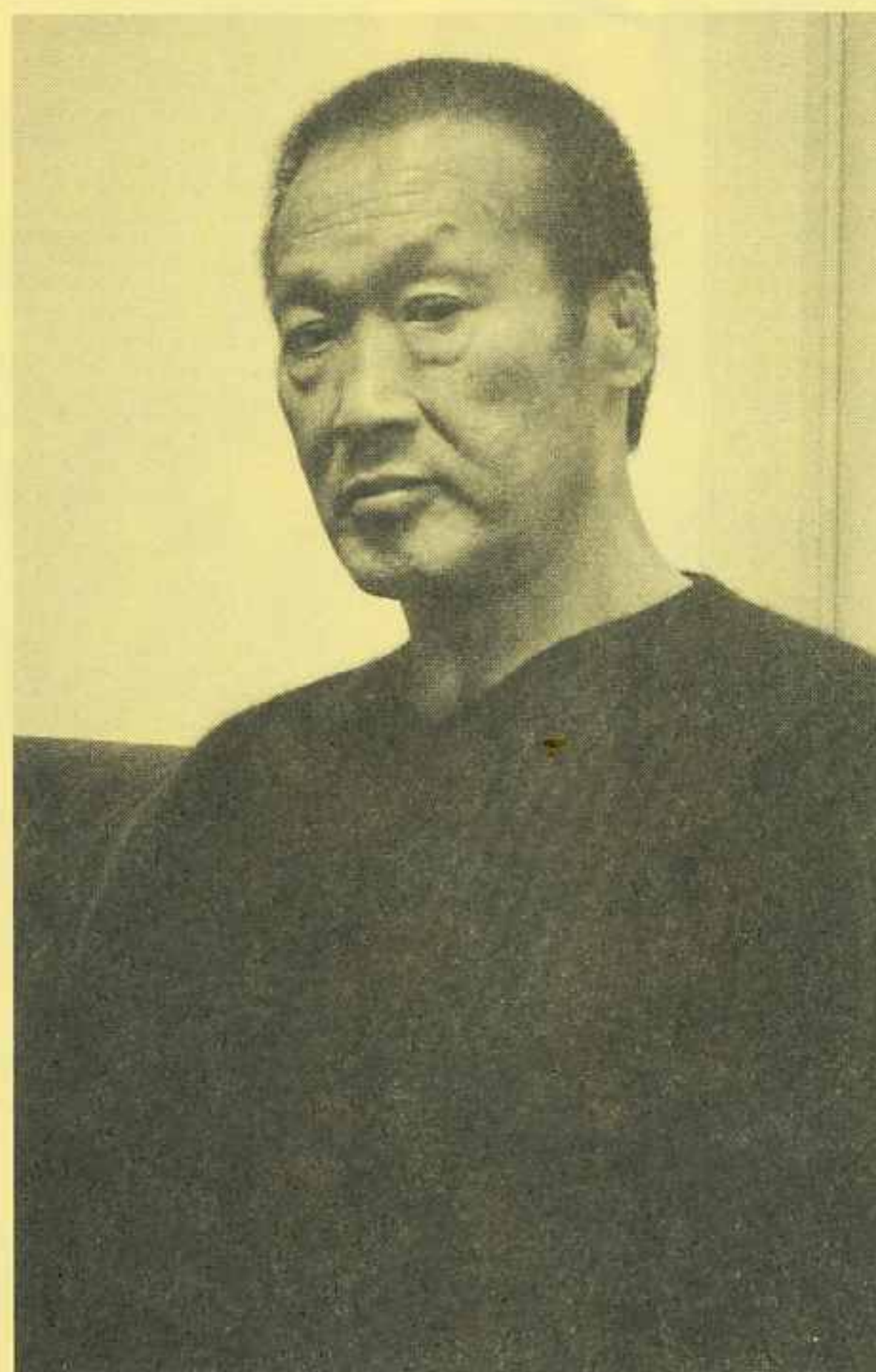
星野　そう（笑）。

―もちろん、“主将”は星野さんなんでしょうね。じゃあ、当時はケンカするのは当たり前の時代だったんですね。

星野　俺はそのなかでも特別だったけどね。

―そのケンカ屋だった学生時代から、将来プロレスラーになりたい気持ちはあったんですか？

星野　最初はボクサーがいいなと思っとったんだよ。ただ、途中からプロレスラーのほうがいいなと思っただけでね。だから、最初に東京に出てきたときは、プロボクサーになろうと思って出てきた。

―ああ、ボクサーになるための上京だったんですか。

星野　それでぶらっと来てみたんや。神戸の連中で帝拳ジムに入っとったヤツらが3人ぐらいおったから、そこに遊びにいって、2、3日寝泊まりしてね。よくしてくれたよ。先代の本田会長にもかわいがってもらったし。

―それでどのようにしてボクシングからプロレスに入ったんですか？

星野　その当時、毎週金曜日にリキパレスでプロレスがやっとって、観に行ったんだよ。それで階段上がったところに力道山先生がいたから、俺と一緒に観に行った人に紹介してもらって、「プロレスに入りたいんです」って頼み込んだんだよ。

―いきなり直談判ですか。

星野　それで親父（力道山）が俺の目をしばらくじっと見て、「よし、おまえ明日から入れ」「来い！」って言われてね。

―その場で決定ですか。でも、身体の小さな星野さんがよく入門を許可されましたね。

星野　なぜだかわからなんけどね。俺より前に山本（小鉄）が入門志願して断られてるんだよ。でも、俺が入ったあと、もう一回志願して入ったけどね。

―当時の力道山道場は相撲上がりとか、柔道家とかデカいのばかりですよね？

ながた・ゆうじ■1968年千葉県出身。アマレス全日本学生王者として92年に新日本プロレス入門。03年にはIWGPヘビー級王座の連続防衛記録を打ち立てる。「ナガタロック」事業も好調な

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物

日本プロレス史上最高のタッグチームと名高い、星野勘太郎&山本小鉄のヤマハ・ブラザース。二人とも170cm足らずと小柄だったが、その鍛え抜かれたゴツい肉体は、ジャージの上からでもわかるほどだ。

すか。そういう練習は誰とやられてたんですか?

星野　猪木さんとか大木（金太郎）さんとか。アマレスやってた吉原（功）さんとかね。あとは大坪（清隆）さんとかね。

――上田（馬之助）さんとかもやったりしました?

星野　ああ。上ちゃん、強かったよ。

――上田さんは関節技やらせたら、当時はナンバーワンという伝説もありますけど。

星野　一番強いっていうのは、そのときそのときで違うけど強かったよ。上ちゃんとは若手のトーナメントの決勝でやって、俺が極められたんだよ。そのときはちょっと油断してたから（笑）。

――油断しちゃいましたか（笑）。

星野　悔しかったね～。悔しくてたまらないから、道場戻ってから「もう一回やろう」って言って、そのときは俺が取ったんだよ（ニヤリ）。

――道場帰ってすぐさまリベンジしましたか（笑）。

星野　取り返さないことには気持ちが収まらなかったから。

――上田さんも、道場ですぐ再戦させられるとは思わなかったでしょうね（笑）。

星野　上ちゃん得意の腕がらみ（チキンウイング・アームロック）で取られたから、俺も腕がらみで取り返してやってね。

――これは本で読んだんですけど、日本プロレスの前座では星野さんたちが、勝手にセメントやってたって話ですけど。

星野　ガチガチの試合したら親父（力道山）が喜ぶから。でも、こっちはあくまでルールに従ってやってるだけだからね。

星野　そう。相撲、柔道、アマレス上がりがゴロゴロいた。オリンピックに出た（サンダー）杉山とかね。

――そのなかでボクシングやってた小柄な神戸のケンカ屋がよくやってこられましたね。

星野　そんなもん、みんな練習で倒してやったよ。

――みんな倒しちゃいましたか!

星野　当時の道場というのは、いまの『PRIDE』みたいな実戦をやってたからね。ああいうスタイルの練習をやっとったから。

――それは寝技の極めっこだけじゃないんですか?

星野　立ち技だってありますよ。最初はレスリングとかわからんかったけど、覚えてきたら、みんな倒してやったから。

――でも、当時は足の運動（スクワット）を3000回やったあととかに、スパーリングしたりするわけですよね。

星野　その当時、足の運動なんてヘッチャラ。

――ヘッチャラ（笑）。

星野　3000回ぐらい必ずやっとったから。

――〝必ず〟が3000回ですか（笑）。

星野　そうやってさんざん基礎体力の練習したあと、セメントの練習。

――力道山道場の練習はいまや伝説的ですけど、最初は驚きましたか?「これほどキツいのか」と。

星野　そんなもん驚かない。当たり前やと思っとったし。ちょうどいいな、と。

――ちょうどいい（笑）。

星野　最初はプロレスはやらせてくれないんだよ。ルールに従えばいいだけで、やってることはセメント。

――まさに総合格闘技だったわけで

1970年11月5日、台東体育館■日本プロレスの『NWAタッグリーグ戦』にアントン総帥と組んで出場した星野は、決勝戦でニック・ボックウィンクル&ジョニー・クイン組と対戦。試合は60分フルタイムでも決着がつかず、異例の延長戦を行ない、最後は猪木がニックを卍固めで下し、見事優勝を飾った。この試合こそが、勘太郎生涯のベストバウト。それにしても、二人とも素晴らしい身体をしている。

ながた・ゆうじ■1968年千葉県出身。アマレス全日本学生王者として92年に新日本プロレス入門。03年にはIWGPヘビー級王座の連続防衛記録を打ち立てる。「ナガタロック」事業も好調な

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物

アメリカでも控室でケンカしとったからね 腕っ節が強くなきゃトップに立てないのよ

—星野さんはそのあとアメリカに行かれるわけですよね。そしてアメリカでもメインイベントを張ったということは、ガチガチな練習をしていながらも、プロレスラーとしても技術もあったということですよね。

星野　それもあったし、アメリカでもケンカしとったしね。

—アメリカでもケンカしてましたか（笑）。

星野　控室でやりますよ！　向こうの連中はちっちゃいと馬鹿にしてくるからね。

—やっぱりそういうのがあるわけですか。

星野　だから控室で四つん這いになって「来い！」って言ってね。ディック・マードックとそういうこともあった。

—マードックといえば、ケンカが強くて有名じゃないですか。

星野　負ける気はしなかったけどね。

—負ける気しませんでしたか（笑）。星野さんは周囲のレスラーをビビらせるために、わざと控室でガンガン練習してたって話ですけど。

星野　そういうのもあるしね。殴っちまえば手っとり早いし。それぐらいやらないと、トップに上がれない。

—やっぱりプロレス界っていうのは、ジェラシーが渦巻く世界ですもんね。

星野　蹴落とそうとする連中ばかりだからね。でも、メインイベントに出て客を呼べばみんな黙るのよ。客が呼べてケンカが強ければ待遇もよくなるし、試合内容でも優位になるのよ。

—なるほど。プロレスでトップに立つためには、お客が呼べて、なおかつ腕っ節が強くなきゃいけなかったわけですね。

星野　そういうこと。

—星野さんはアメリカで相当売れっ子だったんですよね？

星野　売れたね〜。ロサンゼルスとテネシーにいたんやけど、小鉄ちゃんとのコンビでも売れたし、シングルでも売れた。

—伝説のヤマハ・ブラザースですね。あの「ヤマハ」っていうのは、どこから来た名前なんですか？

星野　あれはモーターサイクルでホンダとヤマハが流行っとって、ホンダよりヤマハのほうが売れとったからヤマハにした。

—バイクの名前なんですか（笑）。

星野　そう。日本製でちっこいけど馬力があるっていうことで、俺らのイメージに合っとったし、あとは語呂がいいんだよな。アメリカ人にとって、ホンダよりヤマハのほうが言いやすかったから。

—当時のロスやテネシーはどんなレスラーがいたんですか？

星野　ルー・テーズもジン・キニスキーもデストロイヤーもいたよ。NWA加盟テリトリーだったからね。テネシーは。

—じゃあ、かなりハウス（観客動員数）も良かったんじゃないですか？

星野　ああ。客はいっぱい入ったよ。でも、金はそんなにくれないんだよな（笑）。

—そうでしたか（笑）。1ドル360円の時代だから、かなり儲けたんじゃないかと思ったんですが。

星野　たしかに儲けたよ。ただ、当時の日系マネージャーに、かなりコレ（懐に入れるしぐさをしながら）されてると思うんだよね（笑）。

—やっぱり〝仲介手数料〟があったわけですね（笑）。

星野　なかったら逆におかしいんだけど、馬場さんなんかはそういうマネージャーがしっかりいて、ニューヨークで仕事がもらえたわけだからね。誰も知らない日本人がぽっとアメリカ行ったって、仕事がもらえるわけないんだから。やっぱりマネージャーの売り込み、コネがあってこそだからね。

—ただ、その〝仲介手数料〟の比率が大きかった、と（笑）。

星野　そう（笑）。

—でも、当時（60年代末）のアメリカで日系のヒールをやるというのは、かなり危険な目にも遭ったんじゃないですか？

星野　危険なことはいっぱいあったよ。テネシーはとくに荒くれどもが多いからね。お客がみんなナイフ持ってるから。

—みんなナイフ持ってますか！　じゃあ、実際に斬られたことも……？

星野　斬られた（アッサリ）。

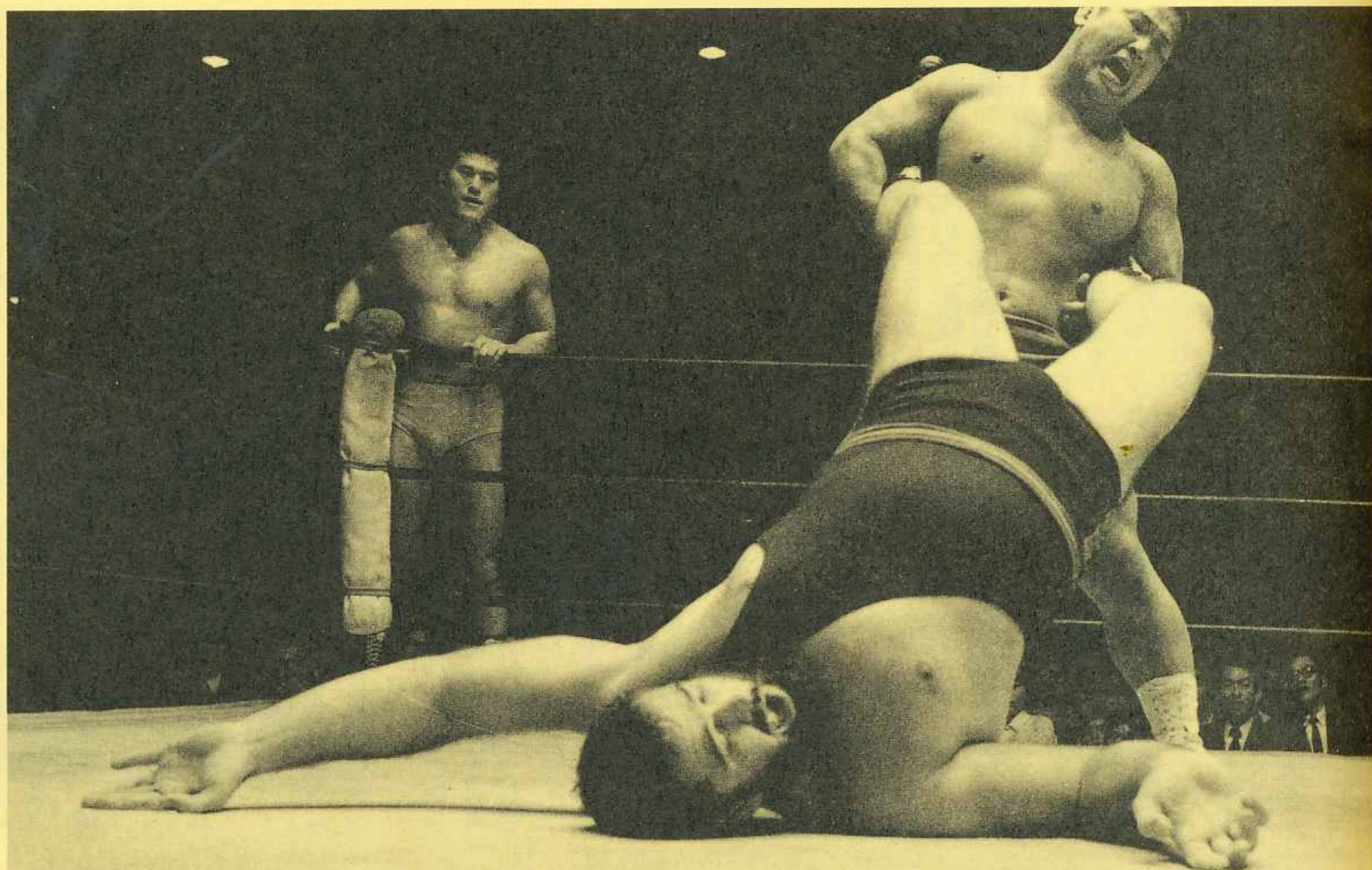
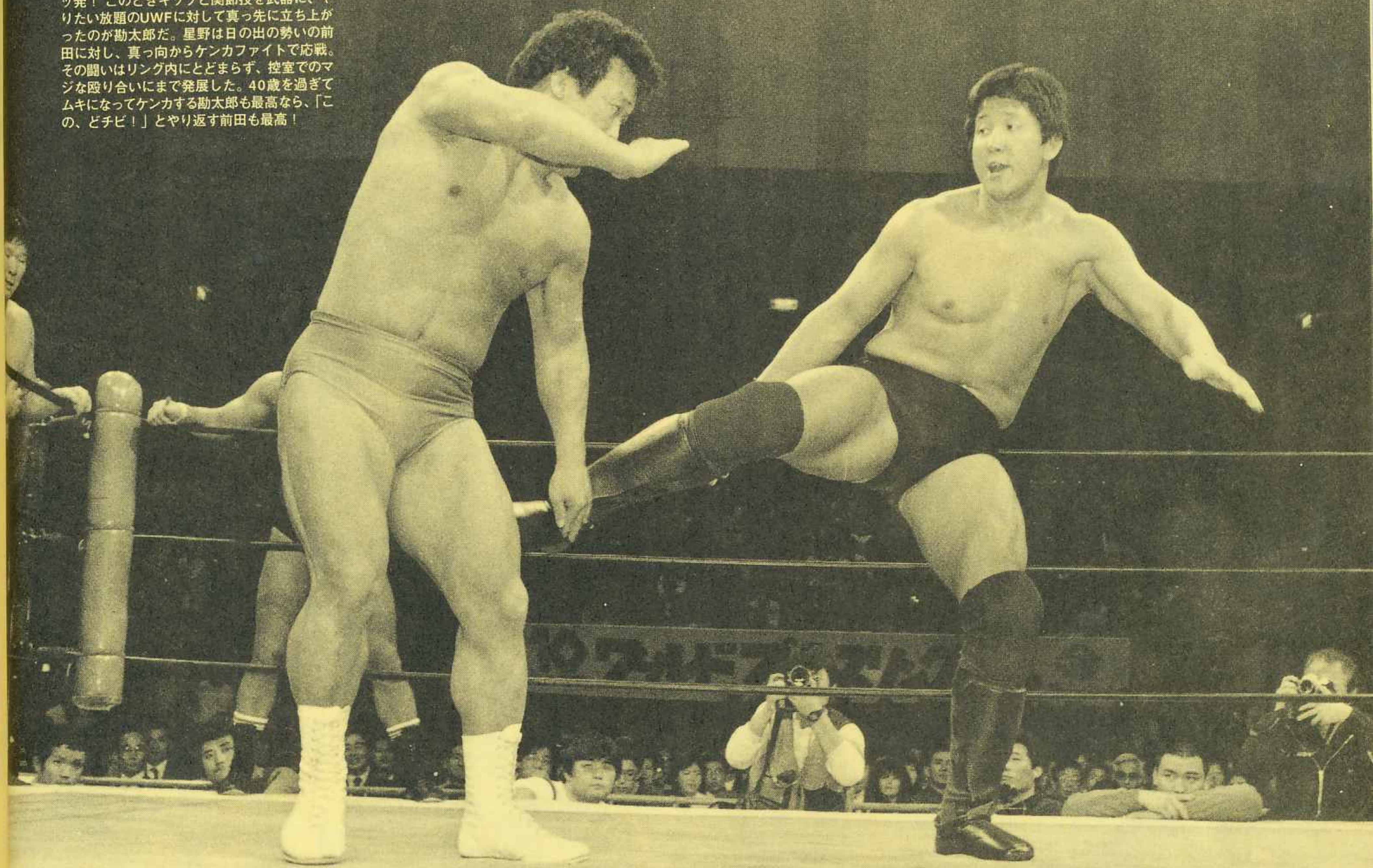
—そんなにアッサリと（笑）。

星野　試合が終わって、控室に走って戻る途中で頭をバッと斬られたんだよな。

—頭ですか！

星野　血がばーっと出た。あの頃は、真珠湾（攻撃）の記憶がまだ残ってる時代だからね。しかもテネシーみたいに労働者の街で気性が荒いところだろ。そんなところで俺たちは、真珠湾アタックだって、ゴングが鳴る前に攻撃を仕掛けてるんだから。

—毎回、奇襲を仕掛け開戦してましたか（笑）。

星野　そんなもんだから客がヒートして、こっちがワンツースリー取ろうもんなら、もの凄い騒ぎですよ。そしてリングから降りてきた俺たちを刺してやろうと待ってるわけ。

86年に前田らUWF勢が新日本に参戦してくると、新日本史上もっとも緊張感ある抗争がボッ発！ このときキックと関節技を武器に、やりたい放題のUWFに対して真っ先に立ち上がったのが勘太郎だ。星野は日の出の勢いの前田に対し、真っ向からケンカファイトで応戦。その闘いはリング内にとどまらず、控室でのマジな殴り合いにまで発展した。40歳を過ぎてムキになってケンカする勘太郎も最高なら、「この、どチビ！」とやり返す前田も最高！

——試合後、ナイフを持った客がいるところに入っていくって凄いですねぇ……。

星野　ああいうときは、走ったらダメ。グッと周囲を睨みつけながら、ゆっくり控室に戻るのよ。ちょっとでも近づいたらぶん殴ると威嚇しながらね。

——そういう時代を生き抜いてきたというのは凄いですね。

星野　俺の時代はそれが当たり前だったけどね。俺一人がヒールじゃないんだから。ヒールはみんな危険に晒されてるわけだからね。

——そういう経験をしたら度胸もつくし、プロレスラーとして一人前にもなりますよね。

星野　だから僕は自分で契約もしたし、交渉もしたしね。最初は小鉄っちゃんとタッグでやってたんだけど、いつも二人でいたら勉強にならないってことで、マネージャーのミスター・モトさんが、俺をテネシーに残して、小鉄っちゃんはテキサスのフリッツ・フォン・エリックのところに行かせてね。それでレスラーとして独り立ちできるようになった。

——なるほど。

星野　何にもわからないところに飛び込んで、プロレスも英語も交渉事も全部覚えたから。

——そしてアメリカから日本に凱旋帰国して、そのあと二度目の海外遠征がメキシコだったそうですけど、メキシコでもトップだったんですよね？

星野　そりゃそうだよ。

——そりゃそうですか（笑）。

星野　アメリカでトップ取ってたんだから、メキシコぐらいでトップ取って当たり前でしょう。

——じゃあ、最初から大物として参戦した、と。

星野　そうそうそう。お金も良かったよ。あのときも1ドル360円の時代だから。ホテルの近くにオフィスがあって、週に一度そこにギャラ取りに行くのが楽しみだったから。

——いや〜、ホントに海外で大成功されてたんですね。

星野　海外でここまで成功したのは俺と小鉄っちゃんぐらいなもんじゃないですか。あとは馬場さんか。金使う暇なかったけどね。忙しいし。俺がテネシーにおった頃、一週間7試合あって、さらに追加で2、3試合あったりしたから。

——一週間で10試合ですか。

星野　一日3回やったこともあるしね。朝10時頃、テレビの試合やって、お昼と夜も試合してね。

——当時のアメリカのテレビ中継って、スタジオで試合したものを録画放送するかたちだったらしいですね。

星野　おう、だからアメリカでは一日二試合なんてザラや。俺はTVチャンピオンだったから、テレビの試合やってから、夜の試合に出たりしとったからね。メキシコでも同じような感じでしたよ。

——メキシコで印象に残っているレスラーは誰ですか？

星野　やっぱりエル・サントとソリタリオやな。ただ、もうみんな死んだよ。

——当時はメキシコもお客さんは入ってたんですか？

星野　おう、もの凄かったよ。アレナ・メヒコで毎週金曜日に試合があって、毎週満員。それで俺は最初、サントと組んでた。

——じゃあ、リンピオ（ベビーフェイス）だったわけですか。

前田？ ケンカで負ける気はしないから！

星野　リング上で納得いかなかった

——そうですよね。スポーツ新聞に

ながた・ゆうじ■1968年千葉県出身。アマレス全日本学生王者として92年に新日本プロレス入門。03年にはIWGPヘビー級王座の連続防衛記録を打ち立てる。『ナガタロック』事業も好調な

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物

前田？ ケンカで負ける気はしないから！「おいしいのが来たな」と思ったね（笑）

星野　そう、ベビーフェイス。メキシコ人っていうのは日本びいきなんですよ。「ハポン、ハポン」言うてね。それでサントと組んどったから、余計人気があった。サントいうたら向こうでは英雄やからね。

――それこそ日本でいう力道山ですよね。

星野　そんな英雄と組んどったんだけど、途中で仲間割れしちゃったから、そこから凄いヒールになってね。

――そりゃもの凄いヒート買ったでしょうね。

星野　もう凄かった。サントと組んどった頃はファンが騎馬を作って、担がれながら入場してきたけど、ヒールになった途端、な～んもしてくれん。それどころか、石とかおしっことか投げつけられて、えらい違いや（笑）。

――最大の裏切り者ですからね（笑）。

星野　エル・トレオでやったときなんかヒドいもんだよ。あそこは闘牛場だから、石でもなんでも投げ放題で、凄かったよ。だからエル・トレオは檜舞台なんだけどやりたくなかったから。控室も汚いしね。

――まぁ、普段は牛がいるところですからね（笑）。そこで当時のルチャの動きを覚えたわけですか。

星野　そう。トペとかプランチャね。いま○○がやってる技なんて、俺が30年前から使っとった技だから。

――そういうこともあって、ミル・マスカラスの来日第一戦の相手は星野さんが務めたんですよね？

星野　そう。いいとこ引き出してやったんだよ。あれが人気出たのは俺のおかげ。敵に塩を贈ってやったんや（笑）。

――どんな闘い方をしたら、マスカラスの良さが一番出るかか、よくわかってたわけですね。

星野　こっちはプロだからね。だから来日第一戦（で相手を務めるの）は俺ばっかりよ。ハンセン、ホーガン、ベイダー、ジャイアント。みんな俺がやってるから。

――いわゆる〝ポリスマン〟だったわけですか。

星野　やっぱりプロだからね。お客が喜ぶようなことをやらなあかん。俺はあいつらの〝大工〟だよ（笑）。

――あの人気は俺が作ったんだ、と（笑）。星野さんが大事な第一戦の相手を務めるというのは、身体は小さいながら、デカい相手とやっても壊れないということもあったんでしょうね。

星野　背がないだけで、横はあったからね。実際105キロあったから。

――昔の写真を見せてもらうと、ホントに凄い身体ですよね。腕から太ももから、胸板から。

星野　腕は俺が一番太かったから。

――どうやって、ああいう身体を作り上げたんですか？

星野　食べたからね。食べて練習、食べて練習。その繰り返し。若いときっていうのは、それでどんどん大きくなるんですよ。だから亀田（興毅）なんてタイトルマッチが延期になったけど、ケガじゃなくて、目方落ちなかったんじゃないかと思うんだよな。（小声で）あれ、減量失敗やろ？

――いや、ボクに真相はわかりませんけど（笑）。

星野　たぶんそうや。だから記者会見にも出てこれん。だいたいやってたらわかるんだよ。「これ以上、落ちないな」って。無理してギリギリまで落としても、試合でふらふらになったらしょうがないしね。

――僕らぐらいの世代（30代前半）で言うと、星野さんで一番印象に残ってるのは、ＵＷＦが新日本に戻ってきた頃の闘いなんですけど。

星野　ああ、あれね。

――身体が小さくて当時、お歳もけっこういっていた星野さんが、20代後半でバリバリのＵＷＦ総大将・前田日明とガチガチでやり合ってたのは、凄いインパクトありましたよ。

星野　負ける気しないからね（アッサリ）。

――負ける気がしない（笑）。ああいうケンカマッチになってしまうのは、星野さんが試合中にプチッとキレちゃうんですか？

星野　キレる以前に好きだから。

――ダハハハハ！　単にケンカが好きだから（笑）。じゃあ、ＵＷＦが戻ってきたときなんか……。

星野　「こりゃおいしいのが来たな」ってね（笑）。

――やりたくてやってたわけですね。

星野　やりたくてというか、あれが普通だから。ナチュラル！

――ナチュラルに控室にまで殴り込んでいたわけですか？（笑）。

星野　リング上で納得いかなかったら、そのあと、納得いくまでやるしかしょうがないじゃない。

――あの当時は、巡業中も毎日のように新日本vsＵＷＦの6人タッグが組まれていて、必ず星野さんが入ってましたけど、毎回ボコボコやってたわけですか？

星野　そう。歳なんて気にならなかったし、負ける気が全然しないんだから、そらやるわな。

――やっぱり前田日明はやりがいありました？

星野　そら名前がある相手やしね。あいつは新弟子の頃からかわいがっとったんだよ。でも、リングに上がれば、あいつも遠慮しないしね。リング降りたら常識的なことも言うんだけど、リングに上がったらプッツンしてるから。昨日も『ＨＥＲＯ'Ｓ』の会見で、納得いくようなこと言っとったやろ。

――金子賢についてですね。

星野　プロレスでも総合（格闘技）でも、タレントが上がることが多くなってるからね。ただ、批判でもなんでもああやって活字になるものは「よし」としなきゃダメなんだよ。前田が怒ったことで大きく報道されて、所vs金子はどうなるんだろう？と思うやろ。だから、あれは俺から見たら、いい宣伝なんだよ。

――そうですよね。スポーツ新聞に「前田が抹殺指令」とかドーンと大きく出るわけですからね。

星野　あれはお金に換えられないものなんですよ。前田もタレントが試合に出ることに対してホントに怒ってるんだろうけど、俺たちはプロだからね。そういった批判さえも興行の宣伝になることがわかってるんだよ。ちょっと、マジで怒ったかどうか、前田に電話して聞いてみようか？（笑）。

――いまこの場で直電ですか（笑）。

星野　いまでもよく飯食うからね。

――星野さんは『ＨＥＲＯ'Ｓ』とか『ＰＲＩＤＥ』は、ご覧になってますか？

星野　もう血が騒ぐね！

――血が騒ぐ（笑）。

星野　若かったらすぐ出てるよ。ちょっと俺は生まれてくるのが早すぎたわ。

現在は魔界倶楽部総裁として、『WRESTLE LAND』で平田スポークスマンらと抗争する勘太郎。天龍、佐藤耕平以上に聞き取りづらいマイクは必聴だ！

──いや～、星野勘太郎vsヴァンダレイ・シウバとかメチャクチャ観たいですけどね（笑）。
星野 （拳を握りしめながら）クゥ～～～！
──あ、名前聞いただけで燃えてきちゃいましたか（笑）。

俺が若かったら間違いなく総合に出てるよ ちょっと俺は生まれてくるのが早すぎたわ

星野 あれこそケンカで金がもらえる商売やないか。技術も必要やけど、ケンカが強いもんが勝つんや。
──星野さんにピッタリですよね。
それで納得いかなかったら、控室でもシウバと殴り合っちゃったり（笑）。
星野 やっとったやろうな（笑）。
──まぁ、40代の頃に全盛期の前田日明と殴り合ってるわけですからね。
星野 だから、前田とやり合ってたのはリング上の話でね。納得いかなかったら、控室でも殴り合うけど、終わったらかわいい後輩や。
──昔の新日本プロレスっていうのは、そういうホントの感情や揉め事みたいなものが、うまくリング上に生かされていたような気がするんですけど。
星野 そうやね。ナチュラルにやり合ってたしね。焚きつけみたいなこともあったけど、猪木さん一流の考えもあったんやろうし。やっぱり猪木さんにはかなわないよ。
──それを何年もやってきたわけですもんね。
星野 「やってきた」じゃない。いまでも「やってる」んだよ。わかる？
──成田会見でいろいろやってますよね（笑）。
星野 猪木さんが一番新日本プロレスのことを気にしてますよ。プロレスのこと忘れるわけないんだから。
──いま、星野さんは『WRESTLE LAND』に出られてますけど、あぁいったエンターテインメントは新日本プロレスには合わないと言われてきましたよね。その点はどのように感じてますか？
星野 僕は一度引き受けたら一生懸命やるタイプだから。それに『WRESTLE LAND』自体、だんだんよくなってきてますよ。一回目なんかはボロクソ言われたけど、ボロクソ言われてるうちが華なんだから。さっきの金子と同じで、批判も宣伝のうちなんですよ。なんにも言われなくなって、相手にされないのが一番悪いんだから。
──最初はボロカスに相手にされましたよね（笑）。
星野 それは脈があるってことだから。だんだんお客も増えてるし。招待券と実券じゃ、歓声の質が違うからわかるんだよ。まぁ、俺は一生懸命やるだけやな。
──わかりました。では、最後に星野さんの長いキャリアで一番印象に残ってる試合をうかがいたいんですけど。
星野 よく聞かれるんだけど、やっぱりNWAタッグやな。
──ああ。猪木さんと組んで、ニック・ボックウィンクル＆ジョニー・クイン組と決勝を争った、NWAタッグリーグ戦ですね（70年11月、日本プロレス）。
星野 あとはマスカラスとやった試合ね。相手に塩を贈って、これもプロの仕事だから。
──猪木さんとのタッグの試合はどんな試合だったんですか？
星野 60分の試合でね。途中で水飲もうとしたら、猪木さんに「水飲むな！」って言われてね。60分フルタイムやって、そのあと延長戦やって優勝したんですよ。優勝カップをもらったことが、凄く思い出に残ってますよ。
──その優勝が、星野さんの新日本プロレス入りにつながった感じですか？
星野 そうでしょうね。俺はずっと猪木さんと一緒に行動してきたわけやからな。
──わかりました。以上でインタビュー終了なんですけど、最後に写真撮影をお願いできますか？
星野 おう。じゃあ、ちょっと着替えるから（と言って、おもむろにシャツを脱ぎだす）。
──うわ～、いい身体してますね。星野さんはいまでも身体鍛えてるんですか？
星野 馬鹿言っちゃいかんよ！ 当たり前やろ！
──当たり前でしたか、どうもすいません（笑）。
星野 身体見たらわかるやろ。
──星野さんは引退して痩せちゃったのかと思ってたら、絞っただけなんですね。
星野 冗～談よしこちゃんだよ！ いまでも俺は（ケンカ）やってるからね！
──いまだにケンカしてますか！
星野 車乗ってて後ろからクラクションなんか鳴らされたら、すぐ降りていくから！
──まだケンカでは現役バリバリなんですね（笑）。
星野 せっかくこの歳までケンカ無敗できたのに、ここで負けたらもったいないやろ。だから練習してるんだよ。若いヤツが相手でもビッシビシやるから！
──いや～、やっぱり昭和のプロレスラーは凄すぎます！

【06年10月4日／新日本プロレス事務所にて収録】

ほしの・かんたろう■1943年10月9日、兵庫県神戸市出身。本名・星野建夫。61年に日本プロレス入門。67年にアメリカで山本小鉄とヤマハ・ブラザースを結成し大活躍。79年1月には国際プロレスのリングに乗り込み、G.草津&A.浜口組からIWA世界タッグ王座を奪取。80年代は前田日明、獣神ライガーとケンカマッチを展開し、健在ぶりを見せつけた。95年、両国国技館で現役レスラーとしては引退。2002年8月からは魔界倶楽部総裁としてリングに復帰し「ビッシビシいくからな！」発言は、『東スポ』でプロレス流行語大賞を受賞した。

ながた・ゆうじ■1968年千葉県出身。アマレス全日本学生王者として92年に新日本プロレス入門。03年にはIWGPヘビー級王座の連続防衛記録を打ち立てる。『ナガタロック』事業も好調な我らが永田さんが凸凹大学校特別講師として登場！

まつした・みわ■『PRIDE』やダン・ヘンに豊富な知識を誇るも、プロレスはからっきし（でもレッスルランド好き）なプロレス初心者。ついに新日本道場に強制入門！

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物編集長として活躍後、フリーライターとして絶賛活動中。新日系レスラーからの信頼度は絶大！　な凸凹大学校特別講師。

（身を持って）教えて!!
新日本プロレス道場、強制入門！の巻

3年G組
金沢先生

新日本プロレス 凸凹大学校 special

なんと伝説の鬼軍曹、山本小鉄氏も乱入！

「それでも人しか～愛せない～♪」（多摩川沿いを物思いにふけりながら）と、今回は金沢先生の旧友、あの永田裕志先生が「教えちゃっていいんだね？」と特別講師で登場！　ストロングスタイルの原点、新日本プロレス道場で"プロレス初心者"ミワに地獄のレクチャー三昧!!

特別講師／永田裕志先生　講師／3年G組 金沢先生
生徒／プロレス超初心者　松下ミワ　用務員／ジャン斉藤
撮影／堀江ガンツ　構成／真下義之　design by さおとめの事務所

教えて!! 新日本プロレス道場のこと

特別講師 永田裕志先生

K―1、『PRIDE』、プロ野球、Jリーグ……よ〜く見ろ! これが新日本プロレス道場だ! 今回は特別講師として永田裕志先生がプロレス超初心者、松下ミワに新日本魂を注入?

リングの上は危険がいっぱい! 新日本プロレス基本ムーブを体感!

ミワ 金沢先生! 道場の雰囲気と汗の匂い……緊張してきました。

GK フフフ。さらに今日は特別講師を呼んでますから。

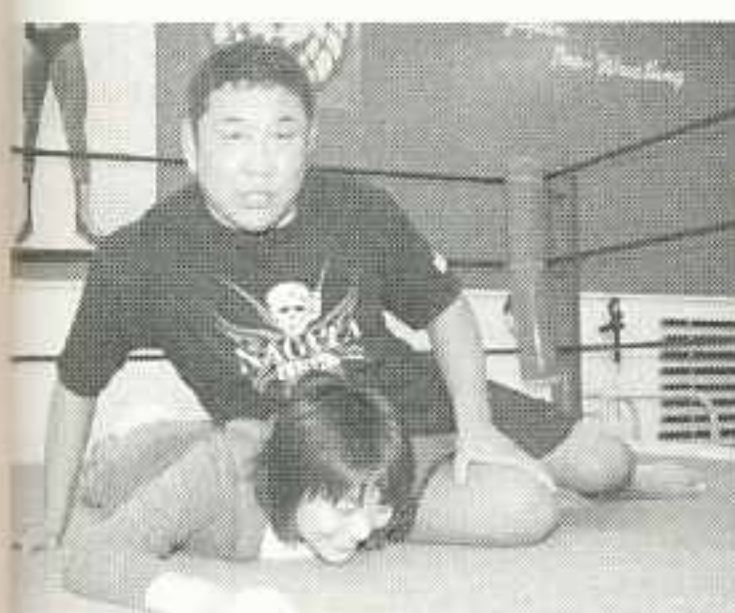
永田 どうも! ワタシが永田です!(と敬礼しつつ、さわやかに)。教えちゃっていいんだね? 今日はアシスタントとして若手の内藤(哲也)、裕次郎も用意しました。

ミワ よ、よろしくお願いします! (小声で) なんか思ったよりも本格的だなぁ……。

「落ーとーせ! 落ーとーせ!」と心で落とせコールを唱えつつ、スリーパーの入り具合を確認するミワ。

「よーし、よしよし。ナーシャッ!!」と自らアントンばりに魔性のスリーパーを披露するミワ。永田先生指導のもと後頭部に重心をかける、正しいスリーパー伝授!

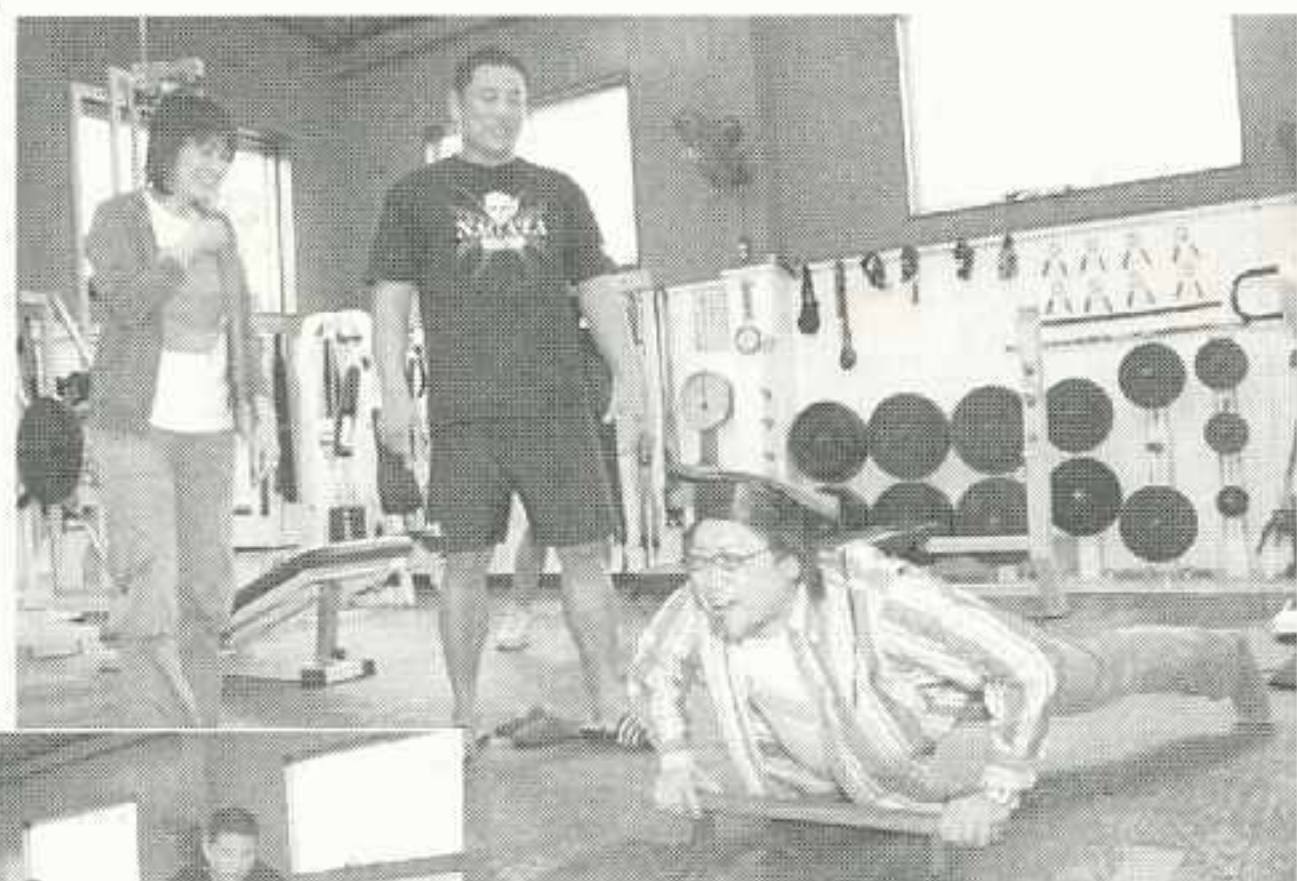
「お! 太い腕♥」と内心盛り上がる筋肉フェチなミワだったが、力を加えるとたちまち瀕死の形相に。

「せーのーで、ロックアップ!」といきなり眼前でスタートした若手の激しいロープワークの攻防に言葉を失なうミワ&今日も帽子が素敵な金沢先生。

「フン! フン!」と白目をむかんばかりに熱血指導のエンジンフル回転のキラー永田先生がもう止まらない! ミワを仰向けの体勢に押さえると頬骨を万力のごとくグイグイ締め上げるモノホンのナガタロックⅡが大炸裂! 金沢先生も笑顔のシュートサインで呼応! ミワは当然のごとく高速タップ!

床の汚れは血と汗と涙の結晶! これが新日本道場、基礎トレーニングだ!

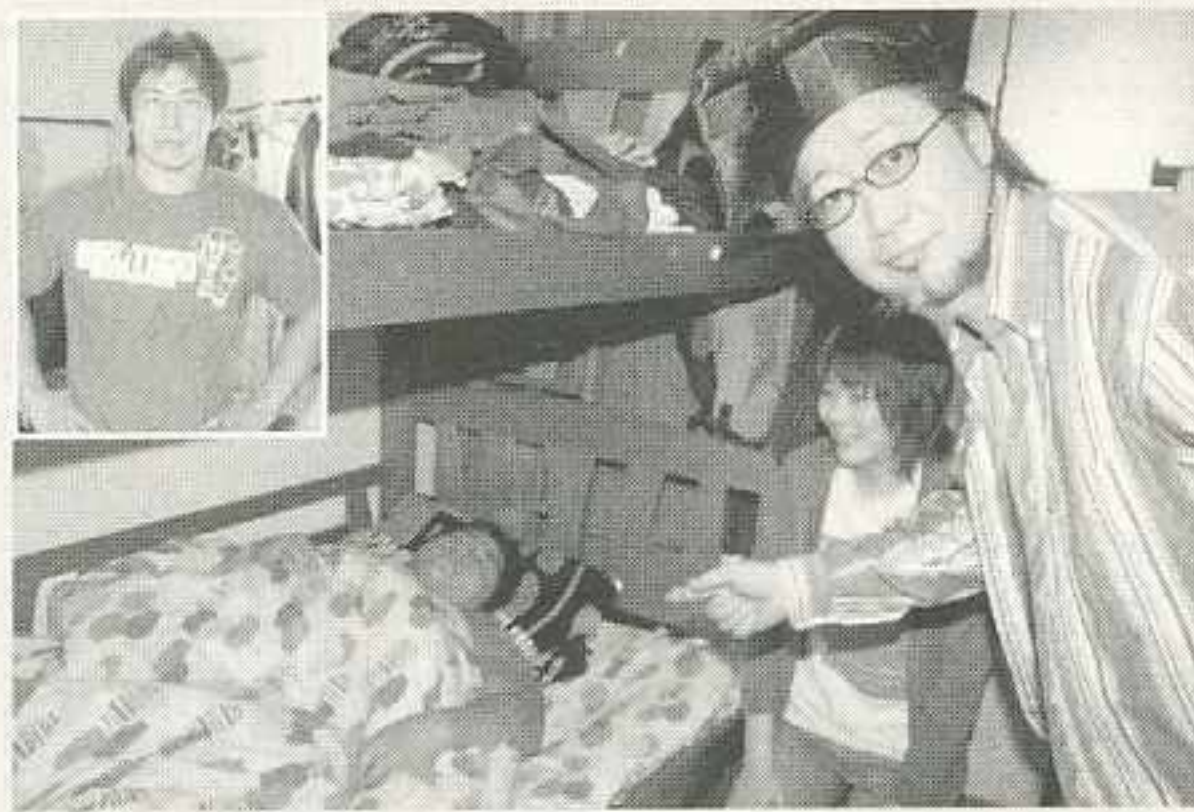
1 灼熱のヒンズースクワット

い〜ち! に〜ぃ!(歯をくいしばり憤怒の表情で)新日本伝統のヒンズースクワットに挑むミワ。新日本のスクワットはこのほか、足を前に出すもの(写真小)。重心を横移動するものとパターンもさまざま。汗の水たまりができるまでやるんだよ!

2 地獄のプッシュアップ

見てみぃ! この顔! 一回もプッシュアップできなかった不甲斐ない生徒(ミワ)を見るに見かね「僕は昔、やったことありますから!」と余裕を見せつつ帽子を被りつつ挑んだ金沢先生。だが、その表情はみるみるうちに苦痛に歪む! これにはミワも大爆笑。

潜入！ GKスクープ！

数々の伝説を生んだ新日本合宿所に潜入！

このコーナーはGKこと金沢先生が生徒ミワと永田先生を新日本合宿所に放ち、世のため人のため、公序良俗・安寧秩序を守るべく、調査追求するコーナーである！（『探偵ナイトスクープ』調）。

潜入1 合宿所個室部屋
裕次郎選手

「おじゃま～、おじゃま～」（RG調）とまずはお昼寝する裕次郎の部屋に潜入！　かつて永田先生＆藤田和之も使用したというこの部屋は比較的キレイな個室として使用。

潜入2 合宿所共同部屋
内藤選手＆平澤選手

「絶対に入らないで！」と断固入室拒否された内藤＆平澤の部屋にも永田先生は堂々侵入しエロ本探索！　なぜか入口のドアにはテーピングで「内藤哲也」の文字が。

潜入3 合宿所個室部屋
留守中の外国人選手

かつてクリス・ベノワも在籍した合宿所。現在も外国人留学生が在籍する部屋にも永田先生は堂々侵入して、〝AV界のレジェンド〟小林ひとみのビデオ発見！　なぜ留学生が……。

潜入4 秘密の個室部屋
獣神サンダー・ライガー選手

二階隅の謎の部屋にはおもちゃや怪獣模型がいっぱい！　地方在住のライガーの東京での部屋らしい。ここでミワが勝手にマスク装着！　知らないということは恐ろしいことだ。

潜入5 みんなの応接室

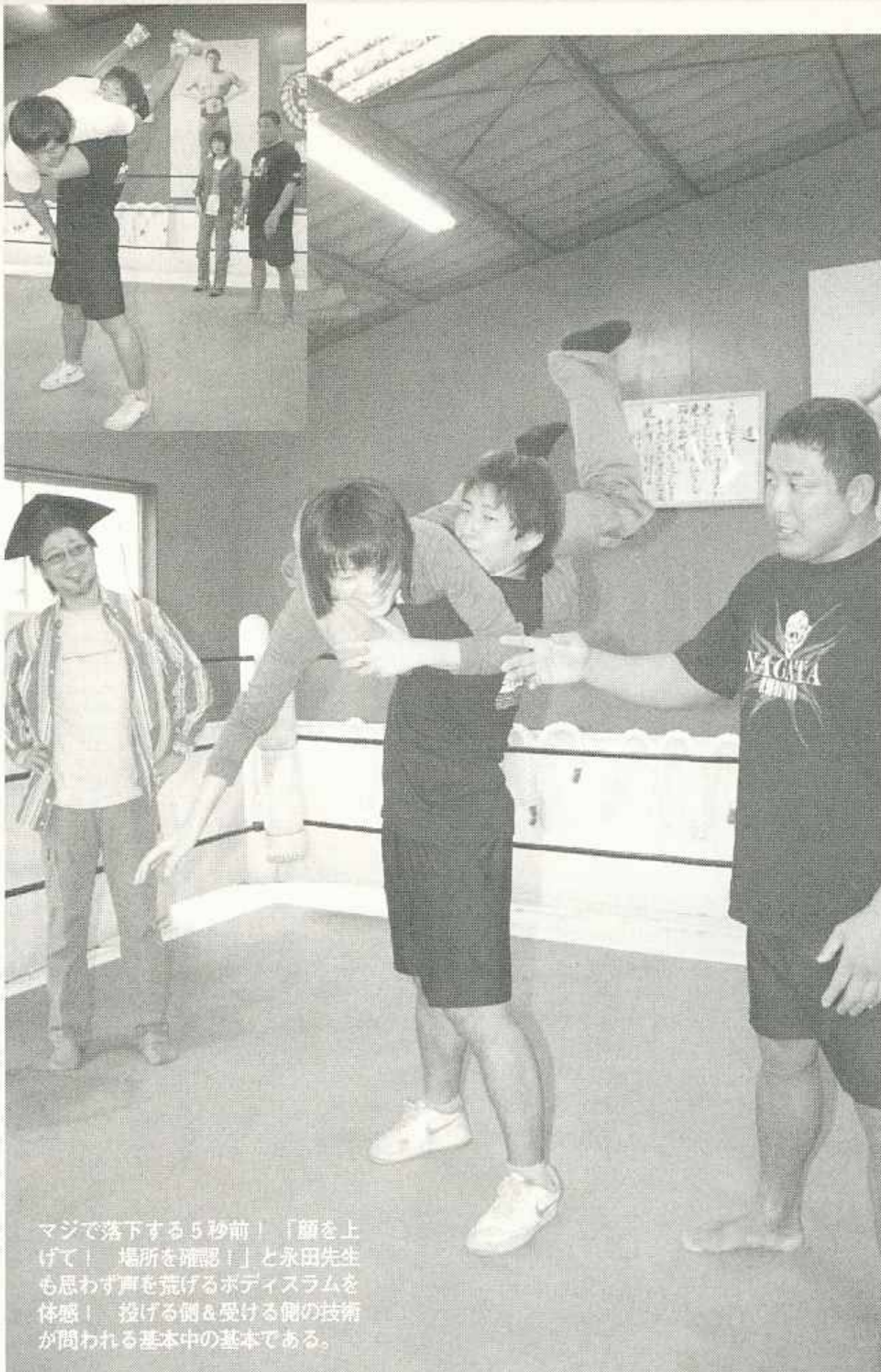
かつてファミスタしてた練習生時代の天山が小原にドロップキックくらったり、破壊王が空気銃の点検をしてた応接室は憩いの場。奥にいるのは合宿所の管理人、小林邦昭さん。

潜入6 道場のおフロ

いい湯だな～。ハハハン♪　と歴代の新日スーパースターズが汗を流したおフロも大公開！　道場と合宿所の中間地点に位置し、フロあがりの外道らが周囲を徘徊していた。

潜入7 二階の渡り廊下

各部屋がある二階の廊下にはライガーの作りかけの模型がゴロゴロ。かつては泥棒が侵入したこともある合宿所には、いまも防犯カメラが設置されている。だが、そのカメラに「とんでもないものが映っていた」（金沢先生）ことも。

「やっちゃっていいんだね？」永田先生、熱血指導にミワ、失神5秒前！

マジで落下する５秒前！「顔を上げて！　場所を確認！」と永田先生も思わず声を荒げるボディスラムを体感！　投げる側＆受ける側の技術が問われる基本中の基本である。

スリー、ツー、ワン！　人間ブリッジ！　これだけひどい目に遭ってもものおじしないミワは内藤選手の人間橋に腰かけ「なんか奇妙な感触です～」とリラックスモード。

「ミワは腐ったミカンじゃありましぇん！」と実地授業でのイッキシンテンを図った凸凹大学校。いきなり「ドリャー！」と若手の本格ムーブを見せられ「なぜこんなことに……」と後悔するミワ。次々に襲いかかる新日伝統のトレーニングに青息吐息。永田先生もミワのていたらくに、ついに〝鬼神〟と化し、ナガタロックⅡでガッチリ捕獲！　ダメ生徒に手を焼き続けた金沢先生も感無量の笑顔が満開だ。

3 驚愕の綱のぼり

まさにクライマーズハイ？　足を使わず、腕の力だけでロープを上り下りする新日本古来の綱のぼりトレーニングに至っては、もうぶらぶらぶら下がってるだけ、というていたらくのミワ。そろそろ底が見えてきたか？

4 バランスのコシティ

〝プロレスの神様〟カール・ゴッチゲノムがいまも連鎖する、こちらも新日本クラシックなトレーニング用具、コシティ！「筋力アップしつつ、柔軟性を保つ用具」（永田先生談）としてヤングライオンには欠かせない逸品だ！

まだまだ続く、永田先生劇場
教えて！ 新日本プロレス道場の秘密

ミワ　永田先生、金沢先生！　今日はありがとうございました！

永田　はい、お疲れさまでした。じゃ、練習に耐えたご褒美を用意してありますので、皆さんキッチンのほうにどうぞ！（敬礼ポーズで）。

ミワ　（キッチンに用意された、ちゃんこ鍋を見て）す、すご〜いっ！

永田　どうぞ、好きなだけ食べてください（ニッコリ）。

ミワ　おいしそ〜っ！　（急に小声で）いいんだね、食べちゃって！

永田　（無視して）今日は骨つき鳥肉と野菜を使ったちゃんこ鍋です。

GK　俺も新日本のちゃんこ食べるの、ひさしぶりだなぁ。（ちゃんこ予定表を見つつ）最近はちゃんこもいろいろ種類があるんだねえ。カレー鍋に、豚味噌鍋。あ、ジンギスカン鍋は菜食主義の（中邑）真輔くんは食えないでしょ？

永田　たしかに無理ですね（笑）。

ミワ　あの〜、練習のあとは必ず、ちゃんこを食べるわけですか？

永田　そうですね。ともに汗を流したものが同じ釜の飯を食う。新日本の伝統です。ウチがちゃんこをやらなくなったって噂が一時期、流れてたんですけど（笑）。

ミワ　……だから、今日は取材用のちゃんこなんじゃないかって、一瞬頭をよぎってしまいました（笑）。

永田　毎日作ってるんですよ（苦笑）。しかし、誰がそんな適当なことを言ってたんですかね？

ミワ　私はよくわからないですけど、許してチョンマゲ！　ってことでさっそくいただきます！

GK　ところで、どうだった？　新日本道場の練習を体感してみて。

ミワ　永田先生には申し訳ないですけど……もうやりたくないです（無表情で）。キツいし、足が開かない、腕立てもできないし……。

永田　ま、慣れればできますよ（笑）。

ミワ　もう二度と練習はしたくないですけど、プロレス道場がどういうものか勉強になりました！

永田　この道場は猪木さんの新居を改造して作ったんですよ。

ミワ　え!?　そんなゲノムが受け継がれてるんですか！

永田　それでその家自体にもさまざまな歴史がありまして。道場に夜な夜な未確認物体が出たり……。

ミワ　あ、猪木さんの新居だけにUFOですか？

GK　……どうしてそういう無駄な知識だけ吸収してるのかねえ。

永田　ハッキリ言うと、幽霊伝説ですね（キッパリ）。

ミワ　キャ〜〜ッ！

永田　歴史をさらに掘り起こしてみると、ここはもともと畠山みどりさん（歌手）のお母さんの家だったんです。そのお母さんが、この場所近辺で亡くなってるんですよ。

ミワ　キャ〜〜ッ！

永田　で、その家を譲り受けた、というか売りに出されていたのが猪木さんだった。もしかすると安かったんじゃないですかね？　だから夜な夜な足音が聞こえたり、女の子の影が見えたり……（大げさに声をひそめて）ボクは幽霊の足音を聞いたことがあります。

ミワ　な、永田さんが永田裕志じゃなくて稲川淳二になってる……。

永田　僕は幽霊とか見ないほうなんですよ。でも、そのときは二階の階段を昇る足音だけ聞いたんです。ちょうど夏休み期間で練習生がいないときで。いたのは大谷晋二郎と安田忠夫の二人だけ。で、次の日にそのことを話したら会話が噛み合わないから、これは出たな！　と。

GK　そういうのって、年に何回も見たりする？

永田　いや、何年かにいっぺんでしたね。でもヒロ斉藤さんたちがいたときは、しょっちゅう女の子の影が見えたり、窓が勝手に開いたり、時計が逆回りしたとか伝説がけっこうあったらしいですよ……。

ミワ　キャ〜〜ッ！

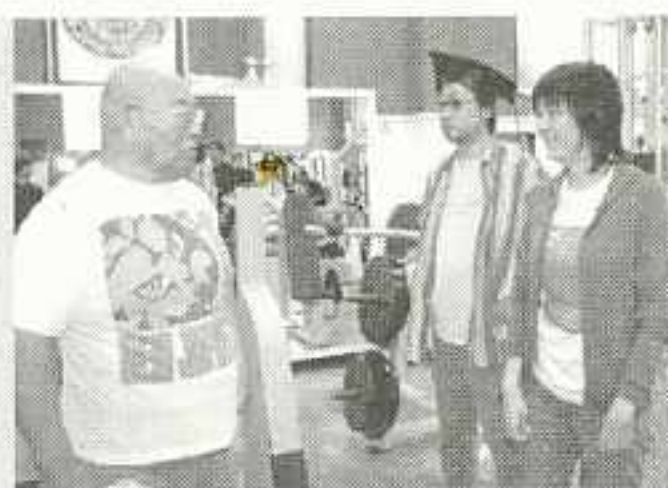
GK　あとは、寮の防犯ビデオに○○○○が女の子を連れ込んでた様子が映ってたとか。

ミワ　キャ〜〜ッ！……って、それは幽霊じゃないですよ、先生！（笑）。

GK　その防犯ビデオをテープにダビングしたのを破壊王が気に入ってZERO−ONE時代に来客のたびに見せてたらしいからね。

ミワ　え〜〜〜（笑）。

時は来た！　業界内で“ちゃんこ消滅説”がまことしやかに流れていた新日本プロレスのリアルちゃんこ（この日は鳥鍋）との対面に、ミワ大感激！　ちなみにこの日のちゃんこ番はデビュー1年目の平澤光秀選手（24歳）でした。

ミワ、直立不動!!
“鬼の校長”山本小鉄氏、まさかの登場!!

なんと、道場で練習中に新日本プロレス道場の鬼軍曹こと、山本小鉄氏がたまたま登場。プロレス初心者・松下ミワ、過去最大級のピンチ到来か！

GK　山本さん、この子は格闘技は好きだけど、プロレスをよく知らないので、今日は道場で勉強させてもらってるんです。

小鉄　（ギロリと目をむいて）何？　格闘技が好きでプロレスはよくわからない？

ミワ　あ、はい……。（と直立不動で）。

小鉄　プロレスと格闘技が違うってことはないんだよ！　（ライオンマークを指指して）だってプロレスこそキング・オブ・スポーツなんだから!!　どう？　違う？（と一気にまくしてて）。

ミワ　いや、あの……ワタシは。

小鉄　アナタはどういう見解してんの？　俺が教えるなら厳しいよ！　俺は顔も怖いし、優しくないよ！

ミワ　（極度におびえながら）いや、最初が『PRIDE』から入ったので……よくわからないんです！

小鉄　ああ、そっから入ったの。……じゃ、そういうふうに言えばいいんだよ！（と一転して笑顔で）。それより、この道場の床がこんなに汚れてるでしょ。これ汗だよ、汗の結晶！　ここで選手がスクワットやると汗が垂れて水たまりになるわけ。わかる？

ミワ　わ、わかります。

小鉄　昔は、真夏でも室内を閉めきって練習するから、温度は48度！　そしたらね。道場前のコンクリートのほうが涼しいんだよ。そのくらい練習してるし、ウチの選手はプロレスラーとして極めることも知ってる。あなたの首だって簡単にキメちゃうよ。

ミワ　さっき、永田先生にやられました。

小鉄　じゃあ、今度は俺が裏技を教えてあげようか？　やるか？（と近づいて）。

ミワ　いや〜。痛くしないでください〜！　ギャ〜！

小鉄　いまのわかった？　（ニヤリ）

ミワ　……い、いまのはなんですか？

小鉄　急所だよ。鎖骨に第一関節だけ入れるわけ。脇腹とか頸動脈とか頬骨とか。プロレスはそういう奥の手もあるのさ。わかった？

ミワ　はい。

小鉄　じゃ、リング上がろっか？

ミワ　いや〜。もうけっこうです！

（休憩時間にまたまた小鉄さんが登場！）

小鉄　あの〜。君はさ、恋人はいるの？

ミワ　あっ……。はい。一応（と思わず正直に返答してしまうミワ）。

GK　え〜っ！　先生は知らなかったぞ！

小鉄　（無視して）いるならいいけど、絶対にレスラーには惚れちゃダメ！　レスラーに惚れたらヒドイ目に遭うよ。体力はあるけどトンチンカンなヤツが多いから。それで、どのくらい付き合ってんの？

ミワ　い、一年半ですね（やや照れながら）。

GK　う〜ん。先生に黙って一年半も……。

（意味不明のまま）永田先生、〝首投げ〟ってなんですか？（ミワ）

首投げ？ 嫌いじゃないですよ！（笑）（永田）

GK あれ、世の中に4本くらいしかないんだよ。『週刊ゴング』の編集部に「ご自由にご覧ください」って書いて置いておいたら、ある日、なくなってたの。

永田 会社から「回収しろ」って命令が出たみたいです。ただ……私は持ってます！（敬礼ポーズをしながらキッパリと）。

一同 ガハハハハ！

ミワ とにかく、この道場でいろんなことがあったんですね（笑）。

GK 永田先生の練習生時代のコーチは、理論家で知られる馳（浩）と新日本のコーチとしては大変に悪名高い（佐々木）健介なんだよ。

永田 トータルの指揮を執るのが馳さんで、佐々木さんはその横でたるんでるヤツをぶっとばす人（笑）。でもそういう役は、いつの時代も必要ですよ。僕はそんなでもなかったけど、かなりシゴキがひどい時代もあったみたいですね。

GK 小島、天山、小原、西村の世代ね。馳と健介がコーチをし始めたのがその頃。それ以前はネコさんだったから。

ミワ ネ、ネコさん？（招き猫のポーズで）。

GK 動物じゃないよ！ 今年亡くなられたけど、長いあいだ、新日本プロレスの裏方を支えたブラック・キャットというベテラン選手。鈴木みのるがいまだにちゃんと受け身ができるのはネコさんのコーチのおかげなんだよ！ 現WWEのスーパースター、クリス・ベノワもクロネコ教室で基礎を学んだわけ。

永田 そういった基本練習ってホント大変なんですよ。基礎がある程度できるようにならないとリング上でやらせてもらえないし、リングに上がる前に徹底的にシゴかれるから、やっと上がったときはボロボロなんですね。

ミワ ……つらそうですねえ。話はまったく変わりますが、この道場にはファンが詰めかけたりしますか？

永田 昔は熱烈な女性ファンがプレゼントを持っていらっしゃってました。最近はあまりないですけど。

GK たしかに最近いないねえ！

永田 僕の頃はいましたけどね！

GK あ、そう（笑）。

永田 道場に向かって2～3人。あちら側に2～3人。違うグループで牽制し合ったり（笑）。

GK ファンに手を出してスクワット5000回やらされた人もいるけどね（笑）。

ミワ アハハハハ！

永田 それ聞いた橋本（真也）さんが「何？ バカヤロー！」ってブン殴ったら、自分の手が腫れあがっちゃった。でも女性関係で橋本さんに怒られたくないですよ（笑）。

ミワ 永田さんはそういうことは……？

永田 ありませんよ！（敬礼ポーズをしながらキッパリと）。プレゼントはよくいただいてましたけど。ただファンの方に逆恨みみたいなひどい目に遭ったことはありましたね。

ミワ ど、どんなひどい目ですか？

GK たしか自宅の鍵穴という鍵穴にぜ～んぶセメダイン塗られてたんだよね？

ミワ こっ、怖いっ！

永田 部屋の入口で発見して、これはマズいと思って警察に行こうとしたら、車の鍵穴もセメダイン塗られてて、チャリンコの鍵穴まで塗られてた（笑）。ただ車のうしろのトランクの鍵穴はセーフだったんでそこから車には入れたんだけど。修理に30万円以上かかりましたよ！

GK ま、そういうことを経て、レスラーも名前が売れたら気をつけなきゃいけないと勉強するわけ。

永田 それも勉強ですよね……（テレビのCMを見て）あ、○○さんがスクワットやってる！

——○○○さんのスクワットは、ジャイアント馬場直伝らしいです。

小林邦昭 （ボソっと）この○○○ってさ……噂では昔、力道山が〝首投げ〟したらしいよ。

永田 凄い情報、知ってますねえ！

GK ミワちゃんは〝首投げ〟ってプロレス業界用語は知ってる？

ミワ 首投げ？ ……わかんないです。（永田先生に）首投げってなんですか？

永田 えっ？（ニヤリとしながら）。本当に聞きたい？ というか首投げされてみたい？

ミワ えっ？（不安な表情で）。永田先生は、首投げは得意ですか？

永田 首投げ？ 嫌いじゃないですよ!! 「好きこそものの上手なれ」といいますしね（笑）。

GK ガハハハハ！ 〝首投げ〟の意味は、来月の宿題です！

ミワ ……な、なんとなくわかってきました!!

「被っちゃっていいんだね？」とGK帽を意欲的に被ってくれた永田先生と記念撮影！ "ナガタロック"（のロックはロックンロールのロック）の新作Tシャツとの相性も最高！

これが小鉄の裏技だ!!

小鉄 結婚すんの？
ミワ いや。結婚はわからないです……。
小鉄 これがわかんないんだよね！ いまの若い人は。恋人はいても結婚するかわからない。俺らは古いかもしれないけど、好きになったらとにかく結婚。俺なんか43年間、手をつないで寝てっから！
ミワ わ～。素敵じゃないですか！
小鉄 だって愛しいじゃない？ せっかく好きになった女を離してたまるもんかって。歳を取れば取るほど愛しさを増してきたしかわいくてしょうがない。結婚ってそういうもんさ。できるか？
ミワ ぜひ、したいです！
小鉄 いや、無理だろうな！（キッパリ）。
ミワ なんでですか！
小鉄 いまの若い人は絶対に無理だよ！ だってアナタはちゃんと男を立てるようなことしてる？ 俺は、嫁さんと一緒に歩いてても、絶対に車道の側に嫁さんを歩かせないよ！ 生ゴミも俺が出すしね。
ミワ 小鉄さんが生ゴミを？
小鉄 そういう一歩下がって、彼氏を思うことが大事よ。同等でもいいけど男性は女性にかわいらしさ、優しさを求める。でもアナタが優しくないと相手に優しさは伝わらないよ。どう、勉強になった？
ミワ はい。ありがとうございました！
小鉄 じゃ、授業料！

［金沢先生 今月の通信簿］

たいへんよくできました

金沢先生のコメント

実地見学のつもりが、体験入門になってしまい、こりゃ嬉しい誤算。もう、ノレンに腕押し状態になりかけていた、落ちこぼれ寸前の生徒にとって、これ以上の授業はなかったろうね。ミワちゃんの目からウロコがぼっとんぼっとんと落ちていく様が先生にはよく見えたよ。ボディスラム一つをとっても、これだけ奥が深いわけだから。特別講師の永田先生、鬼軍曹の小鉄さん、ありがとう！ やっとこの子にも明るい未来が見えてきました……ウウッ（むせび泣き）。大盤振る舞いの「たいへんよくできました」とあげちゃうよぉ！

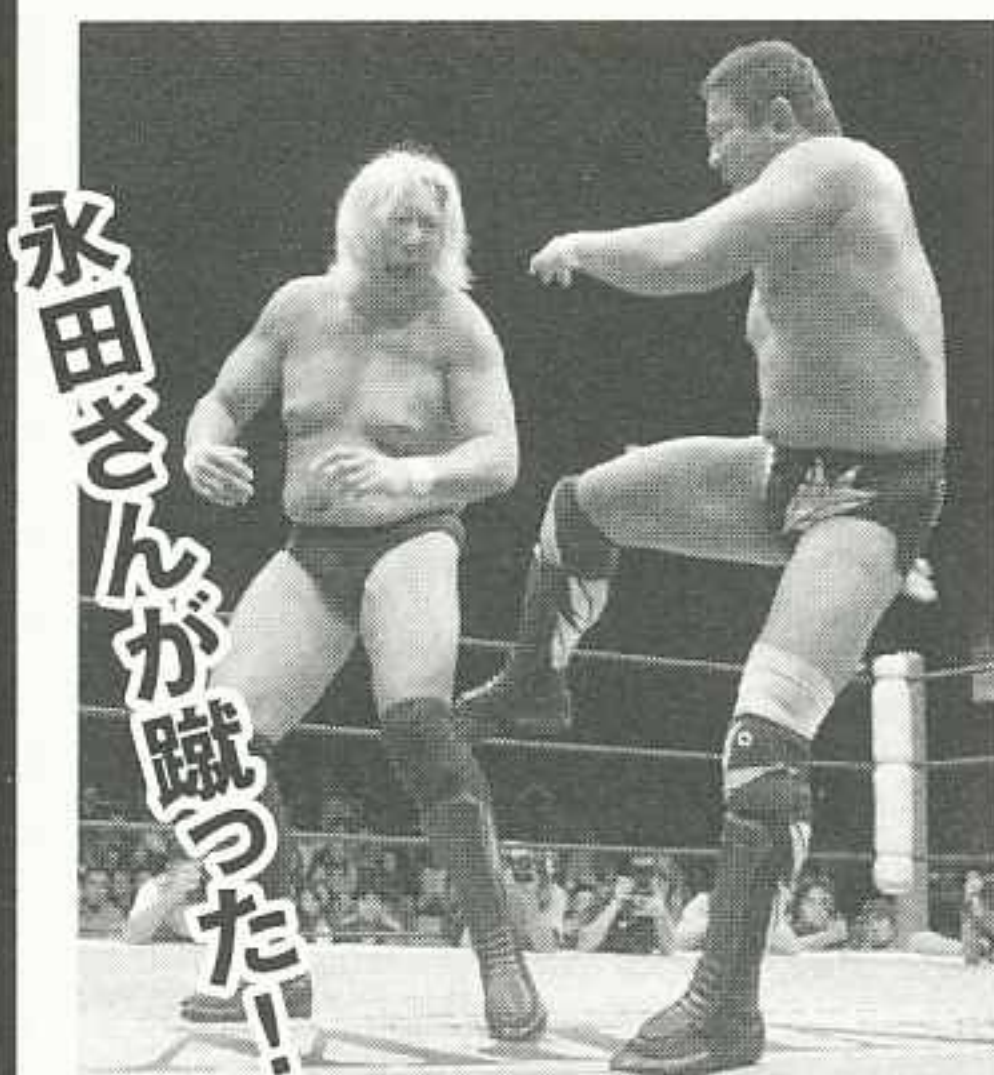
松下ミワのコメント

た、た、たいへんよくできましたあ!? ありがとうございます、先生！ ナガタロックをかけられた甲斐がありました!! それにしても永田先生の必殺技はもう絶対に脱出できません。あんなもんガッチリ極まったらミルコやヒョードルだってイチコロですよっ!! それに、あの小鉄先生。怖すぎます！ しかし、こういう厳しい先生がいてレスラーは強くなるのだと勉強させられました。そして私が最も感動したのは、金沢先生。道場での練習にまったくついていけなかった私にとって、先生のプッシュアップが何より素晴らしく見えました!!

新日本プロレス
『EXPLOSION～爆発～』
10月9日／東京・両国国技館

構成／辻ちゃん　撮影／丸山剛史
design by さおとめの事務所

新日道場で培ったエナジーが解き放たれる……

永田さん ここに在り!!

永田さんが蹴った!

デェェェ～～～イッ!!　永田さんの右ローキックが唸りを上げる。その破壊力は高山のナイスな表情からも察することができよう。

永田さんが受けた!

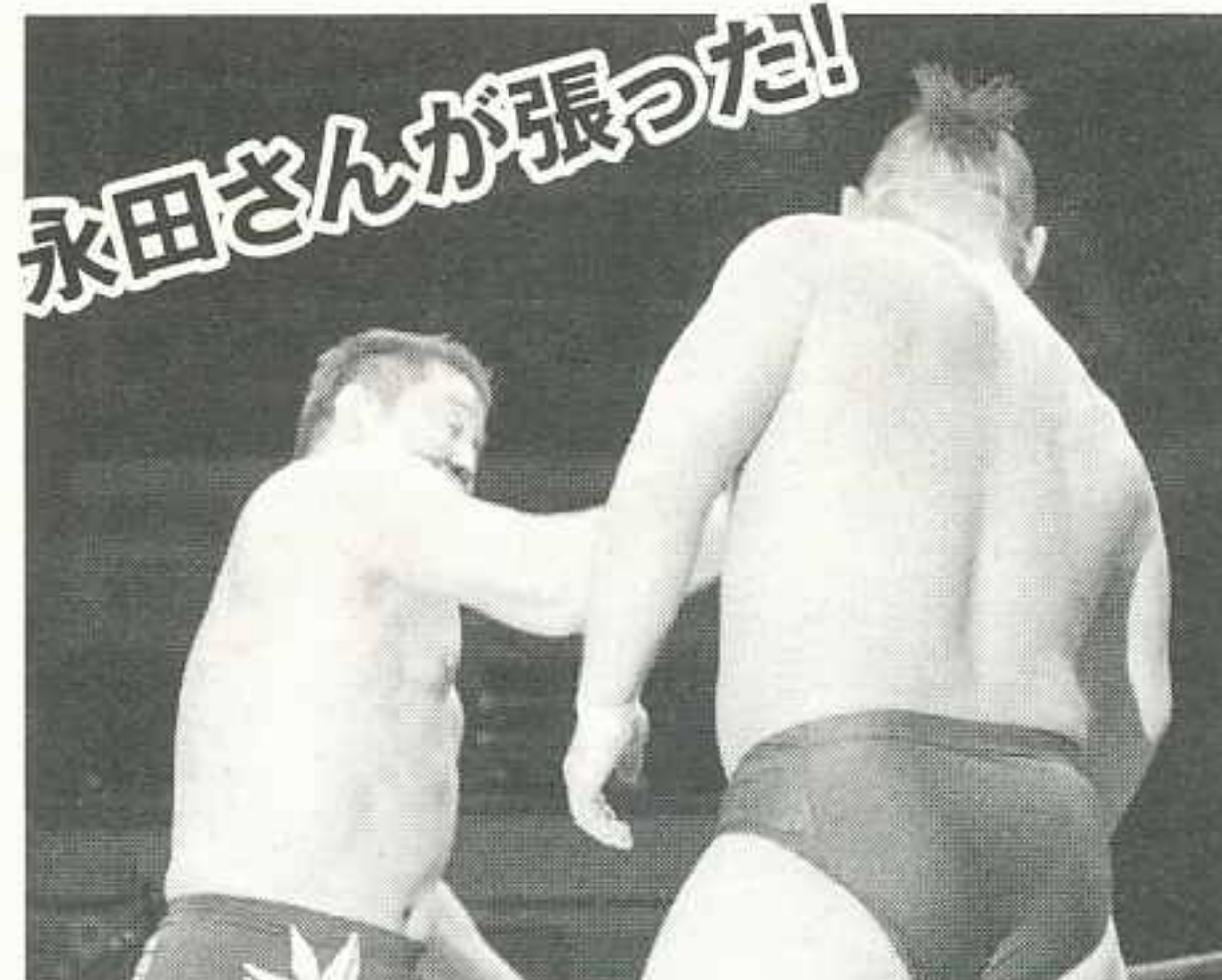
さっきの右ローのお返しか？　高山の重いキックが永田さんを襲う！　だが心配するなかれ。永田さんは見事な受けっぷりで耐えてみせた。

パートナーに山本尚史を従え、高山善廣＆鈴木みのる組とのタッグマッチに臨んだ永田さん。結果は山本が高山の原爆固めに敗れたものの、随所でいい動きを見せ、観客を沸かせた永田さんはさすがだった。敬礼もバッチリ!

永田さんが飛んだ!

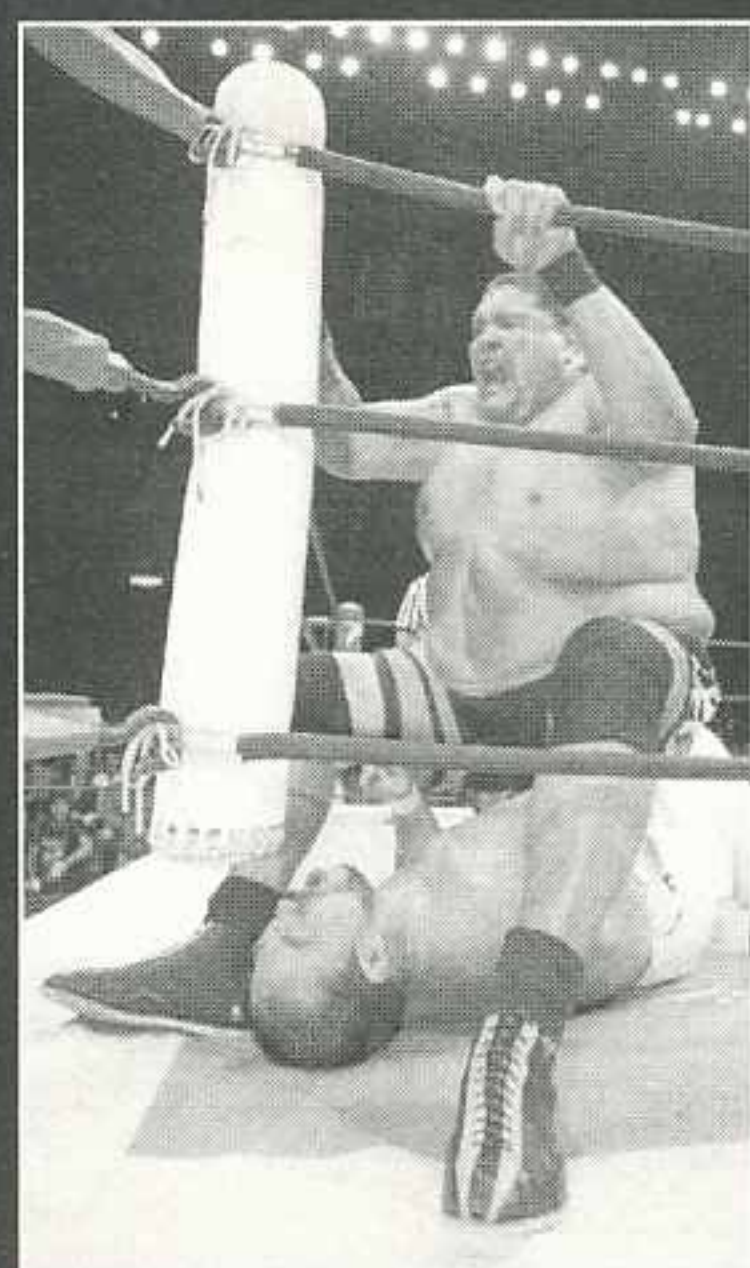
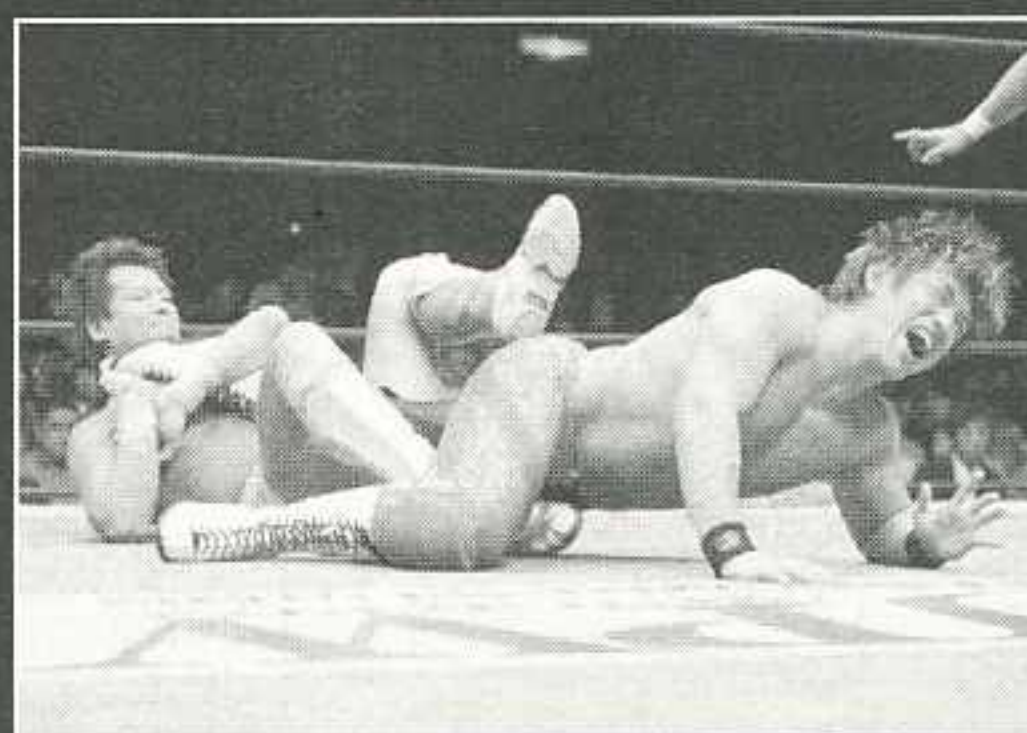
もう一丁、デェェェ～～～イッ!!　高山の意表を突き、低空ドロップキックを披露した永田さん。こういった意外性も永田さんのたまらない魅力の一つだ。

永田さんが投げた!

大男もなんのその、エクスプロイダーで豪快に投げる永田さん。これも自身が運営するリラクゼーション施設『enishing』で心身ともに充実している証拠。

永田さんが張った!

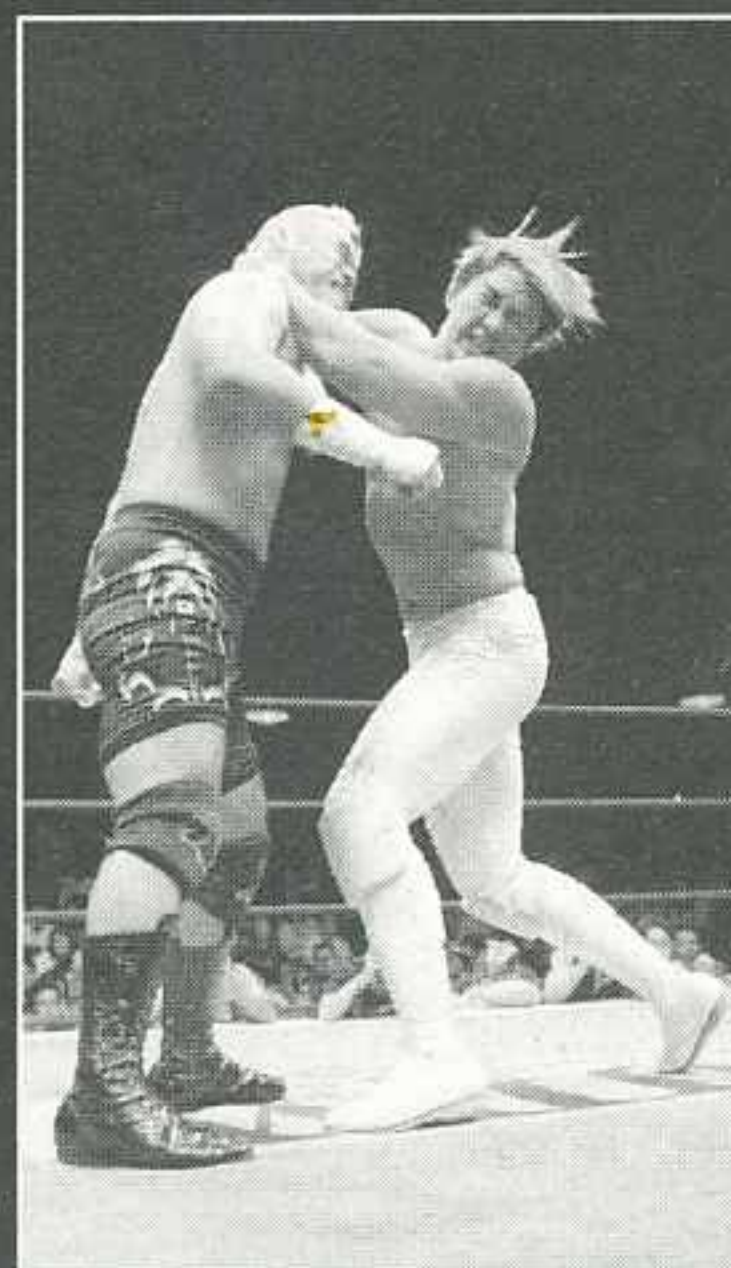
鈴木みのるとビンタ合戦！　むこうがそう来るなら、こっちだって退くわけにはいかない。意地の張り合いでも永田さんは負けないぞ！

タイトルマッチからサムライvs横綱対決まで盛りだくさん！ 10.9両国ハイライト

曙と越中のケツ対決に注目が集まったタッグマッチ。「200kg超えるヤツに乗られたらどうしようもないって！」というエッチューさんの叫びが聞こえてきそうなひとコマだ。でも、試合は真壁が飯塚を丸め込み、越中組が勝ってます。

蝶野と電撃合体した中邑真輔が長州＆中西組と凱旋試合。中西を持ち上げるという、肉体改造の成果を見せた中邑は、新技・ランドスライドで長州を仕留めてみせた。次はサイモン社長に決める日も近い!?

『WRESTLE　LAND』で存在感を遺憾なく発揮する田中の友人・稔がIWGPジュニアヘビー級王者・金本浩二に挑戦。「新王者の俺についてこーい！」という結果にはならず、金本のアンクルホールドにギブしちゃいました。

ハイフライ・フローで天山から3カウントを奪い、初防衛を果たした棚橋。一方、敗れた天山は越中、真壁と新ユニットG・B・Hを結成し、早くも巻き返しを図っている。いかにもゴリゴリの男たちから支持されそうなメンツだ。

今月のGENOME

ウソ!? 11・24韓国で『INOKI GENOME』開催ィ？

※今月のGENOMEイメージモデル
サイモン・ケリー猪木さん
（新日本プロレス社長）

蝶野正洋との黒い抗争はどうなるのか（無表情で）。とってもゴキゲンなサイモン社長のTシャツ『I AM PRESIDENT』が堂々発売中だ！ GENOME信者は買うしかない、着るしかない、机に上がるしかないよ!!

元気があれば机にも上がれる!!

ウソだと言ってくれ！ 『INOKI GENOME』がなぜか韓国で開催だよ！

11月24日、アントンが名誉総裁を務める韓国の総合格闘技団体WXF主催の興行に、なんと『GENOME』の看板を被せて行なわれることになってしまった。

う～ん。異国の地での開催は、ダイレクトにそのゲノムっぷりが味わえない恐れが出てきた。そのうえ、あくまでWXF主導の興行。全国711人の"破綻興行マニア"が満足できるゲノムは注入できるどうか不安は高まるばかり。ちなみに711人という数字は、熱海市長選での快守氏の投票数に由来（？）しているのです。

とりあえず、"破綻興行マニア"からすれば待望の『GENOME』実現となるが、しかし、時に夢の実現は、つまらない現実を見せつけてしまうことも多い。

たとえば、アントンが手掛けるエネルギーいらずの発明、永久電機。日本代表はDENKIとHARUKI！ という感じで、村上春樹とともにノーベル賞受賞の期待を浴びていた"世紀の大発明"だが（動けばの話だが！）、一時は「闘魂パワー」という単なる効率の良いモーターの事業化に納まってしまった。

そんなの、なんてつまらないことか。妥協して安全地帯に着地するなら、まったく見当違いの場所に落下してボロボロになったほうがおもしろい。韓国開催の『GENOME』は、大きな渦を起こすことなく"普通の興行"として終わってしまう気配にも満ちている。延期に延期を重ねて、いい塩梅に熟成されたゲノムな"ダメ"を簡単に放出してしまうなんて、絶対に許されないのである。

そんな『GENOME』の大ピンチに、我々"破綻系興行マニア"ができることは、永久電機に無謀な投資をすることではない。WXF大会を『GENOME』として断固、認めないことだ！ というわけで、いかに韓国大会が『GENOME』ではないことを検証してみよう。締め切りをとっく超えているのに、ほかにやることは山ほどあるような気がするが、あくまで気のせいにして話を進める。

検証その1。前売りの段階でアントンいわく「完売した！」という38万円リングサイドチケット購入者の行方！ いまのところ主催者サイドからは、チケット料金詳細についてなんのアナウンスもない。それなのに、なんのトラブルも表面化してないところを見ると、購入者なんていないのかなあ……いや！ それでも38万円リングサイドチケットがなければ、『GENOME』じゃないんだよ！

検証・その2。WXFサイドは、『GENOME』としての行なう認識はあるのか？ 偶然にも本誌は、韓国連載コラム『インサイド・コリア』にて、WXF主催者のリー・ガクスー館長を独占取材に成功。『GENOME』開催はその取材終了後に発表されたので、詳しいことは確認できなかったが、ライターの大川"隊長"義之氏を通じてあらためてリー館長に確認を取ったところ、なんと「猪木vsアリ30周年記念イベントとしては聞いているが、『GENOME』なんて知らないよ」と衝撃発言！ 日本から公式観戦ツアーも実施されることから、まず間違いなく『GENOME』として行なわれるはずだが、いまになっても大会概要は何も発表されていない。……ヤ、ヤベエ!! ゲノム度が臨界点を突破しそうだ！

こうなったら宇宙一『GENOME』にうるさい本誌は、実際にちゃんと行なわれるかどうかを確認するためだけに韓国へ行ってきま～す！（ただし、その時期におもしろいテレビ番組とかがなかったら）。みんなも韓国に集合ダー！

（ジャン斉藤）

あなたも歴史の目撃者になろう!!
韓国『INOKI GENOME』観戦ツアー

11月23日（木）～11月25日（土）の二泊三日。旅行費用概算＝69,000円。代金には往復航空券（エコミノークラス）、送迎バス代（空港－ホテル間）、ホテル代（2～3名1室）、観戦チケット代が含まれる。一人部屋利用追加代金＝20,000円です。最少催行人員2名様なので、ゲノだちを誘ってツアーを是が非でも催行させよう！ お問い合わせは日通旅行 TEL.03-6251-6356 担当＝関嘉則まで！

アントニオ猪木プロデュースの居酒屋「アントニオ猪木酒場池袋店」が10月25日（水）17:00よりオープン！

アントンやプロレス技の名前をあしらったメニューが並び、店内には巨大なリングがセット。オープン時は混雑が予想されるが、くれぐれもリングに乱入して"百八つビンタ騒動"を再現しないように！ ルールを守って飲め～～っ!! 住所:東京都豊島区東池袋1－41－4池袋東急ビル4F TEL.03-3590-4027 営業時間17時～翌5時 定休日はなしだ、コノヤロー!!

インサイドコリア
인사이드 코리아

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第8回

FMWから『イノキ・ゲノム』まで！ リー・ガクスーの数奇な半生

文／大川"隊長"義之

熱心なプロレスファンならリー・ガクスーという名前を知っているだろう。リー・ガクスーは90年代初頭にFMWで活躍したテコンドー・ファイターだ。彼は現在、韓国で自らの道場を経営し、合気道、テコンドー、特攻武術など、さまざまな武術協会の役員を務めつつも、『WXF 世界総合格闘技連盟』という総合格闘技大会を毎年開催するプロモーターでもある。今回は、そのリー・ガクスー館長の半生を紹介したい。

■異種格闘技ライトヘビー級王者？

リー・ガクスーの絶頂期であった80年代後半から90年代中盤は、韓国ではボクシング全盛期。キックボクシングはまるで注目されず、プロレスは60年代以降人気が落ちていた。そのためリー館長が現役のとき、彼の報道はほとんど韓国で伝えられなかった。したがって**多くの韓国人はリー・ガクスーが何者かを知らない。**

03年8月9日の『文化日報』に掲載されたリー・ガクスーの特集記事によると

サンボ浅子、荒井昌一氏の二名が亡くなったことを聞かされて、彼は言葉を失なった

「世界異種格闘技連盟（WKF）の事務総長であると同時に異種格闘技の達人リー・ガクスー館長は、**日本における初期の格闘技大会『CMW』のヘビー級前王者である。**リー館長は、殴り蹴り投げ絞めなど、各種の武術を学んだファイターと闘い、6度のタイトルマッチを行なった達人中の達人である。通算戦績は**114戦112勝2敗。**勝ちはすべてKOやTKOだった」と記述されている。

また別の記事でも「私は異種格闘技ライトヘビー級世界チャンピオン。戦績は**116戦109勝7敗102KO**」と豪語した記事がそのまま掲載されているほどである。

格闘技大会『CMW』？　114戦112勝？……まるで**ヒクソン・グレイシー**並みのメディアコントロールである。これは本人に確認するしかない！　と思い、実際に会っておそるおそる『文化日報』の記事を見せながら、「この『CMW』って団体はなんですか？」と聞くと、「ああ、これは**アメリカのキックボクシングの団体**だな」とあっさり回答。……なかなか食えない人である（笑）。

■ガチで闘ったFMW時代

そんなリー館長は、幼い頃から、強さにあこがれ、テコンドー、合気道、剣道、柔道、ボクシング、キックボクシングなどさまざまな格闘技を学んだ。80年代中頃からキックボクサーとして、アメリカ、メキシコ、カザフスタンなどで活動しつつも、世界合気道連盟の事務局長を務め、日本などでも演舞活動や指導を続けていた。その後、旗揚げして間もないFMWに89年から参戦する。

「大仁田サンとは、彼が韓国に選手を探しに来たとき、知人に紹介されて会ったんだ。当時、俺は75キロぐらいしかなかったが、いろんな格闘技をやってきたからFMWでもやっていく自信はあった。プロレスには受け身が大事だというが、俺も柔道や合気道をやっていたので受け身もよく知っていたしね。大仁田サンは、非常な努力家だったよ。二大メジャー団体（新日本プロレス、全日本プロレス）があって早く成長しなければならないなかで、いろいろなアイデアを出して常に努力していたね。いまや国会議員だっていうんだから、たいしたもんだよ」

しかし日本語を話せないリー館長は、あまりFMWの選手と親しくなかったようで、練習もFMWの選手とは別に京都にある知人の空手道場で行ない、移動も選手用のバスではなく別の車で移動していたという。事実、**サンボ浅子、荒井昌一社長**の二名が亡くなったことも彼は知らなかったのである。

「何だって？　アサコが死んだって？　なぜだ？　糖尿病？……そうなのか。彼との試合はいつもガンガンやり合って楽しかったし、いい人だったのに……」と言ってしばし絶句。続けて荒井元社長が借金苦で自殺されたことを伝えると、さらに言葉を失ない「……**あの二人が亡くなったなんて、本当に胸が痛いよ……**」と悲痛な表情を隠そうとしなかった。

亡くなったサンボ浅子とリー・ガクスーの試合は、**FMW版名勝負数え唄**として、いまでもファンのあいだで評価が高いが、

本人としては日本で**プロレスをやるつもり**

の。彼とも試合をやりたかったんだが、や

本人としては日本で**プロレスをやるつもりはなかった**のだという。

「FMWは当時、二つのスタイルがあっただろ？　プロレスと格闘技路線な。最初、**俺は格闘技しかやらないという条件**でFMWのリングに上がったんだが、次第に格闘技路線の試合は減ってきて、俺にプロレスの試合をやらせようとしてきた。それで嫌気がさしちまったんだな。昔から俺は『PRIDE』みたいな試合が好きだったから、FMWの上層部に『他流派の空手家を呼んで試合をさせてくれ』と頼んだりもしたが、聞いてくれなかった。あと、ウエダって選手（上田勝次）がいただろ？　キックの。彼とも試合をやりたかったんだが、やらせてくれなかった。彼とやってたら壮絶な試合になってただろうな（ニヤリ）。当時から俺には韓国に大きな道場があって道場生がいっぱいいたから、経済的にはまったく困っていなかった。だから金のために日本でプロレスを続けようというつもりはなかったんだ」

いまだ幻想を大切にするからか、リー館長はアメリカや日本でカミングアウトされる〝プロレスの仕組み〟についてはまったく触れず、**FMWでもガチで通したと思わせる発言**が続いた。

初期FMWのリングでサンボ浅子と名勝負を繰り広げていたリー館長。90年代プロレスファンにとっては懐かしい顔だが、今後は『イノキ・ゲノム』の要注意関係者として脚光を浴びそう。それにしても、現役時代とはだいぶ顔つきが変わってしまっている。

■300対1の大喧嘩！

リー館長には、リング外での武勇伝も事欠かず、前記の『文化日報』では、釜山で**16対1の喧嘩**をしたことが報道されていた。その話を振ると不意に彼は「**……アンタ、喧嘩やったことあるか？**」と聞いてきた。

僕も小さい頃、ろ喧嘩をしたことはあったが、リー館長の言う「喧嘩」はそんな程度の意味でないことは明らかだった。

「俺がいままでやった喧嘩のなかで一番派手なやつは、ベトナムでの喧嘩だな。99年に**ビジネスでベトナムに行った**ときのことだ。そのとき同行していた現在の某新聞社の局長とナイトクラブで楽しく飲んでたら、店の人間と揉めちゃってね。すぐに店中の用心棒みたいなのが群がってきたが、

アントニオ猪木と手を組んだリー館長は なんと北朝鮮興行開催を検討している

一歩も引かずにこっちもワーッて怒鳴ってやったら、次々に俺につかみかかってきやがった。あれは少なくとも**300人はいたな**。さすがにこれはヤバイなと思って、下の階から上がってくるベトナム人を**スパルタンX**みたいにバキバキ蹴落として降りようとしたんだが、数が多すぎてラチがあかない。次第に相手は俺を遠巻きに取り囲むようになっていった。大事になることを避けようとしたのか、店主が非常口を教えてくれたので、やっと逃げることができたんだ」

つい気になったので、どうしてこんな大騒ぎになったかを本人に聞くと、「いやあ、恥ずかしながら女の子のことで揉めてしまったんだな！　ワハハハ！　……そういえば、FMWの**工藤めぐみ**は元気にしてるかい？　**彼女には会いたいなあ……**」とのんきに言い放つリー館長。やはり英雄は色を好むのか？（笑）。

■韓国における『異種格闘技の父』リー・ガクスー

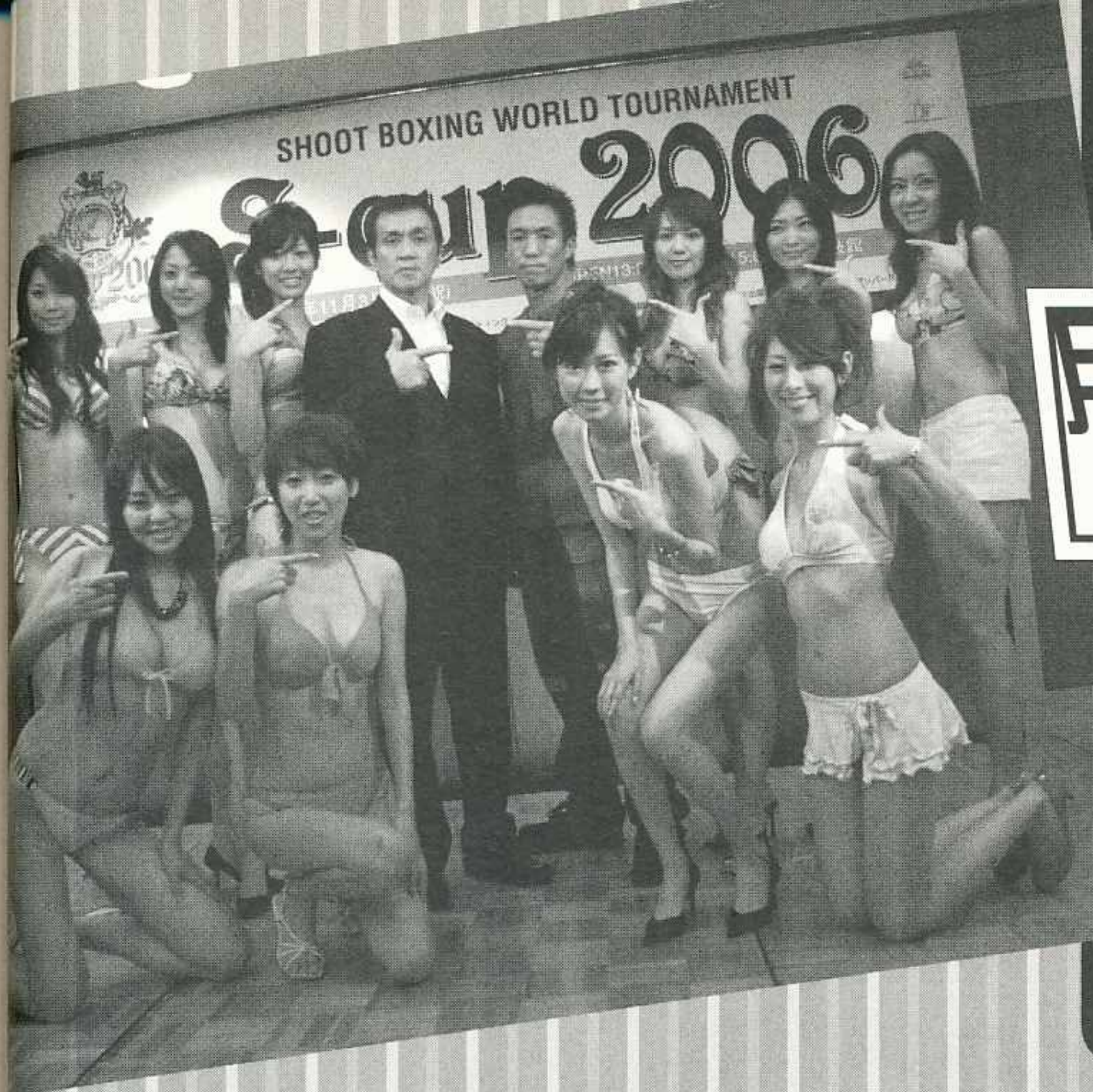
FMWを離れたあとも、リー館長はファイターとしての活動を続け、99年にメキシコでキックボクシングの試合をしたのを最後に引退する。現在はWXF（前身はWKF）の代表を務めている。WXFは03年から存在する総合格闘技団体だが、彼が格闘技イベントを始めたのはそのときが初めてではないらしい。

「FMWを辞めたあと、俺は韓国で『世界異種格闘技大会』という誰もやったことのない格闘技の大会を始めたんだ。『PRIDE』と同じルールでな。『暴力的だ』と言われて放送されなかったが、K－1人気もあって、97年にやっとテレビ放送もされるようになったんだ。**だから韓国で『異種格闘技』を始めたのは、俺なんだよ**」。

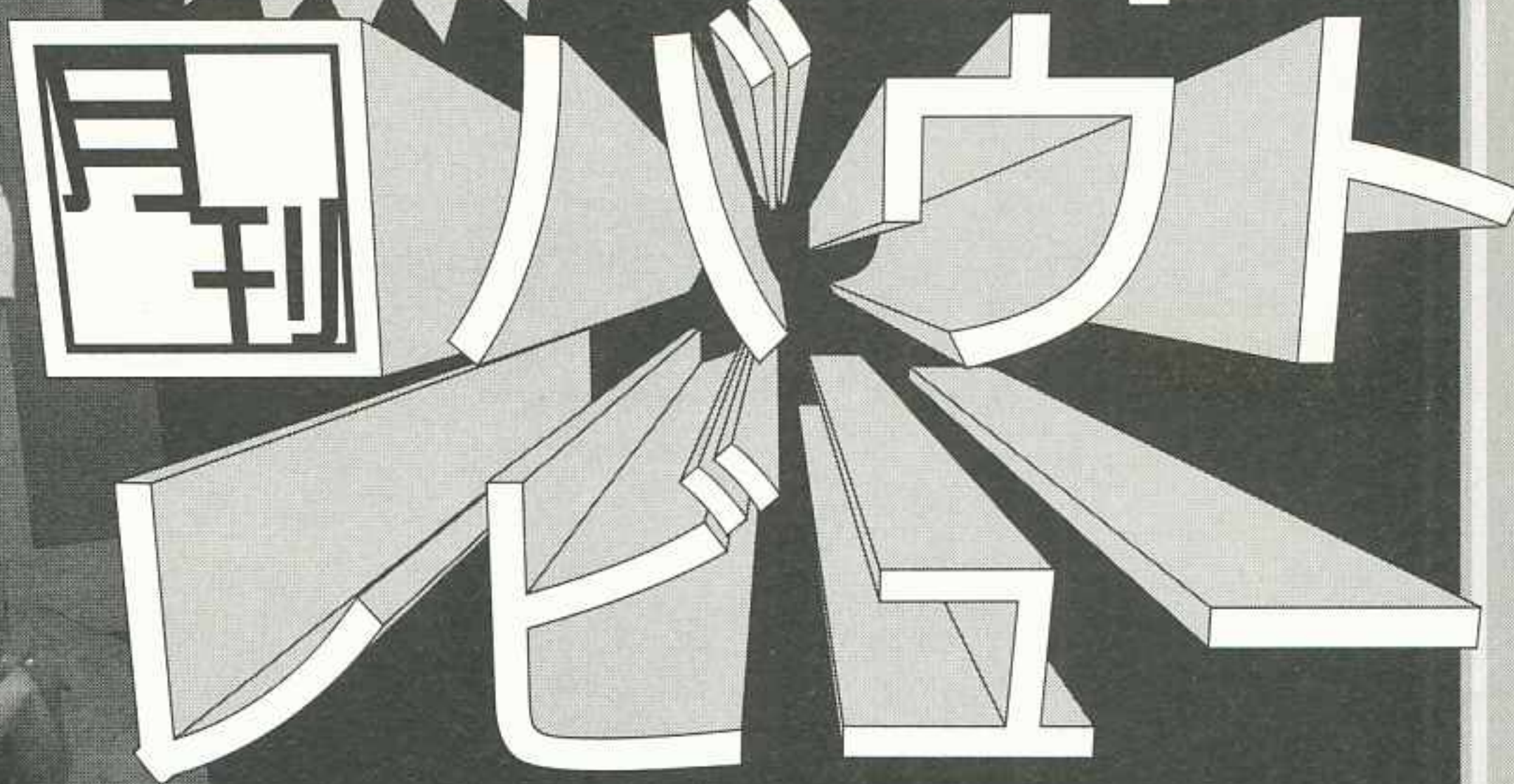
ちなみにこのWXFの名誉総裁に就任しているのは日本で「異種格闘技」を始めたアントニオ猪木氏その人である。

韓国で「異種格闘技」を定着させたリー・ガクスーと猪木の邂逅は、運命づけられていたものかもしれない。そういえば、**常に話の規模が大きくなってしまうのは猪木氏とも相通ずるものがある**ような……。

この猪木&リー館長が組んだ夢のイベントWXFは、今年も11月下旬に世界中から未知の強豪を集めて、昼夜興行を行なう予定というので要チェック！　**来年以降には北朝鮮での大会開催も検討している**という……。

韓国出身。"テコンドーの達人"として、初期FMWのリングで活躍し、現在は『WXF　世界総合格闘技連盟』主宰者として活動中。リー館長と手を組んでいるアントンいわく、11月24日の同大会は『イノキ・ゲノム』として行なわれるらしいが……。

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro

復活!! 月刊バウトレビュー

古くはRADICALのNo.6から始まり、何度もタイトルを変え、まったく続かなかった観戦記。なぜかいまごろ、3年9ヵ月ぶりにカムバック！ 写真はシーザー会長、緒形選手とS-cupガールズに選ばれた10名です。

9/30 大阪・大阪城ホール

K-1 WORLD GP 2006 in大阪 〜開幕戦〜

K-1

TOPICS

★この試合が気になった！
ルスラン・カラエフ vs バダ・ハリ
セーム・シュルト vs ビヨン・ブレギー
ジェロム・レ・バンナ vs チェ・ホンマン

K―1の"見方"をいまこそちゃんと考えたい

難しいんである、いまのK―1について書くのは。選手の心情とか試合で何があったのかを伝える"レポート"ならいいんだが、ライターに求められるのはそれだけじゃないと筆者は思うので。"状況"も見据えながら論評するとなると、難しくなってしまうのだ。

結局、いまのK―1の難しさは"上が詰まってる"ってことに尽きるんだと思う。なんだかんだでバンナやホーストがメインどころにきてしまう。シュルトなんて去年の優勝者なのに第4試合だ。興行的、テレビ的なことを考えたら、そうなってしまうんだろう。新世代の選手が実力面でも存在感でも旧世代を完璧に駆逐してしまえば、それが一番健康的でスッキリするのだが、それが簡単にはいかないんで……やはり難しい。

ただ、それでもこれからのK―1に関してはシュルトの圧倒的な強さやルスランの持っている可能性、バダ・ハリのキャラに注目していきたいと思う。K―1でいま、最も充実した試合を見せているのは彼らなわけだから。で、この新世代のファイターと一般層の架け橋になる存在として重要なのが"数字を持ってる"チェ・ホンマンだ。ただ、この日のホンマンは技術を覚えたぶん、これまでの破天荒さが薄まり、微妙な過渡期にきている感じがした。ボブ・サップのようになってしまうのか、それともさらに化けるのか。ここが正念場だ。

……というような話を、自分だけじゃなくて『kami-pro』でもしっかりやっちゃどうか。K―1についてちゃんと考えてみない？ そんな提案を編集部でしたところ、ある人に「ボクの考える"これぞK―1"って、武蔵vsモンターニャ・シウバだったりするんですよねぇ」と言われてしまった。んあ〜！（橋本）

10/1 大阪・梅田ステラホール

PANCRASE 2006 BLOW TOUR

パンクラス

TOPICS

★この試合が気になった！
近藤有己 vs ジョン・フランソワ・レノグ

さまよえる近藤有己……さまよってる場合か！

この大会は、大阪勢を中心とした若手（もしくはノーランカー）の試合でセミまでが構成されていた。ということは、観客の満足度はメインの近藤vsレノグに、というより近藤の出来そのものに大きく左右されることになる。結果はドロー。満足にはほど遠い。レノグもなかなかの選手なのだが、その何倍も近藤に対するじれったさを感じてしまった。

バックステップを踏み、長い手足を活かしての打撃で遠い間合いを保つレノグ。いわゆるアウトボクシングである。この戦法に、近藤はまんまとひっかかってしまった。いくら圧力をかけてもパンチは当たらず、当たったとしても単発で……。

向かってこない選手を攻めあぐねるというのは、よくあるパターンである。キックでも総合でも、観客論をまったく無視した外国人選手に手こずるというのは珍しくない。でも、そんな試合で苦しんだ経験を糧にしていいのは若手や中堅、せいぜいトップクラスに入りたての選手だろう。れっきとしたメインイベンターが、80戦近いキャリアを持つ選手がそんなことでどうする。

試合後の近藤は「勉強になった」とコメント。だが、いまのパンクラスはエースにゆっくり勉強させている余裕などないのである。アウトボクサーとの闘いに近藤が慣れていなかったとしたら、マッチメイクの手腕にも疑問を抱かなければいけない。

近藤は、何歳になっても成長を続けるタイプの選手だと思う。でもそれは"いつまでも待ってるよ"ということではない。近藤をよく知る筆者の知人は「今度あいつに説教しなきゃ」と言っていた。何を偉そうに、と言うなかれ。みんな近藤にはなんとかしてほしいと、どうにかモノになってほしいと心の底から思っているのである。ホンット頼む。頼むよ近藤！（橋本）

10/3
東京・浅草ビューホテル4F「駒形の間」

S-cupガールズ・オーディション

シュートボクシング

TOPICS

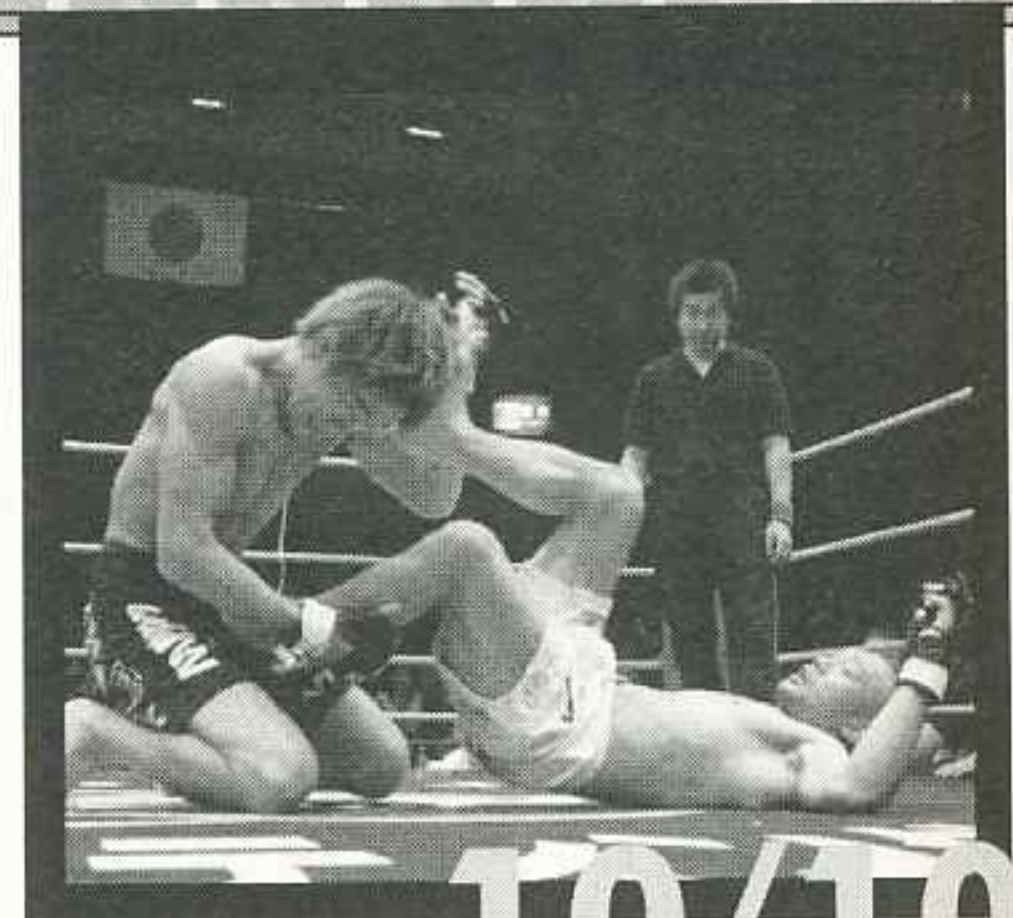
★本日のトピックス
1位＝佐藤かおりちゃん(P.114の集合写真、前列左から一番目)
※本誌チョロ相手に譲りも披露!
そのアピール力と愛くるしい笑顔＆巨乳は最高。
2位＝満足げな辻ちゃん
※辻ちゃんが撮った写真をチェックすると、佐藤かおりちゃんばかりでした。
3位＝貫禄たっぷりの橋本宗洋氏
※鋭い質問を飛ばしていた橋本さん。けっこう写真も撮ってましたYO!

秋の両国を彩る女たち……おまえが審査するのかよ!?

前田日明が金子賢に対し会見で初激怒した10月3日の夕方、ボクの携帯が鳴った。見ると「三谷翼」と出ている。彼は元リングスの社員で、現在はシュートボクシング（以下・SB）の広報だ。「チョロさん、今日の夜、S－cupガールズのオーディションがあるんですけど来ません?」と三谷さん。SBの取材にはほとんど行っていないが、オーディションとなれば話は別だ。ボクは他の取材が入っていたにもかかわらず「行きます!」と即答していた。

ちなみに、このオーディションは各媒体1名がシーザー武志会長とともに審査員として加わり、S－cupガールズなるラウンドガールを選ぶというもの。『kamipro』からは、練習生の“辻ちゃん”を送り込むことになっていた。辻ちゃんは自称25歳とのことだが、どう見ても30代後半、メガネで毛深く、後ろ髪は異様に長いという、いかにもプロレスマニアらしい男だ。そんな男がラウンドガールの審査員をするという絵が撮れたらおもしろいなぁぐらいの軽い気持ちで取材を任せたのだった。

いつもは「うぃ～す」ぐらいしか言わず口数の少ない辻ちゃんだが、この日は似合わないスーツの上着を着て登場。「ラウンドガールだったらNJKFがいいッスね」とマニアックな自己アピール。いざオーディションが始まると、水着ギャルに積極的に質問を飛ばしていた辻ちゃんに「S－cupガールズだから、みんなに何カップあるか聞いてよ」とアドバイスを送ると、「そんなサムい質問できないッスよ」と口答えしてきやがった。日明兄さんばりに「俺が現役だったら半殺し」と一瞬殺意を覚えたものの、むさ苦しい辻ちゃんの顔を見てもしゃあないなと思い、振り上げた拳を降ろしましたとさ。おしまい。

（チョロ）

10/10
東京・後楽園ホール

DEEP 26 IMPACT

DEEP

TOPICS

★突如、中尾受太郎包囲網!
尻に火をつけたのはこの3人!
1位 長谷川秀彦
※佐伯代表も12月の王座挑戦を公言。
2位 ファブリシオ・“ピットブル”・モンテイロ
※直接勝利も王座戦はお預け。
3位 キム・ドンヒョン
※佐伯氏「アレはヤバイ!」。

激しかった今成vs山崎の闘い それを陰で仕掛けたのは……

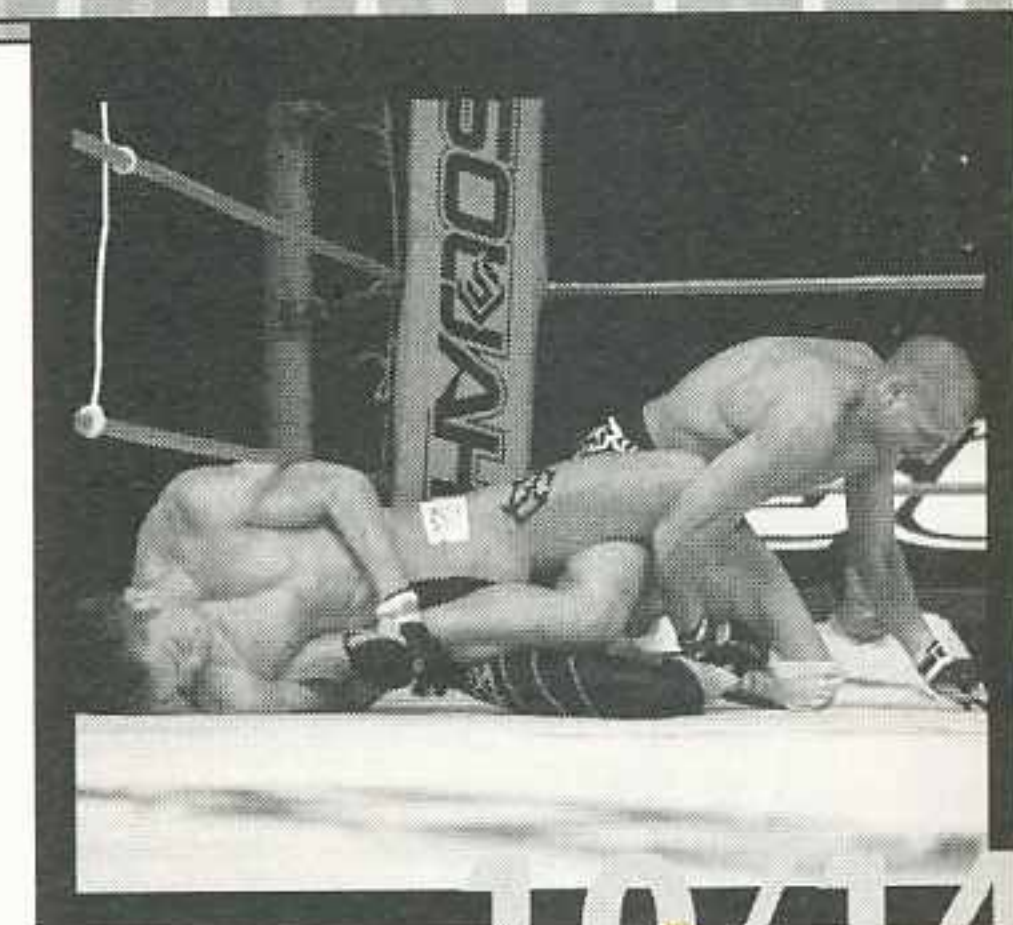
メインのタイトルマッチに出場した王者・今成正和、挑戦者・山崎剛はどちらも関節技を得意とするグラップラー。しかも山崎は「どうしてもベルトがほしい」と公言している。そうなると、試合はガチガチの膠着戦になりかねない。そこでこの人の登場だ。

「11試合の中のメインということを、もう一度考えて二人がどういう試合をするか楽しみ」

前日計量での、佐伯代表の言葉だ。山崎なんかDEEPではかなりの一本勝ち率を誇り、ここ3試合も一本勝ち二つに十字で相手の両腕を破壊しての判定勝ちとアグレッシブさでは心配ないはずなのに、このプレッシャー! 佐伯代表が勝っても負けても積極的な試合をする選手を評価することは有名だが、この試合についてはとくに両者に対してそれを望む発言が目立った。

それが効いたか、試合は打撃多めの展開に。とくに今成はガードになっても下からストレートを飛ばすし、猪木・アリ状態になっても下から蹴り上げにいくから、試合が止まらない。そして、フィニッシュは下からの蹴り上げで山崎が失神KOされるという、いままで見たこともないような展開に!

前半戦で一本・KO決着が相次いだこと、対照的に休憩明け、判定試合が続いたこと、そしてメインの試合内容を、すべて予想していたかのような反応だった、大会後の佐伯代表。いまや、日本の格闘技界に大会プロデューサー（プロモーター含む）は多数いるが、こと「興行をデザインする」という点では彼に優る人はいないのではないか? それだけに、DEEP系興行に出場している選手はみんなモチベーションが高い! 今大会も、陰のMVPは佐伯代表に決まり! なのだった。

（須羽）

10/14
神奈川・パシフィコ横浜国立大ホール

プロフェッショナル修斗公式戦

修斗

TOPICS

★試合以外で気になったこと
1位＝修斗協会から処分が解けた山本KID徳郁、来場
※プレス席近くから菊地の試合を観戦。雷暗暴と談笑する場面も。
2位＝川尻達也の試合後のコメント
※余裕のTKO勝利後、団体の枠を越え、J.Z.カルバンとの対戦をぶち上げた!
3位＝佐藤ルミナ、『格通』三次編集長の解説
※ちょっとテンション低い気が。もうちょっと明るくしやってほしいのDA。

もっと見たかった青木の足関 そしてBJの雄叫び

「修斗でも『PRIDE』でもやることは一緒。自分も楽しんで、お客さんに楽しんでもらえる試合をするだけ」

試合前の青木のコメントである。その充分すぎるプロ意識のせいか、8月の『PRIDE武士道』デビュー戦では、黄色いスパッツ姿で、我々の度肝を抜いてくれた。スパッツ＝エガちゃんというイメージが強いため、払拭の意味も込めて今回はコスチュームも新調! 色は赤&黒だったが、またしてもスパッツ。ある意味、これも衝撃的だった。

それはさておき、試合のほうだが、オーストラリア出身の柔術家、ジョージ・ソテロポロスを青木は1ラウンドから圧倒。執拗なまでに相手の右足を絞め上げていく。2ラウンドにソテロポロスのローキックが急所に入り、消化不良の反則勝ちを収めた青木だったが、「もしあのまま足関地獄が続いていたら……」と逆に幻想が高まったこともたしかだ。それにしても、グラウンドだけで観客を沸かせた姿はさすがだった。青木の次戦は11月5日、『PRIDE武士道』でのギルバート・メレンデス戦。DEEPウェルター級王者・帯谷を打撃で打ち負かした強豪を相手に、足関地獄の続きが見たい!

もう一つ印象に残った試合は、セミの世界バンタム級タイトルマッチ、マモル vs BJだった。開始早々、マモルのバックを奪ったBJは、強引にスリーパーで捕獲。わずか98秒で新王者となった。試合後、何度も絶叫するBJ。彼のバックグラウンドが見えない観客にも、この姿は強烈なインパクトだったはずだ。56キロ級のスピーディーな闘い、そしてBJの雄叫びという歓喜に、ボクは引き込まれてしまった。

（辻）

新 卓球少女(仮) 松下ミワの ハガキ愛ランド

サザエでございま～す！（ウソ）。ところで、皆さんは50回ぐらい同じことを繰り返し言ってみたりしたことがありますか？　私はありません。そういうのはちょっとへんかなと思うんですけど……、でもやってみます!!　せーの、掌底、掌底、掌底、掌底、掌底、掌底……、あっ！　ゴツン!!（急に鈍器で殴られる）。グフッ……。　というわけで始めます！　3、2、1、タラちゃん、タラちゃん、うー、反抗期!!（殺人）。

kamipro103号へのお便り紹介

虎ハンター壮絶人生・小林邦昭インタビューは素晴しかった!!　やっぱり我々はタイガーマスク世代ですから、とくにコバクニ、D・キッド、D・スミス、B・タイガー……。あの頃の新日Jr.が私たちをプロレス、格闘技に目覚めさせてくれたのです!!

【千葉県・大木憲博さん・会社員・36歳】

↓小林邦昭さんは、103号の人気企画ランキングのダントツ一位に君臨！　私が新日道場にお邪魔したとき、道場を案内してくださった永田さんにお聞きしたんですが、小林邦昭さんは、やっぱり新日道場でも一番のモテモテ選手だったそうです。さすが!!

今回は馳浩のインタビューが最高でした！　ボクはどう考えても馳さんはハッスルに出なあかんと思います。PTAも出てるわけやしね！

【大阪府・山内義久さん・アフリカ再上陸・37歳】

↓ハッスルに出るとしたら、やっぱり馳さんはニューリン様と〝ヤってみたい〟んでしょうか？　う～ん、TAJIRI＆金ちゃんと同じ匂いがする。ちなみに、馳さんインタビューに頻繁に出てきた「俺の関知するところじゃない」という投げっぱなしな言葉に私は個人的にしびれました。

ヒョードルのインタビューが一番よかった。表紙のヒョードルも素晴しかったです。それにしても、ジョシュが乱入のしかたが凄い！

【千葉県・井ノ口学さん・専門学生・23歳】

↓60億分の1の男に、お金の話で説教するジョシュは素晴しいですね。それに敬語で対応するヒョードルの礼儀正しさも非常にへんな感じがしますが。でも、やっぱりこういう懐の広い人が天下を取るんだろうなあ。

103号に載っていたヒョードルとジョシュのツーショット写真がとてもほしいです。それほど格闘ファンにとって、このツーショット写真は興奮しました！　それから、天龍さんのインタビューもずっと前から自分は『kamipro』に望んでいました。天龍さんのいま思ってるプロレス界がわかった気がしました。とてもおもしろかったです。

【名無し】

↓ハガキからはみ出す勢いでコメントを送ってくれて非常に嬉しいのですが、名前＆住所＆電話番号など、コメント以外のものがすべてはじき出されています！　ちょっと、興奮しすぎ!!　というわけで、次回は必ず必要項目を書いて送ってください～。

田村潔司×中村大介の対談を読んで、川本ちゃんの発言、ツボにはまりました（笑）。「昨日やったヤツだ！」「おまえから見て左だ！」なんて言われても、たぶん、というか間違いなく自分なら試合に集中できません。

【長野県・神吉保さん・34歳】

↓「おまえから見て左だ！」というのは、一見、左じゃないように思うんですけど、よく考えるとやっぱり左だってことなんですよね。いや～、日本語って難しいですね！

MARSの記事がおもしろかった。今後も見守りたい。

【山形県・佐藤博幸さん・アルバイト・25歳】

↓MARSの大会は、もうすでに来年の2月まで予定が決まっているそうですよ。しかし、いまのところ、私としてはMARS天野氏のCDデビューのほうが断然気になります！

「ゲノムは続くよどこまでも」がよかった。『kamipro』を読むまで猪木氏のことなどさっぱり興味がなかったので、永久電機のことも全然わかりませんでしたが、最近は私の周りに猪木氏のような人はいないので、ただ、凄い!!　普通じゃない!!と思い、楽しみにしています。ベネズエラ大統領には、電車内で読んでて笑わないように必死になりました。

【埼玉県・笠井のり子さん・会社員・34歳】

↓私もまったく同感です。猪木さんは「元気があればなんでもできる」の人だという印象でしたが、いまではすっかり電機の人だという感じです。しかし、電機に夢中の猪木さんを見ていると、カラーひよこに夢中の範朝さん（『王様のレストラン』より）と非常に重なる部分があると思っているのは私だけでしょうか。

103号のおもしろかった記事は谷川貞治インタビューです。さすが、編集者からイベントプロデューサーという華麗な転身を遂げた方はいろいろ考えてるなと思わされました。

【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

↓もっと時間があればハンカチのことも聞けたんですけどねえ。残念！　前田日明と同じく、谷川さんも『オーラの泉』で鑑定してもらってほしいなあ。そして、谷川さんにも「やっぱりそうでしたか～。んあ～」と言ってほしい！

最近注目している選手と言われれば、やはりそれはモンスター大将・天龍でしょう。ハッスルはプロレスじゃない！　などと言ってたヤツらの鼻を明かしてモンスター軍入り。『ハッスル1』から見てきた私からすると、凄く嬉しかったですね！

【東京都・津田裕章さん・教師・37歳】

↓高田総統→モンスターK・川田利明というように、モンスター軍のレスラーはどんどん違う方向で才能が爆発している感じがしますが、もしかしたら次に壊れるのはモンスター大将なのか？　大将もモンスターKのようにニューリン様とM十字架マッチを闘う日が来るのかと思うと、……う～ん、それは見たい!!

天山と金原の対談がよかった。この二人に接点があったのかというくらい異次元な対談だと思いました。さすが『kamipro』。G1を制覇した天山に負けないよう、金原にもがんばってほしい。でも、次の試合がMARSだというのは不安……。

【広島県・匿名希望・会社員・28歳】

↓G1制覇したものの、天山選手、残念！　IWGPタイトルマッチでは棚橋選手に敗れてしまいましたねえ。このモヤモヤは、ぜひ金ちゃんに晴らしてもらいたいところです。もちろん、MARSで、ですけどね！

103号・おもしろかった記事ランキング

1位 小林邦昭インタビュー
2位 天龍源一郎インタビュー
3位 ヒョードルインタビュー
4位 ミルコ代理人・今井氏インタビュー
5位 馳浩インタビュー

103号のランキングはなんとも渋い！　小林邦昭、天龍源一郎、馳浩と、重鎮のインタビューがトップ5中3つもランクイン。お送りいただいたハガキのほうも非常に平均年齢が上昇ぎみでございました～。そのあいだに挟まれて3位、4位となったのがヒョードル、ミルコ代理人の今井氏インタビュー。ヒョードルインタビューではジョシュの強引な乱入が『kamipro』読者の胸に響いたようでした。さすがジョシュ!!

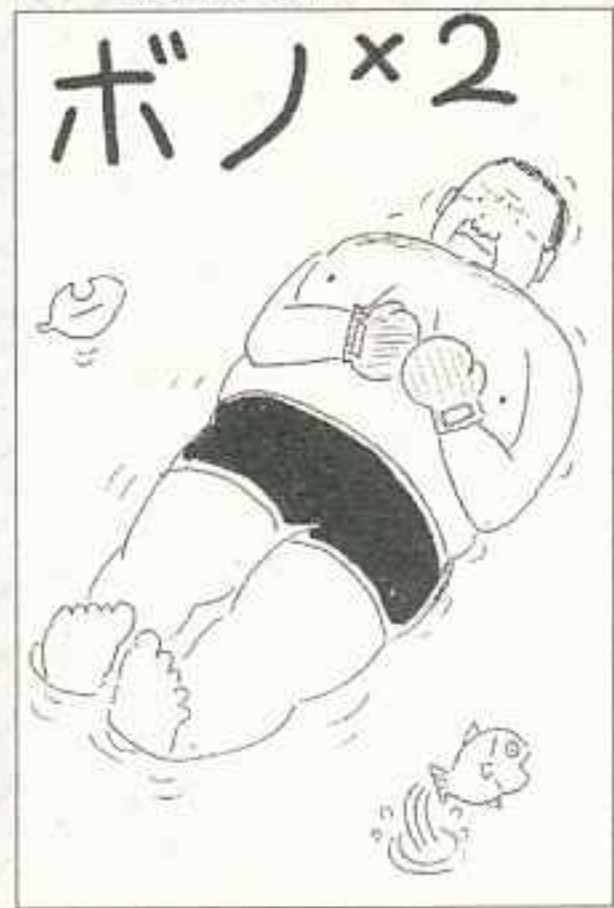
kamipro速報号2006秋・おもしろかった記事ランキング

1位 ミルコインタビュー
2位 PRIDEあだ花列伝
3位 ジョシュインタビュー
4位 青木真也インタビュー
5位 無差別級GP関連記事すべて

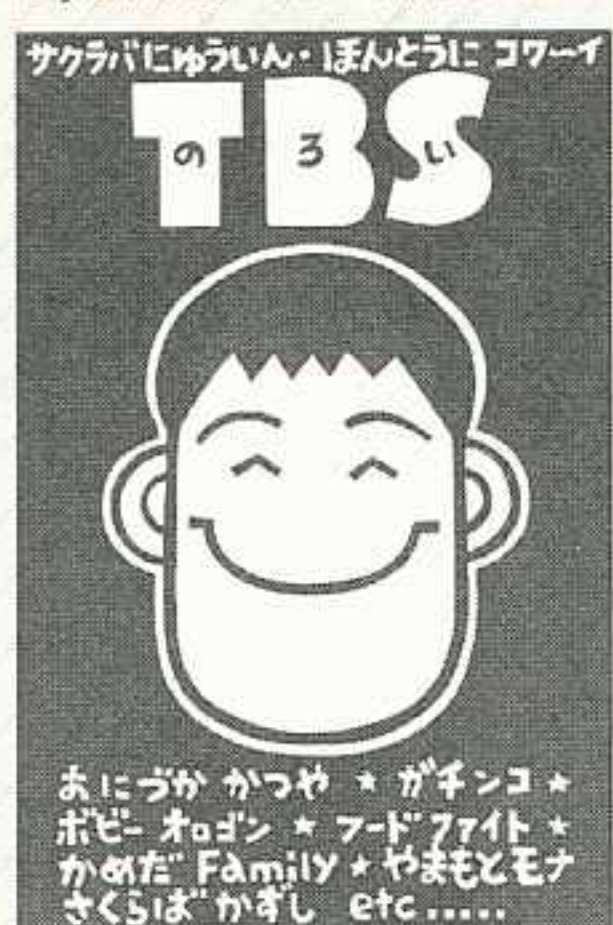
今回の速報号は、もうブッチギリでミルコの優勝～！　無差別級GPも誌面での人気も王座独占でございます。続きましては、アレク、谷津、大刀光の3大ファイターが登場した「PRIDEあだ花列伝」が、なんと2位に！　PRIDE黎明期時代の知られざるウラ話に、古くからのファンは感涙!?　3位、5位にはやっぱり無差別級GPのページがランクイン。それに挟まれて4位に輝いたのは“武士道のエガちゃん”青木真也。黄色のタイツはやはり衝撃ダー!!

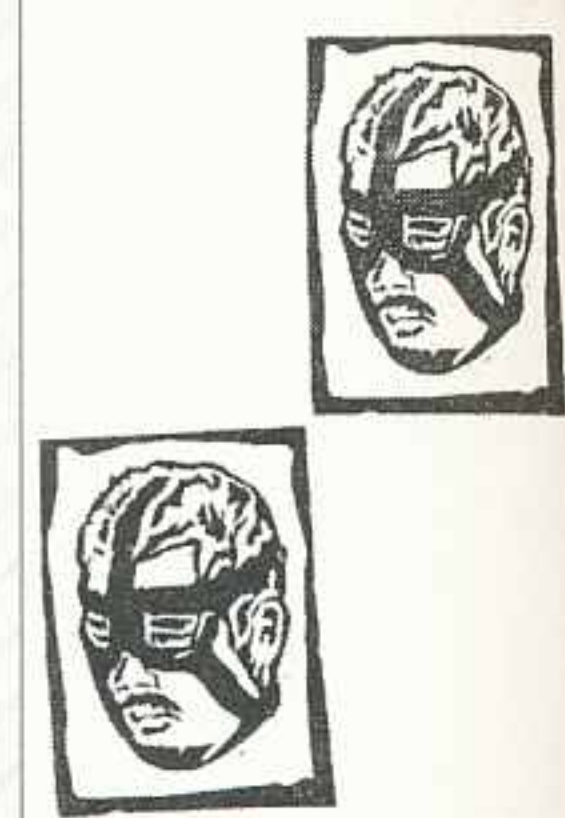
広島県・山田彰さん・37歳
➲10・9『HERO'S』は欠場となってしまった曙さん。大晦日には『Dynamite!!』登場なるのでしょうか? 金子戦が見たい!

ボノ×2

名トレーナの恩師と再タッグ 元WBC 6位の自信が甦ったボクサー魂だ パンチでKOする

長野県・市川学さん・作家志望・27歳さん
➲『PRIDE』初勝利はいつになるのか!? ここはそろそろ「あしたのために・その3」あたりを伝授してもらうしかない!

大阪府・英加直純さん
➲秋山選手から突然挑戦状を叩きつけられた桜庭選手。これは早くも『Dynamite!!』のカード決定か!?

サクラバにゆういん・ぼんとうにコワーイ TBS のろい
おにづか かつや ★ ガチンコ ★ ボビー オロゴン ★ フードファイト かめだ Family ★ やまもとモナ さくらば かずし etc……

埼玉県・稲葉聡さん
➲ラスベガスでも大人気のヒョードル選手。次はやっぱり大晦日になるんでしょうか? 相手はやっぱりリベンジを果たすべく……ズール父で!!

シンペイタナカさん
➲またまたナンシー関ばりの版画チックな似顔絵、ありがとございます! "闘う化身"ザ・エスペランサーは『ハッスル・マニア2006』で本当にリングに登場することになるのか!? う〜ん楽しみ。

スクープ! ザ・目撃!!

●僕は毎号SPAという雑誌を買ってるんですが、なんとそこに松澤チョロさんらしき人を発見!「酒を飲まないと女の子を口説けない自称"シャイボーイ"」という見出しでチョロさんの写真が載っていたんですが、名前は「二宮章一」と書いてあったんですね。内容はどうも考えてもチョロさんなのに。……ていうか、いったいチョロさんは何をやっているんですか!?
【埼玉県・酸っぱSPAさん・32歳】

●先日、仕事でとある商店街に行きました。打合せを終えて何気なく通りを眺めていると、見たことのある大柄な女性が目の前を通りました。そして、目が合うとニッコリ!「マーガレットさんですか?」と聞くと、さらにニッコリ笑って「そうです」と答え、すぐそこで買ったお弁当を差して「いま、Wake up。これ、Breakfastね。フフフ……」と照れていました。スッピンで素のマーガレットさん、可愛かったです!
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

●9月30日、全日本プロレスの会場にて、試合を観戦している石井千恵さんに会いました。「あ、石井さんだ!!」と声をかけると、「あ、こんにちは〜」と声を返してくれました。帰り際にも「10月、頑張ってくださいね」と声をかけると、「ありがとうございます!!」と深々とおじぎをしてくれました。たぶん、プロレスデビューのために勉強していたんだと思います。石井さん、ガンバレ!!
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

●先日、ヤクルトvs中日戦を見に神宮球場へ行ったのですが、なんと、ジャイアント・バーナード選手が私の目の前に! 新日関係者、田山レフェリーらと観戦に来ているのを発見しました。第一印象でやっぱりデカイと実感。途中から、我ら中日ファンと一緒にメガホンで応援するバーナード氏にとても好感を持ちました。来年も応援してね!
【東京都・ドラキチ。さん・30歳】

衝撃ショット!!

読者ページ常連投稿者のアノ人が、棚橋、HG、ついでにRGと密会!!

本物のIWGPベルトの輝きと重さに興奮を抑えきれないS波氏。

あるときはペイントマン、またあるときはマスクマンと化す、某週刊誌編集次長のS波氏が、今度はなんとIWGPチャンピオンの棚橋選手とHG、RGと遭遇!! IWGPのベルトを抱える棚橋選手に対抗して、S波氏は田山レフェリー寄贈のメヒコのおもちゃベルトを持参!!(なぜ、対抗するのかはわからない)。ちなみに、この3人の中ではRGが一番年上らしく、RGに敬語で話しかける棚橋選手が非常に違和感アリアリだったとか。IWGPチャンピオンに敬語を使わせるRGって……じつはやっぱり大物なんじゃないか!?

kamipro初! メカが相談役に!! メカマミーの人生相談

今回からの人生相談は、なんと! あのメカマミーさんに登場いただくことになりました。素晴しい!! メカ相談というのは未知なる部分がありますが、読者の悩みをズバッと解決していただきましょう。

ニートはどうしたら克服できるのか

お悩みごと

■埼玉県・やっつけてやる!さん(24歳・ニート)

私はいまバイトも何もやっていないニートで、もう3週間くらい一歩も外に出ていない引きこもりです。20歳を過ぎた頃から人と話すのが凄くイヤになって、いまは母親としか話しません。自分でもこんな生活はダメだとわかっているのですが、どうやって新しい一歩を踏み出せばいいのかわかりません。メカマミーさんも『kamipro』や東スポなどのインタビューでしか人と会話しないとうかがいましたので、私の気持ちもわかっていただけるのではないかと思いハガキを書きました。メカマミーさん、どうかいいアドバイスをお願いします。

メカマミー

今回から人生相談の相談役になったメカマミーだ。よろしく。ところで、最初の相談は……ふむ。ニートか。これはしょっぱなからどうしようもない相談だな。ま、オレから言えることは手始めに"メカになってみろ"ということだな。ニートはメカになることで多少は克服できるというデータがある。どうやったらメカになれるのかって? 仕方ない。教えてやろう。これはメカ化というよりプチメカ化する方法だが、まずはノートパソコンを購入しろ。そして下界との接点をメールのみにする。それでメカ化の一部分は完成だ。するとどうだ。話はせずとも母親以外の人間と接点ができるだろう。それが、改善への第一歩ということだな。ただ、それでもダメなヤツにはもっといい方法がある。このニートは『kamipro』とか『東スポ』を読んでるだけに、プロレスには相当興味があるらしいな。それならいっそプロレスラーになれ。まずは我闘姑娘からだ。あそこに、『アイスリボン』(※注)を主催するさくらえみというボスがいるだろう。あれはプロレス界の瀬戸内寂聴といわれるくらいなかなかデキた人間だ。オレが闘った真琴もニートだったらしいが、さくらえみが教えを説いて心を開いたというからな。だから、メカ化でつまずいた場合はさくらえみの懐に飛び込め。ちなみに、オレはいまこのさくらえみと上井文彦に非常に注目している。上井文彦はプロモーターでも駅長でもなくプロレスラーとしてだ。彼を必ずリングに引きずり出してやる。それも今年中にな(ニヤリ)。

※人生相談ドシドシ送ってください。メールでもハガキでも可。宛先は左記参照。
メカマミーの近況=10月14日『アイスリボン』vs真琴戦、vs真琴&チェリー戦でメカマミーが完勝! メカ、万歳!!

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう! お便り、お待ちしています!

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・シアン2F
(株)ダブルクロス kami-pro編集部「歌いたいです」係まで。
携帯サイト「kami-pro Hand」からの投稿もできます。

注:アイスリボンとはさくらえみが主催するプロレス大会で、通常のリングではなく、マットの上でプロレスの試合を行なうのが特徴。

マット界の日程と情報が、友情パワーでマッスルドッキング!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

プロ野球はパ・リーグのプレーオフで盛り上がりました。なんと日本ハムが25年ぶりに優勝! えっ!? 25年前って俺が生まれた年じゃねえか! 当時の主力選手はソレイタ、間柴……って誰だ、そりゃ? まあいいや。対するセ・リーグは中日が優勝。この号が発売される頃には日本一が決まっているはず。う〜ん、どっちだろう? しかし、3年連続プレーオフで涙を飲んだホークスが不憫でならない……。野球ネタばかりでスマン!

Fight & Event November 11

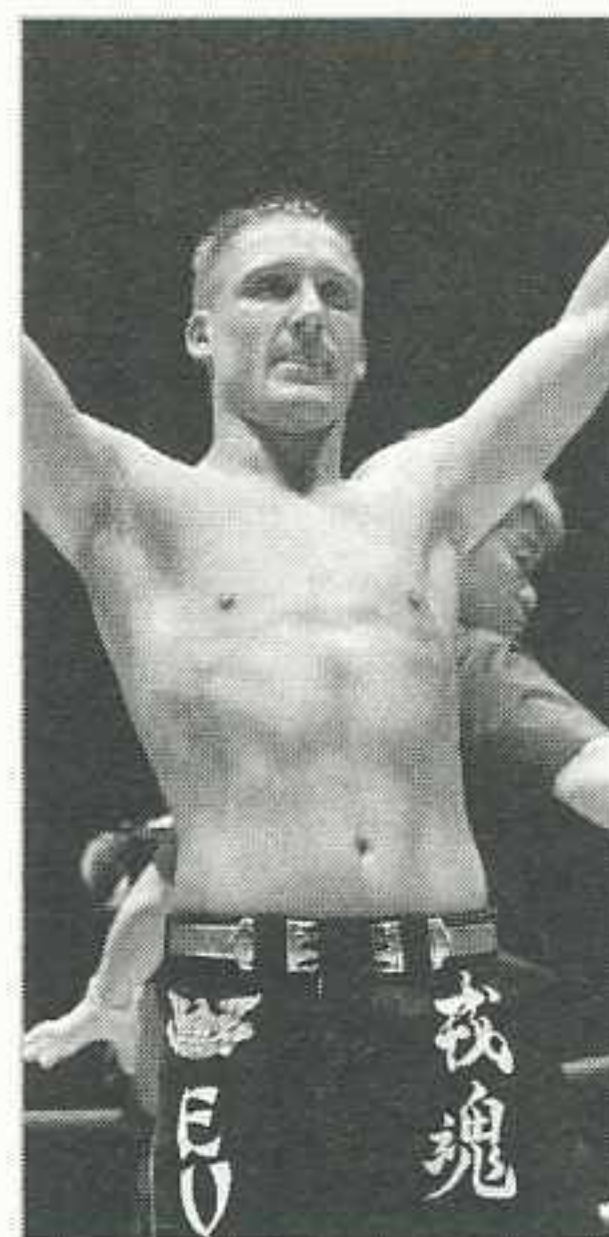
1 WED.

◆ZERO1-MAX/福岡・アクロス福岡(18:30)
◆ユニオン/東京・新木場1st RING(19:30)

2 THU.

◆アパッチプロレス軍/東京・後楽園ホール(19:00)
◆無我ワールド/福島・福島市国体記念体育館サブアリーナ(19:00)
◆大日本/愛知・名古屋芸術大学体育館(16:30)
◆JWP/東京・板橋グリーンホール(19:00)

3 FRI.

サワー、カラコダ、宍戸、緒形……
トーナメントを勝ち抜くのは誰だ!?

シュートボクシング『S-cup』
東京・両国国技館(15:00)

決定対戦カード
アンディ・サワー vs イアン・シャファーほか
出場予定選手
宍戸大樹、緒形健一、ヴァージル・カラコダほか
チケット情報
SRS=25,000円、RS=15,000円、SS=10,000円
スタンドS=7,000円、スタンドA=6,000円
スタンドB=5,000円、スタンドC=4,000円
(※全席種当日500円増)
◎問=シュートボクシング協会 03-3843-1212

◆新日本/群馬・館林市民体育館(16:00)
◆みちのく/東京・新宿FACE(18:30)
◆ZERO1-MAX/大分・佐伯市番匠体育館(17:00)
◆DDT/岡山・倉敷市水島サロン(14:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆NEO/東京・後楽園ホール(12:00)
◆CHAOS/東京・ディファ有明(18:00)

4 SAT.

◆ZERO1-MAX/鹿児島・鹿屋市体育館(18:00)
◆DRAGON GATE/鹿児島・久屋大通公園(12:00&15:00)
◆WMF/東京・新木場1st RING(19:00)
◆DDT/熊本・熊本流通会館(18:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆修斗/大阪・アゼリア大正ホール(14:00)

5 SUN.

◆PRIDE武士道/神奈川・横浜アリーナ(16:00)
◆新日本/埼玉・越谷市桂スタジオ(16:00)
◆無我ワールド/大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)
◆SKULL SHIT主催興行/東京・新木場STUDIO COAST(15:00)
◆DRAGON GATE/三重・四日市オーストラリア記念館(16:00)
◆DDT/福岡・博多スターレーン(14:00)
◆K-DOJO/福岡・博多スターレーン(18:30)
◆大阪プロ/大阪・松下IMPホール(15:00)
◆JDスター/東京・新木場1st RING(13:00)
◆M-1 MC/東京・ディファ有明(時間未定)

6 MON.

◆新日本/東京・後楽園ホール(18:30)
◆ZERO1-MAX/宮崎・都城市体育館(18:30)
◆K-DOJO/長崎・佐世保市体育文化館(18:30)

8 WED.

◆DARGON GATE/東京・後楽園ホール(18:30)
◆ZERO1-MAX/福岡・北九州市小倉北体育館(18:30)
◆NOSAWA GENOME/東京・新木場1st RING(19:00)

9 THU.

◆ZERO1-MAX/山口・海峡メッセ下関(18:30)
【大谷晋二郎、藤田ミノルのトークショー&サイン会】
出演者
大谷晋二郎、藤田ミノル
会場
パチンコLet's858店(山口県下関市東勝谷72)
時間
14:00〜15:00
◎問=パチンコLet's858店 0832-63-3310

10 FRI.

◆修斗/東京・後楽園ホール(18:00)
◆ZERO1-MAX/岡山・倉敷山陽ハイツ体育館(18:30)
◆DRAGON GATE/長野・長野運動公園総合体育館(18:30)
◆渡辺宏志自主興行/東京・新木場1st RING(19:30)

11 SAT.

◆ZERO1-MAX/大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)
【大谷晋二郎&神風とお食事会】
出演者
大谷晋二郎、神風
定員
30人(定員になり次第締切)
会場
参加者のみに通達
時間
21:30〜23:30
参加費用
6,000円
◎問=作花 090-4787-8659
sakka0402@yahoo.co.jp

◆全日本プロレス/東京・秋葉原 石丸電気ソフト2
【DVD発売記念イベント】
出演者
武藤敬司、小島聡、カズ・ハヤシ
スペシャルゲスト
神奈月
内容
トークショー及び抽選会実施
参加条件
石丸電気ソフト2で当日発売されるDVD『全日本プロレスコンプリートファイル2006 1stステージ』(税込6,300円)を購入された方
※選手の負傷、その他の理由によりイベントが変更になる場合もあり
◎問=石丸電気ソフト2 03-3251-0700

◆リングソウル主催興行/東京・新宿FACE(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆DRAGON GATE/埼玉・越谷市桂スタジオ(18:30)
◆仙台ガールズ/宮城・Zepp Sendai(19:00)

12 SUN.

◆大日本/埼玉・越谷市桂スタジオ(14:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆スト市ボンバイエ/東京・新宿FACE(12:11)
◆LLPW/東京・後楽園ホール(12:30)
◆JDスター/東京・新木場1st RING(13:00)
◆全日本キック/東京・後楽園ホール(18:30)
◆天空/東京・新宿FACE(18:00)

13 MON.

◆新日本/東京・東京ドームシティ・ジオポリス(19:00)

14 TUE.

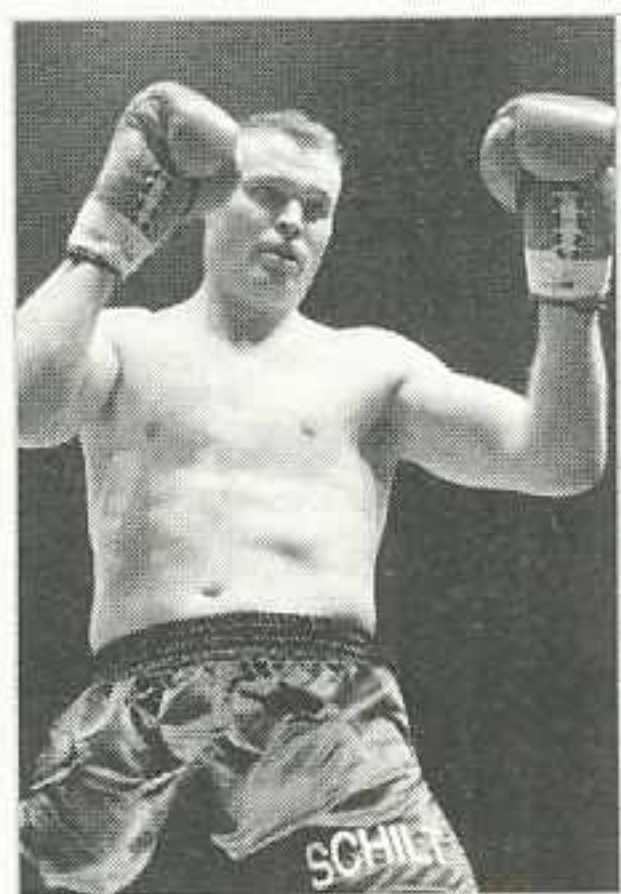
記念すべき第一回主催興行
メインは新世代6人タッグマッチ

29 WED.
◆新日本／青森・八戸市体育館（19:00）
◆全日本／富山・富山テクノホール（18:30）
◆NOAH／宮城・仙台サンプラザホール（18:30）
◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）
◆SMACK GIRL／東京・後楽園ホール（18:30）

30 THU.
◆修斗／東京・北沢タウンホール（時間未定）

Fight&Event December 12

1 FRI.
◆全日本／愛知・名古屋国際会議場（18:30）

2 SAT.
連覇に黄信号？
シュルトとバンナがいきなり激突!!

『K-1 WORLD GP 2006 in TOKYO 決勝戦』
東京・東京ドーム（17:00）

決定対戦カード【トーナメント準々決勝 3分3R】
セーム・シュルト vs ジェロム・レ・バンナ
アーネスト・ホースト vs ハリッド・"ディ・ファウスト"
ルスラン・カラエフ vs グラウベ・フェイトーザ
レミー・ボンヤスキー vs
ステファン・"ブリッツ"・レコほか
チケット情報
SRS＝35,000円（アリーナ特典DVD付）、
RS＝22,000円（アリーナ特典DVD付）
SS＝15,000円、S＝10,000円、A＝6,000円、
B＝4,000円
◎問＝FEG 03-3796-5060

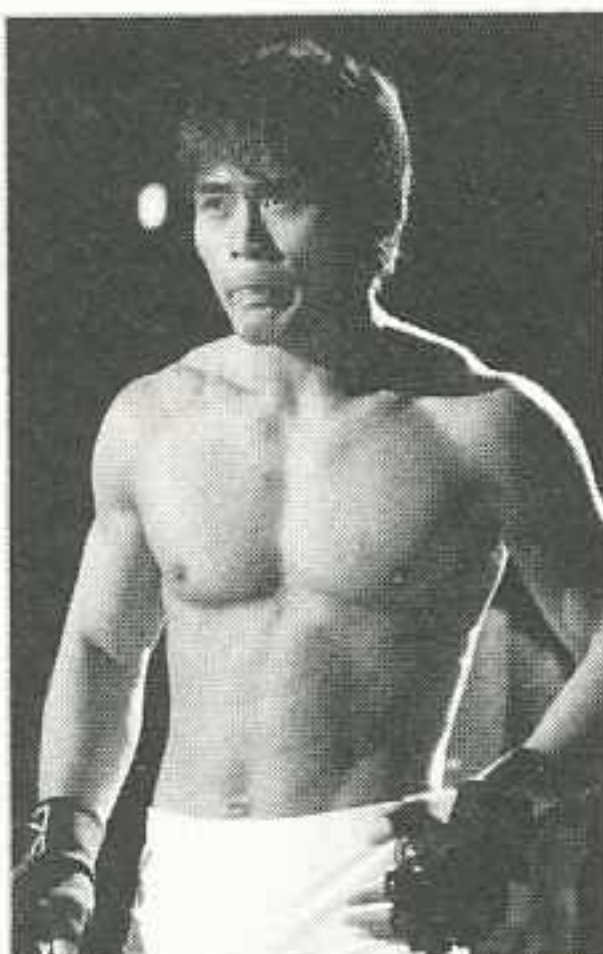
◆NOAH／神奈川・横浜文化体育館（18:00）
◆全日本／静岡・浜松市体育館（18:00）
◆新日本／京都・京都市体育館（18:00）
◆華☆激／福岡・さざんぴあ博多多目的ホール（18:30）
◆ガッツワールド／東京・新木場1st RING（時間未定）
◆DRAGON GATE／北海道・札幌テイセンホール（18:30）
◆パンクラス／東京・ディファ有明（18:00）

3 SUN.
◆大日本／神奈川・横浜文化体育館（17:00）
◆上井ステーション／東京・後楽園ホール（12:00）
◆新日本／徳島・鳴門市市民会館（16:00）
◆仙台ガールズ／宮城・Zepp Sendai（15:00）
◆DDT／愛知・名古屋市中村スポーツセンター（13:30）
◆DRAGON GATE／北海道・札幌テイセンホール（14:30）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（13:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご確認ください。

◆ZST／東京・ディファ有明（17:30）
◆NJKF／東京・後楽園ホール（17:00）
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆NOAH／岩手・サンレック北上（17:00）
◆DRAGON GATE／大阪・大阪府立体育会館第1競技場（17:30）
◆大阪プロ／東京・新宿FACE（12:30）
◆DDT／東京・新宿FACE（19:00）
◆FTO／大分・イベントホール（18:00）

24 FRI.
◆全日本／千葉・千葉公国体育館（18:30）

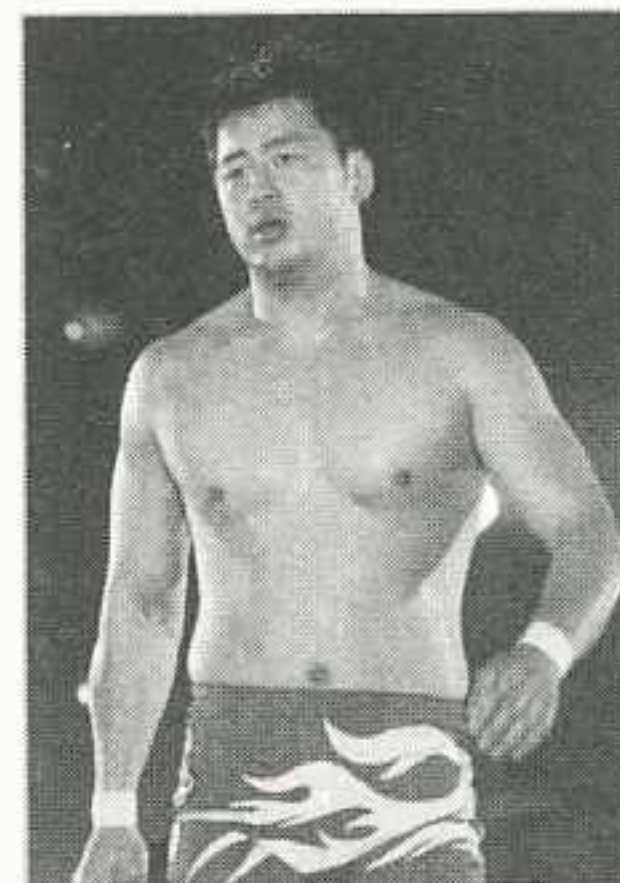
25 SAT.
D.O.Gが"CAGE FORCE"に名称変更
タクミ、渋谷修身も出場決定！

GCM
『CAGE FORCE01』
東京・ディファ有明（17:00）

決定対戦カード
タクミ vs 高橋渉
渋谷修身 vs ホセイン・オジャギ
中原太陽 vs エイドリアン"ザ ハンター"パン
美木航 vs 池田祥規
井上克也 vs 花井岳文
星野勇二 vs 吉田善行ほか
出場予定選手
光岡映二、尾崎広紀ほか
チケット情報
SRS＝15,000円、RS＝10,000円、S＝7,000円
A＝5,000円（※全席種当日500円増）
◎問＝GCMコミュニケーション 03-3538-5801

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆NOAH／北海道・札幌STVスピカ（17:00）
◆DRAGON GATE／岡山・倉敷市山陽ハイツ体育館（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（18:30）
◆ニュー全日本女子／栃木・鹿沼総合体育館サブアリーナ（18:30）

26 SUN.
◆新日本／神奈川・藤沢市秋葉台文化体育会館（18:30）
◆全日本／京都・京都KBSホール（17:00）
◆NOAH／北海道・札幌STVスピカ（16:00）
◆バトラーツ／埼玉・越谷市桂スタジオ（17:00）
◆DRAGON GATE／香川・高松シンボルタワー1F展示場（17:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
◆JWP／東京・東京キネマ倶楽部（13:00）
◆NEO／東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
◆修斗／愛知・Zepp Nagoya（15:00）
◆R.I.S.E.／東京・ゴールドジム大森（17:30）
◆ANGEL'S／東京・伊原道場（時間未定）
◆K-DOJO／千葉県・Blue Field（13:00&16:30）

27 MON.
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:00）

28 TUE.
◆全日本／新潟・長岡市厚生会館（18:30）
◆NOAH／秋田・秋田市立体育館サブアリーナ（18:30）

GPWA主催興行
『Realize』
東京・後楽園ホール（18:30）

決定対戦カード
崔領二&HARASHIMA&KAZMAvs
潮﨑豪&中嶋勝彦&El dorado選抜選手
出場予定選手
本間朋晃ほか
◎問＝GPWA事務局 03-5730-3966

◆新日本／東京・東京ドームシティ・ジオポリス（19:00）
◆埼玉プロレス／東京・板橋区赤塚公会堂（19:15）

15 WED.
◆ハッスル・ハウス／東京・後楽園ホール（19:00）
◆新日本／東京・東京ドームシティ・ジオポリス（19:00）
◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）

16 THU.
◆新日本／東京・東京ドームシティ・ジオポリス（19:00）
◆SUN／東京・新木場1st RING（19:30）

17 FRI.
◆NOAH／東京・後楽園ホール（19:00）
◆新日本／東京・東京ドームシティ・ジオポリス（19:00）
◆Ozアカデミー興行／東京・新宿FACE（19:00）

18 SAT.
◆LOCK UP／東京・新木場1st RING（18:30）
◆NOAH／静岡・島田市中央体育館（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆覆面屋工房興行／東京・新木場1st RING（12:30）
◆T-1／東京・浅草インディーズアリーナ（18:39）

19 SUN.
◆全日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆大日本／神奈川・川崎市体育館（17:00）
◆DRAGON GATE／福岡・博多スターレーン（17:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／千葉・Blie Field（12:00&15:00）
◆東海／愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:00）
◆NEO／神奈川・横浜NEO道場（14:00）
◆clubDEEP／富山・イベントプラザ富山（時間未定）
◆新日本キック／東京・ディファ有明（時間未定）
◆G-SHOOTO／東京・新木場1st RING（18:00）
◆IWAジャパン／東京・後楽園ホール（18:30）

20 MON.
◆NOAH／新潟・新潟市体育館（18:30）

21 TUE.
◆NOAH／山形・山形市総合スポーツセンター（18:30）
◆LLPW／東京・両国国技館（17:30）

22 WED.
◆全日本／茨城・水戸市民体育館（18:30）
◆J-NETWORK／東京・後楽園ホール（17:00）

23 THU.
◆ハッスル・マニア／神奈川・横浜アリーナ（17:00）

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘
03-3524-1071
〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-17渡辺ビル4F JNT事務局内
http://www.gtkn.com

■キングスロード
03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区六本木7-5-11-605
http://www.kings-road.jp

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング（SB）協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏会館 075-352-3109
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seikenshinkageryu.com

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ
nanaracka.or.tv/blog

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GIRLS DOOR
0462-63-2323
〒242-0029 神奈川県大和市上草柳94-3コンフォート緑野104
株式会社EWF

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193ー11
http://www.hiromitsu-kanehara.com

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WWS
0270-24-8991
〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町1669-2 グリーン・シティ・マンション103号

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Event

G1覇者&IWGPジュニア王者来場!

アキバでDVD発売イベント

今年のG1覇者・天山広吉とIWGPジュニアヘビー級王者の金本浩二が11月23日（木＝祝）、18時から東京・秋葉原の石丸電気ソフト2 7FイベントスペースでDVD発売記念イベントを行なう。内容はトークと写真撮影会。参加対象者は『G1-CLIMAX 2006 DVD-BOX』を購入された方となっている。特典として、参加者全員にサイン入りジャケットをプレゼント！

★問 石丸電気ソフト2 7Fイベントスペース 03-3851-0700

Recruit

健介オフィス新人オーディションに

正直、集まれ!

健介オフィスが2007年1月中旬（予定）に第2回新人オーディションを開催。応募資格者は175cm以上、体重80kg以上の25歳までの健康な男子（18歳未満は親権者の承諾が必要）。希望者は履歴書と上半身裸の写真、全身写真、18歳未満は親権者の承諾書、書類審査の結果を郵送するための80円切手を同封の上、〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12「健介オフィス新人募集」まで送付すること。また、履歴書は返却されない。

Event

アタシの話だけ聞いてりゃいいんだ!

鬼嫁がシンポジウムにゲスト出演

マット界や世間では"鬼嫁"として広く知られているが、じつは料理が得意な北斗晶が、11月11日（土）、13時から愛知県名古屋市マナイイベントホールで開催されるシンポジウム『知って安心、おいしく食べよう〜国際チキンシンポジウム2006〜』にゲストとして出演する。定員は200名。参加費は無料となっている。申し込みと問い合わせは国際チキンシンポジウム事務局（東京都渋谷区宇田川町2-1 渋谷ホームズB23）まで。

★問 国際チキンシンポジウム 0120-298-593
HP http://www.j-chiken.jp/

Recruit

開校以来初の試み

プロレスラー志願者は武藤塾へ!

全日本プロレスが武藤塾番外編として、2007年1月28日（日）、東京・ゴールドジム大森で『2007年度全日本プロレス公開新人入団テスト』を行なうことが決定。参加条件として身長180cm以上の年齢18〜25歳の健康な男性（とくに自身がある者は、身長が条件に満たなくてもかまわず）。希望者は履歴書、全身写真、バストアップ写真（上半身裸）、自己PR書類もしくは写真を〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F 全日本プロ・レスリング株式会社まで送付すること。

★問 全日本プロレス 03-3288-0610

Talk

あのね……あなたたち絶対、来なさいよ!

山本小鉄が池袋で講演会

現在、レフェリーやテレビ出演で活躍中の山本小鉄氏が、都内・西武百貨店池袋本店コミュニティ・カレッジにて講演会を行なう。日時は11月5日（日）、14時〜15時30分と12月3日（日）、14時〜15時30分。受講料は一回につき会員、一般とも3,150円。ペアでの参加は5,250円。内容は小鉄氏が心と身体のあり方、現役時代の強烈エピソードなどについて90分間たっぷり語るというもの。トークだけでなく、全員参加のエクササイズもあるぞ！

★問 池袋コミュニティ・カレッジ 03-5949-5488

School

吉田や中村カズが直接指導

第20回「VIVA JUDO」開催

吉田道場が主催する柔道教室『VIVA JUDO』が11月12日（日）、13時から東京・日本体育大学世田谷キャンパス柔道場で行なわれる。指導者として『PRIDE』で活躍する吉田秀彦や中村和裕、瀧本誠らが来場予定。柔道を知らない子どもたちにも身近に触れ合ってもらうことを目的とした同イベントも、今回で記念すべき20回目となる。対象は小学校1〜6年生までの男の子と女の子。柔道着の貸し出し、参加費も無料である。定員は120名となっている。

★問 （株）ジェイロック 03-5485-5555

Tour

イタリアン・コネクション復活

観戦希望者はバスツアーでGO!

11月11日（土）東京・新宿FACE大会で一夜限りの復活を果たすイタリアン・コネクション（ミラノコレクションA.T.&近藤修司&"brother" YASSHI）。この再結成を記念して、神戸発のバスツアーが開催される。日程は11月10日（金）22時に神戸・リングソウル集合、23時に出発→11月11日（土）全試合終了後、東京出発→11月12日（日）6時〜7時に神戸リングソウル到着、その後解散となっている。料金、その他詳細については下記番号まで。

★問 リングソウル078-333-6690

Fight

インディーの雄、ポーゴ様も出るぞ!

キャットファイト、大阪襲来

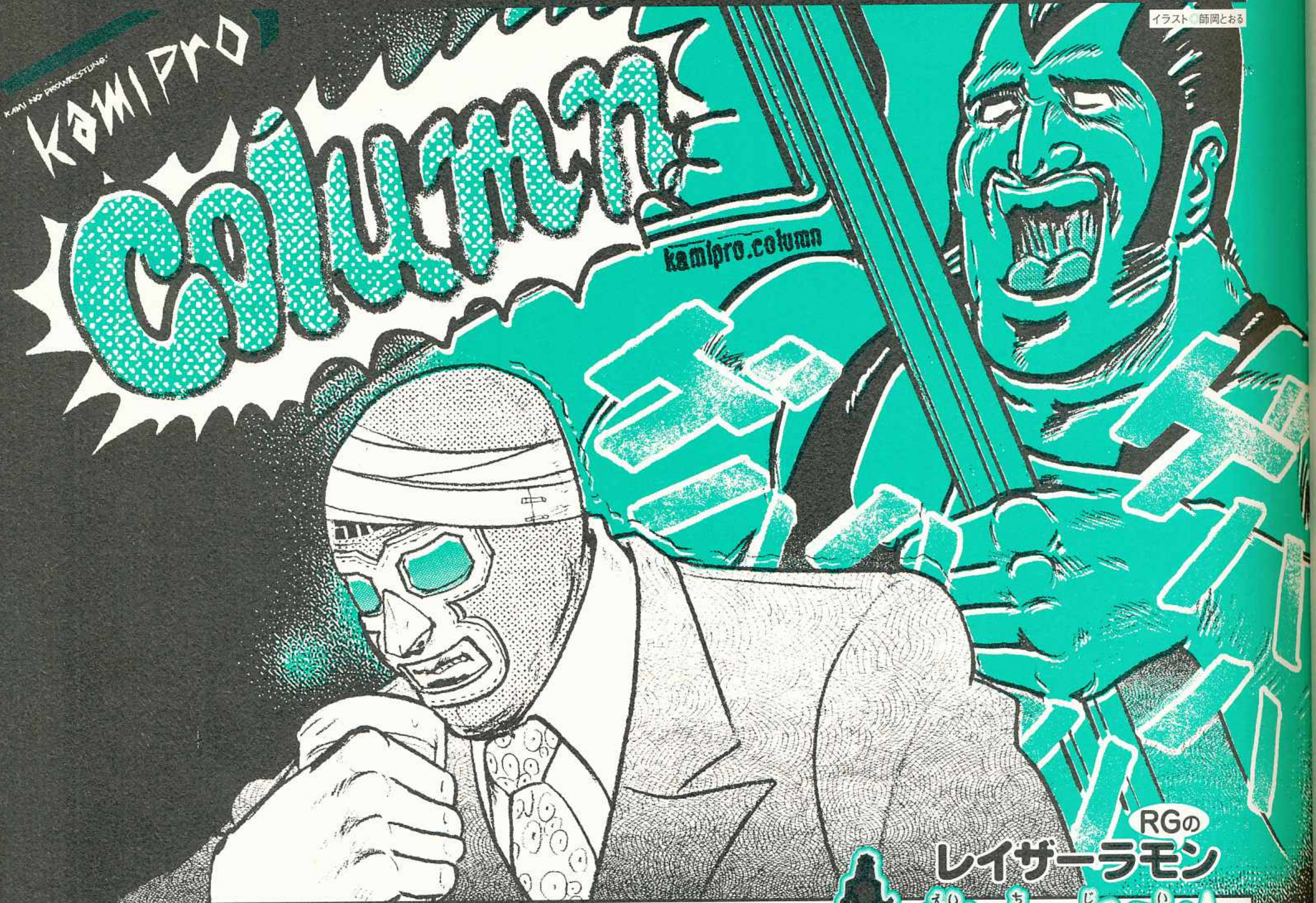
ナニワの地にキャットファイトが初上陸！ 11月26日（日）、大阪・デルフィンアリーナでキャットファイトイベント・『NCP LEGEND 2006』が行なわれる。お馴染みのラ・マルクリアーダ（元ミス・モンゴル）や初代ミニスカポリス・福山理子はもちろんのこと、なんと同大会にはデスマッチファイター、ミスター・ポーゴも出場メンバーにエントリー！ その他、佐野直やピンクタイガー、グラビアアイドルも多数出場予定。

★問 CPE 0120-105-434

俺の心に寒波到来!? その悔しさをコラムにぶつけろ!!

イラスト◎師岡とおる

KAMIPRO column

kamipro.column

RGのレイザーラモン英知自慰（えいちじい）

第13回 控室での“かわいがり”についにあの男が参戦!!

イラスト◎出渕誠

どうもー！　入場テーマを念願の三木道三『Lifetime Respect』に変えたら、全然盛り上がらなかったGM補佐官のRGでーす！

しかし数少ないテレビ出演時にゴリ押しで三木道三に合わせてRGダンス！　やり続けたら芸人の諸先輩方もバカ負けしたのか踊ってくれるようになりました。

「継続は力なり」とはよく言ったもので、もう一つの継続ギャグ「おジャーマンスープレックスホールド」も某老舗団体のレスラー（今夏に大活躍）のお子さんが家のソファで連発して親を困らせている、という噂も聞きましたし。くれぐれもフローリングやコンクリートの上でしないように！

そんなRGもハッスル10月シリーズ、大阪、名古屋大会を無事終えましたが、今回はドレッシングルームでも変化がありました。

毎回、レスラーのみなさんに〝かわいがって〟いただいてるRG。今シリーズはチーム3Dも来てるんで壮絶ですよ！　とくにババ・レイは今回は執拗にフトモモの内側をチョップする暴挙！　いじめアイデアの泉は尽きることないですヨー！

ほかにも川田さんは会うたびに「こいつ誰？」を連発したり、大谷さんの「おもしろいことやってください、どーぞ！」という無茶なフリがあったり。ソドム＆ゴモラ、エリカ＆マーガレットからはすれ違いざまのパンチ、チョップが日常の光景となり、僕だけが軍団抗争の壁をすり抜けて、いじめグローバル化の波に乗ってますヨー！

いままではそんな僕をかわいがってドレッシングルームの空気が暖まったりしてた……とは思うんです。が、じつは一人だけ笑ってなかったお方がいるんです……。

誰？　誰なんだ？「誰？　というのを辞書で引くと……」（ターザン調）。そう、そのお方こそ、天龍源一郎選手！

ババ・レイが僕に壮絶なチョップして、みんなが大笑いしてても黙々とテーピングを巻いてたりしてこっちを見ない……。

やっぱりミスター・プロレスは僕みたいな素人がドレッシングルームで調子に乗ってるのが許せないんだろうな……。と思ってたんですが、こないだの10・6大阪大会のとき、HGが差し入れで肉マンを持ってきて配って回ったんです。

そのあとトイレに行ったら天龍さんとすれちがってしまい、怖いので「お疲れさまです」と言って、サーッと通り過ぎようとしたら、「肉マンおいしかったよ、ありがとうHG！　なんだ……RGか？」と天龍さん。

キ、キターーーーッ！　て、天龍さんが、ミスター・プロレスがついに、僕をいじってくれたヨーーーー!!

感激のあまり言葉をなくしてポカーンとしてたら「おい！　何か返せよ！」とまたもや天龍さん。いや〜嬉しくてツッコミ忘れてましたよ。すいませントーン！

日本人、外人、ハッスル軍、モンスター軍関係なくいじられ続けていた僕が唯一入れなかった天龍源一郎という聖域にやっと入れたわけですヨー！　天龍さん、ありがとうございました！

……しかし、この文章、冷静に見直すと、ただ奴隷がSMの女王様と初めてしゃべって嬉しいっていうキモイ文章だヨウ……。ハッスルという場で確実に「ドM調教」されてるのがわかってきました……。

こうなったら、みんな！　もっといじめてヨーヨーヨー！

大阪でペットボトル投げられました（顔に）もっといじめてヨー!!

Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）HGを〝アレンジ〟した「ヨウヨウヨウ！」をキメ言葉に活躍中だったが『ハッスル・ハウスvol・20』にてGM職から失脚！　坂田新GMの補佐官へ転身。

第12回

今月は、
『狂い咲きサンダーロード』
DVD発売ですよ!!

花くまゆうさく

リングの汁

青木vsメレンデス、たしかに魅力的なカード。でもいまやることもねえんじゃないの。もしかしたらやりそうだなと薄々心配していたけどホントにカード組んじゃったよ。エース五味に勝てそうなこの二人を『PRIDE武士道』参戦二戦目で、はやくもどちらかに負けがついちゃう潰し合いさせてどうすんの？ もったいないなあ。

10月9日は『GIグラップリング』と『HERO'S』だが、グラップリングを観にディファ有明へ。ジェフ・グローバー出ないのは残念だが、なかなかいいメンツ揃い楽しみであった。注目は絶好調の徹&K太郎（徹肌ィ郎、中村K太郎）コンビのダブル優勝はあるのか？ だったがK太郎初戦敗退の波乱。徹肌ィ郎も準決で敗れてしまい残念であったが、二人とも3位決定戦はキッチリ勝ってさすがでした。とくに3位決定戦でのK太郎は、初戦より気合い入った感じで実力発揮してよかったね。

優勝した佐々&アマゾン（佐々幸範、杉江アマゾン大輔）は素晴らしかったが、今大会の私的MVPは門脇。一番、カッコよかったね。初戦の植松戦、次の石川戦と連続でチョークを極めたインパクトは、今大会で一番、プロを感じた。足で捕らえた手が内に入っていてもチョークにいって門脇スペシャルが進化してたように見えたが、前からいろんなバージョンがあるのかな？ 門脇といえば、昔、アマ修斗トーナメントか何かで、門脇スペシャルバンバン極めて勝ち上がってゆく姿が印象的でしたが、あの日の姿がひさびさによみがえったなぁ。今後もこういうグラップリング大会出てほしいね。

好試合ばかりでいい大会だったけど、購入した席からは、まったく試合が見えなかったのはいただけなかったなぁ。しょうがないから後ろのカベに立って観たけど、身内でない一般客はもう来ないんじゃないかと心配。昔は、高い舞台作って、その上にマット敷いてたから、後ろの席でも観れたけど、ディファでやるならそれぐらいしないとプロ興行としてダメだと思うな。せっかくのいいグラップリング大会なのでがんばってもらいたい。

『DEEP』で足関十段ベルト防衛（&黒帯昇段も）おめでとさんです。打撃になんか念が込もってて、殺気があったね。I編集長が観たら、彼には〝殺し〟があるとか言ってくれるかな。

Hanakuma Yusaku
◎石井聰亙監督と秋葉原タワレコでトークショーの予定。

ささきぃの

STAND BY ME second season

私の立ち技への旅はまだ終わらない

第6回

ささきぃ帰郷先の出来事 ZERO1・MAX島根大会にキックボクサー凱旋！ の巻

9月19日、日高郁人凱旋興行が行なわれたZERO1・MAXの島根大会取材に行ってきた。立ち技と関係ないように思われるかもしれないが、この大会には全日本キック所属選手の寺戸伸近と湟川満正が参戦。エキシビションながらゼロワンのリングにキックの選手が登場したのである。

これまでも、小林聡が長野大会でエキシビションを行なったりという、不思議なっちゃ不思議な交流が行なわれていた両団体。島根県出身の日高郁人凱旋興行という意味があった今大会に、同じく島根出身の湟川選手、お隣・広島出身の寺戸選手が地元の家族や友人たちの前で〝晴れ姿〟を披露することとなったのは、そもそもは全日本キック側からの申し入れだったという。また、湟川の相手を務めたのが日高の親友であるパンクラス伊藤崇文。今回は親友・日高のために島根を訪れ、大会に花をそえた。

この日は、月曜日という水曜発売のプロレス専門誌にとって扱いにくい大会だったこともあって、媒体はサムライTVと『kamipro』のみ。『kamipro』が、というか、私がなぜ行ったかといえば、島根は父方の田舎であり、現在単身赴任中の父が住んでいるということに加えて、自分の担当している団体（ZERO1・MAXと全日本キック）が重なり、日高郁人と湟川満正と私が同じ誕生日（3人とも8月5日生まれ）ということに、勝手に運命を感じて自腹出張だった。

「終わったら連絡する」と言っていたのだけれど、私の父親はチケットを買って会場を訪れていた。大会ではリングサイドで写真を撮ったり、記事をアップしたり、場外乱闘から逃げ回ったりと、だいぶ慌ただしく動き回っていた私だが、その「仕事ぶり」の一部始終を見られていたことになる。結果として私は「両親の前で晴れ姿を見せる」という、凱旋試合の一部分を味わうことになった。私の場合はあんまり観られてカッコイイ晴れ姿じゃなかったが、凱旋試合を行なう選手の誇らしさと照れくささがすこしだけわかったような気持ちになった。

大会当日には「こっちではキックを観る機会って、ほとんどないですから」と、湟川&寺戸がともに語っていたが、キックボクシングの主となる大会はほとんど関東近県でしか行なわれていない現在の状況は、地方出身の選手に地元の家族・友だちに自分の闘っている姿を観せる機会は、東京に招く以外になかなかない。

今回のエキシビションは両団体がともに「おもしろいこと」「観る人が喜ぶこと」、そして「お客さんを呼ぶこと」に対してどん欲であり、柔軟であるがゆえの実現だと思う。すべての団体にやれとは言わないし、毎回やれとも言わないが、勝手にプチ凱旋気分を味わわせてもらった私としては、こんな機会がもっと増えるといいなと思った。それに、自分の大切な人を前に「いま、自分が真剣に追い求めているもの」を見せるということは、自分の生きる道を定める上で、とても大きな意味を持つのではないかとも思うのだ。

大会の最後は登場選手全員で「3、2、1、ゼロ・ワーーン！ う〜、マックス!!」。中央で指を突き立てているのが湟川、日高の左後ろが寺戸だ。

椎名基樹の サムライフィニ三昧

第7回

理想のフィニッシュホールド

40歳目前にして、眠る前はファイターになった自分（背も高くヘビー級の選手）が強豪選手をバッタバッタと倒すところを想像しまどろんでいく、じつに幼稚な生活習慣を持ち続けている、筆者。中学生の頃、アンドレをジャーマンで投げきったこともある（想像で）筆者は、加齢臭が気になりだす年齢になってもまだ、ノゲイラをヒョードルをジョシュをミルコを極めまくっている（想像で）のである。

そんな妄想にも自分なりのリアリティが必要で、日本人ヘビー級選手として闘う自分のファイトスタイルは、打撃＆柔術のノゲイラ型で（ノゲイラよりも蹴りができる）、それは外国人選手との体力差を埋めるために自ら構築したファイトスタイルなのであった。

そして、この終わりなき妄想の果てに、筆者が行き着いた結論、つまりフェイバリット・ホールドは「ラバーガードからの三角絞め」なのであった。ＰＲＩＤＥヘビー級のタイトルをヒョードルから奪取した（想像で）のも、やはりこの技であった。なぜこの技に行き着いたかというと、まずは外国人との体力差のため、どーしても下になることを強いられる、筆者。フェイバリット・ホールドも必然的に下からの攻撃となった。しかし、もうすでにほとんどの選手に読まれてしまっている下からの極め。そうそう極まるものではない。しかし、この「ラバーガードからの三角」は、相手の上体を固めてから極めるので、来るのがわかっていながら逃げられない、蟻地獄のような技なのである。

筆者のような寝技師（想像の）にとって、まあ日本人に生まれた体格的ハンデから寝技師に成らざるを得なかったワケであるが（←病気）、この相手を嘲笑うかのように極める技は、一つの究極の形だと思えるのだ。もちろん、そうやすやすと極められる技ではなく、髙瀬選手が『ＰＲＩＤＥ』で必死にこの技を仕掛けようとしたが、最後の足のひと掛けを読まれて極められなかったのも記憶に鮮明だ。

なにより、ヒョードルのような上体が強い選手をキープするのは困難であろう。だが、磨きをかければ、寝技師の究極の技になるような気がする。と、いうか磨きをかけたから、筆者はヒョードルからタイトルを奪取できたのである（想像で）。

とにかく「ラバーガードからの三角」は、寝技の醍醐味を体現してくれる技だ。紐をゆっくり結んでいくような、一見スローモーに見えるこの技は、ＫＯ勝ちに溢れた『ＰＲＩＤＥ』に、ワーキャー騒ぐのが好きなミーハーなファンを一瞬シーンとさせることにより、一石を投じることとなるだろう。たとえ、現実の筆者は、小学生の頃から身体が異常に硬く、現在、前屈をしてもスネの部をさすする程度しか曲がらないとしてもだ！

と、異常に前置きが長くなったが、すごいぞ、青木真也！　先日、『ＰＲＩＤＥ武士道』デビューを果たした、青木真也が見事にこのラバーガードから三角を極めてくれた。筆者がこの一年くらいまどろみの中でやってきたムーブを現実で披露してくれたのだ。引き込んで、ラバーガードから三角。感動！　しかも、上体が強そうなマッチョな外国人選手から一本勝ち。噂にたがわぬ寝技師ぶりであった。

この青木真也選手、筆者と同じ静岡県出身だという。二年ほど前にＩＳＡＭＩ杯の柔術大会を見に行ったとき、バカ強のヤツがいて、それがどうも青木選手だったようで、その青木選手にガンガンとゲキを飛ばしていたのが、セコンドについていた植松直哉選手であった。植松選手も青木選手と同じく、柔道＆静岡出身の選手。同郷から、植松、青木といわば達人系の選手が輩出されたことが、とっても誇らしい（←同郷という理由だけで誇っていい理由もないですが）。

しかし、静岡といえば、神奈川、愛知という日本有数のヤンキー輩出県に挟まれれた、非武装地域。こんな、まったり者が集まる県から、日本が誇る達人二人が生まれたことが不思議でならない。まあ、達人系はまったり系ともいえなくないか？

そして、次回の『ＰＲＩＤＥ武士道』の青木選手の相手がギルバート・メレンデスに決まった。ナチュラルに上体が強く無尽蔵のスタミナを誇るパウンダーのメレンデスは、正に小さなヒョードルといったスタイルで、筆者が夢想の中で、ヒョードルをラバーガードからの三角で極めたことを、階級を変えて証明してくれるか非常に楽しみである。

それにしても、このメレンデス、前回メレンデスに敗れた帯谷（信弘）選手、そして青木選手と、修斗、ＤＥＥＰから上がってきた疑いようのない実力を持った選手が、さっそく潰し合うこととなり、『ＰＲＩＤＥ』の冷酷さを感じる。だが、一気にチャンピオン戦線に名乗りを上げるチャンスでもあるだろう。

『PRIDE』初登場となった8.26『武士道』名古屋大会ではジェイソン・ブラックに三角絞めで勝利した青木だったが、10.14修斗横浜大会では金的での反則勝ちという結果に。11月の『武士道』でのギルバート・メレンデス戦はどうなる!?

五味選手は、同大会でタイトルマッチを行なうらしいが、妥当な興味をそそる相手だとは思えない。いまのライト級のトップコンテンダーは、やはりヨアキム・ハンセンだ。青木vsメレンデスの勝者、ヨアキム、そして一度、五味選手に負けた選手の巻き返し、石田（光洋）選手、中村（大介）選手を含めて、いつの間にかライト級は、凄い顔ぶれで、世界一を決めるにふさわしい選手層である。

ここでライト級はヘビー級やミドル級とは違い、最低、年に二度はタイトルマッチをやってもらい、研鑽していってほしい。べつに誰が誰に勝ったという星取り表に関係なく、そのとき一番ふさわしい選手が挑戦すればいいではないか（いまだったらヨアキム）。短いあいだに同じ相手の再戦があっても構わないし。タイトルの価値が高まることが、一番観る者を興奮させる気がします。

そして、このライト級・70キロ台の世界一を決めるなら、いまどーしても外せない選手がいる。それはもちろんＵＦＣライト級王者・マット・ヒューズだ。マット・ヒューズは現在、パウンド・フォー・パウンドと思わせる活躍をしている。

その、マットが先日、ＵＦＣで宿敵ＢＪ・ペンと闘った。結果、ＢＪ・ペンが敗れ、最強王者・マット健在となったわけだが、闘いの内容そのものは、筆者としてはＢＪ・ペンのうまさに舌を巻いた。マットの恐るべきパワーを、ＢＪは柔術で完封。しかし、最後はオランダの選手のように突然スタミナが切れて呆気にとられる中、負けてしまった。ＢＪはハワイ出身。やはり、ハワイやオランダなど、楽しすぎるところに生まれると、根性を身につけるのが難しいのかと、へんな納得をさせられてしまった。

話は逸れたが、マットを含めたライト級の世界一決定戦が、いま総合で一番盛り上がれるテーマだと思う。

世界に羽ばたく夫婦コラム

チーム鈴木の明るい未来

KENZO HIROKO

Suzuki Kenzo&Hiroko
◎メヒコ修行中の健想と妻・浩子の夫婦タッグ。今回は健想が遠征中のため、浩子のコラムをお届けします！

メヒコ遠征中の健想、WWEトーリーに会えずの巻

メヒコに入った健想は頻繁に連絡をくれる。

「毎日朝からアレナ・メヒコ（CMLLのメインアリーナ）で練習してるよ」

"何より練習"と頑張っている健想が微笑ましい。しかし彼はいまや完全なホームシック。

「しゃべれないし、日本の飯食いたいし……」

と元気がない。ところがそれを真に受けて『仕事もうまくいってないのかしら……』と心配していると、

「ドス・カラスJr.やミスティコとのトップストーリーをもらってTVショーは全部出てる」

しかも連絡がつかないと心配してると、

「ラジオ番組の収録だった。明日は雑誌のカバーの撮影」

と、仕事のほうは驚くほど順調。結局、問題は家族と離れ、一人で生活しているさびしさなのだ。

そんな中、WWEがメキシコに来るという。

「会場に行ってくる！　トーリーもいるし！」

タンパの自宅にも帰っていないから、近所の友だちにもずっと会えてない。きっとトーリーならメヒコにも来るだろう。久々に友だちに会える！　健想は喜んでいた。

その頃、日本にいる私は友だちと相撲を観るために両国にいた。当日は早めに国技館に入り、お酒を飲みながら大相撲を楽しんでいた。そこに友人の記者から一本の電話。

トーリーが今度のWWEの日本公演のPRで来日していて、これから相撲を観に国技館に来るという。あわてて入口に駆けつけると、中年層の多い国技館では完全に浮きまくっているストラップレスのワンピースを着た金髪が見える。

「トォ？　リィっ？（喜）」

「ヒロコォ!!　うそぉっ??（嬉）」

二人とも感激で泣いている（笑）。国境を越えた日本で、さらに両国国技館で偶然トーリーに会うという考えられない状況に大興奮。その夜、私たちはひとしきり語り尽くした。

トーリー　電話つながらなかったよ？

浩子　ずっと日本だったの。

トーリー　健想も？

浩子　メヒコなの。……あっ！　WWEがメヒコに来るからトーリーに会いに行くって言ってた。

トーリー　私はメヒコに行かずに日本に来たの。いま頃ケンゾーは……。

浩子　……。

その頃、健想はメヒコの会場で必死にトーリーを探していた（笑）。事情を説明すると

「へぇ……。だからいなかったんだ……」

可哀想すぎる。久々に仲間に会おうと思ってたのに。気づけば私が会っている（笑）。

とはいえ、健想はCMLLが年に一枚だけ作るポスターに映っている。それは数多いレスラーの中で選ばれた数名だけが映ることができる貴重なもの。何度も言うが仕事はじつに順調だ。

頑張れ健想!!　風は君に向きつつある!!

両国国技館でバッタリ遭遇したトーリーと記念写真！

日本在住メキシコ人ホセPresents

アメプロウワサルーン

イラスト◎エロコエロオ／Photo◎平工幸雄

No.6 マジも大マジ！　徹底したカート移籍劇の舞台裏

カート・アングルUFC参戦はあくまでもWWEに対する"陽動作戦"だったよ！　すっかりダマされたホセです！　今回はそんなカートのTNA参戦表明の舞台裏をビシッと報告します。

9月24日フロリダ州オーランドで行なわれたPPV『ノーサレンダー』前に、TNAは大発表があると予告。その発表は放送時間帯を11月16日から木曜21時に移行し「初日は二時間枠で放送！（通常は一時間）」という、だいぶ肩透かしな内容……。しかし大発表はそれではなく、カートTNA参戦決定のプロモだった。

映像は薄暗いリングでタックルを繰り返し、どアップのカットで「It's real It's damn real!!（マジも大マジだぜ！）」と言い放ち、マウスピースをはめながら、不敵に微笑むという、まさに"インパクト！"な映像だった（秀逸なこの映像は「You Tube」で確認可能）。

この移籍劇はTNAのフロント数名がカートの代理人と水面下で交渉。カート側が望んだのはWWEより緩いスケジュール、つまり週に一～二回の試合（WWEは多くて週3～4回）。TNAは現在、週に一度のテーピングと月に一度のPPV。このサイクルが一致した段階でTNA側の動きは加速した。

参戦決定のVTRは、PPV本番の数日前にテネシー州のナッシュビルで撮影された。この撮影はジェフ・ジャレットをはじめとしたトップ数名と、撮影クルー数名で極秘裏に進行。撮影に立ち会ったすべてのスタッフがNDA（秘密保持契約）を交わしたという。さらに発表当日はバックステージのボーイズ、全TNAスタッフに対しPPV開始15分前にカート参戦決定をアナウンスするという、徹底した"情報操作"だった。TNAが推し進めていたカート移籍の裏側は、神経が擦り切れるほど"ナーバスな状態"で進められた。そんなTNAに対し、カートはTNA公式サイトで参戦理由を「愛されたゆえの結論」とコメント。「HERO'S」における谷川P＆桜庭和志のようだって！

ただワリをくったのはUFC。ダナ・ホワイトはWWEにおける因縁のカード（理由は各自調査）ともいえるカート・アングル対ダニエル・ピューダーというWWEファンを巻き込んだ垂涎カードを画策していたようだが、カートTNA参戦の報に怒り気味。「（カートは）興味なし！　ファイターとアクターを雇うなら、断然ファイターー！」と言及。ダナさん、アンタも"It's real.It's damn real"だよ！　ということで、See you next month!

Itf's real.It's damn real!

カートは動画サイト「You Tube」で、「WWEは俺を甘く見たら大きな間違いをする」とTNAにおける"ニューアングル登場"を示唆。TNAの挑発にWWEはどう動く!?

イナズマKの

ハードコア・ドクター Special

見てみぃ！　この狂気！　デスマッチマニア待望！　ついに一般人も蛍光灯デスマッチが開催できる時代が到来！　各種イベントはもちろん学園祭、お祭りなど多岐に渡って対応可能とのこと。

名実ともに〝デスマッチの老舗〟である大日本プロレスがこの秋、DDTとともに興行価格のオープン化に踏み切った！　ある意味、プロレス界のタブー？　であった興行価格をなぜ公開したのか？　大日本プロレス取締役、登坂栄児氏を直撃した!!

デスマッチ、買いませんか？ 大日本プロレス、興行価格オープン化の真相

――今回、大日本さんは「興行値段を公開して販売」という、プロレス界始まって以来の画期的な決断をしたわけですけども。

登坂　いやいや、そんな大げさな（笑）。僕らはいつも他団体に迷惑かけちゃいけないと思ってますし、こんなことして大丈夫かなぁ、って葛藤もありましたから。

――その上で価格オープンにしたのは？

登坂　やっぱり興行を買う側にしたら、値段が曖昧なものは手が出しにくいですよね。これだけネット社会になって、商品の料金が明確なものとそうでないもの、どっちを買うかと考えれば、答えは明らかですし。それに、プロモーターが少なくなってきたのも大きいです。いままで、興行を売る側としては、興行のプロにお願いしたほうがリスクが少ないし、確実だと思ってたんですが、そういう方が少なくなってきて……。

――プロモーターが減ってきた理由は？

登坂　プロレスのパワーが落ちてきたことと、プロレスでプロモーターが儲かる図式が難しくなってきたことでしょうね。昔は地方のプロモーターといえば、演歌歌手や芸能、プロスポーツを呼んで、オラが町を盛り上げたんでしょうけど。いまや地方も高速道路や電車が発達してるから、わざわざ自分の町に呼ばなくてもいいんですね。

――地方のインフラが整備されたことで、逆に地方興行が苦境に立ってしまったと。じゃあ、今回は新しい顧客を見つけるためのオープン化なんですね。発表してから日は浅いですが、目に見えた効果は？

登坂　正直、現時点では、まだ問い合わせレベルですね（笑）。

――でも個人でイベントをやりたい人とか、中規模で利益を出してる会社とかターゲット層も広くなりますよね。

登坂　ええ。いままでは、メジャー団体がいてこそのインディーという側面もあった。でもプロレス界がこういう状況ですから、本当の意味で興行のニュースタンダードを作りたい気持ちはありますよ！

――興行の値段で「デスマッチが含まれる、含まれない」とかってありますか？

登坂　いや、大日本のデスマッチは「お金次第でやります」ってことはないし、会場さえデスマッチができる環境なら、蛍光灯でもどこでもやらせていただきますから！

――それは凄い！……でも〝蛍光灯100本デスマッチ〟は難しいですよねぇ？

登坂　まぁ、そこは応相談です（笑）。

――ハイ（笑）。そこで気になるのは、いままでで一番費用がかかったデスマッチを教えてほしいんですが。

登坂　だいぶ前ですけど、大宮でやった〝人間闇なべデスマッチ〟ね。電球のやつです。

――あーっ！　電流爆破みたく、たくさんの電球がぶらさがってて、選手がぶつかるとショートしてくあの試合ですか。

登坂　費用対効果では一番ダメでした。小鹿社長がやってたんで詳しくわからないんですが。200万以上かかってましたね（笑）。

――電球だけで200万円以上！

登坂　社長が「これは絶対にヒットする！」って、特殊な電球をいっぱい買わされてましたから（苦笑）。コストがかかったのは昔のほうが多いです。〝風船画鋲時限爆弾デスマッチ〟も、120万くらいかかったし。本当の原価がどのくらいかわからないけど。これ見て「ウチならもっと安くやれる！」って業者さんがいれば連絡いただきたいです（笑）。

――逆に安あがりなデスマッチは？

登坂　〝サソリ・サボテンデスマッチ〟じゃないですかね。本来は高価なサボテンを、人づてに伊豆のシャボテン公園から特別に譲っていただいたんです。費用対効果でいえば、本当によかったですね〜。お客さんもたくさん入りましたし。

――しかもあのサボテン、試合後、輪切りにして売ってましたよね？（笑）。

登坂　酷いよね〜。せっかくいただいたものを売ったりして（笑）。

――ちなみに、04年に横浜文体で伊東竜二vs非道戦で使用した大がかりな〝蛍光灯ねずみ取り〟の装置は？

登坂　あれは安かったですよ。12万円！　そのあと3回も使いましたから。一回4万円と思えば、非常にリーズナブルで（笑）。

――あれはまた観たいですよ（笑）。あとデスマッチで使用する蛍光灯をファンから募集して一時期ストップしてましたが、最近また募集を再開してますね。

登坂　「お一人様、10本から」という形で再開してます。いただけるのはもの凄〜くありがたいんですけど、一時期ドンドン来ちゃってね。純粋なファンには悪意はないんですけど、徐々に悪意があるような方からも送られてきて……。いきなり600本送られてきたり。

――600本！　それって産○○者とかなんじゃないですか。

登坂　さらにひどいのは着払いなんですよ！　それで会社が蛍光灯だらけになっちゃって。

――それは大変でしたねえ。でもストック的にはだいぶ落ち着いた感じですか。

登坂　備蓄額としてはちょうどいいくらいです（笑）。

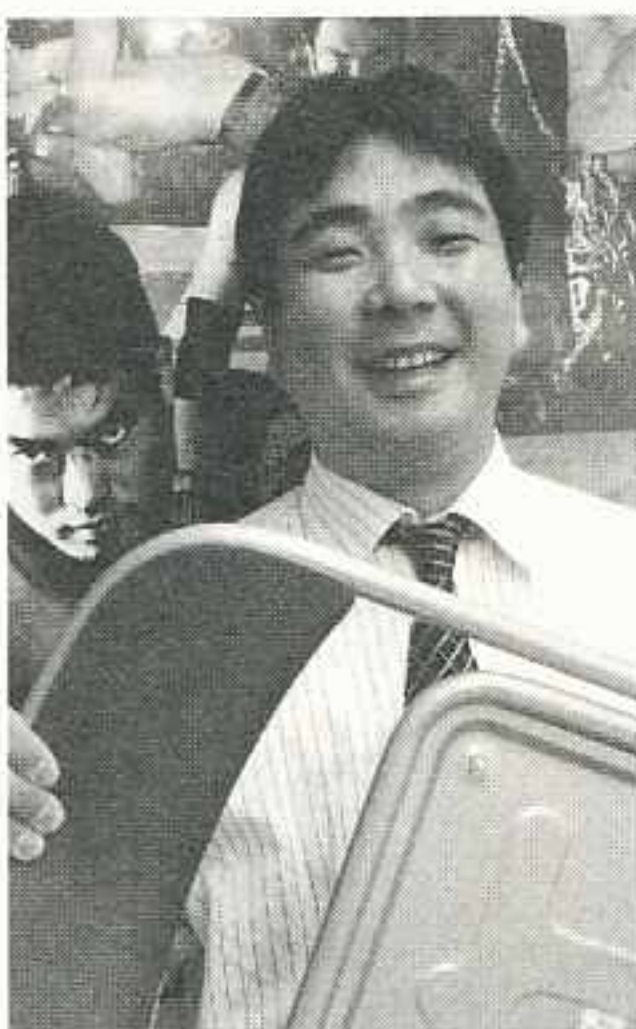
――これから蛍光灯に変わる新アイテムも考えてますか？

登坂　いや〜。自然に出てくるぶんにはかまわないですけど、あまり考えてないですね。

――それは理由があるんですか？

登坂　ええ。プロレスの技術だけ見たら、ウチの選手より凄い選手はいっぱいいますから。鈴木健想選手が大日本に上がったときも「これはケタ違いに凄い」と思いましたし。ああいう体力や技術を持ったレスラーが来たら、君たちはいままでの地位ではいられないよと、僕はそういう気持ちもあるんです。デスマッチのアイテムに頼るより、レスラーとしてまだまだ伸ばせる部分があると思うんですね。

――今後のグレードアップに期待してます！　個人的には、大日本は夏フェス向きだと思うんですよ。『フジロックフェスティバル』にはサーカスのテントもあるけど、蛍光灯マッチのほうが盛り上がると思うし、どうですか？　音楽プロモーターの皆さん!!　と最後にアピールしてみました（笑）。登坂さん、今日はありがとうございました！

【06年10月7日／大日本プロレス事務所にて取材】

とさか・えいじ■1971年3月25日生まれ。東京都足立区出身。91年にSWSの新入社員で採用され、分裂後はNOWに移籍。95年の大日本プロレス旗揚げ時に統括部長に就任。団体の現場監督として絶賛活躍中。

予算に合わせて、選べる3タイプ！ 大日本プロレス興行価格

大日本プロレス通常興行
通常の大日本興行が開催可能
[通常価格] 120万円→ [鬼笑価格] **72万円**

どこでも大日本
イベントでの試合提供、選手のイベント参加もこちら
[通常価格] 60万円→ [鬼笑価格] **48万円**

大日bit
所属選手をメインにした
通常興行の半分程度の規模（試合数）での企画
[通常価格] 60万円→ [鬼笑価格] **40万円**

★鬼笑価格とは「半年以上先の大会」の企画をお持ち込み、あるいはご契約いただいた場合は、興行代金を通常料金の50%〜30%値引きするシステムです。

詳細は
http://www.bjw.co.jp/oniwara/index.html

金ちゃんのどこまでやるの？

イラスト◎中川画伯

●第8回● パンツ破れ事件の真相

ちょっと遅くなったけど、今回は8・15『エンセン井上プロデュース興行 心~kill or be killed~』での久々の勝利について書こうかな。アブドルザコフ・ルスランというロシアの打撃系選手と闘って、ヒールホールドでの一本勝ち。俺にとっては久々の勝利で、ホントだったら感動の復活になるはずだったんだけど、試合中にパンツのケツの部分が破れちゃってさ。それが気になって気になって、勝利の喜びに浸るもクソもなくなったよ（笑）。

これはタックルでテイクダウンしたときに破れて、自分でも「ビリッ」っていう音が聞こえたから、「やばいな」と思ったんだけど、穿いてる感触はあるし、自分のケツがどんな状態になってるかわからなかったんだよね。それがまさか、パンツの表面があんなに大きく破れて、裏地が丸出しになってたとはね……。しかも、よりによって裏地が肌色なんだよね。おかげで、遠くから見たら、白いケツが丸見えになってるみたいになっててさ。ホントはあの裏地の下に、さらに黒いアンダーパンツ穿いてるから、べつに恥ずかしいことはないんだけど。裏地が肌色なおかげで、ケツ丸出しと同じぐらい恥ずかしい格好になっちゃった。

だから試合後、コスチューム屋さんに「これからは裏地は肌色じゃなくて、黒にしてください」って言ったからね。これでもう次からは破れても大丈夫だけど、いまごろ対処してももう遅いか（笑）。

ホントにさぁ、あのロシア人にコスチューム代を請求したいよ！　ビデオで確認してみたら、俺がタックルいったとき、思いきりパンツつかんで引っ張ってたからね。普通、コスチュームって破ろうと思っても破れないぐらい頑丈なんだけど、ちょうどタックルいったときだからパンツが張ってるときで、そこに表面の生地だけが指に掛かって力が入ったから、うまいことといろんな要素が重なり合って、破れちゃったんだよね。それで奇跡的に裏地だけ丸出しになっちゃったんだよ。こんなところで奇跡は起きなくていいのにね。

そういえば、いま思うと、試合前にパンツが破れる予兆みたいなものがあったんだよ。試合の二週間前ぐらい前、練習休みの日に、家にあるビデオの整理をしてたらさ、昔のプロレスビデオ、前田日明&木戸修組vsディック・マードック&マスクド・スーパースター組っていうのが出てきてさ、懐かしくて見てたんだよ。

場外乱闘でマードックがリング内に戻ろうとしたら、前田さんがタイツ引っ張って、マードックのケツが丸出しになるシーンがあってさ、それ観て大笑いしてたんだけど、まさか二週間後に自分が同じような目に遭うとは思わなかったよ（苦笑）。いま思うと、あれは神様からの警告だったのかな~。場所も同じ後楽園だから、マードックの霊が降りてきたのかな。ちょっと今度、前田さんみたいに『オーラの泉』で霊視してもらったほうがいいかもしれない（笑）。

まぁ、冗談はともかく、パンツは破れたけど、とにかく勝ててよかったというのが、素直な感想だよね。リングス活動停止後、ヒザの大きな手術をしてから初の勝利を挙げて、ようやく再スタート地点に立ったところだから。これからだよね。

この本が出る頃には終わってるけど、次の『MARS』の試合も頑張るよ。この試合は会場が両国国技館だって聞いて、出場を決めたんだよね。国技館の支度部屋にはお相撲さんが入る大きな風呂があってさ、これが気持ちいいんだよ。この風呂に入りたくて『MARS』に出るようなもんだから。俺も全国のいろんな温泉とか行ってるけど、国技館の風呂はホントに最高だからね。ぜひ10・28『MARS』もスッキリ勝って、湯船に浸かりたいよね。

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

ブッカーKの ぶっかけ！ 格闘裏情報

第10回 私だけが知っている"寝技の祭典"アブダビ・コンバット

"寝技世界一の祭典"アブダビ・コンバット（以下、ADCC）の日本協会となるADCC JAPANがこのたび正式に設立されました。これまでも私は日本チームのマネージメントや予選大会に携わってきましたが、今後は渉外部の一員として同協会で動いていくかたちになります。

私とADCCとの関わり合いはとても古く、アブダビ現地で行なわれた記念すべき第一回大会のときからです。きっかけは、私がマネージメントをしているヘンゾ・グレイシーがADCC主宰者のアブダビ王子と懇意にしており、ヘンゾが私を王子に紹介してくれました。グラップリング形式で参加しやすいとはいえ、あらゆる団体の垣根を越えて世界中から強豪選手を招聘しないといけないため、選手の手配や大会現地でのスケジュール調整などに関して、ADCCから協力を求められ、第二回大会から日本人選手の派遣やその他ヨーロッパや南アフリカ等の選手を紹介したりしました。

この大会は王子の趣味のように言われてますが、賞金は無差別級優勝で4万ドルと格別に高額ではなく、バブルのような感覚を持って大会運営はされていません。二年に一度の開催も、ニューカマーが登場しやすくなるための配慮。年一度では主な顔ぶれも変わらない恐れがあり、大会のカラーが硬直されてしまう危惧を回避する理由があるのです。

先にも述べましたが、私は海外選手ばかりではなく、日本チームのマネージメントに関わってきましたが、じつは日本のレスリングチームの派遣をプラニングしたのも私でした。

そもそもの発端は、谷津選手が『PRIDE』に出場したおり、私のADCCの話に興味を持っていただいて、当時オリンピックへ向けての全日本レスリングの総監督にして山梨学院大学レスリング部の高田裕司監督に協力を仰いだのでした（高田監督は現在パンクラチオン・チームにも関わっており、また山本KID徳郁を指導していることで有名です）。レスリングチームが派遣されたときの日本チームの団長に谷津選手が就任したのは、そんな理由があったからでした。

このADCCでの思い出を挙げたらきりがないですが、中でも印象的だったのはヒカルド・アルメイダ黒帯授与のドラマチックさです。当時茶帯だったアルメイダは第二回ADCCの99キロ以下級にて、柔術界の大物ヒーガン・マチャドをギロチン・チョークで撃破。第3位という好成績を収めて、大会終了後の船上パーティで師匠のヘンゾら同門の選手たちに胴上げされ、そのまま海に放り込まれる手荒い祝福を受けました。

そして、ヘンゾは海中のアルメイダを救助するため、ヒモのようなものを投げこみましたが、よく見るとそれは黒帯！　こうしてアルメイダは黒帯に昇格したのですが、なんともヘンゾらしい粋なはからいなこと！

次回はニューヨーク開催が予定してますが、日本人選手の活躍を期待しています。

アブダビで実現するのは夢の対決は試合だけではない。アブダビ現地でヘンゾ・グレイシー兄貴と田村潔司の対談が実現している。両雄はリングスKOKで拳を交えたばかりのナイス・タイミングだった。

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

『レディゴン』という響きに極端に弱い男・掟ポルシェがお送りする女子プロ偏執月報『萌え萌え女々苑』。今回は業界の一部で話題騒然、元不登校＆ひきこもり＆対人恐怖症を抱える極度の引っ込み思案レスラー・真琴（17歳）が登場。いまもあまり他人の目を見られない彼女がなぜ女子プロレスを志したのかを直撃!!

真琴　………（視線が定まらず、終始目が泳いでいる）。

掟　だ、大丈夫ですか？

真琴　……あっ、ハイ、すいません……（綾波レイをさらに挙動不審にしたような口調＆消えそうな声で）。

掟　さっそくですが、なんでプロレスをやろうと？

真琴　……えっ、あの、たくさん理由はあるんですが……。

掟　たくさん！　一つ目は？

真琴　……プロレスが好きだったから。

掟　観るのが好きだからやってみたいと。ちなみに好きなプロレスファンなら誰でも考えますよね。ちなみに好きなプロレスラーは？

真琴　……えっ？　あっ（視線をさらに泳がせて考え込む）。

さくらえみ　（※同行した真琴が所属するアイスリボン代表）ＷＷＥ好きなんだよね？

掟　ＷＷＥでは誰が好きですか？

真琴　……女性では、トリッシュ（・ストラタス）が。

掟　トリッシュのようになりたかった？

真琴　……あっ、ハイ？　ハ、ハイ（首をかしげながら）。

掟　さすがにディーバは自分でやるにはセクシーすぎますかね（笑）。ほかには？

真琴　……憧れの方に会いたかったから。

掟　その人は誰でしょう？

真琴　……外人さん。

掟　ＷＷＥのレスラーやトリッシュに会いたい目的でプロレスを始めたと。

真琴　……はい。

さくら　意外とミーハーだったのね？

真琴　……えっ。す、すみません。

掟　ほかに理由はありますか？

真琴　……ちょっと、思いつかないです。

さくら　たくさんあるって言ったのに！（笑）。

掟　でも思い切りましたよね。腕立て伏せが一回もできなかったんですよね？　いや、腕立て伏せの体勢にも入れなかったとか（笑）。

さくら　道場で彼女に「やっていいよ」って声をかけてももじもじしてたんです。それは腕立ての体勢に入れなかったんですね。

掟　そもそも運動経験ってありますか？

真琴　……空手を一ヵ月。

さくら　え～～っ!!　初めて聞いた（笑）。

真琴　……小学生の頃に。

掟　まさかフルコンタクト？

真琴　……和道流空手を。

掟　直接打撃のない空手とはいえ、想像つかないですねぇ……。またなぜ空手を？

真琴　……強くなりたいなぁ、と。

さくら　一ヵ月で何回くらい行ったの？

真琴　……4回だけ。

掟　それじゃさすがに強くなれませんよ！　でもレスラー志望者は、家で筋トレしたりして、腕立て伏せとかもある程度できるようになってから来るじゃないですか。

真琴　……と思ったんですけど……時間がないから。

掟　時間がない！　言うことがパンクですねぇ。それで、さくらえみさんの団体で練習し始めるわけですよね。

さくら　初めはウチの掲示板に「プロレスがやりたい」って書き込みがあって。それで私のメルアドを教えたら真琴からメールが帰ってきたんです。「ワタシは16歳の高校生デス！　☆ガンバリマス！　（>▽＜）ノ」とか絵文字や記号がいっぱい入ってたんですね。その印象のまま会ったらあまりのギャップに驚いちゃって……。

掟　絵文字でメール……友だちみたいな（笑）。実際に練習をやってみてどうでした？

真琴　……死ぬかと思いました。

掟　死ぬかと思ったのによく続きましたね。

真琴　……どうしても、やりたかったので。

掟　普通、腕立て伏せができない時点であきらめそうなもんですけど（笑）。

さくら　人前に出したら自分ができないことに気づくと思ってやらせた部分もあるんです。でも、デビューしたら妙に人気が出てしまって（笑）。彼女も活き活きし始めて。ヤル気もあるし練習量も増えてるし、じゃあがんばればいいんじゃないって。

掟　で、真琴さんはあるときを境に学校に行かなくなっちゃったわけですよね。

真琴　……中学校は、一年間不登校になりました。

掟　学校に行かなくなった理由はなんでしたか。

真琴　……人が怖くなってしまって。

掟　ある日、突然おっかなくなっちゃった？

真琴　……はい。

掟　そのときは家で何してました？

真琴　……ゲームしてました。

掟　そこは意外と優雅です（笑）。ちなみに、なんのゲームを？

真琴　……『三国無双』。

掟　三国志のゲームですよね。三国志では誰が好きですか？

真琴　……貂蝉（ちょうせん）。

掟　すいません、聞いといてなんですが、顔がまったく思い浮かびません……蝶野みたいな感じかなぁ（適当）。ゲーム好きなんですか？　最近のオススメは？

真琴　……『三国無双』。

掟　やり込みすぎですよ！（笑）。

さくら　この前、「『三国無双』をやってるときは、刀でバッタバッタ殺すんでしょ？」って聞いたら、なぜか大笑いしちゃって（笑）。人を殺すゲームが好きみたいで。

掟　根っこはけっこう残虐なんですかね。あと、この連載は萌えがテーマなので、好みのタイプの男性を聞きたいんですが。

真琴　えっ、あっ、……わかりません。

さくら　『三国無双』の誰かにたとえたら？

真琴　……えっ……張郃（ちょうこう）。

掟　チョウコウ？　どんな性格ですか？

真琴　……オカマ。

掟　ゲイキャラ萌え！　ヲタ属性がありそうなので、徐々に試合に反映させていってほしいですね。ところで、得意技は？

真琴　……ないです。

掟　得意技、なし！（笑）。潔すぎます！　今後はどんな技をやってみたいですか？

真琴　……トリッシュのストラタスファクションが。

掟　俺的には、風貌や経歴が似ている長嶋美智子さんのように、ゆくゆくは机ダイブやハードコアまでこなせるようになってほしいですね！　ＷＷＥよりＥＣＷで！

真琴　……えっ？　あっ（固まる）。

掟　無茶なこと言いすぎました……。

第12回
真琴
（アイスリボン）
の巻

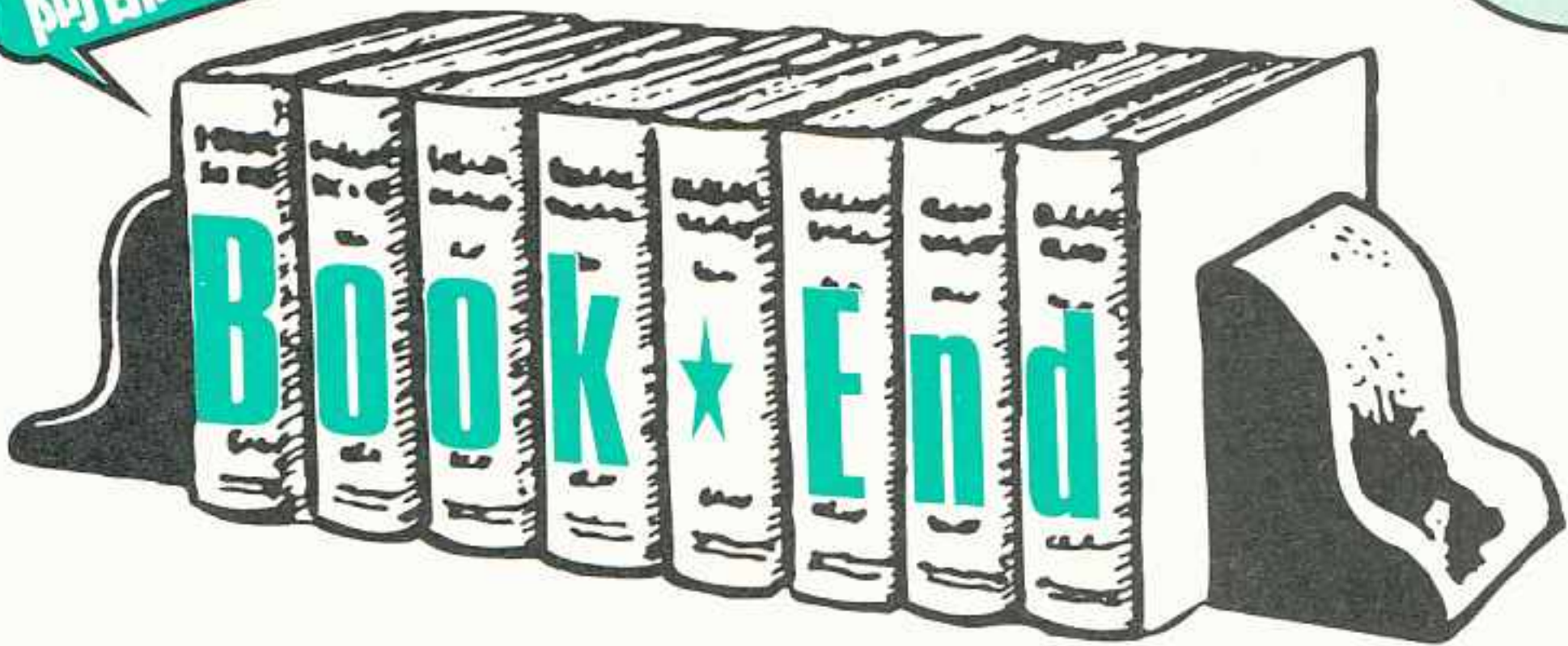
まこと■1989年生まれ。17歳。166cm。51kg。今年2月、さくらえみ率いるマットプロレス団体『アイスリボンプロジェクト』入門。対人恐怖症を抱える元ひきこもりで体力のない挙動不信な無気力ファイターという超異色レスラーとして登場。9月17日にNEO後楽園ホール大会「元気美佐恵＆りほvs植松寿絵＆真琴」戦で本格プロデビュー。10月15日にはアイスリボン東京大会でメカマミーと対決するなど一部で話題沸騰中！　さくらえみの真琴観察ブログ『日刊真琴コール!』はhttp://blog.goo.ne.jp/nitimako/

10/15、都内会場でメカマミーと対戦した真琴。自らロケットパンチを装着＆発射するもパンチはメカマミーの1メートル手前に落下、最後はロケットパンチで完敗。同日第2部ではチェリーとともに再度メカマミーに挑むも今度はチェリーを見殺しに。次はあるのか？

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
■『ロマンポルシェ・ツアー日程』11・17（金）仙台CLUB SHAFT（022-722-5651）／11・18（金）神戸トゥループカフェ（078-321-3130）／11・22（水）新宿ロフト（03-5272-0382）／その他の出演情報は掟ブログを各自参照！
【http://blog.excite.co.jp/porsche】

臨時企画

阿部タケシの Book★End

観衆を笑わせ、泣かせ、怒らせてきたエディは最後まで世界中のファンの愛を独占し続けた！

WWE日本大会の開催のタイミングで一冊の自伝本がリリースされた。この著者の名前はエディ・ゲレロ。世界中で〝天才〟の名をほしいままにしていた彼が書き残した人生は、じつに壮絶きわまりない波乱の連続だった。アメプロライター・阿部タケシが紹介します！

38歳でこの世を去ったエディ・ゲレロ。彼が亡くなり、そろそろ一年が経とうとしている。昨年、WWEより発売になった『エディ・ゲレロ自伝』が、10月18日に日本でも発売となった。

この自伝が発売になるまで、エディの波瀾に満ちた人生は一部で耳にしていたものの、それはどれも噂のレベル。エディの過去を振り返るDVDはリリースされているが、これといって踏み込んだ話は触れられていなかった。本人の口から語られる真実、これに勝るものはない。この本は父、3人の兄、すべてがレスラーだったゲレロ家に生まれたエディ自身の本音、エディを支え続けた妻ヴィッキーとの出会い、別れ、そして再会。サーキットばかりの生活で飲めなかった酒の味を覚え、おぼれていく様子。さらにドラッグなしでは生きることができなかった自虐時期や主に服用していた薬の名称、それに伴なう副作用や幻覚などを本人自らが記している。

「ハルシオンあるぜ」、「やめておくよ」。

そう言っていた俺も、しばらくすると自らの不安を踏み越えるようになっていった。アートにパーコセットとペルコダンという鎮痛剤を覚えさせられた。それほど強くはなかったが、効き目が早く非常に中毒性が高かった。俺はパーコセットとペルコダンに夢中になってしまった。なんともたまらない幸せな気分になり、鎮静剤を飲んだときの特有の暖かさと快楽に魅了された。

心は痛む。俺ができることは何でもして、ただ痛みを消し去ろうとしていた。マリファナを吸い、エクスタシーを大量に摂り、文字通り手に届くありとあらゆるものを摂取した。誰かが薬をくれたら、それが何だか聞こうとさえしない。パーコセットという鎮痛剤を細かく刻んで、それを鼻から吸い込むような、正気ではできないことまでしていた。

さらに、あの〝トランザム大破事故〟のことも克明に記されている。そのときエディは多量の飲酒、服用していたドラッグを普段より多めに飲んでいた。当時のエディはプロレスラーとしての才能に疑心に駆られ身体中をバンプの代償が蝕んだ。プライベートでは酒におぼれ、さらに妻との関係は最悪。痛み止めとしてドラッグを飲むが、これが癖になる日々。ある夜、また妻と些細なことで口論となり、深夜3時、当時の愛車であるトランザムで家を出た。止めたくても止められない。そんな自分の心の弱さにも嫌気が差す毎日にエディは心底死にたい気分になっていた。

「これか？ 俺が一生を懸けてやってきたことって、これなのか？」

そう思わずにはいられなかった。俺がいつもヴィッキーと喧嘩していたことはさほど問題ではなかった。あの夜は酒、ドラッグに頼る悪い感情がピークに達してしまったのだ。俺の中にできた穴が、ただ大きくなりすぎてしまったのだ。レナトリエンをキャップで5杯飲んだら、寝てしまうであろうことはわかっていた。

遠のく意識の中、アクセルを目いっぱい踏み込み愛車トランザムのパワーに酔いしれるエディだったが、このときトランザムは大破を起こし、エディは病院に担ぎ込まれた。

なんでもトランザムは何度も回転し続け、上から踏み潰したアルミ缶のような状態になっていた。しかしエディは一命を取り留めた。私自身、これは神様が助けたんじゃないかと真剣に考えた。この事故を経験しなければ、エディは真剣に〝人間として〟当たり前の姿になろうという決心ができなかった。自分を見つめ直すきっかけなった。それにレスリングへの情熱も取り戻した。この事故は明らかに神様が仕向け、神様によって助けられたんじゃないか、そう思わせる事故だった。

エディが天才と呼ばれた理由。生まれもっての才能もさることながら、過ごしてきた環境にも触れている。「プロレスは自分を愛させ、自分を殺したいと思わせる。俺にとってはまるでドラッグ。プロレスに勝るモノはない」と生前語ったエディだが、二代目ブラックタイガーとして活躍した新日本プロレス時代は、観衆を沸かせる術を手に入れ。ECWではプロレスのおもしろさを知った。そのすべてをWWEで開花させた道筋はじつに興味深い。

繊細でナイーブ。さびしがり屋で気の小さかったエディ・ゲレロが、酒とドラッグにおぼれたどん底の人生から、天才と賞賛されるまでの生涯。

生前、WWEでファンとともに笑い続けたエディだが、その笑顔の裏側にはさまざまな闘いがあった。あの笑顔の裏側には、何があったのか？ エディ・ゲレロ自伝にはそれがすべて書かれていた。

※WWE Filmsはエディ・ゲレロの生涯を映画化することを検討している。

観客を幻惑する「ズルしていただき！」なファイトスタイル以外でも器用にこなす。90年代の新日本ジュニア黄金時代を支えた実力は超一流だった。

400ページを超えるボリュームに、亡くなる直前にエディ・ゲレロが熾烈な生き様を記した今年最重要単行本。帯文をTAJIRI、エディを偲ぶ前書きをビンス・マクマホンが執筆している。WWEファンだけではなく、プロレスを愛する人ならきっと本書で心を打たれるだろう。全国書店で絶賛発売中！ ［定価＝本体価格2400円＋税／エンタープレイン刊］

Abe Takeshi◎知って得しないことだが、WWEモバイルで連載開始。さらに週刊ヤングジャンプ誌に初進出（ビッグショー&トリー・ウィルソンにインタビュー）。WWE来日前になると忙しくなる〝季節労働者〟。「近況は？」と聞かれても話せないことばかりの34歳。

ついに実現!! ハードゲイvs髙田総統の闘う化身

ホンバン、フォー!!

究極の切り札で去年の絶頂を超える!!
11.23ハッスル・マニア2006

奇跡の盛況で世間を巻き込む盛り上がりを見せた昨年の『ハッスル・マニア2005』を超える!? “髙田総統の闘う化身”ザ・エスペランサーとHGの頂上決戦が確定的となった11.23『ハッスル・マニア2006』! ホンバンまでの流れはもちろんのこと、“髙田総統の友人”髙田延彦PRIDE統括本部長や、そして眞鍋かをりまでもがその魅力をセイセイセ〜イと激語り!! TAJIRI×キンタローのエロ漫才も必読だ!(18歳未満は立ち入り&立ち読み禁止です)。

撮影/山口比佐夫 designed by hisa (TwoThree)

古びたプロレスの価値観を土足で踏みにじってこそハッスルだ!!

せ〜の! M字開脚のMは、mixiのMだよねっ! ……たしかにいまの世間的にはそうかもしれないが、最近『ハッスル』で「ま・ご・こ・ろぉ〜〜っ!!」と絶叫しながらM字開脚してくださるニューリン様の辞書を引けば、M字開脚のMは「真心のM」と記されている。

なぜ真心? ど〜して!? と考えてこんでしまう前に、観る者の思考を停止させるニューリン様のセクシーシャウト&アクションときたらどうだ。ええ、モチ真心のMですよ! と即座にレスポンスしてしまうほど洗脳されてしまったスケベエな男性読者も多いことだろう。

このように、『ハッスル』はあらゆる異物や違和感などを、グレートな〝力技〟が生み出すショッキングさによって定着させてきた歴史がある。あの髙田総統しかり。挙げだしていけばキリがない。11・23『ハッスル・マニア2006』でHGと激突する〝髙田総統の闘う化身〟ザ・エスペランサーも、本来ならば到底受け入れられるはずのなかった怪人だった。

ザ・エスペランサーの誕生は、〝フジショック〟に伴う『ハッスル・エイド』全国放映緊急中止によって、崖っぷちへと立たされた『ハッスル』が放った〝仕組まれた偶然〟であり、土壇場でイベントを救ったその名のとおり〝希望〟(=エスペランサ)であった。

〝タマアゴ〟から生まれてくるはずではなかった怪人は、観る者すべてがその出で立ちに唖然とし、鉄の決意と揺るぎない覚悟にビビってたじろいでいるあいだに、『ハッスル』及びプロレス界での居場所をいとも簡単に作り上げた。

逃げも隠れもせずに満天下の中へと一歩踏み出したその行為。これまでの髙田総統の〝聖なる暴走〟もさることながら、その足跡は道しるべとなり、『ハッスル』の、そしてプロレスの新しい道筋を切り開いていったともいえる。

そのザ・エスペランサーとHGの激突は、高品質の試合内容が期待されている。しかし、我々がもっとも望んでいるものは、古いプロレスの価値観を土足で踏みにじることによって、プロレスとは何かを考える気づきを創り、そうして新しいプロレスの可能性を拡げていく行為だ。それこそがこれまで『ハッスル』が築いてきた信頼であり、古びたプロレスの価値観を勇気を持って踏みにじってきた〝あの男〟こその本領といえよう。

11・23『ハッスル・マニア2006』——。

プロレスを土足で踏みにじる凶暴さの中に、プロレス界の真の希望が見えてくるはずだ!!

(ジャン斉藤)

11.23ハッスル・マニア2006 ザ・エスペランサー

「こりゃあ、たしかに犯罪スレスレですねえ……」と法学博士の板倉教授（P147参照）も絶句させてしまった『ハッスル19』（大阪大会）の〝敗者M十字架はりつけマッチ〟。その過剰な〝いかがわしさ〟っぷりは写真を見れば一目瞭然！

試合途中でパートナーや相手の身動きがとれなくなる、というはりつけや拘束の拘束アイテムは過去のプロレスの状況設定にもあったことはあった。

だが、今回、ショッキングだったのは単純だが〝男性が女性を辱めてる〟というビジュアルインパクトだろう。

それが元〝俺だけの王道〟だった川田利明ということ（実際、ある著名な編集者も「川田にこんなことやらせちゃダメだろぉ！」と真剣に怒っていた）。それから、失礼かもしれないがニューリン様という〝辱め〟シチュエーションが映える、ある意味プロだったことも大きい。

当事者である〝モンスターK〟川田の発案で実行された今回の〝敗者M十字架はりつけマッチ〟は「勝者は敗者を縛り付けて一分間好きにできる」というもの。

試合前のスキットでは「あの女の大股開き、見たいだろ？」と狂気の向こう側に踏み込んだ不気味な笑顔で「……何なら虫眼鏡持ってきてもいいぞ」と語る川田に、髙田総統と違った意味で、「この人はどこに向かっているのか？」と不安になった人は多いだろう。

いずれにしても『ハッスル・マニア2006』目前に川田という演者の存在感が俄然、突きぬけたのは間違いない。

思えば昨年の『ハッスル・マニア2005』のエンディングシーンはこの二人（正確にはニューリン様の母親のインリン様と川田）の絡みだった……。『もののけ姫』のテーマが流れる中、瀕死のインリン様を運ぶ川田。なぜかわからないが泣きたくなってしまうハッスル史上屈指の名シーン。あの場面から一年……。川田は？　ニューリン様は？　今年の『ハッスル・マニア2006』はどんな進化した「つづき」を魅せてくれるのか？

10.6 ハッスル19

（大阪府立体育館）

「美味しいものは先に食べるほうでな（ニヤリ）」と試合中にニューリン様をM十字にはりつけた川田は観客に「中が見たいか?」と胸元を引きちぎる悪行三昧!

きれない!!

「モンスターK!　なんだ、このオチはよ!」とM十字架に貼りついた川田に吐き捨てる髙田総統。怒りの総統は川田を戦力外通知もモンスター大将の助言で再チャンスを与える。あぁ、美しき師弟愛!!

川田の嫌がらせフリータイム（1分間）がスタート!　小川が『怪物くん』チックなヒゲを落書き!　HGは秘密のくすぐり棒で乳首を刺激!　ニューリン様もしばいて、しばいて、しばきまくる!　ウリャアアア!

「真心ぉ～!」と叫びつつの"新M字固め"で川田をフォールしたニューリン様は、さきほどの屈辱を晴らすべく「はりつけ台に行けよ!」と川田へブチギレ寸前!　川田もすんなり応じるのだった。

これからはM字のMは真心のMだよ!

"M十字はりつけマッチ"の話題で盛り上がるハッスル軍控室。だが、ニューリン様は「世界中の人々をアタシのM字でハッスルさせる。これからは、M字のMは真心のMだよ!」と力説!

文／真下義之
撮影／平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

その希望、凶暴につき ロード・トゥ・『ハッスル・マニア2006』

緊迫するハッスル状勢を総まくり

ロード・トゥ・『ハッスル・マニア2006』 “絶頂”まで、待ちきれ

時は来た！ とうとう来た！ エスペランサー、ついに再降臨！ エスペランサー、エスペランサー、

約半年ぶりの『ハッスル』登場は、豪華でアイディア満載だった今回のメインイベントさえ、オードブルみたいな印象に変えてしまった。

メインの決勝フォールを奪ったHGは、エスペランサー戦の権利を宣言。たちまちニューリン様と小川がストップをかける。とくに小川には力がこもっている。「俺はな、この2年10ヶ月、ずっと髙田と闘うためにハッスルしてきたんだよ！」。ここで髙田の『泣き虫』（幻冬社）や橋本真也がフラッシュバックした人はどれくらいいただろう？

もちろん、『ハッスル』の歴史の原点は小川と髙田の歴史だ。だが、いまでは『ハッスル』という舞台の様相、かたちや色、匂いや手触りはだいぶ違ってきている。でなければ、この日のメインでニューリン様が天龍源一郎の胸にミドルキックを叩き込んでいるハズはない。実際、こういった現在の『ハッスル』の流儀にのっとった上でエスペランサーが選出したのは、HGだった。

「いったい、このリングで誰が一番光れるのか？ 誰が一番求められ、誰が一番愛されているのか？」。ロープにもたれて悔しさをアピールする小川直也。その姿はポーズか？ ポーズじゃないのか？ 本当は誰もわからない。

ここ一年間の『ハッスル』は内容的には“花”よりも“実”を固める期間だった。実際、どの大会も非常にクオリティが高く、そういう意味で『ハッスル・マニア2006』のエスペランサーvsHGは、現行で考えうる最高の切り札カード。

『ハッスル』は、エスペランサーを使い、わざわざカードを切って、選ぶ過程を観客にキッチリ見せたことで、『ハッスル』をもう一度、定義しなおしてみせた。

いずれにしてもカードは切られ、サイは振られた。11・23横浜アリーナ、そこには、どんな絶頂が快楽と興奮が待ちうけているのか？ しかと見届けたい。

10.9 ハッスル20 （愛知県体育館）
エスペランサーの対戦者に選ばれず、ロープにもたれ落ち込みを露にする小川直也。哀愁溢れる背中に、去来するものはいったいなんだ？

「なぜ、キミたちはたった一つの命を粗末するんだ？」HGが川田に勝利するとビジョンに髙田総統が登場！ なんとエスペランサーの相手はエスペランサー自らが、いまここで選ぶとアナウンス。

「う、うらやましい!」と思わず男性ファンの愚息も昇天してしまいそうなニューリン様＆HGのダブルアームブリーカーをこの日が初公開! ここからさらに恥ずかし固めに移行!

プロレスを越えた“超禁断”対決「天龍vsニューリン様」がついに実現! ゆっくりと構える天龍にニューリン様は思い切りのいいミドルを披露! 胸元のゆがみがその威力を証明している。

ハッスル軍控室でエスペランサーの相手に関して討論中、キャプテンは「いいか! エスペランサーが出てきたら、俺が行く! 行くったら行くんだ! これはキャプテン命令だ!!」とズバリ断言!

ニア2006』直前大展望!!

過去、ハッスルのリングに上がった芸能人年表

2004年
5月8日『ハッスル・ハウスvol.1』
★ダチョウ倶楽部リーダー 肥後克弘（ハッスルボーズのみ）
12月24日 『ハッスル・ハウス　クリスマス・スペシャル』
★インリン様（初登場でM字ビターン！。以後、レギュラーに）

2005年
2月11日『ハッスル10』
★インリン様（プロレスデビュー）
7月13日『ハッスル10』
★HG（エンディングに初登場。以後、レギュラーに）
7月15日『ハッスル11』
★キダタロー（KIDATA・ローのセコンド）
9月8日『ハッスル・ハウスvol.9』
★魔邪（GM総選挙の投票説明）
10月27日『ハッスル・ハウスvol.10』
★和泉元彌（バルコニーから初登場）
11月27日『ハッスル・マニア2005』
★和泉元彌&HG（プロレスデビュー）
★猫ひろし（金村、田中組セコンド）
12月25日『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル』
★RG（オープニングで初登場。以後、レギュラーに）
★江頭2:50（大谷激励のため、初登場）

2006年
2月10日『ハッスル・ハウスvol.11』
★マイケル（ハッスルオーディション参加）
★青木裕子（以後、坂田軍マネージャーに）
4月20日『ハッスル16』
★島木譲二、ユウキロック、キャプテン☆ボンバー（なかやまきんに君）、有酸素運動マン（以上、吉本興業提供試合）
3月5日『ハッスル14』
★電撃ネットワーク 南部虎弾（金村、田中セコンド）
4月23日『ハッスル・ハウスvol.14』
★カイヤ（初登場。リング上から挨拶。以後、レギュラーに）
6月17日『ハッスル・エイド2006』（さいたまスーパーアリーナ）
★有田総統（オープニングに登場）
★カイヤ（プロレスデビュー）
8月8日『ハッスル・ハウスvol18』
★江頭2:50（川田とトークバトル）
9月7日『ハッスル・ハウスvol.20』
★アントキの猪木（GM総選挙投票の説明）
11月23日『ハッスル・エイド2006』
★……えい子登場、なるか?

1

みんなの憧れ

交渉人 坂田亘（GMW）、ブッキングに成功!?
「えい子の登場」はあるのか？

「こんのヤロォ〜！」と『ハッスル20』でオープニングに登場した髙田総統は、坂田にGM不信任案をちらつかせ「いやなら君の彼女を『ハッスル・マニア』に連れてきたまえ！」と脅迫？

今日も今日とてアル・パチーノよろしく『ゴッドファーザー』の重厚なテーマで登場した坂田GMことGMWは、「俺様が来年こそ、地元名古屋での『ハッスル・マニア』を誘致してやる!」と、またもやオレ様流の大風呂敷!

「よ〜し！　いいだろう！　『ハッスル・マニア』に必ず〝えい子〟を連れていく！」（坂田）。

この衝撃発言は『ハッスル20』（名古屋大会）のオープニングで爆発！　あの髙田総統ですら「いいんでないかい？」と満面の笑顔を見せた。

もし本当に〝あの人〟が『ハッスル・マニア』に上がるなら……ニューリン様&カイヤとの夢の巨乳対決や坂田とのタッグ。そしてかつての同僚、髙田総統とひさびさ……いや初遭遇!!　と夢は膨らむ一方。

だが、一筋縄でいかないのもハッスル・ザ・ワールドの醍醐味。正体不明の〝タマアゴ〟もヒントと一致しない、素敵な大間違い（エスペランサー）を用意したくらいである。

だが、近年のハッスルは大舞台で必ず芸能人を投入し〝環状線の外側〟向けへのアプローチを行ってきたし、今回もどんなに思い切ったサプライズが出てもおかしくない。

〝あの人〟はあの人なのか？　その答えはもう、まもなく出る！

大阪に帰ってきたぞ！ こんのヤロォ〜!! 10.6『ハッスル19』（大阪府立体育館）TOPICS

「……オイ！ 忘れちゃったよ!!」
大ハプニング！ 髙田総統がまさかのセリフ失念！

髙田総統に大ハプニング発生。場内からなぜか「おめでとうございます！」と声が飛ぶと「それはなしにしてくれよ」と注意。そして「オイ！忘れちゃったよ！　ちょっと持ってこい！」とセリフ失念。慌てて台本チェックする総統だった。

連敗カイヤが失速も……ハカイヤーがスゴイヤー!!

「ギャハハハ!」と絶叫する一方、長い手足を使った豊かな表現力で魅せまくったのが「カイヤのDNAから生まれた」ワイルド・ハカイヤー。パワー、テクニックでも本家を凌駕!

カイヤ、プロレス第2戦を前に母パトリシアさんが永眠……。あえてアメリカには戻らず日本で練習を積んだカイヤだったが、ハカイヤーそしてアン・ジョーにいいようにいたぶられ、ドン底状態に。

「GMW! GMW!」と会場を無理矢理先導するRGの背後から、「オイ! 犬のクソ! なんだこの微妙な反応は!」と容赦なくカー杯、蹴り付ける非情な坂田GM。

勝敗は度外視で、人気者のハッスル仮面イエロー拉致実行犯となったアン・ジョー司令長官。だが予想以上にデカかったのか、ひもで結べず、最後はリヤカーで強制退散!

「ロー! ロー! KIDATA・ロー!」（合唱しながらローキック）と大阪限定のあのモンスターが今年も帰ってきやがった! 惜しむらくはキダタロー先生の来場はならなかった。

「天龍のオジキ!」とかつて熱い契りを交わした坂田と天龍が反目し『ハッスル・マニア』のエスペランサー戦をかけ真っ向勝負! パンチ、チョップが交錯する大乱戦を天龍が制した。

ど～なってるの!? そこが知りたい!! 『ハッスル・マニア

2 祝！ ハッスルスーパータッグベルト奪取！ 「踊る3D劇場」拡大か？

「ゲラップ！ ゲラップ！ ゲラップ！」と今日も世界のどこかで「ゲット・ザ・テーボ～！」と大合唱、机をデストロ～イ！ してるに違いない〝ミスター・ハードコア・タッグ〟チーム3D（ババ・レイ&ディーボーン）がついにハッスルスーパータッグを獲得！

こりゃあ、世界的タッグの3Dがハッスルに本腰を入れてる証拠！ 実際、彼らのアイテムもテーブル、イス、ゴルフクラブにキーボード！と過剰にエスカレート。

もちろんアイテムに頼らない変幻自在のサイコロジーも健在、『ハッスル・マニア2006』の中核を担うべく、初のタッグ防衛戦が組まれる可能性は大。相手はやはりハードコア日本代表選抜のあの二人なのか？ この秋、日本最高のプロレスイベントで極上ハードコアが展開される！

「ミンナ、ガンバッテ～！」（頭を振り乱しながら）と大阪大会で金村&田中、名古屋大会でErica&マーガレットとソドム&ゴモラの3WAYで完勝。連戦連勝のチーム3D。もはやハッスルに敵はいない？

3 その一歩が道となる？ 〝迷走〟カイヤ、ニューリン戦に踏み出す？

デビュー2戦目ではやくも絶賛迷走中の感のあるカイヤが、ニューリン様の試合を見て「女性としてカッコ良かった。いずれ組んでみたいし、闘ってみたい」と『ハッスル19』一夜明け会見で告白！

前日は新入りのハカイヤーに圧倒され、アン・ジョーに子ども扱いされ、反省しきりのカイヤだけに、即ニューリン戦とならないだろうが……「うまくいかないときは、より大きなショックを」とアントン的〝一歩踏み出し方〟をチョイスしたカイヤの今後に注目してみたい。

会場に来てた子供たち（二人ともプロレスファン）に「いまのママの試合は観たくない!」と酷評されたカイヤ。「このままじゃ男に勝つのは無理。だから女性とやりたい」と一転、自分勝手な一面も披露。このまま暴走キャラになるのもおもしろいが……。

あの興奮が横アリ再来!!

KYORAKU presents
ハッスル・マニア2006
神奈川・横浜アリーナ／11月23日（木・祝）開場15:30（開演17:00）

［チケット料金］※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP／20,000円 ※特典：ハッスルグッズつき
RRS席 12,000円／S席 8,000円／A席 6,000円／B席 4,000円
（B席のみ小学生は2,000円。ドリームステージにて受付）

KYORAKU presents
ハッスル・ハウス vol.21
東京・後楽園ホール／11月15日（水）開演19:00（開場18:00）

［チケット料金］※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP10,000円 ※特典：ハッスルグッズつき
スタンドS7,000円／スタンドA 5,000円／スタンドB 3,000円

KYORAKU presents
ハッスル・ハウス クリスマス・スペシャル
東京・後楽園ホール／
12月25日（月）、26日（火）開演19:00（開場18:00）

［問い合わせ］
ドリームステージエンターテインメント（ハッスル事業局）
03-5464-1731
http://www.hustlehustle.com

「某テレビ局！ 放送再開してよ！」（髙田総統）10.9『ハッスル20』（愛知県体育館）TOPICS

バンザ～イ、なしよ！ チエちゃんが地元でホロ苦デビュー！

われら女子アマレス最強軍! チエちゃんの応援にレスリング世界選手権金メダルの吉田沙保里をはじめ、アテネ五輪の伊調姉妹、坂本日登美らが集結! だがTARUのペットボトルの水をまき散らされ半狂乱に。

「バンザ～イ!」とウルフルズのあの曲に乗って、ハッスルの生え抜き新人の＼（^0^）／チエ（バンザイ・チエ）デビューも相手は最凶悪ユニット、ブードゥー・マーダーズの"brother" YASSHI with TARU。アマレス仕込みのテクニックで見せ場は作るも、股間を踏まれる非道三昧のホロ苦デビューに。

せーのGMW！ GMW！ みんなやれよ!! オレ様だけの豪華入場、ホントに実現！

「はい、GMW！ GMW！」とノリノリのミニスカ娘に先導（というかしっかり腰に手をあてて）オレ様のオレ様によるオレ様だけにしかできないジャイアン的な入場を実現させたGMW。

身も心もビターン! で「すっかり腹黒くなった」（byアン・ジョー司令長官）イエローが正義をふみにじる! ハッスル仮面たちの説得にも耳を貸さないモンスターぶり。

「私はベリーベリー弱いです」「今度は絶対にWINします!」となんとなくアン・ジョー司令長官チックなマイクだったが、カイヤがはじめて名古屋のファンに挨拶!

……なわけはなく、結局、金村の爆YAMAスペシャルをぶちかまされ、すっかり虫の息のRG。昇天してしまったあとは、そのまま無惨な赤ふん姿を披露するハメに。

「一生一緒にいてくれや♪」と歌ってる場合じゃなく、ハードコア戦デビューしてしまったRG。長机ボディプレスなど公開処刑状態……と思いきや、ヘルメット装着で危機脱出?

統の友人
延彦
スルと
を語る

ル・マニア2006』への期待感を語る

10月9日、愛知県体育館にザ・エスペランサーが出現してHGを指名したことによって『ハッスル・マニア2006』で両者の対戦が決定した。『ハッスル』の会場に毎回足を運び大会全体を視察している高田延彦PRIDE統括本部長に、プロレス界年間最大のイベントへの期待感を語ってもらった。もちろん、話題の中心は“友人”である高田総統とその“化身”であるエスペランサーだ。また、大河ドラマに出演するなど俳優としての活動も絶好調な高田本部長に「“演じる”ということ」についてもガッツリと話をうかがってみた。

聞き手／坂井ノブ
撮影／平工幸雄　写真提供／DSE
designed by matsu（TwoThree）

その希望、凶暴につき
ザ・エスペランサー
ロード・トゥ・「ハッスル・マニア2006」

高田総統

高田

ハッス

ザ・エスペランサー

希望を

PRIDE統括本部長、『ハッスル・マ

――10月の『ハッスル』二連戦、会場には視察に行かれたんですか？

高田 うん。

――大阪は半年ぶり、愛知が7ヵ月ぶりでしたけど、今回もお客さんはかなり入って内容的にもかなり盛り上がりましたね。

高田 うん、そうだね。『ハッスル』の存在が浸透はしてきてると思うんだよね。とくに名古屋に関しては地上波放送があったという背景があるから『ハッスル』の浸透率が高いし、その影響が会場の熱や券売につながってる。そしてファンの熱が高ければ相乗効果でイベントの内容にも跳ね返ってくる。そういう意味では大阪も悪くなかったし、名古屋は良かったと思う。やっぱり『ハッスル』を約3年やってきた実績というか、粘りというか、積み上げてきたいろんなものが形になってきたと思う。でも、まだまだでしょう。

――ザ・エスペランサーがまた登場してきたということもあり、『ハッスル・マニア』に向けて一つ大きな階段を昇りましたよね。

高田 そうだね、運営サイドは『ハッスル・マニア』に向けて、いまいる現有戦力の中で勝負を仕掛けようということで大阪、名古屋に臨んだと思うんだよ。その中でエスペランサーを核としたイベント作りをしていこうという意図を感じたね。DSEの状況もあると思うんだけど、サプライズ的なタレントさん抜きにして現有戦力で闘わざるを得ないのかもしれないし、まだ隠し球を用意してるのかもしれないし。

――まだわからないですよね。

高田 よく「石の上にも3年」というけれども、いろいろ言われる中でスタートした『ハッスル』が、ようやく認知されてきた。HGやインリンや和泉元彌によって世間に対するアピールをしたり、オーちゃんも『ハ

ッスル』のために『ＰＲＩＤＥ』に出た。『ハッスル』というイベントの存在を前に押し出すためにいろんなことをやってきたわけでしょう。そんな中で4年目に向けての大一番に現有戦力だけで挑もうとしている。しかも横浜アリーナという大きな会場で勝負ができる。4年目からの『ハッスル』の可能性を計る上で「来年から厳しいな」って結果になるのか、「いけるんじゃないか」ってなるのか、それは終わってみなきゃわからない。非常に感覚的なものだからボーダーラインがどこかわからないけど、作品が仕上がったあとにスタッフ、出役がおのおの感じる……おそらく自己採点すると思うんですよ。その採点がどこまでいくのかっていうのが非常に興味あるね。だから『ハッスル』のいままでのイベントの中ではもっとも重要なポイントになると思うね。

――この先を考えたときに来年に向けての礎になるのかどうか、ということですよね。

高田　もしかしたら、今度の『ハッスル・マニア』がピークでハッスルは終わりに向かっていくかもしれないよ。イベントの世界はあっという間に吹いている風向きが変わってしまうから、どうなるかわからないよ。いままでやってきたことが……アンチが言う〝バカげたこと〟まで含めてね、斬新な世界を作り上げてきたと思う。ただ、それがだんだん新鮮じゃなくなってくると思うんだよ。高田総統も見慣れてくる、エスペランサーも出てきてるし。ＨＧもインリンもそこにいて当たり前になってきてる。それこそ、モンスターＫ（川田利明）にしたって、はりつけられてることに違和感がなくなってるかもしれない（笑）。

――凄くぜいたくな話ですよね（笑）。

高田　そうなってくると『ハッスル』もファンを引きつける求心力の鮮度が落ちてくると思うんだよね。そこをどうやって高めていくかということが課題でしょう。

――何か具体的な方策はありますかね？

高田　テレビしかない。キャパが2000人以上のデカい会場でやると、すべてにどうしても無理が出てくるから。テレビの電波を使って小箱でやりながら質の高いイベントをどれだけ継続できるか。毎回しっかりプロモーションして、その上で『ハッスル・エイド』と『ハッスル・マニア』を成功させるというサイクルを作っていかないとごく近い将来的には厳しいと思う。お茶の間でスイッチ入れれば誰でも観られるテレビの地上波放送で、「これでもか！」というぐらいおもしろい映像を流して連続ドラマに作り上げて、『ハッスル』の番組をつなげていくという形を作らなければ意味がない。

――それにはいくつもハードルを越えないといけませんね。

高田　難しいよ。もちろん、ＤＳＥもそれに向けて動いてはいるんでしょうけどね。

――さて、リングのほうに話を移しますと、この二連戦のご友人の高田総統の動きについてうかがいたいんですが……。

高田　ちょっと違う一面を見せてくれたよね。

――たしかにいままでとは違う一面でしたね（笑）。大阪では総統劇場の中で「おい、忘れちゃったよ！」と言って、なんか読んでらっしゃったという瞬間がありましたけど。

高田　まあ、想定内だね。

――想定内ですか！（笑）。

高田　そのうちああいうことが起こるだろうという予感はあったみたいだよ、総統の中には。

この前も電話で言ってやったのよ。「総統らしくないね」って

――「忘れちゃったよ！」と総統はおっしゃってましたけど、何を言うか忘れてしまったということですよね？

高田　うん、この前も電話で話したときに言ってやったのよ。「総統らしくないね」って。そうしたら「ふざけんな、総統だからソウトウ内だ」と。

――ダジャレで（笑）。

高田　うん、ダジャレで返されちゃった。要するに彼は完璧主義者だから、常に自分の中で下々の者に対してのメッセージを完璧に仕上げて出てくるわけですよ。しかもけっこうメモリ屋なんだよね。そのメモをね、見せられたというかたちになっちゃったの。

――なるほど（笑）。ＰＰＶで映像を確認すると赤ペンとかでポイントがチェックしてあったりとか。

『ハッスル19』のメイン終了後、おなじみの総統劇場に登場した途端、「忘れちゃったよ！」と何かを読む総統!!　大阪府立体育会館に衝撃が走った！　何が起きたのか？　直後にコンタクトをとった髙田本部長がその真相をインタビューで語っている。

高田　そう、総統のカバンにはいつも赤ペンが入ってる。完璧主義者だからさ。

――強調するポイントをチェックするわけですね。

高田　うん、だから本来であれば彼の中は、噛むことさえ許されないっていうぐらいの完璧主義者が支配しているのよ。言いよどんだり詰まったりすることも許されない、彼の中ではね。私の中ではもう少しイージーにやればいいと思ってるんだけど。まあ、彼の性質だから致し方ないよね。

――そうですね、でもそれを挽回して余りあるぐらい、名古屋での総統は素晴らしかったと思うんです。総統の中でも期するものがあったのかなって思ったんですけど。

高田　挽回できたかどうかはわからないけどね、私は。とにかく及第点の高い人だから。いつもいつも自分のメッセージのあとには、己のことを「0点だ」って言ってるからね。

――いつも0点？

高田　うん。「今日、何点？」。「0点」って、そんな会話が当たり前だから。

――そこまでの完璧主義者なんですか。

高田　うん。私が「今日……」って言いかけたときには、もう間髪入れずに「0点」って答えが返ってくるから。

――聞く前に！（笑）。名古屋に関しては総統の中に「絶対取り返すぞ！」みたいな執念のようなものが見えた瞬間が、我々のような下々の者からするとあったんですよね。

高田　それはイベントの魔力じゃないのかな。観客との闘いというか、応酬というかね。それは総統に限らずほかのレスラーのファイトにしてもそうだし、しゃべりにしてもそうだよ。ただ、名古屋については総統も言ってたね、珍しく「満点だ」って。

――おお、満点ですか！

『ハッスル・エイド』以来となるエスペランサー降臨に愛知県体育館の観客はヤジ一つ飛ばさず、シーンと固唾を呑んでその一挙手一投足を見守った。

髙田　うん。彼の中には0点か100点しかないみたいだ。

――なるほど。総統と"GMW"坂田亘選手との絡みも非常にテンポよかったですね。総統も非常に絡みやすそうな感じでしたけど。

髙田　あくまで一人の観客として言わせてもらうよ。坂田選手はうまくなったよね。それは試合も含めて。坂田亘を一人のエンターテイナーとしてパッケージで見たときに、かなりの努力をしてると思うよ。いま一番成長してるんじゃない？　『ハッスル』が始まったばかりの頃とは全然違う。やっぱり自信が伝わってくるし、いい顔になってきてる。やるべきことをもの凄く真剣にやってるよ。それが観客にも伝わってるからいい応酬ができるんじゃないかな。

――髙田総統と向き合っても、お客さんを巻き込みながら会話の応酬をしてましたからね。

髙田　それができてるよね。坂田選手は確実にこの大阪と名古屋で存在感を残してる。『ハッスル・マニア』に向けて「俺がエスペランサーとやるんだ」っていうストーリーがあったけど、おそらくそれがなかったとしても大阪、名古屋で印象に残った5本の指に、ハッスル・エンターテイナーとして彼は間違いなく入るよね。

――ハッスル・エンターテイナー！　たしかに、おっしゃるとおりですね。GMという役職に就いてまた変わってきましたね。

髙田　うん、オーラというか華が出てきた。ハッスルに出始めの頃は全然なかったのに。それは入場シーンも試合も全然違う。感じたでしょ？

――ええ、感じますね。あんなギンギラのジャケット着てて、普通ならただのおかしな人なんですけど（笑）。あれを着て花道を歩くことに違和感がないんですよね、不思議なことに。何が原因なんですかね？

髙田　急に華を身につける瞬間というのは、選手が化けるということだよね。"化ける"っていうのは資質もあるし、タイミングも重要になってくる。ある部分では自分を貫き通すということも必要だし、与えられたものに対して自分の中でしっかり解釈をして、それに真剣に取り組む必要もある。もちろん彼女をはじめとする外部から受ける影響もあるかもしれない。いろんな要素がないと化けるっていうところまでいかないよね。それが彼の中でいろんなもののタイミングが重なってきてるのかなって思うね。

――名古屋のエンディングに、ザ・エスペランサーが降臨したことについて、本部長はご覧になっていかがでしたか？

髙田　驚いた（キッパリ）。

――前回、登場したときはモンスター軍が連敗して追い込まれたときにエスペランサーが出てきました。今回も二連戦でモンスター軍が二連敗するという危機的状況でしたよね。

髙田　……じつは、総統は11月23日に大事な用事があったらしいんだよね。ヨーロッパの社交界のベンジャミンなんとかって人と約束してたらしいんだよ、一年前から。11月23日がその人の誕生日なんだって。

――『ハッスル・マニア』の当日じゃないですか！

髙田　そう。しかも場所はスイスだと。総統はその人の誕生日パーティの幹事だったんだよね。だから、どうしてもその前に大阪と名古屋でハッスル軍を片づけておかないといけない、という状況だったんだよ。

――モンスター軍の連敗ですね。

髙田　総統は大阪大会で「（名古屋では）何かサプライズが起こるかもしれない」っ

て予告してたでしょ。おそらく、総統が持っている予知能力で未来が見えてしまったのかもしれない。敏感に察知したからこそ「名古屋でも不測の事態が起こりうる」と、あそこでサプライズを予告したんじゃないかな。

——エスペランサーは自らHGを指名しましたよね。

高田　総統は日頃から「男たるもの紳士であれ」と言う。その対極にいるのがHGだね。下品の象徴みたいなもんだから。ましてヨーロッパの社交界で、あんなのを相手にしてると言えないでしょ。

——言えないですね（笑）。

高田　とてもじゃないけど総統の人生の歴史の1ページの片隅にね、あんなに下品なHGの名前をプリントすることは許されない。早く始末しようということもあるだろうね。それにしてもとにかく活きがいいんだよ。名古屋の5vs5イリミネーションマッチも最後に勝負を決めたのHGでしょ？　そのへんもファンを意識した上で指名したと思うんだよね。

——総統がよく言うのは「私より目立つな！」ってことですけど、ある部分では総統以上に目立ってる存在がHGですよね。

高田　総統にとっては目障りこの上ないだろうね。

——総統はヨーロッパ社交界で活躍していますが、本部長は初めてアメリカで開催される『PRIDE・32』の視察に行きますよね？　今回の大会はいかがですか？

高田　楽しみだよ。UFCがアメリカで総合格闘技の種をまき、根をおろし、13年経ってやっと花が咲き始めた。向こうで総合格闘技がかつてないムーブメントを起こしているという状況は、WWEの衰退やプロボクシング界のスター不在いう状況とリンクしながら、ファンを総合格闘技に傾かせる要因を作ったと思うんですよ。『PRIDE』にしてみれば、「さて、じゃあ今年は行こう」ってことじゃなくて、数年前からアメリカ進出の話はあったんですけど、すぐにイベントを開催するところまではいかなかった。ただ、フジテレビとの契約が解除されることになって、ある部分で路線変更することになった。いろんな状況が重なってベストなタイミングで実現したなというのが実感ですね。

高田本部長も太鼓判! "GMW"こと坂田亘の存在感がここにきて急激に大きくなりつつある。ギンギラギンのスーツとサングラス、胸にバラの花といういでたちはいろんな意味で危険なのだが、年齢を問わずレディには優しい。これがモテる男の秘訣なのだろう。

——その二週間後には『PRIDE武士道』が横浜アリーナで大一番がありますけど、これは先行販売の前売りチケットが非常に好調だということですね。この期待感の要因ってなんなんですかね。

高田　やっぱり選手の頑張り！　それしかないと思うよ。とくにグランプリの準決勝&決勝の3試合じゃないかな。ファイターがいい試合をして光り輝くことによって、そのイベント自体が光り輝いてくる。そういうかたちでさかのぼってこの一～二大会を走ってきたから。それは郷野選手とか三崎選手の活躍によるところは大きいし、まあ、五味選手が復活したという部分もある。

——日本人は全滅するんじゃないかと思われていたウェルター級のトーナメントで日本人が二名も残ったのは非常に大きいですよね。

高田　『PRIDE武士道』というリングにおいて、彼らがベストを尽くして結果を出してきたということがファンに伝わり始めたってことだよね。いままで頑張ってきた郷野選手がここにきて化けてきたってこともあるし、三崎選手にも同じことが言えると思うよ。

——化けるということですが、先ほど坂田さんの話が出ましたよね。イベントでやってる内容は全然違うんですけど。

高田　化けるという部分では共通してる。先ほども言ったように、その対象にどれだけ真剣に取り組むか、タイミング、舞台、その選手が持ってるポテンシャルや資質、そういうさまざまなものが噛み合わないと化ける時期が訪れてこない。そのいろんな要素が合わないと、いくら一生懸命やっても化ける瞬間は来ないよ。いくら化けさせようと思って周りがチャンスを与えても、化けないものは化けないし。化けさせようと思ってる意図が観客に見えてしまったら化けないと思う。観客の自然な期待感が、化けようとしてる人間にエネルギーとしてギューッと刺し込んでいかないと化けることはできないじゃん。「はい、化けさせましたよ」って言っても化けたことにならないからね。イベンターはしっかりその人に打ち出すチャンスをあげること、ファイターは確実にそのチャンスをものにすることです。ただ、ものにするんだけど、タイミングとか場面とか舞台とか、いろんなものが噛み合わなければ化けることはあり得ない。化けるにしても小化け、中化け、大化けって程度の差があるからね。ミルコ・クロコップとかヴァンダレイ・シウバは大化けのお手本みたいなものだけどね。それでも化けない人がほとんどだから。

——化ける素質を持ってる人は極端に少ないわけですね。

高田　少ないね。やっぱり明らかに魂が伝わってくる郷野選手とか三崎選手は、まっすぐさを感じさせてくれる。私は好きなファイターだね。一時期の『PRIDE武士道』イコール五味しかいない」というイメージが消えてきたもんね。

——去年はそんな感じでしたけどね。

高田　時代の回転は本当に早いよ。モタモタしてるとすぐ忘れられてしまう。いま私が『PRIDE武士道』で観たいのはあの二人と五味選手。「これから来るぞ！」って意味で期待しているのは青木真也選手と、あの爽やか少年……。

——〝新・青春のエスペランサ〟を襲名した石田光洋選手ですね（笑）。

高田　うん。彼らが暴れまくることで『P

RIDE武士道』のリングがどんどんカラフルになっていくでしょうね。

—ここからは本部長個人のお話を聞かせてください。最近は大河ドラマ出演や舞台『LOVE LETTERS』など、俳優として演技をする機会が非常に増えてますね。

高田　いままで味わった緊張感とはまた別の種類の緊張感がありますよ。何よりも演じることが非常に楽しいね。いまはチャンスをいただいてる状態だけど、ホントに演技の世界で通用するかどうかは、3〜4年ぐらい経ってみなきゃわかんないと思うんですね。いまは役をもらって毎回が試験のような状況というか。数年後に「この役はあいつに任せてみよう」と指名してもらえるような存在になれてるかどうか……。私の演じさせてもらってる環境の中では、新弟子のような気持ちだね。

—まさに一からの挑戦ですね。

高田　いまは事務所の力でチャンスをいただいてるようなものですよ。それを自分の力で引き寄せなきゃいけない。そこだよね。だから私も演技の世界でまず小化けしなきゃならない（笑）。

—演じるということは、その役になりきるということですよね？

高田　うん、やはり集中力が必要だよ。あとはイメージが重要でしょうね。役をもらったとき、その人物像の説明がされるわけではないので、たとえば先生役だったら「この人の性格がこうで」というのを自分で考えるわけです。それは監督にも言われたんだけど、ストーリーを見て、全体の流れを見て、こういうキャラだろうなって自分でイメージして作っていかなきゃいけない。

—頭の中でその人物像を組み立てて、そこに近づいていくということですね。

高田　そうそう。一つのセリフも自分のイメージで発しなきゃいけない。ある意味、プロレスとか格闘技と共通する部分があるよね。いかに上手にイメージして、そのイメージどおりに出すかっていう。

—言ってしまえばプロレスや格闘技の応用的な部分があるわけですね。そこで使う集中力は凄いものだと思うんですけど、反動が来ることってないですか？

高田　そこは酒でしょう。

いままでとはまた別の種類の緊張感がある 何よりも演じることが非常に楽しいね

—酒の力を借りますか（笑）。

高田　まあ、半分冗談だけど。でも、私は案外忙しい状態が好きみたいだね。最近気づいたんだけど。忙しさの中で、自分が回転してる中でストレスを捨てていくタイプみたい。仕事の間がポコッと開くと、そのストレスが消化しきれないように感じるね。どうしても肉体的な部分だけは休息を取らないといけないけど、それだけだよね。休息を取らないといけないのに酒を飲むから、逆に疲れちゃうこともあるけど。

—休まる暇がないですね（笑）。

高田　ストレスを解放させるために飲んでるんだけど、かえって内臓が疲れてしまう（笑）。そこだけだね、ポイントは。『ハッスル』を視察するようになって酒量が増えたよ。

—打ち上げですか？

高田　うん、打ち上げに参加させてもらうんだけど。総統をはじめ、モンスターKとか、よく飲むから。

—高田モンスター軍には酒豪といわれる方々が勢揃いしてますよね（笑）。モンスター大将（天龍源一郎）もいるし。

高田　大将が『ハッスル』に参戦されてから、まだ飲む接点ないんだよ。いずれはぶつかり稽古してみようとは思うけどね。

—壮絶な稽古になりそうですね（笑）。

高田　大先輩に胸を借りますよ。

—家族が増えたということで、その責任を背負うっていうのは気持ち的に影響していますか？

高田　そうだね、ときどき思うね。自分の肉体が疲れたサインを出したときなんかは「いま倒れるわけにいかないな」って。以前はそんなこと考えたことなかったけど。若い頃は自分が倒れるなんて場面を思い浮かべたことすらないよ。でも40代半ばになると意識はするようにはなるね。周りの同世代を見れば、ここが痛いとかあそこが痛いとか言ってる人が増えてる。自然と自分も意識するようになってきたということが、「倒れるわけにいかない」っていう思いなのかもしれない。入院なんかしてる場合じゃないよね。

—そうですよね。それこそ凄まじい仕事量を消化してるわけですから。

高田　そうだね。にもかかわらず、昨夜は3時まで飲んでしまったからね。嫌になっちゃうよ。昨日は非常に疲れてたから、「一杯飲んだら止まらないからやめようよ」と言っていたのが「一杯だけいこうか」となって。気がついたら午前3時だった。紹興酒が何本空いたかわかんない。

—絶好調ですねぇ。

高田　そう、絶好調（笑）。

【06年10月12日／都内・ラフォーレ東京にて収録（敬称略）】

たかだ・のぶひこ■1962年4月12日、神奈川県出身。新日本プロレスでデビュー後、UWF、UWFインターナショナルを経て『PRIDE.1』でヒクソン・グレイシーと対戦した。2002年に現役を引退後はPRIDE統括本部長として運営サイドに回る。最近はNHK大河ドラマ『功名が辻』に出演するなど俳優としても活動中。高田総統とは頻繁に酒を酌み交わす友人である。

ロー×TAJIRI

“秘めたエロ”

KINTARO & TAJIRI
Hustle "Super-Ero" tag talk

ニューリン様にエッチな視線を送る二人の男——“理不尽小僧”金村キンタローと“ハッスル・バズソー”TAJIRI。ハッスルでお馴染みのスケベコンビがニューリン様を語り尽くす……はずが、話はすぐに自らの、そして他のレスラーのエロ話に脱線。気をつけろ！　この内容は刺激的すぎだ!!

聞き手／坂井ノブ　構成／山本宗忠（THE PEHLWANS）撮影／平工幸雄
designed by hisa（TwoThree）

「『愛のコリーダ』みたいに凄くいやらしい生活をしたいですね」（TAJIRI）

？ハッスル・スーパー“エロ”タッグ対談

金村キンタロー

“放出するエロ”

「基本的に俺は、
歴代の彼女には
みんな下の毛を
剃ってもらった」(金村)

ニューリン様の魅力とは? バ

KINTARO & TAJIRI
Hustle "Super-Ero" tag talk

—今回はお二人に大好きなニューリン様の魅力について存分に語っていただこうと思います。

金村　えっ、そうなん⁉「いっぱいエロ話をしてくれ」って言われて来たんやけど。

—いやいや（笑）。でもまあ、掲載可能な範囲であれば……。

金村（ジーっとニューリン様のパネルを眺めつつ）実際にはこの距離で見るやん？　水着の隙間から〝中身〟が見えるかなと思ったら、やっぱり見えなかったね。

TAJIRI　いや、僕はその〝見えそうで見えない〟っていうのがいいんですよぉ。

金村　俺はあかんねん。俺はモロに見えなダメやねん。

—じゃあお尻のラインが見えたぐらいじゃあ……。

金村　ビクともせん！　ドンと見えないと。まあでも、俺の遺伝子を作ってほしいね。

—できたら結婚したいと？

金村（即座に）結婚はもういい！

—好きな身体のパーツとかってあります？

金村（股間を指さし）ここに決まっとるやないか‼

TAJIRI　僕、この仮面がいやらしく感じますね、凄～く。やっぱり何かを隠してるっていうのがいやらしいですよね。

金村　俺は、できれば下も上もニップレスだけで出てきてほしい。

TAJIRI　しっ、下もニップレスですか⁉

金村　うん。昔のポルノ女優がしてたような前貼りをね。基本的に俺は、歴代の彼女にはみんな下の毛を剃ってもらってたし。

TAJIRI　それは金村さんの教育的指導で？

金村　そうそう。

—それはなんかメリットがあるんでしょうか……？

金村　○○○○○、○○○○○見やすい。邪魔者は排除！

—……（絶句）。

金村　そういえば昔、俺が酔っ払って寝とるときに逆に女に全部剃られたことあるのよ。浮気防止ってことらしいんやけど、「バカ野郎！　剃られても浮気はするわ、この野郎」って。

TAJIRI　それぐらいで金村さんが浮気しなくなるなんて考えが甘いですよねぇ～（笑）。

金村　そう。甘い！

—絶対に浮気は防げないんですね。

金村　いや、浮気じゃあないです、俺は常に本気ですから。前田日明がかつて言っていた〝常在戦場〟。そんな感じやね。

—え～、そろそろニューリン様の話に戻してもよろしいでしょうか？（笑）。

金村　そやった、そやった。TAJIRIはニューリン様をどうしたい？　俺はM字台の下からグワーッと引っ張りたいんやけど。

TAJIRI　僕はですねぇ、あのちょっと指を引っかけたら取れそうな下着を、ちょっとズラして横から見たいです。ウヘヘヘ！

金村　おっ、ええかもしれない！　女と一緒に寝る場合、俺は朝起きて○○○○○するんですよ。で、指でこうズラして……たまらんねえ！（笑）。

TAJIRI　いや、僕の場合はですね、隣の家の夫婦の性行為をデカい窓から覗くんじゃなくて、小窓からこっそり見るような、そのいやらしさですね。

「隣の家の夫婦の性行為を
デカい窓から覗くんじゃなくて、
小窓からこっそり見るような、
そのいやらしさ」（TAJIRI）

—丸見えじゃなくて、こっそりと。

TAJIRI　ええ。

金村　そのへんが同じスケベでもTAJIRIとは違うねんなぁ。

TAJIRI　金村さんなら隣の家の夫婦の性行為を見てしまったら堂々と窓から侵入しますよね？

金村　俺、昔、某レスラーの目の前でヤラされたことあるからね。

TAJIRI　どういうことですか、それは？

金村「俺はクローゼットに隠れてるからヤれ」って。女は下に寝とって、暗いからわからへん。で、ヤッてたら、いつの間にかその某レスラーが暗い中におるんよ。で、無言で両手を「もっともっと」って上げてるんよ。「もっと盛り上げろ」って意味で（笑）。

—……凄いなあ。

金村　そうだ！　俺はエロっていう意味ではTAJIRIとは歴史があるんだ。7～8年前によくメールをしてたよね？

TAJIRI　ええ。僕がECWに行ってた頃ですよね。

金村　ちょうどその頃、カメラつき携帯が出始めだったのかな。そのときの女とヤってる最中に撮って送ったりして。で、おネエ言葉を使うある団体社長のモノマネで返信が来るわけですよ。「たまんないわねぇ～」って。

—そんなつながりがあったんですか（笑）。

TAJIRI　でも、日本に帰ってきていろんな選手からそのような下半身事情を聞くと、「やっぱ日本だなぁ～」って実感しますね。アメリカって複数でプレイしたとかっていう話、意外かもしれないけどあまりないんですよ。ま、アメリカでもね、ないことはないですよ？　たとえば、一緒に移動していたあるモテる選手なんかは、車の助手席に女を座らせて○○○○をパクッとさせたりとかね。僕とかはそれを後ろから見ているわけですよ。そういったことはよくありましたよね。たぶんね、そういうアメリカの女の子からしたら、僕なんか人間じゃなくてサルと同じだから、全然気にもしていない感じなんですよ。

—へぇ～、日本より全然派手で盛んなイメージがありますけどね。

金村　なあなあ、ニューリン様のコスチュームを俺とTAJIRIの共同で作るっちゅーのは無理かな？

—好みが割れるんじゃないですか？

金村　そこはもう手を組んで、スクラム組んで……なんのスクラムや（笑）。

—（ニューリン様のパネルを指さし）これは一応セーラー服のイメージらしいんですけど、あとメイドの格好とかボンテージなんてのもありましたね。

金村　ボンデージはいいなぁ～。

—TAJIRIさんはいかがですか？

TAJIRI　僕ですか？　……黒縁メガネかけてOLの格好がいいですね！

金村　嫌やわ！　エロからかけ離れとるやん！

TAJIRI　いやいや、それがいいんじゃないですかぁ～、ウヘヘヘ！

金村　俺のテーマは〝紐（ひも）〟やね。それ引っ張ったら……グフフッ（笑）。

—身体を覆い隠す面積は少ないほうがいい、と。

金村　そうそうそう。

TAJIRI　でもメキシコに紐状の凄くいやらしいコスチュームのレスラーがいますけど、ちょっとハムみたいなんですよね。

—ああ、そういう「肉に食い込んでる感じがいい」っていう人もいますよね。

TAJIRI　僕はダメです。

ハッスルではニューリン様にご執心な金村＆TAJIRI。このスケベな顔……本物だ。

ニューリン様のハッスル軍入り以来、舐め回すような目つきでニューリン様を追う二人。彼らの恋（？）は実るのか？

金村　そりゃ俺もあかんわ。

――お二人とも細身なほうが好きなんですか？

金村　ぽっちゃりはダメやけど、気持ちぷっくらしていても大丈夫。

――じゃあ、ニューリン様はやはり理想的な体型ということになりますかね？

TAJIRI　僕はきれいならなんでもいいんですけど、あの人の身体はホントにきれいだと思うんですよぉ。

――ラインが非常に美しいですよね。

TAJIRI　あとですね、あのサラサラな髪も好きですね。〝サラサラ、しっとり〟じゃなくて、〝サラサラ、ふわっ〟となっているのがまたいいんですよぉ～！

金村　同じエロでも観点がまったく違うね（笑）。

――〝秘めたエロ〟と〝放出するエロ〟って感じですね（笑）。そもそもお二人は女性のタイプに関してはこだわるほうなんですか？

金村　俺、そのときに好きになったコが好み。

TAJIRI　僕は昔から黒縁メガネが好きなんで、それが似合えばOK。

――やっぱりそこの部分だけはクリアしないとダメですか（笑）。

金村　なんでそんなメガネにこだわるの？

TAJIRI　好きなんですよねぇ～。

金村　セックスするのにメガネは不要やん。

TAJIRI　かけてるほうがなおいいんですよぉ～、ウヘヘヘ……。

金村　メガネといえば、○○○○。あいつは性豪ですよ！　なんせ4日で32発やから！

TAJIRI　それ、性豪っていうか、動物と言ったほうがハマっている感じがしますね。

金村　ただのバカやね（笑）。でも、一回がメチャメチャ早いらしい。女は不完全燃焼の連チャンなんだって（笑）。

――あぁ、こんな企画でよかったんだっけ……？

金村　おい、インタビュアーが困ってどないすんの！（笑）。

――こんな内容になるはずじゃあ……。

金村　そうそう。そういえば、ハッスルの横浜文体でさ、女にチケット渡すときに抱きしめてキスしとったら、（聞き手を指さし）覗きに来やがってさ。

――覗きじゃないです！　一服しようと思って外に出たら、偶然通り道で金村さんがキスしてたんですよ（笑）。話を戻しますが、ニューリン様からビシバシ鞭で叩かれてますよね？　それに対し興奮とかはしてます？

金村　あれ、けっこう痛いんよね。俺はSなんでダメやね。TAJIRIは気持ちよさそうにしているけど。

TAJIRI　いやもうねえ、せっかく叩くんだったら目一杯やってほしい！

金村　ハハハハハ！　ドMや（笑）。

――仮にニューリン様と二人っきりの空間に入れるとしたら、どうしますか？

金村　そりゃセックスするでしょ（キッパリ）。

――即答ですね……。

金村　○○○○○してもらうか。あとは写真撮る……本能のまんまや。TAJIRIは？

TAJIRI　そうですねぇ、まずはお互いが打ち解けていくシチュエーションはほしいですよね……。

金村　は？　何してもええ状況やで？

TAJIRI　僕、そういうね、なんでもOKっていうのがダメなんですよ。だから確実にヤレるような風俗とかも僕はダメなんです。障害を乗り越えていくような過程がないとダメ。その過程を乗り越えていく上でその人はどんな人かわかっていくじゃないですか。やっぱりまったくわからないものには興味ないです。だから金村さんは突発的な性犯罪を起こ

「俺、某レスラーの目の前でヤラされましたからね。『俺はクローゼットに隠れてるからヤレ』って」（金村）

「キモいから組みたくねえんだよ！」。9.7『ハッスル・ハウスvol.20』でニューリン様からついに言われたこの一言。その傷つきようたるや……。

すタイプで、僕はストーカー的な性犯罪を起こすタイプなんです（笑）。

金村　えっ、俺って突発的な性犯罪をする人に見える……!?

——完全に見えますね（笑）。

金村　……あっ！　突発的なの一回あったわ！　北海道で試合やって、東京に戻るときの千歳空港にミニスカートを穿いた女の子がいてさ、メッチャクチャかわいかったんよ。ちなみに俺、高3までスカートめくりやってたんやけどね、そのときとっさにその子のスカートをめくってしまったんよ……。いま考えたら怖いよねぇ。まさに剛竜馬になりかねないよ。ピラっとめくったら白いパンツ穿いてたけど、ホントとっさにやっちゃって……。「コラ」ってかわいく怒って許してくれたから、その場で収まったけど。

——よく新聞沙汰にならなかったですね。

金村　冷静に考えたらほんまそうやな……。

——何年前の話ですか？

金村　ほんの数年前やね。大日本かどっかの試合で北海道に行ったときやな。

TAJIRI　金村さんは年上と年下、どっちが好きなんですか？

金村　もう年上はいいね。若い頃はずっと年上のネエちゃんとしか付き合ってなかったんですよ。高校のときに親父が焼肉屋やってて、そこでバイトしてたヒトミ姉ちゃんと筆下ろしして。それでそのあとにヒトミ姉ちゃんの妹のミドリとも付き合ってました。でも俺ももう36歳なんで年上はいいですね。

——やっぱり若いほうがいいですか？

金村　そうですね。彼女もみんな若いですね。

——若い女性のほうが魅力を感じますか？

金村　でもね、20代前半とか半ばぐらいって、俺に言わせればまだ〝青い果実〟なんですよね。30歳とかはちょうど熟れとるやん。その感覚はありますね。

——TAJIRIさんは？

TAJIRI　僕もあんまり関係ないですけど、どっちかっていうと年上的な雰囲気を持っている人のほうが好きなんですよね。

金村　やっぱりマゾや（笑）。マゾマゾ。

TAJIRI　だから、そのへん歩いているコギャルみたいなコは全然なんとも思わないんですよ。

——ニューリン様の母親の友人であるインリン・オブ・ジョイトイさんは28歳ですが。

金村　じゃあ熟れる直前やね。たまらんなぁ。俺はテレビを見ないんで芸能界のことは疎いんよ。でも、大日本の営業スタッフがインリンの大ファンで、『FLASH』だか『FRIDAY』の懸賞で一名様にだけ当たるインリンの等身大の抱き枕を当てたことがあってさ、それで知ったんだよね。

——珍しい認識の仕方ですね（笑）。

TAJIRI　それ、ホントに応募して当たったんですか？

金村　ホントに当たった。

TAJIRI　へえ、念願が通じたんですねえ。

金村　こんなデカい箱で送られてきたもんな。一名だよ？　結局俺が使っとったけど（笑）。俺は抱き枕がないとアカンねん。

——TAJIRIさんはインリン・オブ・ジョイトイさんはどうですか？

TAJIRI　僕もほとんど知らないんですよ。アメリカにいたから。

——じゃあ日本に帰ってきて、『ハッスル』のインリン様を先に知ったという感じですか？

「金村さんは突発的な性犯罪を起こすタイプで、僕はストーカー的な性犯罪を起こすタイプです（笑）」
（TAJIRI）

【左】かねむら・きんたろー
1970年8月9日、三重県出身。数々の団体でハードコアレスリングを繰り広げる、自他ともに認めるインディー界のボス。現在はアパッチプロレス軍代表。理不尽な性癖を持ちながらもそれを隠そうともしない、生粋のドスケベレスラー。

【右】たじり
1970年9月29日、熊本県出身。IWAジャパン、大日本プロレスと渡り歩き、世界最大のプロレス・エンターテインメント団体WWEで活躍。その知名度は松井やイチローと並ぶほど。黒縁メガネ女子をこよなく愛するA系エロレスラー。

TAJIRI　そうですね。僕もあんまりテレビ見ないんで。だから僕の知っているインリン様っていうのは、ニューリン様のお母さんなんですよ。

——なるほど。それでは今後『ハッスル』の舞台で、お二人はニューリン様とどんな関係を築いていきたいですか？

金村　恋人。以上！

——これ以上シンプルな答えはないですね（笑）。

金村　でも結婚はしません（キッパリ）。

TAJIRI　僕はね、駆け落ちして東北のほうに行ってみたいなと思っているんですよ。大島渚の映画『愛のコリーダ』の、あのポ○○ンを切られる前までの凄くいやらしい生活をしたいです……ウヘヘヘ。

金村　めくるめく官能の世界やね。

TAJIRI　でも、〝切る〟のはなしでお願いしたいです、ハイ。

——金村さんは「恋人」とおっしゃっていますけど、射止める自信はありますか？

金村　ありません！

——ハハハハハ！　TAJIRIさんは？

TAJIRI　そうですね……どうでしょう。射止める……どうなんだろう？

——想い続けるという関係がいいですかね？

TAJIRI　そうですね。僕はけっこうそういう場面を想像するだけでいいかなぁ。だからホントの変態なんですよ、きっと（笑）。

金村　俺もね、いまはね、間近で見てるだけで充分。「3、2、1、ハッスル！　ハッスル！」ってやっている暇もないぐらい、あの瞬間は見ることに忙しいんで。

——たしかにM字ハッスルのときに後ろで控えてるときのお二人の目線はホントに素晴らしいですよ（笑）。

KINTARO & TAJIRI
Hustle "Super-Ero" tag talk

TAJIRI　この前（9・7『ハッスル・ハウスvol．20』）はちょっとやりすぎてしまいましたね。

金村　俺、その直前まで試合して、天龍源一郎のキックで気を失いかけたんだけど……。

——その痛みすらも忘れて見入ったと（笑）。でも、そんなニューリン様からとうとう「キモい」って言われちゃいましたね。

金村　あれはショックやったね……。

TAJIRI　……。

金村　落ち込むよなぁ……。いや、今度本気でさぁ、金村&TAJIRIプロデュースでコスチューム作ってみたいなぁ。

TAJIRI　おもしろそうですよね。でも、結局意見が合わなくて、「じゃあもう、何も着けないということで」ってなりそうですね（笑）。

金村　俺の理想は前貼りとニップレスね。

——やっぱりそれですか（笑）。

金村　それからロープ！　シースルーのセーラー服でもええよ。ここ（足の付け根）くらいまでのミニスカートで。

——それ、もはやスカートじゃないですよ（笑）。

TAJIRI　僕は素っ裸にフラフープだけで、そのフラフープを回しながら出てくるっていうのがいいですね。いやらしいと思いません？　凄くいいなぁ～。

金村　この対談さあ、ニューリン様が読んだらどうなるんやろうね？

——いったい鞭を何発食らうことになるやら想像もつきませんよ……。

TAJIRI　あぁ……目一杯叩いてほしいっ！

——今回は本能のままにありがとうございました（笑）。

金村　なんか悶々としてもうたわ……。

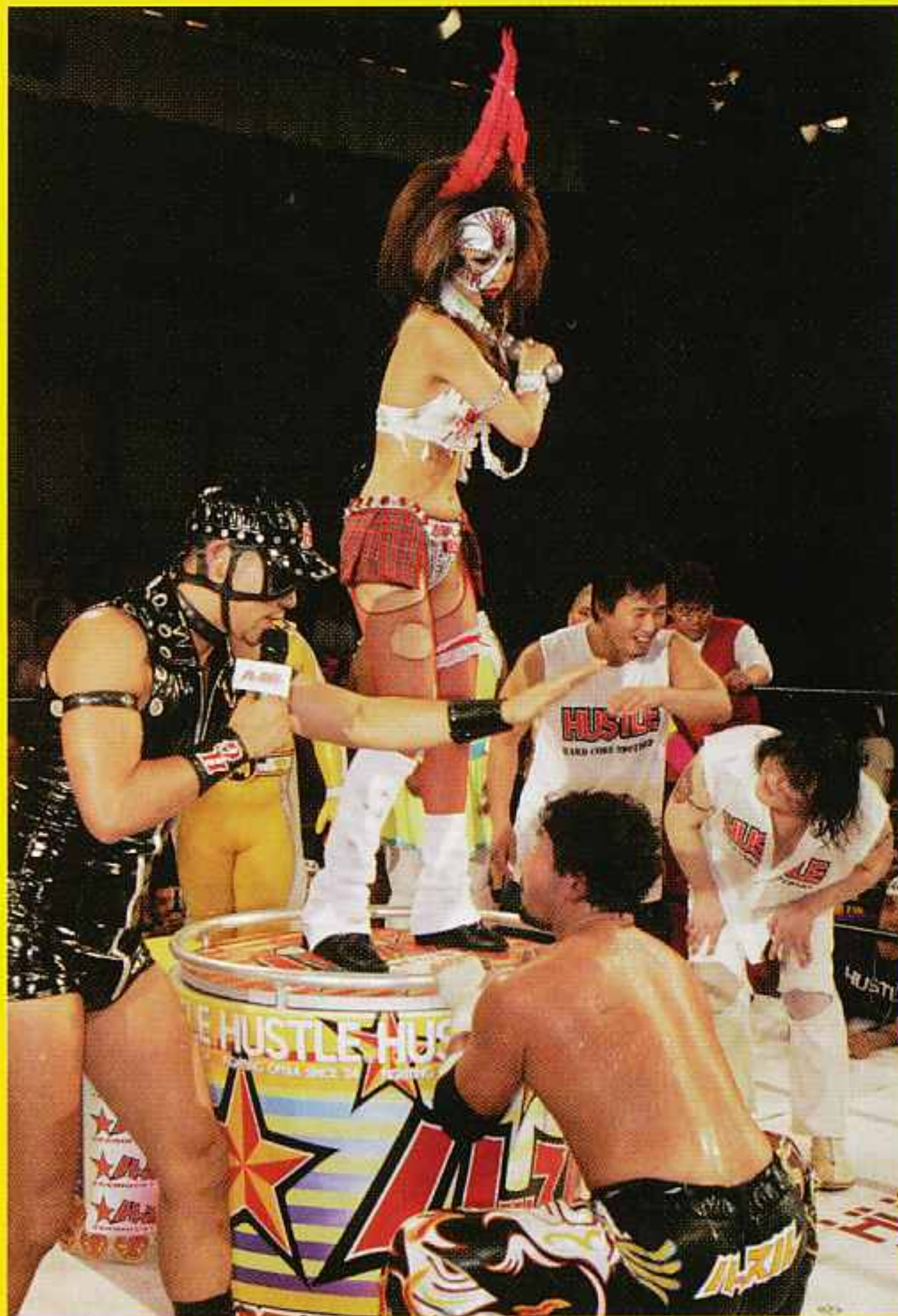
【06年10月4日／ハッスル事業局にて収録】

TAJIRI&金村のセクハラ三昧を法の立場から徹底検証!!

『東スポ』でおなじみの法学博士

板倉教授が提言!!

「ニューリン様がセクハラ被害を“訴えることは可能”です」（ただし条件つき）

聞き手／真下義之　試合写真／平工幸雄

『東京スポーツ』紙でもおなじみ、法律のわかりやすい解説に定評のある法学博士、板倉宏教授がなぜか本誌初登場！　今回はニューリン様へのセクハラ疑惑問題が沸騰するTAJIRI&金村キンタローの言動を法の立場から徹底検証！　ニューリン様は二人を訴えられるのか？

——板倉教授！　今日は法学博士の観点からセクハラ問題に関しておうかがいしたいんです。

教授　はい。どんなことでしょうね？

——教授は、『ハッスル』というプロレス団体はご存知ですか？

教授　『ハッスル』？　ごめんなさい。プロレスや格闘技には詳しくなくてねえ。

——いままでのプロレスとは一線を画したものなんですが（と『ハッスル』の基本的なことを説明）。このニューリン様という女性を巡ってセクハラめいた展開があるんですよ（と写真を見せる）。

教授　あ、ケーブルテレビでやってますね。このご婦人は見たことある気がします（笑）。

——教授もニューリン様はご存知でしたか。じつは、このニューリン様と同じチームのTAJIRI選手と金村選手がいつもニューリン様のお尻や股間をじーっと凝視してるんですよ。

教授　（困った表情で）そうですか……。でも、この人たちはお互いにこういうことをやるってわかってるわけでしょ？

——わかってないとしたら、法的にセクハラになりますか？

教授　そうですねえ～（と『六法全書』をめくりながら）。ただ日本でセクハラ罪というのはないんですよ。「セクハラ」という言葉が生まれたのも25年前くらいですから。

——あ、そんなもんなんですね。

教授　ええ。それも胸とかお尻とかを触ったりすれば、犯罪になりますけど。見ただけというのはねぇ～（と腕を組んで）。

——見ただけでは罪になりませんか？

教授　普通の職場なら男女雇用機会均等法で「女性労働者がその労働条件について不利益を受けてはならない」とありますけど、これをあてはめてよいやらねえ……（と困り果てて）。

——でもニューリン様はこの二人に見られるのをイヤがってるんですよ！

教授　トイレとか、フロ場を覗き見たというなら軽犯罪法ですけど。それにこのご婦人も通常の衣服ではないですし……。

——た、たしかに普通の格好ではないですね（笑）。

教授　スカートの中を見たり、写真撮ったら問題ですけど（再び『六法全書』をめくりつつ）。この人たちは彼女を見るとき何か言うんですか？（低い声で）「うへへへ」とか「いいなあ～」とか。

——言ってます！　言ってます！

教授　彼らは何回もやってるんですか？

——何回もやってます（笑）。

教授　ということは、このご婦人も彼らに見られるのがわかってるんですね。すると人格権侵害は難しいかもしれない。ただ、彼女に仕事がなくなったとすると……。

——あ、これが原因で仕事を失なったとすると問題ありますか？

教授　ええ。『ハッスル』を主催されてる会社に、雇用者として男女雇用均等法の義務を果たしていない責任を民事で追求するとかね。

——雇用者のDSEなら訴えられますか！（笑）。

教授　訴えられると思いますけどねぇ。…：でも見てる人たちも仕事として見てるわけだから、かわいそうだねぇ。

——いやいや。この二人はホントにイヤらしい人たちなんですよ！

教授　あ、そうなの？

——とくに金村選手は問題児でほかの女子レスラーとの試合中に、強引にキスしたり胸を揉んだこともあるんです。

教授　そりゃあ、強制ワイセツですね！

——強制ワイセツ！

教授　損害賠償請求や慰謝料請求で、100万円とか150万円の支払いを命じた判例もあります。ただ互いに同意があったら別ですよ。

——なるほど。そういう強制ワイセツ的観点から行くと、先日『ハッスル』で〝敗者M十字架はりつけマッチ〟という試合がありまして（笑）。

教授　えっ……はりつけ？

——はい。試合の途中でニューリン様が強引にはりつけされて、衣服をはぎとられるという事件が起こりまして……（と試合の流れを簡潔に説明）。某プロレス週刊誌なんか「犯罪スレスレ」とまで書いてるんです。

教授　（はりつけ写真を見ながら）ハハハ。たしかに犯罪スレスレですねぇ（あきれた表情で）。もしまったく同意がなくて、強引にやられたならば大問題でしょう。プロレスとはいえ〝暴行〟になるでしょうし。怪我をさせてれば〝傷害〟。服を破られたのは〝器物損壊〟ですしねぇ。

——セクハラの次元を超えた問題ですか？

教授　（声をひそめて）でもね……じつはこういうイベントで公衆の面前で胸を揉んだりすれば出てる人に同意があっても公然ワイセツ罪の可能性もあるんですよ。お客さんはやってもらわなきゃ困るんでしょうけど。ショーであっても度が過ぎれば公然ワイセツ罪なんですよ。

——そういえば、以前、江頭2：50さんという方が『ハッスル』で危うくオ◯ン◯ンを出しそうになったんですけど……。

教授　公然ワイセツ罪です（キッパリ）。

——ダハハハ！　そういえば先ほどの金村選手は地方巡業したときに、空港でスカートめくりをしちゃったみたいなんですが。

教授　それは条例違反です（キッパリ）。

——スカートめくりは条例違反ですか（笑）。

教授　やった場所によりけりですけどもね。普通は1年以下の懲役か、6ヵ月以下の懲役か……。東京都は東京都で、神奈川県は神奈川県で定めた条例があって罰則の違いがあるんですよ。スカートめくりは最近、痴漢行為が発覚して問題になってる植草（一秀）先生と一緒の犯罪のくくりになるんですよ（笑）。

——金村選手は植草さんと同じ穴のムジナと……。金村選手の場合、相手女性が訴えなくても犯罪になるんでしょうか？

教授　そうですね。立派な犯罪です！　でももうやらないんでしょう？　またやるんですかねえ……その人？（と心配そうに）。

——さすがにこの件に関してだけは、反省してると思いますけど（笑）。

教授　まぁ、時間も経ってるみたいだけど。証拠があれば捕まるかもしれないし、反省していただいたほうがいいですねえ。

——猛省してもらいましょう！　今日はどうもありがとうございました。

【10月13日　藤沢市のご自宅にて収録】

いたくら・ひろし■1934年生まれ。刑法学者、弁護士。日本大学大学院法務研究科教授（刑法）。法学博士として知られ、法律をわかりやすく解説することでマスコミにコメント求められることが多い。『アッコにおまかせ！』（TBS）で板倉教授が特集されたこともある。

6.17『ハッスル・エイド2006』に続き、
11.23『ハッスル・マニア2006』での解説が決定!!

ザ・エスペランサーVS HG!? それは**女の子**はぜひ見たほうがいい!!

ハッスル・マニアは眞鍋(まなべ)に学(まな)べ!

眞鍋かをり

ヒマでモテない『kamipro』男性読者の諸君、待たせたな!(髙田総統調)。というわけで、『ハッスル・エイド2006』での名解説が記憶に新しい、あの超人気タレント・眞鍋かをりさんが『kamipro』に登〜場〜ッ。このたび『ハッスル・マニア2006』での解説も決定した眞鍋さんですが、いったい『ハッスル』についてはどう思ってるの? さあ、アレもコレもいっぺんに直撃だ!!

聞き手/松下ミワ 撮影/吉場正和 designed by nogu(Two three)

『ハッスル・エイド2006』の実況席で初『ハッスル』生観戦を遂げた眞鍋かをり。実況の矢野アナ、解説の平塚さんの勢いに勝るとも劣らない見事なトークで絶妙な解説を展開した。

ハッスルはゲームの中のキャラが目の前で闘ってるような感じですよね

――今日は、『ハッスル・エイド2006』に続き、11月23日『ハッスル・マニア2006』でもスカパー！中継で解説を務められることが決定している眞鍋かをりさんにお話をうかがいたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします！

眞鍋 よろしくお願いします！

――眞鍋さんといえば、『ハッスル・エイド』での名解説が非常に印象的でしたが、そもそもプロレスは普段からご覧になるほうですか？

眞鍋 いや、『ハッスル』のお仕事をさせていただくまでは正直あんまり見なかったですね。唯一たまに深夜でやってたWWEとかを「何これ！（笑）」ってテレビに突っ込みながら見てた程度です。

――その頃はプロレスというと、どんなイメージでした？

眞鍋 なんだか凄く男臭くて、正直言うと、何やってるのかわからないなあって（笑）。

――何やってるのかわからない（笑）。じゃあ、それを観に来ているプロレスファンに対しても、わりと近いイメージですか。

眞鍋 そうですねぇ……。やっぱりなんかこう、一種マニア的なと言いますか、まあ男の人は好きだと思うんですけど、どうしても男の世界なのかなあって。もう、一時期の競馬ファンみたいなイメージですよね。

――週末になるとＷＩＮＳ（場外馬券売場）に集まってくる人たちみたいな。

眞鍋 でも、そこのところ『ハッスル』はいままでのプロレスとはやっぱり違うんじゃないかなというのは思ってましたね。

――違うというのは具体的にいうと？

眞鍋 やっぱりキャラクターが凄く特徴的だし、見てて楽しいですよ。……そうだなあ。小学校のときとかにやってた『ストリートファイター』のキャラクターが出てきちゃったような感じですかね。

――ゲームっぽいって感じですか？

眞鍋 ゲームの中の自分の好きなキャラが目の前で闘ってるようなイメージですよね。そういう部分で『ハッスル』っていろいろとお客さんを飽きさせない工夫をしてるのかなって思いました。それにお客さんも、男性だけじゃなく女性も子どもも凄く多かったですし、いろんな世代、いろんな性別の人が楽しんでるなって。

――なるほど。『ハッスル・エイド』の解説をされる前は『ハッスル』の試合をご覧になったことはありましたか？

眞鍋 ええ。会場にはちょっと行けなかったんですけど、映像では観させていただきました。でも、インリン様のこととかスポーツ紙によく載ってたじゃないですか。だから、ニュース程度に聞いたり見たりした範囲で「へぇ～」って思ってた部分はありましたよ。

――和泉元彌さんの『ハッスル』参戦なんかも凄く話題になりましたよね。

眞鍋 そうそう。和泉元彌さんのことはワイドショーでしょっちゅう放送されてたじゃないですか。あれを聞いて「ちょっと本気なの？　いいの？　大丈夫なの!?」って思ってたんですけど、実際『ハッスル』のお仕事をしたときに、「あ、あれはあれでよ

かったんだ」って妙に納得しましたね（笑）。
——一見して状況を理解されたわけですね（笑）。では、実際『ハッスル』の解説のお話が来たときはどう思われましたか？
眞鍋　やっぱり最初はできるのかなっていう不安はありましたね。でも、自分の中でＷＷＥを楽しめる部分があったんで、そういう点では『ハッスル』でよかったなとは思いました。それに、解説の話が決まったあと、『ハッスル・エイド』の事前の煽り番組みたいなので実況の方と解説の方とご一緒させていただいたんです。
——実況は矢野アナ、解説は『東スポ』の平塚さんですよね。

最初は凄くマジメに解説してたんですけど途中から「あ、適当でいいんだ」って（笑）

眞鍋　最初は私もほとんど何もわからないもんだから、凄いマジメに「これは楽しみですねえ！」みたいな感じでしゃべってたんですけど、何か途中からど〜にもお二人のテンションが違うなって思ったんですよねえ（笑）。
——これは普通のスポーツの解説じゃないな、と。
眞鍋　それだったんで、私もすぐに「あ、適当でいいんだ」って悟りました（笑）。
——アハハハハ！　適当って（笑）。
眞鍋　だから本番もお二人と一緒に「うわっ、血が出た！　ちょっとこれ見れねえっす。ムリムリ!!」とか、友だちとテレビを見ているときみたいな感覚でもう勝手にやらせていただきました。
——眞鍋さんの解説の中で印象的だったのが、まずＥｒｉｃａ＆マーガレットvs坂田亘＆崔領二の試合を男女の修羅場と重ね合わせていたことだったんですけど（笑）。
眞鍋　ええ。男と女の闘いですからね！
——眞鍋さんはそこで凄く女性をかばうような解説をされてましたよね。
眞鍋　だって、やっぱり闘う女性には男性に負けてほしくないなっていうのがありますからね。Ｅｒｉｃａ＆マーガレットはああいう風貌ですけど、男性に屈辱的な技をかけられたりとかしてるのを見ると、ちょっとやっぱりメラメラッ！　となってしまいますよ。
——でも、逆に屈辱的な技もかけたりしてましたけどね（笑）。
眞鍋　それはそれで見てて凄く気分がいい感じなんですよ〜。世の女性代表みたいな感じで闘ってほしいと思ってますから。
——闘う女性といえば、ニューリン様という強力な存在もいますけど、ニューリン様は眞鍋さん的にはいかがですか？
眞鍋　ニューリン様は本当に最高ですね!!（興奮して）。やっぱり、きれい！　見せ方に一点の隙もないですよ。あれはなかなかマネできるもんじゃないですよ。
——眞鍋さんでもニューリン様に憧れる部分というのがあるんですか？
眞鍋　そりゃ、やっぱりありますね。なんていうか、Ｅｒｉｃａ＆マーガレットとはまた違った感じで凄く強いし、キレイだし、女を捨てずに女を武器にして闘ってるんだなって。
——もう、闘い方も完璧だと。
眞鍋　（即答で）完璧です！　世の中の女性はお手本にしたほうがいいと思いますよ。
——眞鍋さんがプロレスラーになるとしたら、やっぱりＥｒｉｃａ＆マーガレットよりニューリン様になりたいですか？
眞鍋　そりゃ、ニューリン様になりたいですよ！（笑）。
——あ、やっぱりそうですか（笑）。
眞鍋　ほら、いまって世の中の女性が凄く強いじゃないですか。だから、なんていうのかなあ。会社とかでたとえると、Ｅｒｉｃａ＆マーガレットは男性社会の中でいろんなことを言われながらもなりふりかまわず闘っている感じ。「仕事では女を捨ててるけど、プライベートでは女よ」みたいな

その希望（ザ・エスペランサー）、凶暴につき
ロード・トゥ・『ハッスル・マニア2006』

人いるじゃないですか。

——また凄いたとえですね（笑）。

眞鍋　男に負けないように仕事をしているけど本当は弱いの、みたいなね。そういうのがやっぱりＥｒｉｃａ＆マーガレットじゃないかなって。

——では、ニューリン様はどんなイメージなんですか？

眞鍋　ニューリン様は会社の中でも女を武器にしてうまいこと男を押さえつけてっちゃうような、カッコいいキャリアウーマンみたいなイメージですね。本当にＥｒｉｃａ＆マーガレットとはタイプが違う女性像って感じで。でも、どちらに関しても世の中の女性は自然と自分と重ね合わせて観てると思いますよ。

——どちらにも感情移入できると。

眞鍋　そうそう。だから私はやっぱり女性が闘っていると、無意識に女性の側を応援したくなるんですよ。女の人がメッタメタにやられていると、もう「頑張って！」ってなるし、男の人が女の人にメッタメタやられていると「もっとやれ！」って（笑）。

——ハハハハ！　そんな男性には厳しい眞鍋さんですが（笑）、『ハッスル』の男性陣についてはどんな印象がありますか？

眞鍋　一番印象的だった……というか、衝撃的だったのが、あの3人兄弟いたじゃないですか！

——チーム3Dのことですか？

眞鍋　それそれ!!　その試合は私ちょっとトラウマになったんですよねえ。あの、流血担当の人とかがいたりして……。

——金村キンタローさんですね。でも、べつに金村さんは担当で流血してるわけじゃないと思うんですけどね（笑）。

眞鍋　いや～、あれは本当に引いちゃってたんですよお（青ざめながら）。

——そんなにダメでしたか。

眞鍋　あそこまでやると思ってなかったんで……。本当、いつか死ぬよ、と思いましたね（苦笑）。

——ハハハハ！　いつか死ぬって（笑）。でも、あの日はとくに顔面血だらけでしたからね。

“闘う女性の応援団長”眞鍋かをりは坂田亘＆崔領二と勇敢に闘ったErica＆マーガレットが大のお気に入り。しかし、それ以上にニューリン様は憧れの存在なのだという。いま人気絶頂の眞鍋をもってしても“完璧”だと言わしめるニューリン様はやっぱり凄い！

ニューリン様は本当に最高ですね!! 見せ方に一点の隙もないですよ

眞鍋　あれって慣れたら慣れたで楽しくなるんですかねえ……。私はもう、血しぶきから逃げるのが精一杯で、けっこういっぱいいっぱいだったんですよ。客席に選手がドーンッて雪崩れ込んできたときなんか、私は「もう終わりだ！」って思ってたんですよね。血みどろだし、ボロボロになってるし。でも、お客さんの誰かが「いや、まだだよ。まだあの机が出てねえ！」とかって言ってたんで、「ええっ!?　まだあんの？」みたいな（笑）。

——「机ってなんだよ!?」って？（笑）。

眞鍋　それに、あの大根おろしみたいな凶器で頭をゴシゴシしてやるヤツ。あれ一番ダメですよ!!

——一番ダメですか！　眞鍋さんって、普段から流血とか、血を見るのとかはダメなんですか？

眞鍋　ダメですねえ。自分が血なんか出たら大騒ぎですよ！

——採血とかも？

眞鍋　針が刺さっただけでダメ。映画とかでも人が死ぬシーンとか見れないんです。絶対安全になってから見るんです。パンパンッとかピストルの音とかがしたら、こう（手で顔を隠しながら）こっそり見る感じ。だから、そういうハードな映画は一番肝心なシーンは見れないんですよねえ。

——それはもったいないですねえ。

眞鍋　でもあとになって考えると、「まだ、机が出てないから終わらないのね」みたいな選手とお客さんとの〝あ・うん〟の呼吸は素晴しいなって思いましたね。みんな凄くドキドキして観てる部分もありながら、どこか安心して観てる部分があるのは凄くたまらない感じがしました。

——じゃあ、ああいう会場の雰囲気なんかもわりと好きでしたか？

眞鍋　好きですねえ（しみじみ）。私、格闘技もたまに観ることがあるんですけど、そのお客さんってみんなリング上で起こってる闘いを応援してるみたいな感じがあるじゃないですか。でも『ハッスル』は自分も参加者の一人なんだなっていうのを本当に強く感じましたし、もう早く覚えたいなって思いましたね。なんていうんだろう。パラパラと一緒で「覚えないとおもしろくないぞ！」みたいな。

——パラパラも『ハッスル』も一緒だと（笑）。

眞鍋　だって、あのＲＧとお客さんのやりとりですら、絶妙だし凄いなって思いましたからね。「あの、ＲＧが!?」みたいな（笑）。

——アハハハハ！　ＲＧが成立している!!って（笑）。

眞鍋　だってＲＧですよ!?　私、最初は凄くハラハラして観てたんですよ。ちょっと観てらんないみたいな感じで（笑）。でも、

その希望、凶暴につき
ロード・トゥ・『ハッスル・マニア2006』

RGはRGであの中で見事なやりとりをしてますし、それに"帰れコール"にもノッちゃうし！

—軽快に踊りますもんねえ。あの日は、有田総統と冒頭で絡んで、有田さんに「こんなに絡みにくい芸人はいない」って言われてましたからね。

眞鍋 アハハハハ！ そうなんですか（笑）。

—眞鍋さん的にはいかがですか？ 芸人さんとしてのRGというのは。

眞鍋 お仕事ではまだご一緒したことはないんですけど、できれば絡みたくはないかもしれないですね！（キッパリ）。でも、相方さんのHGはかなり釘づけにされましたね、女性として。

—RGとは違いますか（笑）。

眞鍋 やっぱり人間ってキレイなものを見たいじゃないですか。それでいうとHGって一般的にも凄く知名度があるし、大きい存在だし、やっぱり見てて一番キレイ！（『ハッスル・マニア』のポスターを見ながら）んもう、この腕の筋肉のつき方とか、胸筋とか、太ももの太さから、ここに入ってる筋まで！（感慨深げに）これはほんっとに見事ですよお。

—その肉体美に感動してしまったわけですね！

眞鍋 そう！ やっぱり皆さんプロレスラーなので本当凄く身体を鍛えてると思うんですけど、HGは一番きれいな筋肉のつき方をしてるんですよねえ。もう、最高ですっ!!

—解説でも言われてましたけど、眞鍋さんって本当に筋肉がお好きなんですね。

眞鍋 好きなんですけど、筋肉にもいろいろあるんですよ！ その中でも凹凸のハッキリしたHGの筋肉というのは一番なんです。締まってるだけじゃなくて隆起してる筋肉、（自分の肩の部分を鷲づかみにして）ここの上に乗ってる筋肉、そういうところが凄い好き！

—めちゃめちゃ熱弁しますね（笑）。

眞鍋 だって、HGって本当に私の理想の筋肉なんですもんっ!!

—理想がハードゲイっていうのも凄い話ですけど。眞鍋さんって普段の男性のタイプもやっぱり肉体にはこだわるほうですか？

眞鍋 う〜ん、『ハッスル』とかプロレスで見るならやっぱり肉食動物系のほうがいいんでしょうけど、プライベートでは草食動物的な人のほうが好きかもしれないですね。

—草食系というのは、わりとアッサリしたタイプがいいと？

眞鍋 たとえば人からイヤなことをされたりしても「べつにいいよ、ほっとけば」みたいな、細かいことを気にしないというか、自然とそういうことを水に流せる人ですかね。

—じゃあ、どちらかというとクールな人のほうが好きな感じなんですね。でも、クールな人って『ハッスル』でいうと誰になるんですかねえ。

眞鍋 クールだったらプロレスってできないんじゃないですか？（笑）。

—う〜ん。まあ、強いて言うならば……あ、髙田総統とか、それから天龍さんとかですかね？

眞鍋 天龍さんかぁ。

『ハッスル・エイド2006』という"お祭り"の日にふさわしい……かどうかはわからないが、当日は金ちゃんがいつも以上に激しく流血！ 全般的に血がダメだという眞鍋かをりはもはや実況席で大混乱。しかし、そんな眞鍋も次の試合に登場したHGの肉体美には大満足なのであった。

HGの肉体美にはかなり釘づけにされました。まさに私の理想の筋肉です！

—ちなみに、天龍さんみたいな60歳に手が届きそうな昔ながらのベテランレスラーというのは眞鍋さんにはどう映りましたか？

眞鍋 そうですねえ。『ハッスル』以外のプロレスをあまり観ていないので実際にどういう試合をされる方なのかがわからないんですけど、でもプロレス界でもベテランの方が出られると、会場の雰囲気とかも凄く違ってましたよね。さっきの流血マッチじゃないですけど、私もそこに乗っかっていきたいなという気持ちになりました。

—参加したいという気持ちにさせられたということですね。

眞鍋 それに、そういうベテランの方が出られると、またいろんな感動に包まれると思うんですよね。試合の締まり具合も違いますし。私は長年のプロレスファンの方とは違った入口から入っちゃったのかもしれませんけど、そこから乗っかれるのであれば乗っかっていきたいですね。

—なるほど。では、髙田総統のほうはいかがでしょう。

眞鍋 髙田総統もクールですけど……、でも私、『ハッスル・エイド』の会場ではお会いできなかったんですよね。

—そういえばそうですよね。ザ・エスペランサーは会場に出てきましたけど、髙田総統はいなかったですね。モニターには登場しましたけど。

眞鍋 でも、髙田総統も普段はクールかもしれないですけど、いざピンチに立たされると意外とクールじゃなくなるんじゃないですか？

私もリングに上がってみたいですね
ビチッとしたOLスーツにメガネ姿で

まなべ・かをり■1981年3月31日、愛媛県出身。プロフィールなど書かなくてもいいんじゃないかというくらいの超人気タレント。"ブログの女王"というキャッチフレーズを定着させるに至ったご本人のブログ『眞鍋かをりのココだけの話』はあまりにも有名。『ハッスル』では『ハッスル・エイド2006』に続き、『ハッスル・マニア2006』での解説が決定ッ!!

——それは新しい見解ですね。リングに上がるとまた違う人格が出てくるんじゃないかと?

眞鍋 そうそう。

——そういう眞鍋さんは、実際にリングに上がってみたいとは思いま……。

眞鍋 （さえぎって）上がってみたいです！

——アハハハハ！　プロレスですけど大丈夫なんですか？

眞鍋 もう、超トレーニングして闘いますよ!!

——そういえば、眞鍋さんって解説でも「もう自分のコスチュームは決まってます！」って言われてましたもんね（笑）。それってどんなコスチュームなんですか？

眞鍋 （目を輝かせて）それはですねえ、OLさんとかが着ているようなスーツのもの凄いピッタリした短いヤツ！

——おお！　それって、めちゃくちゃセクシーな感じですか!?

眞鍋 もちろん。しかも、メガネで！

——メガネまでつけますか!!

眞鍋 最初はメガネしてリングに上がって闘うんです。もう「ビチッと仕事はこなすよ！」みたいなキャリアウーマンタイプのキャラで。でも、敵にメガネ外された瞬間、もの凄い怒り狂っちゃうキャラになるんです（笑）。

——変身してしまうわけですね！

眞鍋 そう、変身です！　私もフラッシュマン世代ですから変身くらいしないと（なぜか自慢げに）。

——ハハハハ！　それはまたニューリン様ともＥｒｉｃａ＆マーガレットとも一種変わった女性レスラーですね。

眞鍋 ええ。鍛えますよお～！

——では、"メガネ美女レスラー"眞鍋かをりの『ハッスル』登場にもぜひ期待したいところですが（笑）、次回の『ハッスル・マニア２００６』、実況席でご覧になる眞鍋さんはどういうところに注目して見たいと思われますか？

眞鍋 う～ん、いろいろありすぎて迷いますけど、一言でいうと「魅せてほしいな」と。もう、釘づけにされたいって、それだけですね。

——ちなみにメインカードはザ・エスペランサーvsＨＧというスペシャルカードが決定しているんですよ。

眞鍋 そうなんですか!?　それは、女の子はぜひ見たほうがいい!!　女の子にとって、こんなに素晴しいカードはないですよっ。

——"女の子は"って、眞鍋さんは違った意味でオススメしているわけですね（笑）。

眞鍋 （真剣に）もちろんです。あとは……次もまた血が出る試合とか、ありますかね？（ボソリ）。

——やっぱりまだ流血はダメそうなんですか？（笑）。

眞鍋 キツイですねえ。でも次はでっかいタオルを持って絶対血を浴びないように準備してきます。でも、絶対また出ますよねえ……血。

——出るでしょうねえ。それに、また同じカードが組まれる可能性も充分考えられますからね。

眞鍋 えーっ!!　……もう、そうなったらそうなったで、私もタオルに包まりながらも「いや、まだだ！　机が出てねえ!!」って言えるようになりたいと思います。

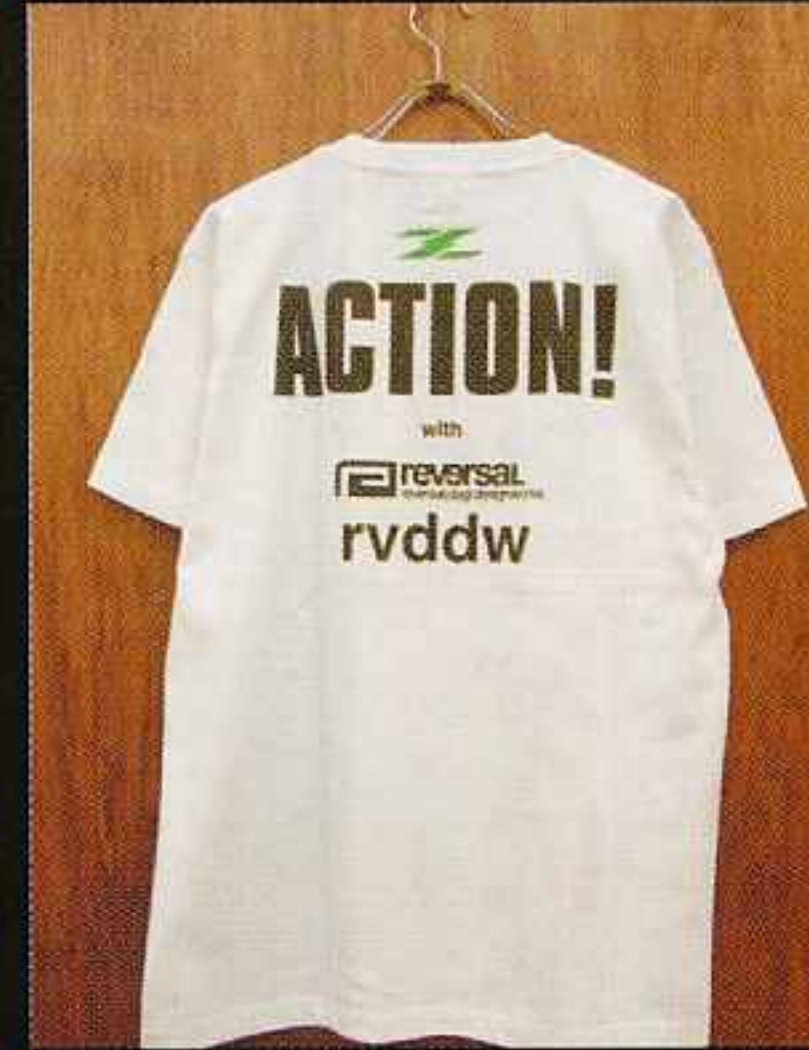
——アハハハハ！　わかりました（笑）。では、そのセリフを『ハッスル・マニア２００６』の解説でお聞きできることを期待しています！

【06年10月12日／DSEにて収録】

品番:rv06aw002
品名:NEWAZA PHOTO
カラー:ホワイト、ナチュラル
サイズ:XS/S/M/L/XL
¥6,825(税込み)

品番:rvddw-0020
品名:CHUTE BOXE NANBEI Tシャツ
カラー:ホワイト、ブラック
サイズ:XS/S/M/L/XL
¥5,040(税込み)

品番:rvddw-0038
品名:SHOGUN Tシャツ
カラー:ホワイト、ブラック
サイズ:XS/S/M/L/XL
¥5,040(税込み)

品番:rvddw-0039
品名:NINJYA Tシャツ
カラー:ブラック
サイズ:XS/S/M/L/XL
¥5,040(税込み)

品番:rvddw-0057
品名:ZST アメコミ Tシャツ
カラー:ホワイト、ブラック
サイズ:XS/S/M/L/XL
¥5,040(税込み)

品番:rvddw-0051
品名:LITHUANIA Tシャツ
カラー:ブラック
サイズ:XS/S/M/L/XL
¥5,040(税込み)

品番:tokoro5
品名:TOKORO Tシャツ
カラー:ホワイト、ブラック
サイズ:XS/S/M/L/XL
¥5,040(税込み)

品番:rvddw-T0052
品名:TAKESHI YAMAZAKI Tシャツ
カラー:ブラック
サイズ:XS/S/M/L/XL
¥5,040(税込み)

も〜い〜くつ寝ると〜♪ 『ハッスル・マニア2006』〜♪

ハッスル & kamipro
Collaboration Goods

オイ、オメーら! 『ハッスル・マニア』は アタシのシャツを着て、楽しみな!

Lady's

ニューリン様の
額の石が光る!
ラインストーンつき
(サイズはLady'sMのみです)

Men's

ニューリン様 "BERO" Tシャツ
[M・L・XL ブラック] ¥3,990

ニューリン様 "BERO" Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990
※Lady's M サイズ (身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm)

ライオンTシャツ
ホワイト] ¥3,990

「BITAAAAN!」Tシャツ
[S・M・L・XL ホワイト] ¥3,990

「ビビったか? たじろいだか?」Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック] ¥3,990

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい)
★代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元:(株)ダブルクロス

ハッスル Goods

TAJIRI Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック] ¥3,990

HUSTLE ネオンTシャツ
[S・M・L・XL ブラック/レッド] ¥3,990

MONSTER ネオンTシャツ
[S・M・L・XL ブラック/パープル] ¥3,990

キャプテン リストバンド
[ホワイト/ブラック] ¥1,050
あちち リストバンド
[レッド] ¥1,050

HUSTLE カレッジTシャツ
[S・M・L・XL グレー/レッド] ¥3,990

MONSTER カレッジTシャツ
[S・M・L・XL ブラック/パープル] ¥3,990

ニューリン様Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック] ¥3,990

※価格はすべて税込みです

読プレも一発当てよう!!

運動会が終わったね。でも文化祭がまだあるよ。

kamipro PRESENTS

「夢のカードにアタタタタターック!!」

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は11月21日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦大晦日に見たい対戦カード⑧会ったことがあるファイター&そのエピソード

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「HOW ARE YOU?」係まで
※締切は2006年11月20日（月）当日消印有効

kamipro 104 応募券
世界だったら通用しない

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

PRIDE

■PRIDE***http://www.prideofficial.com/

『kamipro』編集部 特別制作!!（非売品）

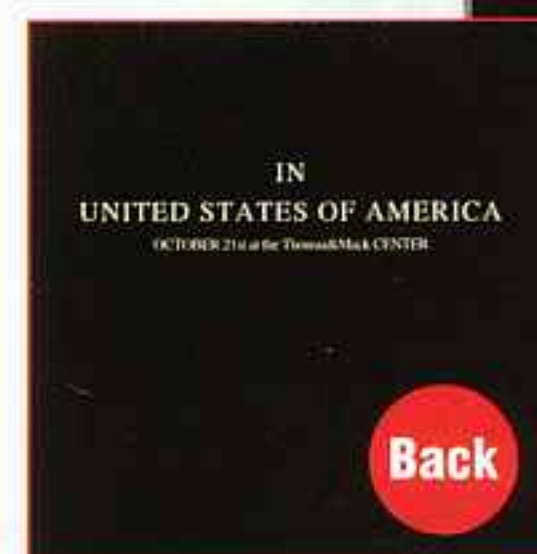
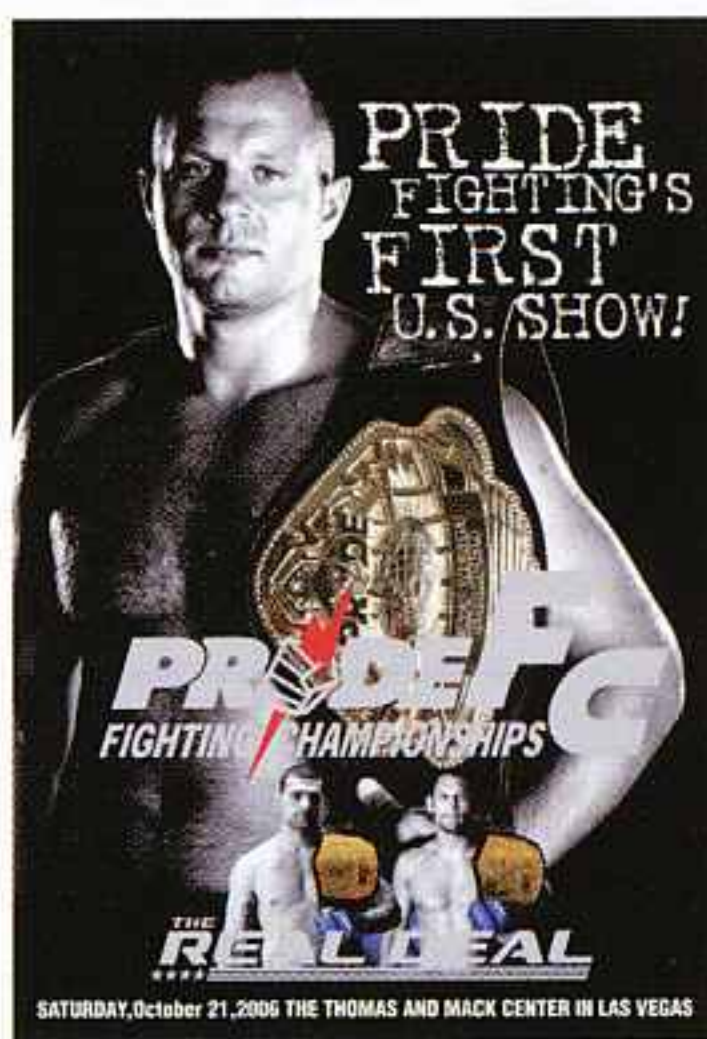
『kamipro』オリジナル・PRIDEトランプ

セットで7名様

本誌の表紙イラストなどでおなじみのイラストレーター師岡とおるさんがイラストを描いたPRIDEトランプを6枚セットで7名様にプレゼント！　んもう、これは世界中でも10セットにも満たない数しか作っておりません。ほしい人はここで当てるしかないぞ!!

PRIDE.32 "THE REAL DEAL" パンフレット

2名様

PRIDE初・英語バージョンのパンフレットです。選手紹介はもちろんだが、なぜかドン・キホーテの広告まで！　というか、ドン・キホーテはアメリカにもあるのか!?　……と思ってたらハワイにあった!!

PRIDE.32 "THE REAL DEAL" 大会記念Tシャツ

2名様

¥4200（税込）

PRIDE初のアメリカ大会を記念したTシャツを2名様に。ヒョードル&ショーグンのWチャンピオン、ジョシュ、それに筋肉三兄弟まで……あ！　バローニがいない!!

HERO'S

■HERO'S***http://www.hero-s.com/

J.Z.カルバン サイン色紙

2名様

『HERO'S』で見事チャンピオンに輝いたJ.Z.カルバン選手にサイン色紙をご提供いただきました。カルバン選手、ブラジル人なのに縦書き。「なかなか日本人の心をくすぐるな」という感じですね！

MECHA

■ユニオンプロレス***http://union.ne07.jp/
■アイスリボン***http://blog.goo.ne.jp/iceribbon/

ユニオンDVD『ユニオンプロレス・アゲイン』

2名様

約120分／¥3000（税込）

ユニオンプロレスの第一回～第五回までをギュギュッと凝縮した一本。もちろん、全大会メカマミーの試合は収録されています！　メカブームに乗り遅れた人はこれでチェックしよう。

真琴サイン色紙

2名様

10月14日『アイスリボン』でメカマミーと闘った真琴選手のサイン色紙です。ちなみに、プロ初サイン色紙です！　掟さんもすっかり虜になってしまった真琴選手の今後に注目しよう。

WEAR

■武頼漢***http://jetjboy.com/
■BURAIKAN実行委員会***03-5307-7671
■シュートボクシング***http://www.shootboxing.org/
■ART JUNKIE***http://www.artjunkie.jp/index.html
■DEVILOOSE***http://www.deviloose.com/

Back

森谷吉博引退記念Tシャツ

9月23日をもって引退された"闘う広報"こと森谷吉博さんの引退記念Tシャツを1名様にプレゼント。ちなみに森谷さんは現在11月3日『S-cup』に向け、猛ハッスル中です!

Back

ベニー・ユキーデTシャツ

9.23『武頼漢』新木場大会のために久々に来日したベニー・ユキーデさんから、Tシャツをプレゼントしていただきました。"マーシャルアーツ"を世界に広めた偉大な男の魂を着よう。

WEB SHOP
Web Site Open!
OPEN

各 1 名様

Back

ART JUNKIE　ジョシュメタルTシャツ

ジョシュ・バーネット本人が絶賛したというART JUNKIEジョシュ・メタルTシャツをプレゼント。このほかART JUNKIEのグッズがほしい人はネット販売も行なっているので、ぜひHPを覗いてみよう。

DEVILOOSE エアロポステールTシャツ

大きいサイズの専門店デビルーズさんから、今月もTシャツをプレゼントします。I編集長が提言するようなチェ・ホンマンを凌駕する奥地の大男ではなくてもいいので、ドシドシ応募してください。(XLサイズ)

HUTSLE

■ハッスル***http://www.hustlehustle.com/

HG Tシャツ　¥3990(税込)

もはやハッスル軍のエースと化したHG。11.23『ハッスル・マニア2006』はコレを着てHGを応援しよう〜。ちなみにRGのTシャツは制作されておりません。残念!!

1 名様

『ハッスル・マニア2006』ポスター

ちょうど一年前はプロレスデビューで話題を呼んだHGが、今度はザ・エスペランサーとの試合に大抜擢! 来年はいったいどんなことになるのか? そしてRGの行方は!?

3 名様

CD

■BMG JAPAN***
http://www.bmgjapan.com

3 名様

格闘魂 バーニング・ハート ～アンセム・フォー・ファイターズ～　¥2548(税込)

ボクシング、プロレス、『PRIDE』、K-1など、人気ファイター・団体のテーマ曲が収録された珠玉の一枚。新日本プロレスの実況などで活躍中のアナウンサー清野茂樹さんが書いた解説文もついてます。　©車田正美/集英社

[収録曲]
・バーニング・ハート/サバイバー(亀田興毅)
・ワイルド・ボーイズ/デュラン・デュラン(ミルコ・クロコップ)
・ザ・スコアー/エマーソン、レイク&パウエル(新日本プロレス)
・パワーホール/N.J.P.UNIT(長州力)
・サンドストーム/DARUDE(ヴァンダレイ・シウバ)　ほか

INOKI

■HEIWA***
http://heiwa-ss.jp/

1 名様

HEIWA 『燃える闘魂 アントニオ猪木目覚まし時計』

Super Screen & Super Sound=SSというパチンコ業界では非常に画期的な技術が盛り込まれたHEIWAの新台第一号が、なんとアントンの台なのだ! その記念になぜかアントンの目覚まし時計をいただきました。

MICHINOKU

サイン入り

Back

1 名様

男盛&新崎人生サイン入り　みちのくプロレスTシャツ

9月30日新宿FACEで行なわれた『みちのくプロレス』に出場したアレクサンダー大塚改め男盛と新崎人生のサイン入りTシャツを1名様に。当日観戦していたニュー林様が読者のためにとおねだりしてまいりました〜。

MOVIE

■ナチョ・リブレHP***http://www.nacho-movie.jp/top.html

1 名様

ナチョ・リブレオリジナルTシャツ

いよいよ公開が『kamipro』104号発売日の3日後に迫った映画『ナチョ・リブレ』。記念Tシャツを着て劇場に遊びに行こう。

『ナチョ・リブレ 覆面の神様』UIP映画 配給
主演/ジャック・ブラック　監督/ジャッド・ヘス
11月3日(金・祝)よりテアトルタイムズスクエアほかで全国ロードショー公開。
©2006　Paramount Studios

BOOKS

■東邦出版***http://www.toho-pub.com/
■宝島社***http://tkj.jp/book/book_70542201.html

鈴木みのる&金沢克彦著『風になれ』

¥1470(税込)[東邦出版]

"世界一性格の悪い男"の異名をもつ人気レスラー鈴木みのるが初の単行本を出版! 聞き手は『kamipro』誌上で現在絶賛凸凹中の金沢先生です。ココ、試験に出るので絶対に読め!!

3 名様

1 名様

『新説!!　芦原英幸』

¥2415(税込)[東邦出版]

大山倍達と並ぶ空手界のスーパースター芦原英幸が後世に遺した知られざる"サバキ"を写真解説つきで収めた珠玉の一冊。在りし日の芦原英幸が門下生に指導している様子を収めたDVDもついてくる。

3 名様

草間政一著『A級戦犯 新日本プロレス崩壊の真実』

¥1470(税込)[宝島社]

草間氏が開催したプロレス経営塾セミナーのときに、松澤チョロがすかさずサインをゲット。将来プロレス興行の経営者になろうと思っている人は、ぜひ迷わず応募してください。

サイン入り

DVD

■QUEST***http://www.queststation.com/
■ユークスカスタマーセンター***072-224-7211

2 名様

マッスルDVD『MUSCLE HESTORY』

約180分/¥38000(税込)

今号では奇跡的な再演興行が誌面で話題になっている『マッスル』ですが、過去の試合を観たい人はDVDをどうぞ。しかし、驚くべきことはこの値段! もうこれは読プレで当てるしかないぞ。

1 名様

『全日本プロレス コンプリートファイル2006 1stステージ』

約78分+特典129分/¥6300(税込)

全日本プロレス2006年上半期の総集編DVD。"三冠王者"小島聡の試練の試合から、神奈月やイジリー岡田ら芸人が続々と登場したファン感謝デーの様子など、あれもこれも収録されています。

01★新極真会　最強を極める空手入門　第四巻　163分/¥5880(税込)
02★ムエタイ完全教則　中級篇　89分/¥5880(税込)
03★矢部良　カポエィラ　105分/¥5880(税込)
04★程聖龍内家拳　陳氏太極拳　131分/¥5880(税込)

各 1 名様

kamipro 紙のプロレス
No.104
2006年11月14日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎（グループ旅行計画のため非番）

編集見習い
辻ちゃん

電気部
ささきぃ
松澤チョロ
上杉ボンジュール

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RGM

編集次長（コマンダー・イン・チーフ）
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
丸山剛史
平工幸雄
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
吉場正和
平 専英

お勘定&衣料部
ニュー林様

脂のってま〜す!
入江あんきも（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“河川敷デビュー”芳司

“リアル・ハッスル・マニア”な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンタープレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

12.31『Dynamite!!』
桜庭和志vs秋山成勲戦、決定!!

胸騒ぎの大晦日!!

ドンペン君にライバル出現!? 正体は各自調査!

NEXT ISSUE

毎年恒例! 大晦日 格闘サバイバル・ウォーズ 展望大特集!!

次号No.105は
11月22日（水）発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。